

市川市地域福祉計画策定のための アンケート調査報告書

平成29年 3 月
市 川 市

目 次

第1章 調査の概要	1
1. 調査実施の目的	3
2. 調査の設計	3
3. 配布・回収	4
4. 前回の調査設計との違い	4
5. 報告書を利用するにあたって	5
第2章 主な調査結果	7
1. 回答者の属性	9
2. 活動状況	9
3. 地域との関わり	10
4. 支え合いの地域づくり	11
5. 地域福祉活動	13
6. 防災	15
7. 地域福祉の進捗状況	16
8. 施策への評価	17
9. 今後の地域福祉の分野で特に力を入れてほしいこと	18
第3章 調査結果の詳細／市民	19
1. 回答者の属性	21
(1) 性別	21
(2) 年齢	22
(3) 居住地区	22
(4) 居住年数	23
(5) 世帯構成	23
(6) 職業（就労の有無）	24
(7) 仕事を続けたい年齢	25
(8) 現在の仕事をやめた後の過ごし方	26
(9) 今後の就労意向	26
(10) 月当たりの世帯収入	27
(11) 住居形態	27
(12) 自治（町）会の加入状況	30
2. 地域との関わり	34
(1) 近所づきあいの程度	34
(2) 地域活動への参加状況	38
(3) 地域との関わりの必要性を感じたとき	40
(4) 地域での人とつきあいや関わりについての考え	42
(5) 地域の生活課題についての住民同士の自主的な支え合いや助け合い	44

(6) 地域の生活課題についての住民同士の自主的な支え合いや助け合いに必要なこと	46
(7) 住民同士の自主的な支え合いや助け合いが必要がないと思う理由	48
(8) 生活上の問題で相談したいときの相談相手	48
(9) 福祉に関する情報の入手方法	51
(10) 定住意向	57
3. 支え合いの地域づくり（地域ケアシステム）	61
(1) 地域ケアシステムの認知度	61
(2) 支え合いの地域づくり（地域ケアシステム）でやってもらいたいこと	63
(3) 近所で支援を必要としている人について	64
(4) 自分ができる支援	69
(5) 地域福祉活動への参加	70
(6) 自分たちだけで支援が難しい問題がある場合に頼る機関	73
4. 近所や地域で取り組める地域福祉活動	74
(1) 地域活動により多くの人が参加できるようにするために必要なこと	74
(2) 子育て中の方を応援するためにできること	76
(3) 障害者の社会参加の機会を広げるために地域で取り組む必要があること	77
(4) 高齢期になったときにやってみたいこと	78
5. 防災	80
(1) 地震や災害などが起きた場合の不安感	80
(2) 地震や災害などが起きた場合の不安の内容	81
(3) 地震や災害に備えた日頃の対策	83
(4) 災害などの緊急時に頼りにする相手	84
(5) 災害時避難・救助のための名簿作成への参加意向	85
(6) 災害時や日常生活に支障がある際の声かけや簡単な援助の依頼意向	86
(7) 避難行動要支援者名簿作成に関する意識	87
(8) 災害時に可能な地域活動	88
6. 市の施策	89
(1) 施策評価	89
7. 今後取り組んでほしい施策の方向性	94
(1) 地域福祉分野の施策で特に力を入れてほしいこと	94

第4章 調査結果の詳細／高齢者	97
1. 回答者の属性	99
(1) 調査票の記入者	99
(2) 対象者の現況	99
(3) 性別	100
(4) 年齢	100
(5) 居住地区	101
(6) 居住年数	102
(7) 世帯構成	102

(8) 現在の仕事をやめた後の過ごし方	103
(9) 就労の有無	103
(10) 月当たりの世帯収入	104
(11) 住居形態	104
(12) 障害の有無	106
(13) 要介護認定の有無と要介護度	108
(14) 自治(町)会の加入状況	108
(15) 健康状態	111
(16) 健康維持のために知りたい情報	112
2. 地域との関わり	113
(1) 近所づきあいの程度	113
(2) 地域活動への参加状況	114
(3) 地域との関わりの必要性を感じたとき	116
(4) 地域での人とつきあいや関わりについての考え	118
(5) 地域の生活課題についての住民同士の自主的な支え合いや助け合い	119
(6) 地域の生活課題についての住民同士の自主的な支え合いや助け合いに必要なこと	120
(7) 住民同士の自主的な支え合いや助け合いが必要がないと思う理由	121
(8) 生活上の問題で相談したいときの相談相手	122
(9) 福祉に関する情報の入手方法	124
(10) 定住意向	126
3. 支え合いの地域づくり(地域ケアシステム)	127
(1) 地域ケアシステムの認知度	127
(2) 支え合いの地域づくり(地域ケアシステム)でやってもらいたいこと	129
(3) 近所で支援を必要としている人について	131
(4) 自分ができる支援	133
(5) 地域福祉活動への参加	134
(6) 自分たちだけで支援が難しい問題がある場合に頼る機関	135
4. 社会参加、生きがい	137
(1) 地域活動により多くの人が参加できるようにするために必要なこと	137
(2) 生きがいを感じていること	139
(3) 暮らしを充実させるために今後力を入れたいこと	141
(4) シルバー人材センターへの登録状況	143
(5) シルバー人材センターへの登録意向	143
(6) 高齢者サポートセンターの利用状況	144
(7) 高齢者サポートセンターの利用意向	145
5. 防災	147
(1) 地震や災害などが起きた場合の不安感	147
(2) 地震や災害などが起きた場合の不安の内容	148
(3) 地震や災害に備えた日頃の対策	149
(4) 災害などの緊急時に頼りにする相手	150

(5) 災害時避難・救助のための名簿作成への参加意向	151
(6) 災害時や日常生活に支障がある際の声かけや簡単な援助の依頼意向	152
(7) 避難行動要支援者名簿作成に関する意識	153
(8) 災害時に可能な地域活動	154
6. 市の施策	155
(1) 施策評価	155
7. 今後取り組んでほしい施策の方向性	160
(1) 地域福祉分野の施策で特に力を入れてほしいこと	160

第5章 調査結果の詳細／ボランティア団体・NPO法人 163

1. 回答者の属性	165
(1) 団体名	165
(2) 団体の種類	166
(3) 活動期間	166
(4) 活動会員数	167
(5) 活動エリア	168
(6) 設立のきっかけ	169
(7) 主な活動資金	169
2. 活動状況	170
(1) 地域福祉分野の施策で特に力を入れてほしいこと	170
(2) 重視すべき活動内容	171
(3) 活動の場	173
(4) 講演会やイベント開催時の使用場所	174
(5) 地域住民からの相談形態	175
(6) 地域での活動等の際の連携団体	176
(7) 連携している団体とその内容	177
(8) 今後、連携を深めていきたい団体	180
(9) 機関誌（紙）・会報の発行状況	181
(10) 活動内容などの情報発信	181
(11) 現在困っていること	182
(12) 今後、福祉活動を活性化していくために、特に必要なこと	183
(13) 地域で福祉活動を進めるうえでの行政に対する要望・期待	183
3. 支え合いの地域づくり（地域ケアシステム）	184
(1) 地域ケアシステムの認知度	184
(2) 地域ケアシステムの活動への関与意向とその理由	184
(3) 地域ケアシステムの会議への参加有無	187
(4) 地域ケアシステムの会議に参加して、今後充実させた方がよいと思う自身の活動	187
(5) 地域ケアシステムの周知に必要な取り組み	188
(6) コミュニティワーカー配置の認知状況	188
(7) 地域ケアシステムでやってもらいたいこと	189

4. 地域福祉全体	190
(1) 以前と比べた自身の活動区域における地域福祉の変化	190
(2) 以前と比べて活動地域において推進された地域福祉	191
5. 防災の取り組み	192
(1) 「避難行動要支援者」に関連した活動への参加協力	192
(2) 災害時における助け合いのために必要な日常的取り組み	192
6. 地域福祉活動活性化に必要なこと	193
(1) 団体と市との関係	193
(2) 行政が地域で支え合う仕組みづくりをするため、特に必要だと思うこと	193
(3) 地域の人たちが協力して取り組んでいくことが特に必要な課題	194
(4) 地域福祉を推進する地域の人材を増やす方法	194
7. 市の施策	195
(1) 施策評価	195
8. 市の施策で今後取り組んでほしい施策の方向性	201
(1) 地域福祉分野の施策で特に力を入れてほしいこと	201

第6章 調査結果の詳細／民生委員・児童委員 203

1. 回答者の属性	205
(1) 性別	205
(2) 年齢	205
(3) 活動年数	206
(4) 担当地区	207
2. 活動状況	208
(1) 高齢者世帯への支援を行うにあたり、重視すべき活動内容	208
(2) 児童・子育て世帯への支援を行うにあたり、重視すべき活動内容	209
(3) 障害者がいる世帯への支援を行うにあたり、重視すべき活動内容	210
(4) 生活保護・生活困窮世帯への支援を行うにあたり、重視すべき活動内容	211
(5) 地域住民からの相談形態	212
(6) 地域での活動等の際の連携団体	213
(7) 連携している団体とその内容	214
(8) 今後、連携を深めていきたい団体	220
(9) 活動をする中で抱えている課題	221
(10) 個別相談・支援や見守り（安否確認）活動での悩みや課題	222
(11) 今後、活動を活性化していくために、特に必要なこと	223
(12) 活動を行うにあたり、地域住民の中の協力者の必要性	223
(13) 協力者に適当な方	224
(14) 地域での理解	224
(15) 住民や関係機関に対してPRを行っているとき	225
(16) 住民への情報提供	226
(17) 地域で活動を進めるうえでの行政に対する要望・期待	227

3. 支え合いの地域づくり（地域ケアシステム）	228
（1）地域ケアシステムの認知度	228
（2）地域ケアシステムの活動への関与意向	228
（3）地域ケアシステムの活動への関与意向の理由	229
（4）地域ケアシステムの会議への参加有無	236
（5）地域ケアシステムの会議に参加して、今後充実させた方がよいと思う自身の活動	236
（6）地域ケアシステムの周知に必要な取り組み	237
（7）コミュニティワーカー配置の認知状況	237
（8）地域ケアシステムでやってもらいたいこと	238
4. 地域福祉全体	239
（1）以前と比べた自身の活動区域における地域福祉の変化	239
（2）以前と比べて活動地域において推進された地域福祉	240
5. 防災の取り組み	241
（1）「避難行動要支援者」に関連した活動への参加協力	241
（2）災害時における助け合いのために必要な日常的取り組み	241
（3）大災害にあった場合の居住地域での活動	242
6. 地域福祉活動活性化に必要なこと	243
（1）地域福祉活動活性化のための取り組みへの参加	243
（2）参加している取り組み	243
（3）参加してみたい取り組み	244
（4）行政が地域で支え合う仕組みづくりをするため、特に必要だと思うこと	244
（5）地域の人たちが協力して取り組んでいくことが特に必要な課題	245
（6）地域福祉を推進する地域の人材を増やす方法	245
7. 市の施策	246
（1）施策評価	246
8. 市の施策で今後取り組んでほしい施策の方向性	251
（1）地域福祉分野の施策で特に力を入れてほしいこと	251

第7章 調査結果の詳細／福祉委員	253
1. 回答者の属性	255
（1）性別	255
（2）年齢	255
（3）地域での役割	256
（4）活動年数	256
（5）活動・所属地区	257
2. 活動状況	258
（1）生活上の問題で相談したいときの相談相手	258
（2）福祉に関する情報の入手頻度	259
（3）「地域の関わり・助け合い」の必要性を感じたとき	260
（4）近所で支援を必要としている人について	261

(5) 自分が行いたい活動	262
(6) 地域住民からの相談形態	263
(7) 地域での活動等の際の連携団体	264
(8) 活動をする中で抱えている課題	265
(9) 今後、活動を活性化していくために、特に必要なこと	265
3. 支え合いの地域づくり（地域ケアシステム）	266
(1) 地域ケアシステムの会議に参加して、今後充実させた方がよいと思う自身の活動	266
(2) 地域ケアシステムの周知に必要な取り組み	266
(3) コミュニティワーカーに期待する支援内容	267
(4) 成年後見制度の認知度	267
(5) 「市民後見人」について取り組みを進めていることへの認知度	268
(6) 地域ケアシステムで今後重視すべきこと	268
4. 地域福祉全体	269
(1) 以前と比べた自身の活動区域における地域福祉の変化	269
(2) 以前と比べて活動地域において推進された地域福祉	270
5. 防災の取り組み	271
(1) 「避難行動要支援者」に関連した活動への参加協力	271
(2) 災害時における助け合いのために必要な日常的取り組み	271
(3) 大災害にあった場合の居住地域での活動	272
6. 地域福祉活動活性化に必要なこと	273
(1) 行政が地域で支え合う仕組みづくりをするため、特に必要だと思うこと	273
(2) 地域の人たちが協力して取り組んでいくことが特に必要な課題	273
(3) 地域福祉を推進する地域の人材を増やす方法	274
7. 市の施策	275
(1) 施策評価	275
8. 各機関の満足度	280
(1) 各機関の満足度	280
9. 市社会福祉協議会の施策	281
(1) 取り組みに対する評価とその理由	281
(2) 「てるぼサロン」の数への評価とその理由	317
(3) 「てるぼサロン」への助成金の評価とその理由	326
(4) 「てるぼサロン」への期待	336
(5) 所属する地区社会福祉協議会で成功していると思われる事業の有無	336
(6) 成功事業名とその理由	337
(7) 所属する地区社会福祉協議会で課題があると思われる事業の有無	343
(8) 課題事業名とその理由	343
10. 市の施策で今後取り組んでほしい施策の方向性	347
(1) 地域福祉分野の施策で特に力を入れてほしいこと	347

第9章 自由記述	375
（1）市民	377
（2）高齢者	381
（3）ボランティア団体・NPO法人	388
（4）民生委員・児童委員	393
（5）福祉委員	402

第 1 章 調査の概要

1. 調査実施の目的

今回の「市民意向調査（平成28年度）」は、市民等の視点から見た地域福祉に対する意識・ニーズの基本動向を把握・分析するとともに、そこから導き出される課題を整理し、「第4期市川市地域福祉計画」策定及び今後の施策展開に資することを目的に実施した。

2. 調査の設計

本調査は、以下の5種類の調査を実施した。

調査種別	項目	内容
1. 市民	抽出方法	市内在住の20歳以上65歳未満の方から無作為抽出
	調査方法	郵送配布－郵送回収 【調査時期：平成28年11月】
	対象者数	800人
2. 高齢者	抽出方法	市内在住の65歳以上の方から無作為抽出
	調査方法	郵送配布－郵送回収 【調査時期：平成28年11月】
	対象者数	700人
3. ボランティア団体 ・NPO法人	抽出方法	市民活動団体支援制度を利用している団体・法人
	調査方法	郵送配布－郵送回収 【調査時期：平成28年11月】
	対象者数	112団体
4. 民生委員・児童委員	抽出方法	市川市において民生委員・児童委員を務めている方
	調査方法	10月に地区民生委員児童委員協議会の各地区の会長に説明し、11月の地区民生委員児童委員協議会で配布し、12月の地区民生委員児童委員協議会の際に回収 【調査時期：平成28年11～12月】
	対象者数	全員
5. 福祉委員	抽出方法	市川市において福祉委員を務めている方
	調査方法	「地域ケア推進連絡会」において調査票を配布、出席できなかった方については郵送で対応。回収は窓口持参又郵送とした。 【調査時期：平成28年11～12月】
	対象者数	全員

3. 配布・回収

区分	配布数	有効回収数	有効回収率
1. 市民	800	316	39.5%
2. 高齢者	700	461	65.9%
3. ボランティア団体・NPO法人	112	59	52.7%
4. 民生委員・児童委員	—	435	—
5. 福祉委員	—	565	—

4. 前回の調査設計との違い

平成23年度は、以下の方法で調査を実施した。今回の調査結果と異なる部分があるので、比較するにあたっては注意されたい。

調査種別		項目	内容
1. 市民		抽出方法	20歳以上65歳未満の市内在住者から無作為抽出
		対象者数	配布数：1,200 有効回収数：556
2. 高齢者		抽出方法	65歳以上の市内在住者から無作為抽出
		対象者数	配布数：800 有効回収数：578
3. 乳幼児の保護者		抽出方法	0～6歳の子どもをお持ちの市内在住者から無作為抽出
		対象者数	配布数：600 有効回収数：347
4. 福祉関係者	民生委員・児童委員	抽出方法	民生委員・児童委員から無作為抽出
		対象者数	配布数：100 有効回収数：福祉関係者全体で161
	NPO法人・ボランティア団体	抽出方法	市民活動団体支援制度を利用しているNPO法人・ボランティア団体から無作為抽出
		対象者数	配布数：100 有効回収数：福祉関係者全体で161
5. 障害者		抽出方法	身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳を持つ市内在住者から無作為抽出
		対象者数	配布数：200 有効回収数：117

5. 報告書を利用するにあたって

- (1) 図・表中のn、件数とは回収結果は以下の通りである。
- (2) 回答はn、件数を100%として百分率で算出している。小数点以下第2位を四捨五入しているため、百分率の合計が全体を示す数値とは一致しないことがある。
- (3) 複数回答ができる質問では、回答比率の合計が100%を超える。
- (4) 各質問において、年齢別や地区別など調査対象者の基本属性にかかわる図・表については、年齢や地区などの基本属性に「無回答」があるため、全体の示す数値と一致しない。
- (5) グラフ・数表上の選択肢表記は、場合によっては語句を簡略化してある。
- (6) 本文中、表側に使用した項目の回答者数が少ない選択肢は誤差が大きいため、分析の対象としていない場合がある。
- (7) クロス集計結果は、①市民、②高齢者については、年齢別、地区（北部・西部・東部・南部の4区分）別、世帯構成別、近所づきあいの程度別に行った。このうち、統計的に有意かつ特徴的な結果が見られるもののみ抜粋して掲載している。

第2章 主な調査結果

1. 回答者の属性

自治（町）会の加入状況

「加入している」が、市民では65.2%、高齢者では76.6%と、高齢者の加入率が高くなっている。

地区別でみると、市民では「加入している」が北部では80.4%であるのに対して、南部では38.3%と4割以下に留まっている。また、年齢別では、若年層ほど「加入している」が低くなる傾向があり、20～29歳では45.2%となっている。

課 題

地区によって、加入率に大きな差があるうえ、若い世代の加入率も低くなっている。
 支え合いの地域づくりにとって、自治（町）会は重要な役割を担っており、今後も、その活動内容の周知や必要性について、地域の住民に広く周知し、加入率の向上を図っていくことが重要である。

2. 活動状況

現在、困っていること

福祉関係者をみると、ボランティア団体・NPO法人では「会員の高齢化」が49.2%で最も多く、次いで「新規会員が集まらない」が30.5%、「活動資金が不足」が28.8%の順で続いている。

民生委員・児童委員では「相談に訪れた方や相談を希望されている方との関わり方が難しい（プライバシーにどこまで介入すればよいか、自立の必要性を理解してくれないなど）」が46.7%で最も多く、次いで「個人情報の保護により行政から活動に必要な情報が得られない」が40.9%となっている。

福祉委員では「相談に訪れた方や相談を希望されている方との関わり方が難しい（プライバシーにどこまで介入すればよいか、自立の必要性を理解してくれないなど）」が20.7%で最も多く、次いで「活動が忙しすぎて自分のための時間がとれない」が14.7%となっている。

今後、福祉活動を活性化していくために必要なこと

福祉関係者をみると、ボランティア団体・NPO法人では「新たな担い手を育成していく」が、民生委員・児童委員では、「自治（町）会との協力関係を深めていく」が、福祉委員では「福祉委員相互の交流を活発にしていく」が、それぞれ多くなっている。

地域福祉活動を進めるうえでの行政に対する要望・期待

福祉関係者をみると、ボランティア団体・NPO法人では「地域福祉組織・団体の活動をもっと市民にPRしてほしい」が37.3%で最も多く、次いで「他の団体等と連携するためのノウハウや連携先に関する情報を提供してほしい」となっている。

民生委員・児童委員では「活動に必要な個人情報の提供をもっとしてほしい」が44.4%、「民生委員・児童委員の活動をもっと市民にPRしてほしい」が43.4%と、いずれも4割を超えている。

課 題

ボランティア団体・NPO法人では、どのように人材を確保し、世代交代を図るのが、民生委員・児童委員、福祉委員では、個人のプライバシーに配慮しつつ、どのように支援を求める人に寄り添っていくことがよいのか、という、それぞれの課題が浮かび上がっている。

ボランティア団体・NPO法人に対して、活動のPRや人材の養成・確保への支援をしていくとともに、民生委員・児童福祉委員に対しては、個人情報の保護に留意しつつも、支援を必要とする住民1人ひとりについての的確な情報が得られるような仕組みを構築していくことが重要である。

3. 地域との関わり

近所づきあいの程度

「何かで困ったときには、なんでも相談し助け合える人がいる」は、市民では8.9%、高齢者では15.0%と、高齢者が多くなっている。一方、「ほとんど近所づきあいはない」は、市民では25.6%、高齢者では7.8%と、市民が多くなっている。

平成23年度の調査結果と比較すると、市民、高齢者とも、「何かで困ったときには、なんでも相談し助け合える人がいる」が減少する一方、「ほとんど近所づきあいはない」が微増している。

地域活動への参加状況

地域活動の参加状況については、『日頃の自治（町）会活動』『自治（町）会のイベント』等は、高齢者の参加率が市民より高くなっている。一方、『学校行事』は、市民の参加率が高齢者を上回っている。

地域との関わりの必要性を感じたとき

「災害が発生したニュースを聞いたとき」が、市民では69.3%、高齢者では56.2%と、いずれも最も多くなっている。市民では「子どもに関する事件などを聞いたとき」が52.2%、「高齢者の孤独死や虐待などを聞いたとき」が50.6%と、いずれも5割を超え、高齢者でも「高齢者の孤独死や虐待などを聞いたとき」が48.4%と5割近くを占めている。

平成23年度の調査結果と比較しても、市民、高齢者とも上位項目に大きな変動はみられない。

地域の生活課題についての住民同士の支え合い

「必要だと思う」が市民は66.5%、高齢者は72.5%と、高齢者が市民より多くなっている。

こうした支え合いのために必要なこととしては、市民、高齢者とも「自治（町）会が中心となって住民相互の交流活動を進めること」「自ら進んで日頃から住民相互のつながりを持つよう心がけること」「地域の人が気軽に集まれる場所を作ること」「行政が地域活動の相談窓口、側面的援助の体制を充実させること」が上位を占めている。

課 題

現状では、近所づきあいの希薄化が進んでおり、地域の住民同士の支え合いが進んでいるとはいえない状況にある。

その一方、市民、高齢者とも、地域の住民同士の支え合いの必要性については認識している人が多く、その背景には、災害時における地域の住民の支援の大切さや、超高齢化社会における孤独死への不安があることがわかる。

地域住民の支え合いの必要性への意識の高さを、実際の人と人とのつながりへと結びつけていくためには、調査結果からも分かるように、住民自身が日頃から積極的に地域に係わっていくようにするとともに、こうした地域住民の交流を支援していくことが重要である。

4. 支え合いの地域づくり

地域づくり（地域ケアシステム）の認知度

「知っている」と「聞いたことがある」を合わせた《認知度》は、市民では22.8%、高齢者では43.6%と、高齢者が市民を大きく上回っている。また、福祉関係者についてみると、《認知度》は、ボランティア団体・NPO法人では64.4%、民生委員・児童委員では91.0%と、市民、高齢者より高くなっている。

平成23年度の調査結果と比較すると、全体として認知度は上昇している。

地域ケアシステムの周知に必要な取り組み

福祉関係者についてみると、ボランティア団体・NPO法人では「支え合いの地域づくり（地域ケアシステム）の活動を見学できる機会を確保する」が23.7%、「市の広報・ホームページで紹介する」が20.3%と、いずれも2割を超えている。

民生委員・児童委員では「市の広報・ホームページで紹介する」が32.2%で最も多く、次いで「チラシを作成し全戸配布する」が20.7%となっている。

コミュニティワーカー配置の認知状況

福祉関係者についてみると、「知っている」と「聞いたことがある」を合わせた認知度は、ボランティア団体・NPO法人では44.0%、民生委員・児童委員では74.2%と、民生委員・児童委員の《認知度》がボランティア団体・NPO法人より高くなっている。

支え合いの地域づくり（地域ケアシステム）でやってもらいたいこと

「学校・医療機関・保健福祉機関とのネットワークづくりを進めてほしい」が、市民では23.1%、高齢者では7.6%と、市民が高齢者を上回っている。また、「相談機能を強化してほしい」についても、市民では18.7%、高齢者では13.0%と、市民が多くなっている。

平成23年度の調査結果と比較すると、市民では「相談機能を強化してほしい」が増加している。

また、福祉関係者についてみると、ボランティア団体・NPO法人では「他分野（高齢者・子ども・障害者）の活動団体が積極的に参加できる環境を作してほしい」が15.3%で、民生委員・児童委員では「支え合いの地域づくり（地域ケアシステム）の地域間の情報交換・交流を促進してほしい」が20.7%で、福祉委員では「支え合いの地域づくり（地域ケアシステム）拠点の機能強化」が17.3%で、それぞれ最も多くなっている。

近所で支援を必要としている人

「ひとり暮らしのお年寄りの安否確認や話し相手」が、市民では21.2%、高齢者では24.5%、「地域内の防犯パトロール」が、市民、高齢者とも20.6%で、いずれも2割を超えている。

平成23年度の調査結果と比較すると、市民、高齢者とも、「地域内の防犯パトロール」は低下したものの、「ひとり暮らしのお年寄りの安否確認や話し相手」の比率に大きな変化はみられない。

自分ができる支援

「ひとり暮らしのお年寄りの安否確認や話し相手」が、市民では19.6%、高齢者では20.8%、「地域内の防犯パトロール」が、市民では14.9%、高齢者では16.7%と、市民、高齢者とも上位を占めている。

平成23年度の調査結果と比較すると、市民、高齢者とも、「ひとり暮らしのお年寄りの安否確認や話し相手」「地域内の防犯パトロール」の比率に大きな変化はみられない。

地域福祉活動への参加

「すでに活動に参加している」は、市民では1.6%、高齢者では3.3%に留まっている。一方、「時間に余裕があれば参加したい」が、市民では35.8%、高齢者では23.6%と、最も多くなっている。

平成23年度の調査結果と比較すると、市民、高齢者とも「関心があるが、どうしてもいかわからない」は減少したものの、「関心がない」は増加している。

課 題

支え合いの地域づくり（地域ケアシステム）についての、市民、高齢者の認知度は、徐々に増加しているものの、まだ市民全体にまで浸透しているとはいえない状況にある。

地域福祉を推進するうえで、支え合いの地域づくり（地域ケアシステム）は中核的な役割を担っていることから、福祉関係者の指摘するように、「活動の見学」や「広報・ホームページの充実」等の様々な手段の活用や団体の活動を通じて、その内容の周知を図ることが重要である。

また、コミュニティワーカーの認知度は、民生委員・児童委員では高いものの、ボランティア団体・NPO法人では5割に満たないことから、その活動内容の周知を図ることが重要である。

支え合いの地域づくり（地域ケアシステム）に対する期待としては、相談機能の強化や関係機関のネットワーク化が求められていることから、こうした取り組みに対して、一層力を入れていくことが重要である。

また、調査結果からも分るに、地域住民の間で、ひとり暮らし高齢者の支援や防犯への取り組みの必要性が認識されているとともに、こうした分野への住民の参加が期待できる状況がある。

しかしながら、実際には、現在、地域福祉活動に参加している人は、市民、高齢者とも低く、無関心な層も少なくない。今後は、地域福祉活動に参加意欲のある人が、実際の福祉活動の担い手となって活躍できるよう支援していくことが重要である。

5. 地域福祉活動

子育て中の方を応援するためにできること

市民では「子どもが危険な目に遭いそうなときに手助けや保護をする」が49.1%で最も多く、次いで『うるさい』などといわないで、子どもがのびのびと遊ぶことを認める」が35.8%、「子どもが良くないことをしているときには、積極的に声をかける」が29.1%となっている。

障害者の社会参加の機会を広げるために地域で必要があること

市民では「困っている障害者を見かけたら、声をかけて自分にできる手伝いをする」と「障害者が施設や設備を利用しやすいようバリアフリーに配慮する」が、ともに47.5%で最も多くなっている。

現在の生きがいと今後力を入れたいこと

高齢者では、現在の生きがいとして、「趣味活動」が50.1%で最も多く、次いで「家族との団らん」が36.9%、「健康づくり」が30.4%の順で続いている。一方、今後力を入れたいこととしては、「健康づくり」が52.1%で最も多く、次いで「趣味活動」が45.3%となっている。

シルバー人材センターへの登録状況と登録意向

高齢者では「登録している」が2.2%、「登録していたことがある」が3.7%となっている。一方、「聞いたことはあるが登録したことがない」は69.8%と7割近くを占めている。また、現在、登録していない人では、「登録したい」が10.7%となっている。

地域活動により多くの人が参加できるようにするために必要なこと

「活動や団体についての具体的な情報を広く紹介する」が、市民では53.2%、高齢者では44.3%、「参加する方法についての具体的な情報を広く紹介する」が、市民では50.9%、高齢者では47.3%と、この2項目が、市民、高齢者とも多くなっている。

地域の人たちが協力して取り組んでいくことが特に必要な課題

福祉関係者をみると、種別によって順位に多少の変動はあるものの、「地域ぐるみでこどもたちの成長を助ける」「地域での支えあいによる高齢者への支援」「こどもから高齢者まで、様々な市民が集まることのできる場の設置」「障害者の社会参加を尊重した自立生活の支援」が上位を占めている。

行政が地域で支え合う仕組みづくりをするため、特に必要だと思うこと

ボランティア団体・NPO法人では「活動する場所や資金を支援する」が59.3%で最も多く、次いで「地域の方々が知り合う機会や活動する場所を確保する」が54.2%となっている。

民生委員・児童委員では「地域の方々が知り合う機会や活動の場所を確保する」が59.8%で最も多くなっている。

福祉委員では「ボランティア情報を収集・提供する窓口を充実する」が39.1%で最も多く、次いで「地域の方々が知り合う機会を増やすための集いの場を確保する」が32.4%となっている。

課 題

福祉関係者の間では、地域におけるこども、高齢者、障害者等への支援の必要性が示されており、こうした支援への取り組みに多くの市民が参加することが期待される。また、高齢者については、シルバー人材センターへの登録数、登録意欲は低いものの、「健康」等の分野の活動には参加意欲の高い人が多いことがわかる。

市民から、高齢者まで、各分野での幅広い活動を促進するため、地域福祉活動に関する具体的情報の提供体制を充実させる等、各種の施策の一層の充実を図っていくことが求められる。

また、福祉関係者をみると、ボランティア団体・NPO法人、民生委員・児童委員、福祉委員の間で、地域の支え合いの仕組みづくりをするために、行政に求めることが異なっており、活動に携わる関係者・団体それぞれの要望を踏まえて、福祉施策の展開を図っていくことが必要である。

6. 防災

地震や災害などが起きた場合の不安感とその内容

「非常に不安がある」は、市民では48.1%、高齢者では39.7%となっている。また、不安の内容としては、「避難先での食事、トイレや入浴などが心配」が、市民では63.6%、高齢者では62.2%、「避難先での薬や医療体制が心配」が、市民では39.8%、高齢者では40.3%と、この2項目が、市民、高齢者とも上位を占めている。

災害などの緊急時に頼りにする相手

「同居家族」が、市民では62.7%、高齢者では57.7%、「別居の家族や親族」が、市民では37.7%、高齢者では43.8%と、この2項目が、市民、高齢者とも上位を占めている。

災害時や日常生活に支障がある際の声かけや簡単な援助の依頼意向と避難行動要支援者名簿作成への意識

「ぜひとも頼みたい」が、市民では18.0%、高齢者では19.1%、「状況によっては頼みたい」が、市民では61.1%、高齢者では59.9%となっている。また、「頼みたい」という人では、名簿に掲載する情報は「最小限の情報（名前、年齢程度）ならかまわない」が、市民では61.6%、高齢者では66.5%となっている。

災害時に可能な地域活動

「避難所での支援活動」については、市民で39.2%、高齢者で26.2%と、市民が高齢者より多くなっている。一方、「ひとり暮らし高齢者への声かけ」については、市民で25.3%、高齢者で33.0%と、高齢者が多くなっている。

「避難行動要支援者」に関連した活動への参加協力

福祉関係者をみると、ボランティア団体・NPO法人、民生委員・児童委員、福祉委員とも、順位、比率は異なるものの、「必要と思う人へ名簿登録の呼びかけ」と「名簿登録者の被災時の安否確認・避難の助け」が上位を占めている。

災害時における助け合いのために必要な日常的な取り組み

福祉関係者をみると、「日常的な近所づきあい」が、いずれの福祉関係者でも最も多くなっている。

課 題

地震や災害などが発生した時の不安は、市民、高齢者とも極めて強く、その不安の内容は避難所の環境から、医療面まで幅広い分野に渡っている。

こうした状況にあって、災害発生時や日常生活に支障のある場合、地域の人からの支援を期待する声は高く、避難行動要支援者名簿についても、「最小限の情報」なら掲載してよいとする人が多くを占めている。

また、福祉関係者では、「名簿登録の呼びかけ」への参加意向が高くなっている。個人のプライバシーに十分に配慮ながら、名簿の作成、災害時などにおけるその活用に取り組んでいくことが重要である。

さらに、災害などの発生時には、地域住民の支え合いも重要であることから、住民同士が日頃から近所づきあいを深めていくとともに、避難所での支援活動やひとり暮らし高齢者への声かけ等、住民の自主的な取り組みを促進していくことも必要である。

7. 地域福祉の進捗状況

以前と比べた自身の活動区域における地域福祉の変化

福祉関係者をみると、ボランティア団体・NPO法人では「非常に活発になった」と「活発になった」を合わせた《活発になった》が27.1%となっている。一方、「特に変化はない」は40.7%を占めている。

民生委員・児童委員では《活発になった》が40.0%、「特に変化はない」が38.4%となっている。福祉委員では、《活発になった》が48.5%と、「特に変化はない」の30.4%を上回っている。

以前と比べて地域活動において推進された地域福祉

福祉関係者をみると、ボランティア団体・NPO法人では、「支え合いの地域づくり（地域ケアシステム）が充実した」が16.9%で最も多く、次いで「福祉に関する情報提供が進んだ」が15.3%、「福祉に関する教育や啓発が進んだ」が11.9%の順で続いている。

民生委員・児童委員では「相談できる場が確保された」が25.7%で最も多く、次いで「福祉に関する情報提供が進んだ」が23.2%、「支え合いの地域づくり（地域ケアシステム）が充実した」が18.9%の順で続いている。

福祉委員では「相談できる場が確保された」が26.0%で最も多く、次いで「支え合いの地域づくり（地域ケアシステム）が充実した」が24.2%、「福祉に関する情報提供が進んだ」が23.9%の順で続いている。

課 題

福祉関係者をみると、福祉委員、民生委員・児童委員では、ここ数年、市の地域福祉活動は活発化したと肯定的に評価する意見が多いが、その一方で、「特に変化はない」という厳しい認識を示す人も少なくない。

また、明らかな推進のみられた分野としては、種別によって多少の順位の変動はあるが、支え合い地域づくり（地域ケアシステム）の充実、情報提供体制の充実、相談体制の充実の分野が上位を占めている。一方、依然として遅れている分野としては、人材の育成、地域課題の発見・解決に向けた取り組み、ひとり暮らし高齢者等の孤立解消などがあげられている。

今後は、市民、福祉関係者、行政が緊密に連携しながら、活動拠点の整備、活動参加者の交流、地域活動の担い手の養成等、幅広い分野にわたって、地域福祉の推進に取り組んでいくことが必要である。

8. 施策への評価

市民、高齢者、ボランティア団体・NPO法人、民生委員・児童委員、福祉委員とも、『市の福祉施策に関する情報提供』や『地域の相談体制の整備状況』については、比較的《肯定的評価》が多くなっている。

その一方、種別ごとに多少の順位の変動はあるが、《否定的評価》が多いものとして、『地域活動や市民活動団体などの情報』『地域での住民同士の交流や支え合い』『地域福祉の推進のための担い手の確保や人材育成の環境』が上位を占める傾向が共通している。

課 題

支え合いの地域づくりを推進するうえで、地域住民同士の支え合い、活動団体の情報、活動を担う人材の育成と確保は、基本的条件といえる。

市民や福祉関係者の間で、こうした分野について厳しい評価を与えられていることから、支え合いの地域づくりを一層推進させていくために、地域住民同士の支え合いの重要性を広く市民に浸透させていくとともに、活動の担い手に関する情報提供体制や人材育成に一層力を入れていくことが重要である。

9. 今後の地域福祉の分野で特に力を入れてほしいこと

市民、ボランティア団体・NPO法人、民生委員・児童委員、福祉委員で、「地域内で困ったときにお互いに支え合える仕組みづくり（地域力の向上）」が最も多くなっている。また、種別によって、多少の順位の変動はあるものの、高齢者では最上位の「身近な相談支援体制の充実」や「地域活動・ボランティア活動を担う人材の養成・確保」「地域ぐるみの防災・防犯体制の強化」等が上位を占めている。とくに、高齢者では「高齢者支援の充実」が多くなっている点は注目される。

課 題

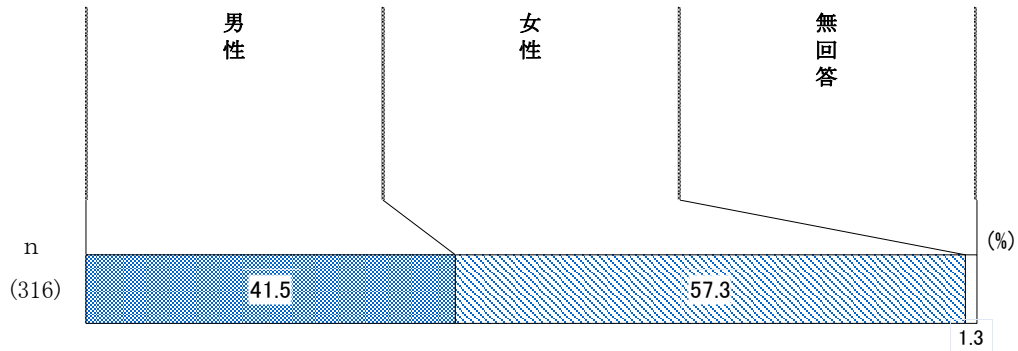
超高齢社会の現実を踏まえて、支え合いの地域づくりを推進するため、支え合いの仕組みづくり、相談体制の強化や人材の養成・確保等の取り組みを一層充実させていくことが重要である。

第3章 調査結果の詳細／市民

1. 回答者の属性

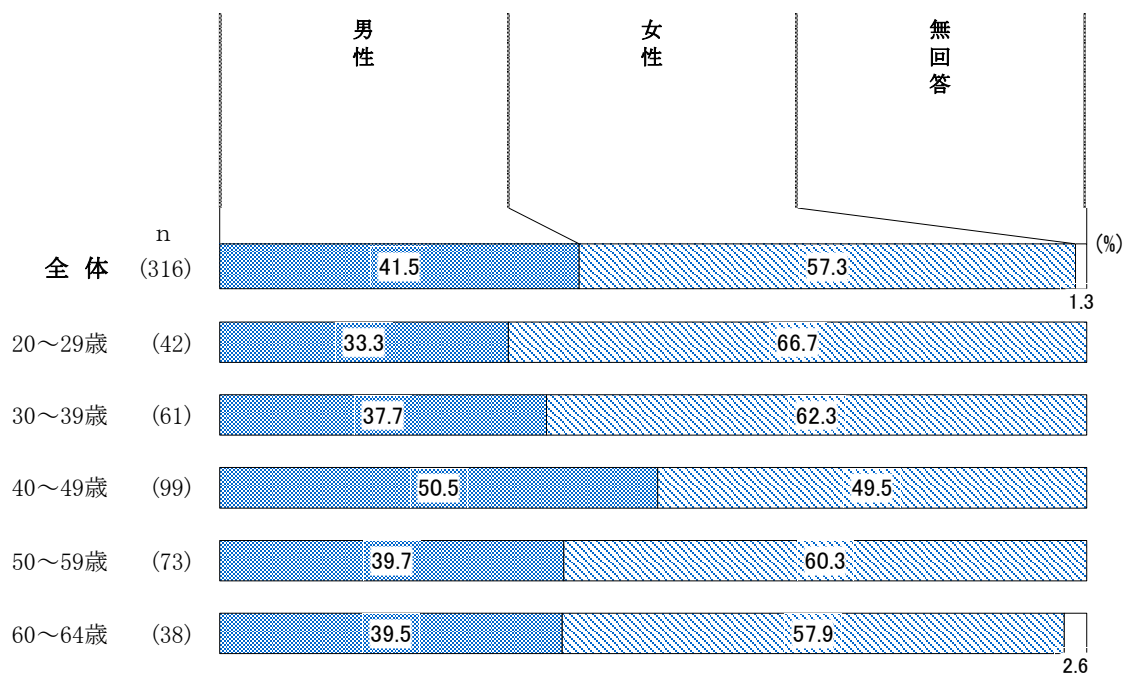
(1) 性別

問1 あなたの性別は。(○は1つだけ)



性別をみると、「男性」が41.5%、「女性」が57.3%となっている。

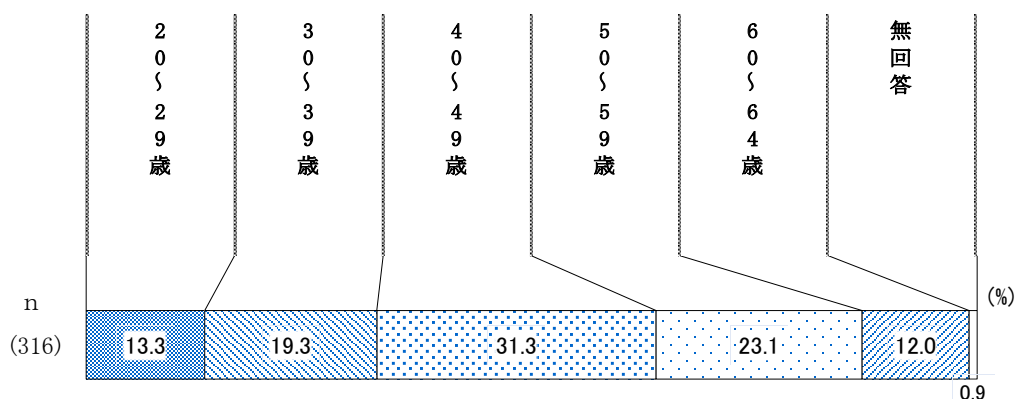
【年齢別の性別】



年齢別をみると、40～49歳では「男性」が50.5%と多くなっている。一方、20～29歳、30～39歳、50～59歳では「女性」が6割を超えている。

(2) 年齢

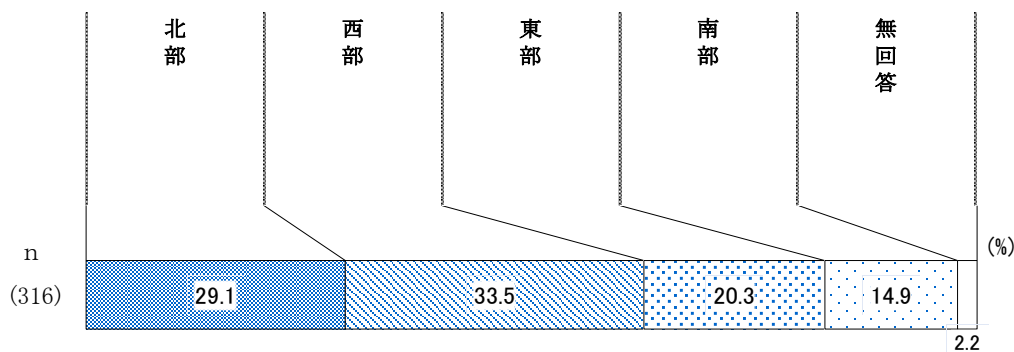
問2 あなたの年齢は。(○は1つだけ)



年齢をみると、「40～49歳」が31.3%で最も多く、次いで「50～59歳」が23.1%、「30～39歳」が19.3%となっている。

(3) 居住地区

問3 あなたは、現在どの地区にお住まいですか。以下の右欄「地区の町丁」をご確認いただき、左欄「地区」の番号に○をつけてください。(○は1つだけ)



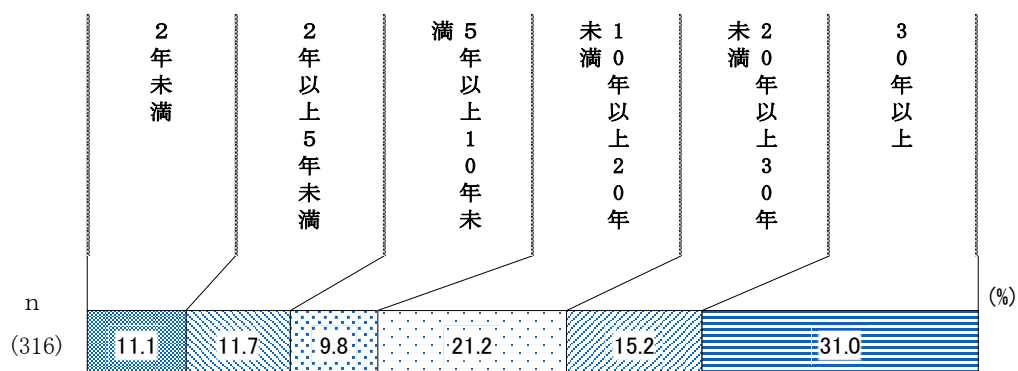
北 部				西 部				
国分	曾谷	大柏	宮久保・下貝塚	国府台	市川第1	市川第2	真間	菅野・須和田
7.0%	6.0	8.5	7.6	7.6	7.6	5.1	5.4	7.9

東 部			南 部			無回答
八幡	市川東部	信篤・二俣	行徳	南行徳第1	南行徳第2	
5.4%	8.5	6.3	5.4	4.4	5.1	2.2

居住地区をみると、「西部」が33.5%で最も高く、以下「北部」29.1%、「東部」20.3%、「南部」14.9%となっている。

(4) 居住年数

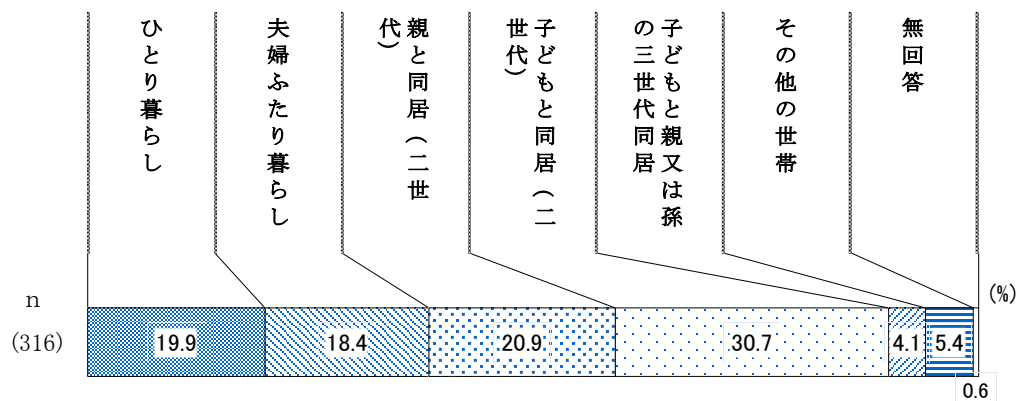
問4 あなたご自身、市川市に住むようになってから何年になりますか。(○は1つだけ)



居住年数を見ると、「30年以上」が31.0%で最も多く、次いで「10年以上20年未満」が21.2%となっている。

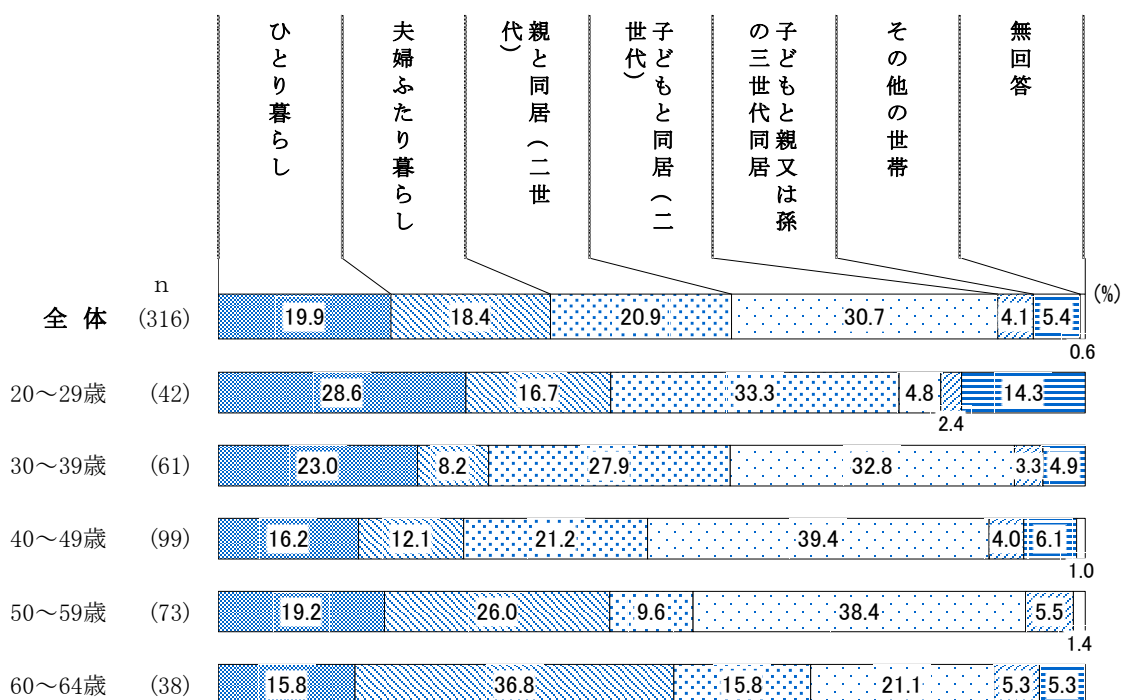
(5) 世帯構成

問5 あなたの世帯構成は。(○は1つだけ)



世帯構成を見ると、「子どもと同居 (二世帯)」が30.7%で最も多く、次いで「親と同居 (二世帯)」が20.9%、「ひとり暮らし」が19.9%と続いている。

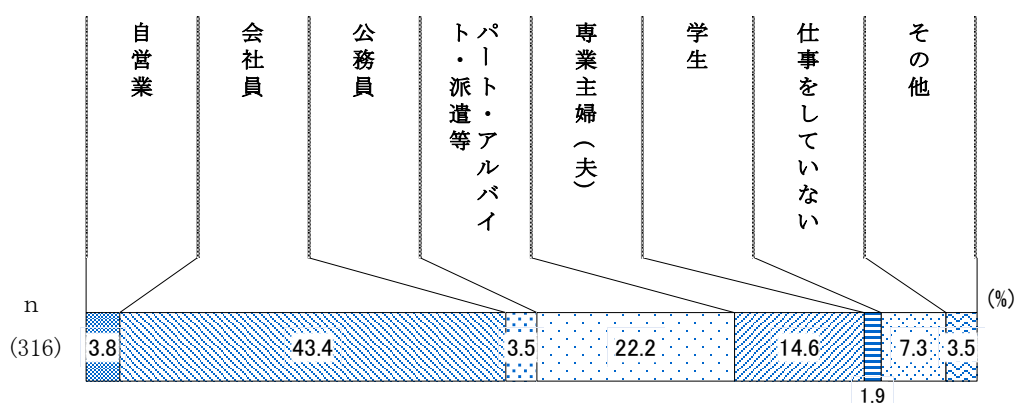
【年齢別の世帯構成】



年代別でみると、『40~49歳』『50~59歳』では「子どもと同居（二世帯）」が4割近くを占めている。『60~64歳』では「夫婦ふたり暮らし」が36.8%と多くなっている。

（6）職業（就労の有無）

問6 現在のあなたの職業は、次のどれですか。（○は1つだけ）

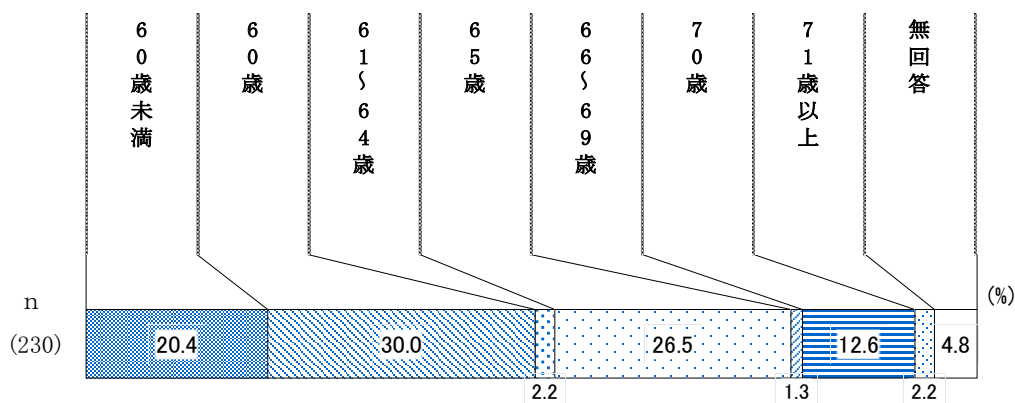


職業をみると、「会社員」が43.4%で最も多く、次いで「パート・アルバイト・派遣等」が22.2%、「専業主婦（夫）」が14.6%と続いている。

(7) 仕事を続けたい年齢

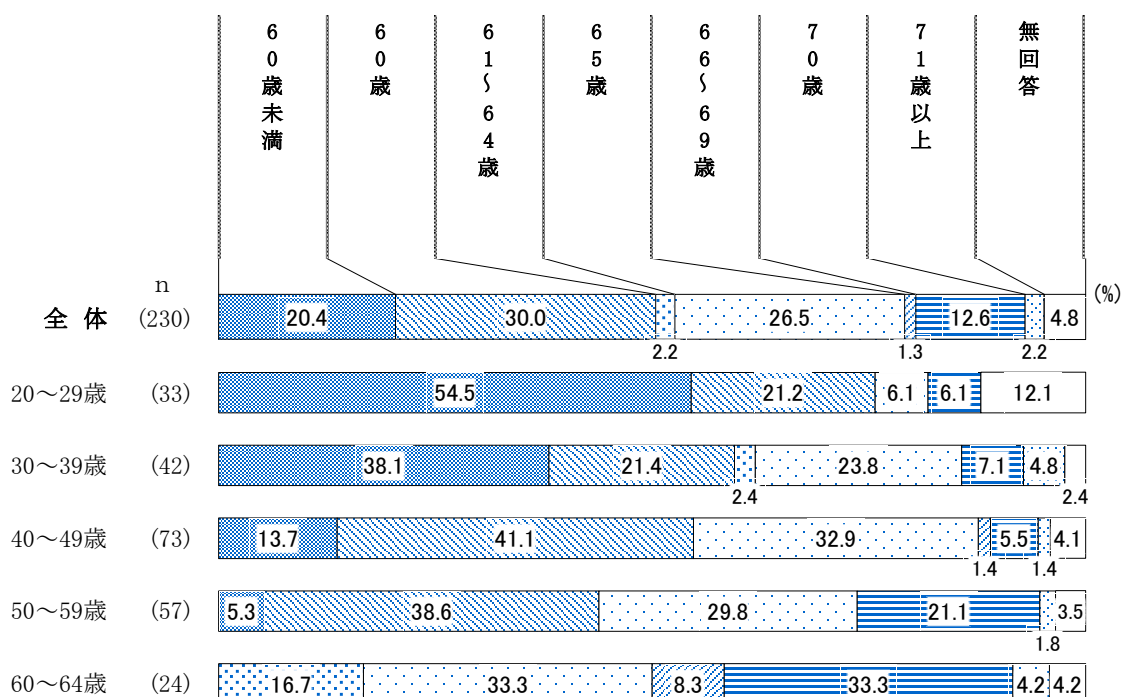
(現在仕事をしている方にうかがいます)

問7 あなたは現在の仕事を何歳まで続けたいと思いますか。



仕事を続けたい年齢をみると、「60歳」が30.0%で最も多く、次いで「65歳」が26.5%、「60歳未満」が20.4%と続いている。

【年齢別の仕事を続けたい年齢】

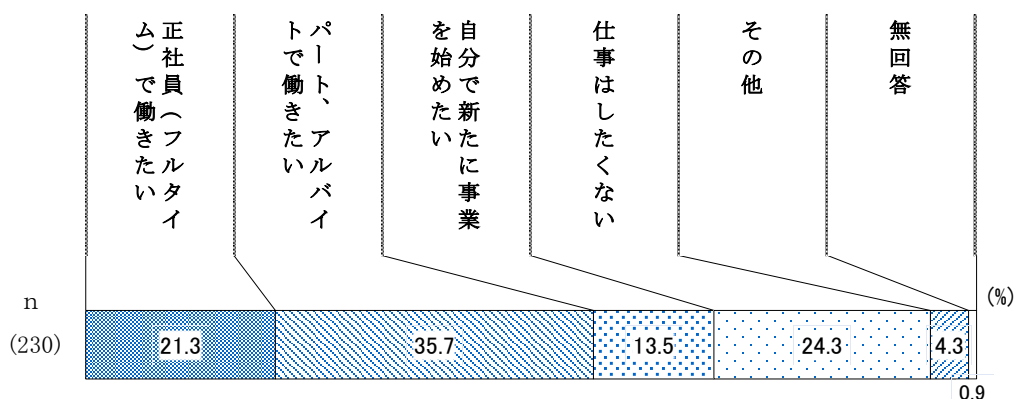


年齢別でみると、「60歳未満」は『20～29歳』で54.5%と多くなっている。また、「60歳」は『40～49歳』『50～59歳』で4割前後を占めている。

（８）現在の仕事をやめた後の過ごし方

（現在仕事をしている方にうかがいます）

問８ 現在の仕事をやめたあと、次のようなことをしたいと思いますか。（○は１つだけ）

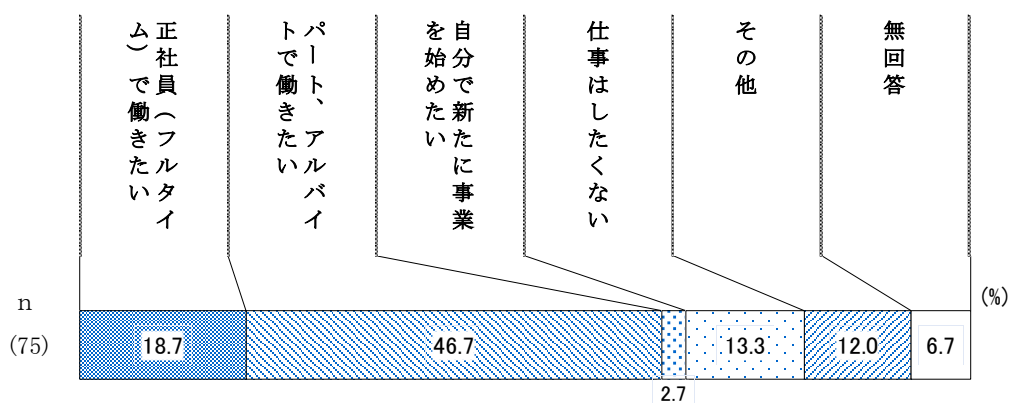


現在仕事をしている人の現在の仕事をやめた後の過ごし方をみると、「パート、アルバイトで働きたい」が35.7%で最も多く、次いで「正社員（フルタイム）で働きたい」が21.3%となっている。一方、「仕事はしたくない」は24.3%を占めている。

（９）今後の就労意向

（現在仕事をしていない方にうかがいます）

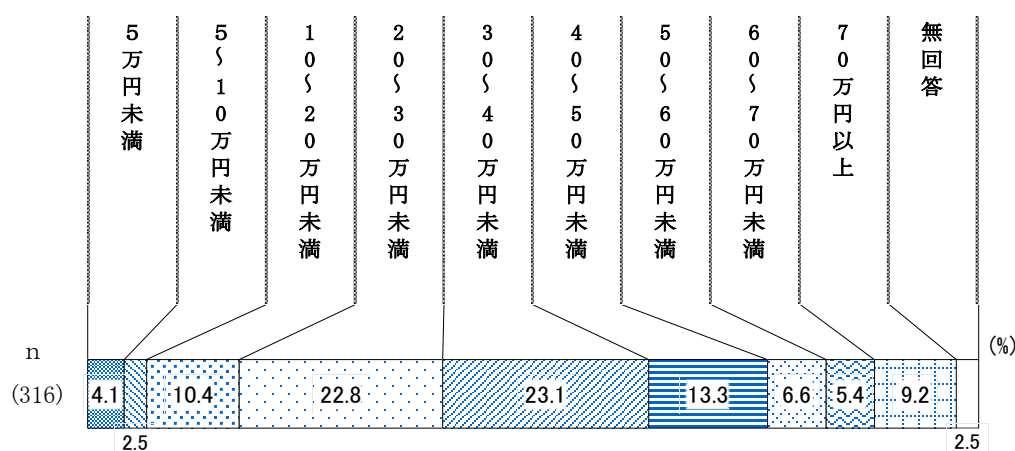
問９ 今後、次のようなことをしたいと思いますか。（○は１つだけ）



現在仕事をしていない人の今後の就労意向をみると、「パート、アルバイトで働きたい」が46.7%で最も多く、次いで「正社員（フルタイム）で働きたい」が18.7%となっている。一方、「仕事はしたくない」は13.3%を占めている。

(10) 月当たりの世帯収入

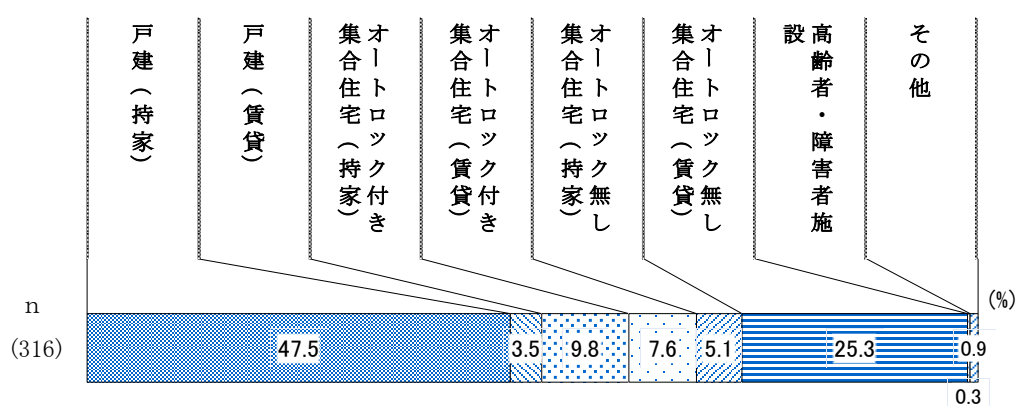
問10 月当たりの世帯収入はどのくらいですか。(〇は1つだけ)



月当たりの世帯収入をみると、「30～40万円未満」が23.1%で最も多く、次いで「20～30万円未満」が22.8%、「40～50万円未満」が13.3%と続いている。

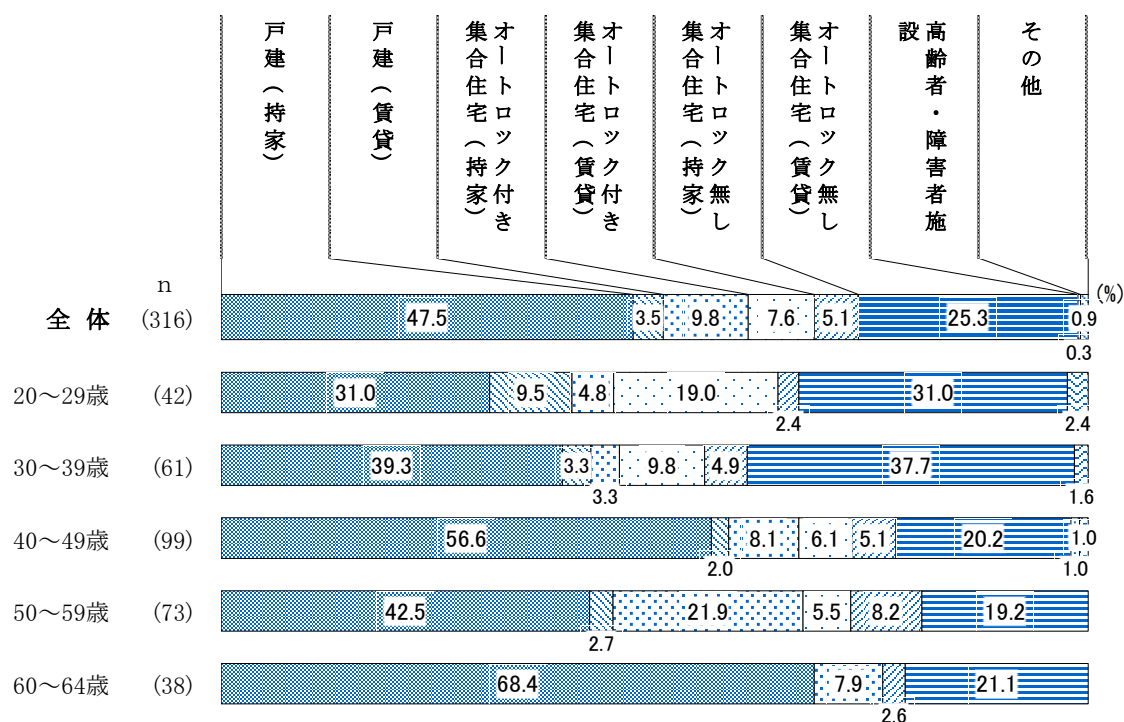
(11) 住居形態

問11 あなたの住居の形態は。(〇は1つだけ)



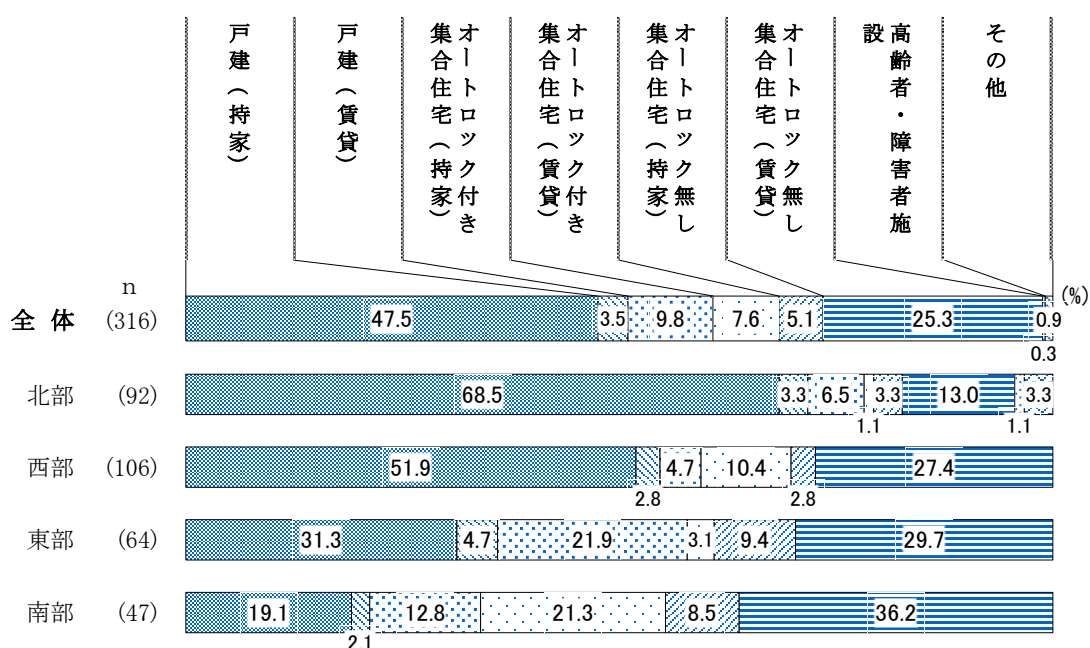
住居形態をみると、「戸建（持家）」が47.5%で最も多く、次いで「オートロック無し集合住宅（賃貸）」が25.3%となっている。

【年齢別の住居形態】



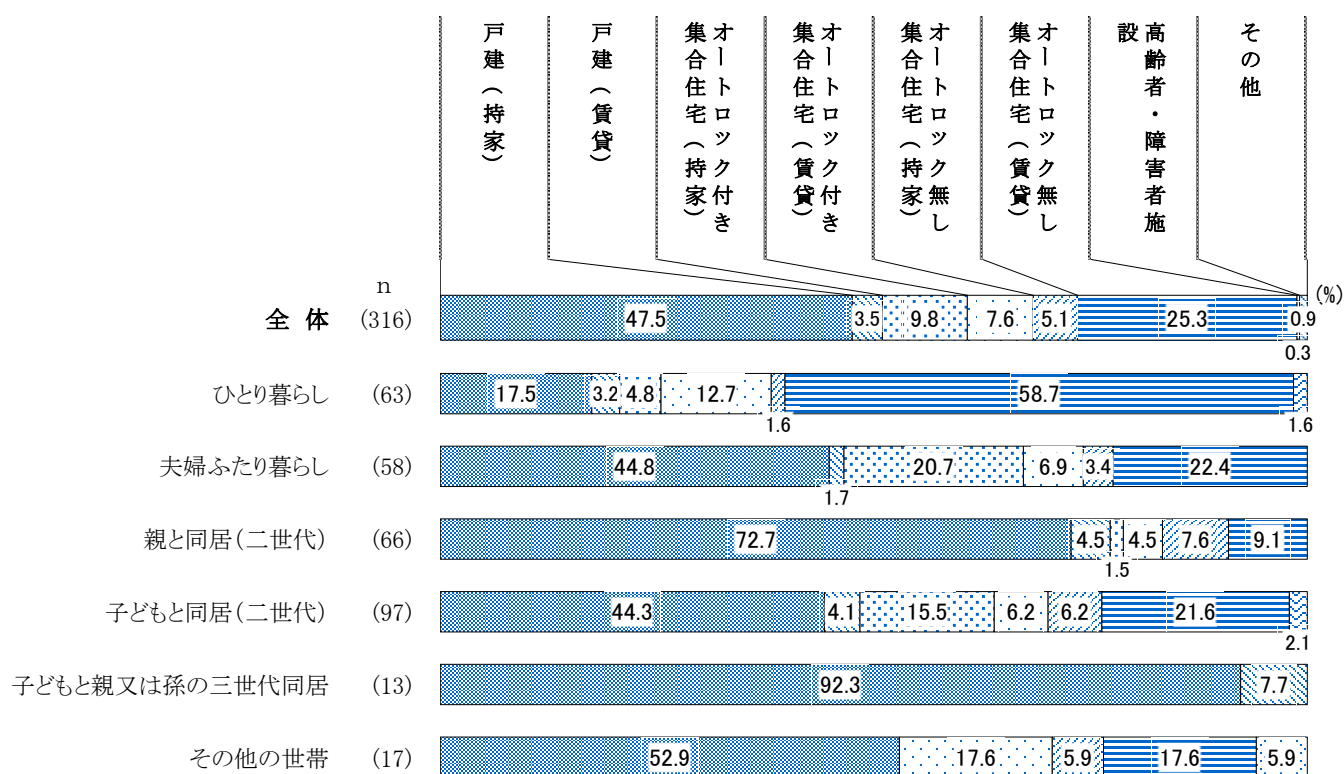
年齢別でみると、『60～64歳』では「戸建（持家）」が68.4%と、他の年代より多くなっている。また、『30～39歳』では「オートロック無し集合住宅（賃貸）」が37.7%と多くなっている。

【居住地区別の住居形態】



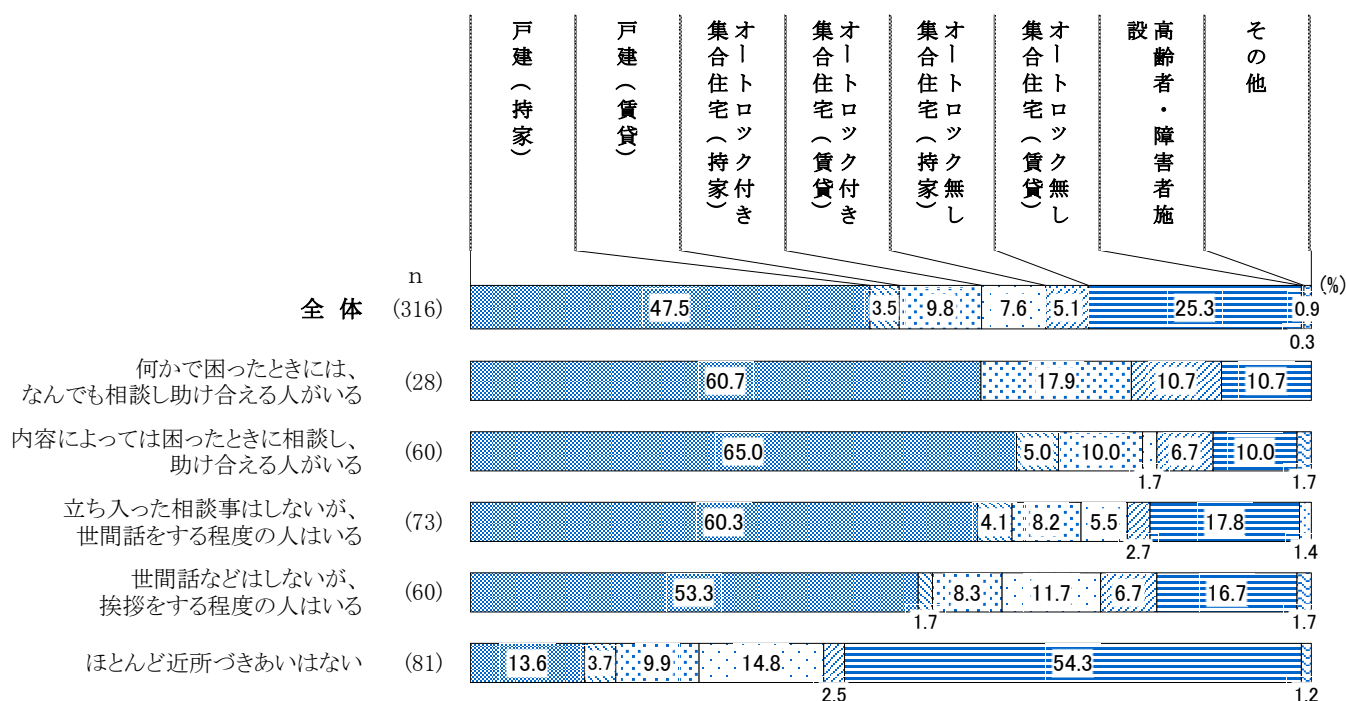
居住地区別でみると、『北部』『西部』では「戸建（持家）」が、それぞれ68.5%、51.9%と多くなっている。また、『南部』では「オートロック無し集合住宅（賃貸）」が36.2%と多くなっている。

【世帯構成別の住居形態】



世帯構成別でみると、『子どもと親又は孫の三世帯同居』『親と同居（二世帯）』では「戸建（持家）」が、それぞれ92.3%、72.7%と多くなっている。また、『ひとり暮らし』では「オートロック無し集合住宅（賃貸）」が58.7%と多くなっている。

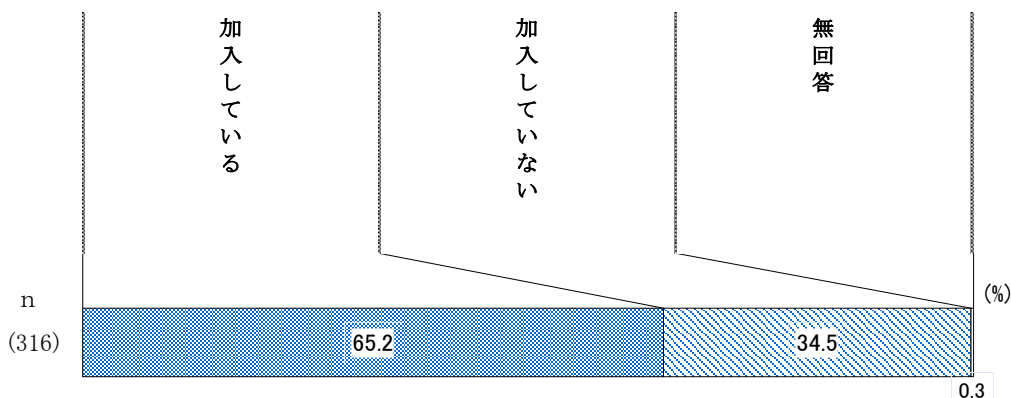
【近所づきあいの程度別の住居形態】



近所づきあいの程度別でみると、『何かで困ったときには、なんでも相談し助け合える人がある』『内容によっては困ったときに相談し、助け合える人がある』『立ち入った相談事はしないが、世間話をする程度の人はいらる』では「戸建（持家）」が、いずれも6割を超えている。また、『ほとんど近所づきあいはない』では「オートロック無し集合住宅（賃貸）」が54.3%と多くなっている。

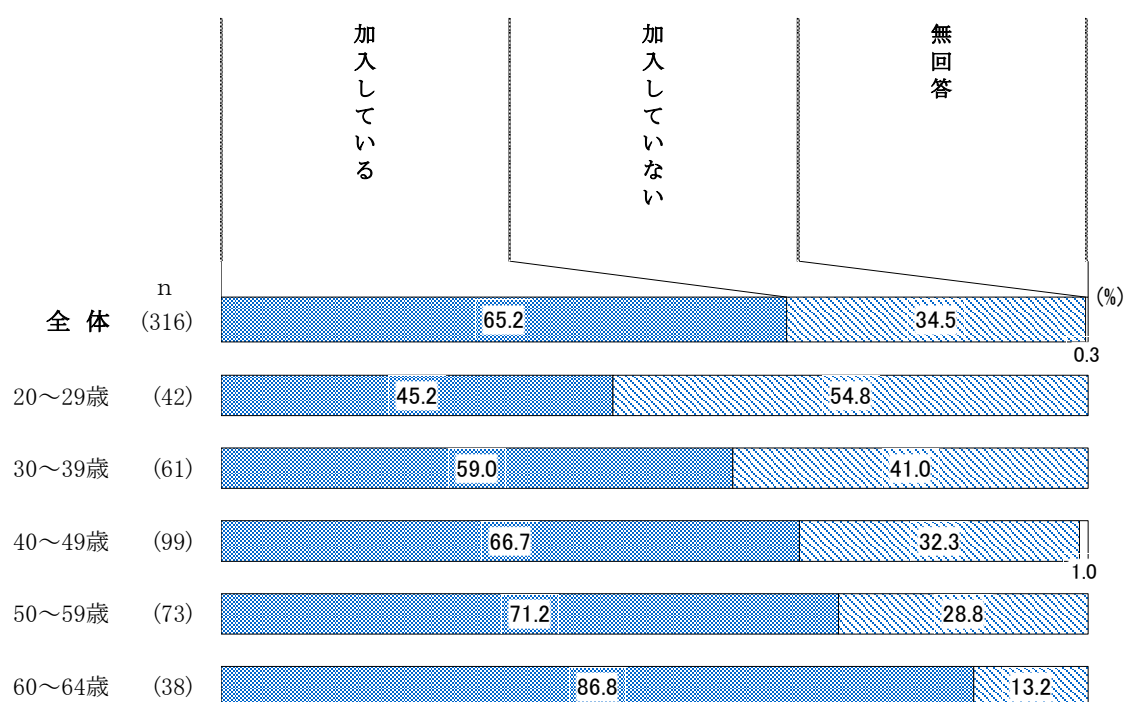
（12）自治（町）会の加入状況

問12 あなたの家では自治（町）会に加入していますか。（○は1つだけ）



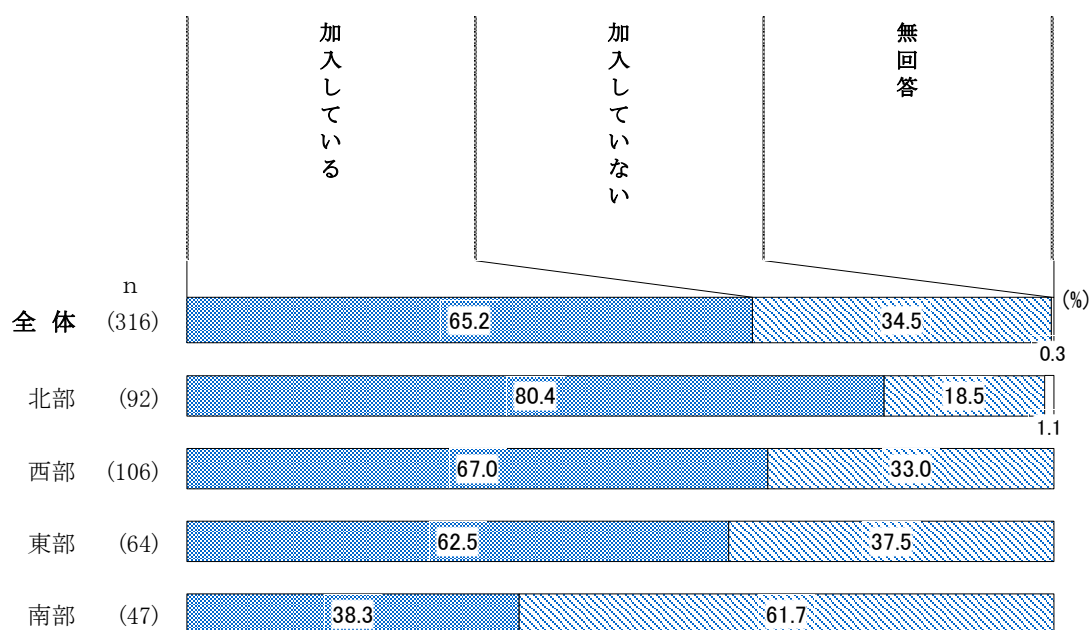
自治（町）会の加入状況をみると、「加入している」が65.2%、「加入していない」が34.5%となっている。

【年齢別の自治（町）会の加入状況】



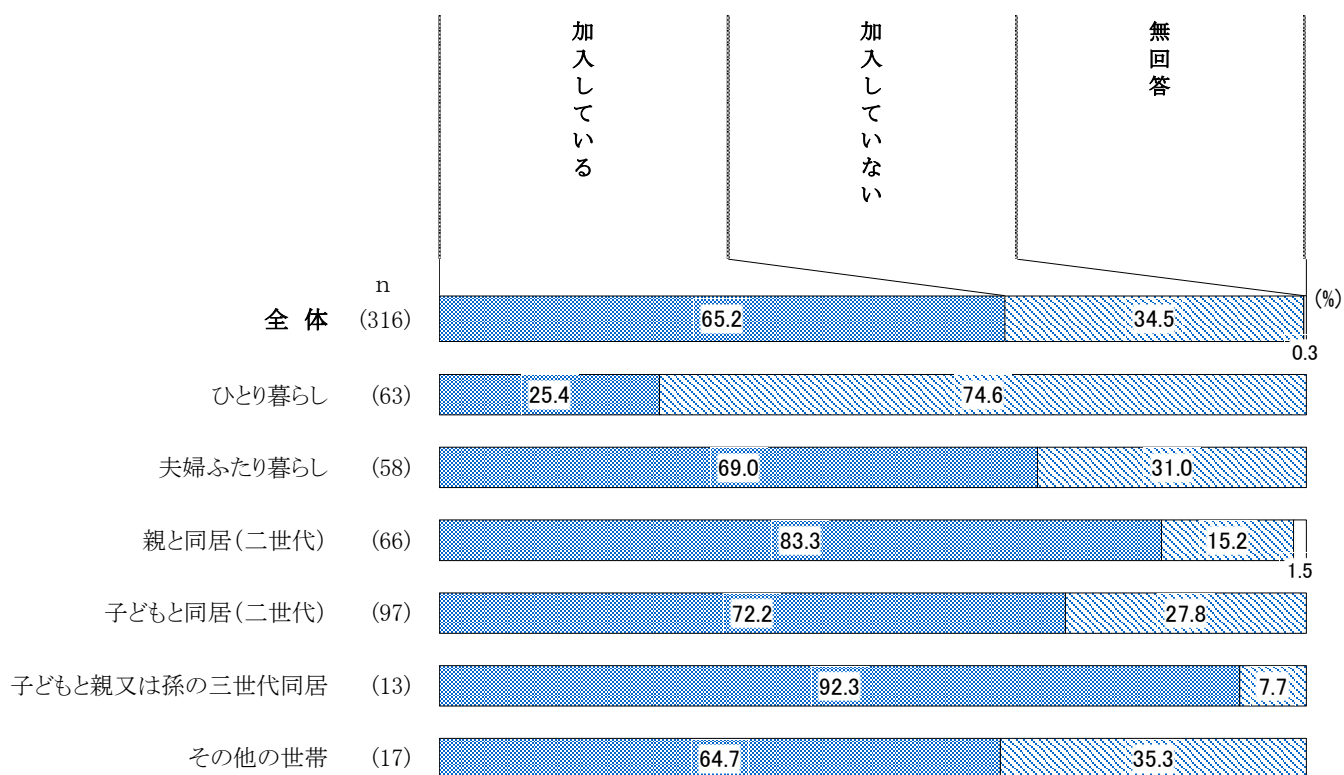
年齢別でみると、年齢が高くなるにつれて「加入している」が増加し、『60～64歳』では86.8%となっている。

【居住地区別の自治（町）会の加入状況】



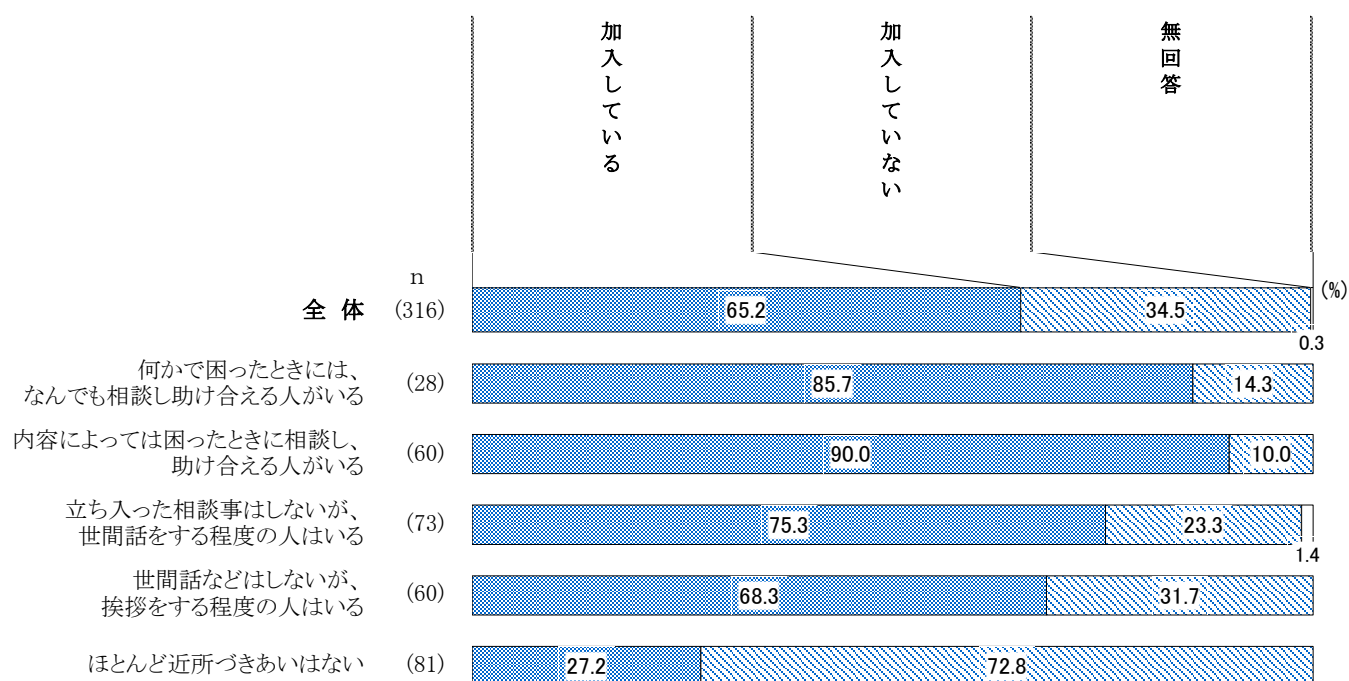
居住地区別でみると、『北部』では「加入している」が80.4%を占めている。一方、『南部』では「加入してない」が61.7%と多くなっている。

【世帯構成別の自治（町）会の加入状況】



世帯構成別でみると、『子どもと親又は孫の三世帯同居』『親と同居（二世帯）』では「加入している」が、それぞれ92.3%、83.3%と多くなっている。一方、『ひとり暮らし』では「加入していない」が74.6%を占めている。

【近所づきあいの程度別の自治会の加入状況】

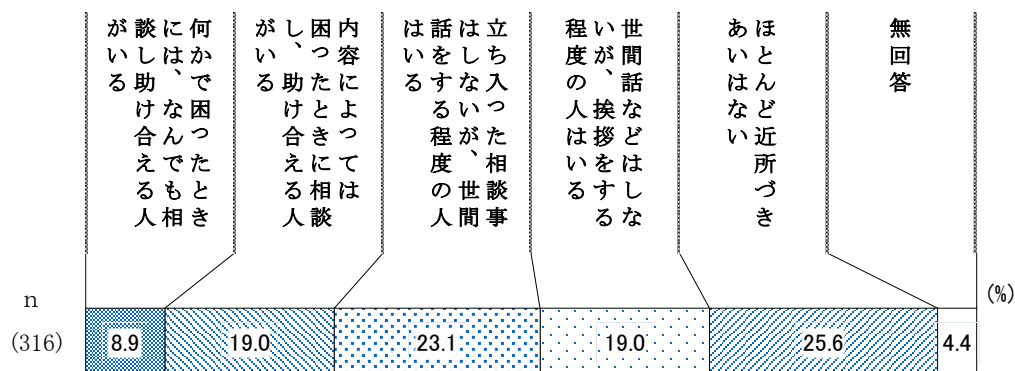


近所づきあいの程度別でみると、『内容によっては困ったときに相談し、助け合える人がある』『何かで困ったときには、なんでも相談し助け合える人がある』では「加入している」が、それぞれ90.0%、85.7%と多くなっている。一方、『ほとんど近所づきあいはない』では「加入していない」が72.8%と多くなっている。

2. 地域との関わり

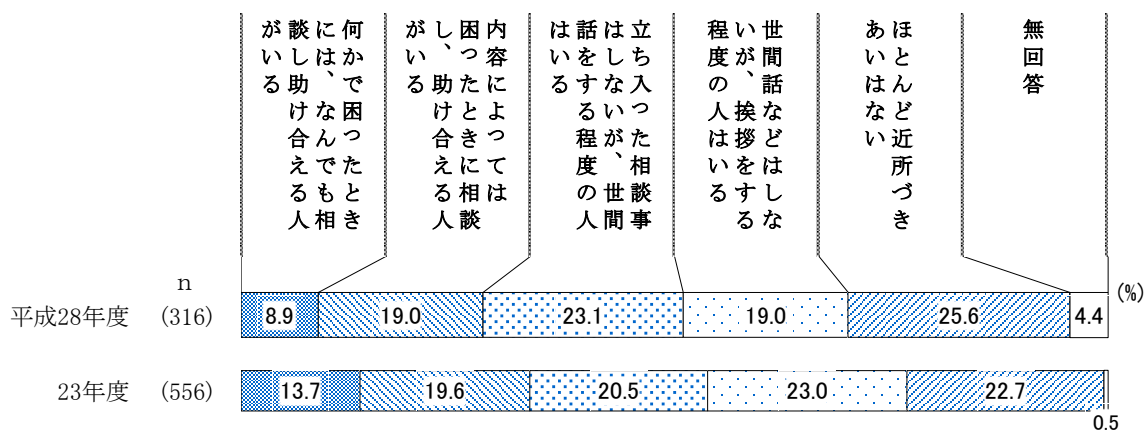
(1) 近所づきあいの程度

問13 近所（歩いて行ける程度の範囲）にどの程度のおつきあいの方がいますか。（○は1つだけ）



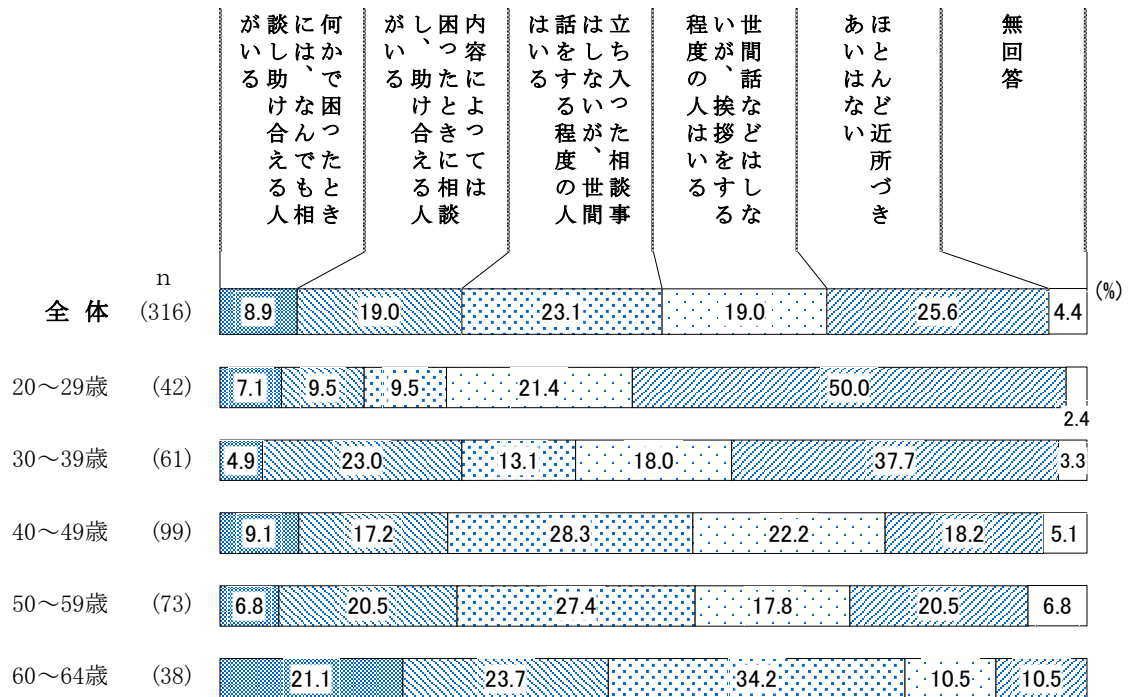
近所づきあいの程度をみると、「ほとんど近所づきあいはない」が25.6%で最も多く、次いで「立ち入った相談事はしないが、世間話をする程度の人」が23.1%、「内容によっては困ったときに相談し、助け合える人」が19.0%で続いている。

《 前回調査との比較 近所づきあいの程度 》



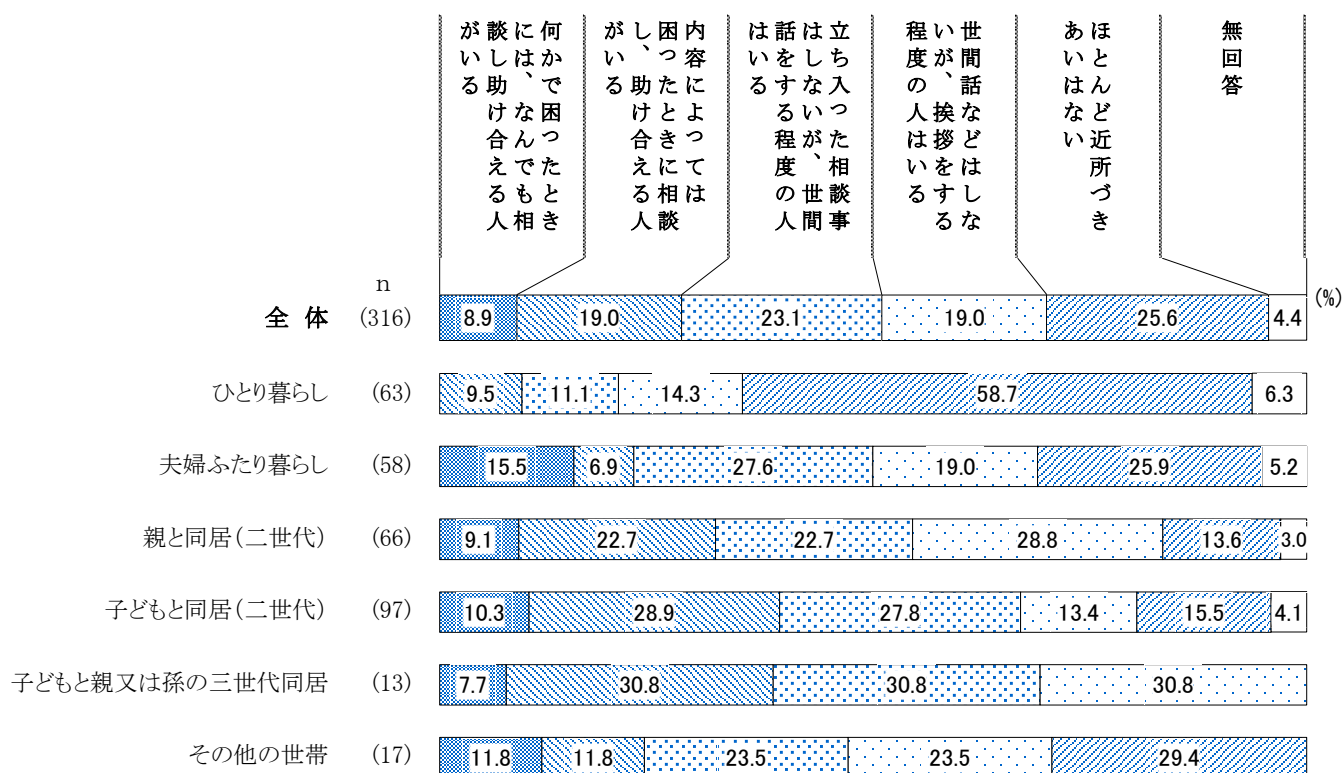
経年でみると、平成23年度の調査結果と比べて、「何かで困ったときには、なんでも相談し助け合える人」が13.7%から8.9%に減少し、「立ち入った相談事はしないが、世間話をする程度の人」が23.0%から20.5%に減少している。一方、「ほとんど近所づきあいはない」が22.7%から25.6%に増加している。

【年齢別の近所づきあいの程度】



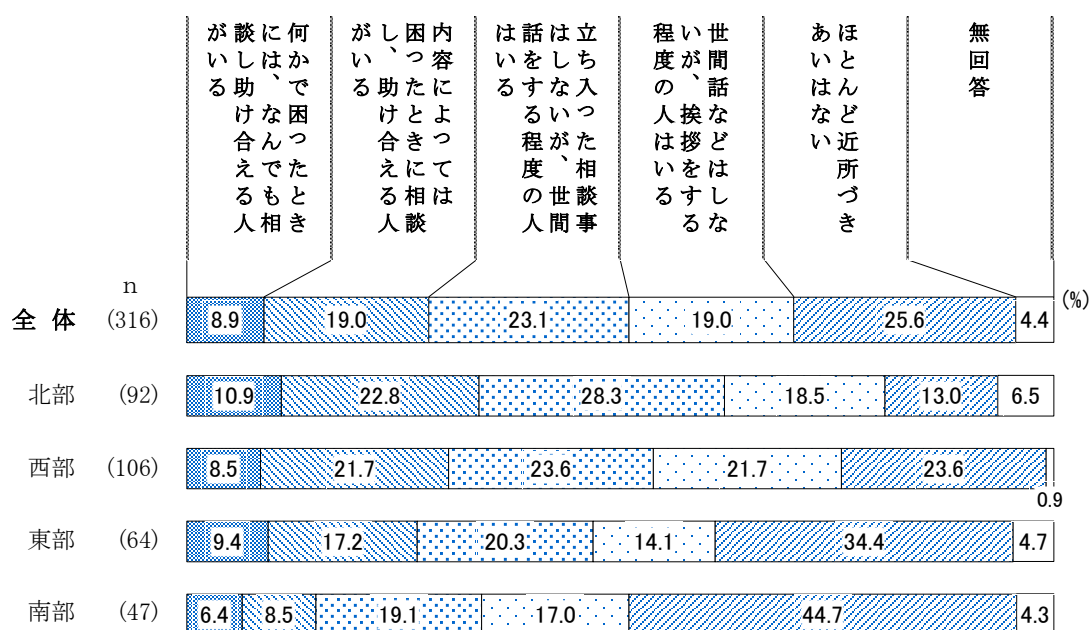
年齢別でみると、『20～29歳』では「ほとんど近所づきあいはない」が50.0%と多くなっている。『60～64歳』では「立ち入った相談事はしないが、世間話をする程度の人はいない」が34.2%と多くなっている。

【世帯構成別の近所づきあいの程度】



世帯構成別でみると、『ひとり暮らし』では「ほとんど近所づきあいはない」が58.7%と多くなっている。『子どもと親又は孫の三世帯同居』『子どもと同居（二世帯）』では「内容によっては困ったときに相談し、助け合える人がいる」が3割前後を占めている。

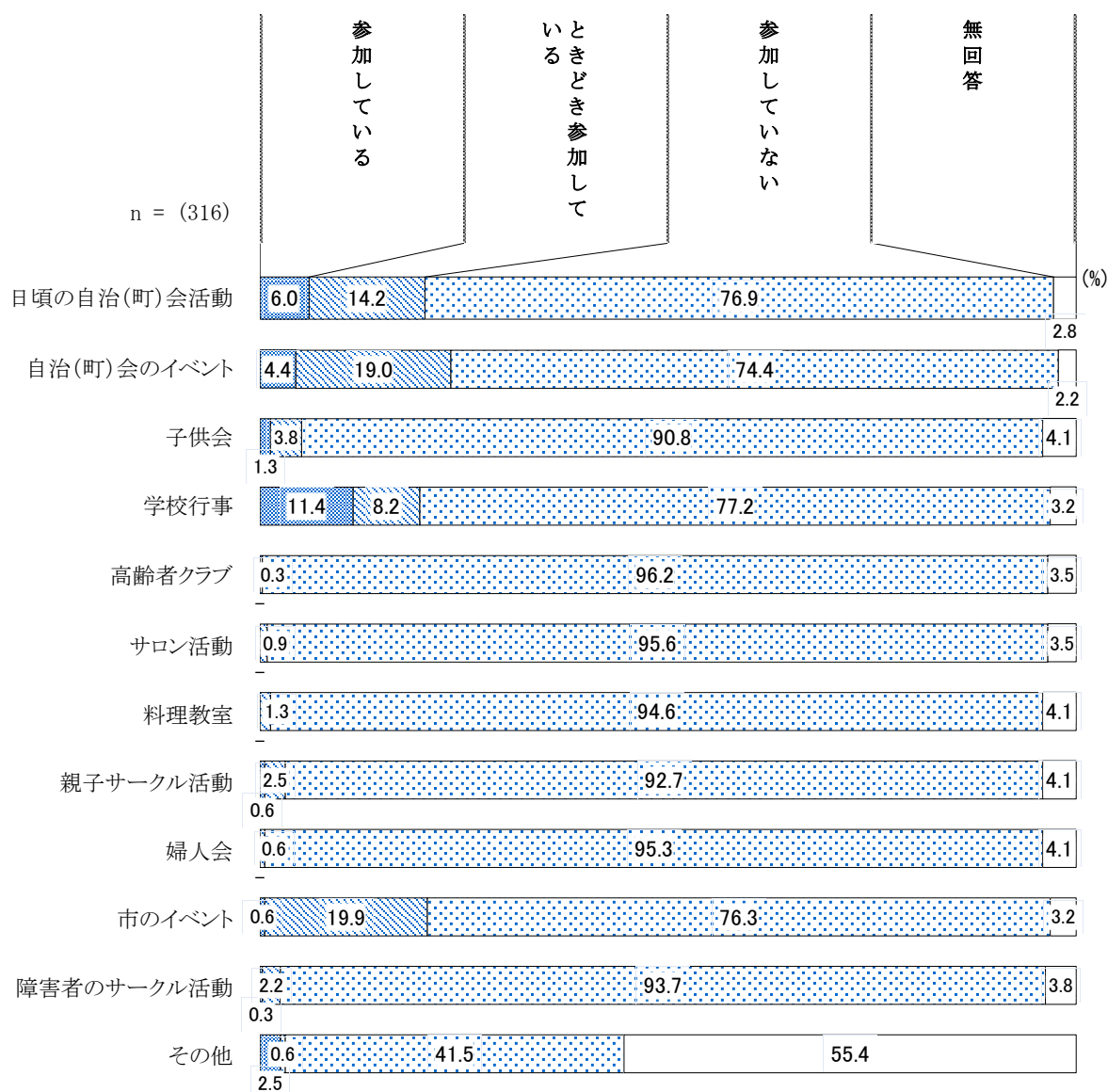
【居住地区別の近所づきあいの程度】



居住地区別でみると、『北部』では「立ち入った相談事はしないが、世間話をする程度の人はいる」が28.3%と多くなっている。一方、『南部』では「ほとんど近所づきあいはない」が44.7%と多くなっている。

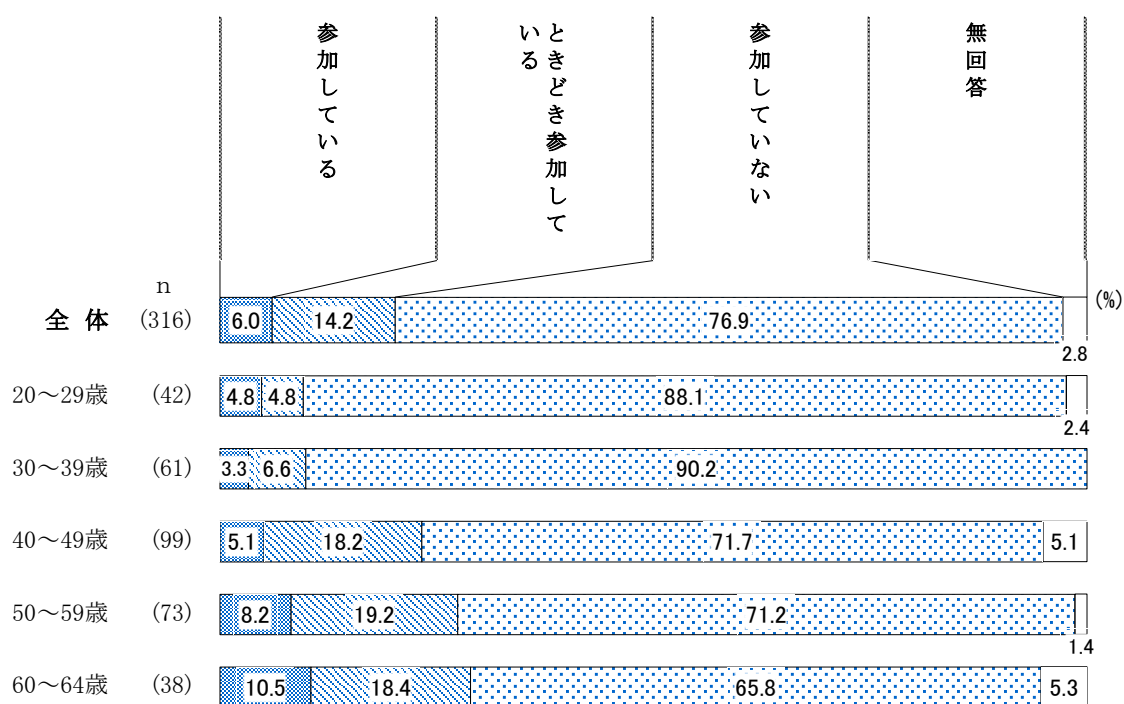
(2) 地域活動への参加状況

問14 あなたは、次の地域の活動にどの程度参加していますか。(○はそれぞれ1つずつ)



地域への参加状況を見ると、「参加している」「ときどき参加している」という回答が多い順にみると、『自治(町)会のイベント』が23.4%で最も多く、次いで『市のイベント』が20.5%、『日頃の自治(町)会活動』が20.2%、『学校行事』が19.6%の順で続いている。

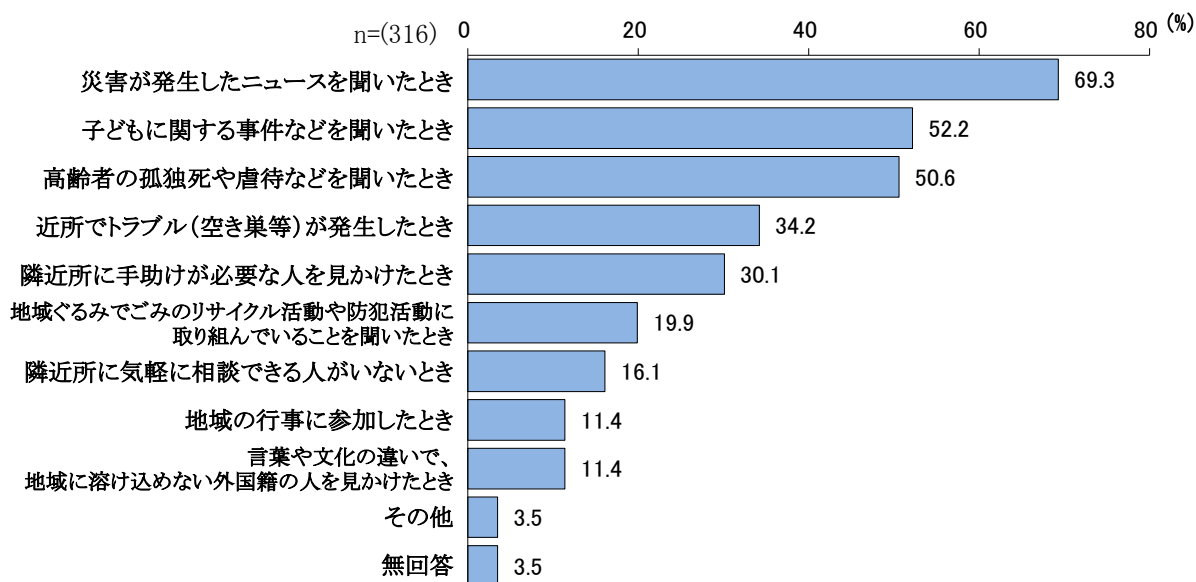
【年齢別の日頃の自治（町）会活動への参加状況】



年齢別でみると、『40～49歳』『50～59歳』『60～64歳』では「ときどき参加している」が2割近くを占めている。『20～29歳』『30～39歳』では「参加していない」が9割前後を占めている。

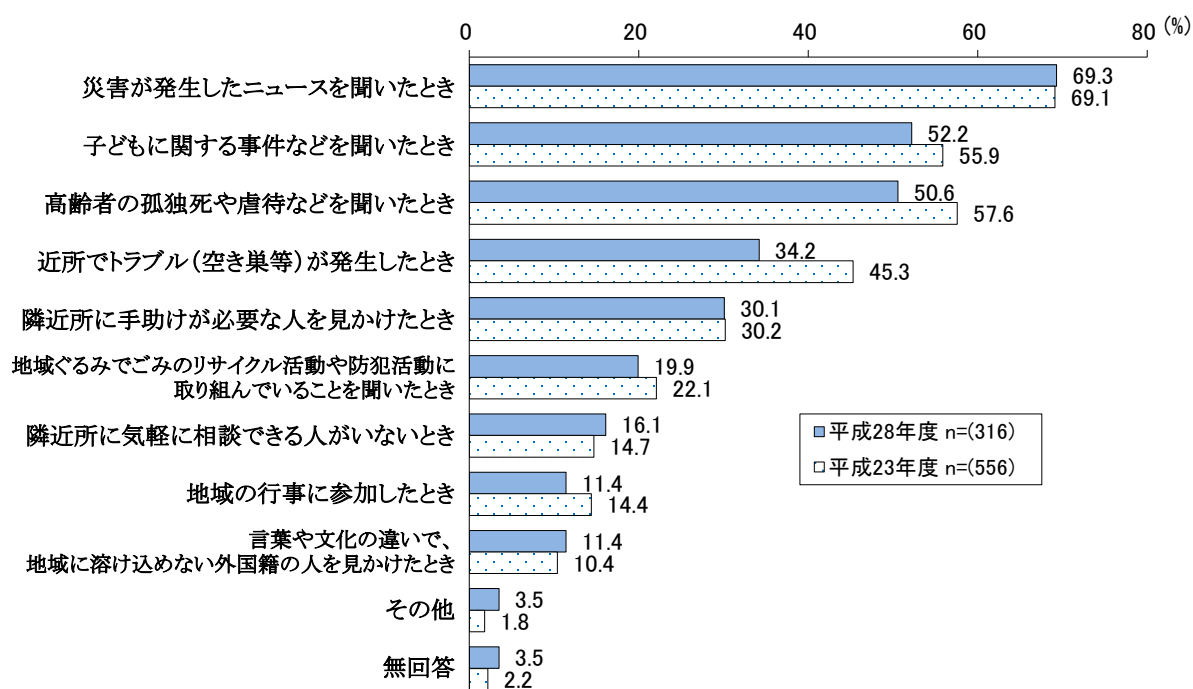
(3) 地域との関わりの必要性を感じたとき

問15 あなたは、どのようなときに地域との関わりの必要性を感じますか。(〇はあてはまるものすべて)



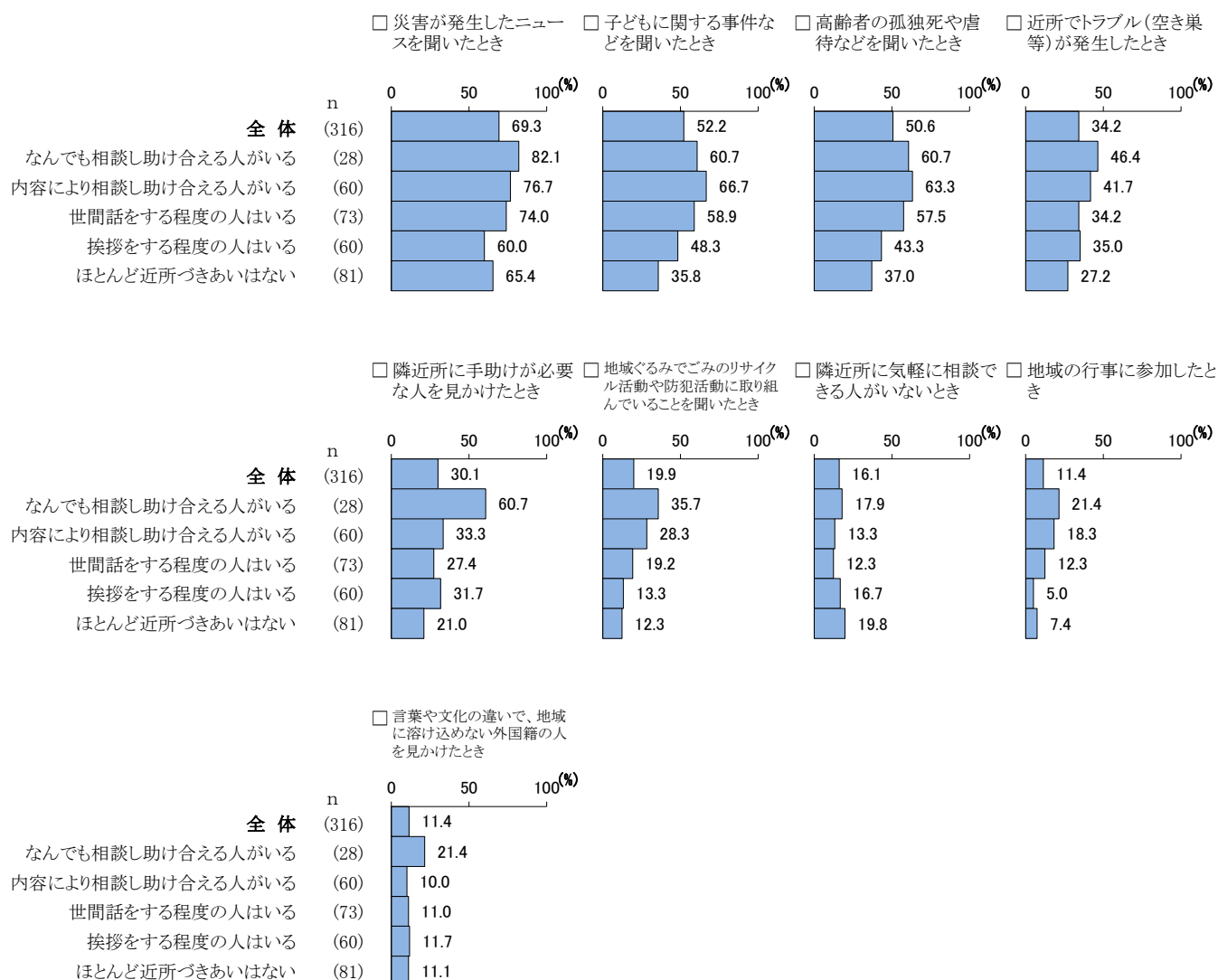
地域との関わりの必要性を感じたときについては、「災害が発生したニュースを聞いたとき」が69.3%で最も多く、次いで「子どもに関する事件などを聞いたとき」が52.2%、「高齢者の孤独死や虐待などを聞いたとき」が50.6%の順で続いている。

◀ 前回調査との比較 地域との関わりの必要性を感じたとき ▶



経年でみると、平成23年度の調査結果に比べて、「子どもに関する事件などを聞いたとき」「高齢者の孤独死や虐待などを聞いたとき」「近所でトラブル(空き巣等)が発生したとき」が減少している。

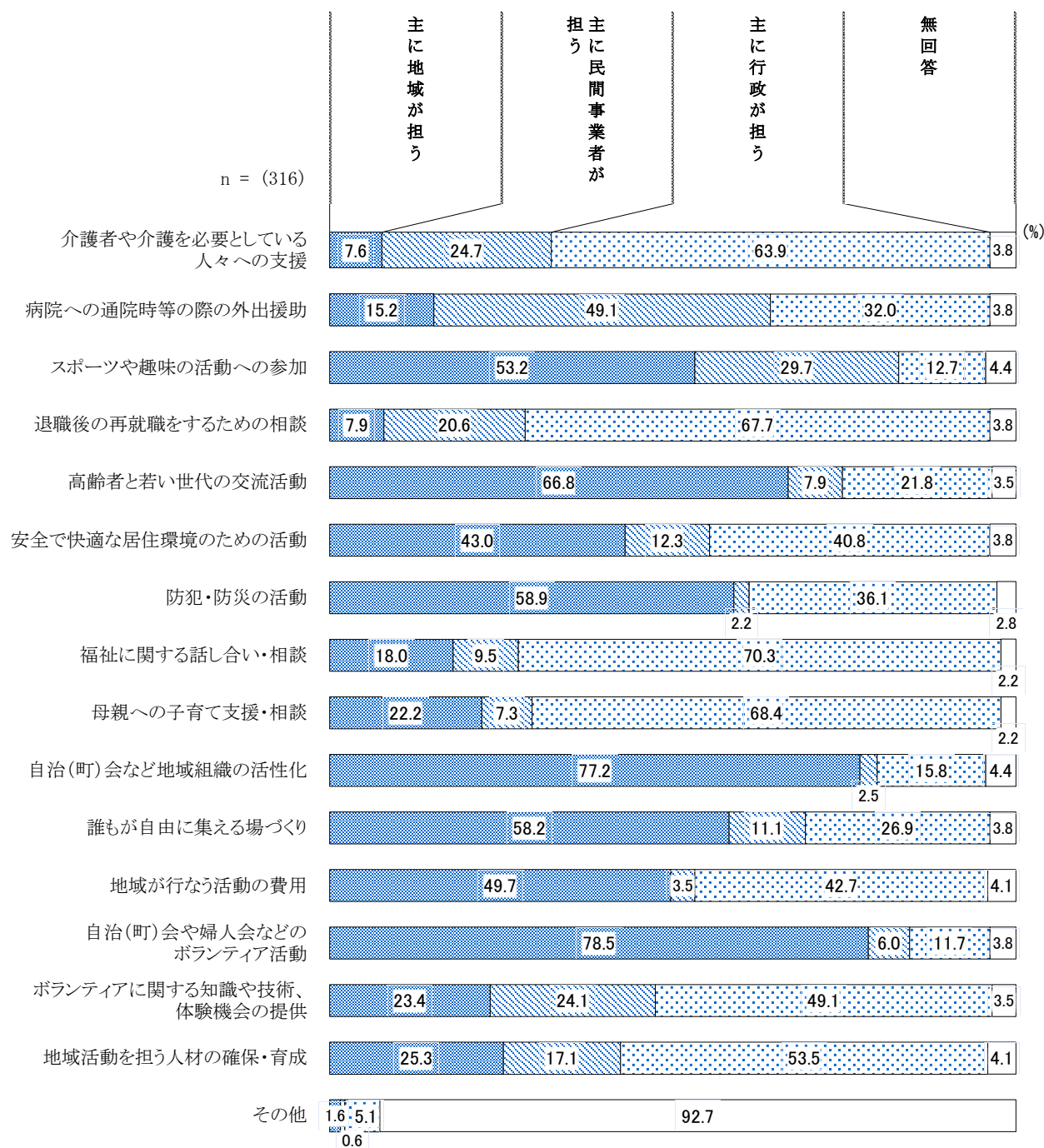
【近所づきあいの程度別の地域との関わり方の必要性を感じたとき】



近所づきあいの程度別でみると、『何かで困ったときには、なんでも相談し助け合える人がいる』では「災害が発生したニュースを聞いたとき」が82.1%と多くなっている。『何かで困ったときには、なんでも相談し助け合える人がいる』『内容によっては困ったとき相談し、助け合える人がいる』では「子どもに関する事件などを聞いたとき」「高齢者の孤独死や虐待などを聞いたとき」が6割を超えている。

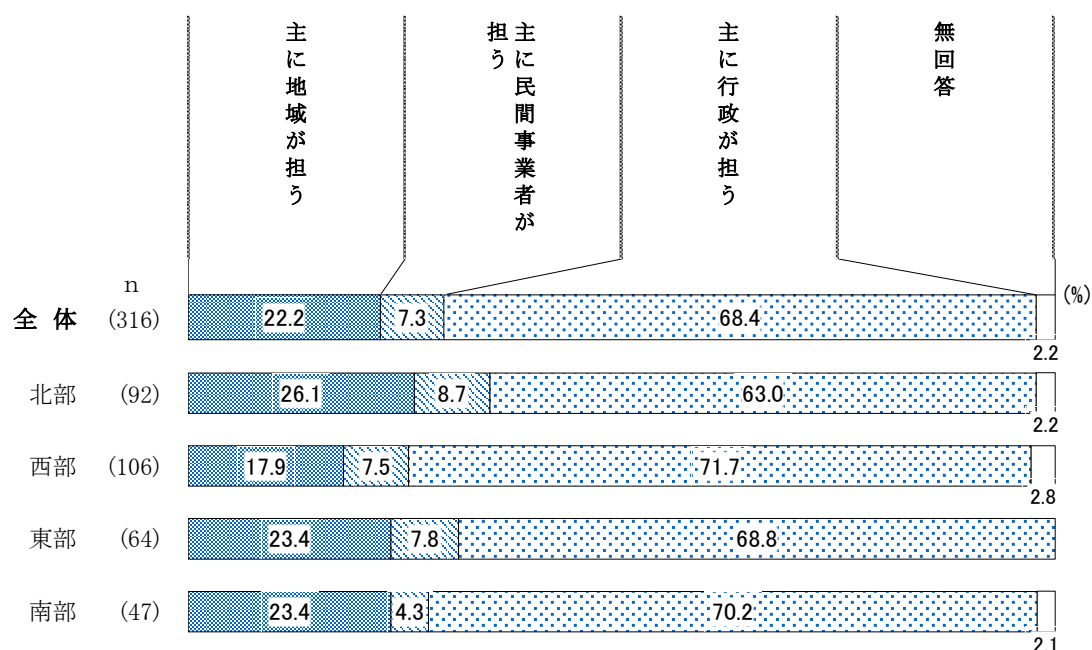
(4) 地域での人とのつきあいや関わりについての考え

問16 地域での人とのつきあいや関わりについて、あなたの考えに最も近いものはどれですか。(〇はそれぞれ1つずつ)



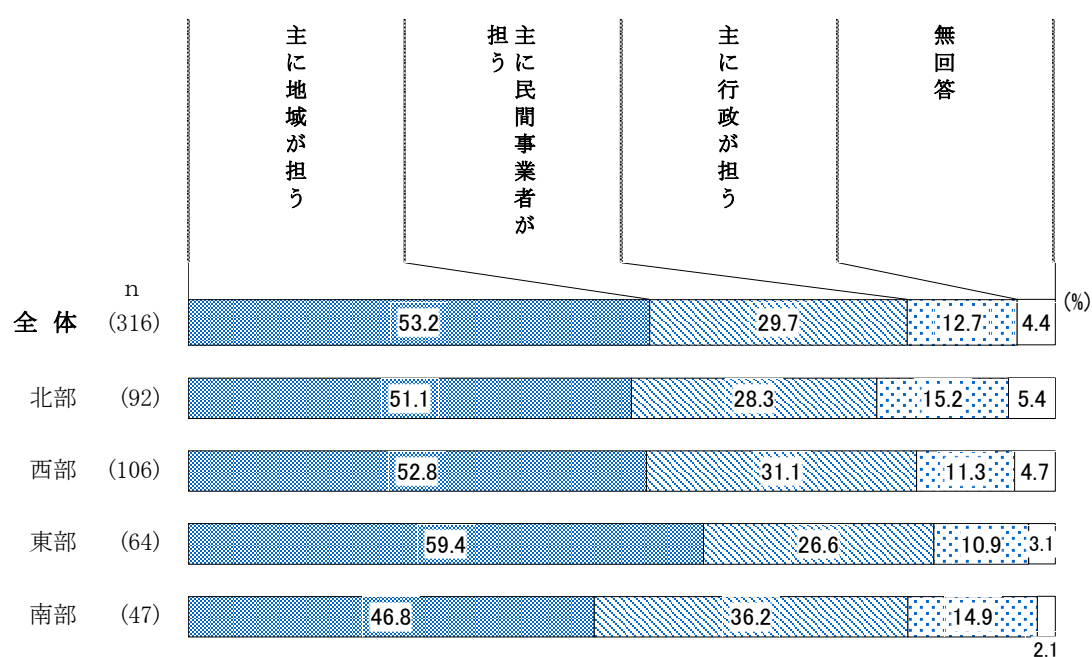
地域での人とのつきあいや関わりについての考えについてみると、「主に地域が担う」は、『自治(町)会や婦人会などのボランティア活動』が78.5%で最も多く、次いで『自治(町)会など地域組織の活性化』が77.2%、『高齢者と若い世代の交流活動』が66.8%、『防犯・防災の活動』が58.9%の順で続いている。一方、「主に行政が担う」は、『福祉に関する話し合い・相談』が70.3%で最も多く、次いで『母親への子育て支援・相談』が68.4%、『退職後の再就職をするための相談』が67.7%、『介護者や介護を必要としている人々への支援』が63.9%の順で続いている。

【居住地区別の母親への子育て支援・相談における、地域での人ときあいや関わりについての考え】



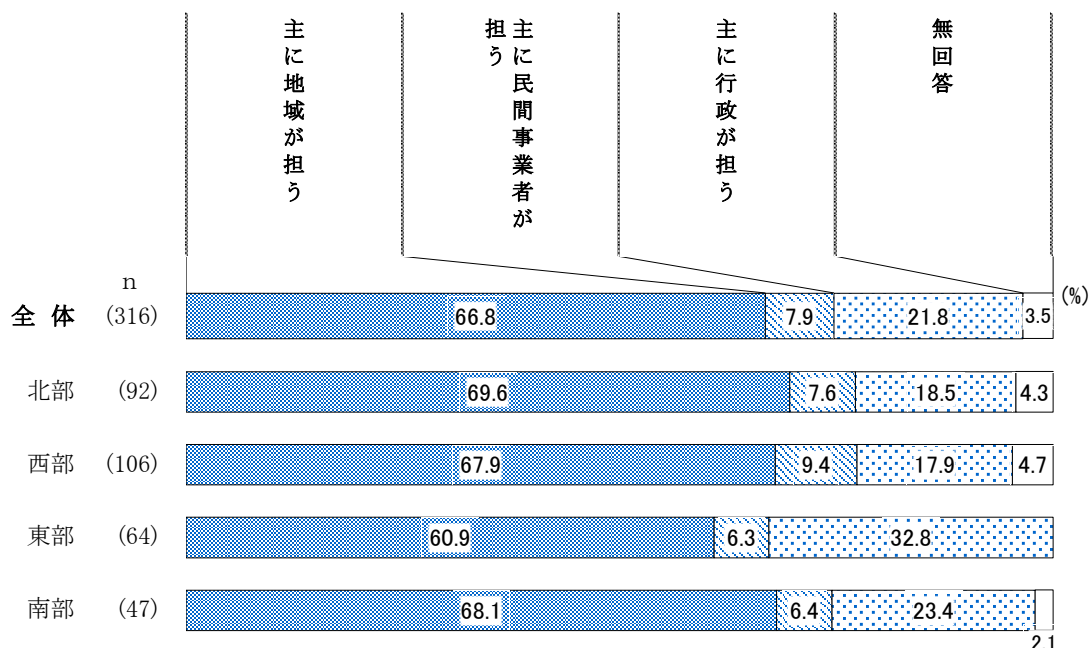
『母親への子育て支援・相談』についての考えを、居住地区別でみると、『西部』でのみ、「主に地域が担う」が2割を切っている。

【居住地区別のスポーツや趣味の活動への参加における、地域での人ときあいや関わりについての考え】



『スポーツや趣味の活動への参加』についての考えを、居住地区別でみると、『北部』『西部』『東部』では「主に地域が担う」が5割を超え、とくに『東部』では59.4%を占めている。

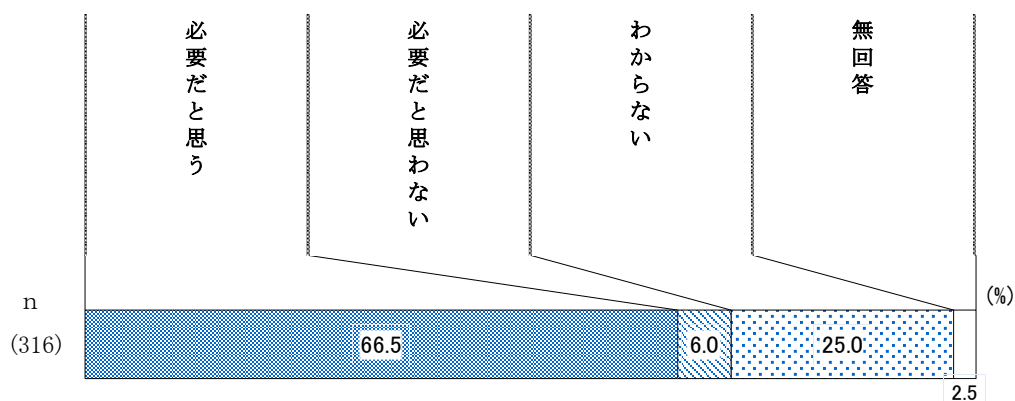
【居住地区別の高齢者と若い世代の交流活動における、地域での人ときあいや関わりについての考え】



『高齢者と若い世代の交流活動』についての考えを、居住地区別でみると、『北部』『西部』『南部』では「主に地域が担う」が、いずれも7割近くを占めている。

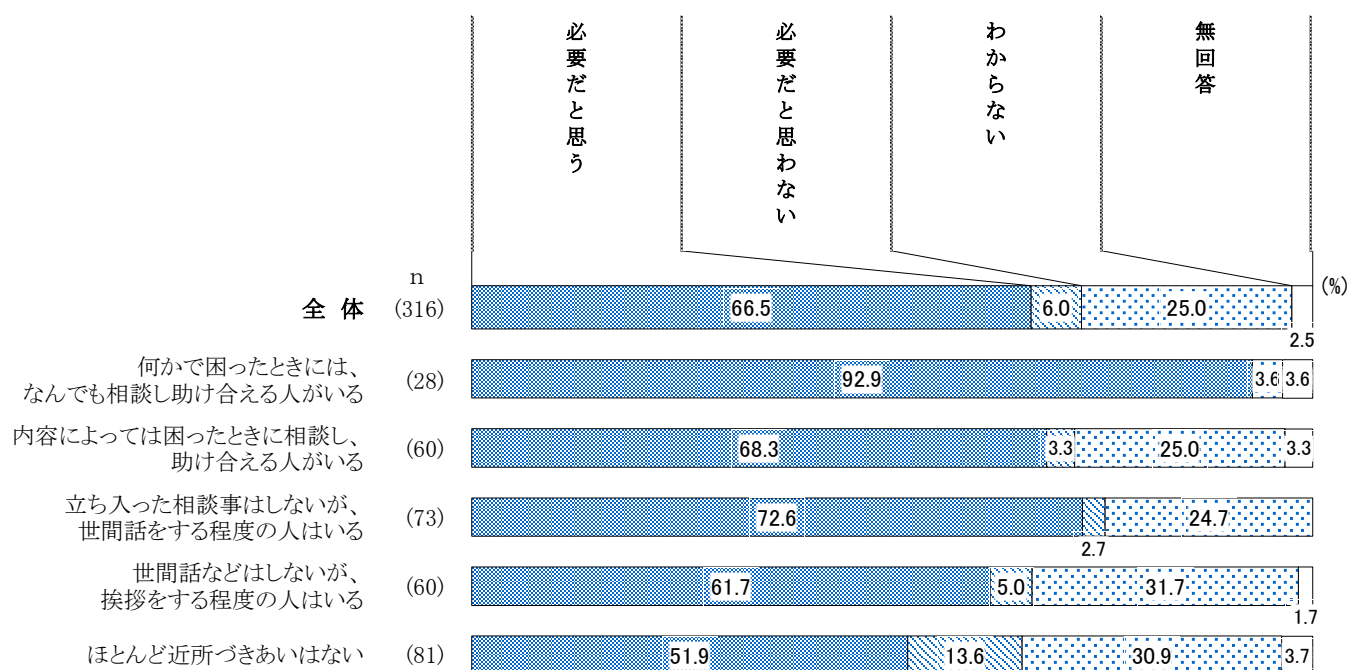
(5) 地域の生活課題についての住民同士の自主的な支え合いや助け合い

問17 地域で起こるさまざまな生活の課題について、住民同士が自主的に支え合ったり、助け合ったりすることは必要だと思いますか。(○は1つだけ)



地域の生活課題についての住民同士の自主的な支え合いや助け合いの必要性については、「必要だと思う」が66.5%を占めている。一方、「必要だと思わない」は6.0%となっている。

【近所づきあいの程度別の地域の生活課題についての住民同士の自主的な支え合いや助け合い】

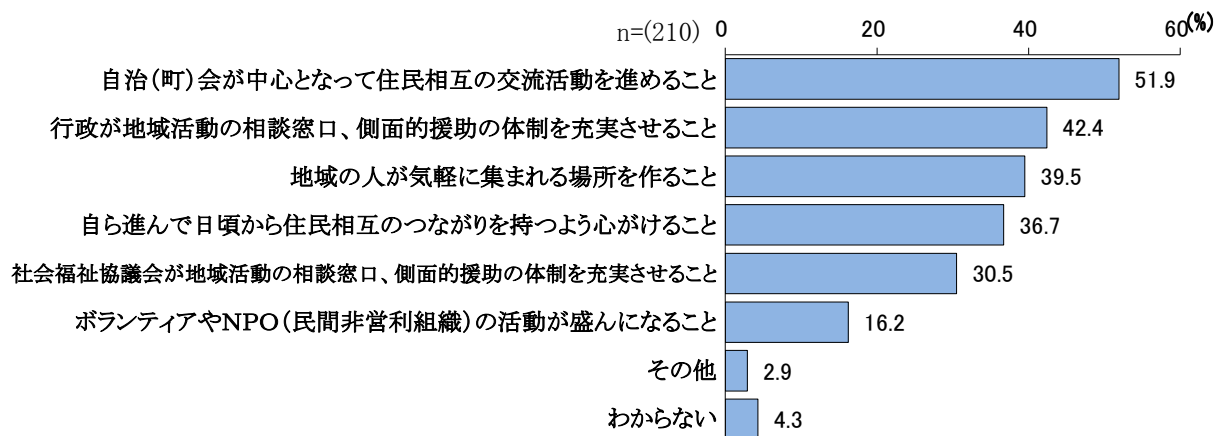


近所づきあいの程度別でみると、『何かで困ったときには、なんでも相談し助け合える人がいる』では「必要だと思う」が92.9%を占めている。

(6) 地域の生活課題についての住民同士の自主的な支え合いや助け合いに必要なこと

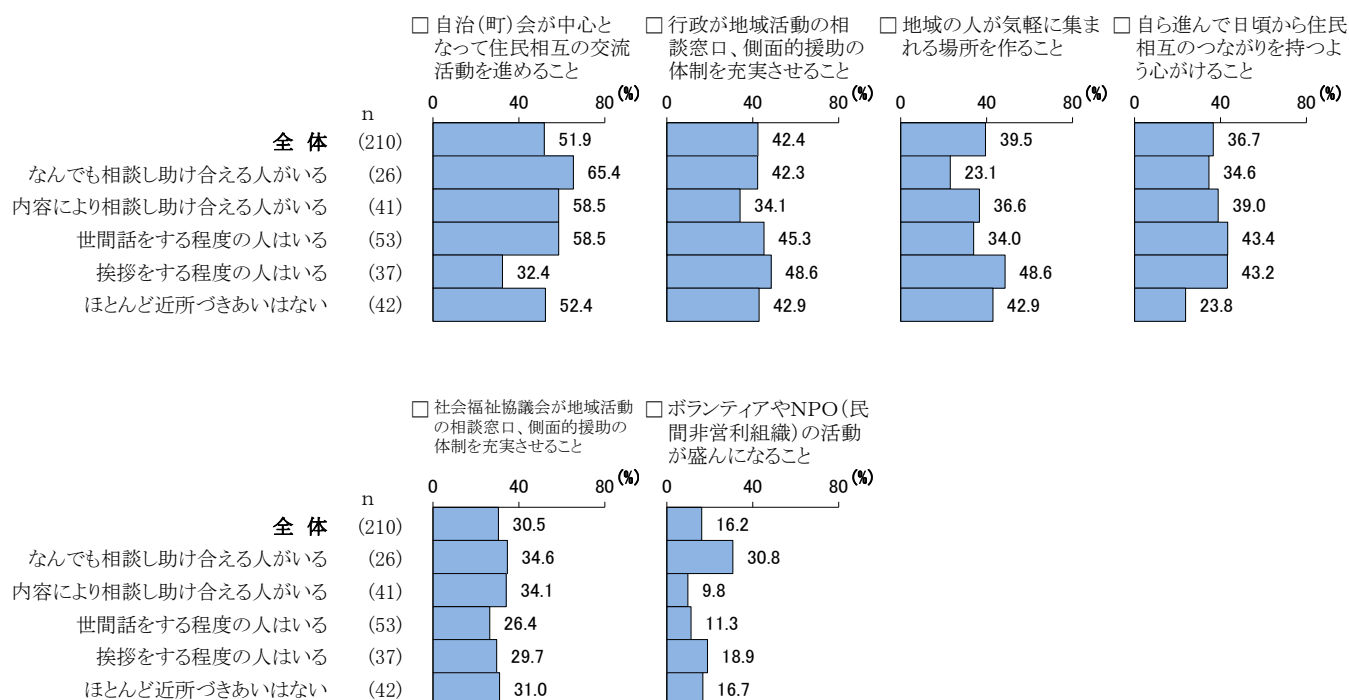
(必要だと思うと答えた方のみ)

問17-1 地域で起きるさまざまな生活の課題について、住民同士が自主的に支え合ったり、助け合ったりするためには、何が必要だと思いますか。(〇は3つまで)



地域の生活課題についての住民同士の自主的な支え合いや助け合いが「必要だと思う」という人に、そのために必要なことを聞いたところ、「自治(町)会が中心となって住民相互の交流活動を進めること」が51.9%で最も多く、次いで「行政が地域活動の相談窓口、側面的援助の体制を充実させること」が42.4%、「地域の人が気軽に集まれる場所を作ること」が39.5%、「自ら進んで日頃から住民相互のつながりを持つよう心がけること」が36.7%の順で続いている。

【近所づきあいの程度別の地域の生活課題についての住民同士の自主的な支え合いや助け合いに必要なこと】

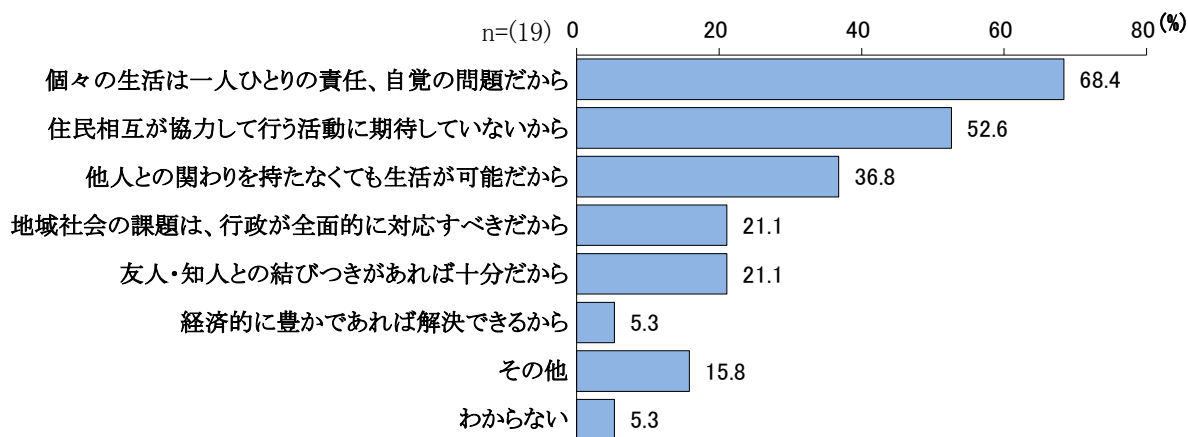


近所づきあいの程度別でみると、『何かで困ったときには、なんでも相談し助け合える人がいる』では「自治(町)会が中心となって住民相互の交流活動を進めること」が65.4%と多くなっている。『何かで困ったときには、なんでも相談し助け合える人がいる』『立ち入った相談事はしないが、世間話をする程度の人はい』『世間話などはしないが、挨拶する程度の人はい』『ほとんど近所づきあいはない』では「行政が地域活動の相談窓口、側面的援助の体制を充実させること」が、いずれも4割を超えている。

(7) 住民同士の自主的な支え合いや助け合いが必要がないと思う理由

(必要だと思わないと答えた方のみ)

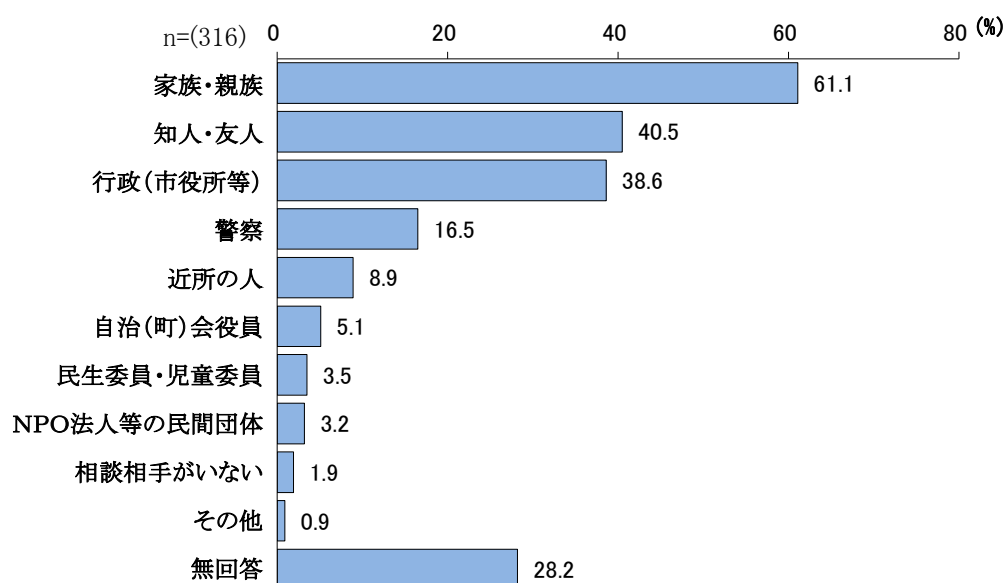
問17-2 住民同士が自主的に支え合ったり、助け合ったりする必要がないと思うのはなぜですか。(〇は3つまで)



地域の生活課題についての住民同士の自主的な支え合いや助け合いが「必要だと思わない」という人に、その理由を聞いたところ、「個々の生活は一人ひとりの責任、自覚の問題だから」が68.4%で最も多く、次いで「住民相互が協力して行う活動に期待していないから」が52.6%、「他人との関わりを持たなくても生活が可能だから」が36.8%の順で続いている。

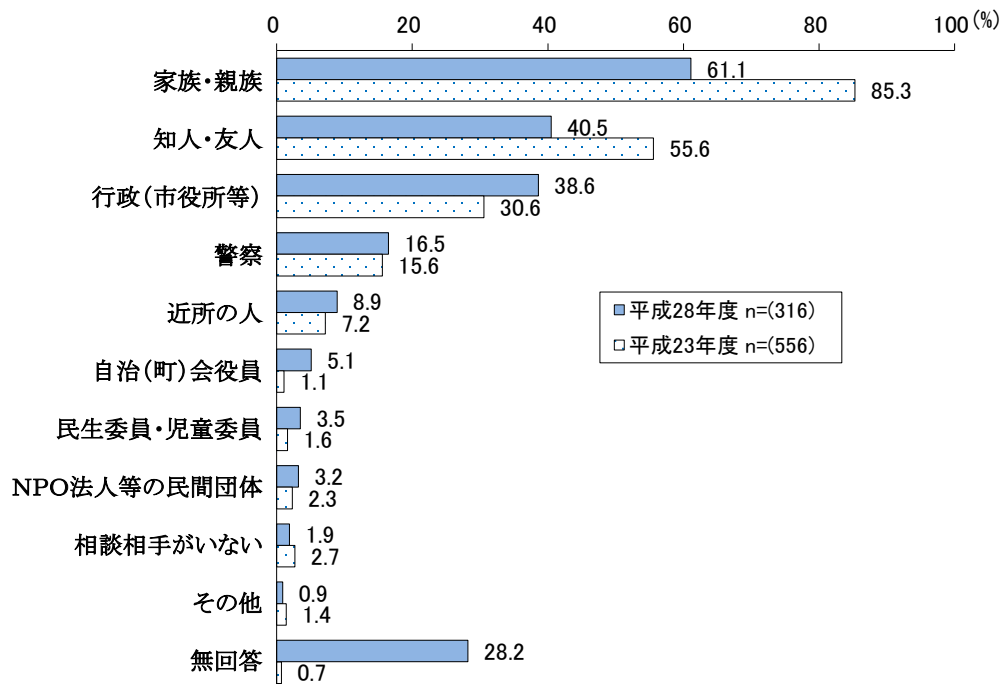
(8) 生活上の問題で相談したいときの相談相手

問18 あなたが生活上の問題で相談したいときに、どなたに相談したいですか。(〇はあてはまるものすべて)



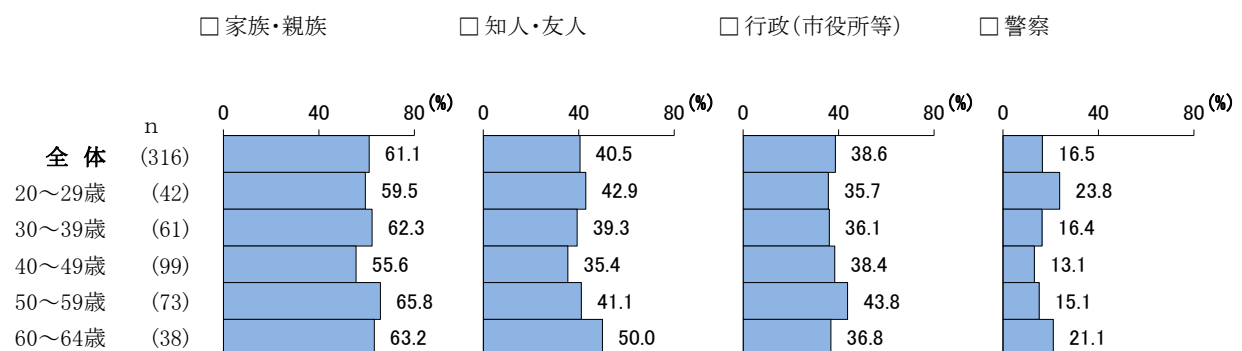
生活上の問題で相談したいときの相談相手をみると、「家族・親族」が61.1%で最も多く、次いで「知人・友人」が40.5%、「行政(市役所等)」が38.6%の順で続いている。

《 前回調査との比較 生活上の問題で相談したいときの相談相手 》



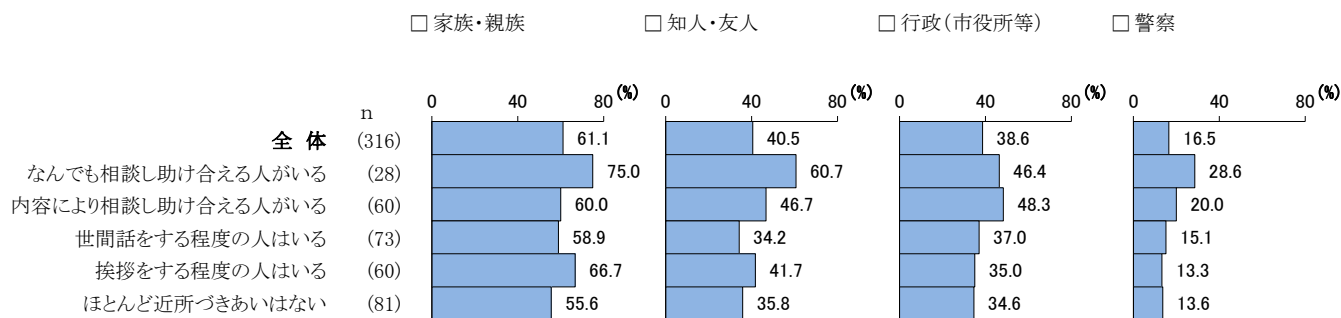
経年でみると、平成23年度の調査結果と比べて、「家族・親族」「知人・友人」が大きく減少している。また、「行政（市役所等）」では増加している。

【年齢別の生活上の問題で相談したいときの相談相手（上位4項目）】



年齢別でみると、『60～64歳』では「知人・友人」が50.0%と多くなっている。

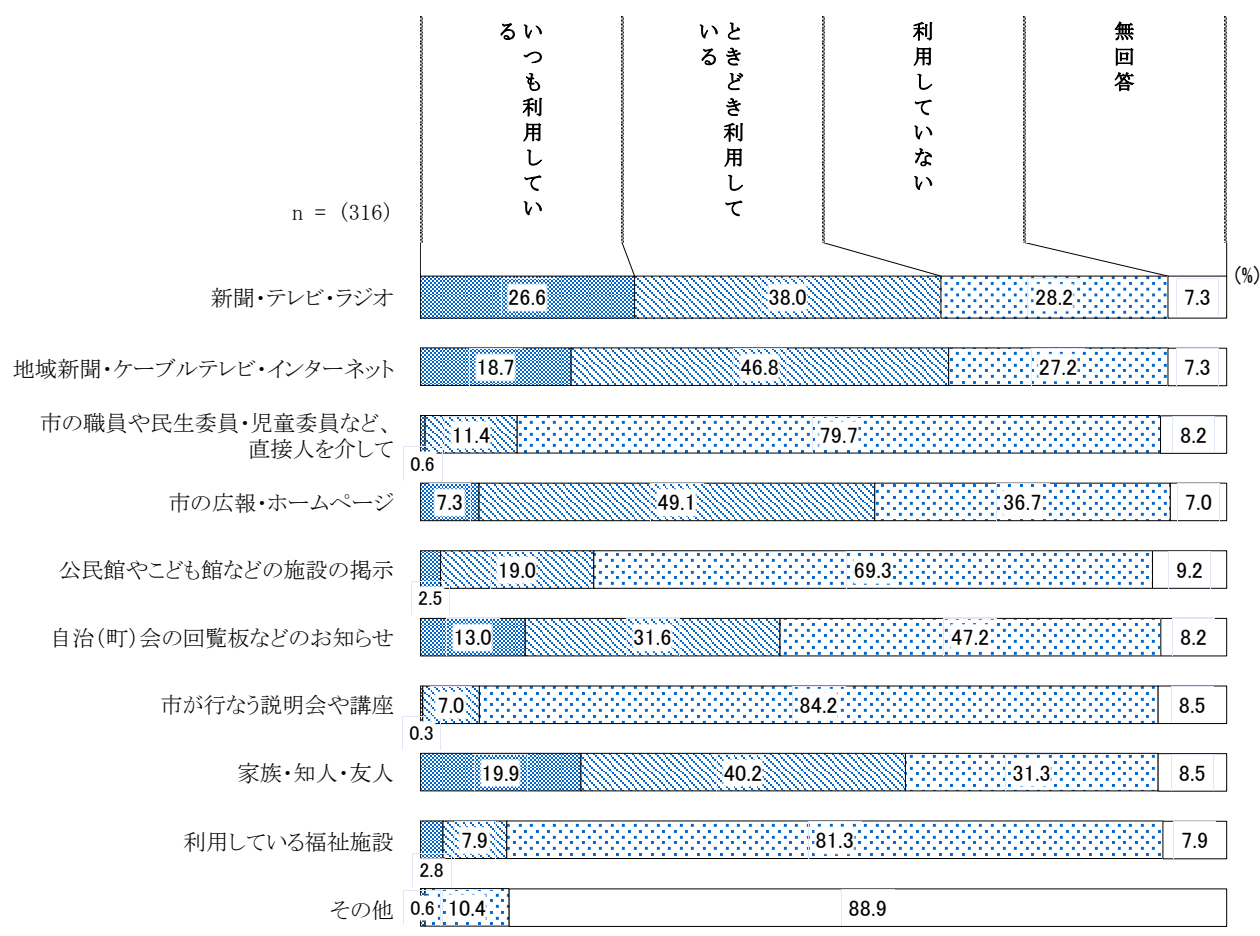
【近所づきあいの程度別の生活上の問題で相談したいときの相談相手】



近所づきあいの程度別でみると、『何かで困ったときには、なんでも相談し助け合える人がある』では「家族・親族」「知人・友人」が多くなっている。

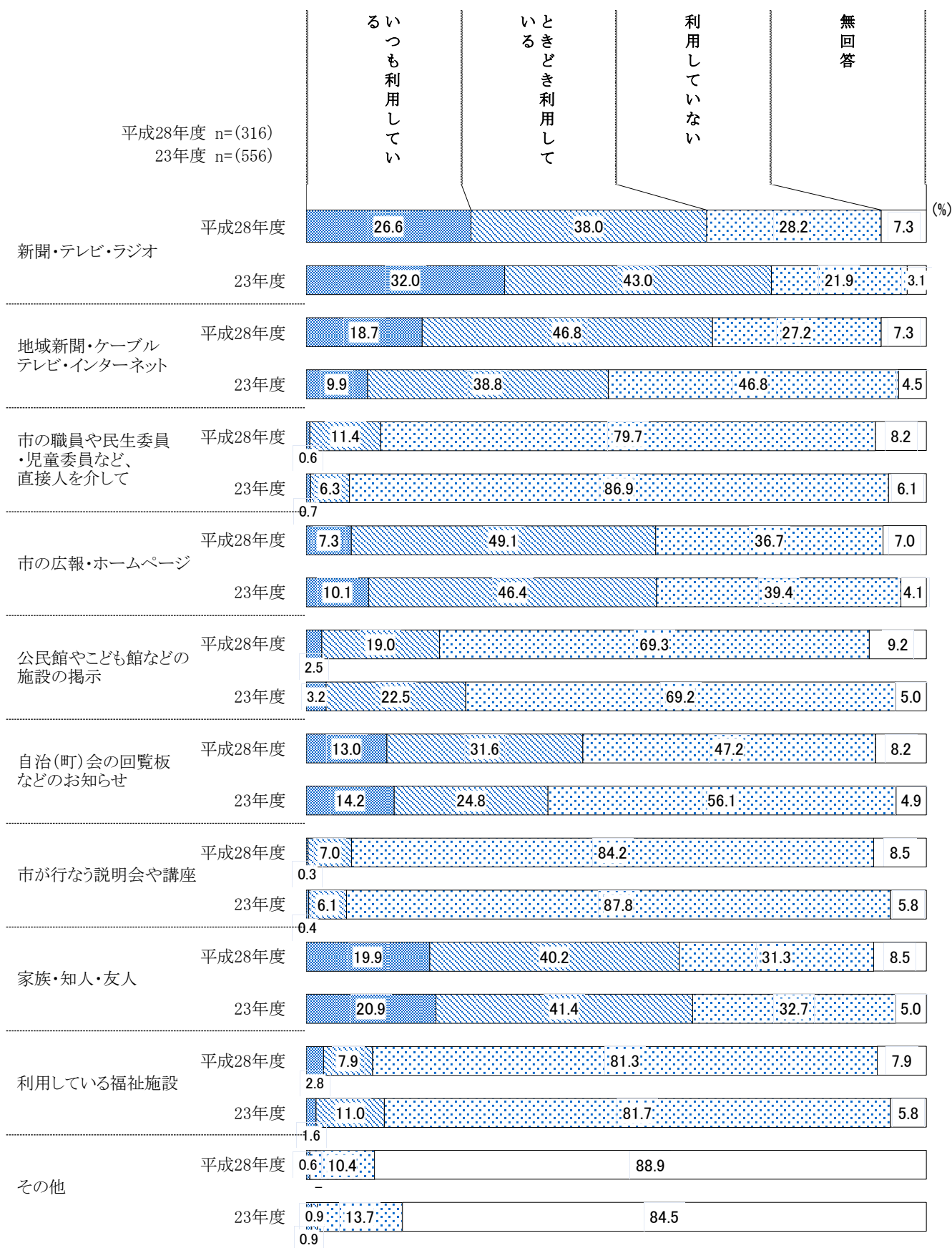
(9) 福祉に関する情報の入手方法

問19 あなたは、福祉に関する情報などをどのような方法で入手していますか。(〇はそれぞれ1つずつ)



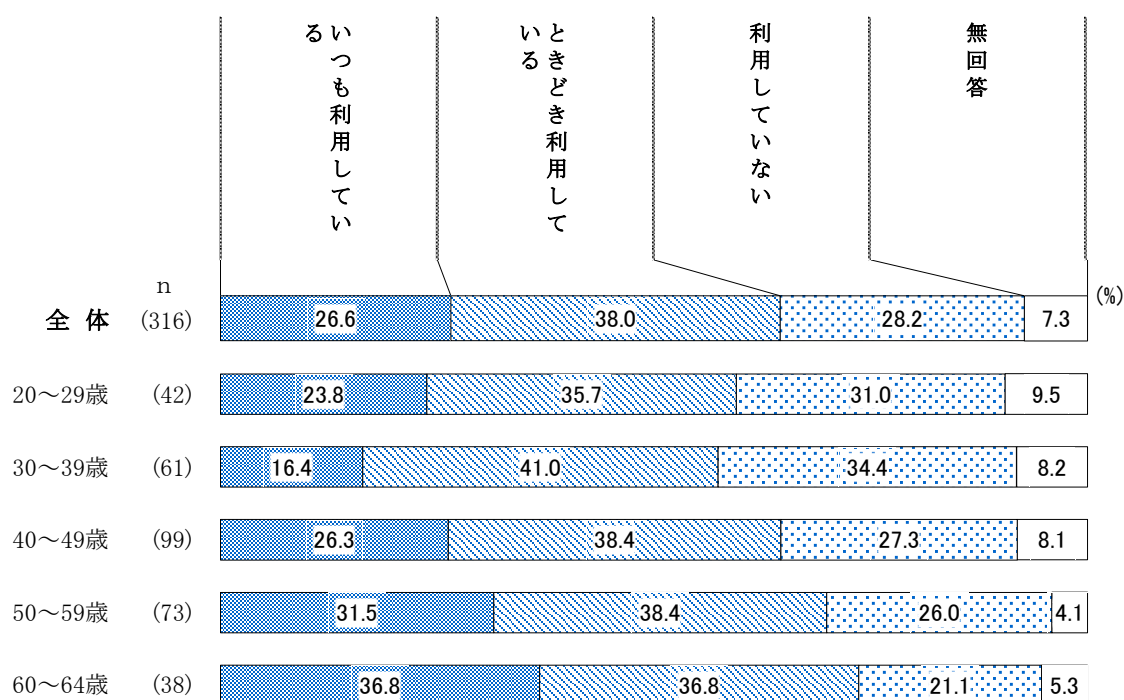
福祉に関する情報の入手方法をみると、「いつも利用している」「ときどき利用している」と回答した人は、『地域新聞・ケーブルテレビ・インターネット』が65.5%で最も多く、次いで『新聞・テレビ・ラジオ』が64.6%、『家族・知人・友人』が60.1%、『市の広報・ホームページ』が56.4%の順で続いている。

《 前回調査との比較 福祉に関する情報の入手方法 》



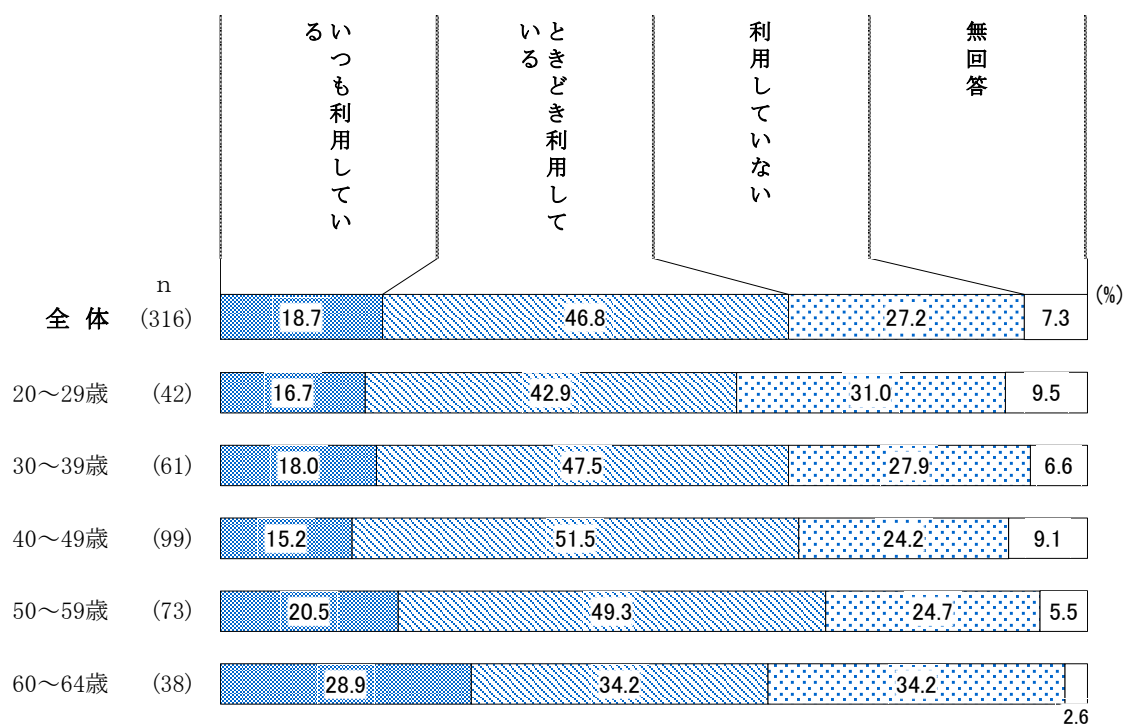
経年でみると、平成23年度の調査結果と比べて、『地域新聞・ケーブルテレビ・インターネット』が増加している。

【年齢別の新聞・テレビ・ラジオによる福祉に関する情報の入手】



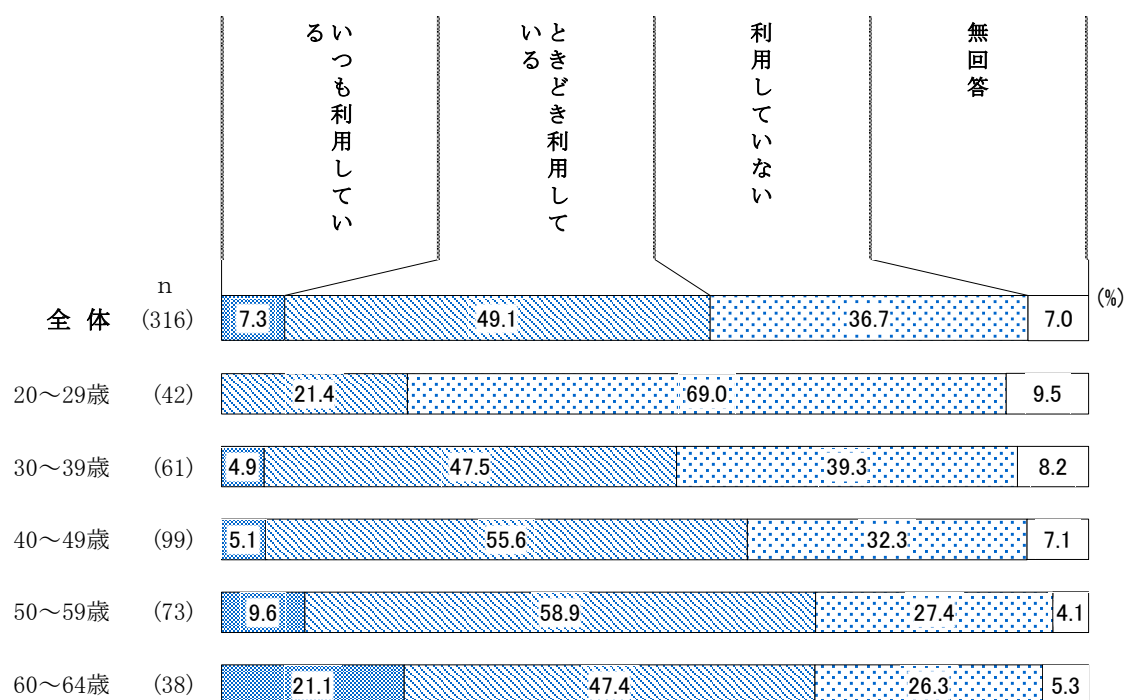
『新聞・テレビ・ラジオ』について、年齢別でみると、『50～59歳』『60～64歳』では「いつも利用している」が3割を超えている。

【年齢別の地域新聞・ケーブルテレビ・インターネットによる福祉に関する情報の入手】



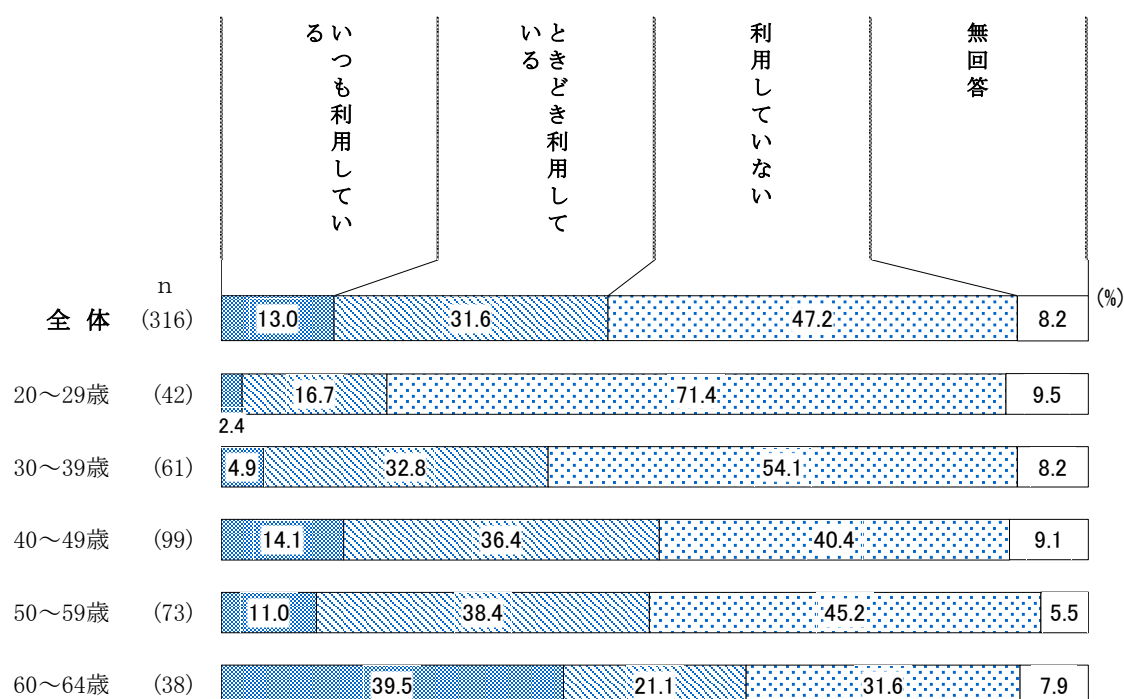
『地域新聞・ケーブルテレビ・インターネット』について、年齢別でみると、『30～39歳』『40～49歳』『50～59歳』では「ときどき利用している」が5割前後と多くなっている。

【年齢別の市の広報・ホームページによる福祉に関する情報の入手】



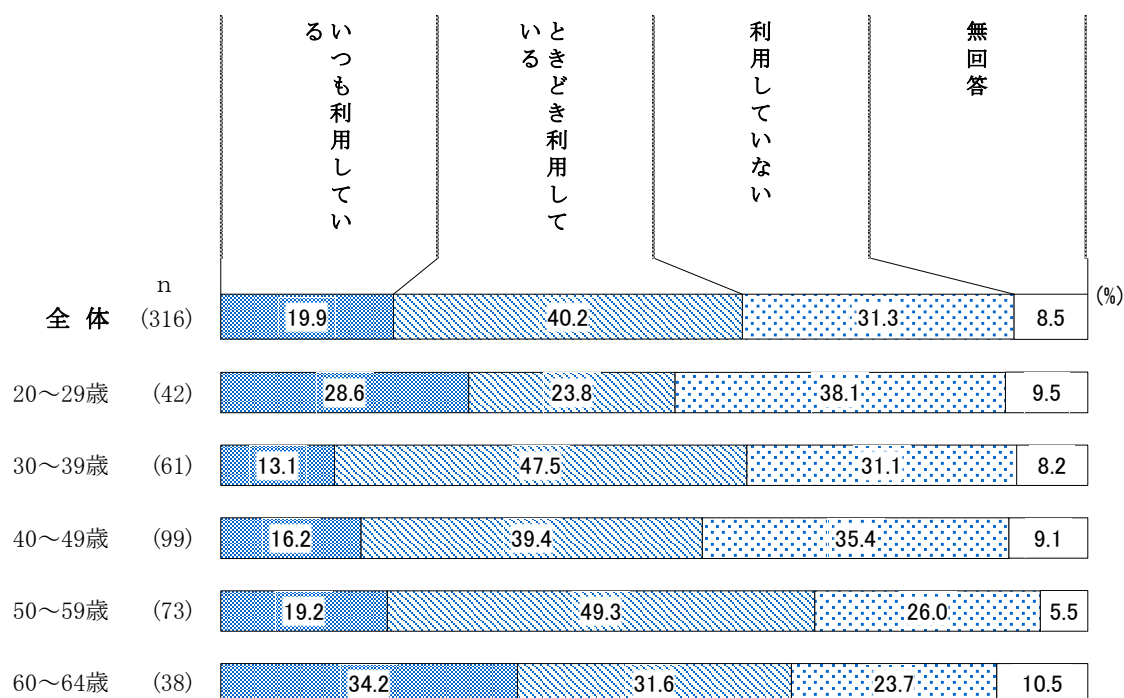
『市の広報・ホームページ』について、年齢別でみると、『40～49歳』『50～59歳』では「ときどき利用している」が5割台半ばを超えている。

【年齢別の自治（町）会の回覧板などのお知らせによる福祉に関する情報の入手】



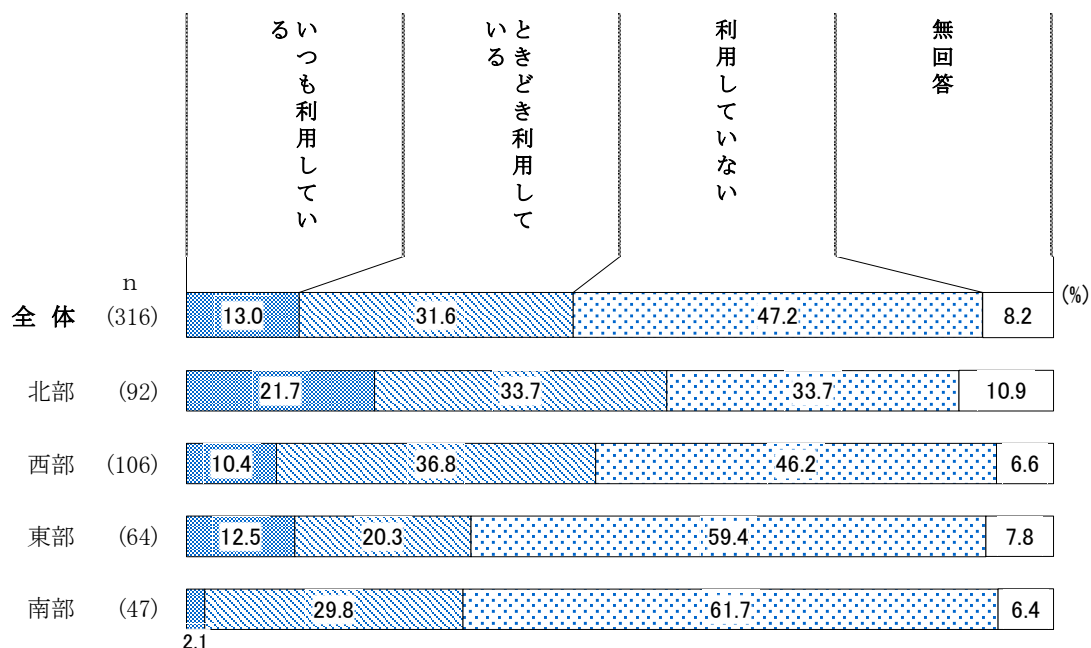
『自治（町）会の回覧板などのお知らせ』について、年齢別でみると、『30～39歳』『40～49歳』『50～59歳』では「ときどき利用している」が3割を超えている。

【年齢別の家族・知人・友人による福祉に関する情報の入手】



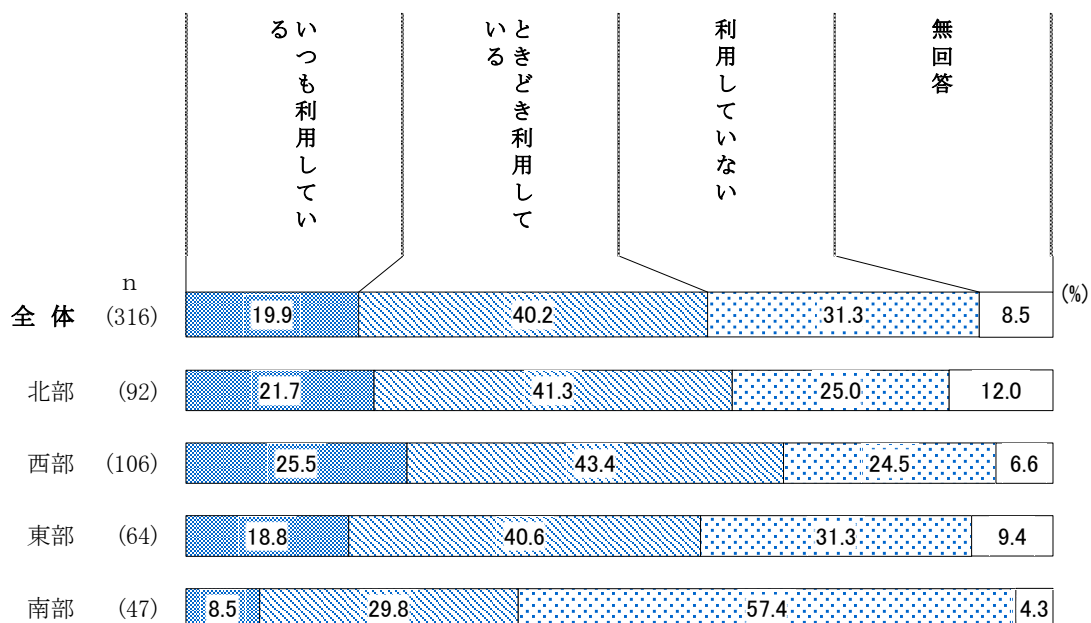
『家族・知人・友人』について、年齢別でみると、『30～39歳』『50～59歳』では「ときどき利用している」が5割近くを占めている。

【居住地区別の自治（町）会の回覧板などのお知らせによる福祉に関する情報の入手】



『自治（町）会の回覧板などのお知らせ』について、居住地区別でみると、『北部』では「いつも利用している」が21.7%と多くなっている、一方、『東部』『南部』では「利用していない」が6割前後を占めている。

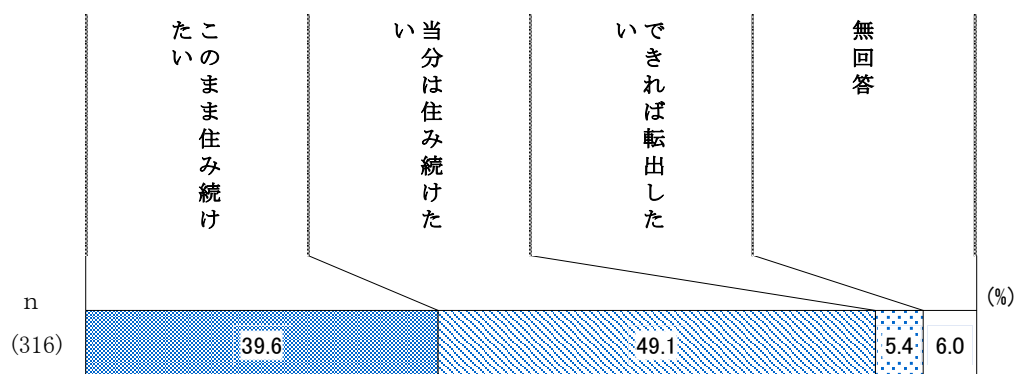
【居住地区別の家族・知人・友人による福祉に関する情報の入手】



『家族・知人・友人』について、居住地区別でみると、『西部』では「いつも利用している」が25.5%と多くなっている。

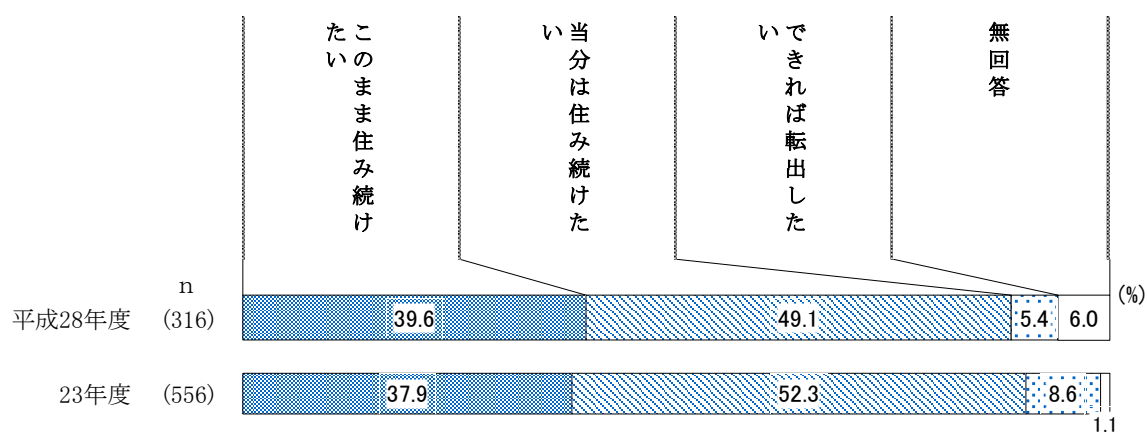
(10) 定住意向

問20 あなたは、これからも市川市に住み続けたいと思いますか。(○は1つだけ)



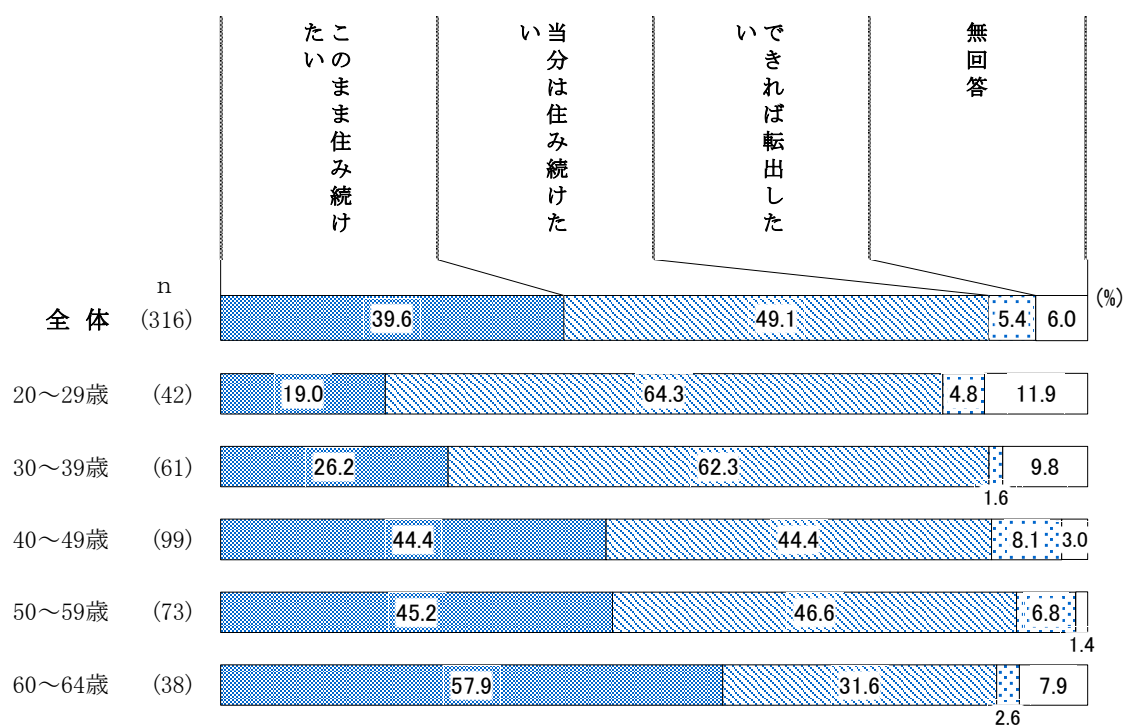
定住意向をみると、「当分は住み続けたい」が49.1%で最も多く、次いで「このまま住み続けたい」が39.6%となっている。一方、「できれば転出したい」は5.4%となっている。

◀ 前回調査との比較 定住意向 ▶



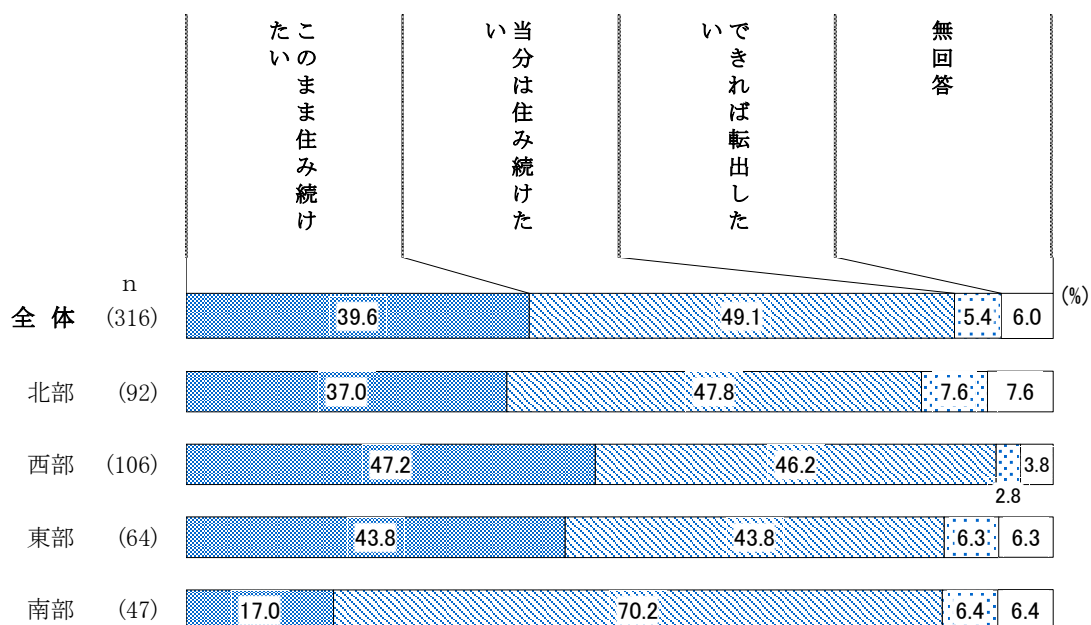
経年でみると、平成23年度の調査結果と比べて、大きな変化はみられない。

【年齢別の定住意向】



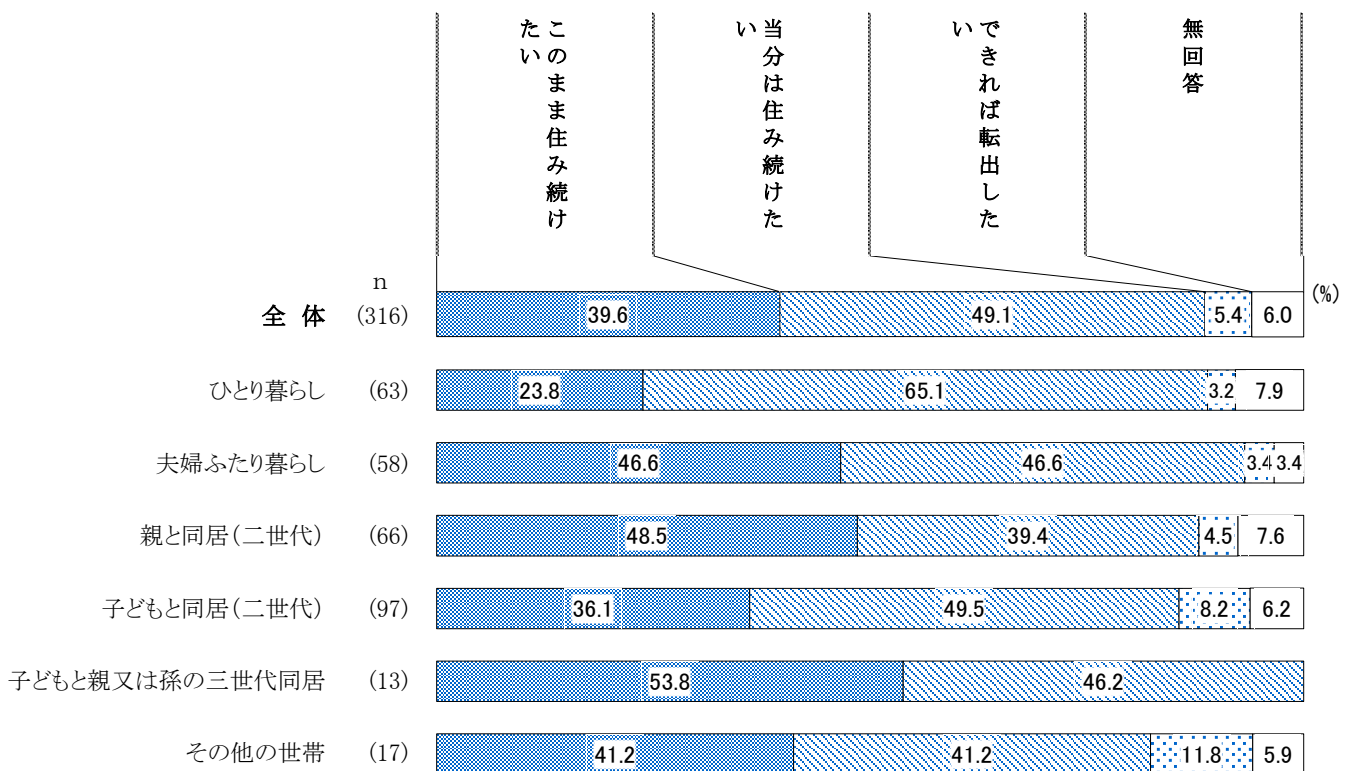
年齢別でみると、『20～29歳』『30～39歳』では「当分は住み続けたい」が6割を超えている。『60～64歳』では「このまま住み続けたい」が57.9%と、6割近くを占めている。

【居住地区別の定住意向】



居住地区別でみると、『西部』『東部』では「このまま住み続けたい」が、それぞれ47.2%、43.8%と多くなっている。

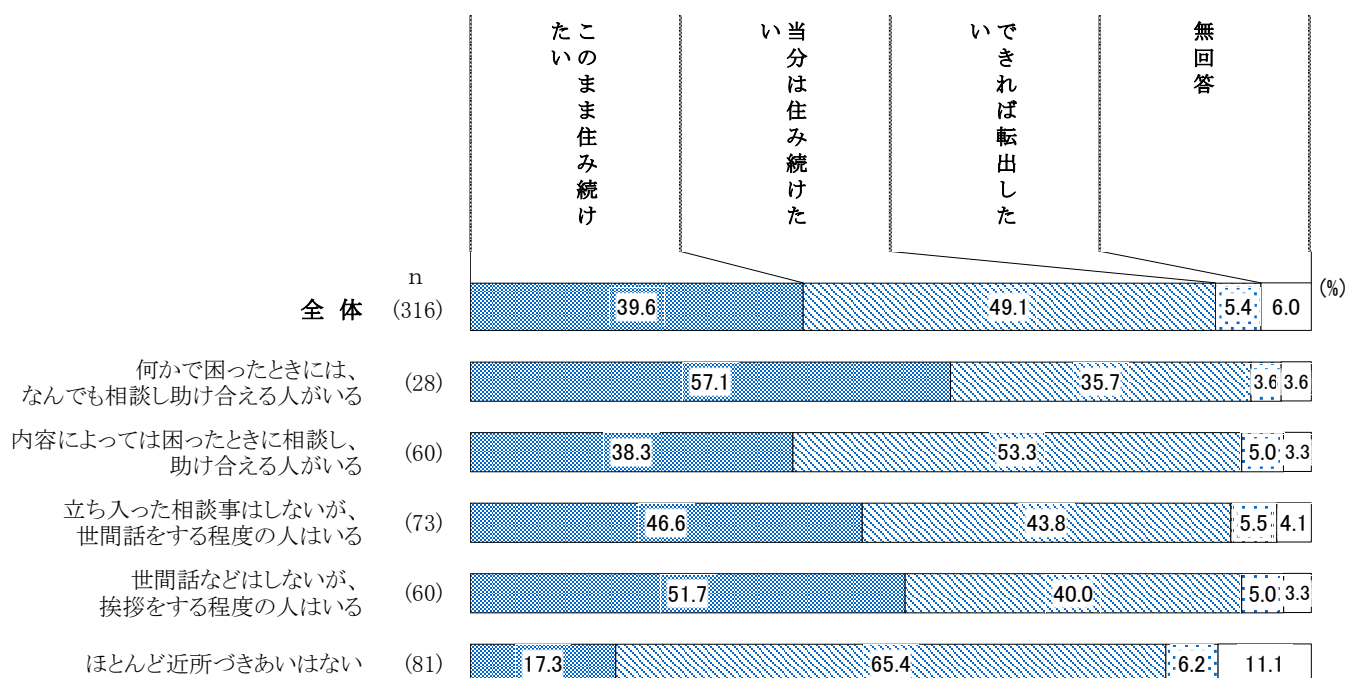
【世帯構成別の定住意向】



世帯構成別でみると、『ひとり暮らし』では「当分は住み続けたい」が65.1%と多くなっている。

※ 回答者数の少ないものについては、分析ではふれていない。

【近所づきあいの程度別の定住意向】

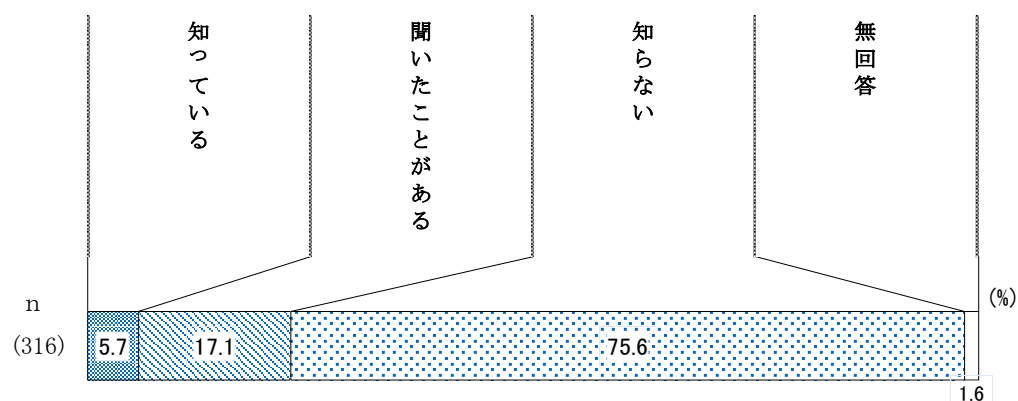


近所づきあいの程度別でみると、『何かで困ったときには、なんでも相談し助け合える人がある』『世間話などはしないが、挨拶をする程度の人がある』では「このまま住み続けたい」が5割を超えている。『ほとんど近所づきあいはない』では「当分は住み続けたい」が65.4%と多くなっている。

3. 支え合いの地域づくり（地域ケアシステム）

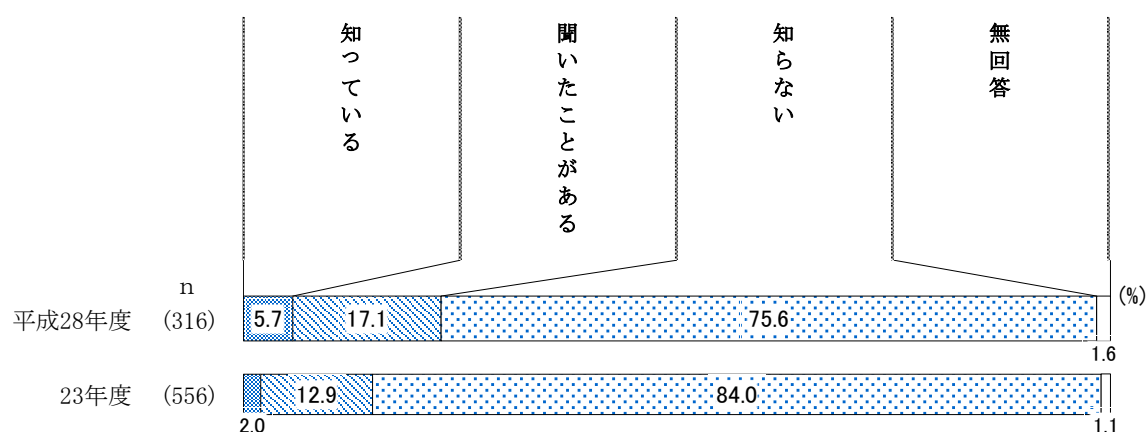
（1）地域ケアシステムの認知度

問21 市川市では、安心して暮らし続けられる地域社会をつくるために、支え合いの地域づくり（地域ケアシステム）の取り組みを進めています。あなたは、そのことをご存知ですか。（○は1つだけ）



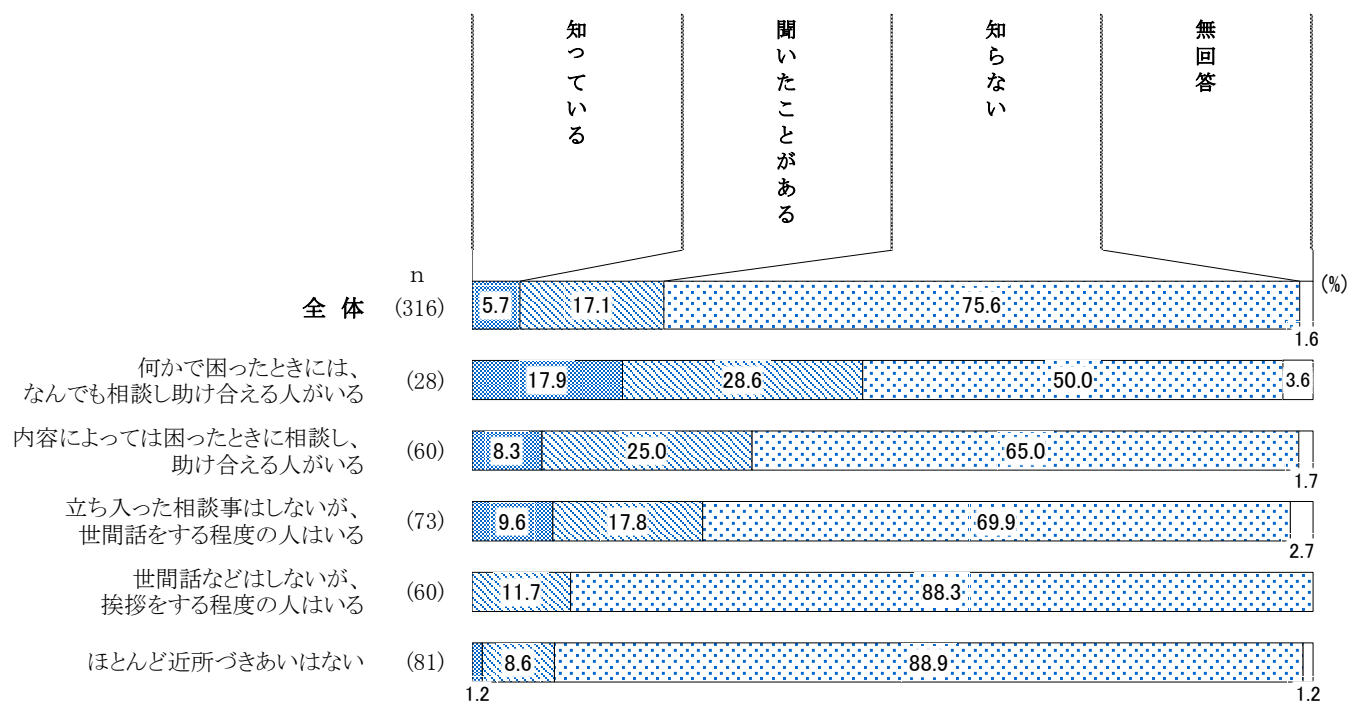
地域ケアシステムの認知状況を見ると、「知っている」が5.7%、「聞いたことがある」が17.1%となっている。一方、「知らない」は75.6%を占めている。

◀ 前回調査との比較 地域ケアシステムの認知度 ▶



経年でみると、平成23年度の調査結果と比べて、「知っている」「聞いたことがある」とも増加している。

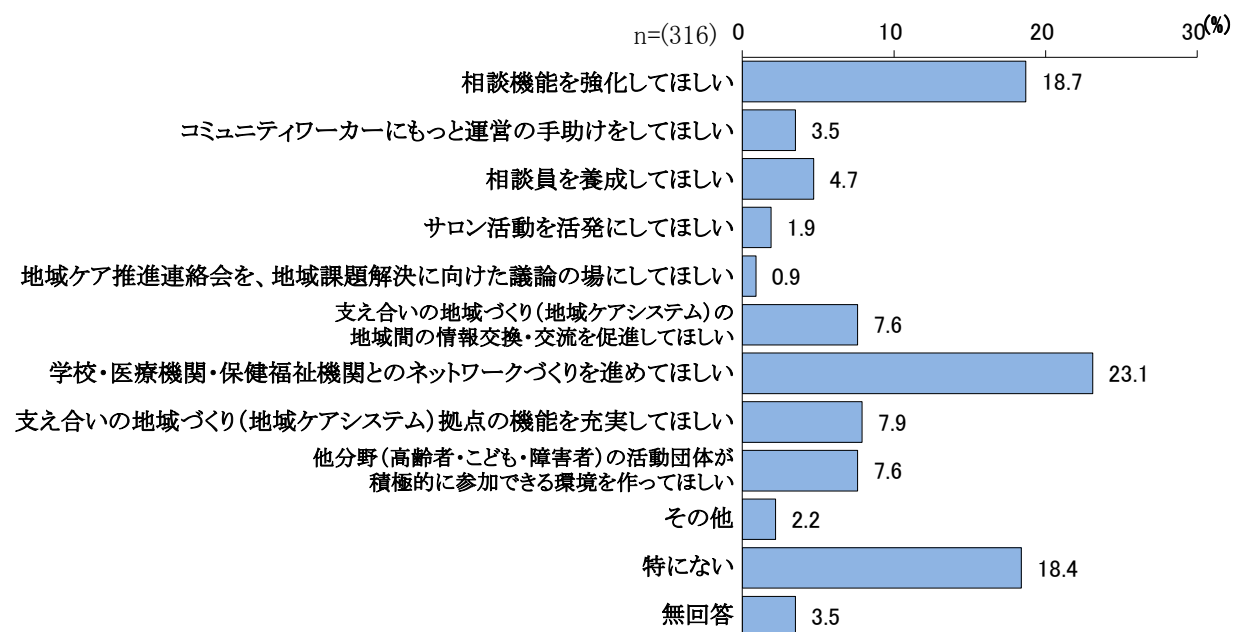
【近所づきあいの程度別の地域ケアシステムの認知度】



近所づきあいの程度別でみると、『何かで困ったときには、なんでも相談し助け合える人がある』では「知っている」が17.9%と多くなっている『世間話などはしないが、挨拶をする程度の人はい』『ほとんど近所づきあいはない』では「知らない」が、いずれも9割近くを占めている。

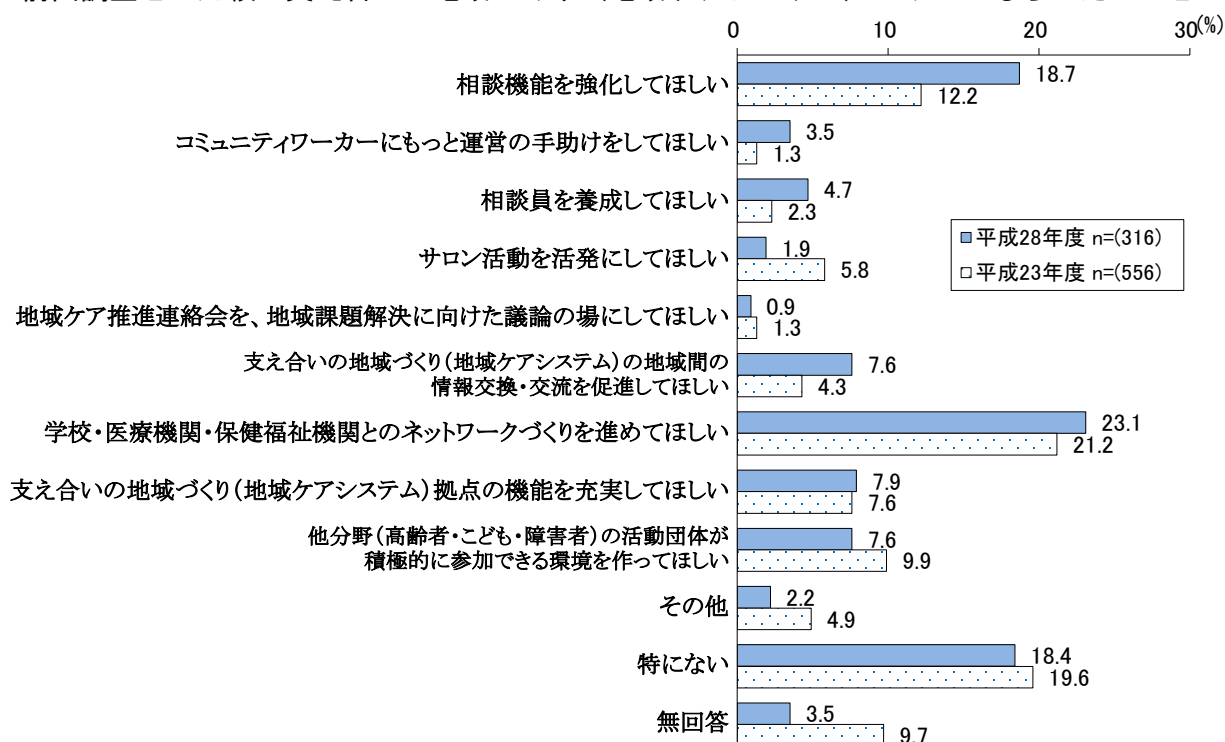
(2) 支え合いの地域づくり（地域ケアシステム）でやってもらいたいこと

問22 あなたは、支え合いの地域づくり（地域ケアシステム）でやってもらいたいことはどのようなことですか。（〇は1つだけ）



地域ケアシステムにやってもらいたいこととしては、「学校・医療機関・保健福祉機関とのネットワークづくりを進めてほしい」が23.1%で最も多く、「相談機能を強化してほしい」が18.7%、「支え合いの地域づくり（地域ケアシステム）拠点の機能を充実してほしい」が7.9%の順で続いている。

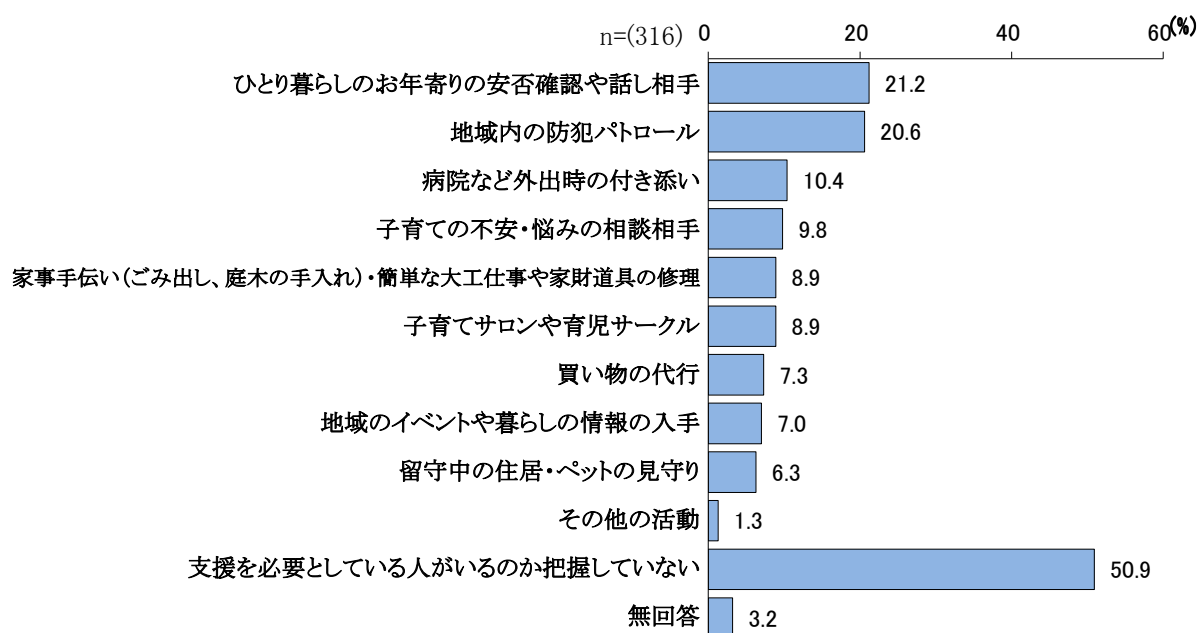
《 前回調査との比較 支え合いの地域づくり（地域ケアシステム）でやってもらいたいこと 》



経年でみると、平成23年度の調査結果と比べて、「相談機能を強化してほしい」が増加している。

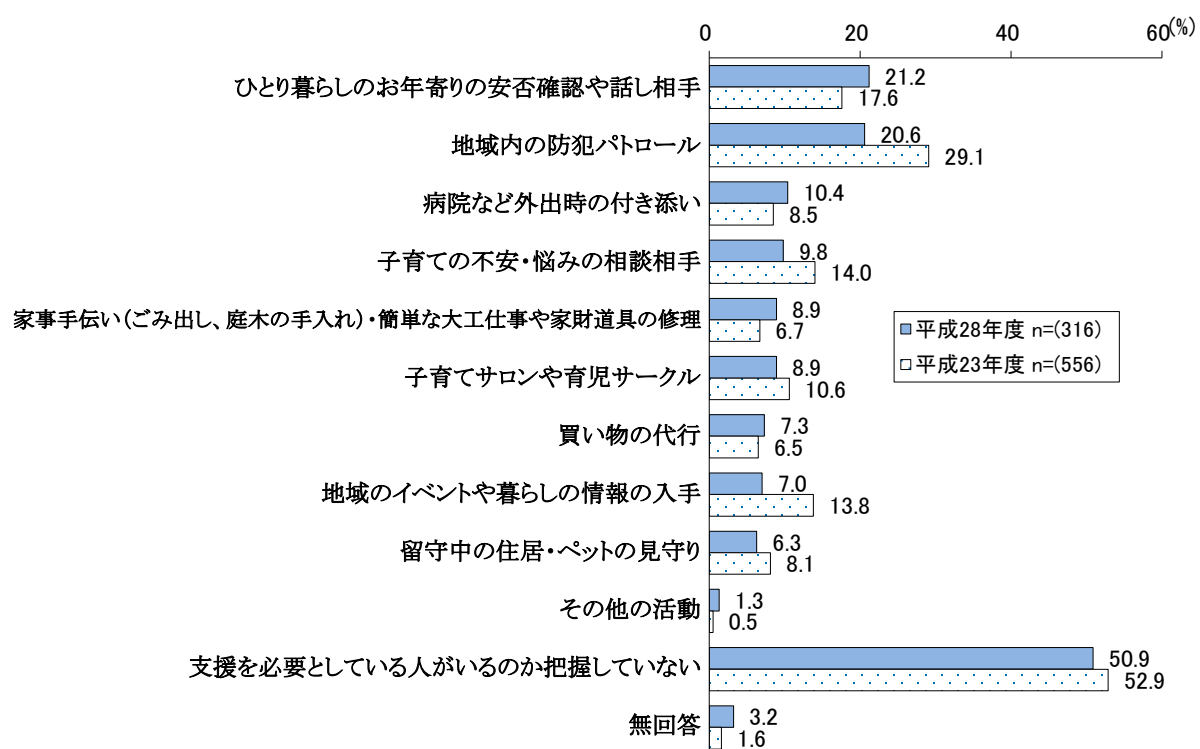
(3) 近所で支援を必要としている人について

問23 あなたのご近所には、どのような支援を必要としている人がいますか。(〇はあてはまるものすべて)



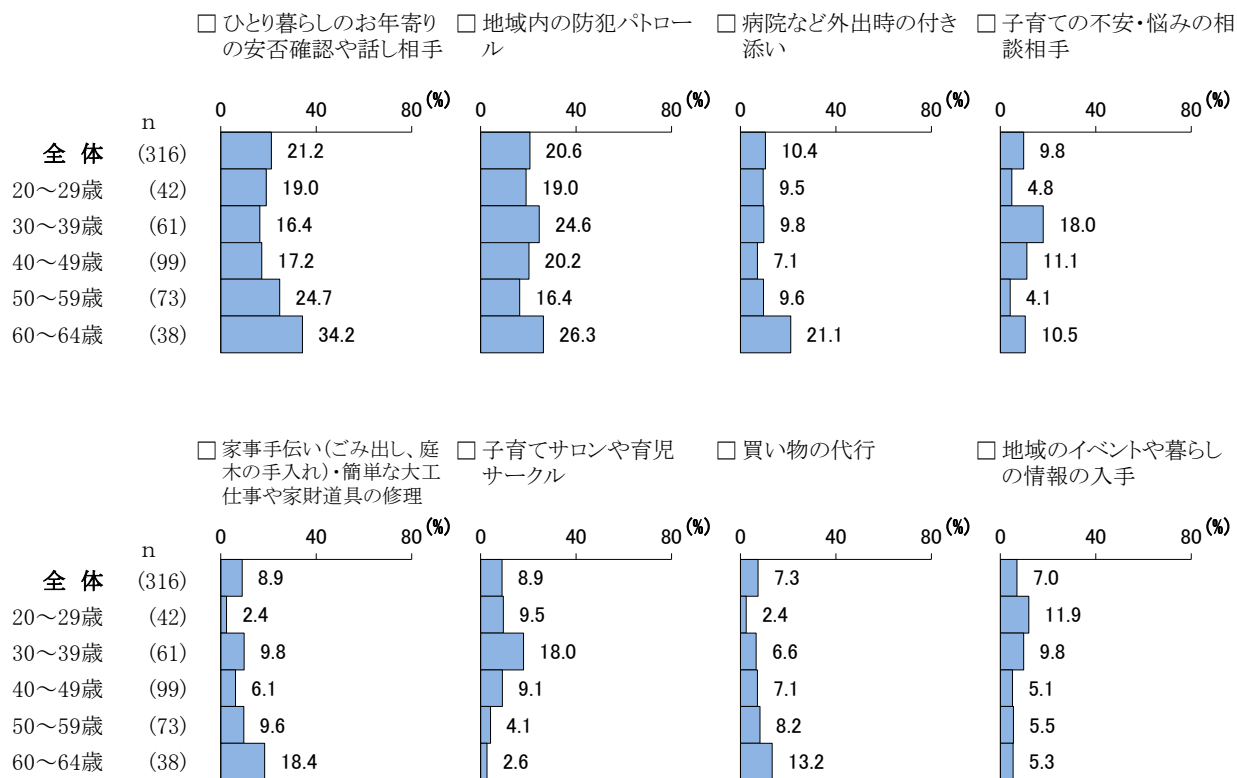
近所で支援を必要としている人についてみると、「ひとり暮らしのお年寄りの安否確認や話し相手」が21.2%で最も多く、次いで「地域内の防犯パトロール」が20.6%、「病院など外出時の付き添い」が10.4%の順で続いている。一方、「支援を必要としている人がいるのか把握していない」が50.9%を占めている。

《 前回調査との比較 近所で支援を必要としている人について 》



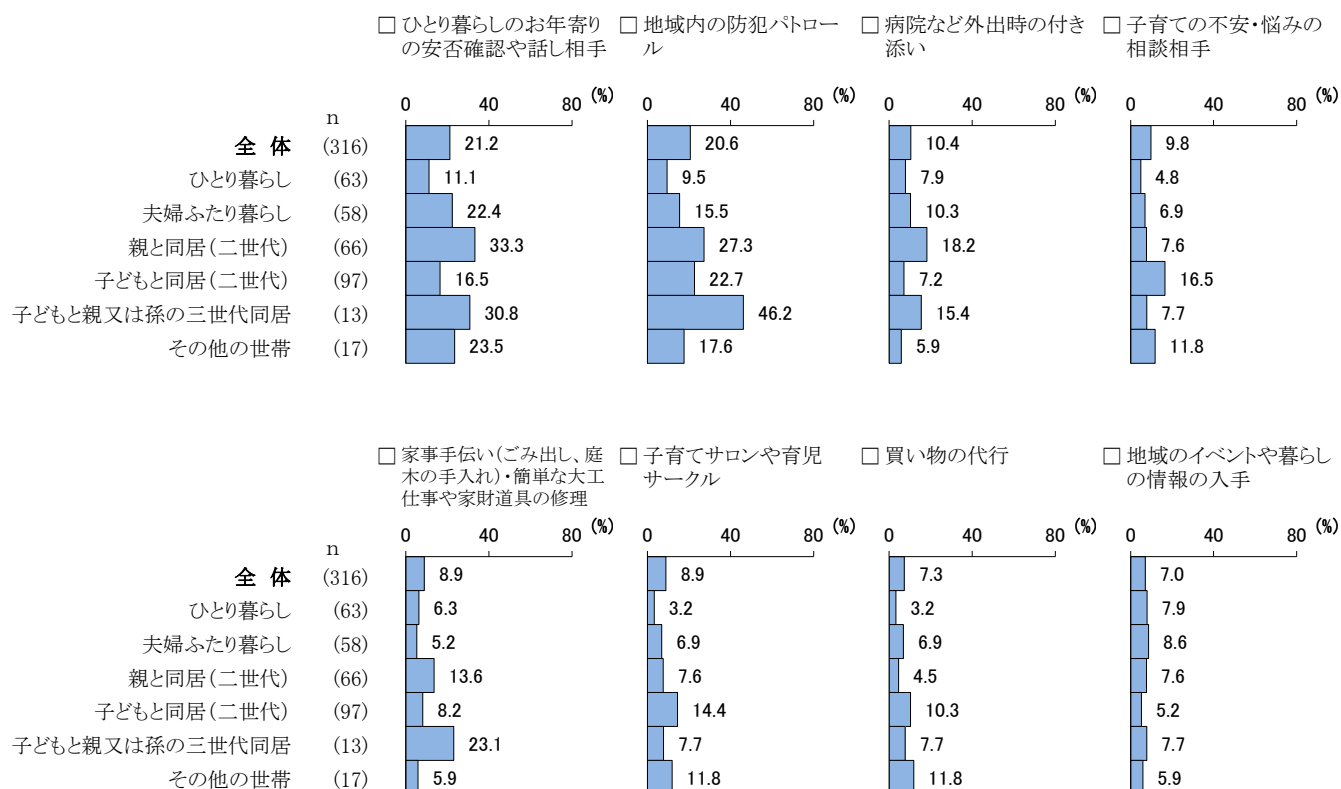
経年でみると、平成23年度の調査結果と比べて、「地域内の防犯パトロール」が減少し、「ひとり暮らしのお年寄りの安否確認や話し相手」が微増している。

【年齢別の近所で支援を必要としている人について（上位8項目）】



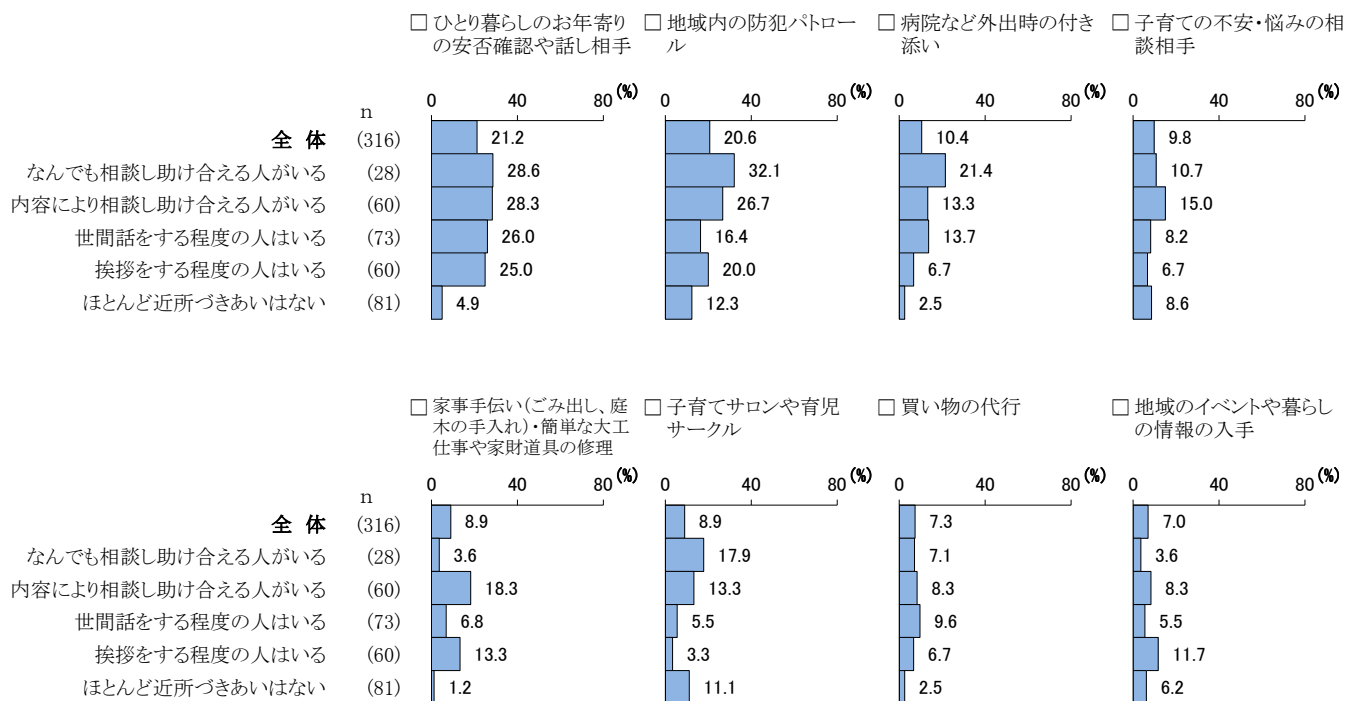
年齢別でみると、『60～64歳』では「ひとり暮らしのお年寄りの安否確認や話し相手」「病院など外出時の付き添い」が多くなっている。

【世帯構成別の近所で支援を必要としている人について（上位8項目）】



世帯構成別でみると、『子どもと親又は孫の三世帯同居』では「地域内の防犯パトロール」が46.2%と多くなっている。『親と同居(二世帯)』『子どもと親又は孫の三世帯同居』では「ひとり暮らしのお年寄りの安否確認や話し相手」が3割を超えている。また、『子どもと同居(二世帯)』では「子育ての不安・悩みの相談相手」「子育てサロンや育児サークル」が1割台半ばとやや多くなっている。

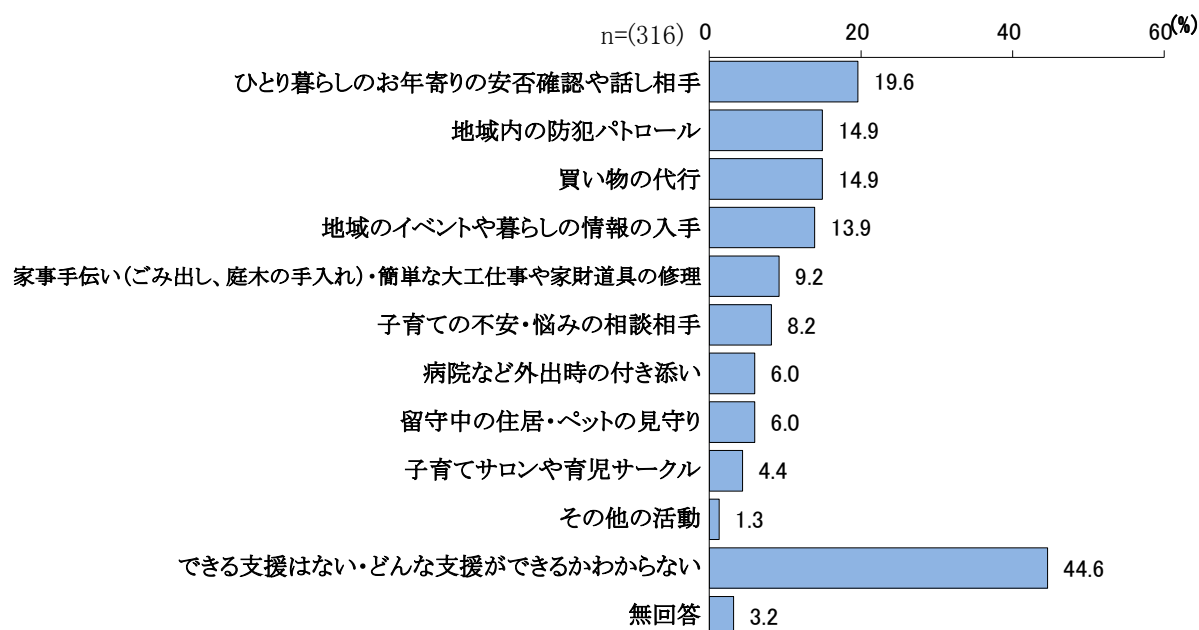
【近所づきあいの程度別の近所で支援を必要としている人について（上位8項目）】



近所づきあいの程度別でみると、『何かで困ったときには、なんでも相談し助け合える人がいる』では「地域内の防犯パトロール」「病院など外出時の付き添い」が多くなっている。

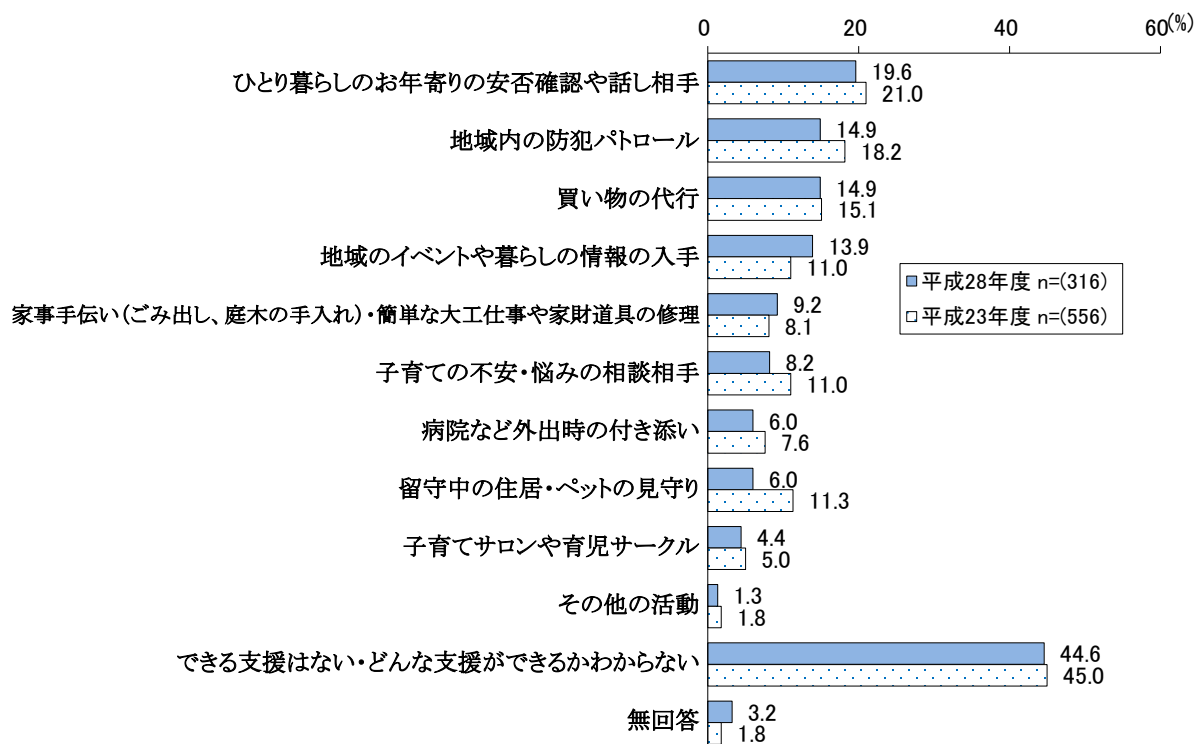
(4) 自分ができる支援

問24 支援を必要とする方のために、あなたができる支援はありますか。(〇はあてはまるものすべて)



自分ができる支援としては、「ひとり暮らしのお年寄りの安否確認や話し相手」が19.6%で最も多く、次いで「地域内の防犯パトロール」「買い物の代行」が14.9%、「地域のイベントや暮らしの情報の入手」が13.9%の順が続いている。一方、「できる支援はない・どんな支援ができるかわからない」が44.6%を占めている。

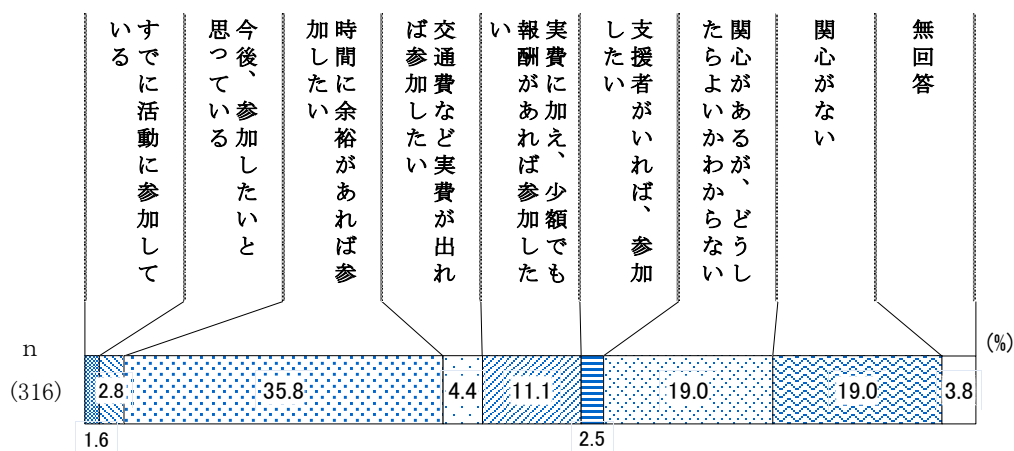
《 前回調査との比較 自分ができる支援 》



経年でみると、平成23年度の調査結果と比べて、「地域内の防犯パトロール」が減少している。

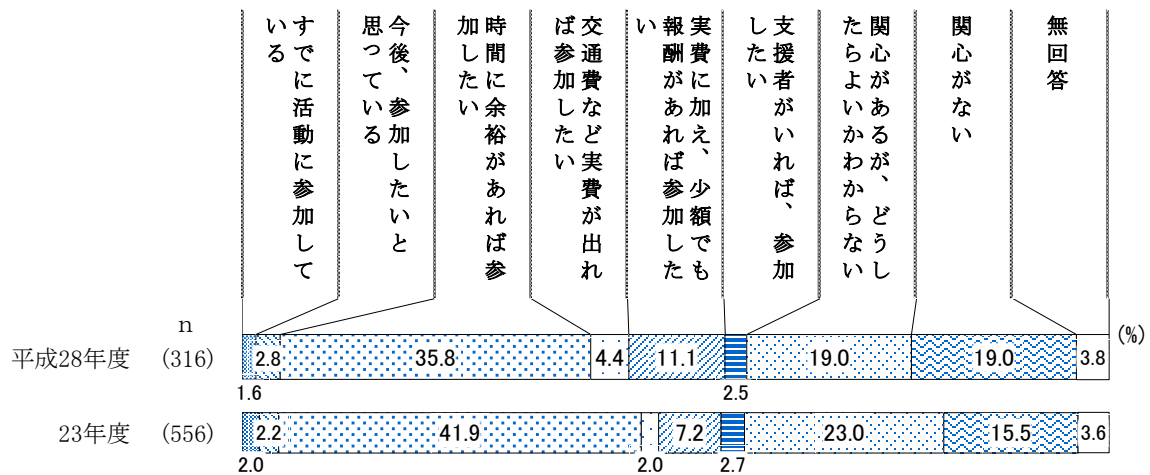
(5) 地域福祉活動への参加

問25 支援を必要とする方のために、地域福祉活動に参加することができますか。(○は1つだけ)



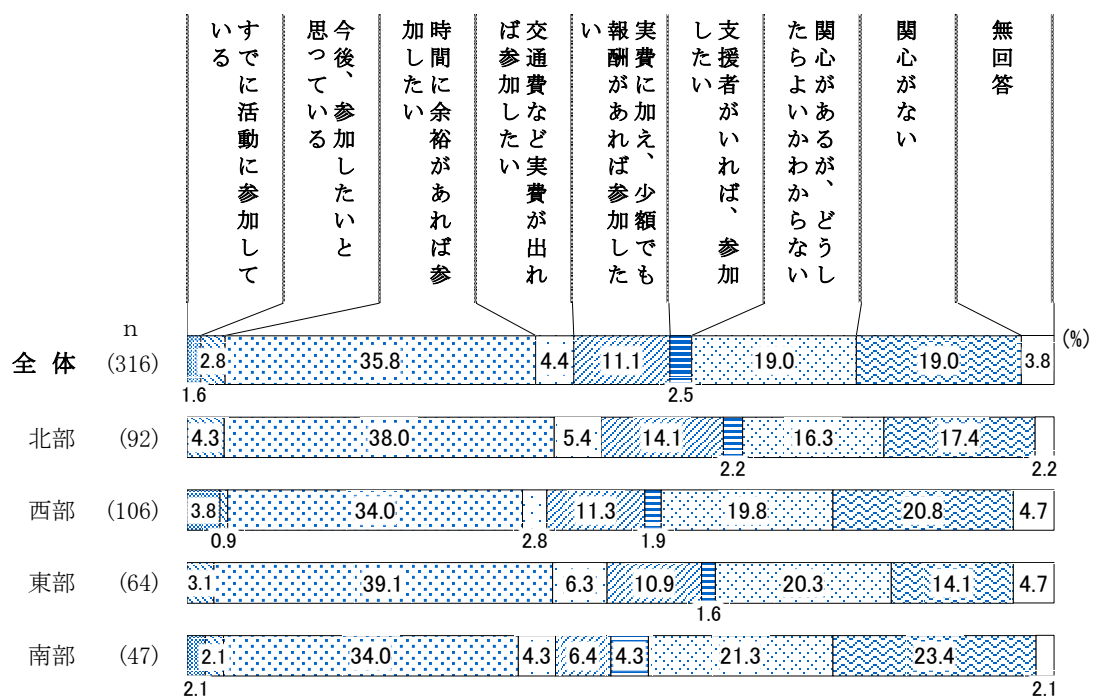
地域福祉活動への参加意向をみると、「時間に余裕があれば参加したい」が35.8%で最も多くなっている。一方、「関心があるが、どうしたらよいかわからない」「関心がない」が、ともに19.0%となっている。

≪ 前回調査との比較 地域福祉活動への参加 ≫



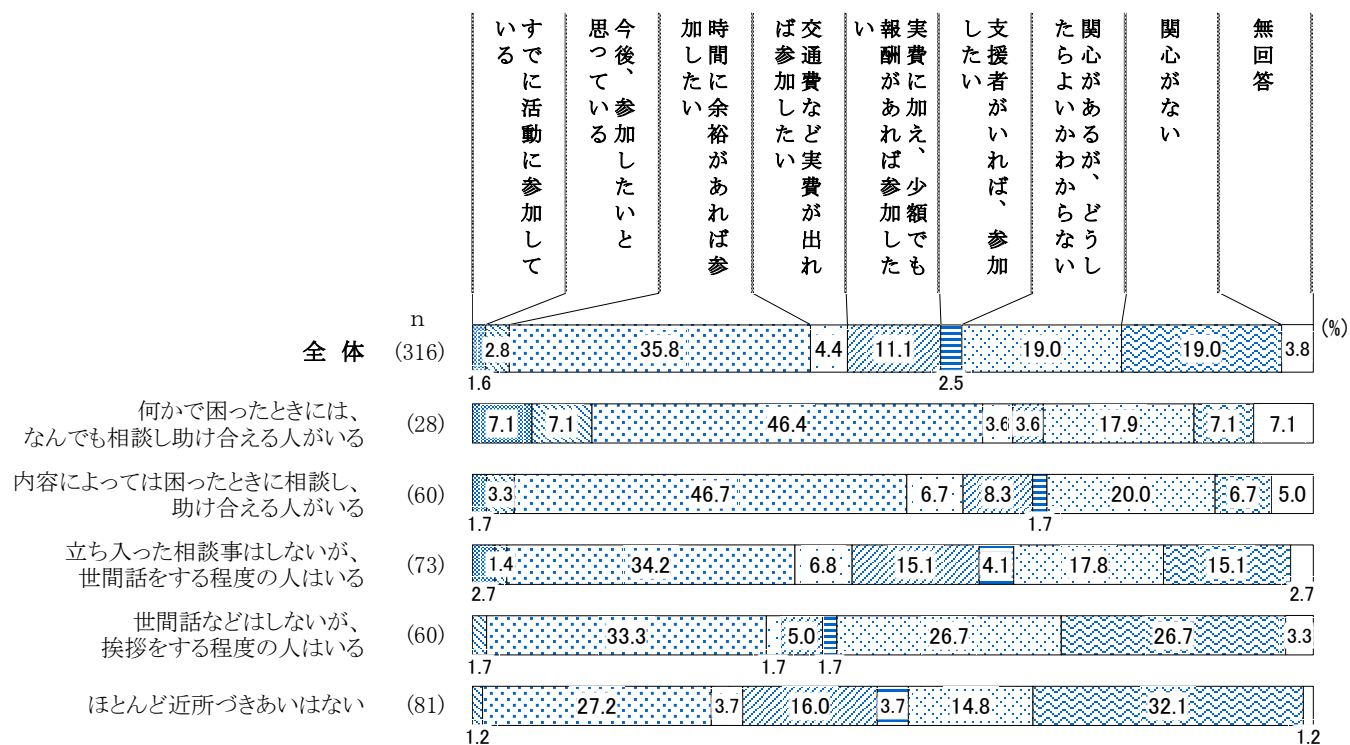
経年でみると、平成23年度の調査結果と比べて、「時間に余裕があれば参加したい」が減少している。

【居住地区別の地域福祉活動への参加】



居住地区別でみると、各地区で「時間に余裕があれば参加したい」が3割を超えている。

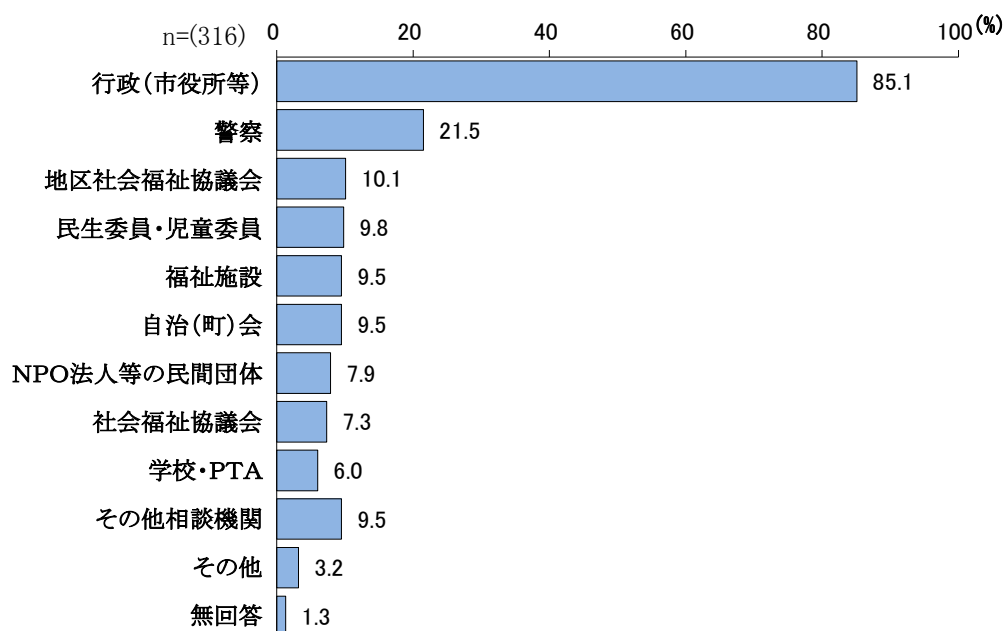
【近所づきあいの程度別の地域福祉活動への参加】



近所づきあいの程度別でみると、『何かで困ったときには、なんでも相談し助け合える人がある』『内容によっては困ったときに相談し、助け合える人がある』では「時間に余裕があれば参加したい」が4割台半ばを占めている。『ほとんど近所づきあいはない』では「関心がない」が32.1%と多くなっている。

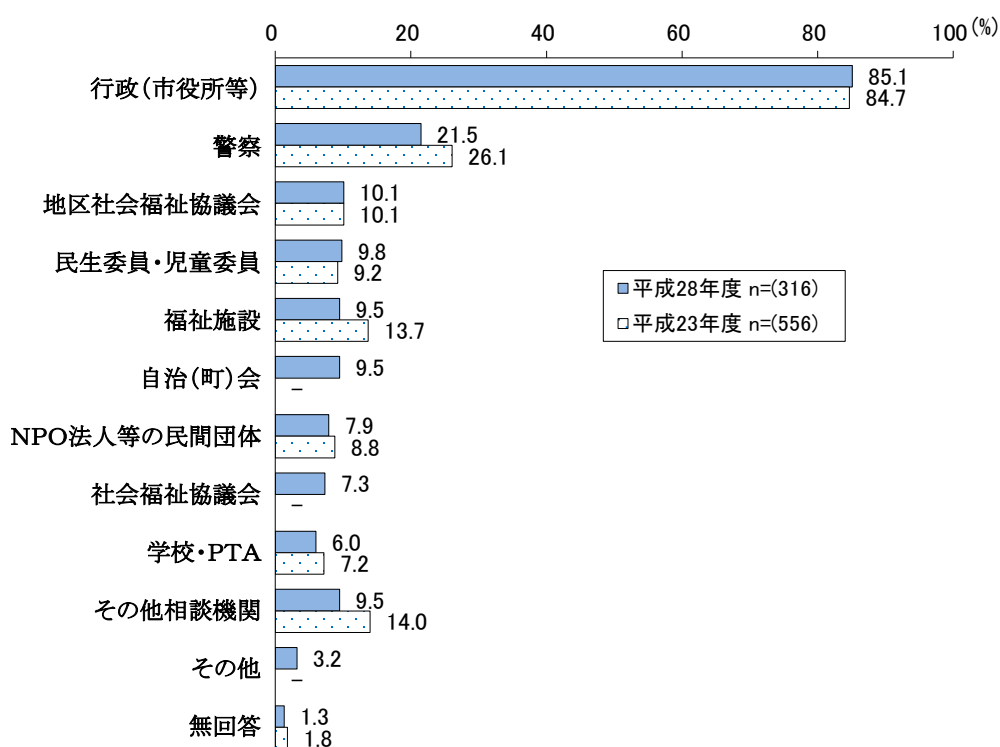
(6) 自分たちだけで支援が難しい問題がある場合に頼る機関

問26 自分たちだけで支援が難しい問題がある場合、どんなところに相談しますか。(〇はあてはまるものすべて)



自分たちだけで支援が難しい問題がある場合に頼る機関としては、「行政（市役所等）」が85.1%で最も多く、次いで「警察」が21.5%となっている。

◀ 前回調査との比較 自分たちだけで支援が難しい問題がある場合に頼る機関 ▶

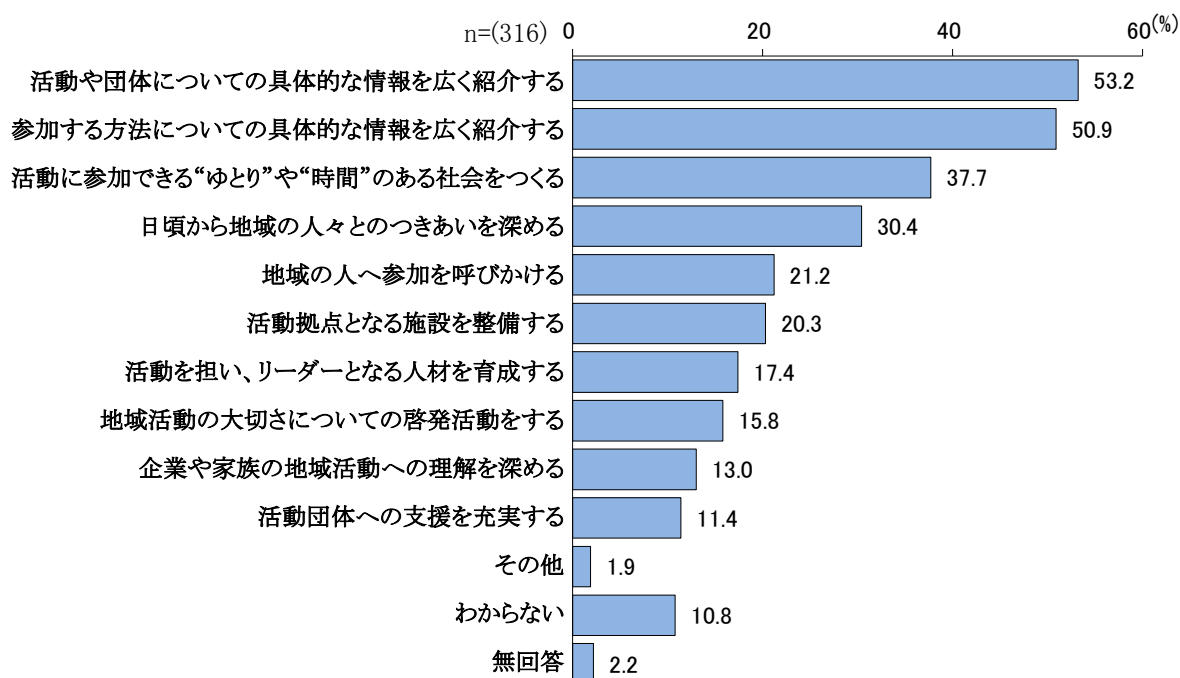


経年でみると、平成23年度の調査結果と比べて、「警察」が減少している。

4. 近所や地域で取り組める地域福祉活動

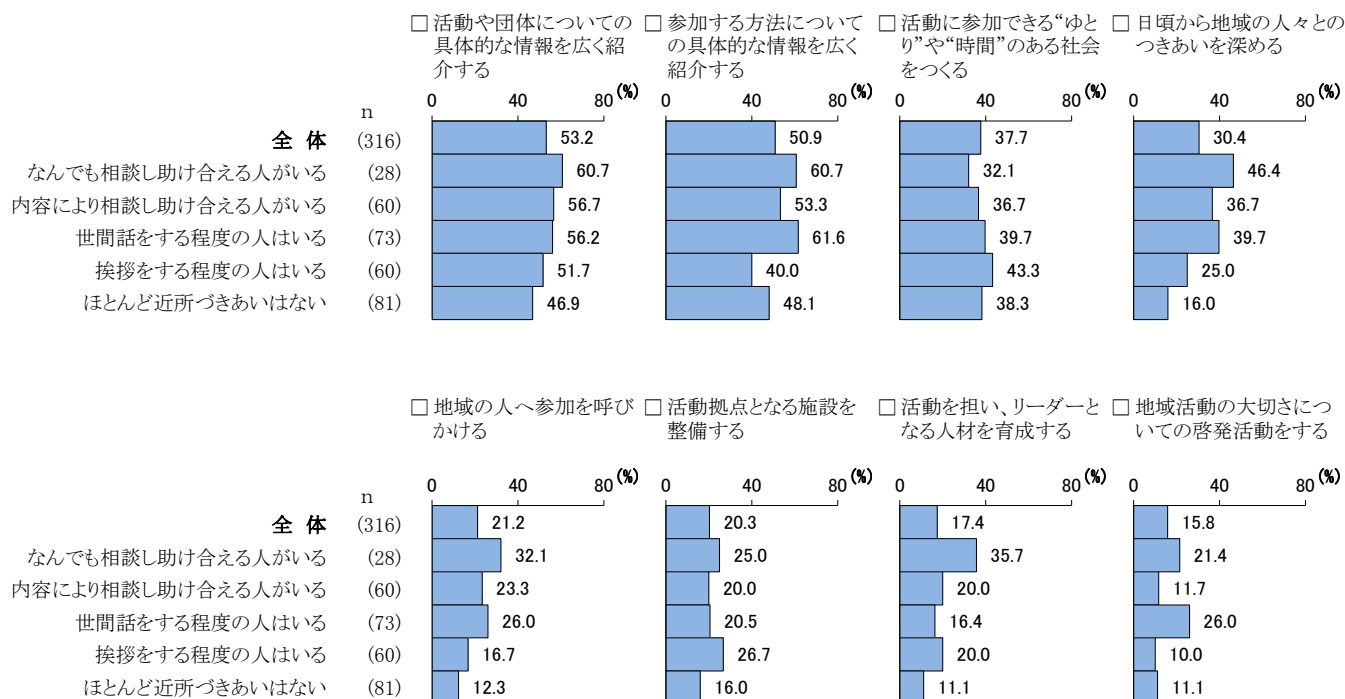
(1) 地域活動により多くの人に参加できるようにするために必要なこと

問27 あなたは、お住まいの地域の活動に、より多くの人に参加できるようにするためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇はあてはまるものすべて)



地域活動により多くの人に参加できるようにするために必要なこととしては、「活動や団体についての具体的な情報を広く紹介する」が53.2%で最も多く、次いで「参加する方法についての具体的な情報を広く紹介する」が50.9%、「活動に参加できる“ゆとり”や“時間”のある社会をつくる」が37.7%、「日頃から地域の人々とのつきあいを深める」が30.4%の順で続いている。

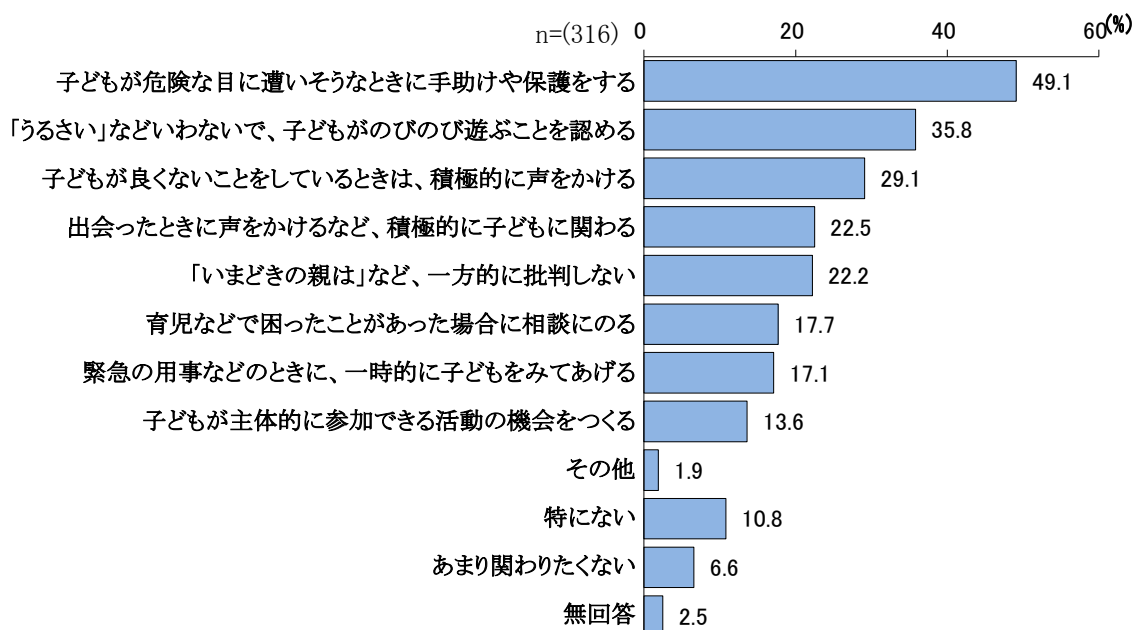
【近所づきあいの程度別の地域活動により多くの人が参加できるようにするために必要なこと
(上位8項目)】



近所づきあいの程度別でみると、『何かで困ったときには、なんでも相談し助け合える人がいる』では「活動や団体についての具体的な情報を広く紹介する」が60.7%と多くなっている。『何かで困ったときには、なんでも相談し助け合える人がいる』『立ち入った相談事はしないが、世間話をする程度の人はい』では「参加する方法についての具体的な情報を広く紹介する」が、いずれも6割を超えている。

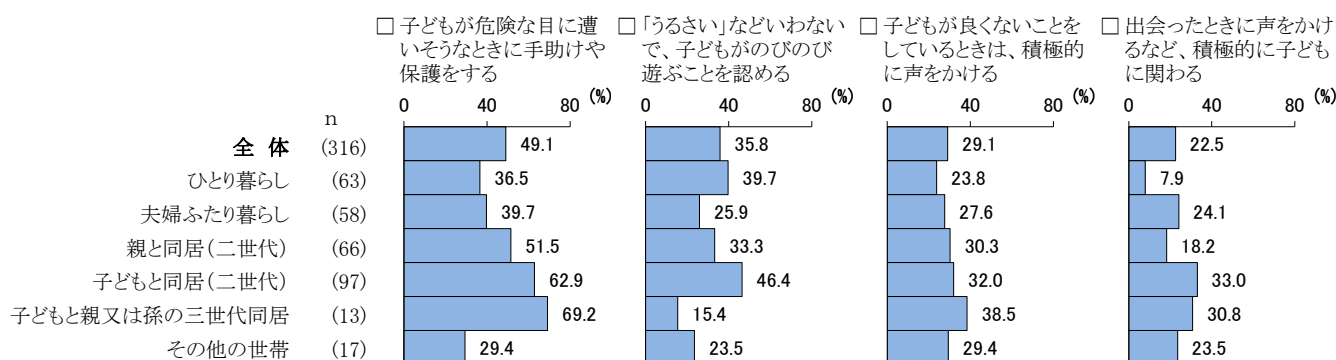
(2) 子育て中の方を応援するためにできること

問28 あなたは子育て中の方を応援するために、どのようなことができますか。(〇はあてはまるものすべて)



子育て中の方を応援するためにできることとしては、「子どもが危険な目に遭いそうなときに手助けや保護をする」が49.1%で最も多く、次いで「『うるさい』などいわないで、子どもがのびのび遊ぶことを認める」が35.8%、「子どもが良くないことをしているときは、積極的に声をかける」が29.1%の順で続いている。

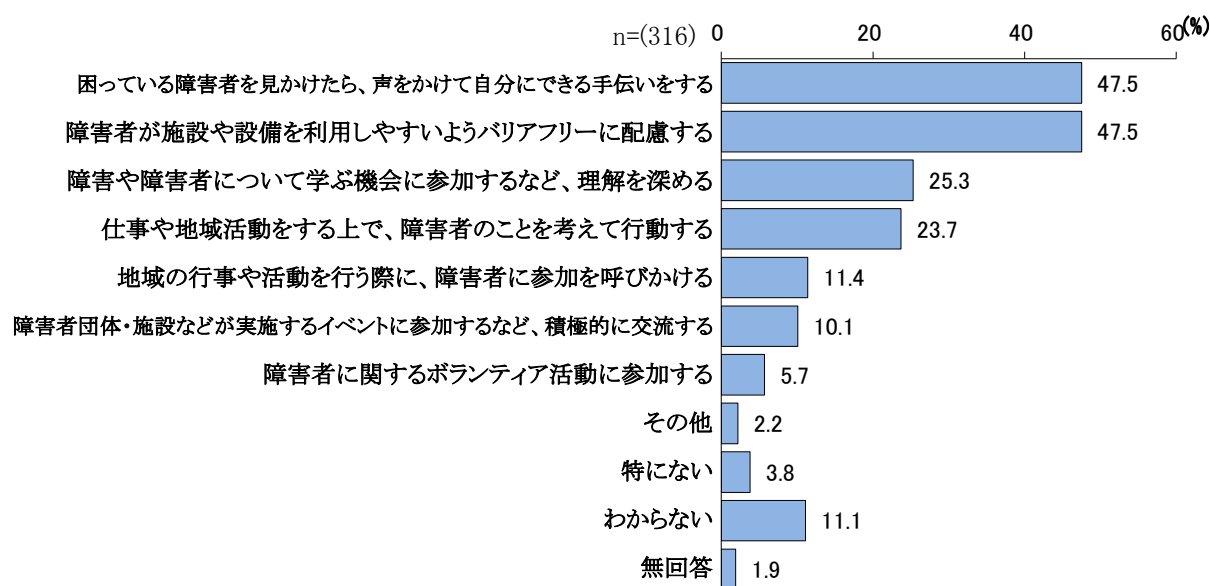
【世帯構成別の子育て中の方を応援するためにできること（上位4項目）】



世帯構成別でみると、『子どもと親又は孫の三世帯同居』『子どもと同居（二世帯）』では「子どもが危険な目に遭いそうなときに手助けや保護をする」が、いずれも6割を超えている。『子どもと同居（二世帯）』では「『うるさい』などいわないで、子どもがのびのび遊ぶことを認める」が46.4%と多くなっている。

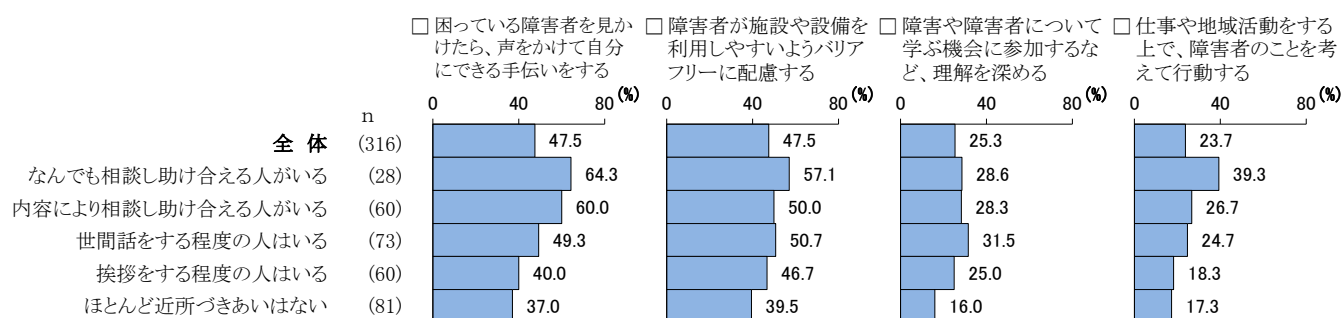
(3) 障害者の社会参加の機会を広げるために地域で取り組む必要があること

問29 障害者の社会参加の機会を広げるために、地域でどのようなことに取り組む必要があると思いますか。(〇は3つまで)



障害者の社会参加の機会を広げるために地域で取り組む必要があることとしては、「困っている障害者を見かけたら、声をかけて自分にできる手伝いをする」「障害者が施設や設備を利用しやすいようバリアフリーに配慮する」が、ともに47.5%で最も多く、次いで「障害や障害者について学ぶ機会に参加するなど、理解を深める」が25.3%、「仕事や地域活動をする上で、障害者のことを考えて行動する」が23.7%の順で続いている。

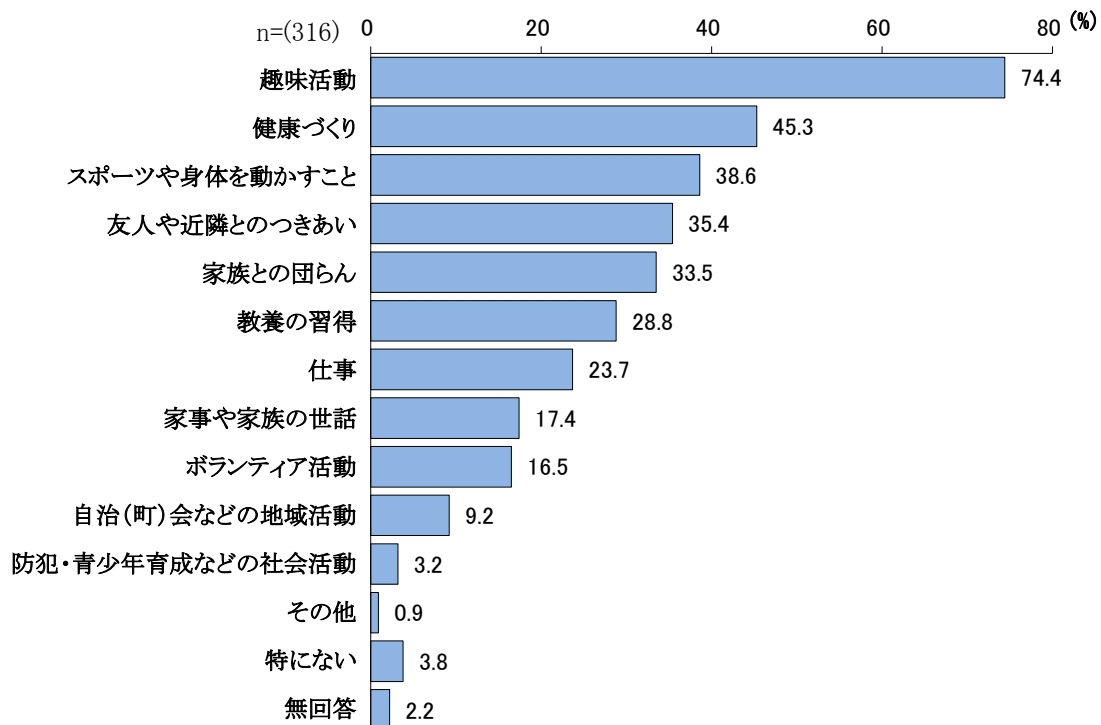
【近所づきあいの程度別の障害者の社会参加の機会を広げるために地域で取り組む必要があること（上位4項目）】



近所づきあいの程度別でみると、『何かで困ったときには、なんでも相談し助け合える人がいる』『内容によっては困ったときに相談し、助け合える人がいる』では「困っている障害者を見かけたら、声をかけて自分にできる手伝いをする」が6割を超えている。『何かで困ったときには、なんでも相談し助け合える人がいる』では「障害者が施設や設備を利用しやすいようバリアフリーに配慮する」が57.1%と多くなっている。

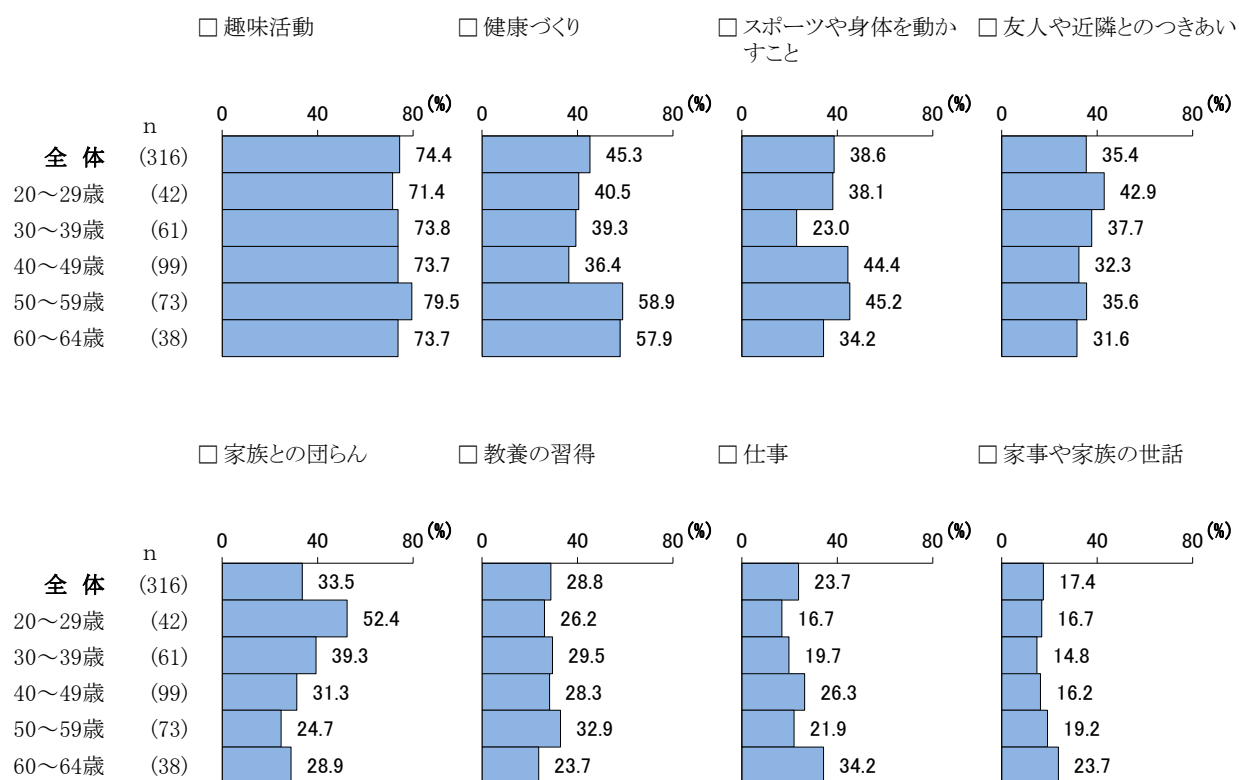
(4) 高齢期になったときにやってみたいこと

問30 65歳以上の「高齢期」になったとき、あなたがやってみたいことはどんなことですか。
現在していることの継続も含みます。(〇はあてはまるものすべて)



65歳以上の「高齢期」になったときにやってみたいこととしては、「趣味活動」が74.4%で最も多く、次いで「健康づくり」が45.3%、「スポーツや身体を動かすこと」が38.6%、「友人や近隣とのつきあい」が35.4%の順で続いている。

【年齢別の高齢期になったときにやってみたいこと（上位8項目）】

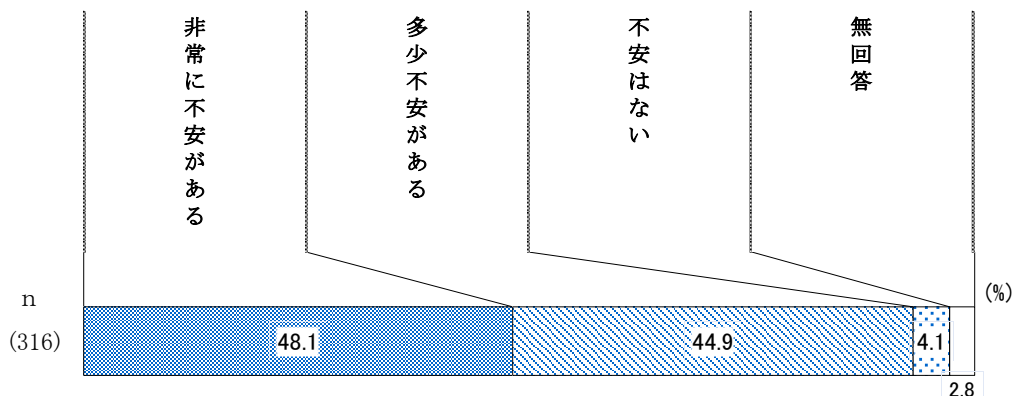


年齢別でみると、全年代で「趣味活動」が7割を超え、『50～59歳』『60～64歳』では「健康づくり」が6割近くを占めている。また、『40～49歳』『50～59歳』では「スポーツや身体を動かすこと」が4割台半ばと多くなっている。

5. 防災

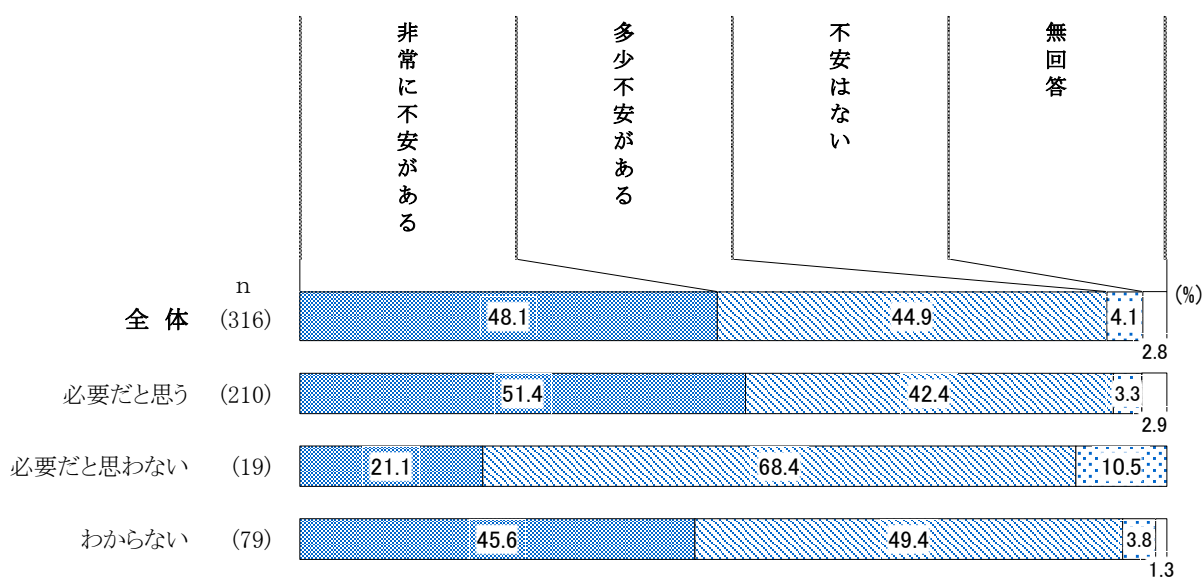
(1) 地震や災害などが起きた場合の不安感

問31 地震や災害などが起きた場合、あなたは不安に思いますか。(○は1つだけ)



地震や災害などが起きた場合の不安については、「非常に不安がある」が48.1%、「多少不安がある」が44.9%となっている。一方、「不安はない」は4.1%である。

【地域の生活課題についての住民同士の自主的な支え合いや助け合い別の地震や災害などが起きた場合の不安感】

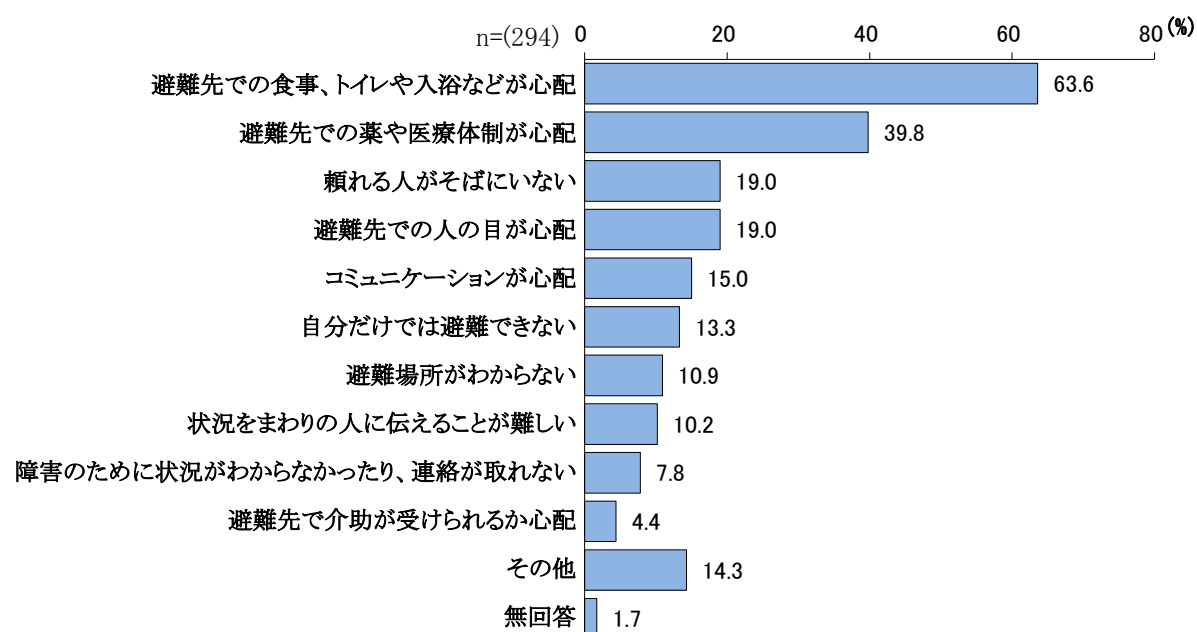


地域の生活課題についての住民同士の自主的な支え合いや助け合いの必要性についての考え別でみると、『必要だと思う』では「非常に不安がある」が51.4%となっている。

(2) 地震や災害などが起きた場合の不安の内容

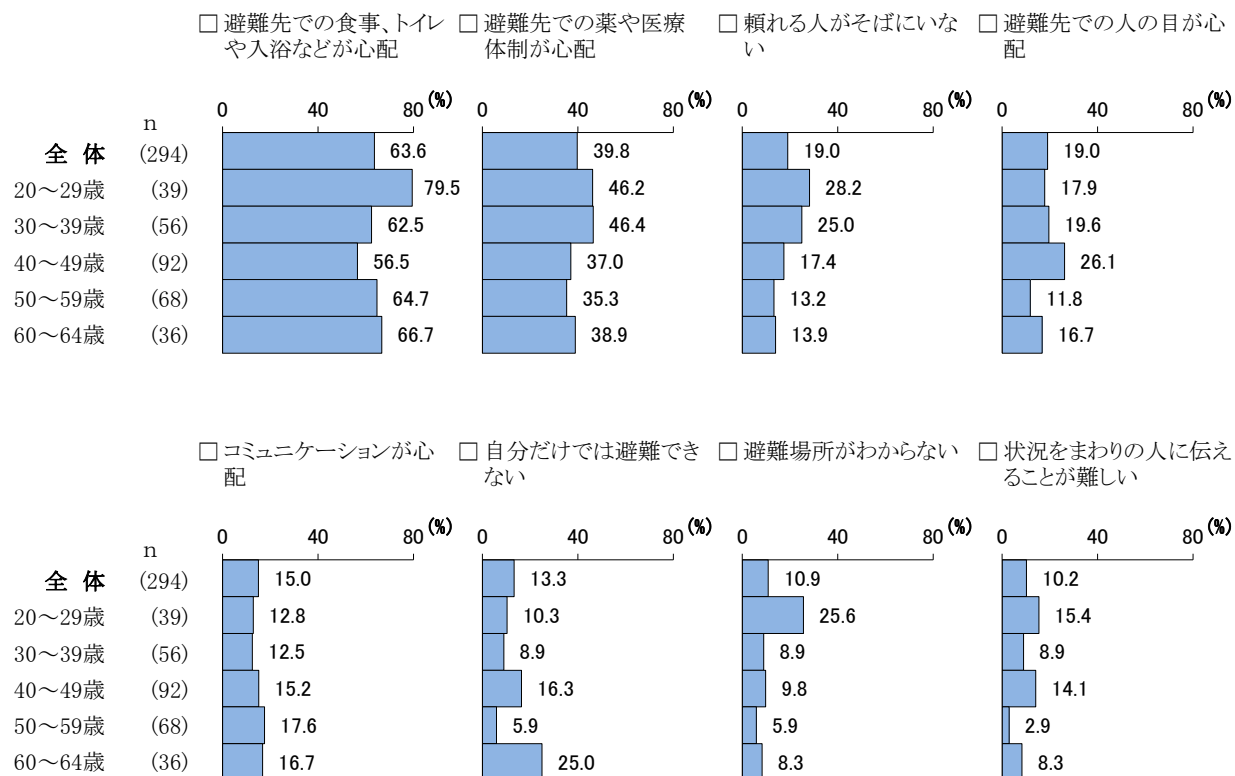
(不安があると答えた方に)

問31-1 どういったことを不安に思いますか。(○はあてはまるものすべて)



地震や災害などが起きた場合の不安の内容としては、「避難先での食事、トイレや入浴などが心配」が63.6%で最も多く、次いで「避難先での薬や医療体制が心配」が39.8%、「頼れる人がそばにいない」「避難先での人の目が心配」が、ともに19.0%の順が続いている。

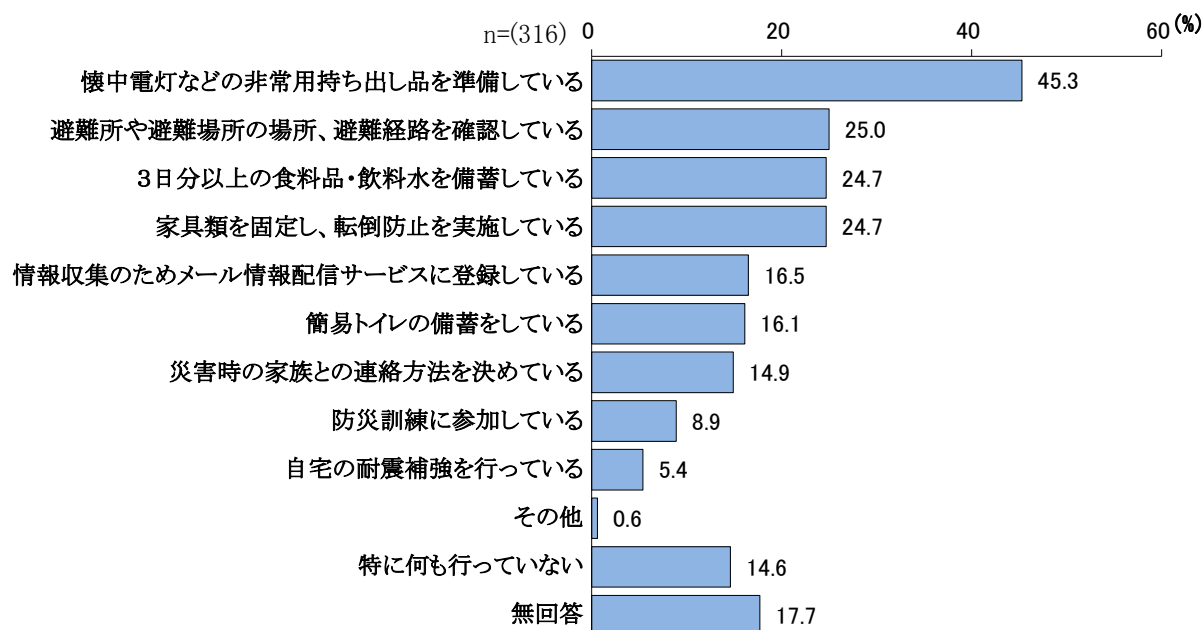
【年齢別の地震や災害などが起きた場合の不安の内容（上位8項目）】



年齢別でみると、『20～29歳』では「避難先での食事、トイレや入浴などが心配」が79.5%と多くなっている。『20～29歳』『30～39歳』では「避難先での薬や医療体制が心配」が4割台半ばを占めている。また、『20～29歳』では「避難場所がわからない」が25.6%、『60～64歳』では「自分だけでは避難できない」が25.0%と多くなっている。

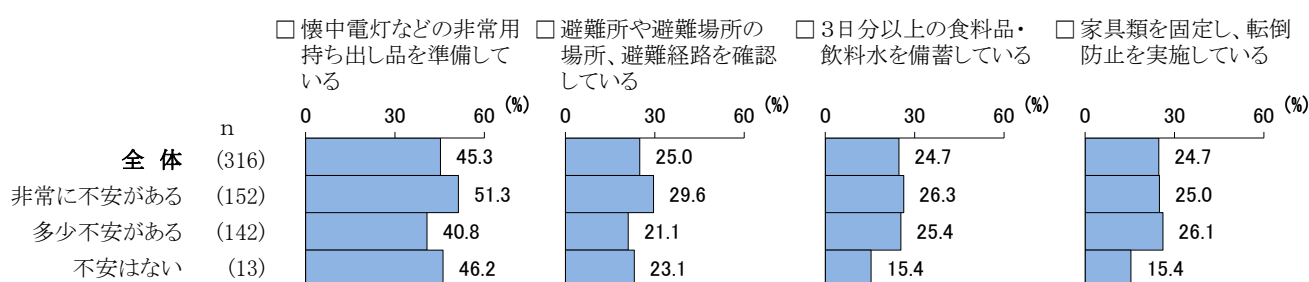
(3) 地震や災害に備えた日頃の対策

問32 地震や災害に備えて、日頃からどのような対策を行っていますか。(〇はあてはまるものすべて)



地震や災害に備えた日頃の対策としては、「懐中電灯などの非常用持ち出し品を準備している」が45.3%で最も多く、「避難所や避難場所の場所、避難経路を確認している」が25.0%、「3日分以上の食料品・飲料水を備蓄している」「家具類を固定し、転倒防止を実施している」が、ともに24.7%の順で続いている。

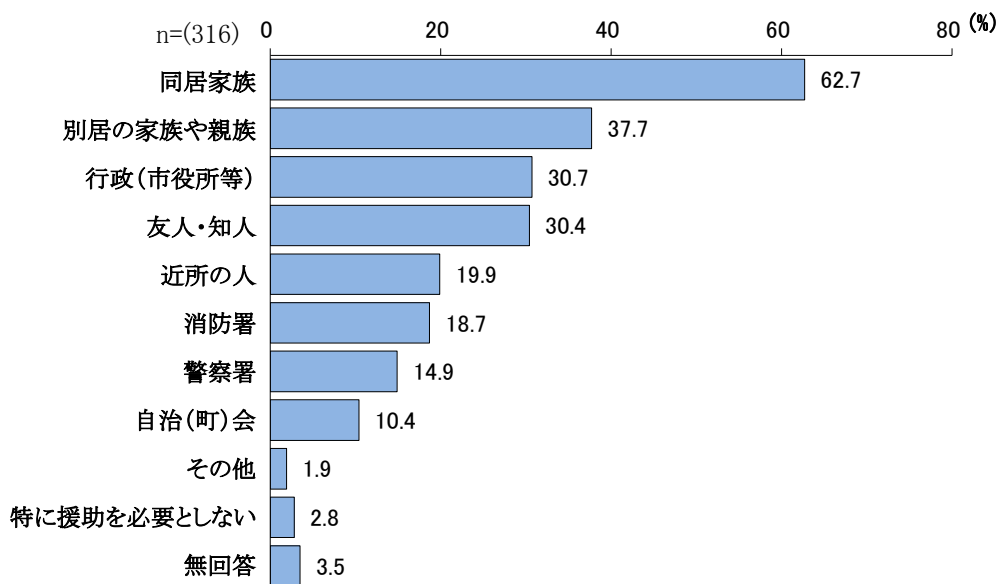
【地震や災害などが起きた場合の不安感別の地震や災害に備えた日頃の対策（上位4項目）】



『非常に不安がある』では「懐中電灯などの非常用持ち出し品を準備している」「避難所や避難場所の場所、避難経路を確認している」が多くなっている。

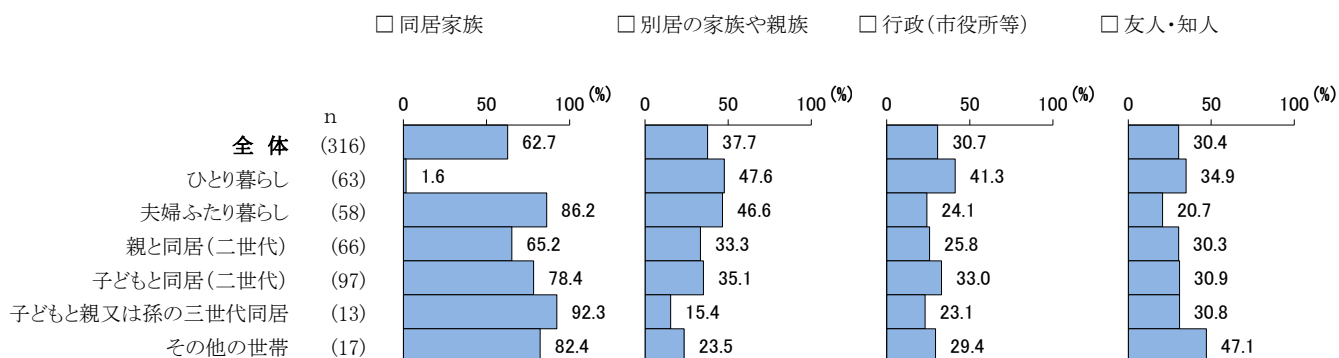
(4) 災害などの緊急時に頼りにする相手

問33 あなたは、災害などの緊急時に、だれ（どこ）を頼りにしていますか。（〇はあてはまるものすべて）



災害時などの緊急時に頼りにする相手としては、「同居家族」が62.7%で最も多く、次いで「別居の家族や親族」が37.7%、「行政（市役所等）」が30.7%、「友人・知人」が30.4%の順で続いている。

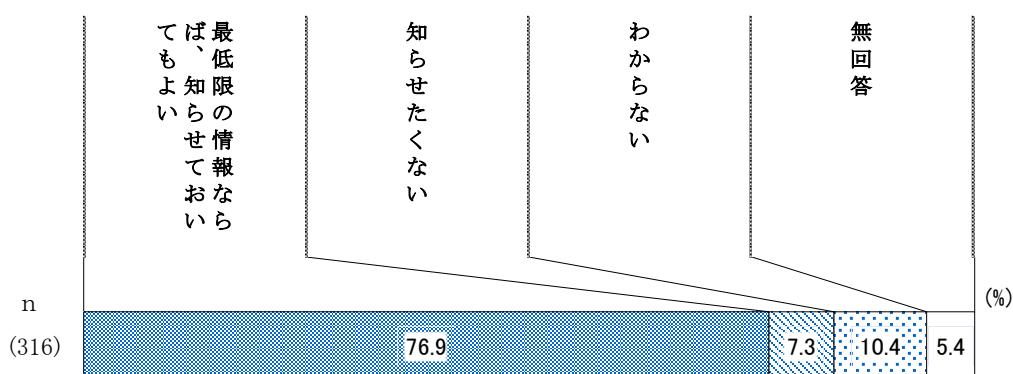
【世帯構成別の災害などの緊急時に頼りにする相手（上位4項目）】



世帯構成別でみると、『子どもと親又は孫の三世帯同居』では「同居家族」が92.3%と多くなっている。一方、『ひとり暮らし』では「行政（市役所等）」が41.3%と多くなっている。

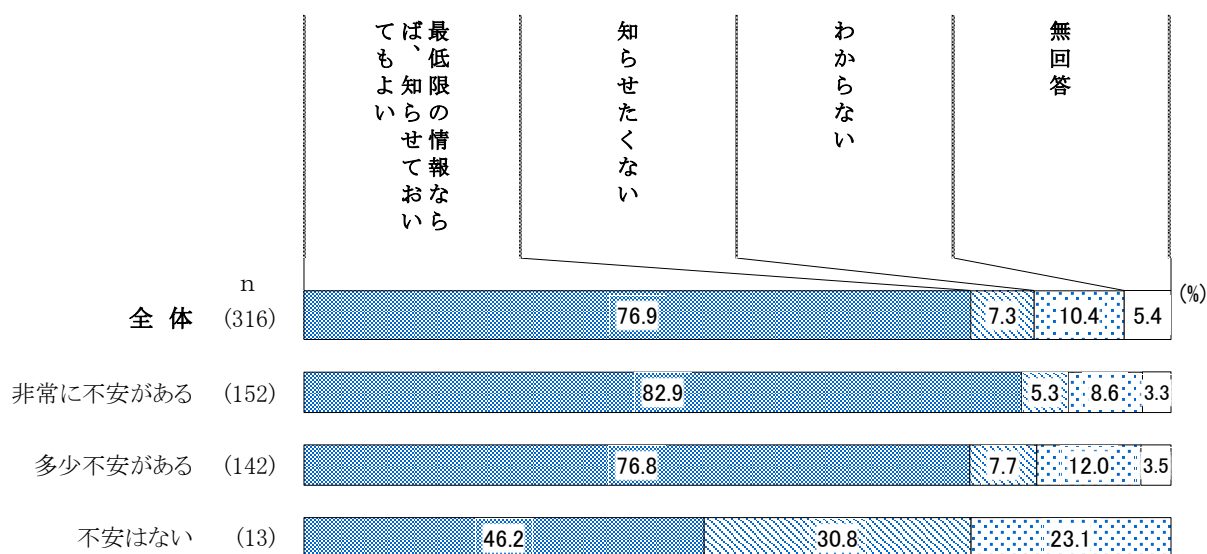
(5) 災害時避難・救助のための名簿作成への参加意向

問34 あなたは、災害時の避難や救助のために、市役所、消防署、警察署や自治（町）会へ、住所・氏名・連絡先などを事前に知らせておくことについて、どう思いますか。（○は1つだけ）



災害時避難・救助のための名簿作成への参加意向をみると、「最低限の情報ならば、知らせてもいい」が76.9%を占めている。一方、「知らせたくない」は7.3%となっている。

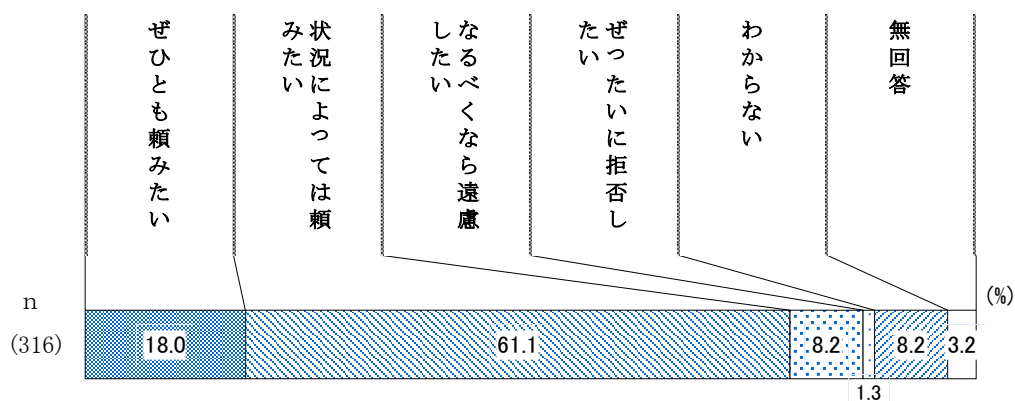
【地震や災害などが起きた場合の不安感別の災害時避難・救助のための名簿作成への参加意向】



地震や災害などが起きた場合の不安感別にみると、『非常に不安である』では「最低限の情報ならば、知らせてもいい」が82.9%を占めている。

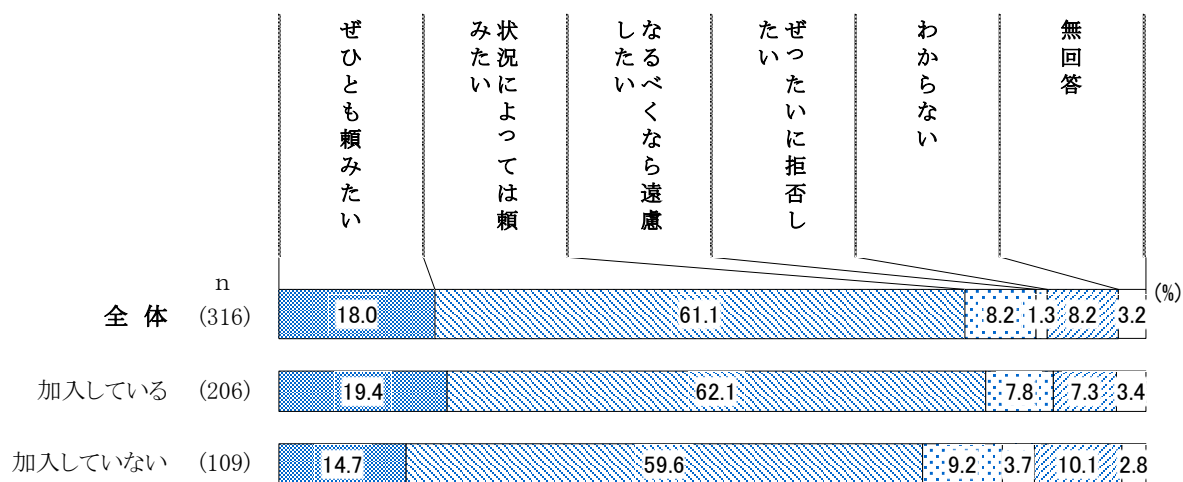
(6) 災害時や日常生活に支障がある際の声かけや簡単な援助の依頼意向

問35 住み慣れた地域で安心して暮らし続けるためには、災害時だけでなく、日頃からの身近な地域での助け合いが大切だと言われています。災害のときや日常生活に支障があるときに、自治（町）会などによる声かけや簡単な援助をしてもらうことについてどう思いますか。（○は1つだけ）



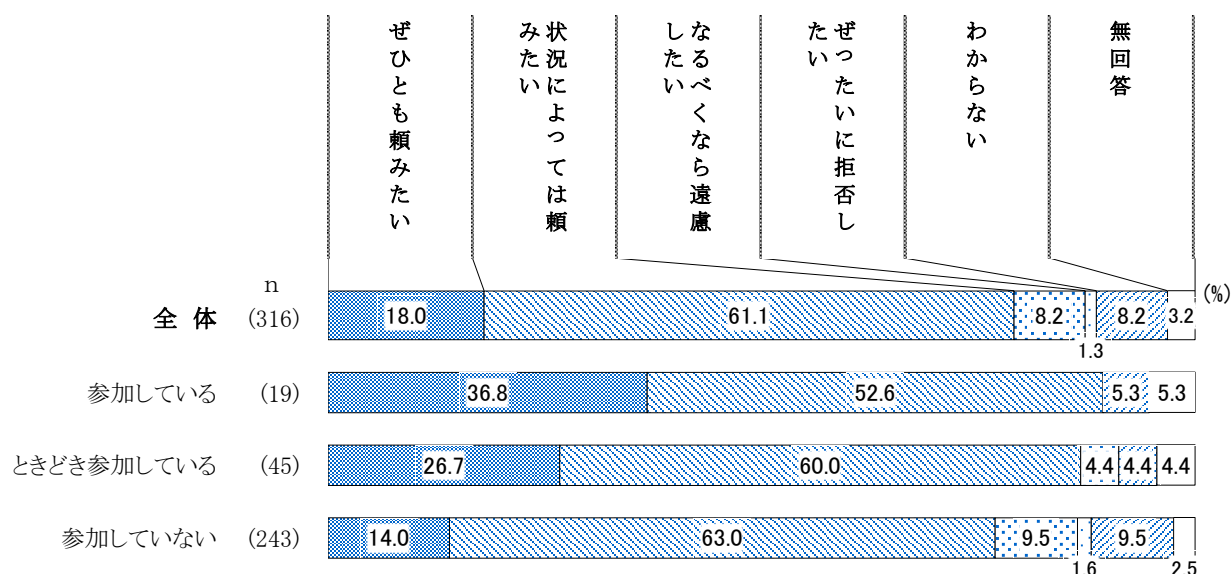
災害時や日常生活に支障がある際の声かけや簡単な援助の依頼意向をみると、「状況によっては頼みたい」が61.1%で最も多く、次いで「ぜひとも頼みたい」が18.0%となっている。

【自治（町）会の加入状況別の災害時や日常生活に支障がある際の声かけや簡単な援助の依頼意向】



自治（町）会の加入状況別でみると、『加入している』では「ぜひとも頼みたい」が19.4%となっている。

【日頃の自治（町）会活動の参加状況別の災害時や日常生活に支障がある際の声かけや簡単な援助の依頼意向】



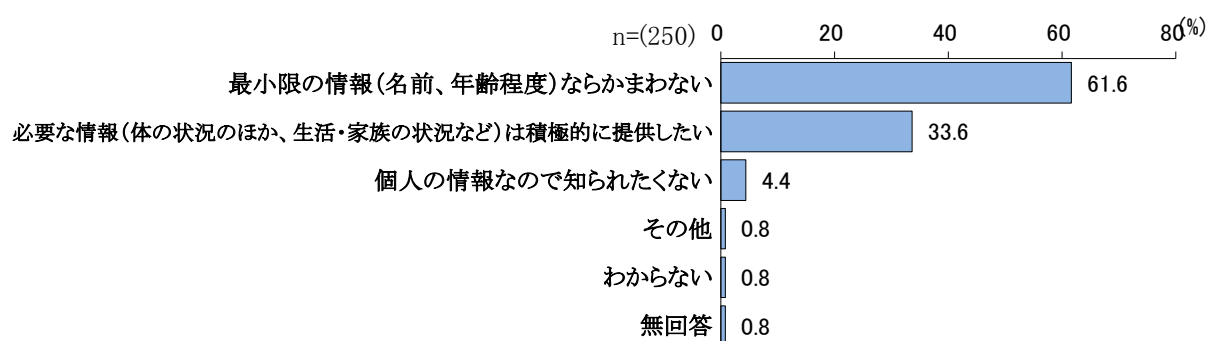
日頃の自治（町）会への参加状況別でみると、『ときどき参加している』『参加していない』では「状況によっては頼みたい」が、いずれも6割を超えている。

※ 『参加している』は回答数が少ないため、分析ではふれていない。

（7）避難行動要支援者名簿作成に関する意識

（頼みたいと答えた方に）

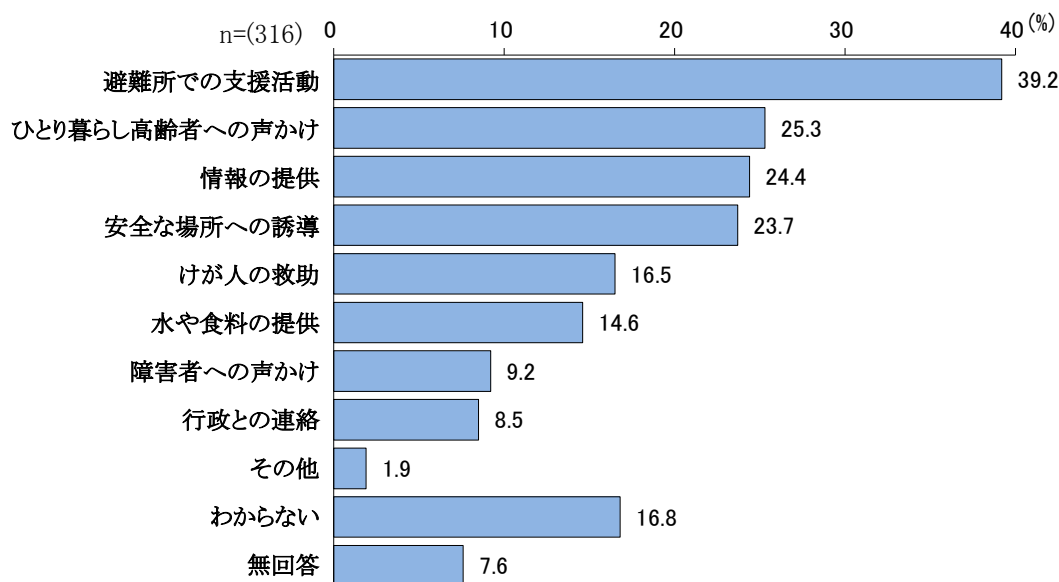
問35－1 その場合、あなたの名前や年齢、お体の状況、ご家族の有無など個人の情報が自治（町）会などに知られることとなりますが、このことについてはどのように思いますか。（○はあてはまるものすべて）



災害時や日常生活に支障がある際の声かけや簡単な援助の依頼意向のある人に、個人情報の扱いについて聞いたところ、「最小限の情報（名前、年齢程度）ならかまわない」が61.6%で最も多く、次いで「必要な情報（体の状況のほか、生活・家族の状況など）は積極的に提供したい」が33.6%となっている。

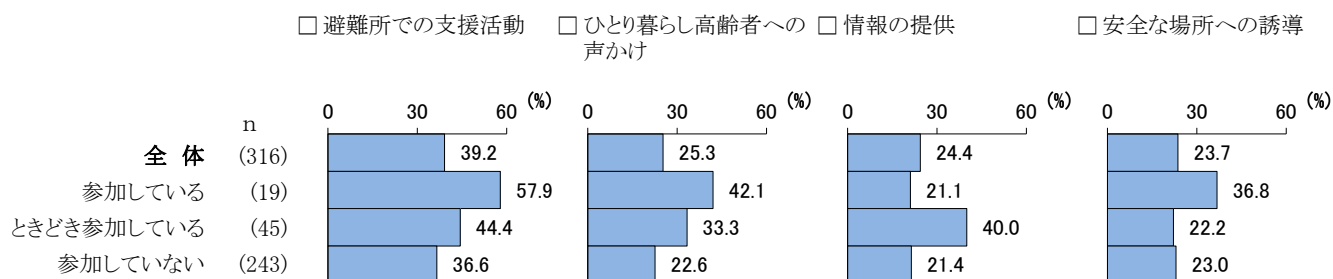
（8）災害時に可能な地域活動

問36 あなたは、震災等の災害にあったとしたら、あなたがお住まいの地域でどのような活動をしたいと思いますか。（○は3つまで）



災害時にできる地域活動としては、「避難所での支援活動」が39.2%で最も多く、次いで「ひとり暮らし高齢者への声かけ」が25.3%、「情報の提供」が24.4%、「安全な場所への誘導」が23.7%の順で続いている。

【日頃の自治（町）会活動の参加状況別の災害時に可能な地域活動（上位4項目）】



日頃の自治（町）会への参加状況別でみると、『ときどき参加している』では「情報の提供」が多くなっている。

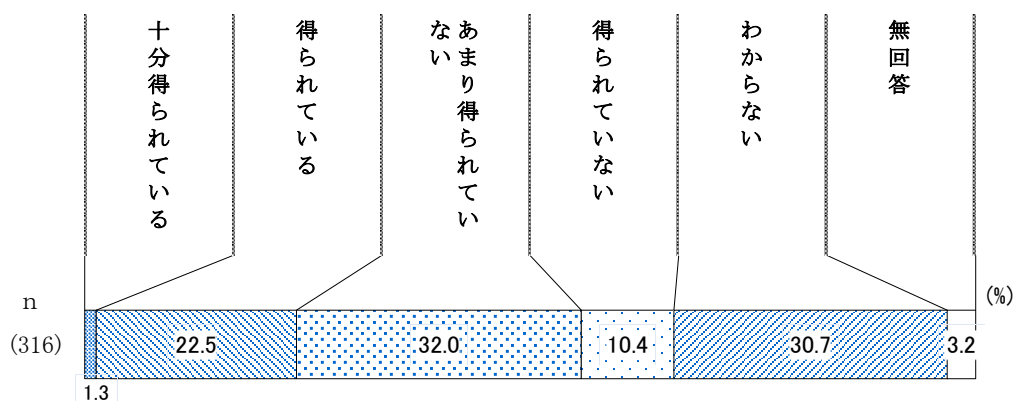
※ 『参加している』は回答数が少ないため、分析ではふれていない。

6. 市の施策

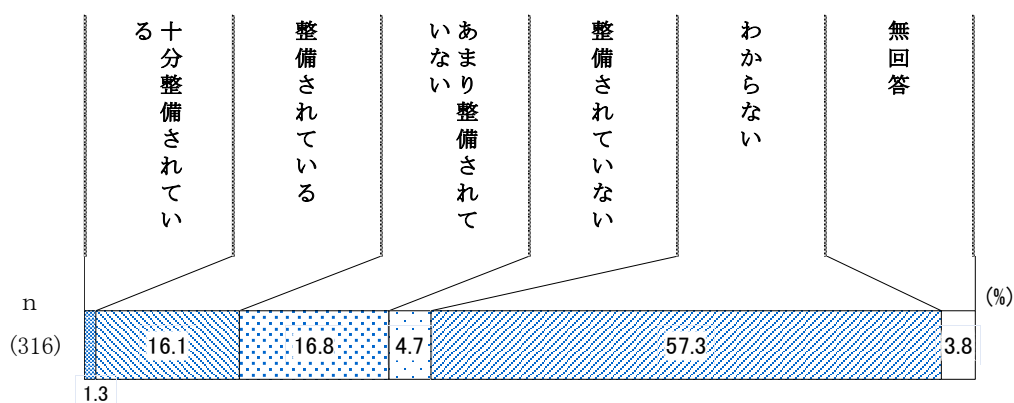
(1) 施策評価

問37 以下の(1)～(12)について、皆様のお考えをうかがいます。(○はそれぞれ1つずつ)

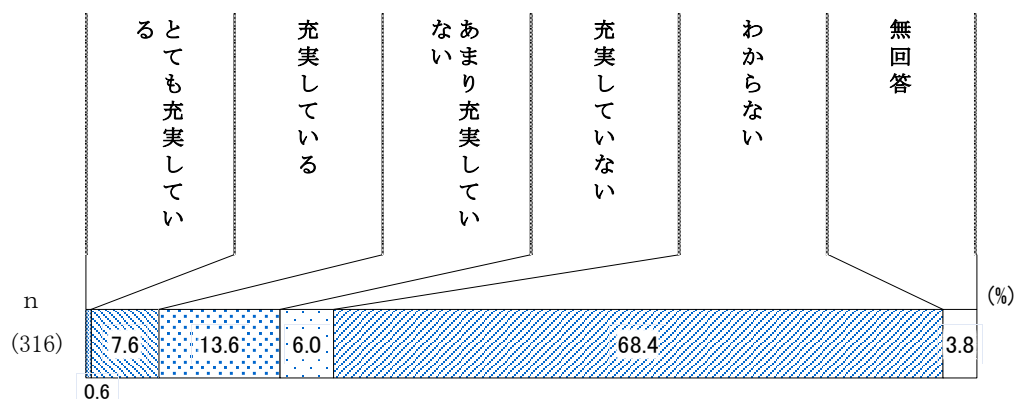
(1) 市の福祉施策に関する情報は、広報紙や市の公式ホームページ等で、情報提供を行っておりますが、必要な情報を得られていると思いますか。



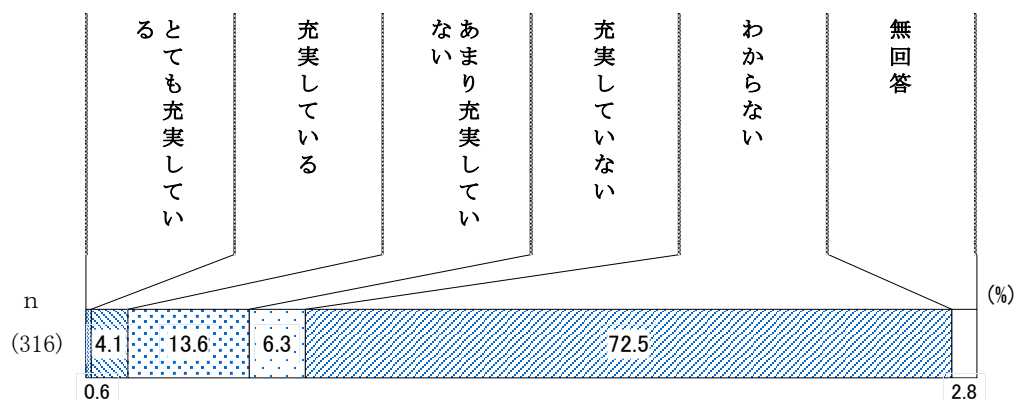
(2) 高齢者、障害者、子育て家庭等の方のための専門的な相談窓口（高齢者サポートセンター[地域包括支援センター]、障害者地域生活支援センター、子ども家庭総合支援センター）を設置しておりますが、安心して生活できるように地域の相談体制は整備されていると思いますか。



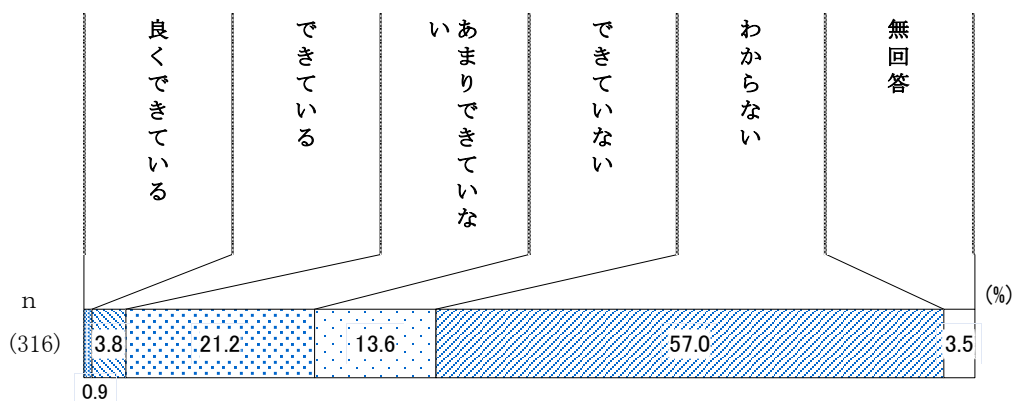
(3) 住み慣れた地域でできる限り暮らし続けられるような在宅医療(医師による訪問診察等)の支援は充実していると思いますか。



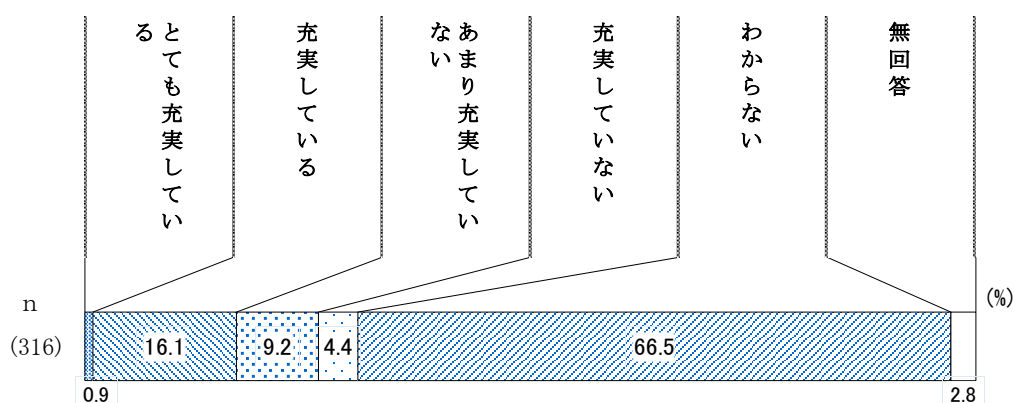
(4) 認知症などにより、日常生活を送る上で十分な判断ができない人や、体の自由が利かない人のため相談窓口や福祉サービスの利用手続きの援助、日常的な金銭管理等の支援は充実していると思いますか。



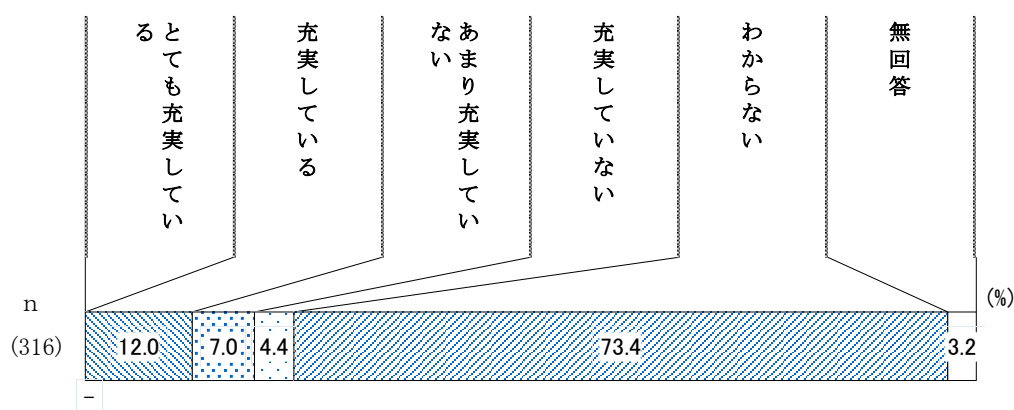
(5) ご自身が住む地域において、引きこもりがちな高齢者、障害者、子育て世帯等を含め、誰もが安心して生活を送れるよう、地域での住民同士の交流や支え合いができていますか。



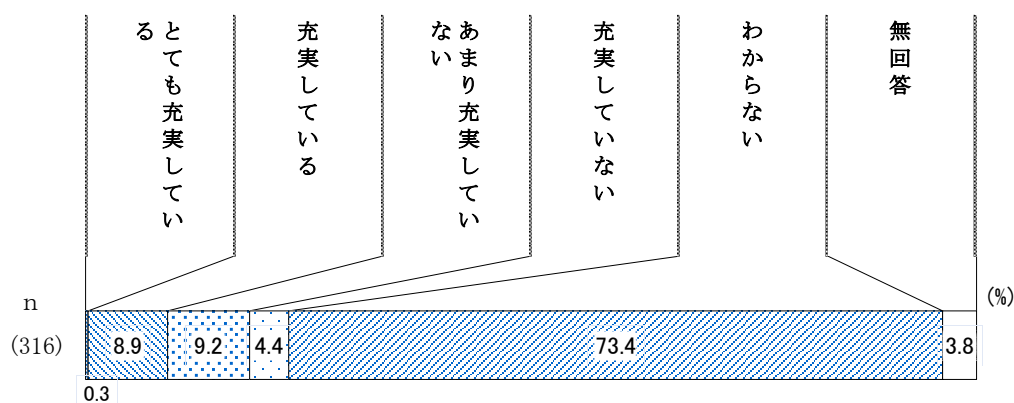
（６）本市では小学校区を中心とした防災拠点の整備や警報器の普及等、緊急時の支援体制の整備を行っています。体制の整備は充実していると思いますか。



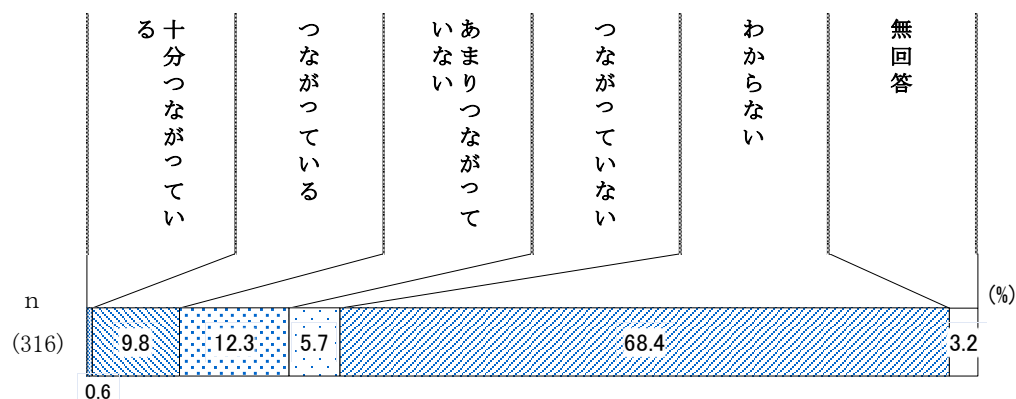
（７）住み慣れた家で安心して暮らし続けられるよう、手すりの取り付け工事や段差解消のバリアフリーに関する住宅リフォーム相談を行っています。相談体制は充実していると思いますか。



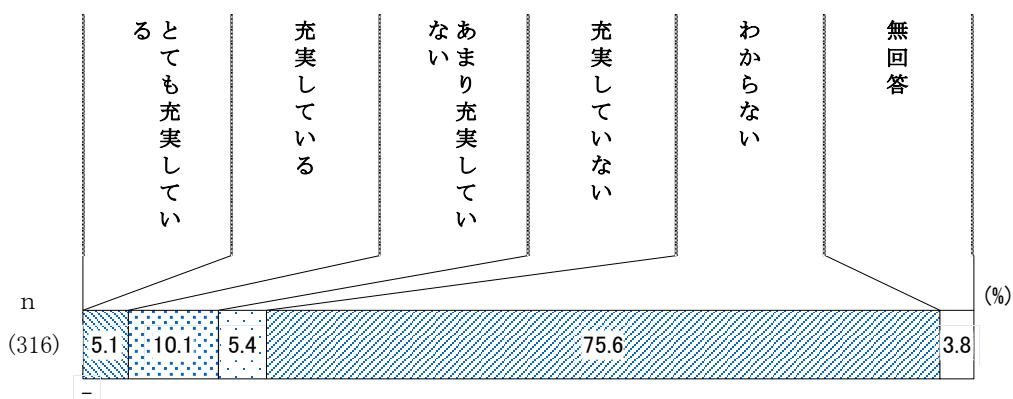
（８）高齢者や障害者など、自身での移動が困難な方の移動を支援するために、福祉有償運送（社会福祉法人やNPO法人等が一人では公共交通機関を利用することが困難な身体障害者や要介護者の方に運送を行うもの）を行っています。外出手段は充実していると思いますか。



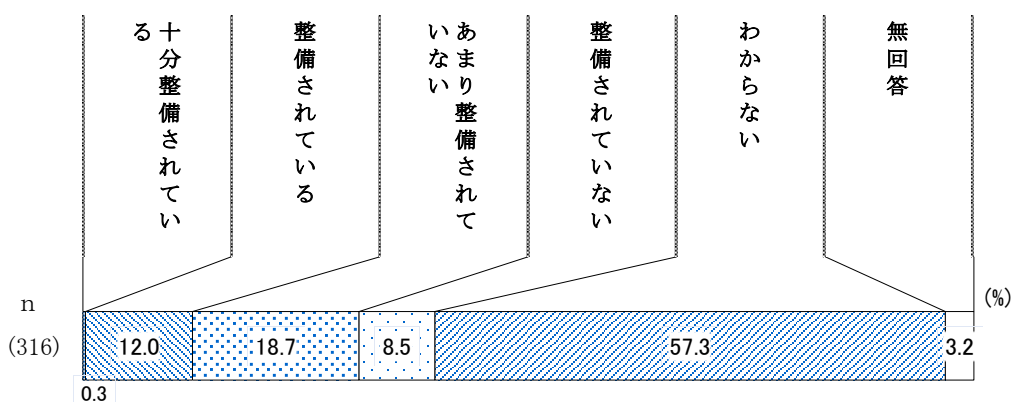
（９）「だれもが安心して暮らし続けることができる地域づくり」を実現するために、市職員が地域に出向き、福祉に関するテーマの講座を実施していますが、地域福祉に対する意識の向上につながっていると思いますか。



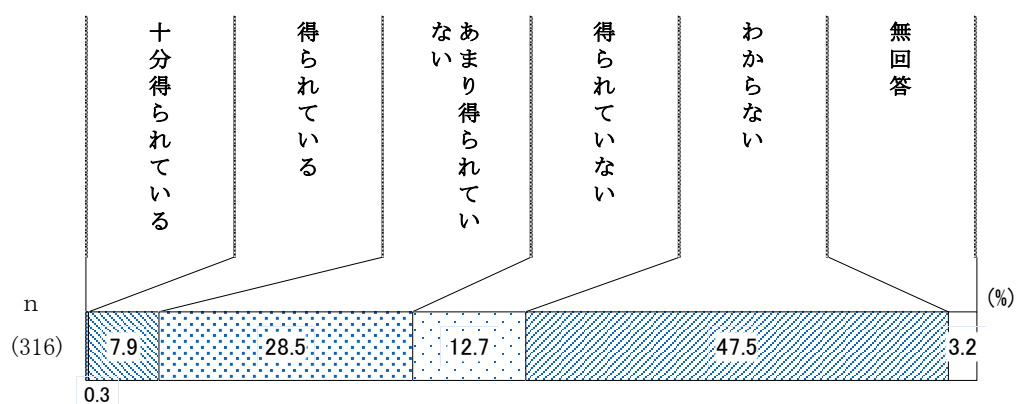
（１０）地域福祉の推進にあたり、活動に取り組む担い手の確保、研修会や講習会等の人材育成の環境は充実していると思いますか。



（１１）ご自身の住む地域において、気軽に集まり交流できる場やサークル活動・生涯学習等が行える活動の場が、整備されていると思いますか。



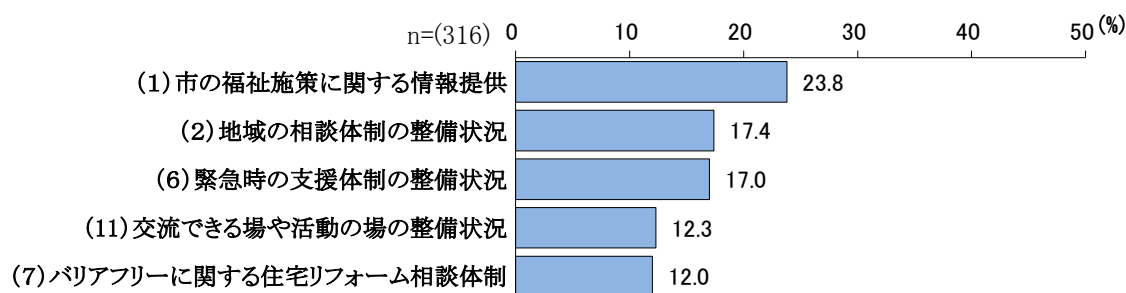
（１２）住み慣れた地域で安心して暮らし続けるためには、地域で生活する方々が協力し、助け合うことが必要です。必要なときに地域活動や市民活動団体などの情報を得られていると思いますか。



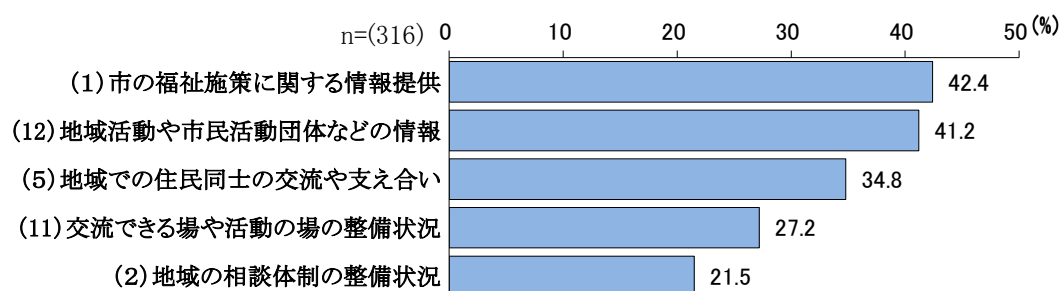
市の福祉施策についての評価を、《肯定的評価》（「十分に得られている」＋「得られている」等）の高い順でみると、『（１）市の福祉施策に関する情報提供』が23.8%で最も多く、次いで『（２）地域の相談体制の整備状況』が17.4%、『（６）緊急時の支援体制の整備状況』が17.0%の順で続いている。

一方、《否定的評価》（「あまり得られていない」＋「得られていない」等）の高い順でみると、『（１）市の福祉施策に関する情報提供』が42.4%で最も多く、次いで『（１２）地域活動や市民活動団体などの情報』が41.2%、『（５）地域での住民同士の交流や支え合い』が34.8%の順で続いている。

【肯定的評価（上位５項目）】



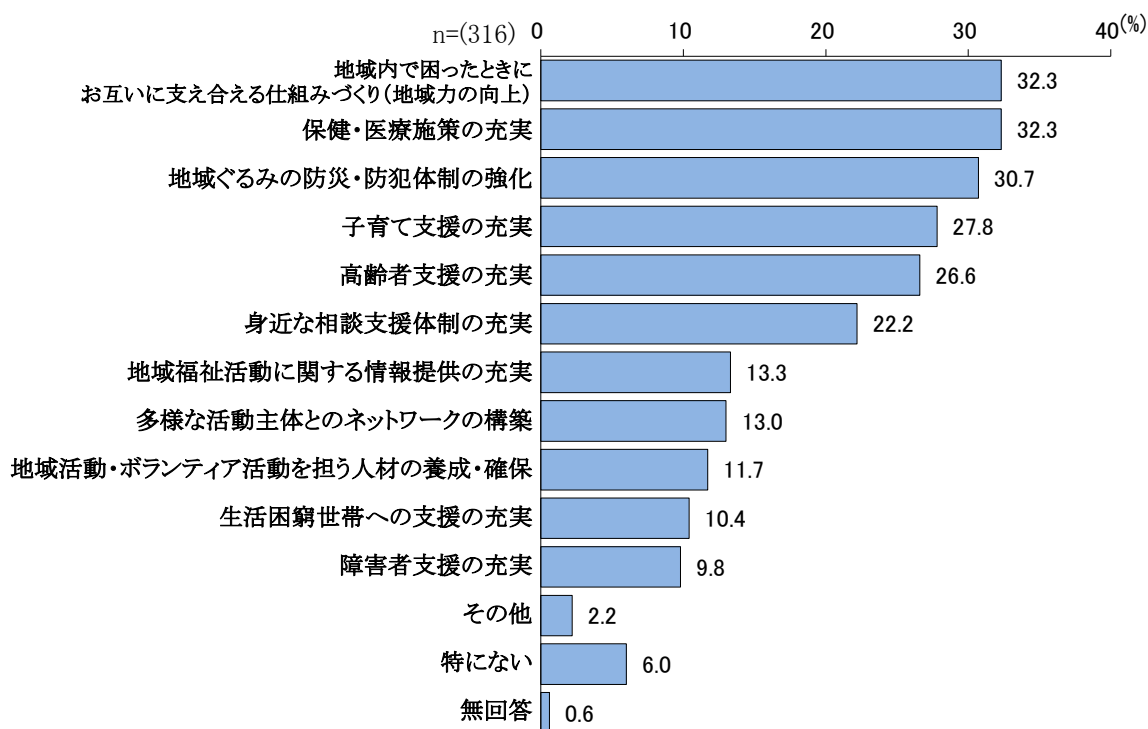
【否定的評価（上位５項目）】



7. 今後取り組んでほしい施策の方向性

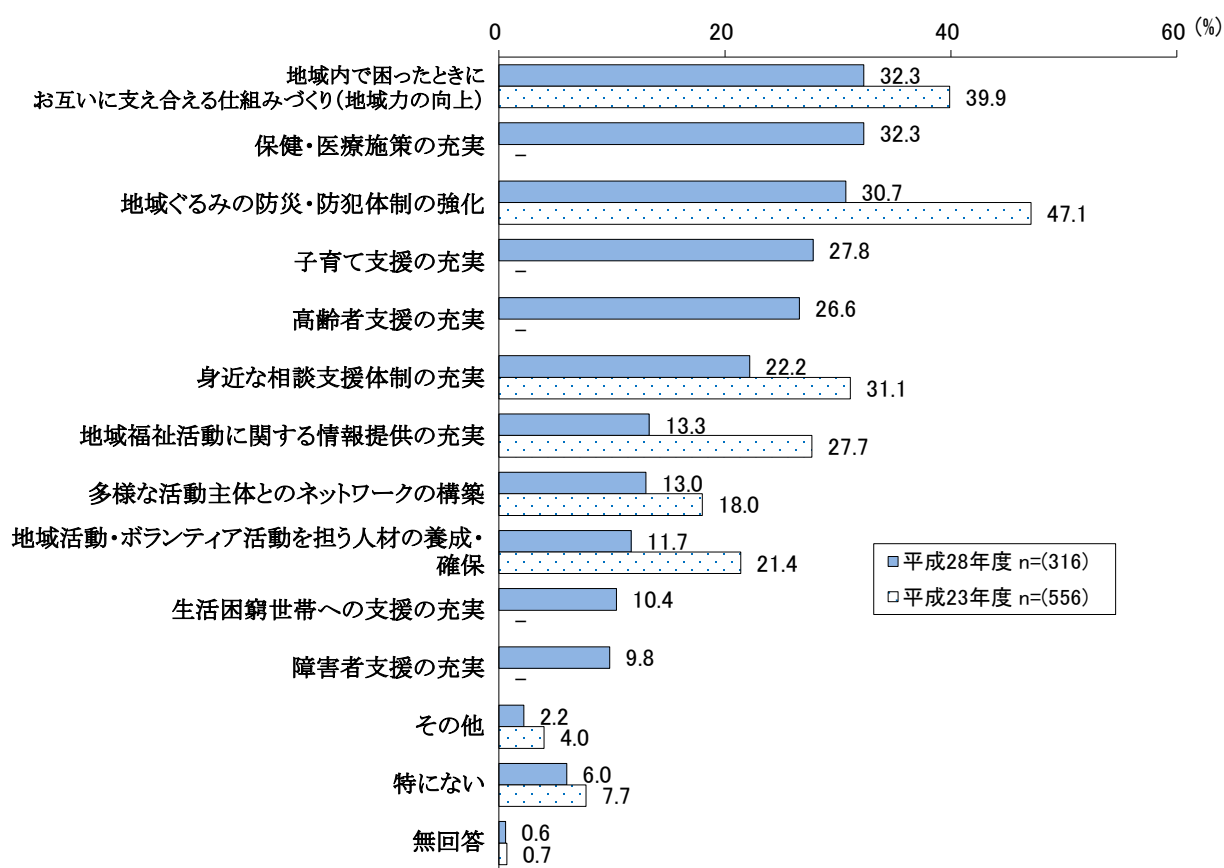
(1) 地域福祉分野の施策で特に力を入れてほしいこと

問38 市川市の地域福祉分野の施策について、今後あなたが特に力を入れてほしいと思われることは何ですか。(〇は3つまで)



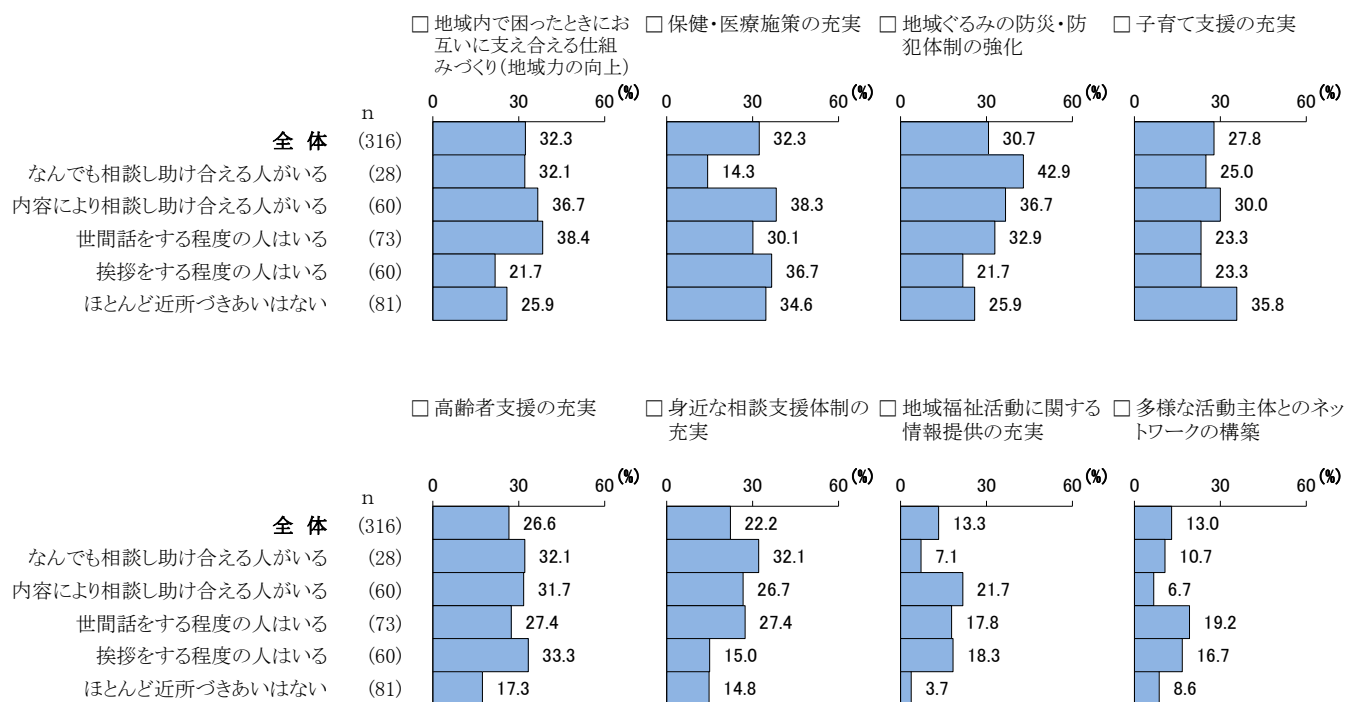
地域福祉分野の施策で特に力を入れてほしいこととしては、「地域内で困ったときにお互いに支え合える仕組みづくり（地域力の向上）」「保健・医療施策の充実」が、ともに32.3%で最も多く、次いで「地域ぐるみの防災・防犯体制の強化」が30.7%、「子育て支援の充実」が27.8%の順が続いている。

《 前回調査との比較 地域福祉分野の施策で特に力を入れてほしいこと 》



経年でみると、平成23年度の調査結果と比べると、「地域内で困ったときにお互いに支え合える仕組みづくり（地域力の向上）」「地域ぐるみの防災・防犯体制の強化」は減少している。

【近所づきあいの程度別の地域福祉分野の施策で特に力を入れてほしいこと（上位8項目）】



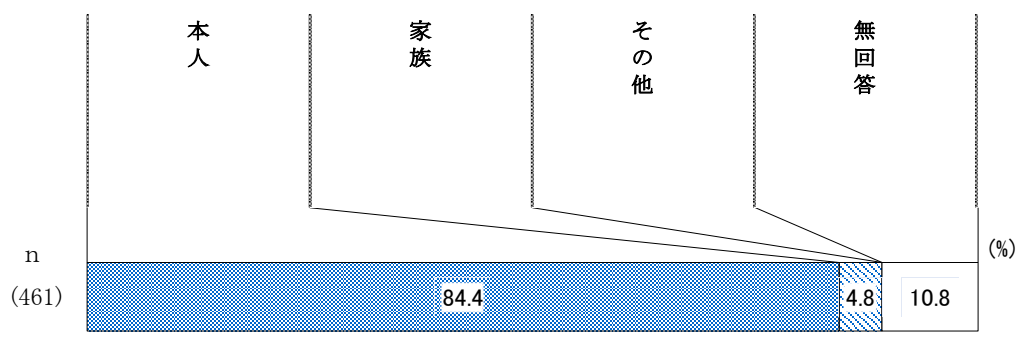
近所づきあいの程度別でみると、『立ち入った相談事はしないが、世間話をする程度の人はい』では「地域内で困ったときにお互いに支え合える仕組みづくり（地域力の向上）」が38.4%と多く、『何かで困ったときには、なんでも相談し助け合える人がいる』では「地域ぐるみの防災・防犯体制の強化」が42.9%と多くなっている。

第4章 調査結果の詳細／高齢者

1. 回答者の属性

(1) 調査票の記入者

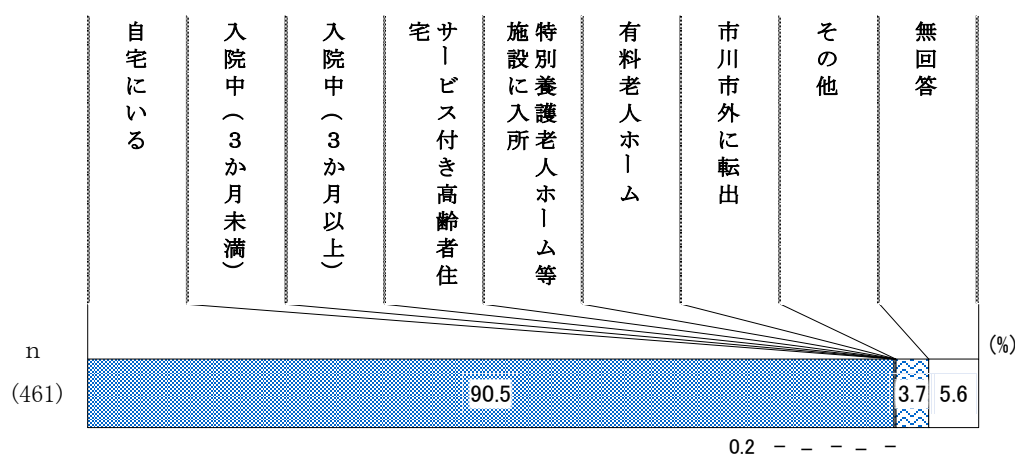
問1 この調査票を記入する方はどなたですか。(○は1つだけ)



記入者は、「本人」が84.4%、「家族」が4.8%となっている。

(2) 対象者の現況

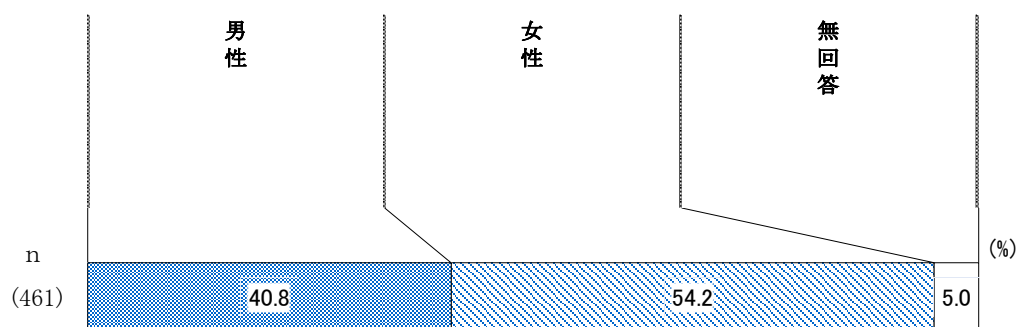
問2 あなた（あて名のご本人）の現在の状況についておたずねします。次のうち、あてはまるものをお選びください。(○は1つだけ)



現在の状況は、「自宅にいる」が90.5%を占めている。

(3) 性別

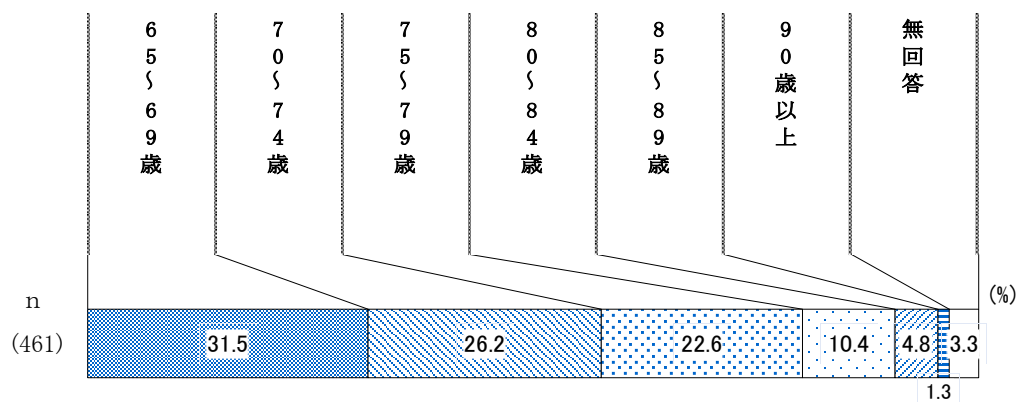
問3 あなた（あて名のご本人）の性別は。（○は1つだけ）



性別をみると、「男性」が40.8%、「女性」が54.2%となっている。

(4) 年齢

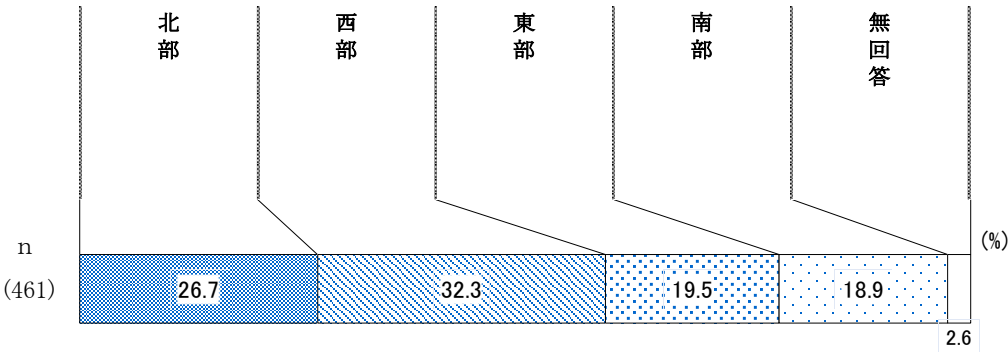
問4 あなた（あて名のご本人）の年齢は。（○は1つだけ）



年齢をみると、「65～69歳」が31.5%で最も多く、次いで「70～74歳」が26.2%、「75～79歳」が22.6%となっている。

(5) 居住地区

問5 あなた（あて名のご本人）は、現在どの地区にお住まいですか。以下の右欄「地区の町丁」をご確認いただき、左欄「地区」の番号に○をつけてください。（○は1つだけ）



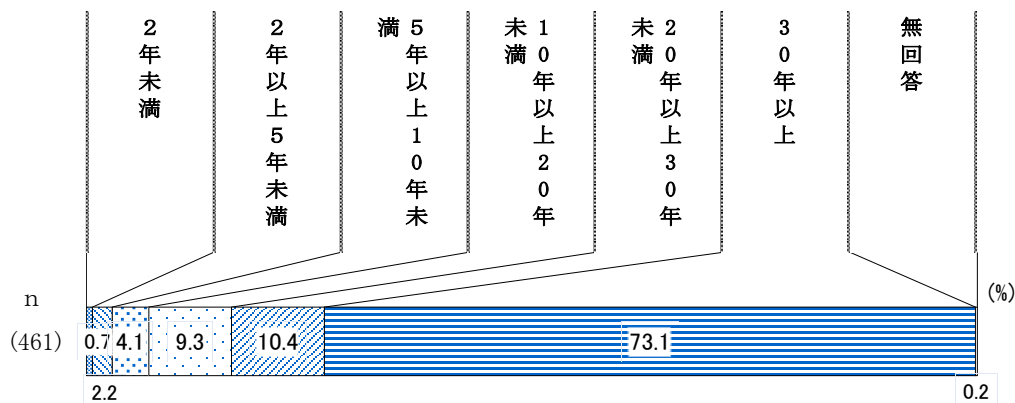
北 部				西 部				
国分	曾谷	大柏	宮久保・下貝塚	国府台	市川第1	市川第2	真間	菅野・須和田
6.9%	7.4	4.6	7.8	6.9	7.4	6.5	5.2	6.3

東 部			南 部			無回答
八幡	市川東部	信篤・二俣	行徳	南行徳第1	南行徳第2	
6.5%	6.5	6.5	7.2	5.9	5.9	2.6

居住地区をみると、「西部」が32.3%で最も高く、以下「北部」26.7%、「東部」19.5%、「南部」18.9%となっている。

(6) 居住年数

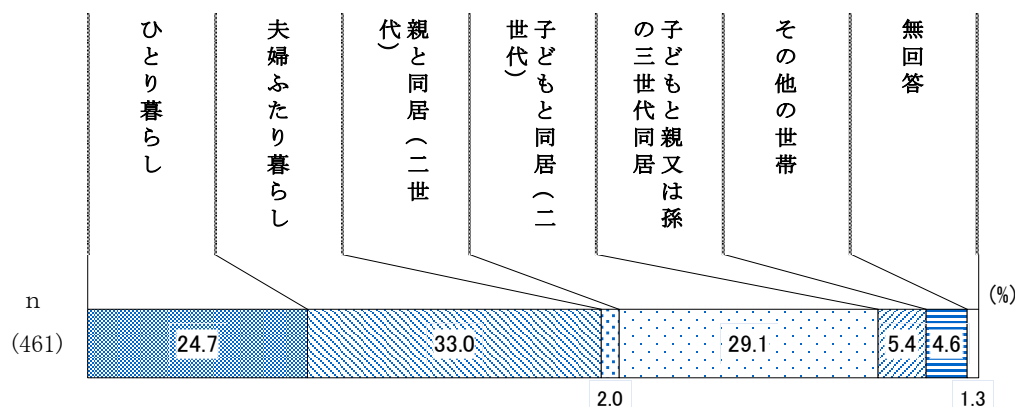
問6 あなた（あて名のご本人）ご自身、市川市に住むようになってから何年になりますか。（○は1つだけ）



居住年数をみると、「30年以上」が73.1%で最も多く、次いで「20年以上30年未満」が10.4%となっている。

(7) 世帯構成

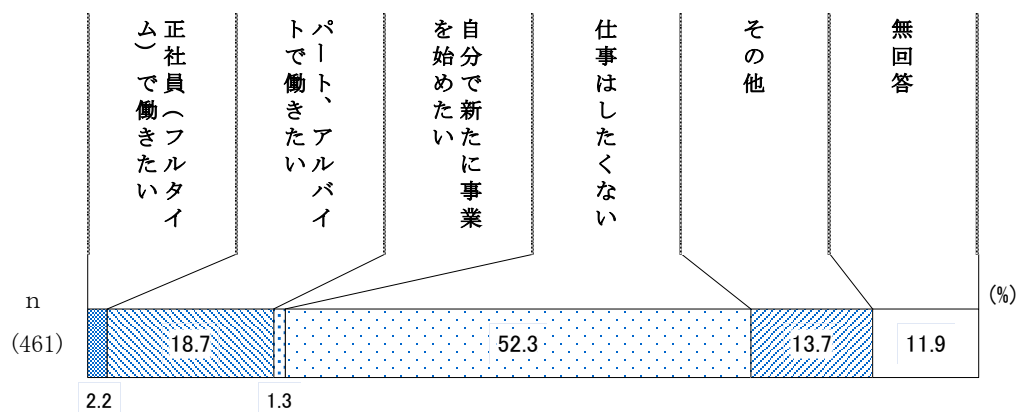
問7 あなた（あて名のご本人）の世帯構成は。（○は1つだけ）



世帯構成をみると、「夫婦ふたり暮らし」が33.0%で最も多く、次いで「子どもと同居（二世帯）」が29.1%、「ひとり暮らし」が24.7%と続いている。

(8) 現在の仕事をやめた後の過ごし方

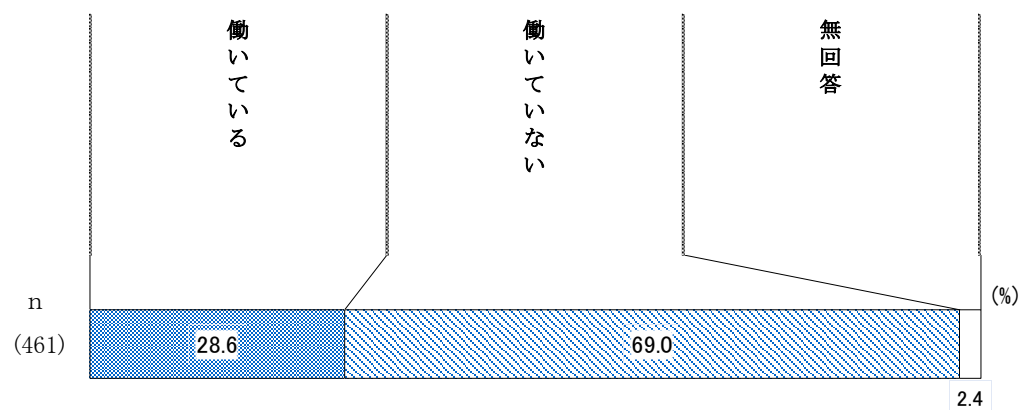
問8 仕事をしている方は現在の仕事をやめたあと、また、仕事をしていない方は今後、次のようなことをしたいと思いますか。(〇は1つだけ)



現在の仕事をやめた後、もしくは今後の過ごし方は、「仕事はしたくない」が52.3%で最も多く、次いで「パート、アルバイトで働きたい」が18.7%となっている。

(9) 就労の有無

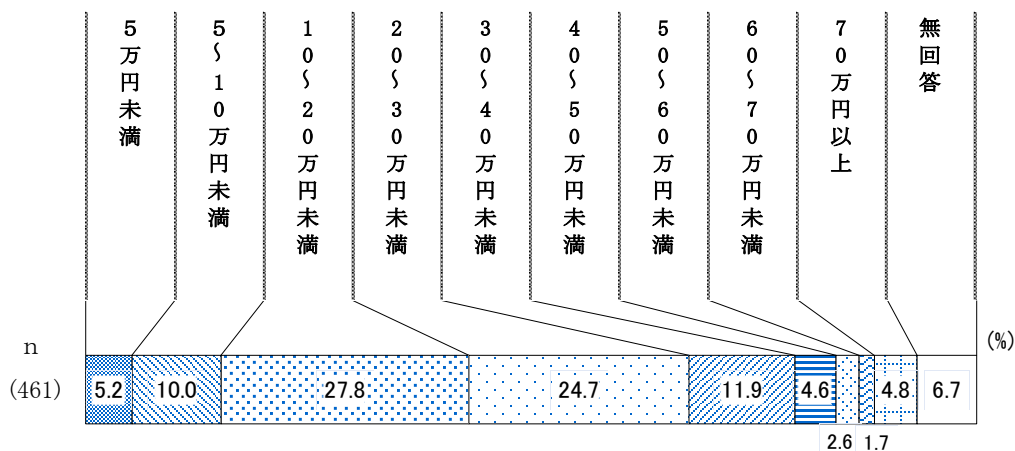
問9 現在、働いていらっしゃいますか(家事・ボランティアを除く)。(〇は1つだけ)



就労状況は、「働いている」が28.6%、「働いていない」が69.0%となっている。

(10) 月当たりの世帯収入

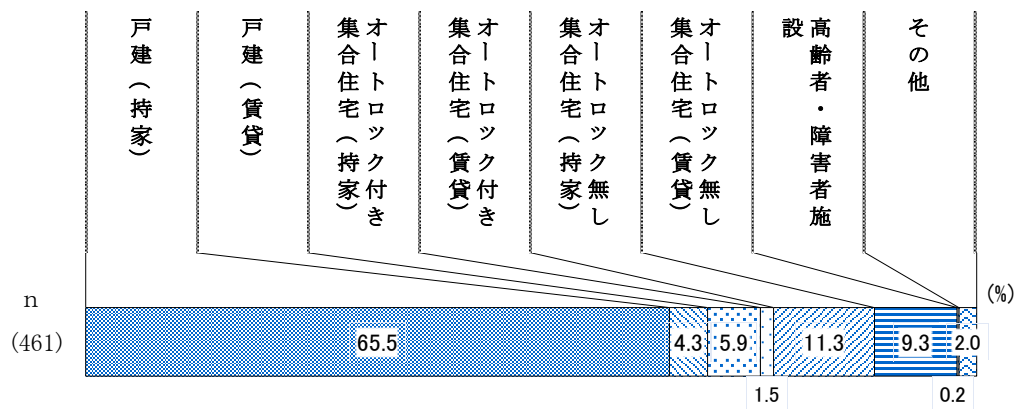
問10 月当たりの世帯収入はどのくらいですか。(○は1つだけ)



月当たりの世帯収入をみると、「10～20万円未満」が27.8%で最も多く、次いで「20～30万円未満」が24.7%、「30～40万円未満」が11.9%と続いている。

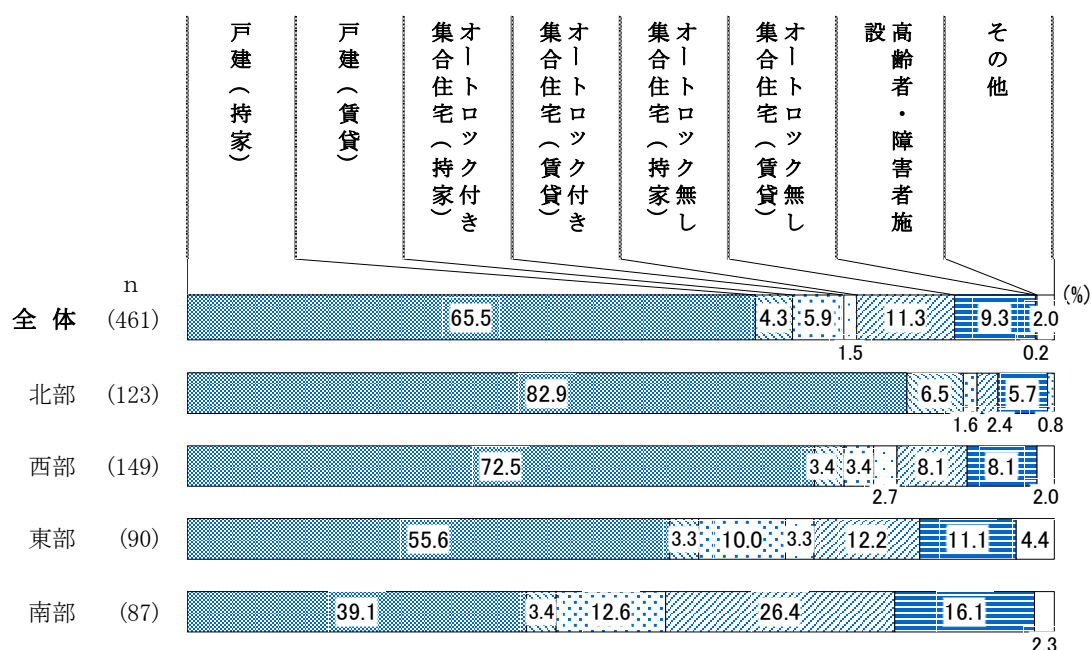
(11) 住居形態

問11 あなた（あて名のご本人）の住居の形態は。(○は1つだけ)



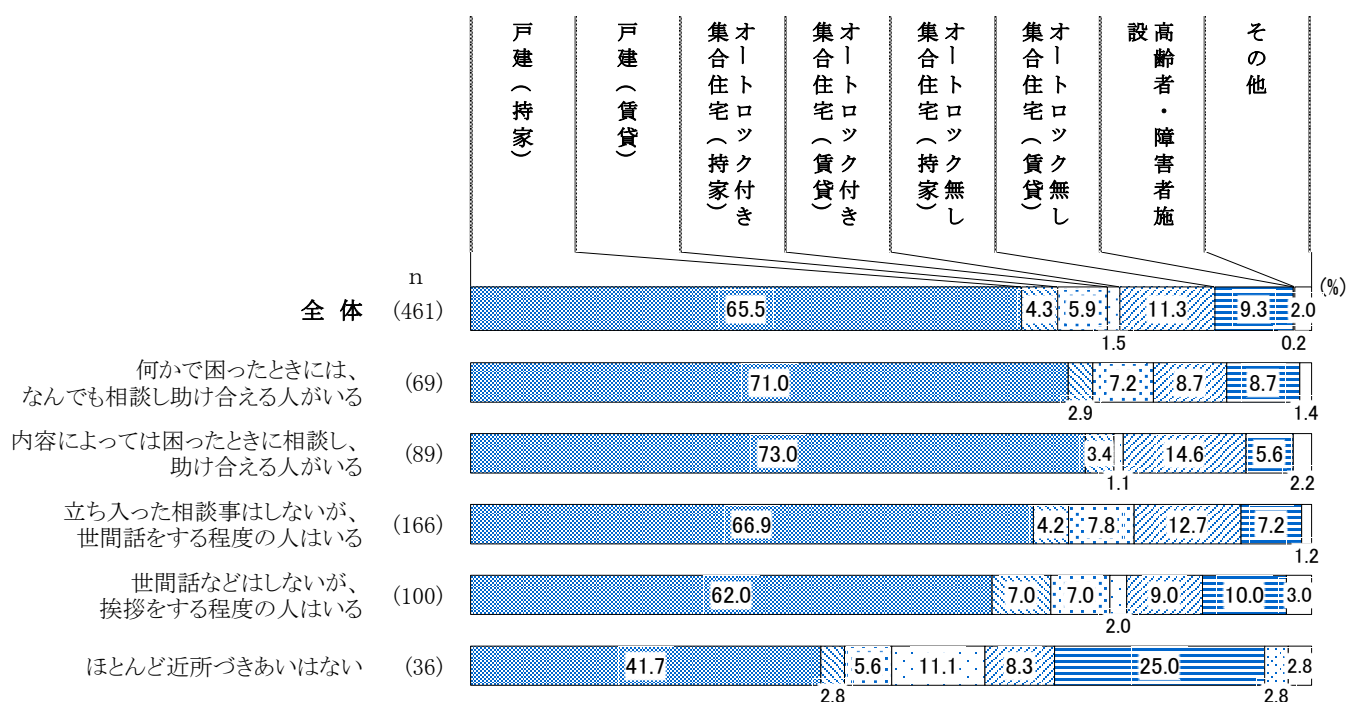
住居形態をみると、「戸建（持家）」が65.5%で最も多く、次いで「オートロック無し集合住宅（持家）」が11.3%となっている。

【居住地区別の住居形態】



居住地区別でみると、『北部』『西部』では「戸建（持家）」が、それぞれ82.9%、72.5%と多くなっている。一方、『南部』では「オートロック無し集合住宅（持家）」が26.4%と多くなっている。

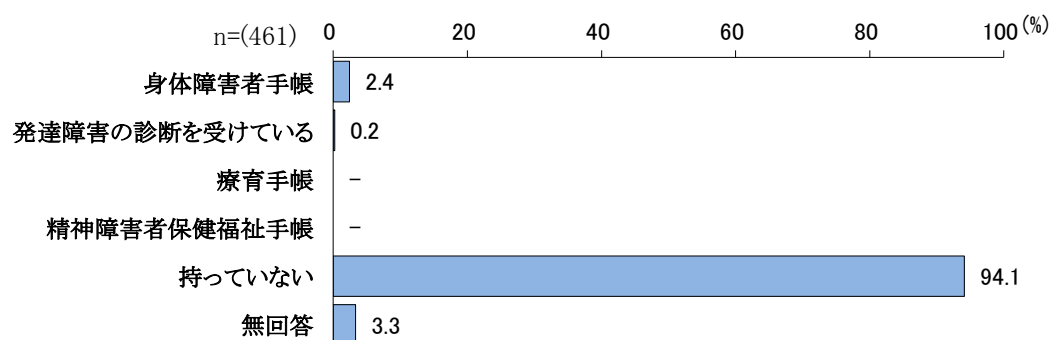
【近所づきあいの程度別の住居形態】



近所づきあいの程度別でみると、『何かで困ったときには、なんでも相談し助け合える人がいる』『内容によっては困ったときに相談し、助け合える人がいる』では「戸建（持家）」が、いずれも7割を超えている。

(12) 障害の有無

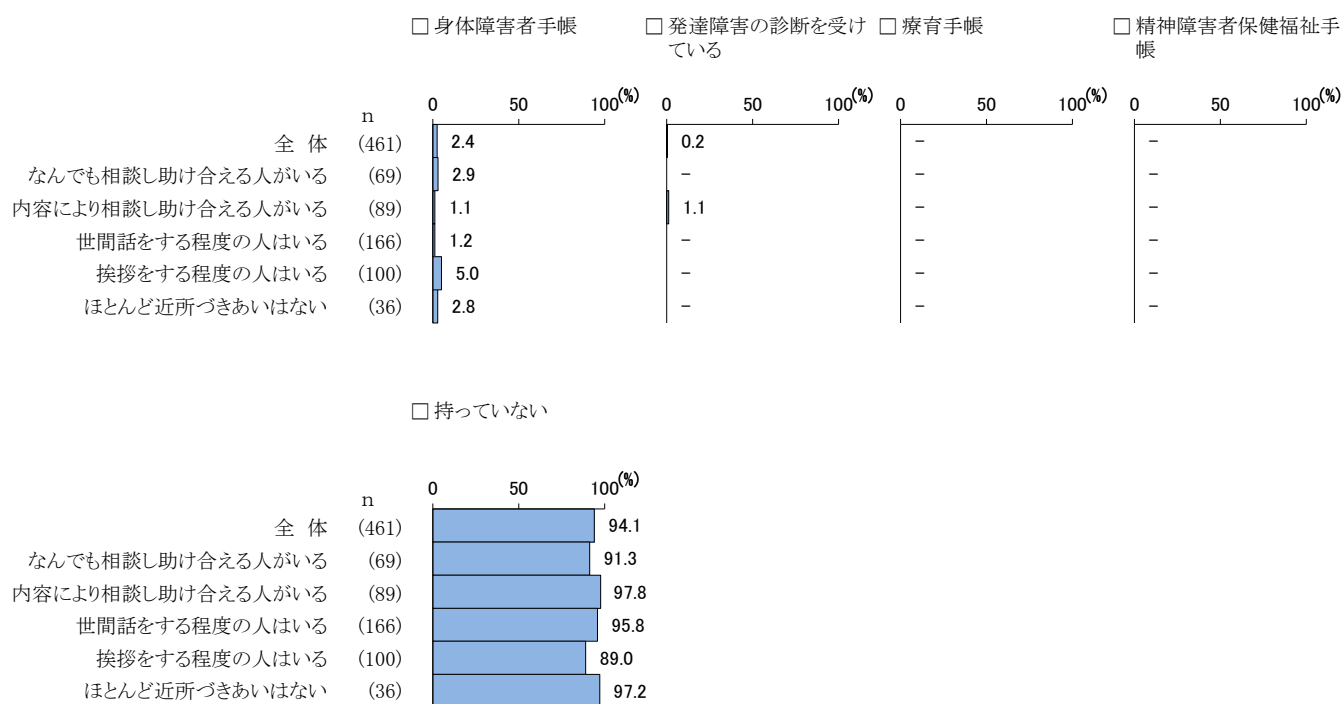
問12 あなた（あて名のご本人）は、何らかの障害をお持ちですか。（○はあてはまるものすべて）



障害の有無をみると、障害者手帳は「持っていない」が94.1%を占めている。

なお、身体障害者の等級としては、「1級」6人、「3級」1人、「4級」3人、「5級」1人となっている。

【近所づきあいの程度別の障害の有無】

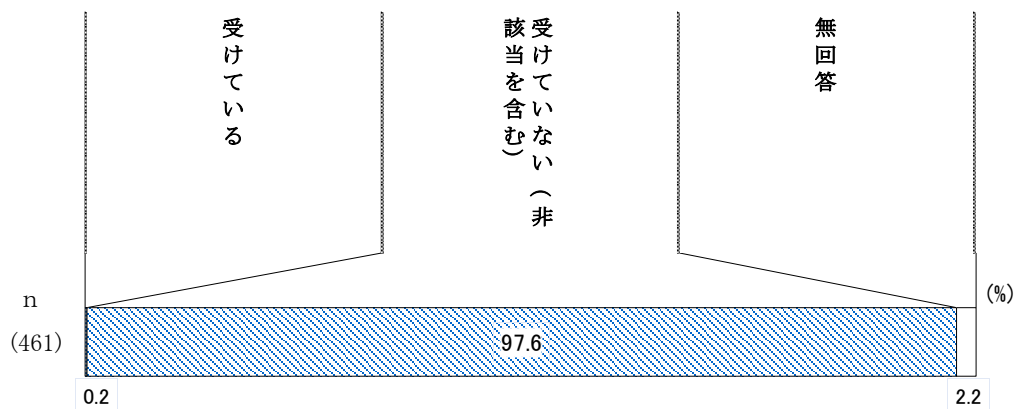


近所づきあいの程度別でみると、いずれの程度でも「持っていない」が多くなっている。

（１３）要介護認定の有無と要介護度

問13 あなた（あて名のご本人）は、介護保険制度の要介護認定を受けていますか。（○は1つだけ）

問13－１ 要介護度の区分はどれですか。（○は1つだけ）

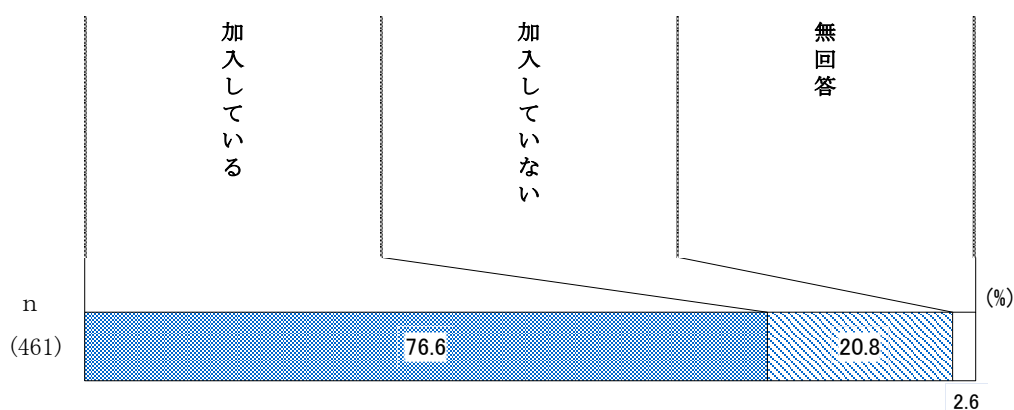


要介護認定については、「受けていない」が97.6%を占めている。

要介護認定を「受けている」は0.2%になるが、要介護度区分については無回答となっている。

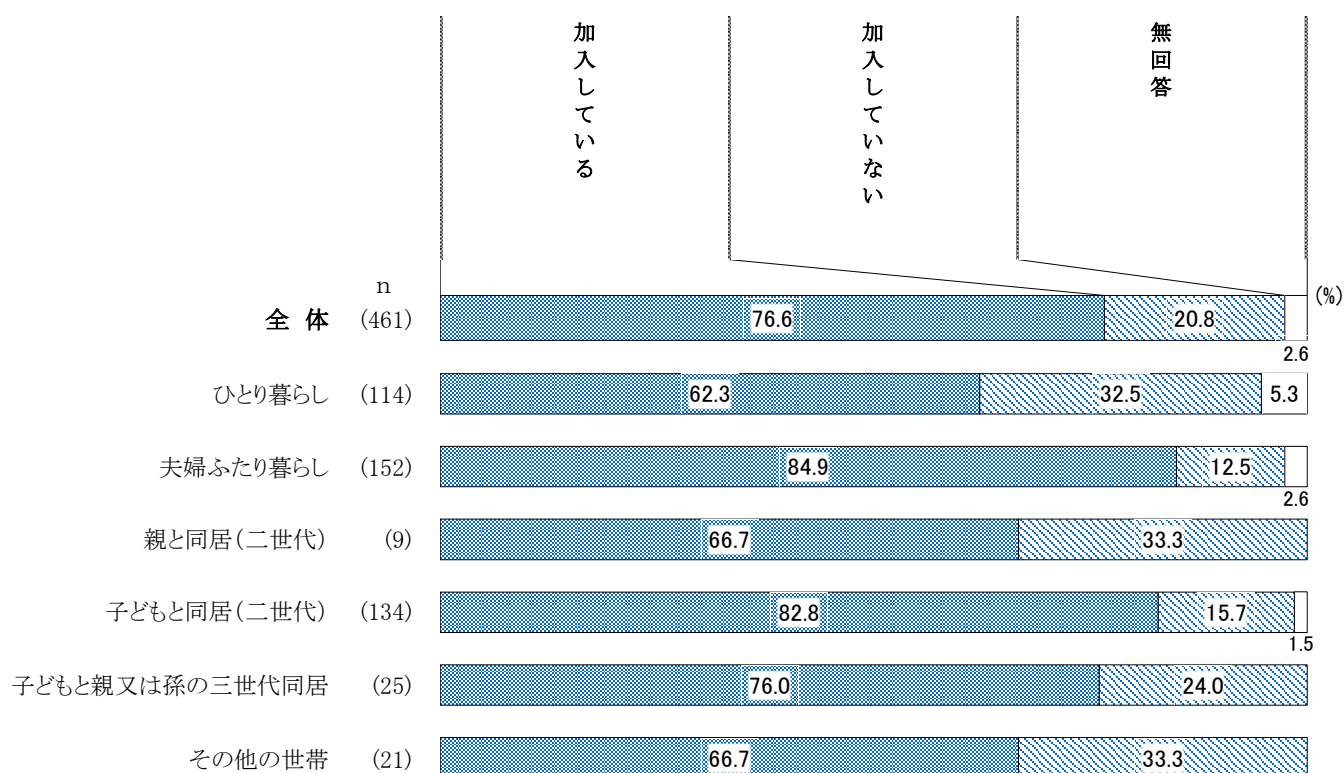
（１４）自治（町）会の加入状況

問14 あなた（あて名のご本人）の家では自治（町）会に加入していますか。（○は1つだけ）



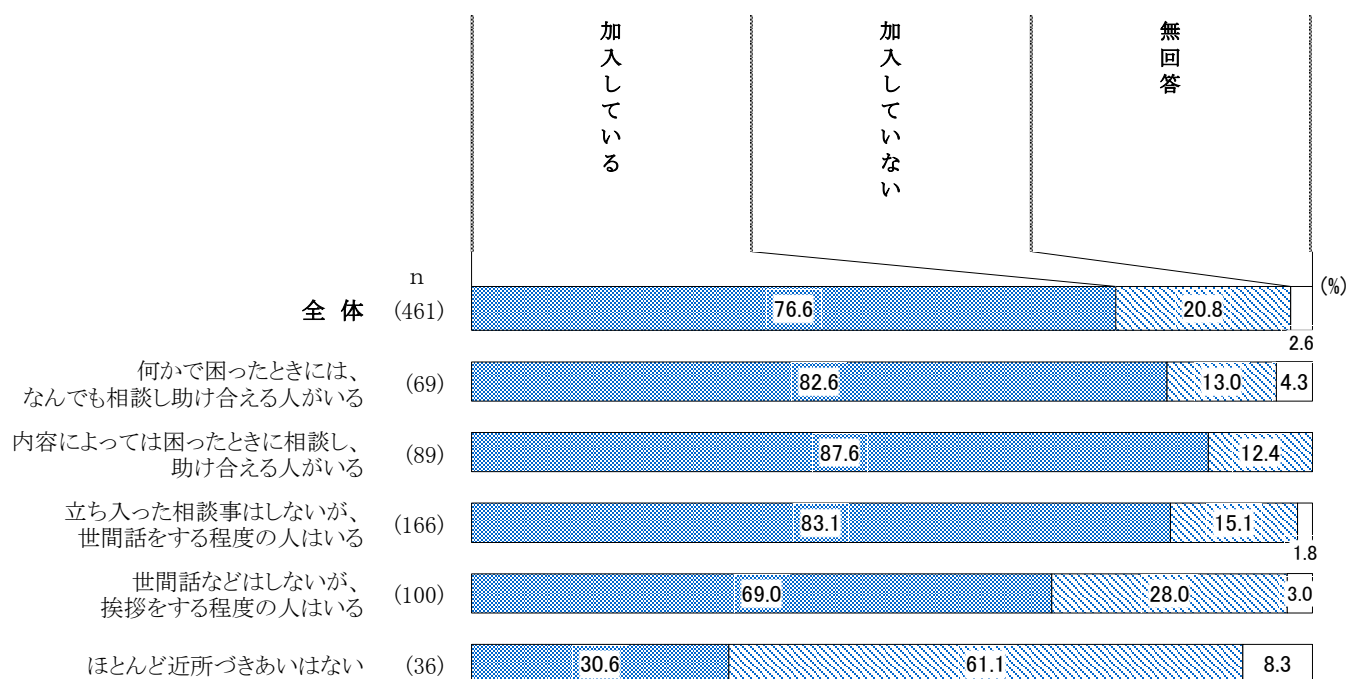
自治（町）会の加入状況を見ると、「加入している」が76.6%、「加入していない」が20.8%となっている。

【世帯構成別の自治会の加入状況】



世帯構成別でみると、『夫婦ふたり暮らし』では「加入している」が84.9%、『子どもと同居（二世帯）』でも82.8%と多くなっている。

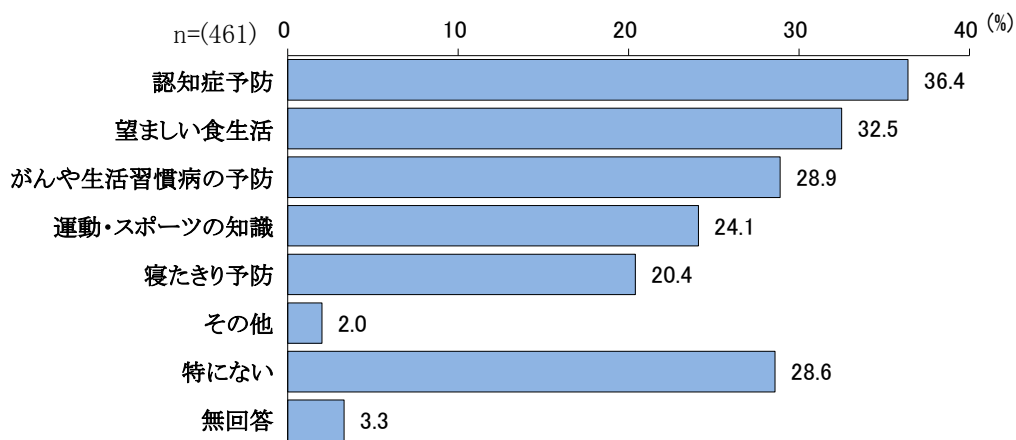
【近所づきあいの程度別の自治会の加入状況】



近所づきあいの程度別でみると、『内容によっては困ったときに相談し、助け合える人がある』『立ち入った相談事はしないが、世間話をする程度の人がある』『何かで困ったときには、なんでも相談し助け合える人がある』では「加入している」が、それぞれ87.6%、83.1%、82.6%と、8割を超えている。一方、『ほとんど近所づきあいはない』では「加入していない」が61.1%と多くなっている。

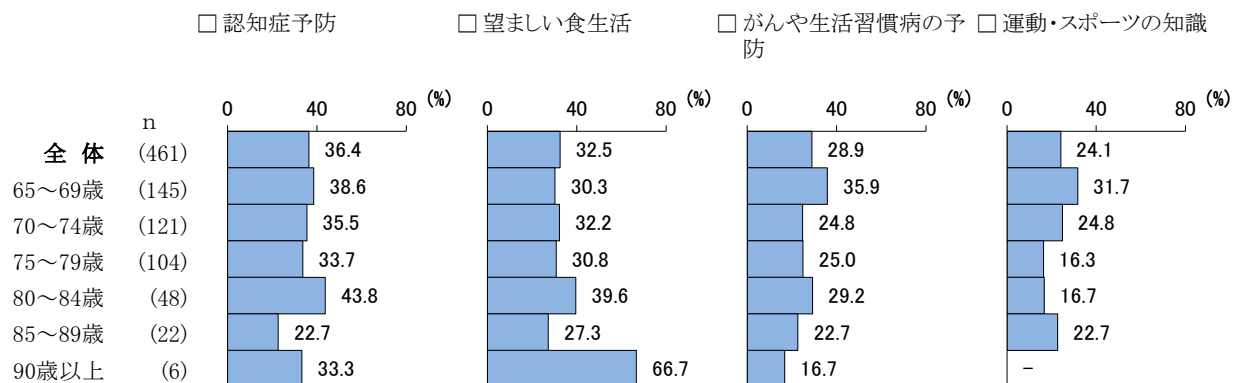
(16) 健康維持のために知りたい情報

問16 健康の維持のために知りたい情報は何ですか。(〇はあてはまるものすべて)



健康維持のために知りたい情報としては、「認知症予防」が36.4%で最も多く、次いで「望ましい食生活」が32.5%、「がんや生活習慣病の予防」が28.9%の順で続いている。

【年齢別の健康維持のために知りたい情報（上位4項目）】



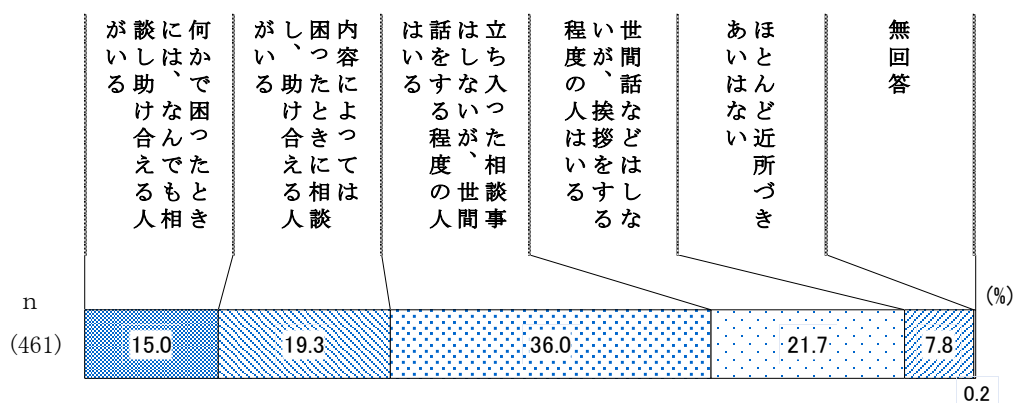
年齢別でみると、『80～84歳』では「認知症予防」が43.8%と多くなっている。

※ 回答者数の少ないものについては、分析ではふれていない。

2. 地域との関わり

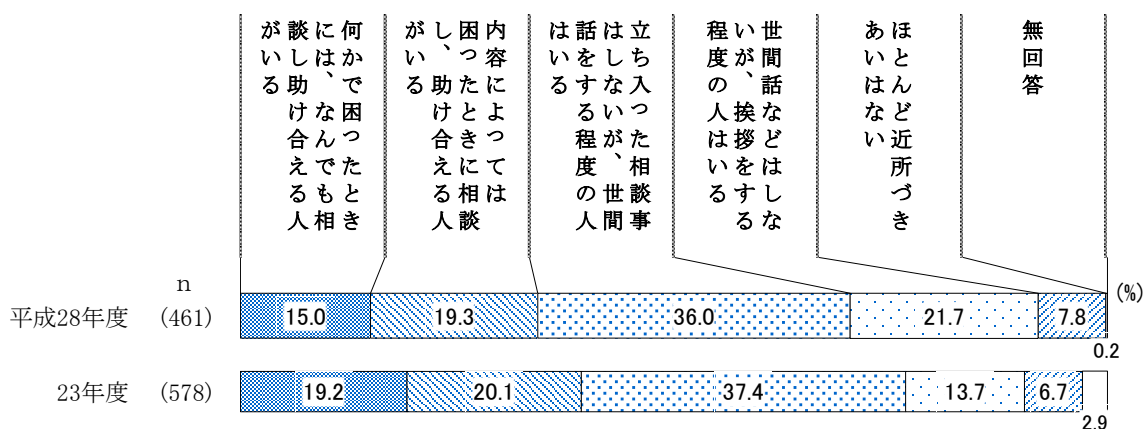
(1) 近所づきあいの程度

問17 近所（歩いて行ける程度の範囲）にどの程度のおつきあいの方がいますか。（○は1つだけ）



近所づきあいの程度をみると、「立ち入った相談事はしないが、世間話をする程度の人はいる」が36.0%で最も多く、次いで「世間話などはしないが、挨拶をする程度の人はいる」が21.7%、「内容によっては困ったときに相談し、助け合える人がいる」が19.3%の順で続いている。

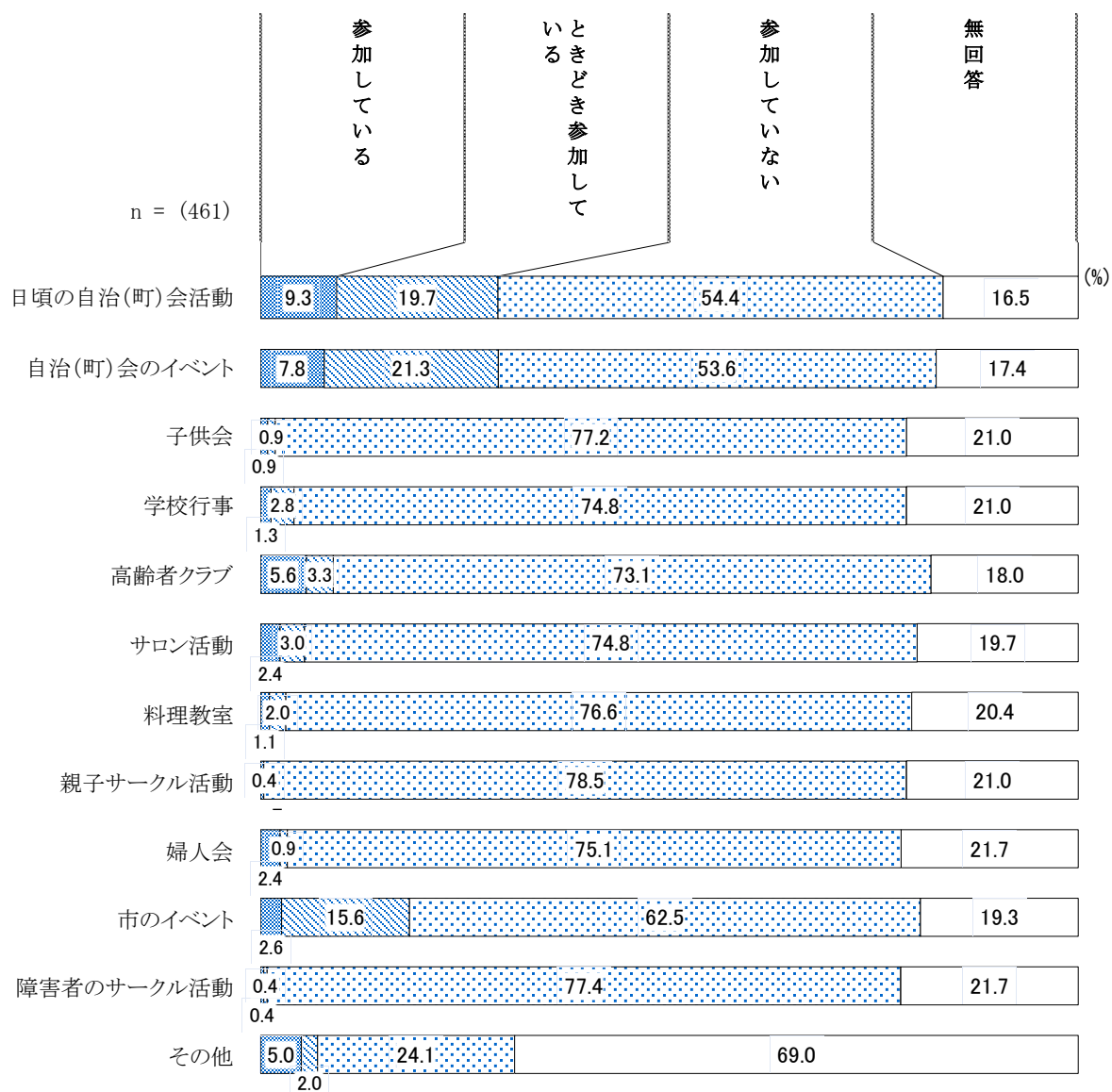
◀ 前回調査との比較 近所づきあいの程度 ▶



経年でみると、平成23年度の調査結果と比べて、「世間話などはしないが、挨拶をする程度の人はいる」が増加している。

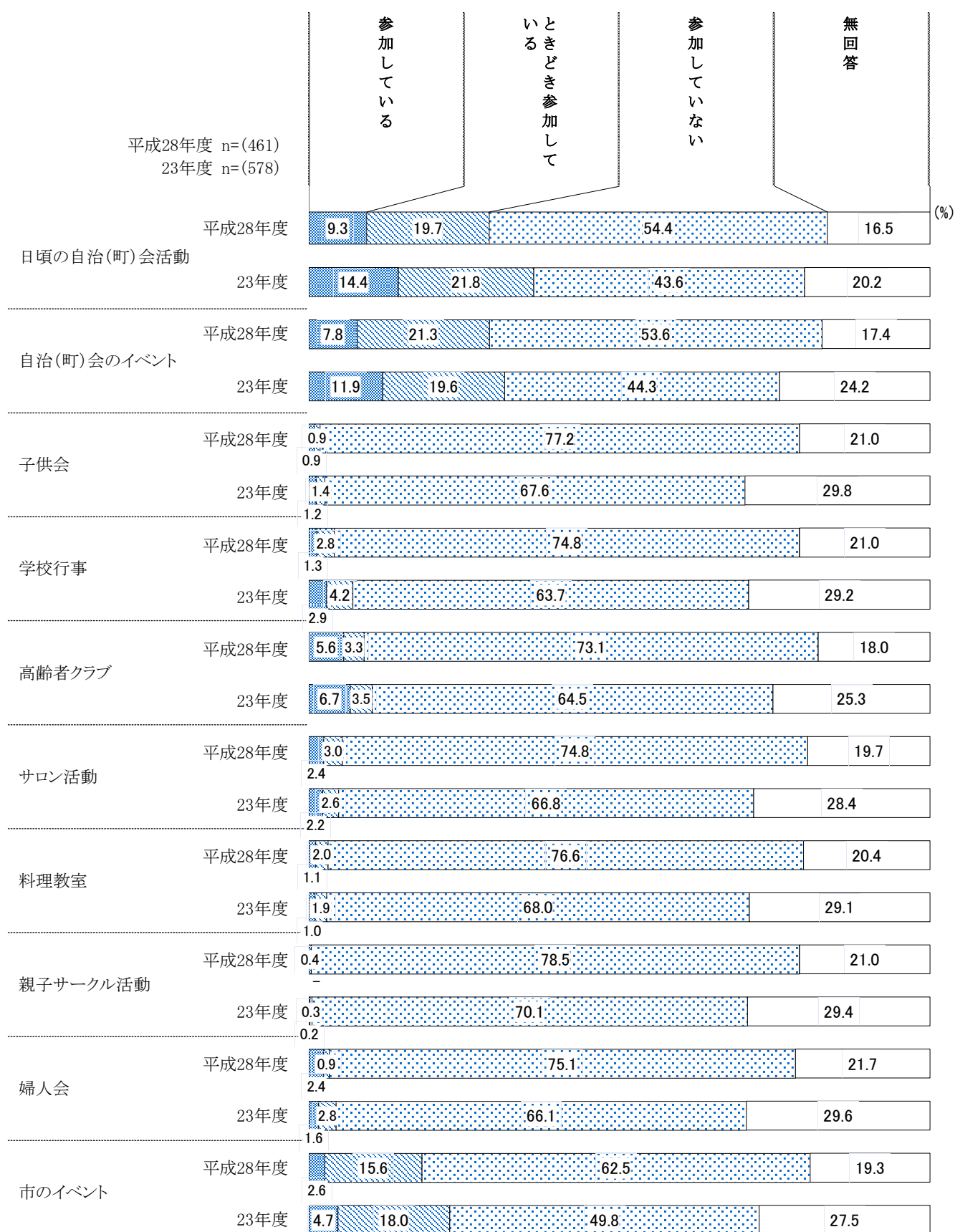
(2) 地域活動への参加状況

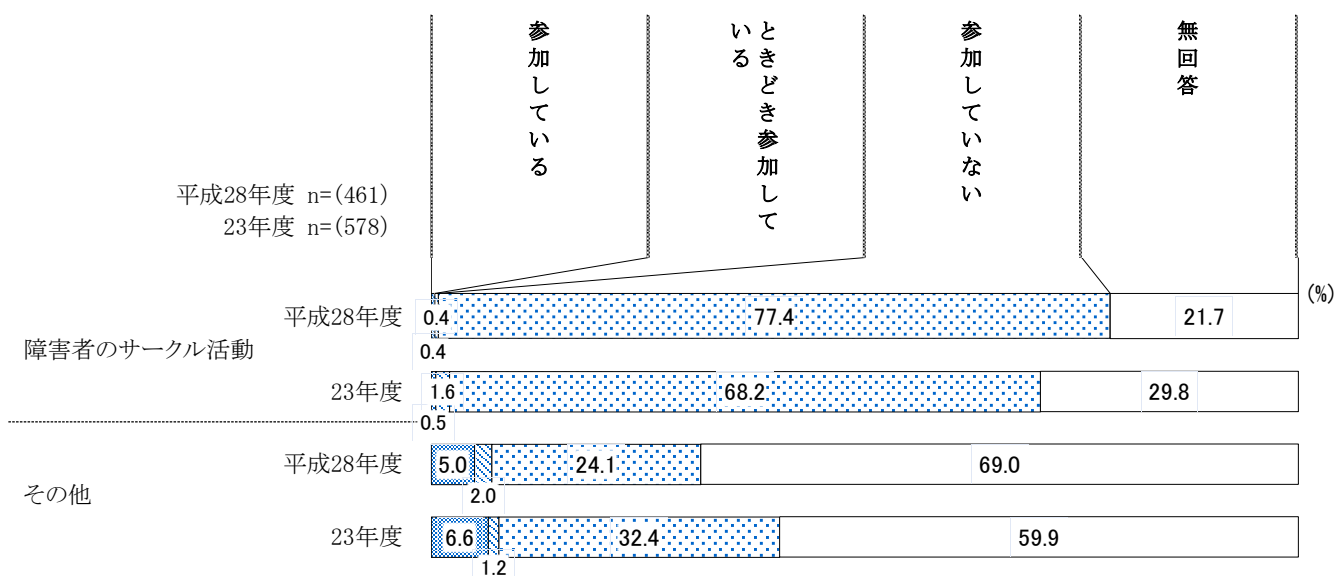
問18 あなた（あて名のご本人）は、次の地域の活動にどの程度参加していますか。（○はそれぞれ1つずつ）



地域への参加状況を見ると、「参加している」「ときどき参加している」という回答が多い順にみると、『自治（町）会のイベント』が29.1%で最も多く、次いで『日頃の自治（町）会活動』が29.0%、『市のイベント』が18.2%の順で続いている。

≪ 前回調査との比較 地域活動への参加状況 ≫

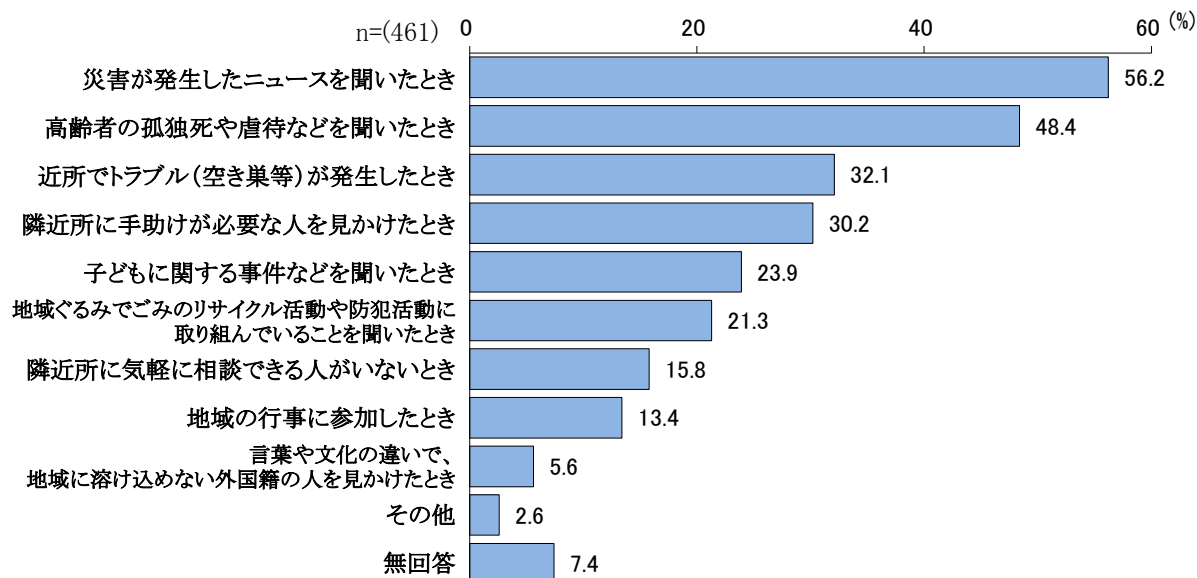




経年でみると、平成23年度の調査結果と比べて、『日頃の自治（町）会活動』が低下している。

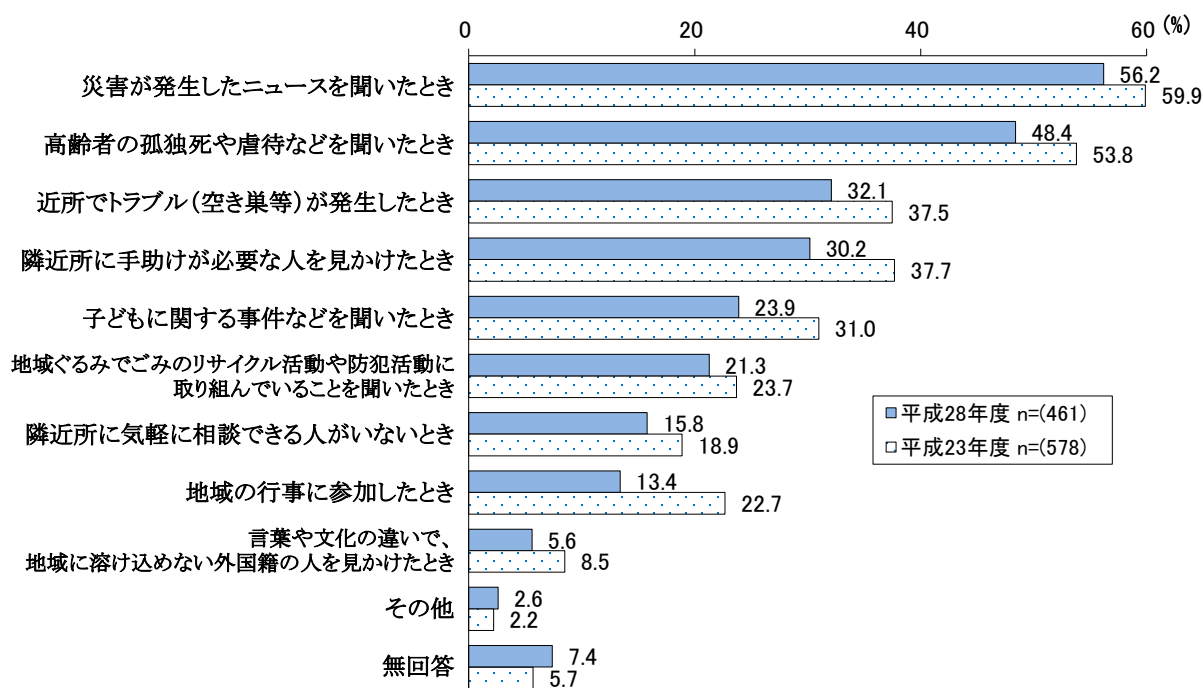
（3）地域との関わり必要性を感じたとき

問19 あなた（あて名のご本人）は、どのようなときに地域との関わり必要性を感じますか。（○はあてはまるものすべて）



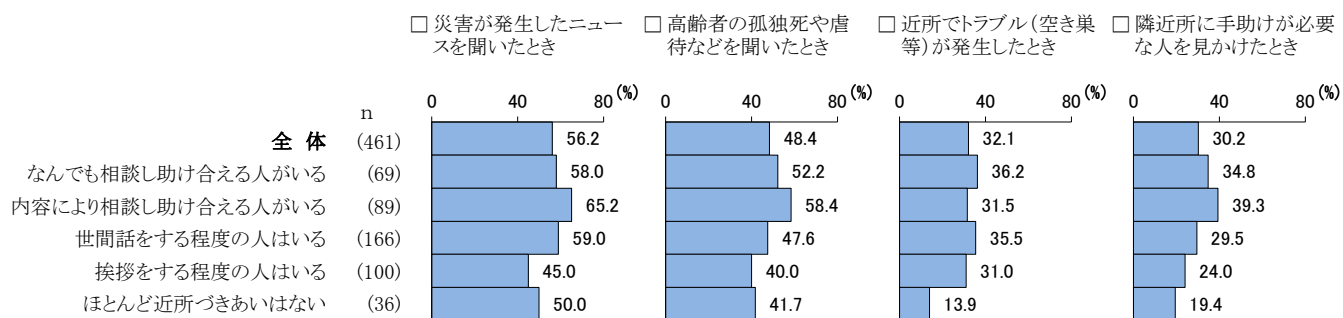
地域とのかかわりの必要性を感じたときについては、「災害が発生したニュースを聞いたとき」が56.2%で最も多く、次いで「高齢者の孤独死や虐待などを聞いたとき」が48.4%、「近所でトラブル（空き巣等）が発生したとき」が32.1%の順が続いている。

≪ 前回調査との比較 地域との関わりの必要性を感じたとき ≫



経年でみると、平成23年度の調査結果に比べて、「災害が発生したニュースを聞いたとき」と「高齢者の孤独死や虐待などを聞いたとき」がやや減少している。

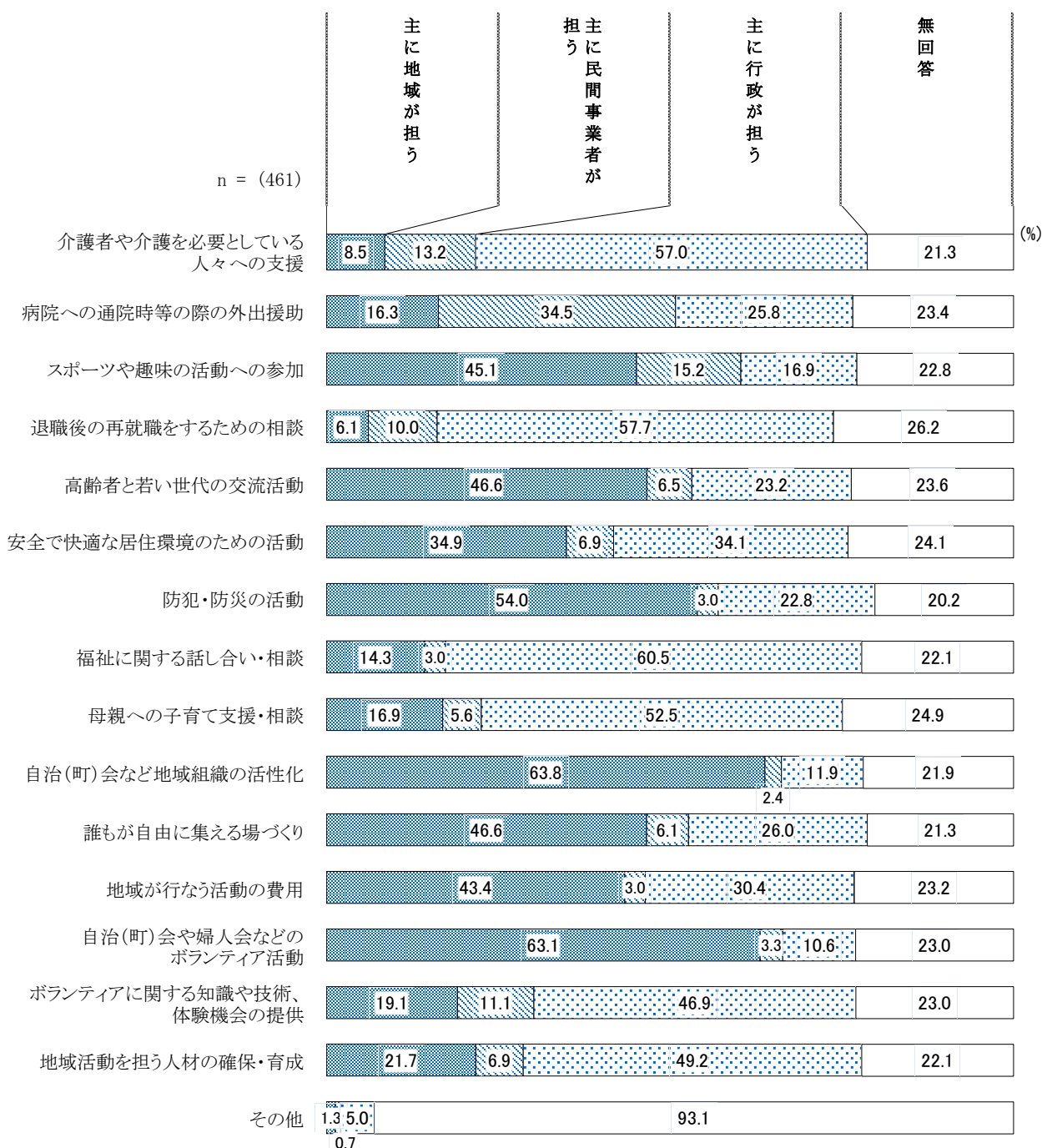
【近所づきあいの程度別の地域との関わりの必要性を感じたとき（上位4項目）】



近所づきあいの程度別でみると、『内容によっては困ったときに相談し、助け合える人がある』では「災害が発生したニュースを聞いたとき」が65.2%と多くなっている。また、『何かで困ったときには、なんでも相談し助け合える人がある』『内容によっては困ったときに相談し、助け合える人がある』では「高齢者の孤独死や虐待を聞いたとき」が、いずれも5割を超えている。

(4) 地域での人とのつきあいや関わりについての考え

問20 地域での人とのつきあいや関わりについて、あなた（あて名のご本人）の考えに最も近いものはどれですか。（○はそれぞれ1つずつ）

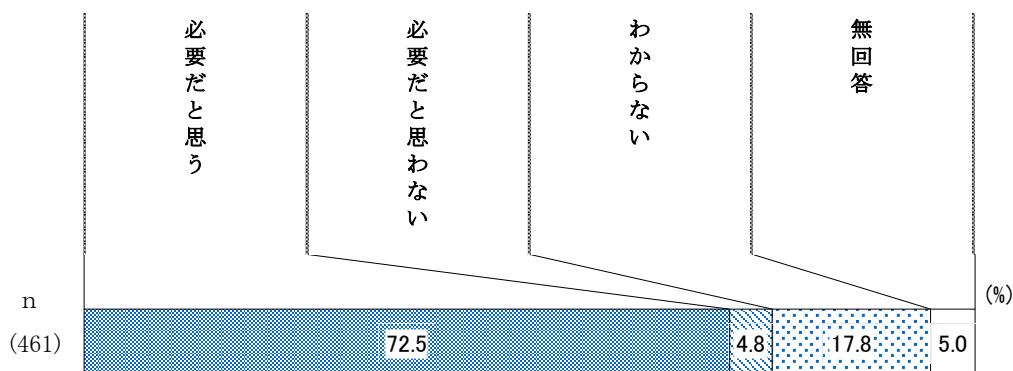


地域での人とのつきあいや関わりについての考えをみると、「主に地域が担う」は、『自治（町）会など地域組織の活性化』が63.8%で最も多く、次いで『自治（町）会や婦人会などのボランティア活動』が63.1%、『防犯・防災の活動』が54.0%の順で続いている。

一方、「主に行政が担う」は、『福祉に関する話し合い・相談』が60.5%で最も多く、次いで『退職後の再就職をするための相談』が57.7%、『介護者や介護をしている人々への支援』が57.0%の順で続いている。

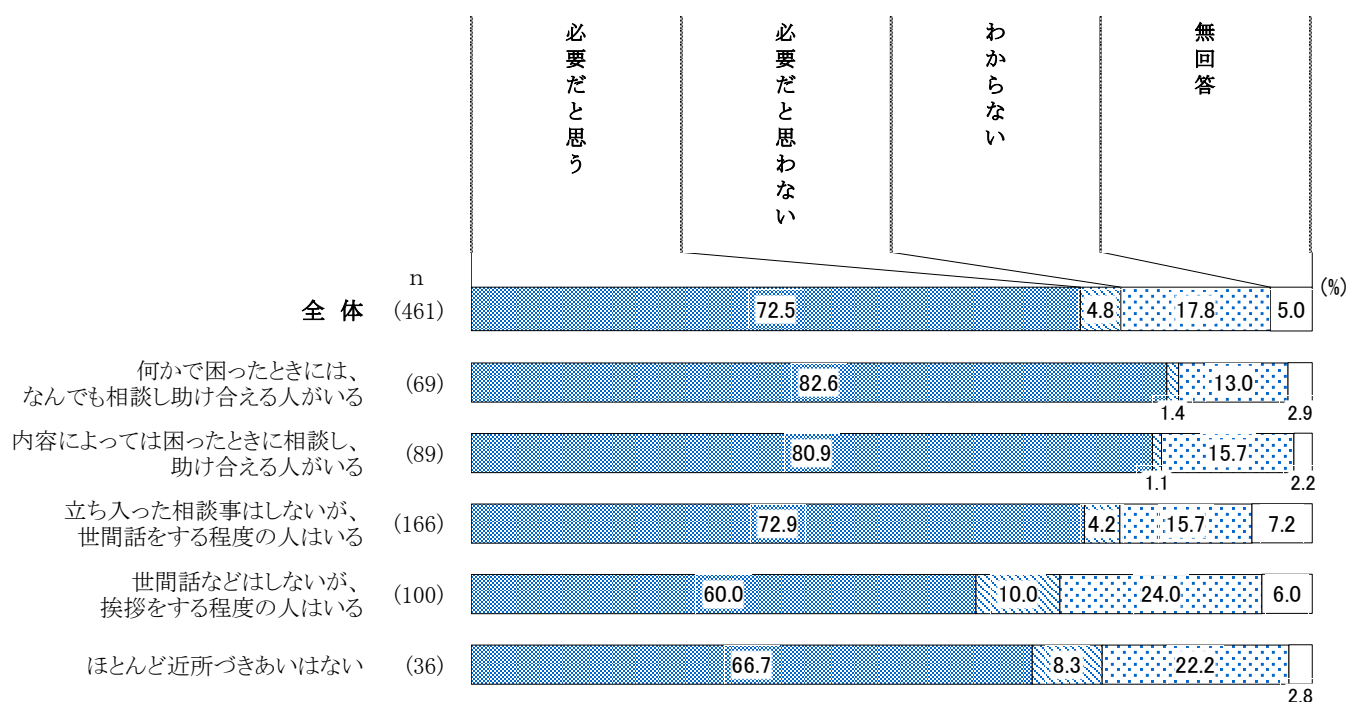
(5) 地域の生活課題についての住民同士の自主的な支え合いや助け合い

問21 地域で起こるさまざまな生活の課題について、住民同士が自主的に支え合ったり、助け合ったりすることは必要だと思いますか。(〇は1つだけ)



地域の生活課題についての住民同士の自主的な支え合いや助け合いの必要性については、「必要だと思う」が72.5%を占めている。一方、「必要だと思わない」は4.8%となっている。

【近所づきあいの程度別の地域の生活課題についての住民同士の自主的な支え合いや助け合い】

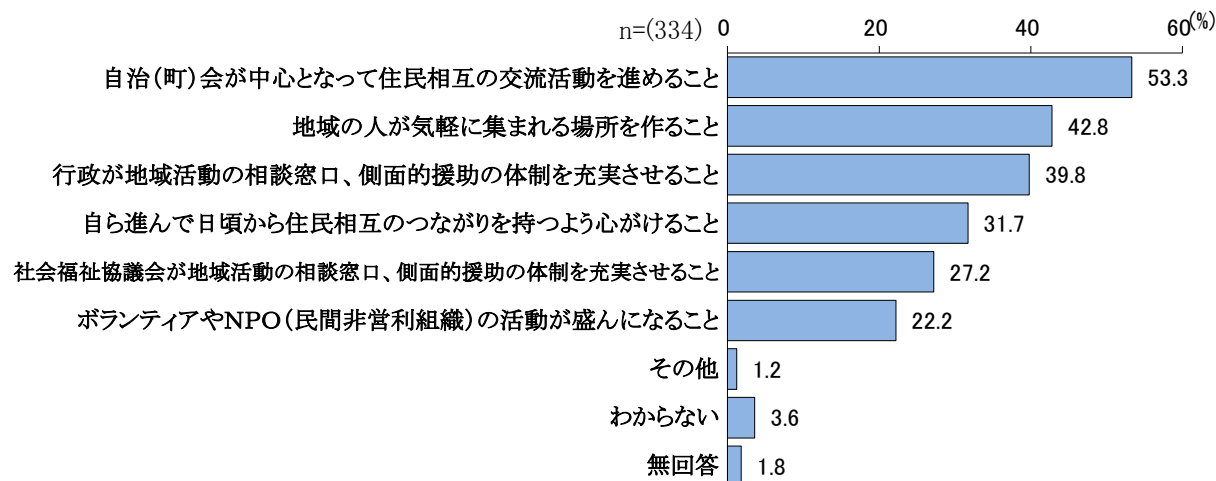


近所づきあいの程度別でみると、『何かで困ったときには、なんでも相談し助け合える人がいる』『内容によっては困ったときに相談し、助け合える人がいる』では「必要だと思う」が8割を超えている。

(6) 地域の生活課題についての住民同士の自主的な支え合いや助け合いに必要なこと

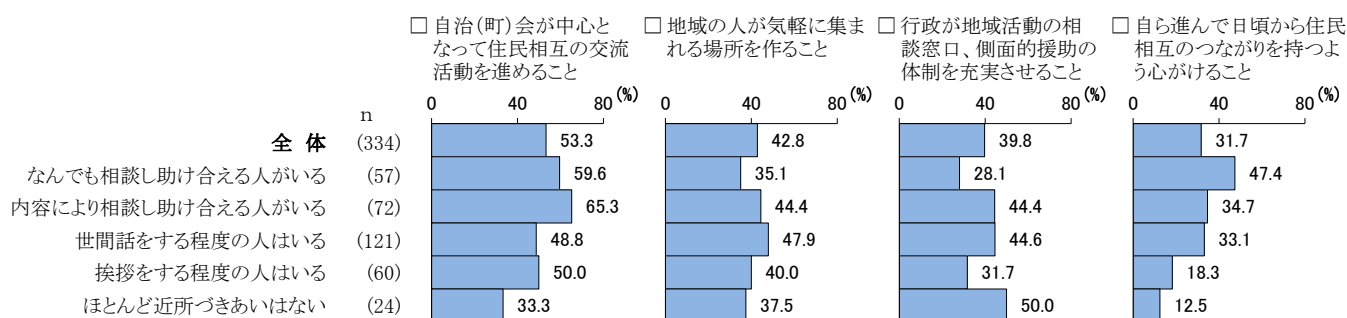
(必要だと思うと答えた方のみ)

問21-1 地域で起きるさまざまな生活の課題について、住民同士が自主的に支え合ったり、助け合ったりするためには、何が必要だと思いますか。(〇は3つまで)



地域の生活課題についての住民同士の自主的な支え合いや助け合いが「必要だと思う」という人に、そのために必要なことを聞いたところ、「自治(町)会が中心となって住民相互の交流活動を進めること」が53.3%で最も多く、次いで「地域の人が気軽に集まれる場所を作ること」が42.8%、「行政が地域活動の相談窓口、側面的援助の体制を充実させること」が39.8%、「自ら進んで日頃から住民相互のつながりを持つよう心がけること」が31.7%の順で続いている。

【近所づきあいの程度別の地域の生活課題についての住民同士の自主的な支え合いや助け合いに必要なこと(上位4項目)】

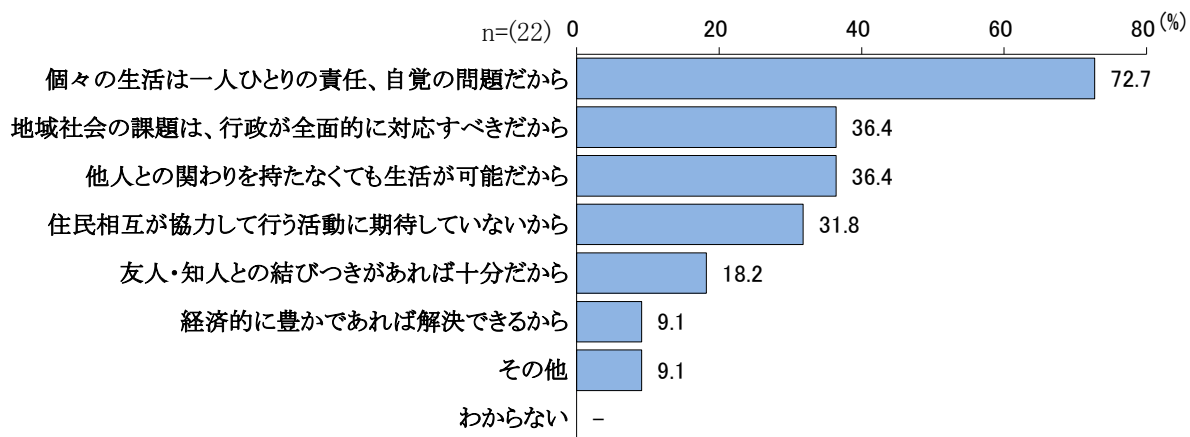


近所づきあいの程度別でみると、『内容によっては困ったときに相談し、助け合える人がある』では「自治(町)会が中心となって住民相互の交流活動が進めること」が65.3%と多くなっている。

(7) 住民同士の自主的な支え合いや助け合いが必要がないと思う理由

(必要だと思わないと答えた方のみ)

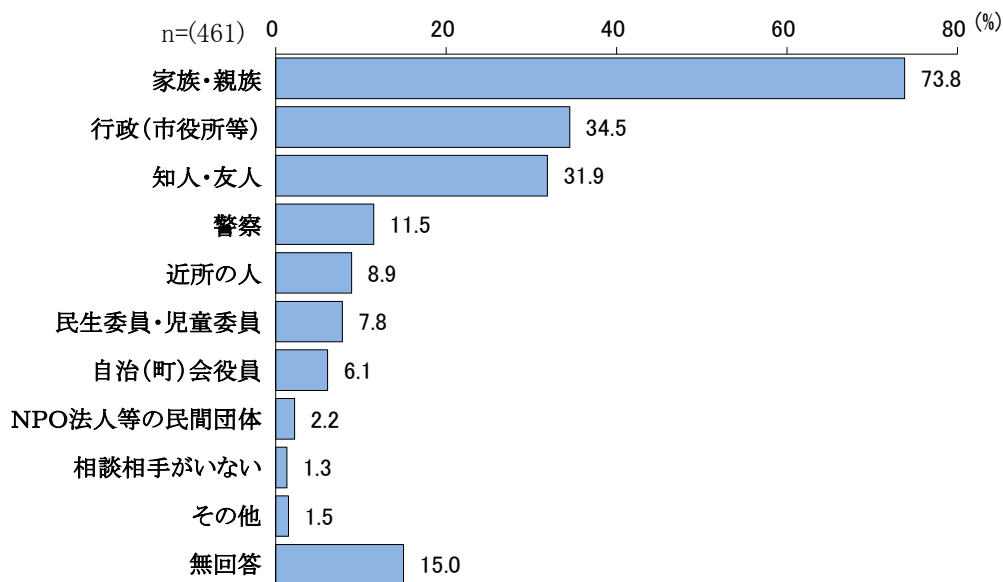
問21-2 住民同士が自主的に支え合ったり、助け合ったりする必要がないと思うのはなぜですか。(○は3つまで)



地域の生活課題についての住民同士の自主的な支え合いや助け合いが「必要だと思わない」という人に、その理由を聞いたところ、「個々の生活は一人ひとりの責任、自覚の問題だから」が72.7%で最も多く、次いで「地域社会の課題は、行政が全面的に対応すべきだから」「他人との関わりを持たなくても生活が可能だから」が、ともに36.4%となっている。

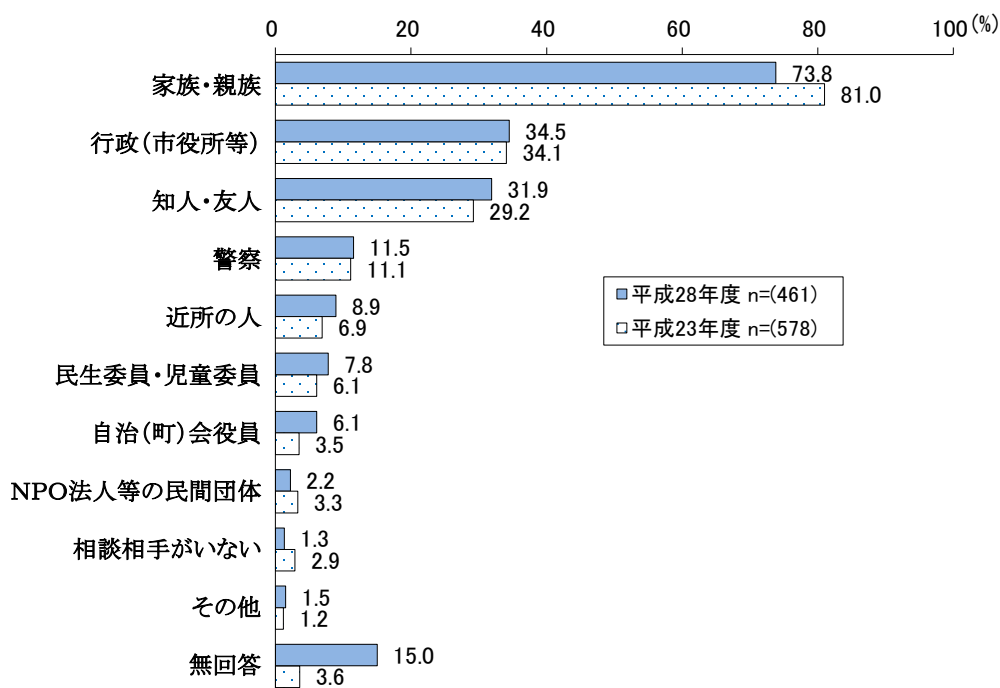
(8) 生活上の問題で相談したいときの相談相手

問22 あなた（あて名のご本人）が生活上の問題で相談したいときに、どなたに相談したいですか。（〇はあてはまるものすべて）



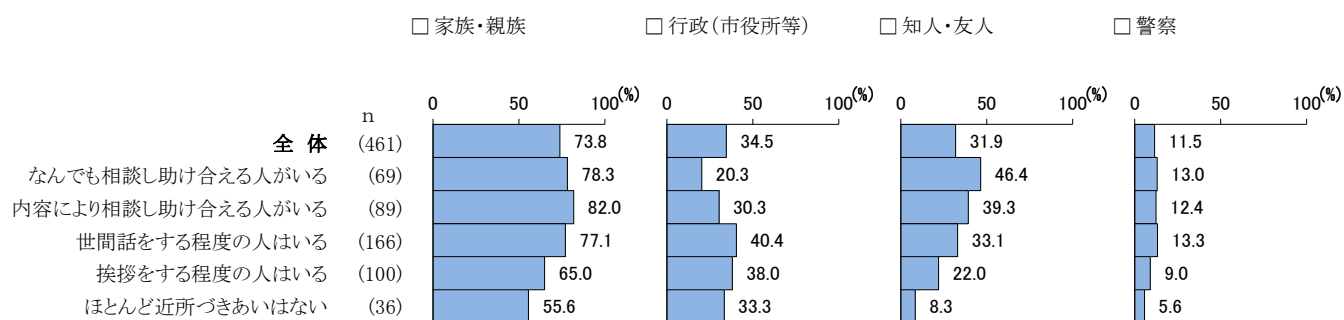
生活上で相談したいときの相談相手をみると、「家族・親族」が73.8%で最も多く、次いで、「行政（市役所等）」が34.5%、「知人・友人」が31.9%の順で続いている。

◀ 前回調査との比較 生活上の問題で相談したいときの相談相手 ▶



経年でみると、平成23年度の調査結果と比べて、「家族・親族」が減少している。

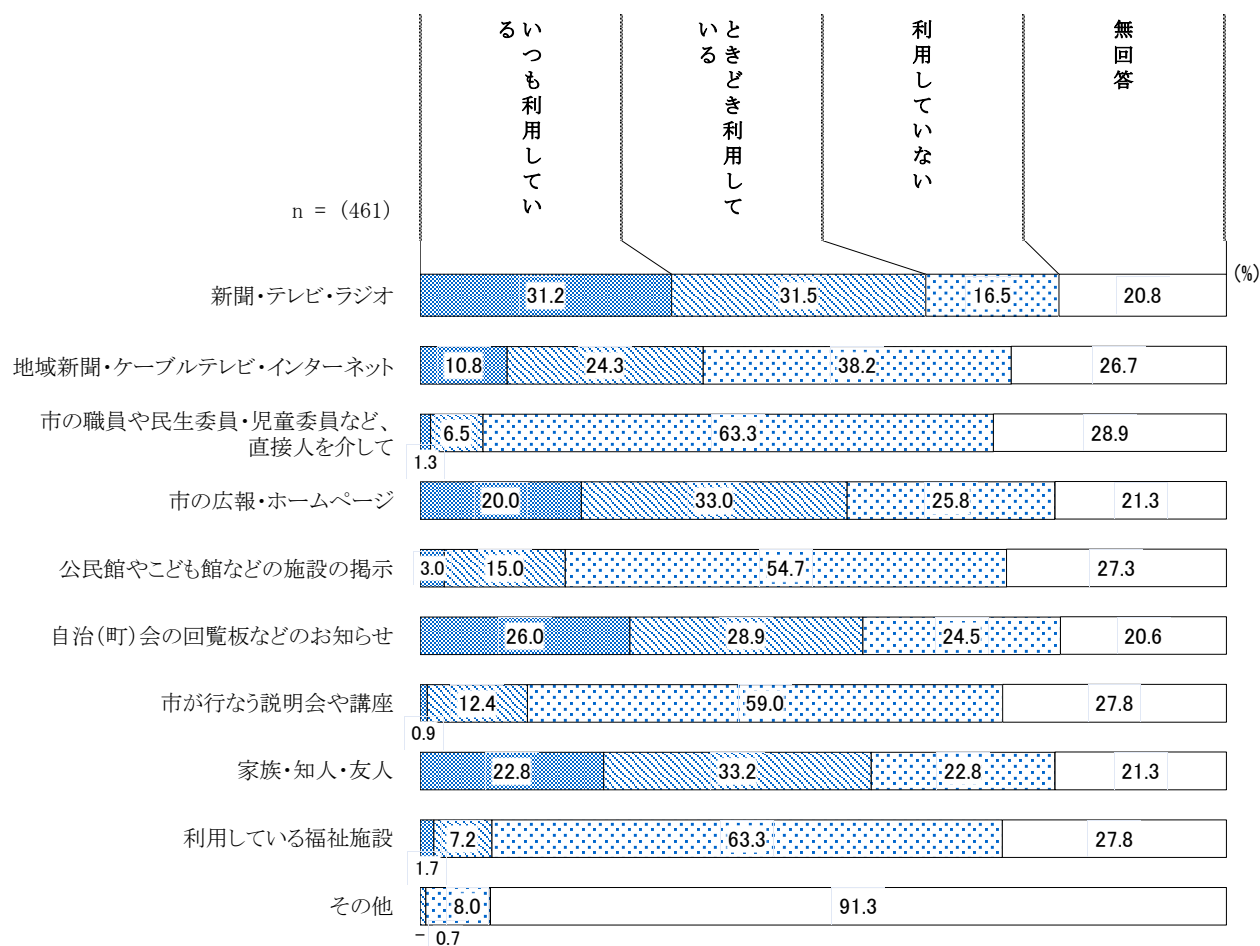
【近所づきあいの程度別の生活上の問題で相談したいときの相談相手（上位4項目）】



近所づきあいの程度別でみると、『何かで困ったときには、なんでも相談し助け合える人がある』『内容によっては困ったときに相談し、助け合える人がある』『立ち入った相談事はしないが、世間話をする程度の人はいる』では「家族・親族」が、いずれも8割前後を占めている。一方、『立ち入った相談事はしないが、世間話をする程度の人はいる』『世間話などはしないが、挨拶をする程度の人はいる』では「行政（市役所等）」が4割前後と多くなっている。

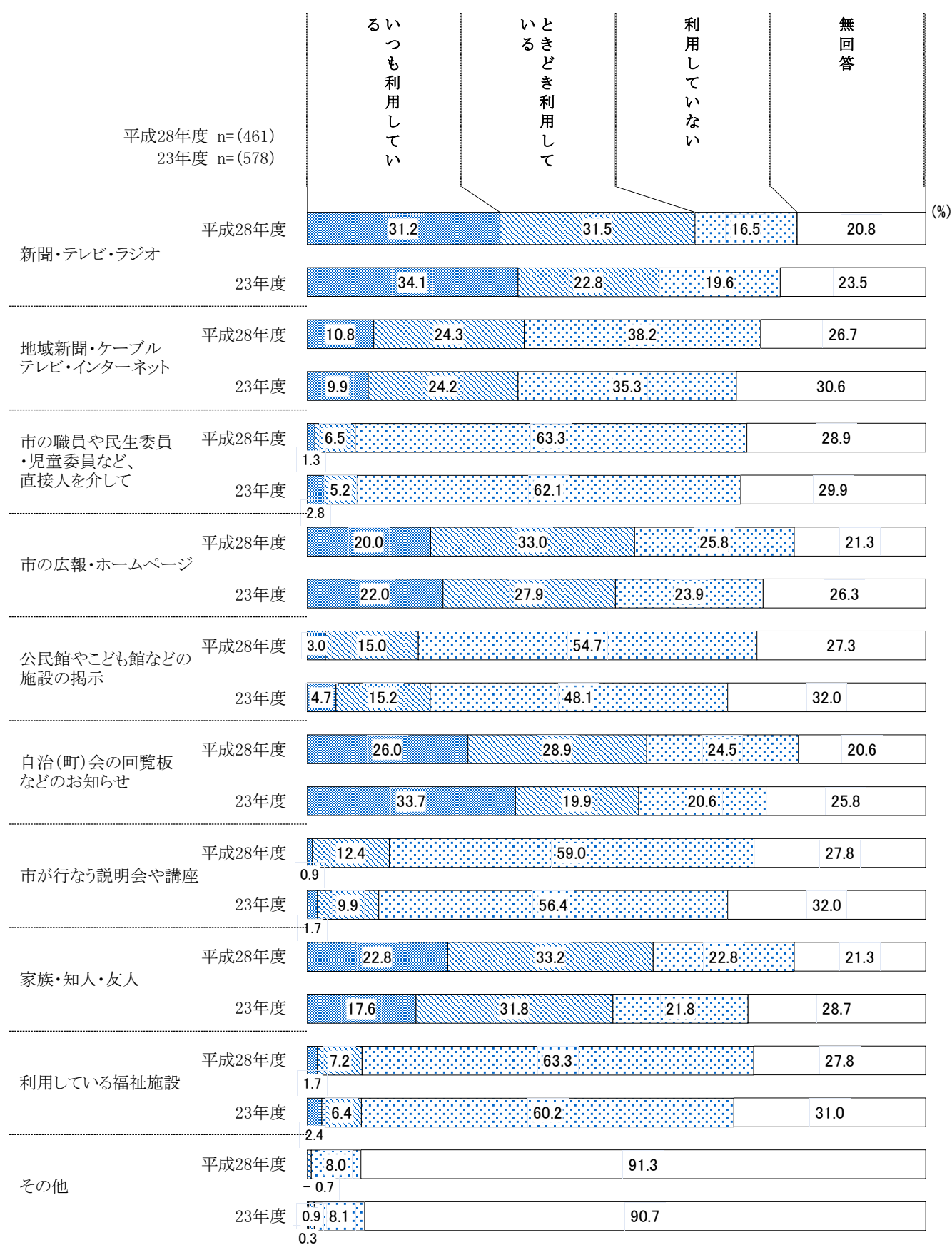
(9) 福祉に関する情報の入手方法

問23 あなた（あて名のご本人）は、福祉に関する情報などをどのような方法で入手していますか。（〇はそれぞれ1つずつ）



福祉に関する情報の入手方法をみると、「いつも利用している」「ときどき利用している」と回答した人は、『新聞・テレビ・ラジオ』が62.7%で最も多く、次いで『家族・知人・友人』が56.0%、『自治(町)会の回覧板などのお知らせ』が54.9%、『市の広報・ホームページ』が53.0%の順で続いている。

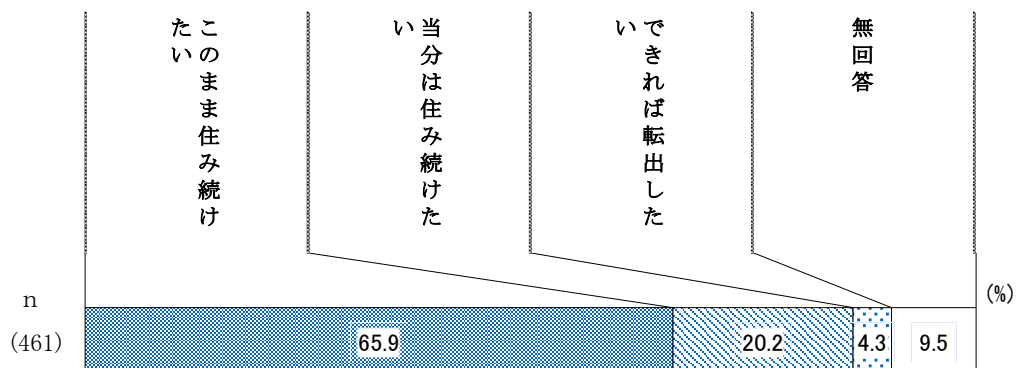
《 前回調査との比較 福祉に関する情報の入手方法 》



経年でみると、平成23年度の調査結果と比べて、『家族・知人・友人』が増加している。

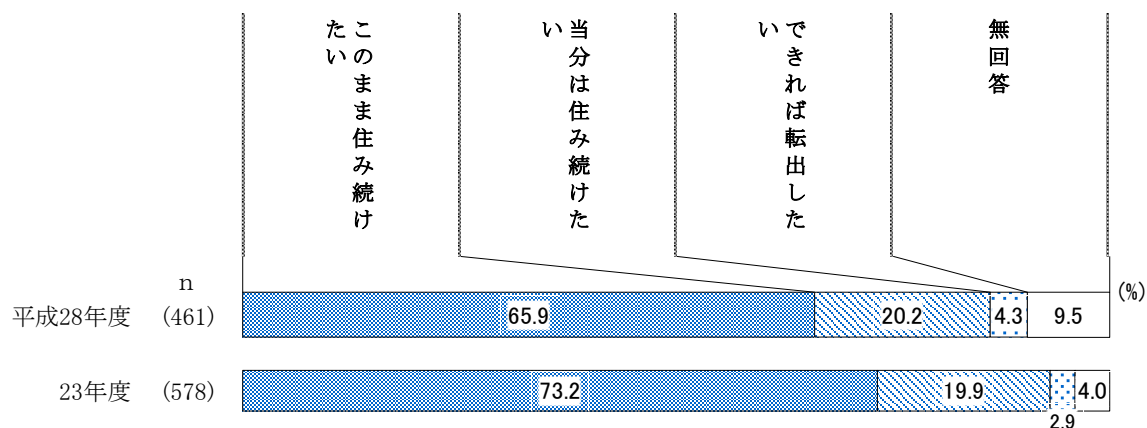
(10) 定住意向

問24 あなた（あて名のご本人）は、これからも市川市に住み続けたいと思いますか。（○は1つだけ）



定住意向をみると、「このまま住み続けたい」が65.9%で最も多く、次いで「当分は住み続けた」が20.2%となっている。一方、「できれば転出したい」は4.3%となっている。

＜ 前回調査との比較 定住意向 ＞

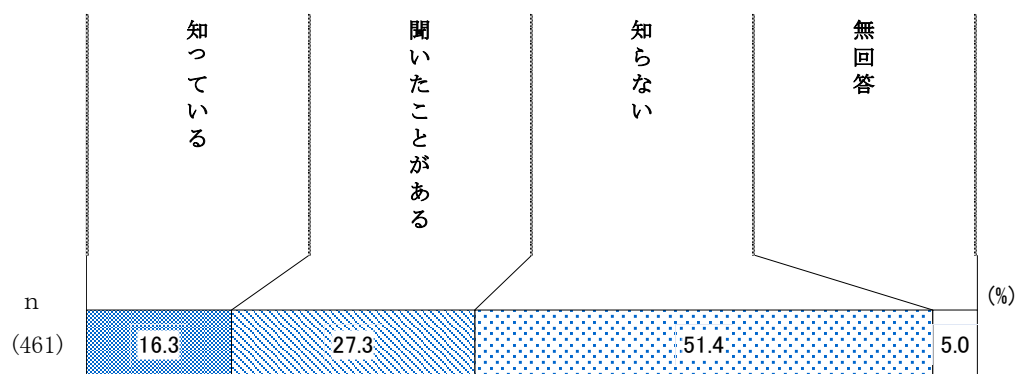


経年でみると、平成23年度の調査結果と比べて、「このまま住み続けたい」が減少している。

3. 支え合いの地域づくり（地域ケアシステム）

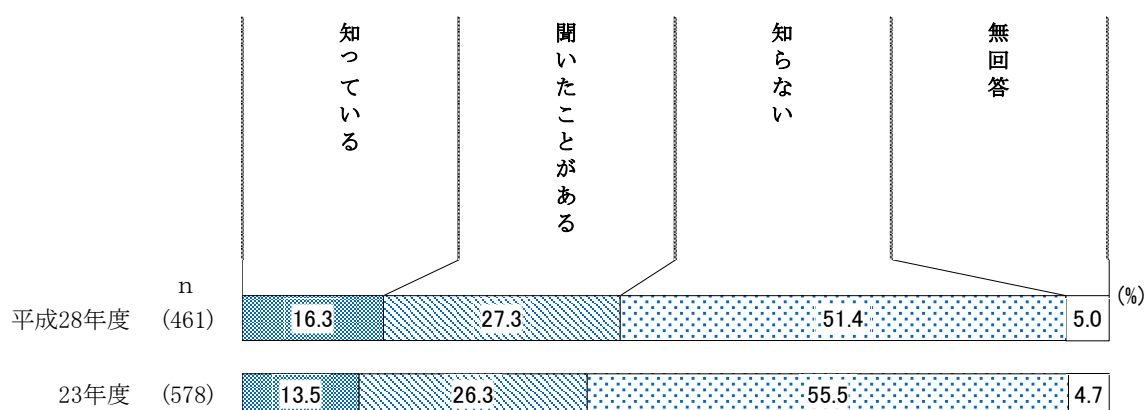
（1）地域ケアシステムの認知度

問25 市川市では、安心して暮らし続けられる地域社会をつくるために、支え合いの地域づくり（地域ケアシステム）の取り組みを進めています。あなた（あて名のご本人）は、そのことをご存知ですか。（○は1つだけ）



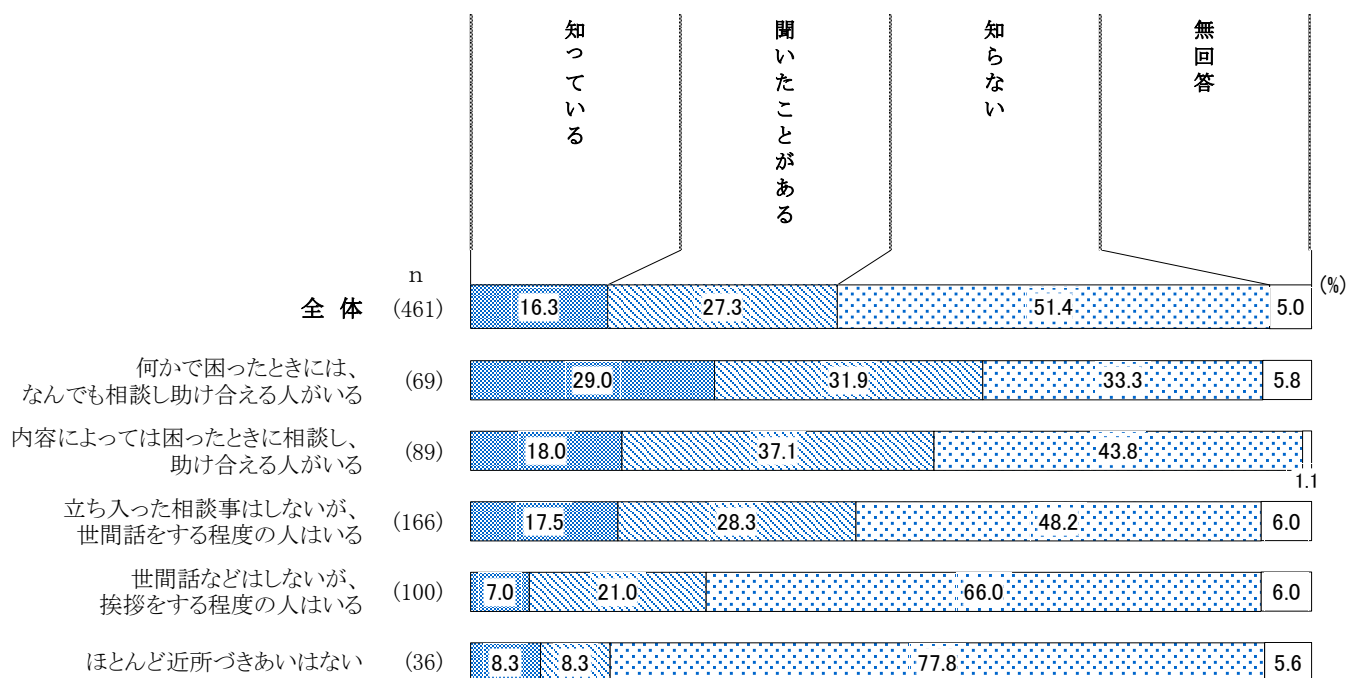
地域ケアシステムの認知状況を見ると、「知っている」が16.3%、「聞いたことがある」が27.3%となっている。一方、「知らない」は51.4%を占めている。

◀ 前回調査との比較 地域ケアシステムの認知度 ▶



経年でみると、平成23年度の調査結果と比べて、「知っている」がやや増加している。

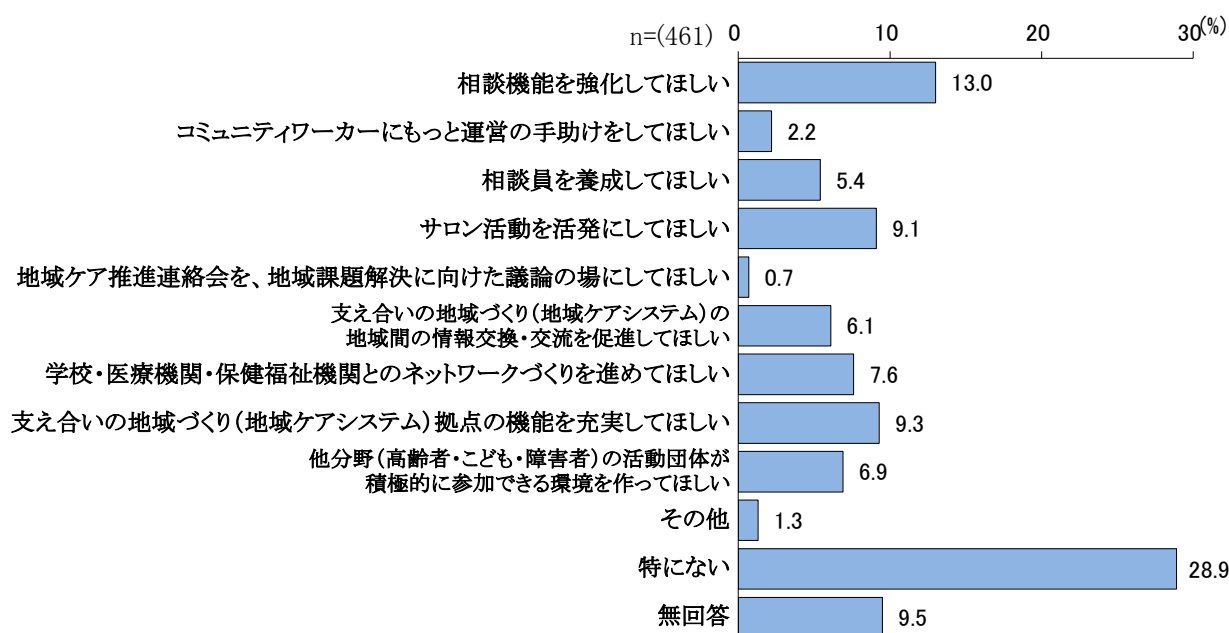
【近所づきあいの程度別の地域ケアシステムの認知度】



近所づきあいの程度別でみると、『何かで困ったときには、なんでも相談し助け合える人がいる』では「知っている」が29.0%と多くなっている。

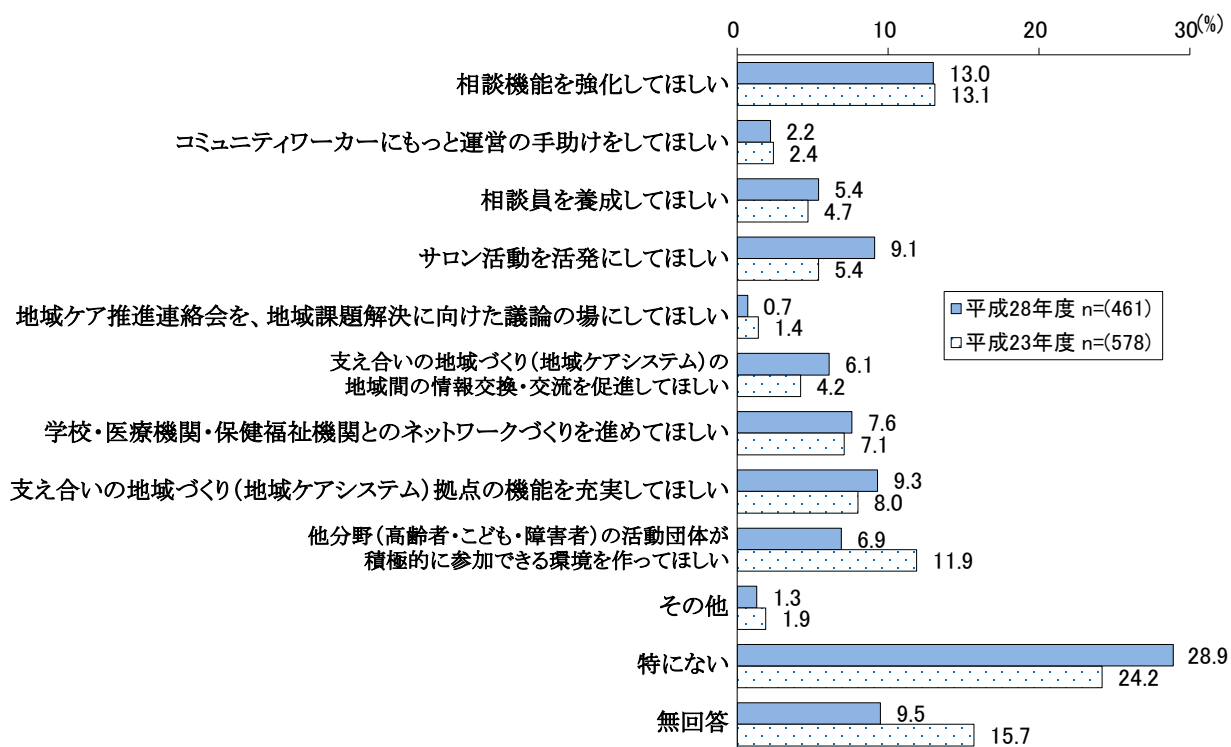
(2) 支え合いの地域づくり（地域ケアシステム）でやってもらいたいこと

問26 あなた（あて名のご本人）は、支え合いの地域づくり（地域ケアシステム）でやってもらいたいことはどのようなことですか。（○は1つだけ）



地域ケアシステムにやってもらいたいこととしては、「相談機能を強化してほしい」が13.0%で最も多く、次いで「支え合いの地域づくり（地域ケアシステム）拠点の機能を充実してほしい」が9.3%、「サロン活動を活発にしてほしい」が9.1%の順で続いている。

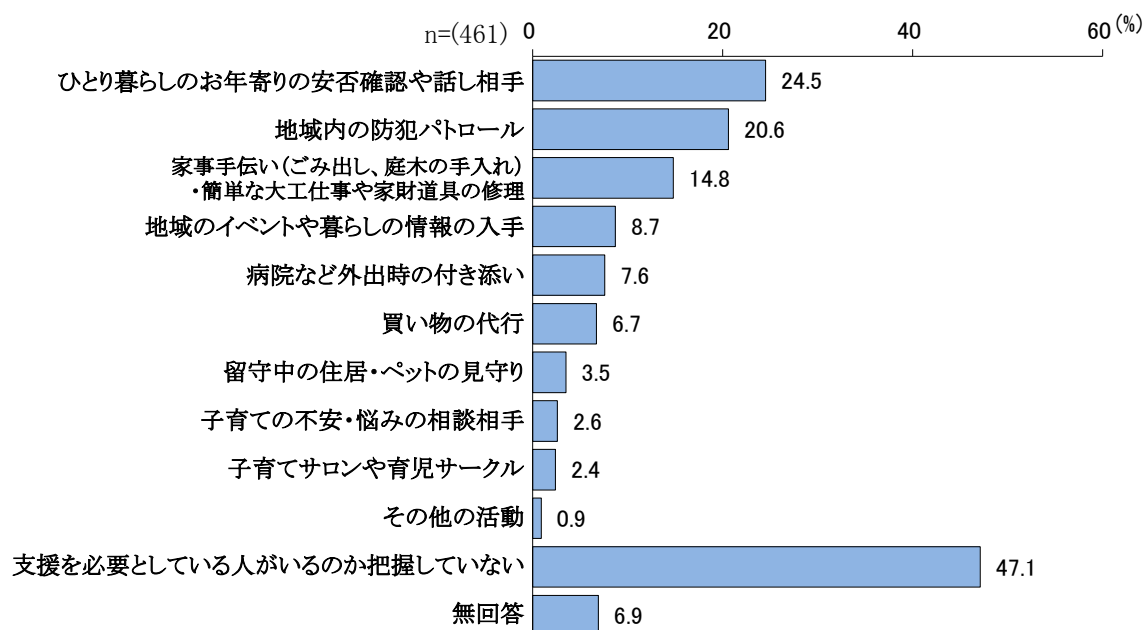
《 前回調査との比較 支え合いの地域づくり（地域ケアシステム）でやってもらいたいこと 》



経年でみると、平成23年度の調査結果と比べて、「サロン活動を活発にしてほしい」がやや増加している。

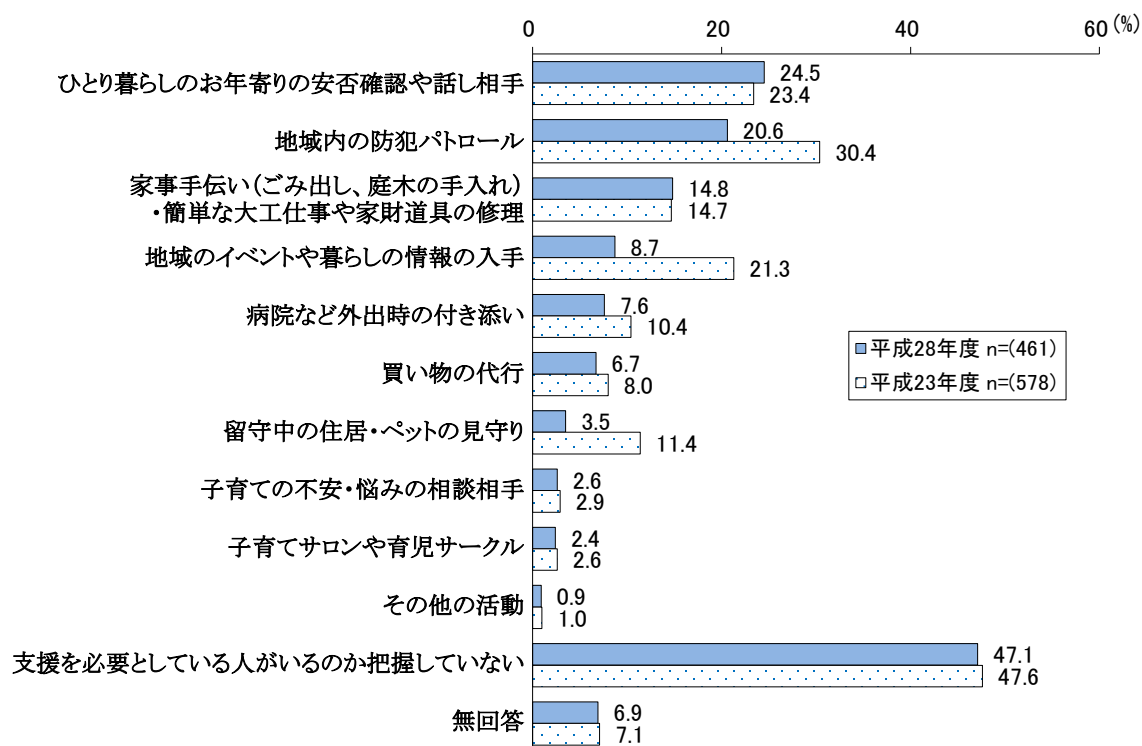
(3) 近所で支援を必要としている人について

問27 あなた（あて名のご本人）のご近所には、どのような支援を必要としている人がいますか。（〇はあてはまるものすべて）



近所で支援を必要としている人についてみると、「ひとり暮らしのお年寄りの安否確認や話し相手」が24.5%で最も多く、次いで「地域内の防犯パトロール」が20.6%、「家事手伝い（ごみ出し、庭木の手入れ）・簡単な大工仕事や家財道具の修理」が14.8%、「地域のイベントや暮らしの情報の入手」が8.7%の順で続いている。一方、「支援を必要としている人がいるのか把握していない」が47.1%を占めている。

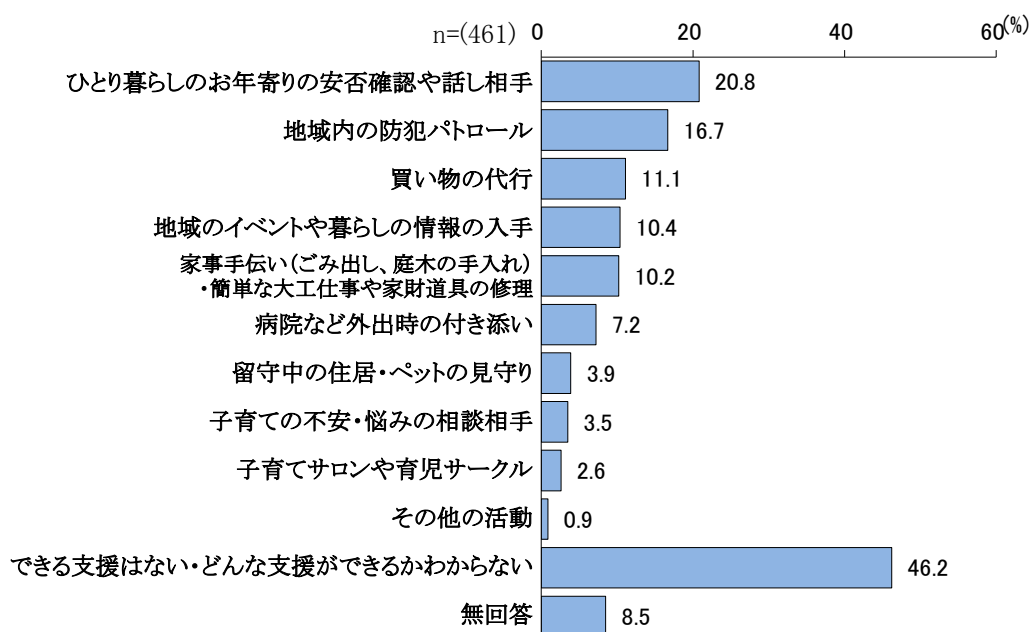
《 前回調査との比較 近所で支援を必要としている人について 》



経年でみると、平成23年度の調査結果と比べて、「地域内の防犯パトロール」「地域のイベントや暮らしの情報の入手」が減少している。

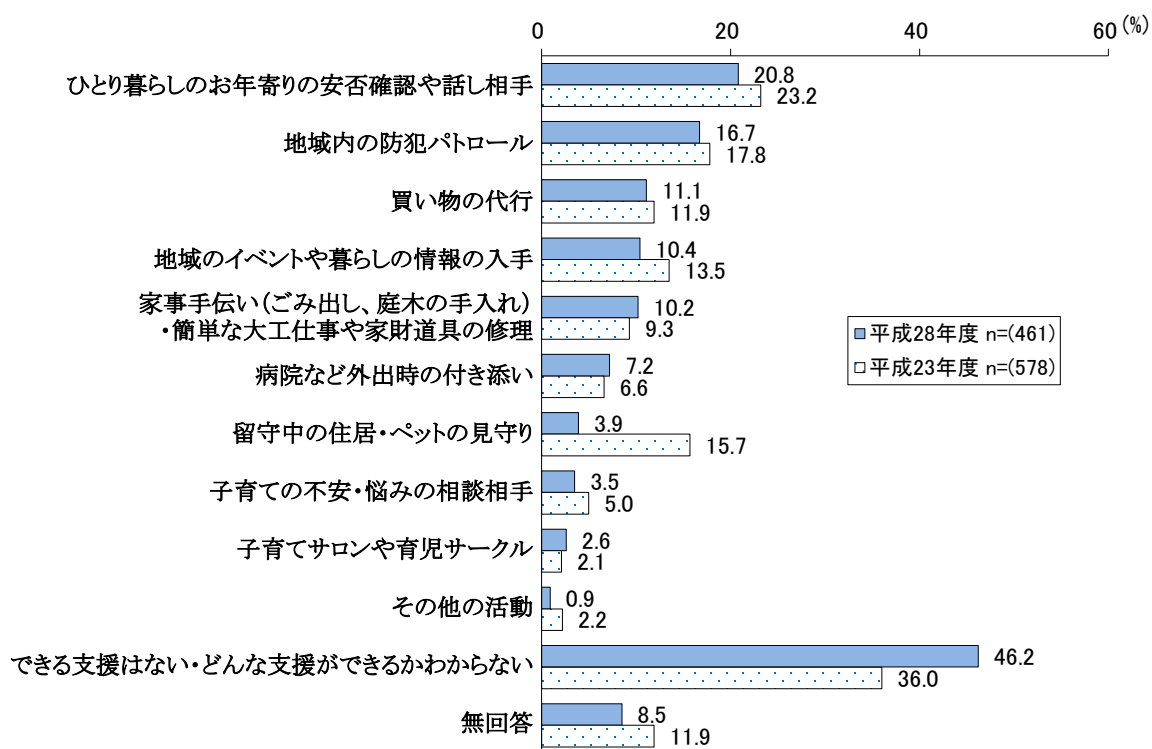
(4) 自分ができる支援

問28 支援を必要とする方のために、あなた（あて名のご本人）ができる支援はありますか。
（○はあてはまるものすべて）



自分ができる支援としては、「ひとり暮らしのお年寄りの安否確認や話し相手」が20.8%で最も多く、次いで「地域内の防犯パトロール」が16.7%、「買い物の代行」が11.1%、「地域のイベントや暮らしの情報の入手」が10.4%の順で続いている。一方、「できる支援はない・どんな支援ができるかわからない」が46.2%を占めている。

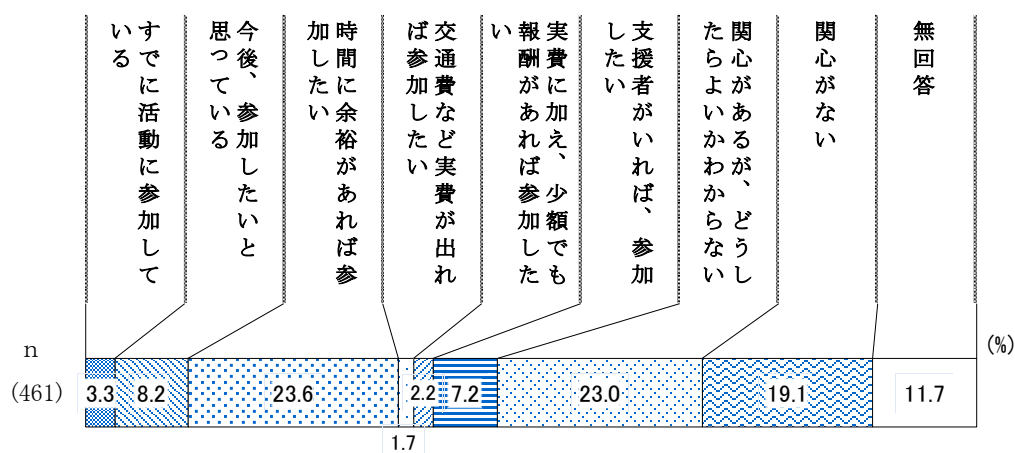
《 前回調査との比較 自分ができる支援 》



経年でみると、平成23年度の調査結果と比べて、「留守中の住居・ペットの見守り」が減少している。

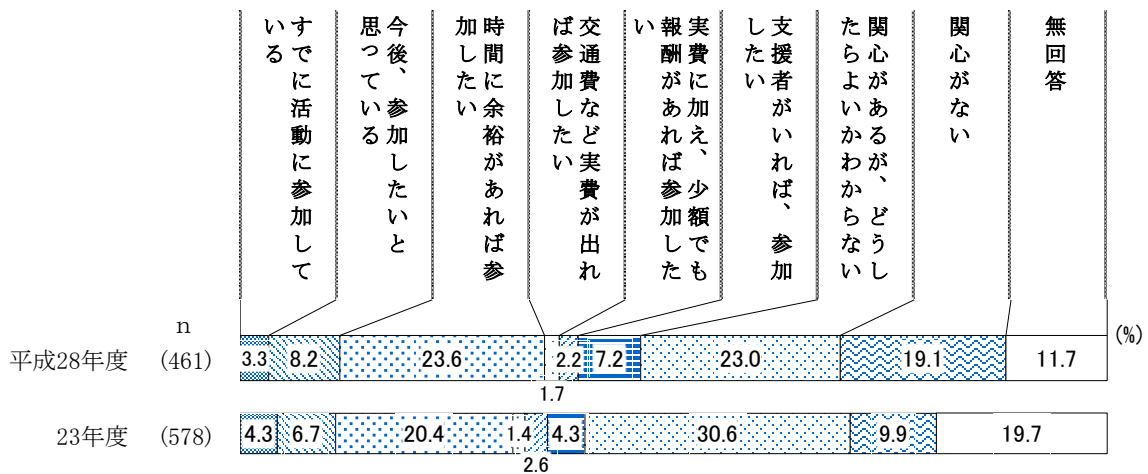
(5) 地域福祉活動への参加

問29 支援を必要とする方のために、地域福祉活動に参加することができますか。(○は1つだけ)



地域福祉活動への参加意向をみると、「時間に余裕があれば参加したい」が23.6%で最も多くなっている。一方、「関心があるが、どうしたらよいかわからない」が23.0%、「関心がない」が19.1%となっている。

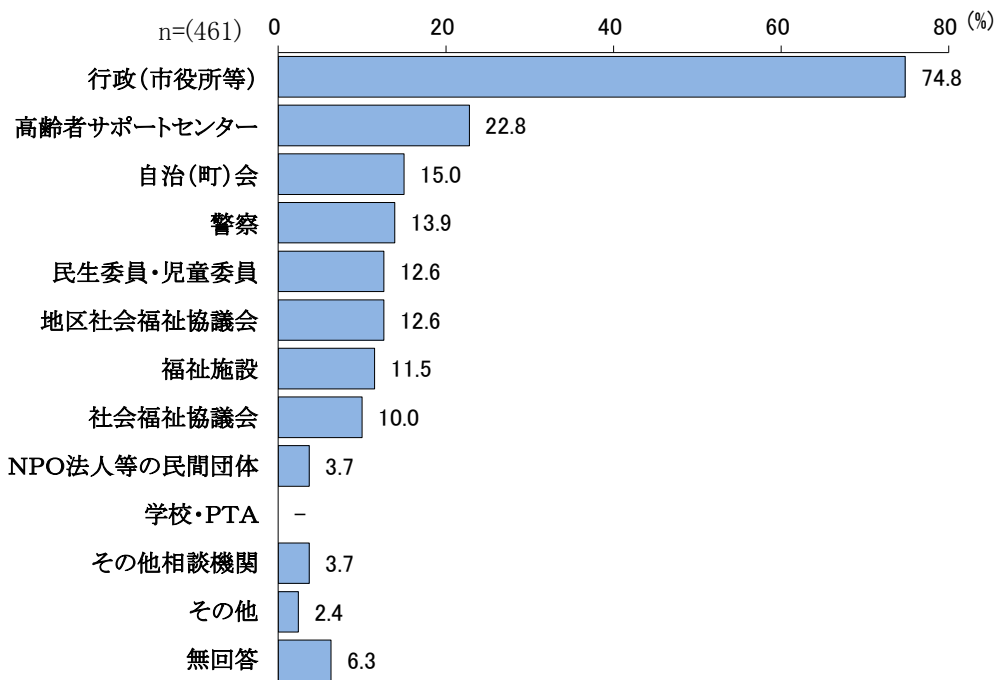
≪ 前回調査との比較 地域福祉活動への参加 ≫



経年でみると、平成23年度の調査結果と比べて、「関心はあるが、どうしたらよいかわからない」が減少し、「関心がない」が増加している。

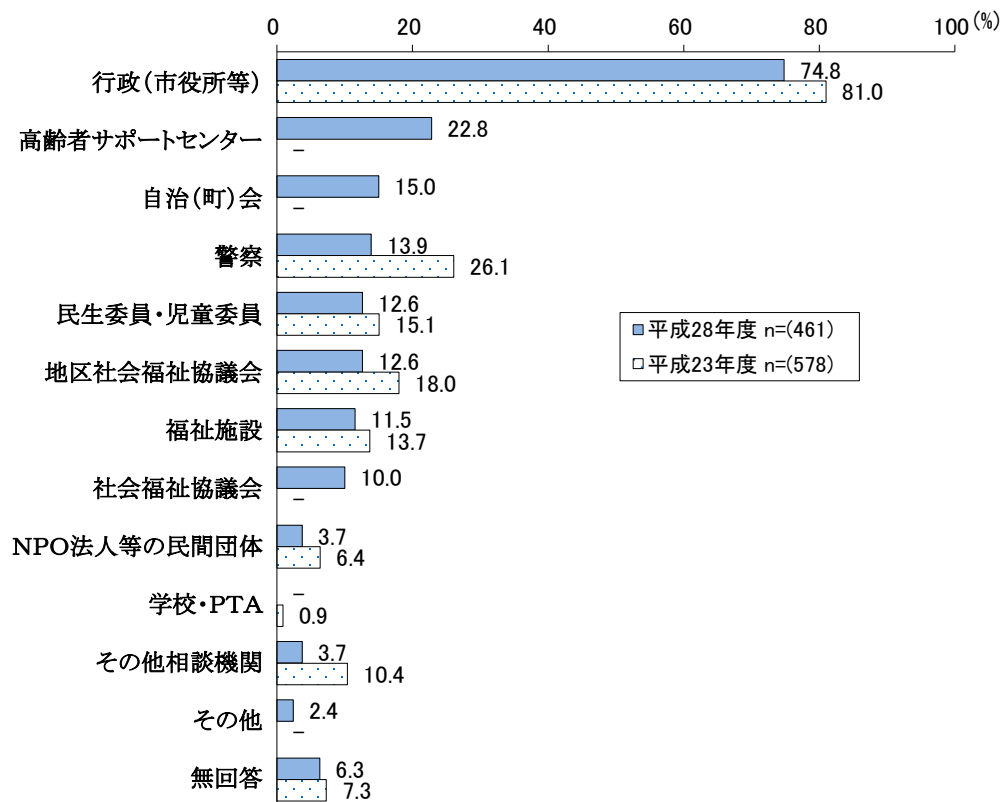
(6) 自分たちだけで支援が難しい問題がある場合に頼る機関

問30 自分たちだけで支援が難しい問題がある場合、どんなところに相談しますか。(○はあてはまるものすべて)



自分たちだけで支援が難しい問題がある場合に頼る機関としては、「行政（市役所等）」が74.8%で最も多く、次いで「高齢者サポートセンター」が22.8%となっている。

《 前回調査との比較 自分たちだけで支援が難しい問題がある場合に頼る機関 》

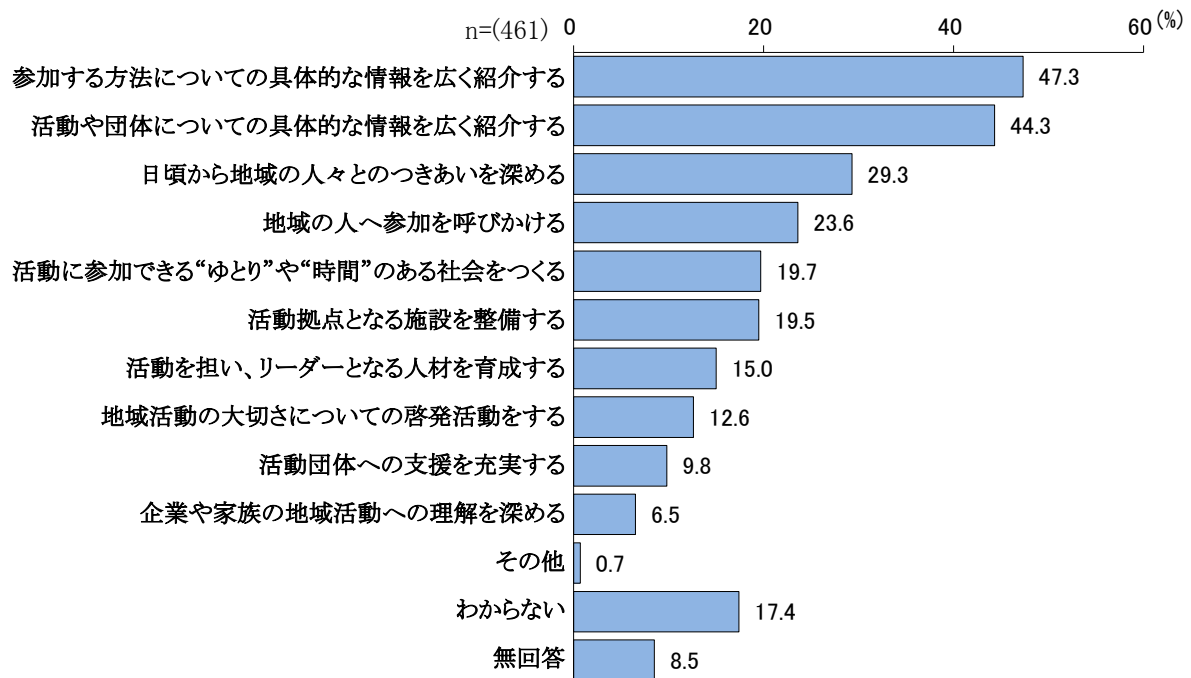


経年でみると、平成23度の調査結果と比べて、「行政（市役所等）」「警察」が減少している。

4. 社会参加、生きがい

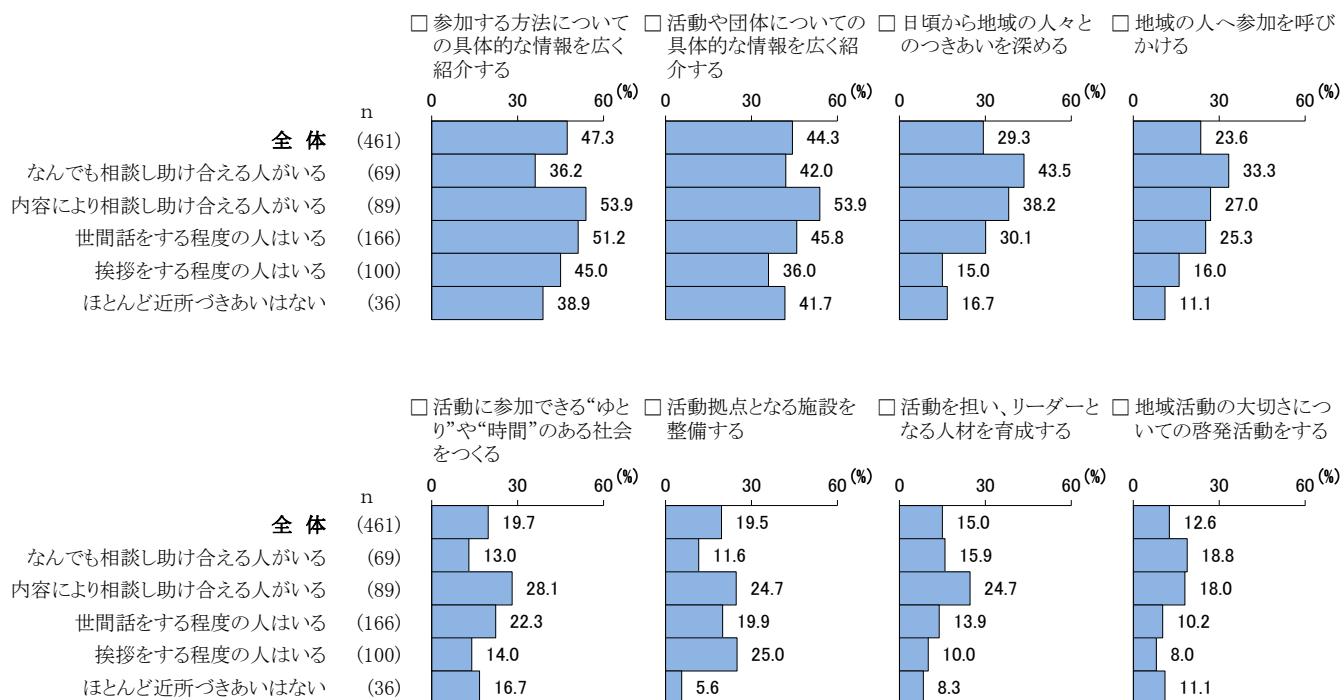
(1) 地域活動により多くの人が参加できるようにするために必要なこと

問31 あなた（あて名のご本人）は、お住まいの地域の活動に、より多くの人が参加できるようにするためには、どのようなことが必要だと思いますか。（〇はあてはまるものすべて）



地域活動により多くの人が参加できるようにするために必要なこととしては、「参加する方法についての具体的な情報を広く紹介する」が47.3%で最も多く、次いで「活動や団体についての具体的な情報を広く紹介する」が44.3%、「日頃から地域の人々とのつきあいを深める」が29.3%、「地域の人へ参加を呼びかける」が23.6%の順で続いている。

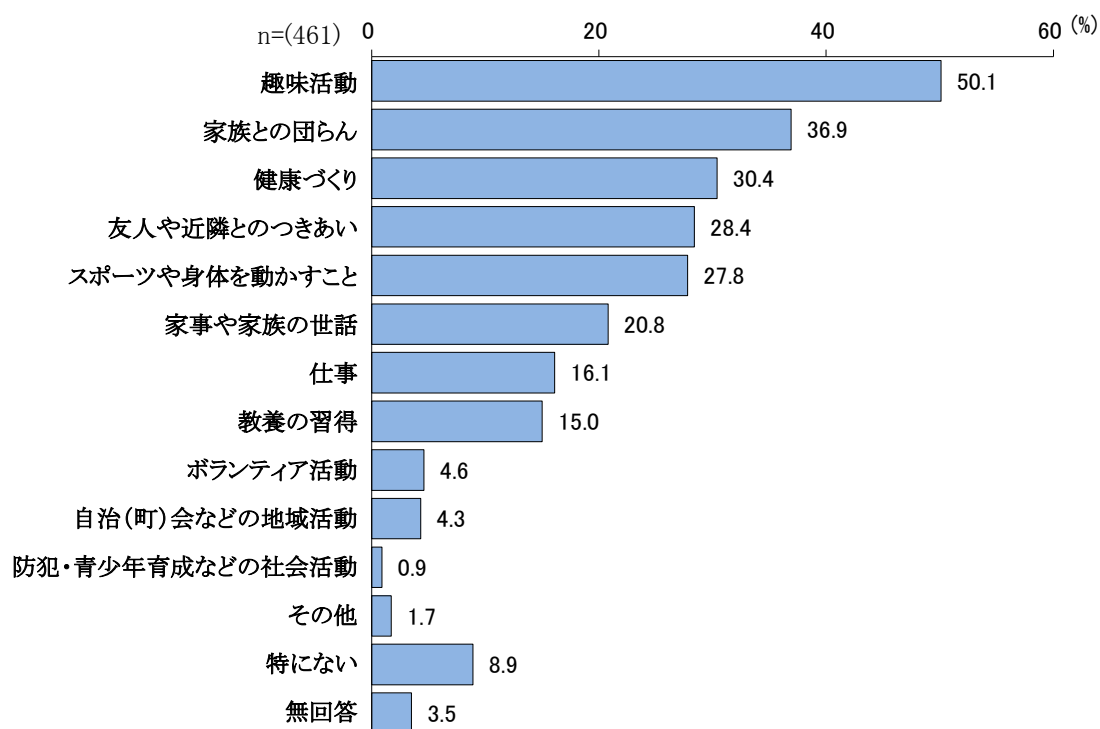
【近所づきあいの程度別の地域活動により多くの人が参加できるようにするために必要なこと
(上位8項目)】



近所づきあいの程度別でみると、『内容によっては困ったときに相談し、助け合える人がいる』『立ち入った相談事はしないが、世間話をする程度の人はい』では「参加する方法についての具体的な情報を広く紹介する」が5割を超えている。また、『内容によっては困ったときに相談し、助け合える人がいる』では「活動や団体についての具体的な情報を広く紹介する」が53.9%と多くなっている。

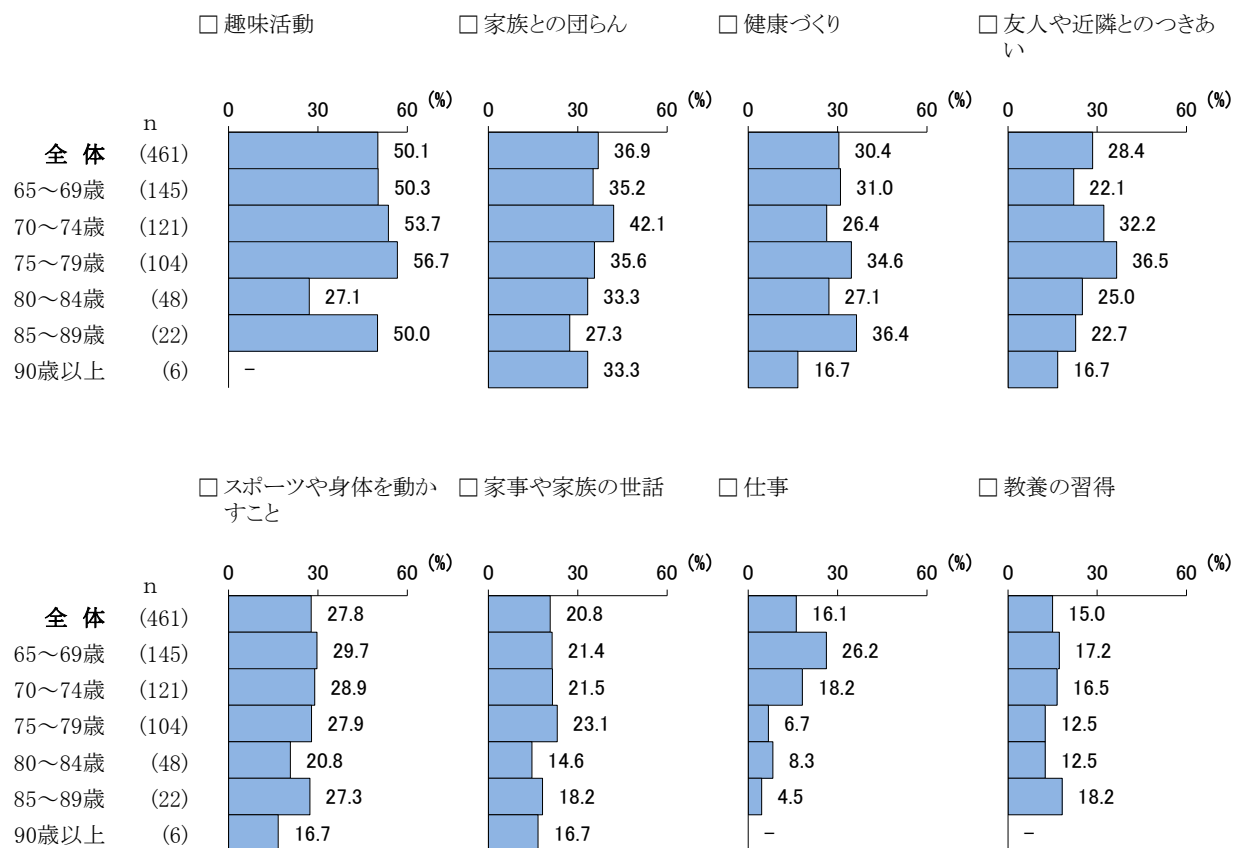
(2) 生きがいを感じていること

問32 あなた（あて名のご本人）が現在生きがいを感じていることはどんなことですか。（〇はあてはまるものすべて）



生きがいを感じていることとしては、「趣味活動」が50.1%で最も多く、次いで「家族との団らん」が36.9%、「健康づくり」が30.4%、「友人や近隣とのつきあい」が28.4%の順で続いている。

【年齢別の生きがいを感じていること（上位8項目）】

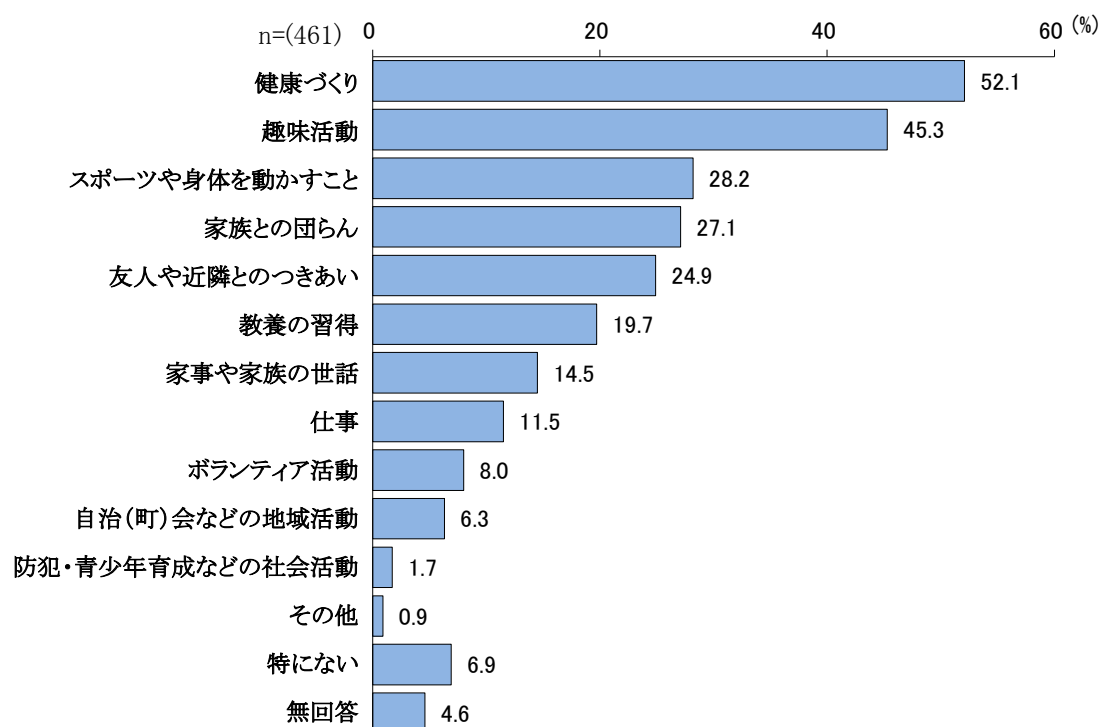


年齢別でみると、『65～69歳』『70～74歳』『75歳～79歳』では「趣味活動」が、いずれも5割を超えている。『70～74歳』では「家族との団らん」が42.1%と多くなっている。また、『65～69歳』『75～79歳』では「健康づくり」が3割を超えている。

※ 回答者数の少ないものについては、分析ではふれていない。

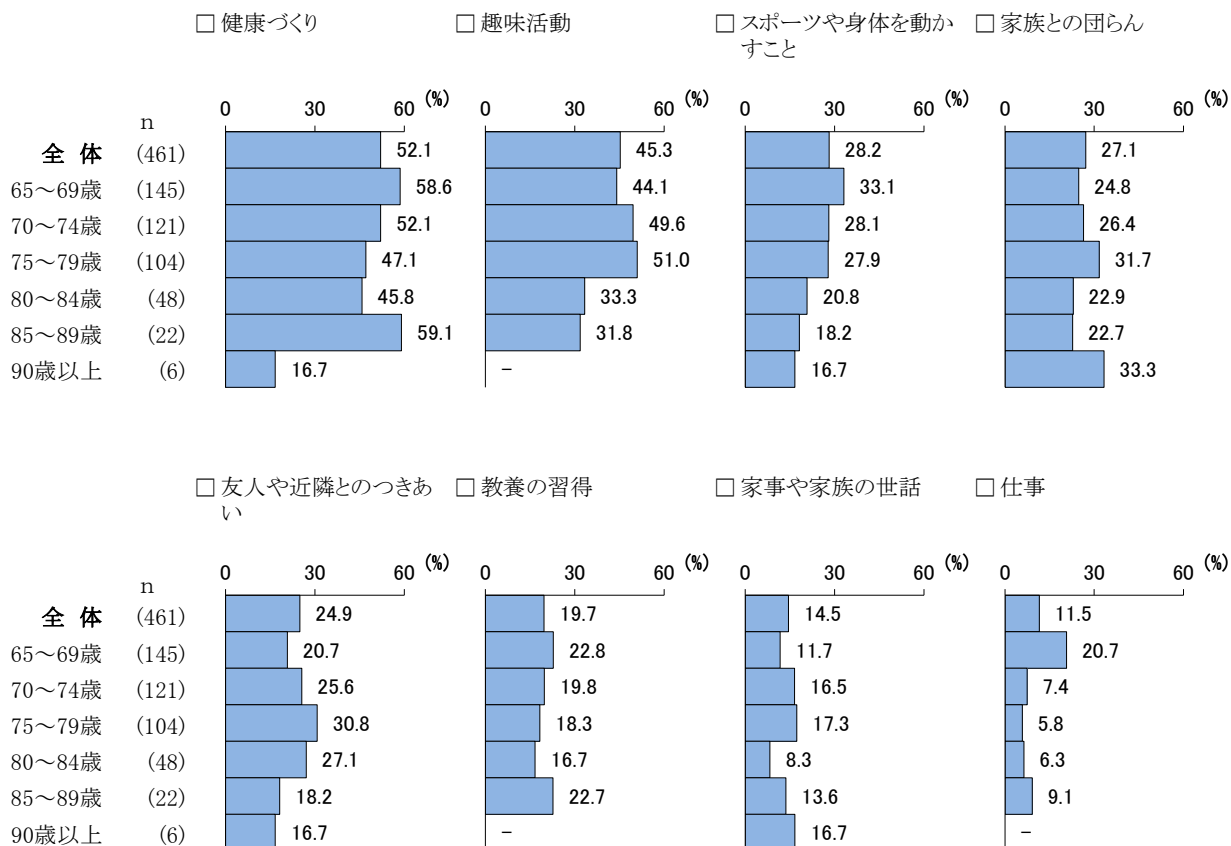
(3) 暮らしを充実させるために今後力を入れたいこと

問33 あなた（あて名のご本人）は暮らしを充実させるために、今後何に力を入れたいですか。（〇はあてはまるものすべて）



暮らしを充実させるために今後力を入れたいこととしては、「健康づくり」が52.1%で最も多く、次いで「趣味活動」が45.3%、「スポーツや身体を動かすこと」が28.2%、「家族との団らん」が27.1%の順で続いている。

【年齢別の暮らしを充実させるために今後力を入れたいこと（上位8項目）】

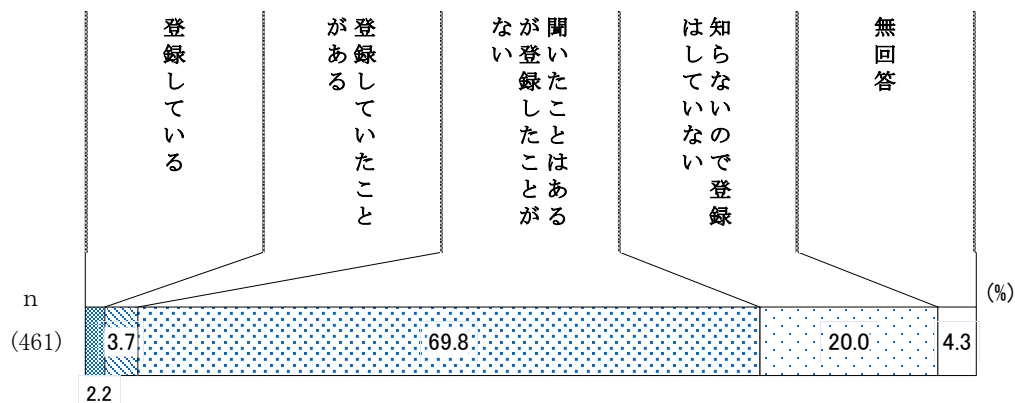


年齢別でみると、『75～79歳』では「趣味活動」が51.0%と多くなっている。『65～69歳』『70～74歳』では「健康づくり」が5割を超え、『65～69歳』『70～74歳』『75～79歳』では「スポーツや身体を動かすこと」が3割前後を占めている。

※ 回答者数の少ないものについては、分析ではふれていない。

(4) シルバー人材センターへの登録状況

問34 「シルバー人材センター」では、経験や技能を生かした就業の機会を提供し、高齢者の生きがいづくりと地域社会の活性化に貢献しています。あなた（あて名のご本人）は、「シルバー人材センター」に登録したことがありますか。（○は1つだけ）

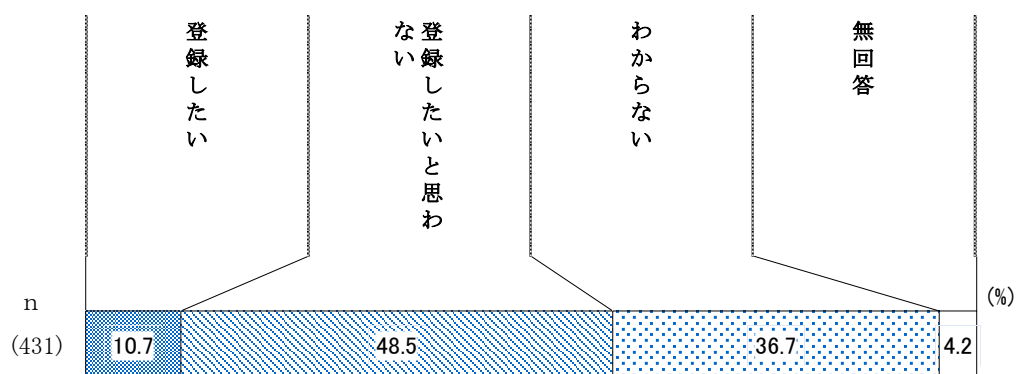


シルバー人材センターへの登録状況を見ると、「聞いたことはあるが登録したことがない」が69.8%で最も多く、次いで「知らないなので登録はしていない」が20.0%となっている。

(5) シルバー人材センターへの登録意向

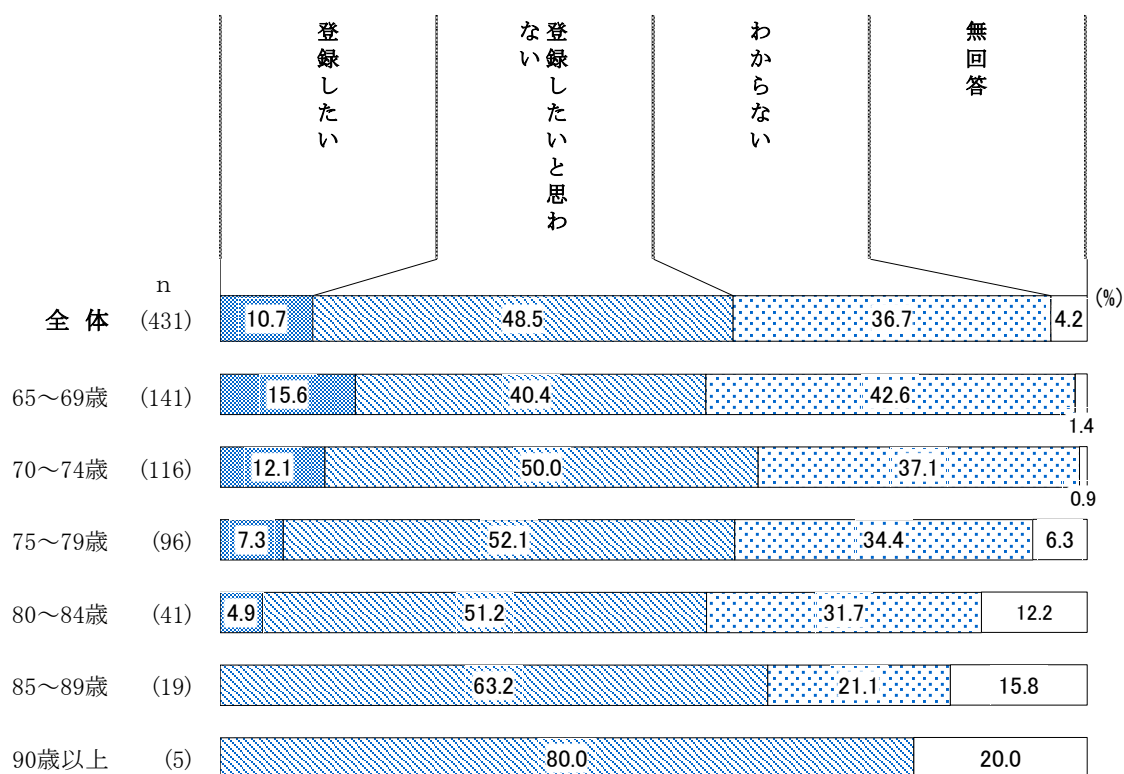
（登録していないと答えた方に）

問34-1 今後、登録したいですか。（○は1つだけ）



シルバー人材センターに「登録していたことがある」「聞いたことはあるが登録したことがない」「知らないなので登録はしていない」という人に、今後の登録意向を聞いたところ、「登録したい」は10.7%となっている。一方、「登録したくないと思わない」が48.5%を占めている。

【年齢別のシルバー人材センターへの登録意向】

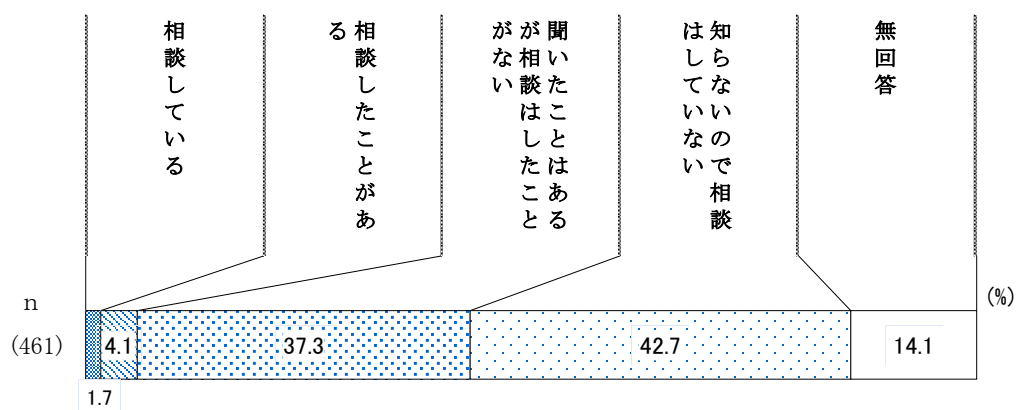


年齢別でみると、『65～69歳』『70～74歳』では「登録したい」が1割台でやや多くなっている。一方、『70～74歳』以上では「登録したいと思わない」が5割を超えている。

※ 回答者数の少ないものについては、分析ではふれていない。

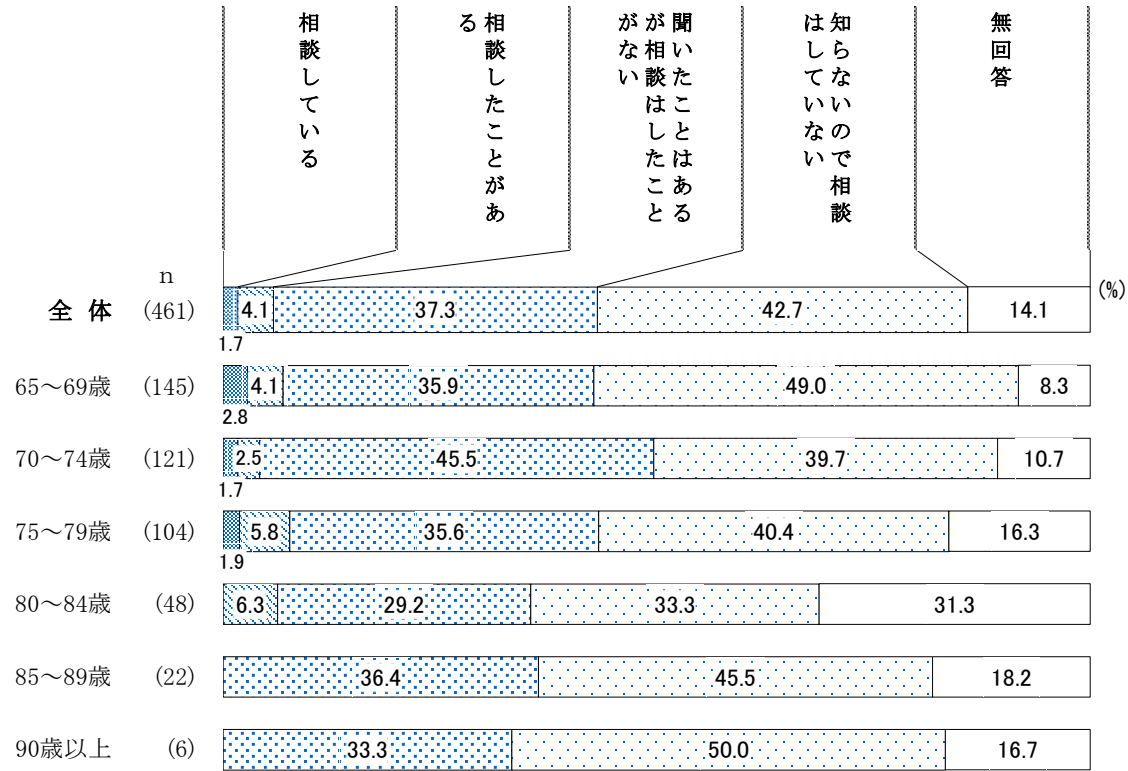
(6) 高齢者サポートセンターの利用状況

問35 市川市では、高齢者サポートセンターで高齢者に関わる相談に応じています。相談したことがありますか。(高齢者サポートセンターについては、本調査票の11ページをご覧ください。)(○は1つだけ)



高齢者サポートセンターの利用状況をみると、「知らないなので相談はしていない」が42.7%で最も多く、次いで「聞いたことはあるが相談はしたことがない」が37.3%となっている。

【年齢別の高齢者サポートセンターの利用状況】

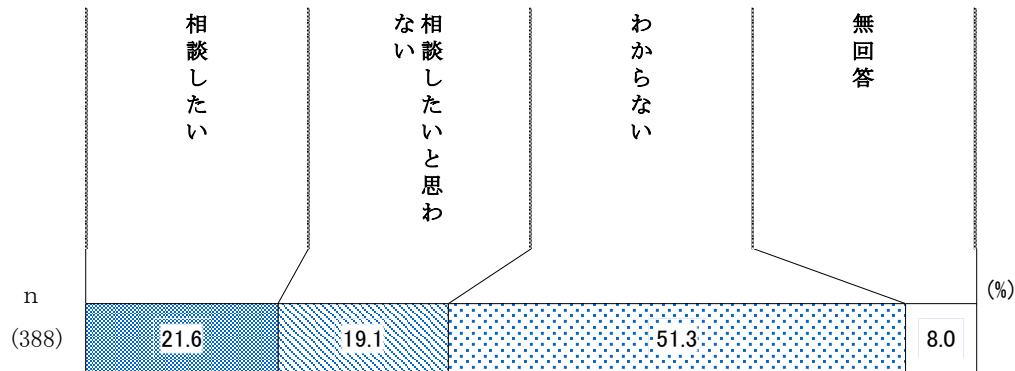


年齢別でみると、『65～69歳』では「知らないで相談はしていない」が49.0%と多くなっている。
『70～74歳』で「聞いたことはあるが相談はしたことがない」が45.5%と多くなっている。

※ 回答者数の少ないものについては、分析ではふれていない。

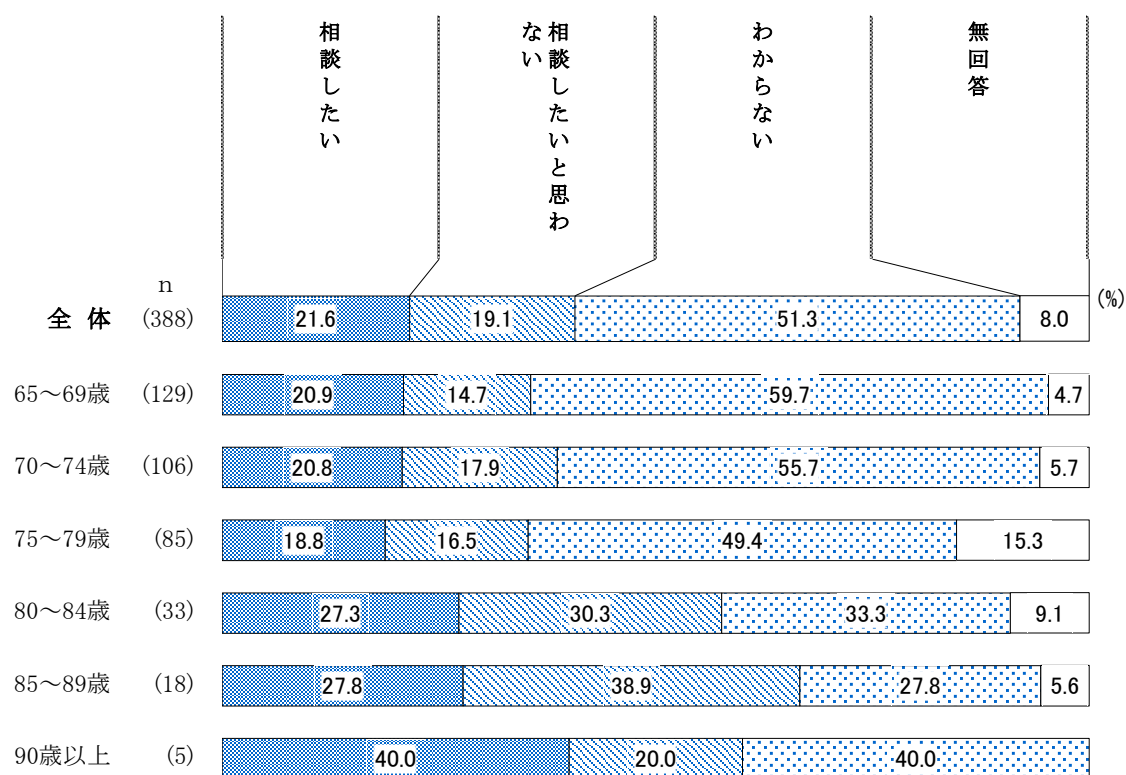
(7) 高齢者サポートセンターの利用意向

(現在、相談していないと答えた方に)
問35-1 今後、相談したいですか。(○は1つだけ)



「現在、相談していない」という人に、今後の利用意向を聞くと、「相談したい」が21.6%、「相談したいと思わない」が19.1%となっている。

【年齢別の高齢者サポートセンターの利用意向】



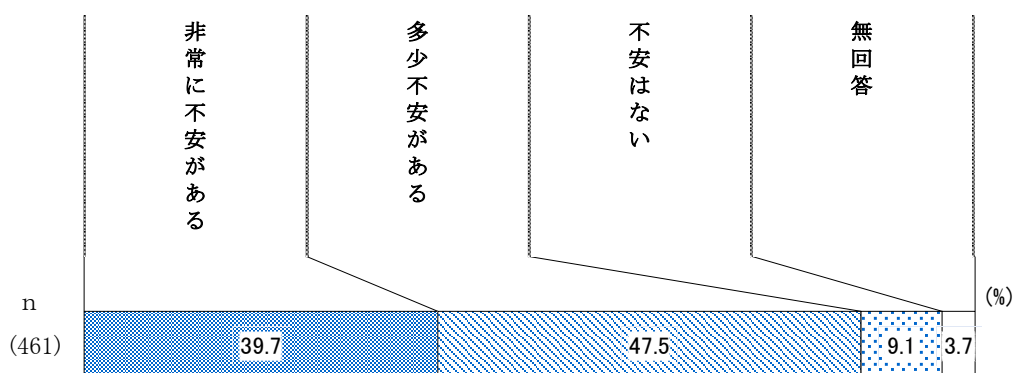
年齢別でみると、『80～84歳』では「相談したい」が2割台後半となっている。

※ 回答者数の少ないものについては、分析ではふれていない。

5. 防災

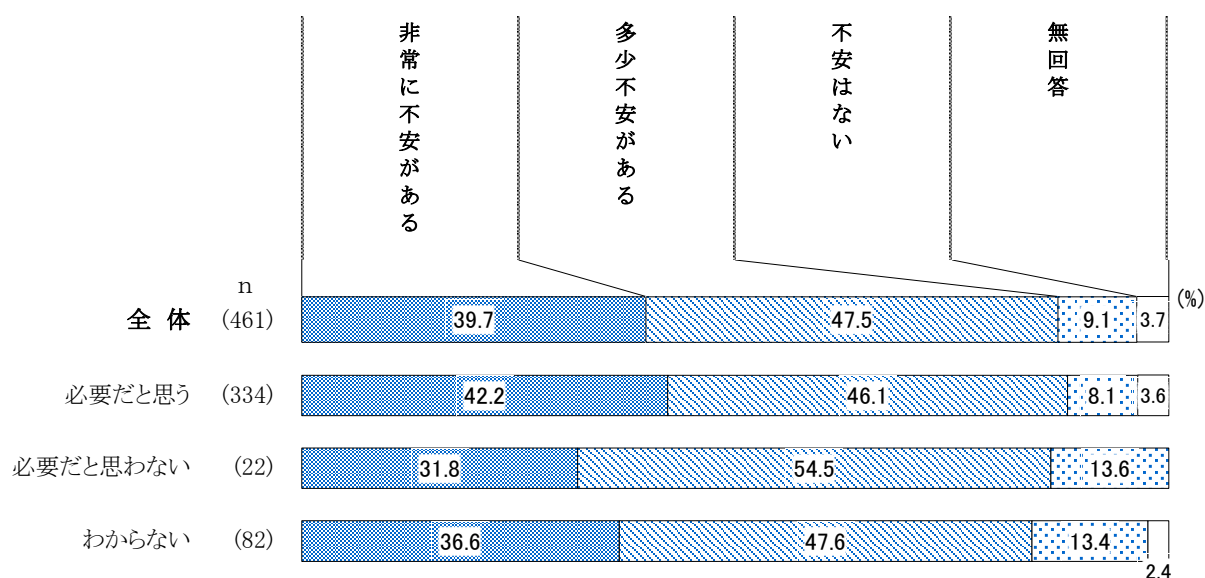
(1) 地震や災害などが起きた場合の不安感

問36 地震や災害などが起きた場合、あなた（あて名の本人）は不安に思いますか。（○は1つだけ）



地震や災害などが起きた場合の不安については、「非常に不安がある」が39.7%、「多少不安がある」が47.5%となっている。一方、「不安はない」は9.1%である。

【地域の生活課題についての住民同士の自主的な支え合いや助け合い別の地震や災害などが起きた場合の不安感】

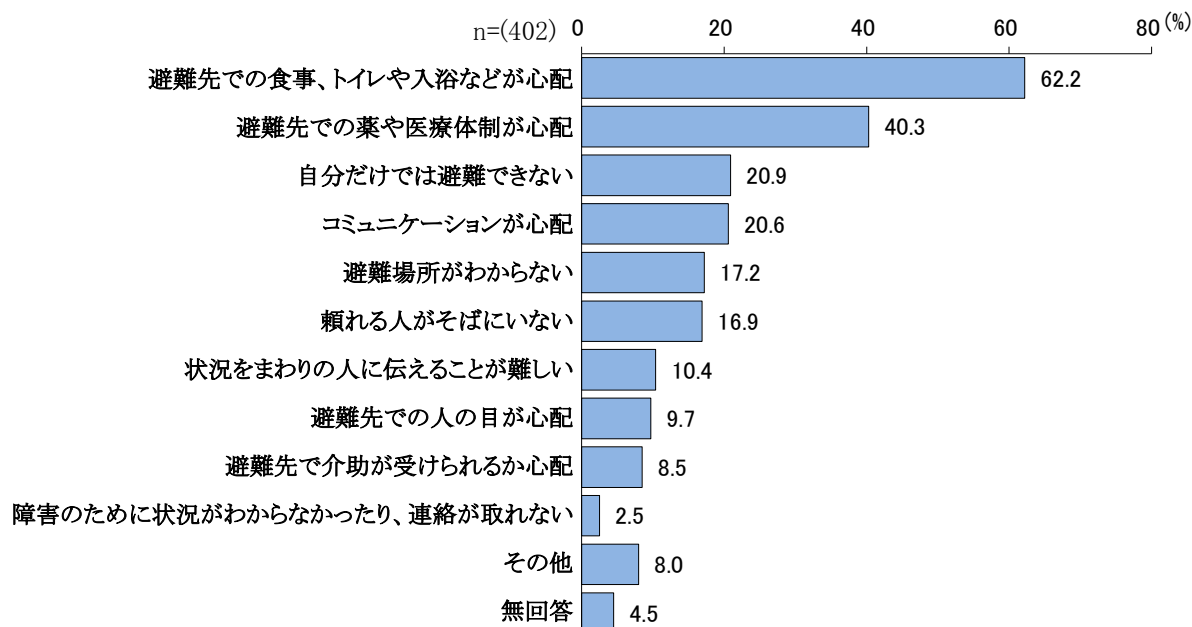


地域の生活課題についての住民同士の自主的な支え合いや助け合いの必要性についての考え別で見ると、『必要だと思う』では「非常に不安がある」が42.2%と多くなっている。

(2) 地震や災害などが起きた場合の不安の内容

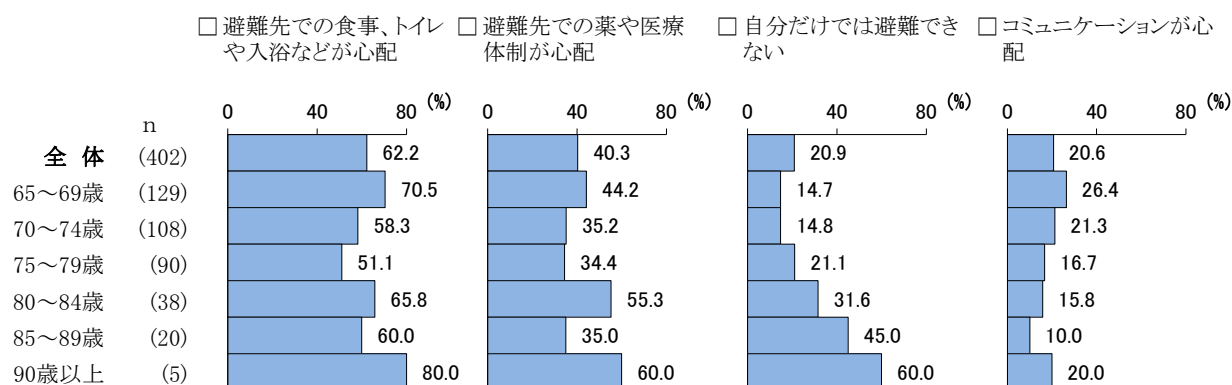
(不安があると答えた方に)

問36-1 どういったことを不安に思いますか。(○はあてはまるものすべて)



地震や災害などが起きた場合の不安の内容としては、「避難先での食事、トイレや入浴などが心配」が62.2%で最も多く、次いで「避難先での薬や医療体制が心配」が40.3%、「自分だけでは避難できない」が20.9%の順で続いている。

【年齢別の地震や災害などが起きた場合の不安の内容（上位4項目）】

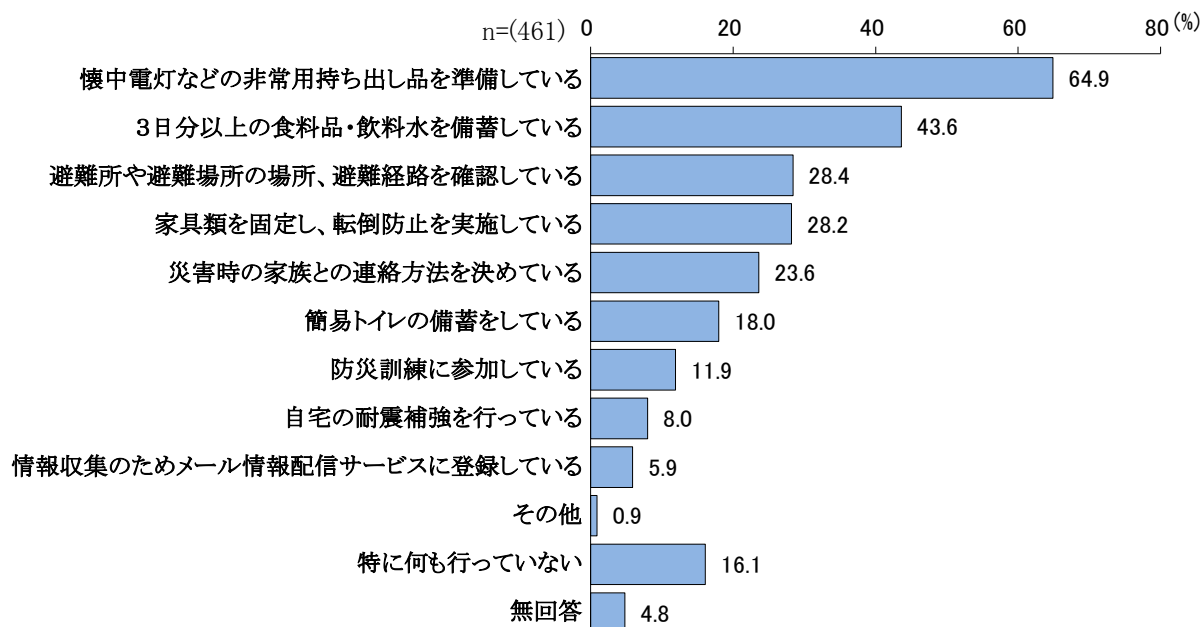


年齢別でみると、『65~69歳』では「避難先での食事、トイレや入浴などが心配」が70.5%と多く、『80~84歳』では「避難先での薬や医療体制が心配」が55.3%と多くなっている。一方、『65~69歳』では「コミュニケーションが心配」も26.4%とやや多くなっている。

※ 回答者数の少ないものについては、分析ではふれていない。

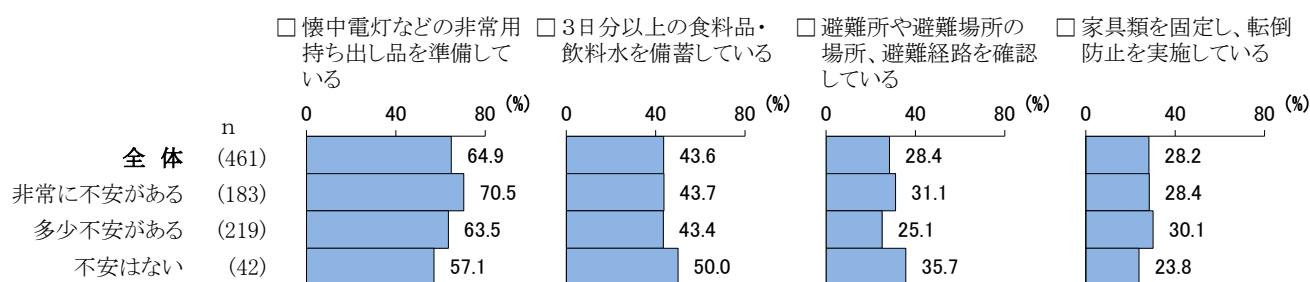
(3) 地震や災害に備えた日頃の対策

問37 地震や災害に備えて、日頃からどのような対策を行っていますか。(〇はあてはまるものすべて)



地震や災害に備えた日頃の対策としては、「懐中電灯などの非常用持ち出し品を準備している」が64.9%で最も多く、次いで「3日分以上の食料品・飲料水を備蓄している」が43.6%、「避難所や避難場所の場所、避難経路を確認している」が28.4%、「家具類を固定し、転倒防止を実施している」が28.2%の順で続いている。

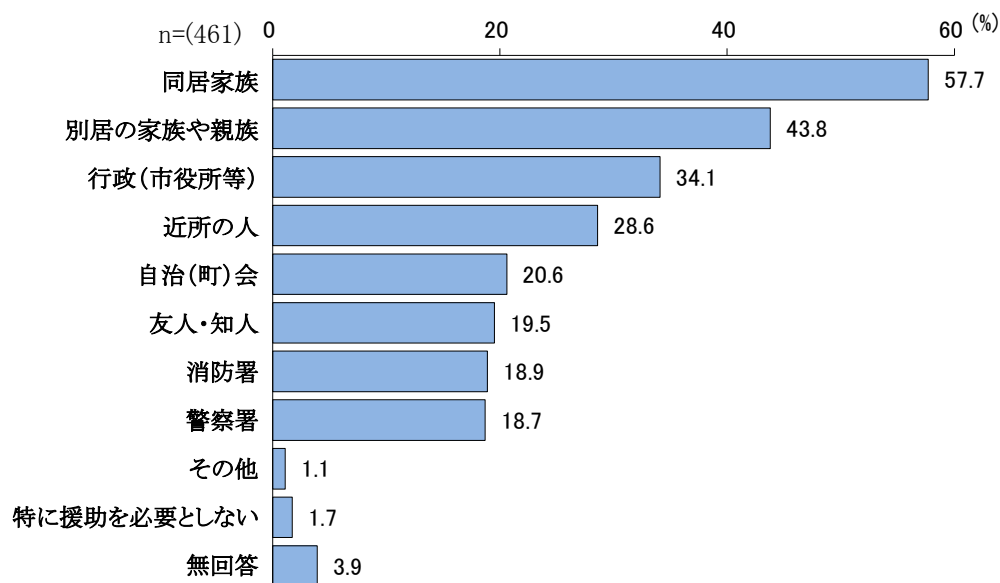
【地震や災害などが起きた場合の不安感別の地震や災害に備えた日頃の対策（上位4項目）】



地震や災害などが起きた場合の不安感別でみると、『非常に不安がある』では、「懐中電灯などの非常用持ち出し品を準備している」が多くなっている。また、『不安はない』では、「3日分以上の食料品・飲料水を備蓄している」「避難所や避難場所の場所、避難経路を確認している」が多くなっている。

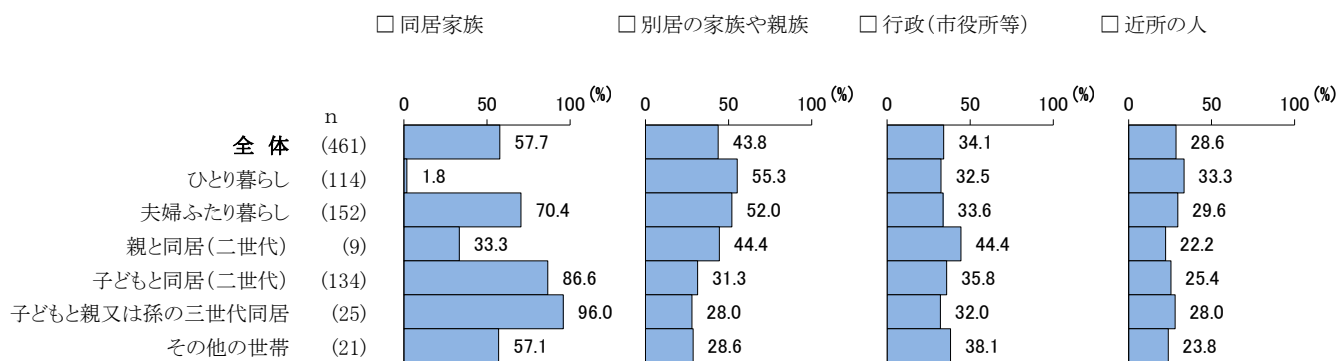
（４）災害などの緊急時に頼りにする相手

問38 あなた（あて名のご本人）は、災害などの緊急時に、だれ（どこ）を頼りにしていますか。（○はあてはまるものすべて）



災害などの緊急時に頼りにする相手としては、「同居家族」が57.7%で最も多く、次いで「別居の家族や親族」が43.8%、「行政（市役所等）」が34.1%、「近所の人」が28.6%の順で続いている。

【世帯構成別の災害などの緊急時に頼りにする相手（上位4項目）】

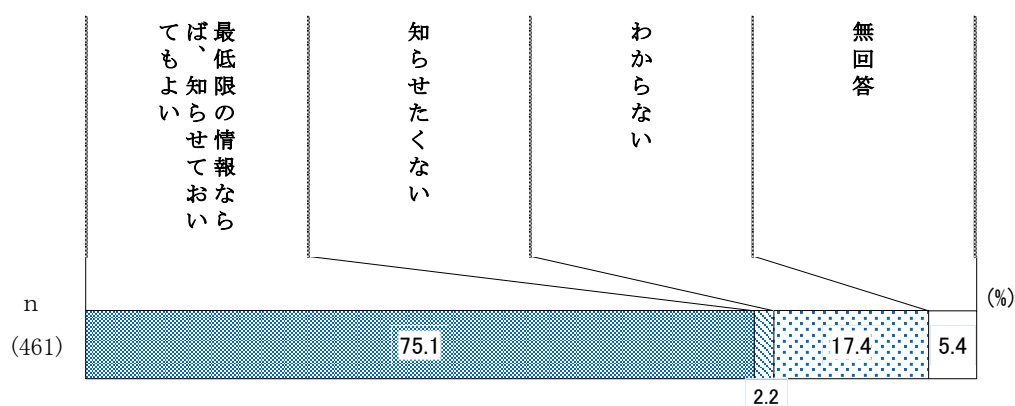


世帯構成別でみると、『子どもと同居（二世帯）』では「同居家族」が86.6%と多くなっている。『ひとり暮らし』『夫婦ふたり暮らし』では「別居の家族や親族」が5割を超えている。

※ 回答者数の少ないものについては、分析ではふれていない。

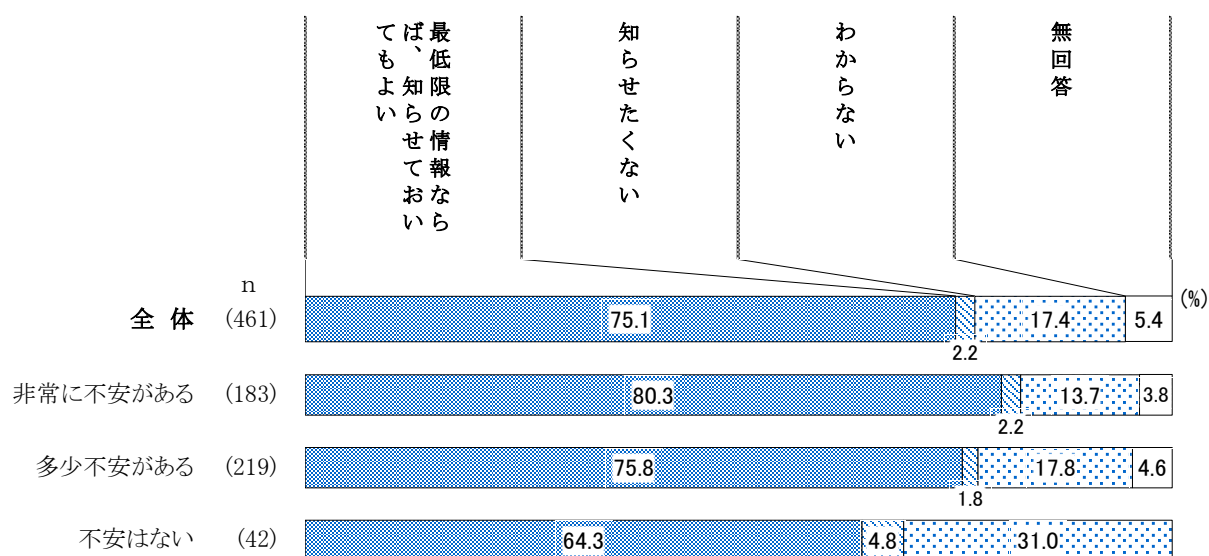
(5) 災害時避難・救助のための名簿作成への参加意向

問39 あなた（あて名のご本人）は、災害時の避難や救助のために、市役所、消防署、警察署や自治（町）会へ、住所・氏名・連絡先などを事前に知らせておくことについて、どう思いますか。（○は1つだけ）



災害時避難・救助のための名簿作成への参加意向をみると、「最低限の情報ならば、知らせてもいい」が75.1%を占めている。一方、「知らせたくない」は2.2%となっている。

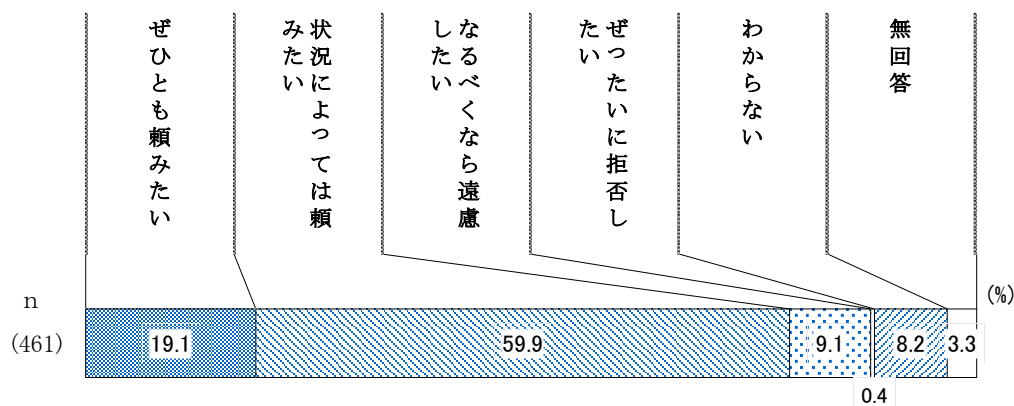
【地震や災害などが起きた場合の不安感別の災害時避難・救助のための名簿作成への参加意向】



地震や災害などが起きた場合の不安感別にみると、『非常に不安である』では「最低限の情報ならば、知らせてもいい」が80.3%を占めている。

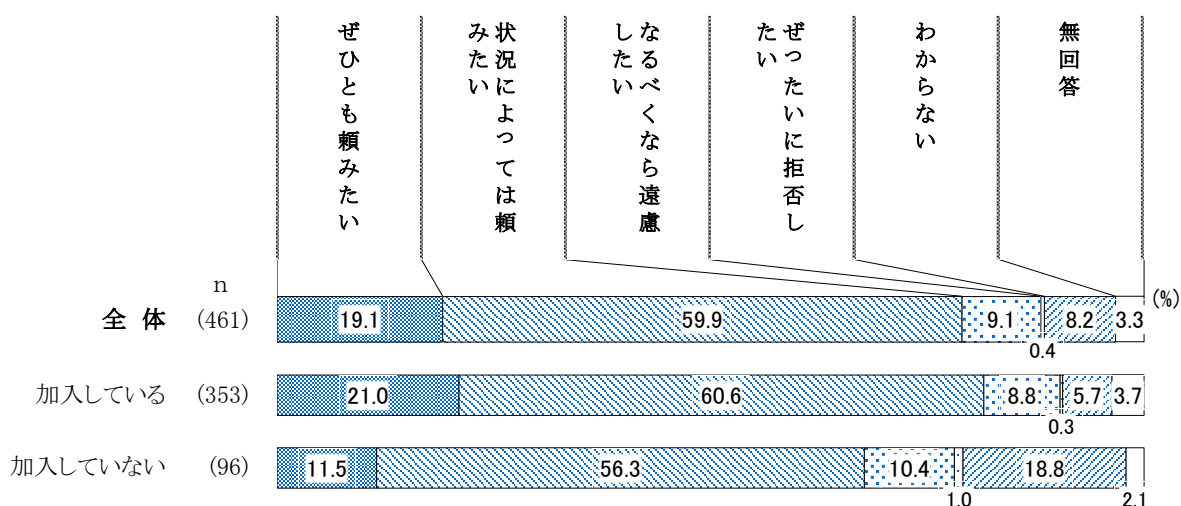
（6）災害時や日常生活に支障がある際の声かけや簡単な援助の依頼意向

問40 住み慣れた地域で安心して暮らし続けるためには、災害時だけでなく、日頃からの身近な地域での助け合いが大切だと言われています。災害のときや日常生活に支障があるときに、自治（町）会などによる声かけや簡単な援助をしてもらうことについてどう思いますか。（○は1つだけ）



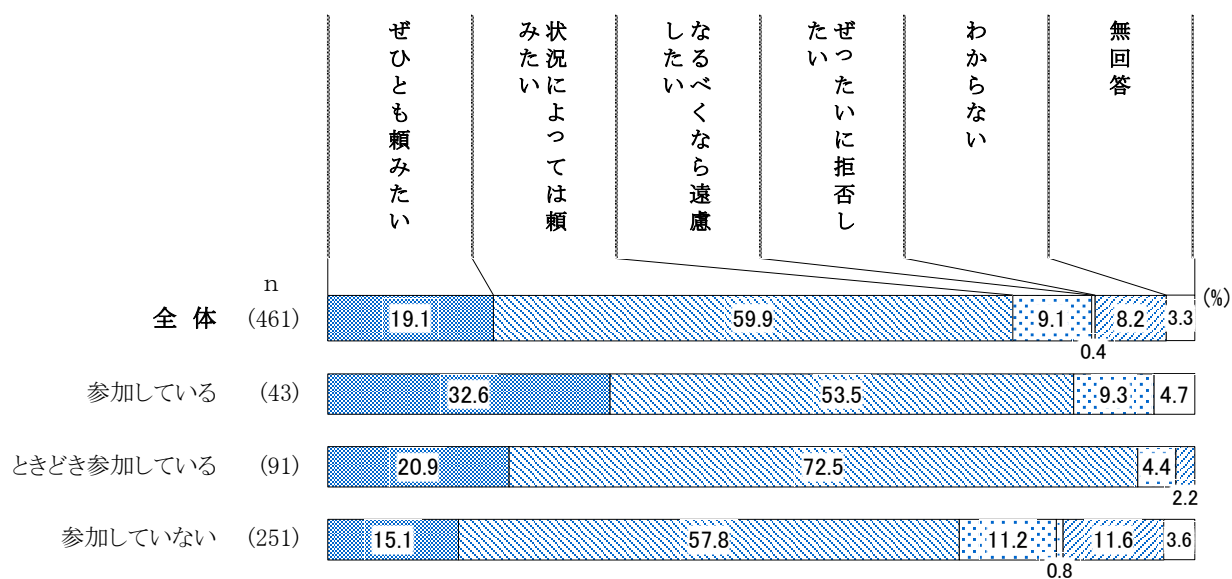
災害時や日常生活に支障がある際の声かけや簡単な援助の依頼意向をみると、「状況によっては頼みたい」が59.9%で最も多く、次いで「ぜひとも頼みたい」が19.1%となっている。

【自治（町）会への加入状況別の災害時や日常生活に支障がある際の声かけや簡単な援助の依頼意向】



自治（町）会への加入状況別でみると、『加入している』では「ぜひとも頼みたい」が21.0%と高くなっている。

【日頃の自治（町）会活動の参加状況別の災害時や日常生活に支障がある際の声かけや簡単な援助の依頼意向】

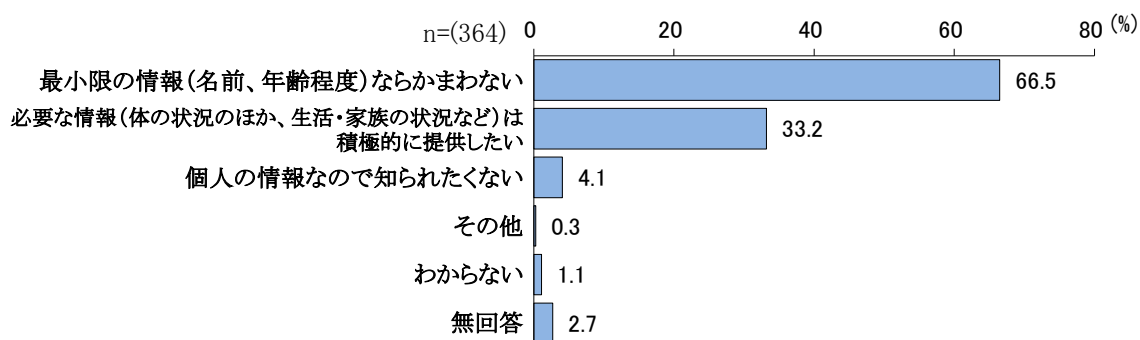


日頃の自治（町）会活動の参加状況別でみると、『参加している』では「ぜひとも頼みたい」が32.6%と、『ときどき参加している』『参加していない』より多くなっている。

（7）避難行動要支援者名簿作成に関する意識

（頼みたいと答えた方に）

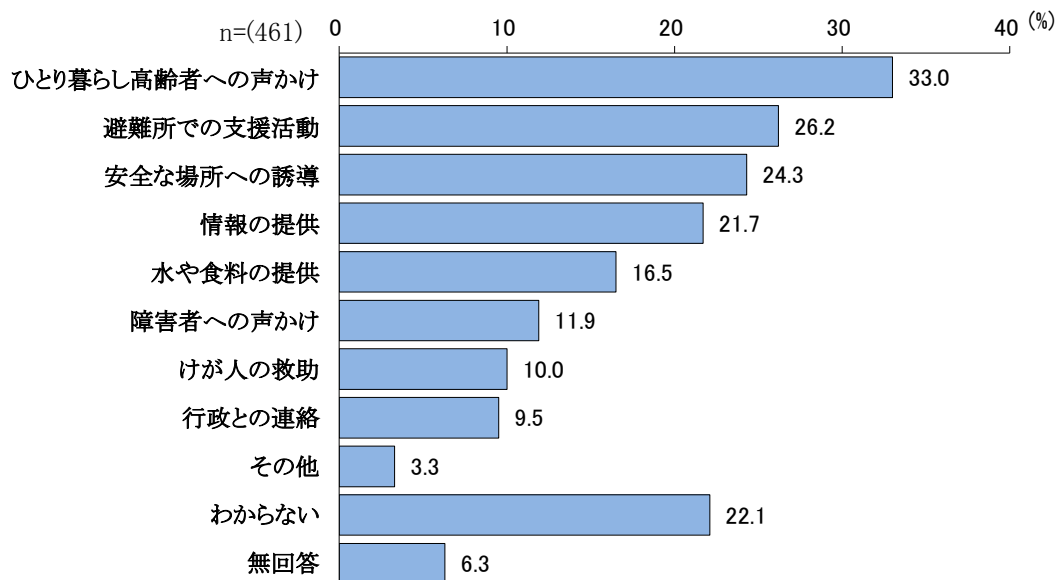
問40－1 その場合、あなた（あて名のご本人）の名前や年齢、お体の状況、ご家族の有無など個人の情報が自治（町）会などに知られることになりましたが、このことについてはどのように思いますか。（○はあてはまるものすべて）



災害時や日常生活に支障がある際の声かけや簡単な援助の依頼意向のある人に、個人情報の扱いについて聞いたところ、「最小限の情報（名前、年齢程度）ならかまわない」が66.5%で最も多く、次いで「必要な情報（体の状況のほか、生活・家族の状況など）は積極的に提供したい」が33.2%となっている。

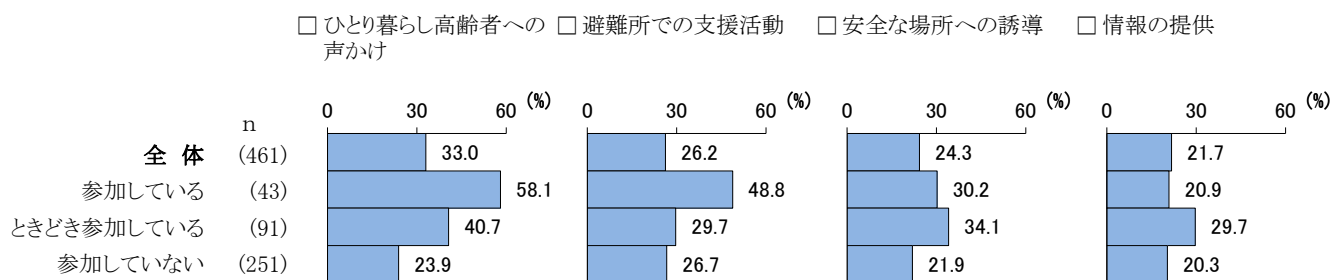
(8) 災害時に可能な地域活動

問41 あなた（あて名のご本人）は、震災等の災害にあったとしたら、あなたがお住まいの地域でどのような活動をしたいと思いますか。（〇は3つまで）



災害時にできる地域活動としては、「ひとり暮らし高齢者への声かけ」が33.0%で最も多く、次いで「避難所での支援活動」が26.2%、「安全な場所への誘導」が24.3%、「情報の提供」が21.7%の順で続いている。

【日頃の自治（町）会活動の参加状況別の災害時に可能な地域活動（上位4項目）】



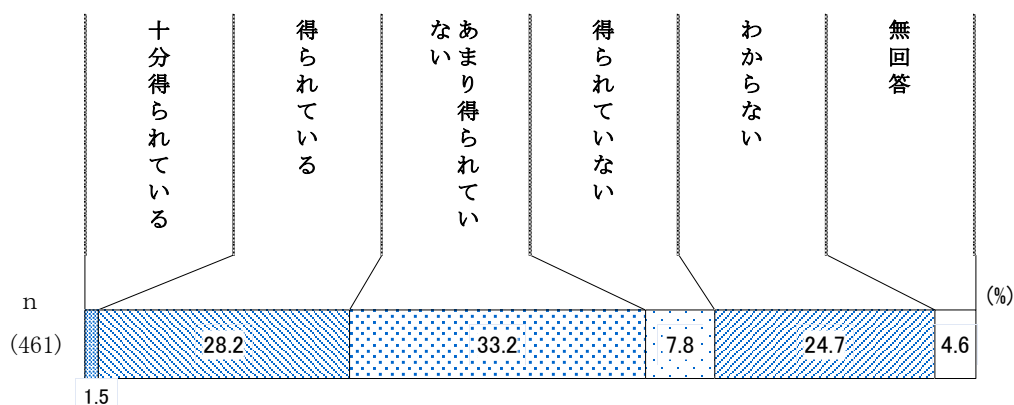
日頃の自治（町）会活動の参加状況別でみると、『参加している』では「ひとり暮らし高齢者への声かけ」「避難所での支援活動」が多くなっている。

6. 市の施策

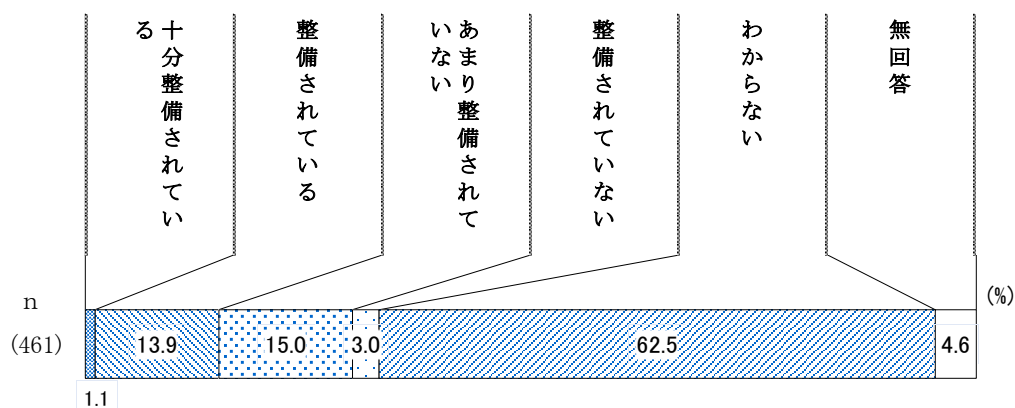
(1) 施策評価

問42 以下の(1)～(12)について、皆様のお考えをうかがいます。(〇はそれぞれ1つずつ)

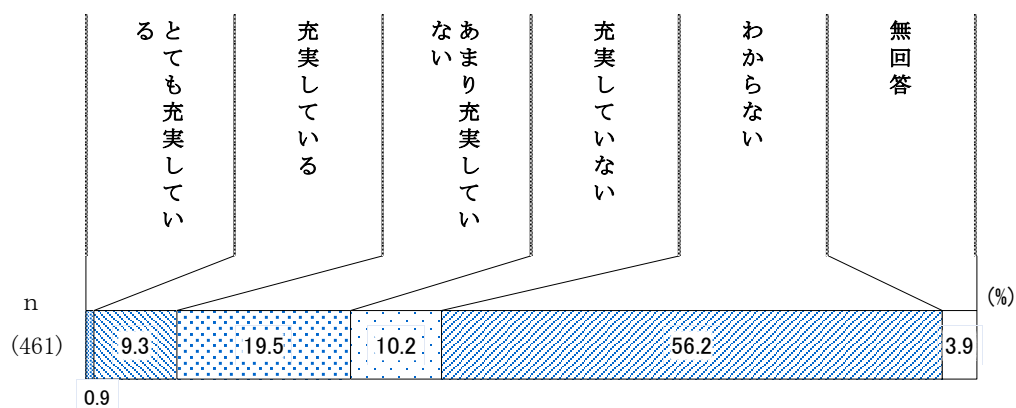
(1) 市の福祉施策に関する情報は、広報紙や市の公式ホームページ等で、情報提供を行なっておりますが、必要な情報を得られていると思いますか。



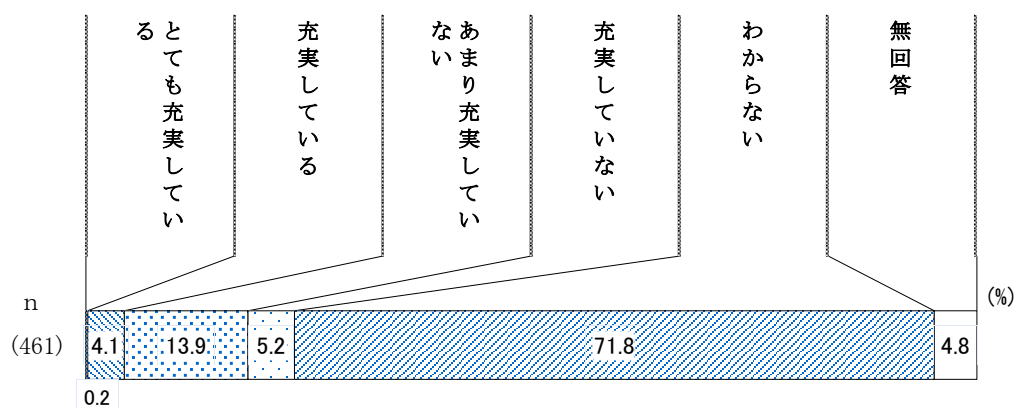
(2) 高齢者、障害者、子育て家庭等の方のための専門的な相談窓口（高齢者サポートセンター〔地域包括支援センター〕、障害者地域生活支援センター、子ども家庭総合支援センター）を設置しておりますが、安心して生活できるように地域の相談体制は整備されていると思いますか。



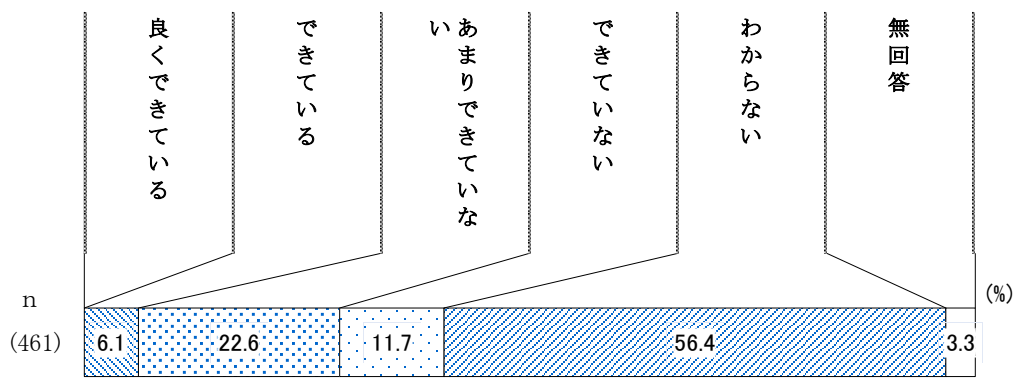
(3) 住み慣れた地域でできる限り暮らし続けられるような在宅医療(医師による訪問診察等)の支援は充実していると思いますか。



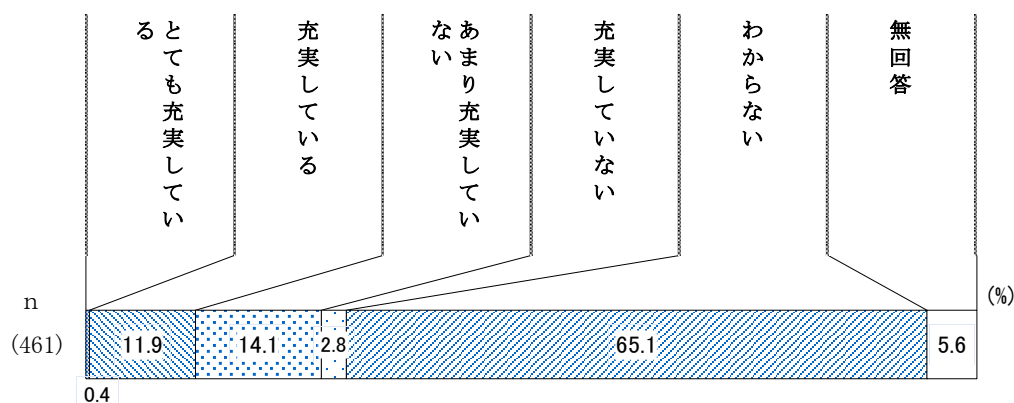
(4) 認知症などにより、日常生活を送る上で十分な判断ができない人や、体の自由が利かない人のため相談窓口や福祉サービスの利用手続きの援助、日常的な金銭管理等の支援は充実していると思いますか。



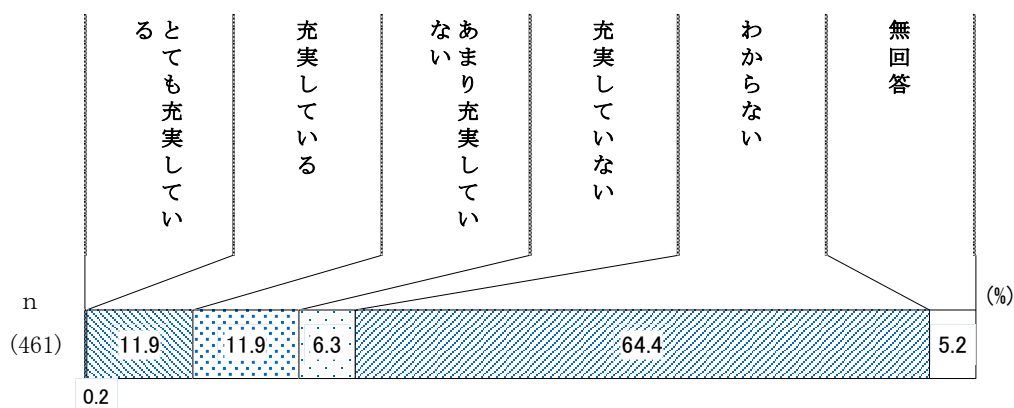
(5) ご自身が住む地域において、引きこもりがちな高齢者、障害者、子育て世帯等を含め、誰もが安心して生活を送れるよう、地域での住民同士の交流や支え合いができていますか。



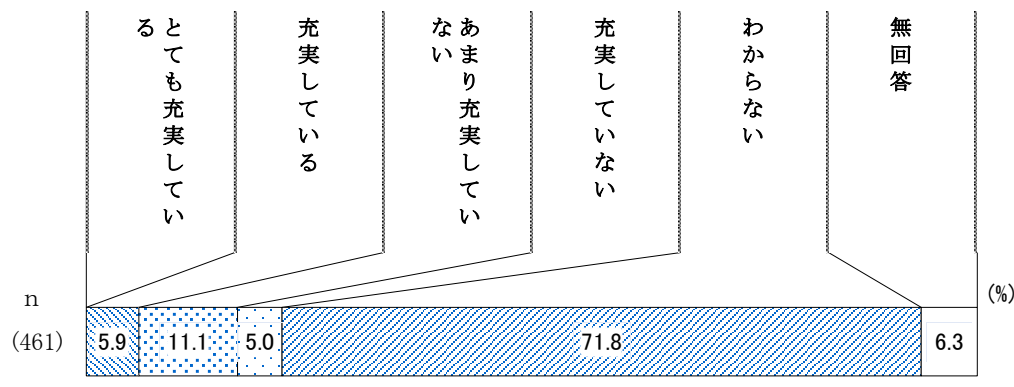
（６）本市では小学校区を中心とした防災拠点の整備や警報器の普及等、緊急時の支援体制の整備を行っています。体制の整備は充実していると思いますか。



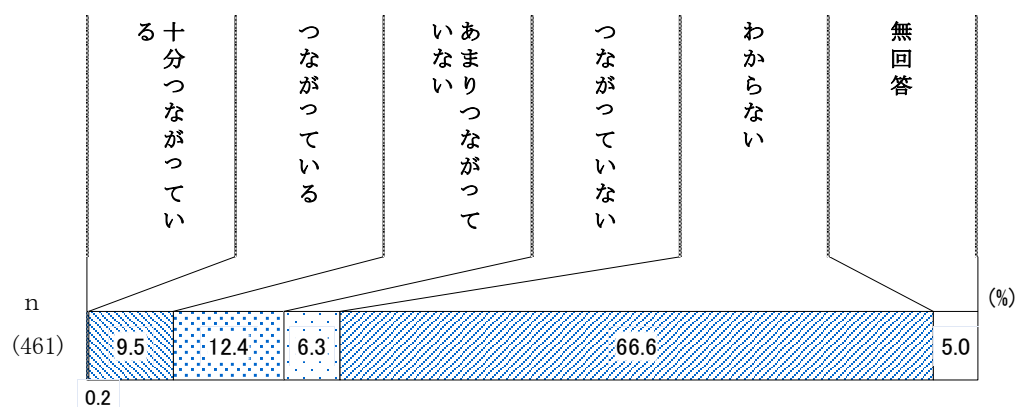
（７）住み慣れた家で安心して暮らし続けられるよう、手すりの取り付け工事や段差解消のバリアフリーに関する住宅リフォーム相談を行っています。相談体制は充実していると思いますか。



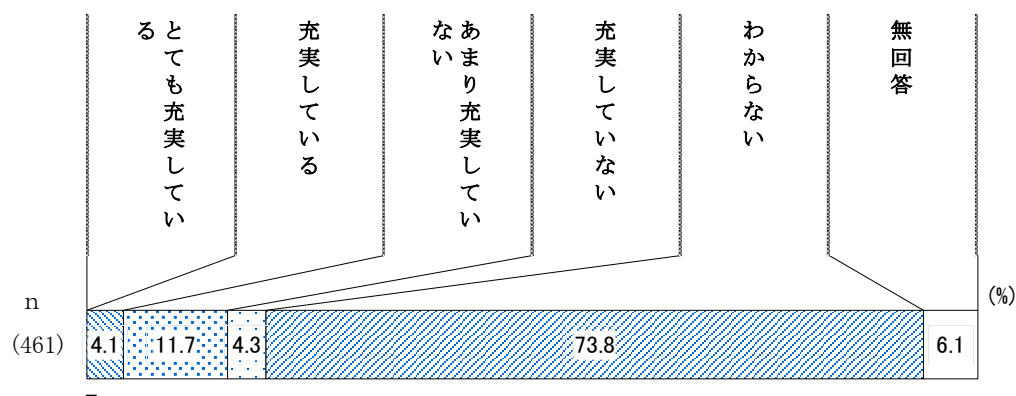
（８）高齢者や障害者など、自身での移動が困難な方の移動を支援するために、福祉有償運送（社会福祉法人やNPO法人等が一人では公共交通機関を利用することが困難な身体障害者や要介護者の方に運送を行うもの）を行っています。外出手段は充実していると思いますか。



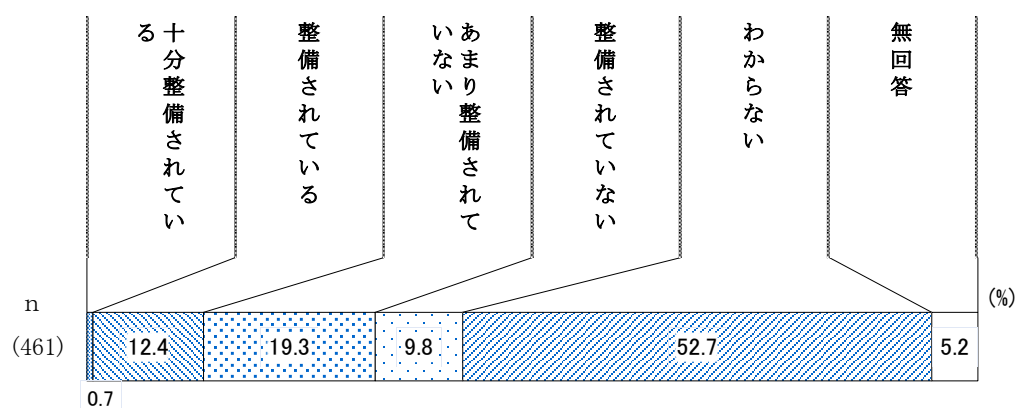
（９）「だれもが安心して暮らし続けることができる地域づくり」を実現するために、市職員が地域に出向き、福祉に関するテーマの講座を実施していますが、地域福祉に対する意識の向上につながっていると思いますか。



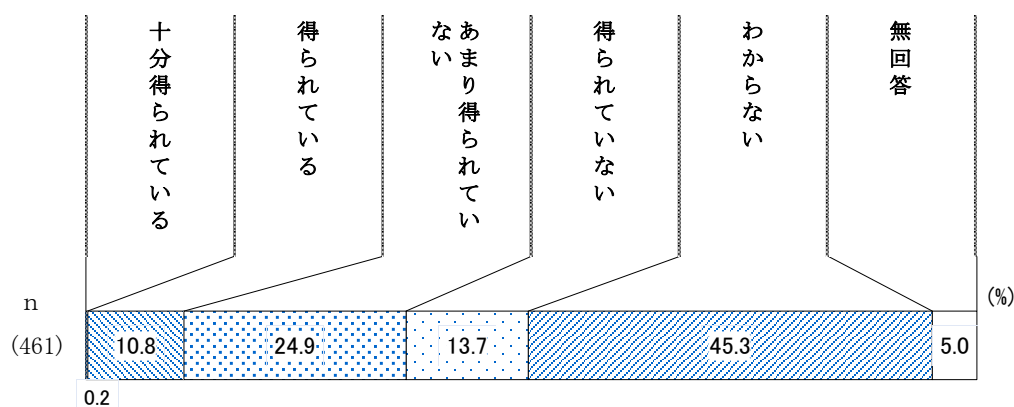
（１０）地域福祉の推進にあたり、活動に取り組む担い手の確保、研修会や講習会等の人材育成の環境は充実していると思いますか。



（１１）ご自身の住む地域において、気軽に集まり交流できる場やサークル活動・生涯学習等が行える活動の場が、整備されていると思いますか。



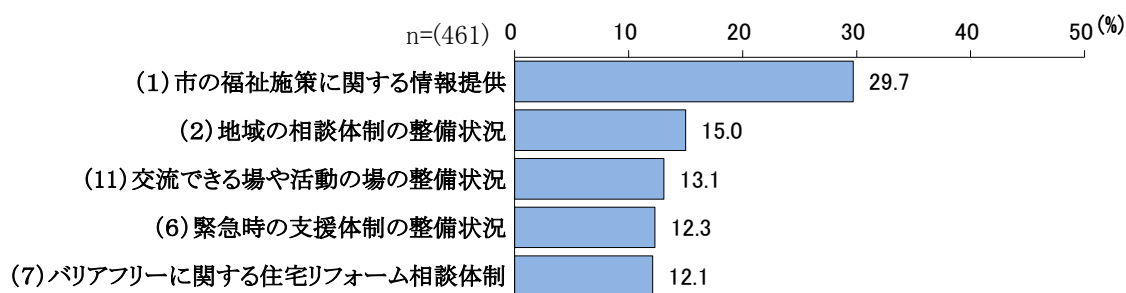
（１２）住み慣れた地域で安心して暮らし続けるためには、地域で生活する方々が協力し、助け合うことが必要です。必要なときに地域活動や市民活動団体などの情報を得られていると思いますか。



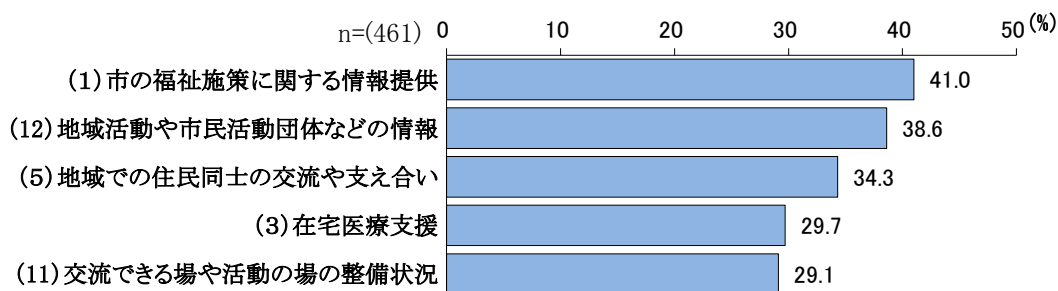
市の福祉施策についての評価を、《肯定的評価》（「十分に得られている」＋「得られている」等）の高い順でみると、『（１）市の福祉施策に関する情報提供』が29.7%で最も多く、次いで『（２）地域の相談体制の整備状況』が15.0%、『（１１）交流できる場や活動の場の整備状況』が13.1%、『（６）緊急時の支援体制の整備状況』が12.3%の順で続いている。

一方、《否定的評価》（「あまり得られていない」＋「得られていない」等）の高い順でみると、『（１）市の福祉施策に関する情報提供』が41.0%で最も多く、次いで『（１２）地域活動や市民活動団体などの情報』が38.6%、『（５）地域での住民同士の交流や支え合い』が34.3%の順で続いている。

【肯定的評価（上位５項目）】



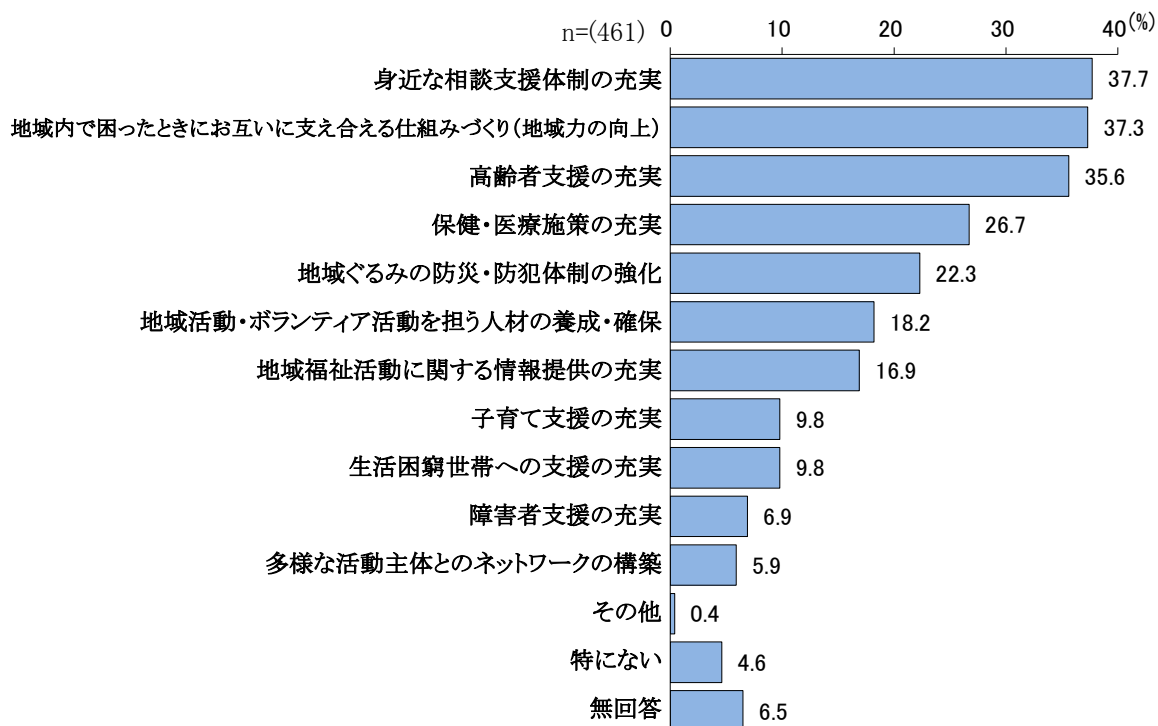
【否定的評価（上位５項目）】



7. 今後取り組んでほしい施策の方向性

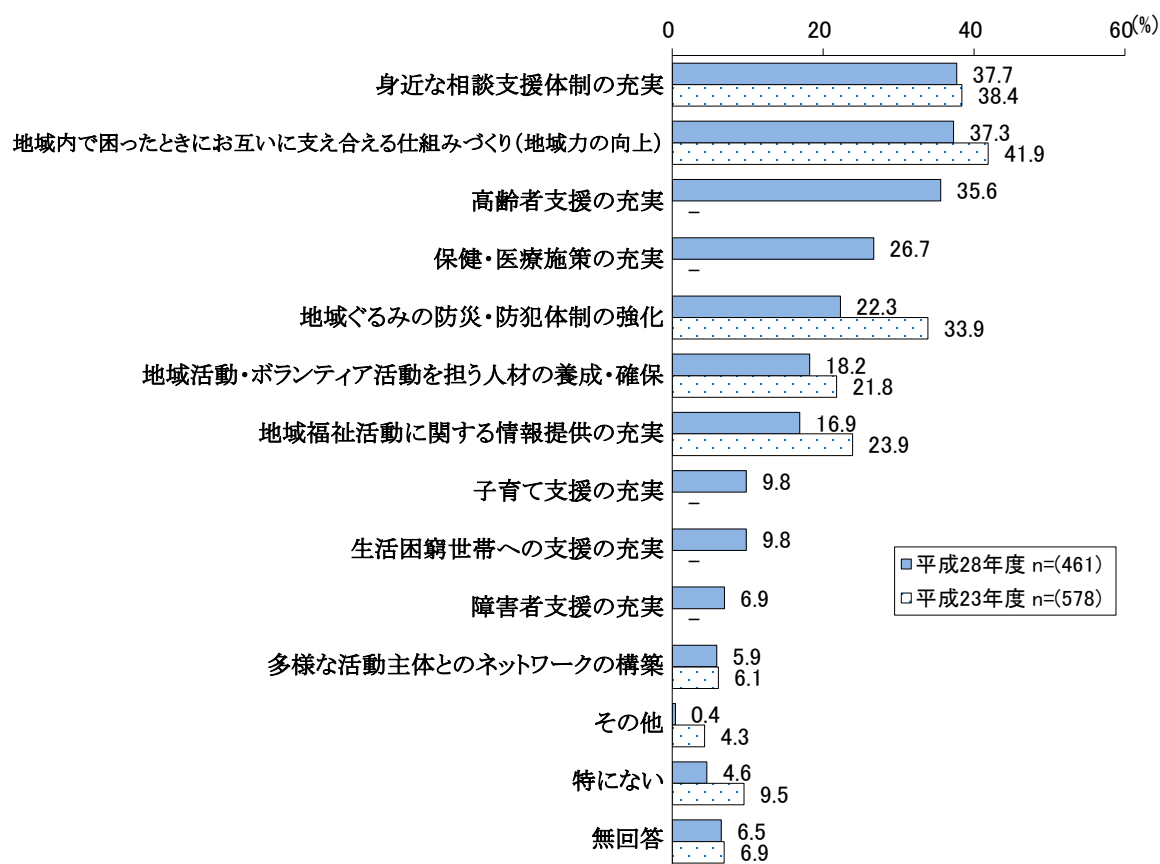
(1) 地域福祉分野の施策で特に力を入れてほしいこと

問43 市川市の地域福祉分野の施策について、今後あなた（あて名のご本人）が特に力を入れてほしいと思われることは何ですか。（〇は3つまで）



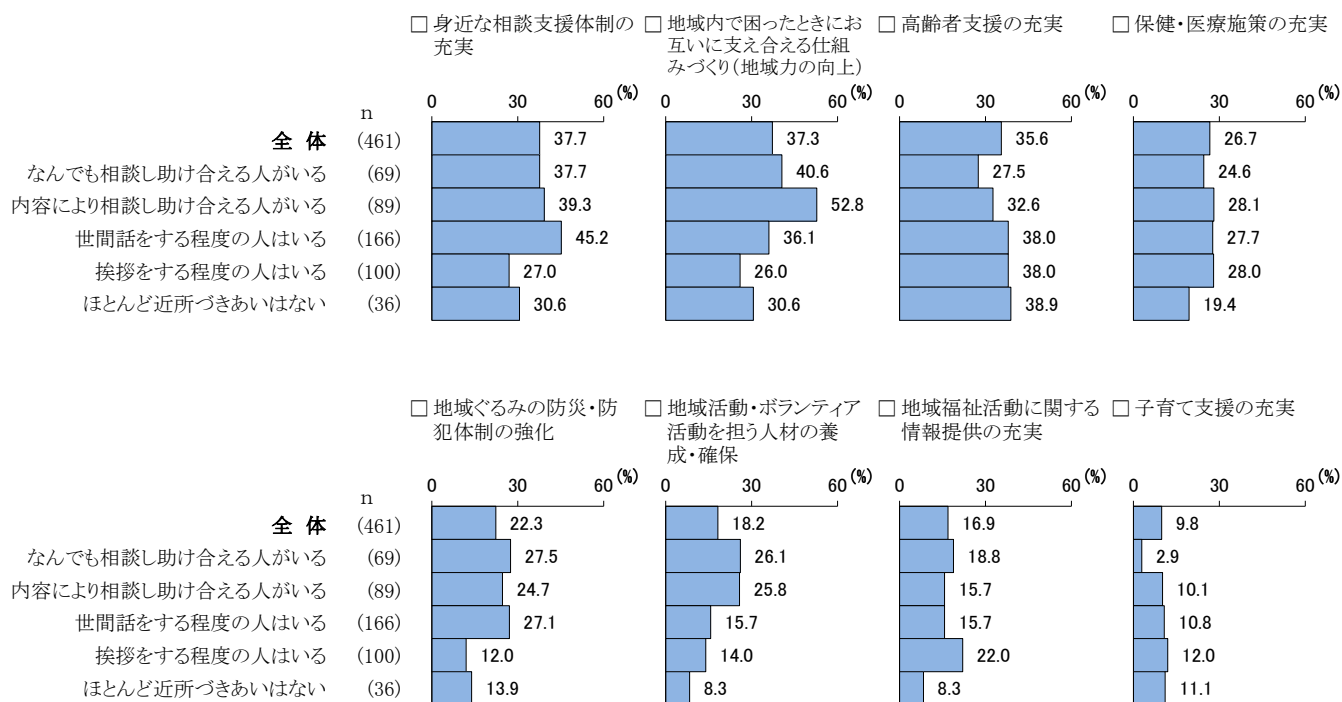
地域福祉分野で特に力を入れてほしいこととしては、「身近な相談支援体制の充実」が37.7%で最も多く、次いで「地域内で困ったときにお互いに支え合える仕組みづくり（地域力の向上）」が37.3%、「高齢者支援の充実」が35.6%、「保健・医療施策の充実」が26.7%の順が続いている。

《 前回調査との比較 地域福祉分野の施策で特に力を入れてほしいこと 》



経年でみると、平成23年度の調査結果と比べると、「地域内で困ったときにお互いに支え合える仕組みづくり（地域力の向上）」「地域ぐるみの防災・防犯体制の強化」は減少している。

【近所づきあいの程度別の地域福祉分野の施策で特に力を入れてほしいこと（上位8項目）】



近所づきあいの程度別でみると、『立ち入った相談事はしないが、世間話をする程度の人がある』では「身近な相談支援体制の充実」が45.2%と多く、『内容によっては困ったときに相談し、助け合える人がある』では「地域内で困ったときお互いを支え合える仕組みづくり（地域力の向上）」が52.8%と多くなっている。

第5章 調査結果の詳細

／ボランティア団体・NPO法人

1. 回答者の属性

(1) 団体名

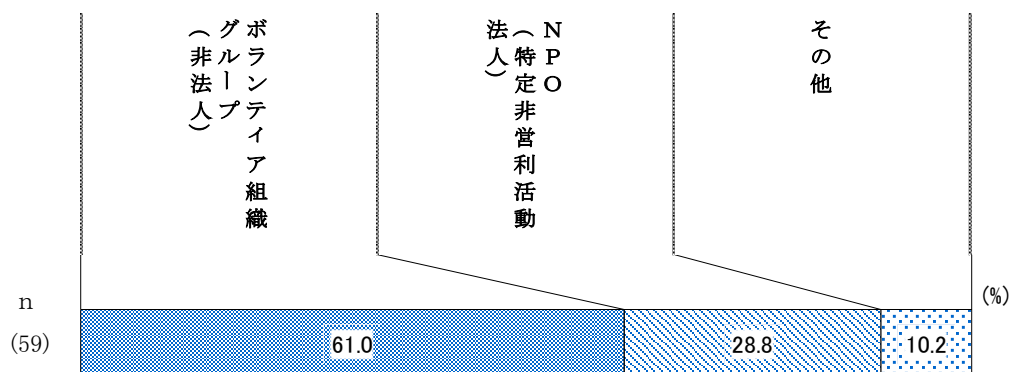
問1 貴団体名をお書きください。

フットベースボールを育てる会、市川市マンション管理組合協議会、認定NPO法人しゃり、行徳郷土文化懇話会、NPO法人住まいのサポートセンター、市川ジュニアBリーグ、着物リメイク研究会、特定非営利活動法人行徳野鳥観察舎友の会、市川子どもの外遊びの会、まちづくり家づくりCafe Ichikawa、市川写真家協会、市川市WHO健康都市和洋会、NPO法人地域のたすけあい市川ユアアイ協会、いちかわ歩こう会、ナルク市川拠点生きがいつくりの会、住み良い街をつくる会、鯉のぼり実行委員会、MOA食育ネットワーク千葉ハピネスクラブ、特定非営利活動法人いちかわ地球市民会議、わんぱくの森の会、市川ラグビー少年団りとるキング、傾聴ボランティアサークル「うさぎの耳」、特定非営利活動法人いちかわ子育てネットワーク、ラーラ・マンドリンクラブ、さかなちゃんクラブ、アンサンブル市川、いちかわ音楽療法の会、戦争はいやだ！市川市民の会、NES（自然環境にやさしい活動を広める会）、ふれあい昼食会すずめ茶屋、じゅんさい池健歩健走クラブ（ゆっくり歩く・走る スイカ大会開催）、食ボランティアかすみ草、特定非営利活動法人市川市ユネスコ協会、老後を安心して健やかに暮らす会、特非・アート・空の会、NPO法人歌のボランティア・いちかわシャンテ、特定非営利活動法人まつぼっくりの会、市川市少年野球リーグ、重度障害者団体「あじさいの会」、芙蓉会（市川市母子寡婦福祉会）、子育て応援メッセ実行委員会、いくじネットいちかわ、発達に遅れのある子の保育・療育支援にじの会、NPO法人親そだちネットワーク ビジー・ビー、特定非営利活動法人いちかわ市民文化ネットワーク、市川の空気を調べる会、北国分駅周辺を日本一良くする会、心のふれあいボランティア「フレンズ」、心理リハビリテーション市川はのはな会、NPO法人市川子ども文化ステーション、NPO法人小学生モンテッソーリスクール、すがの会、クリオネ、G2プロジェクト、東部マンドリーノ、まちのすみかの会市川支部、ウエスタン・マジッククラブ市川、市川手をつなぐ親の会

(順不同)

(2) 団体の種類

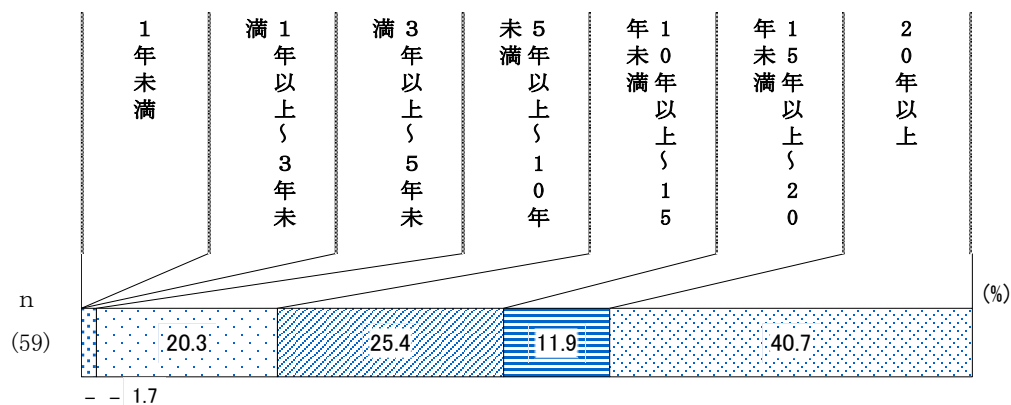
問2 貴団体は次のどれにあたりますか。(〇は1つだけ)



団体の種別は、「ボランティア組織グループ (非法人)」が61.0%、「NPO (特定非営利活動法人)」が28.8%となっている。

(3) 活動期間

問2-1 貴団体は、活動を始めてどのくらいになりますか。通算の年数でお答えください。(〇は1つだけ)



活動期間は、「20年以上」が40.7%で最も多く、次いで「10年以上～15年未満」が25.4%となっている。

(4) 活動会員数

問2-2 活動会員の年代別の人数、市内／外在住者数をご記入ください。(活動会員＝提供する側の会員) ※利用会員数は含まないでください。

(%)

	合計	10～20代	30代	40代	50代	60代以上
男性	801人	1.2	3.1	18.5	17.7	59.4
女性	1,115人	1.2	1.6	6.7	12.5	78.0

	合計	比率
男性	801人	41.8
女性	1,115人	58.2

	合計	10～20代	30代	40代	50代	60代以上
市内在住者	1,530人	0.6	2.4	12.9	14.5	69.7
市外在住者	309人	4.5	2.3	7.8	14.2	71.2

	合計	比率
市内在住者	1,530人	83.2
市外在住者	309人	16.8

活動会員数を年代別でみると、男性では、「60代以上」が59.4%で最も多く、次いで「40代」(18.5%)となっている。女性では、「60代以上」が78.0%で最も多く、次いで「50代」(12.5%)となっている。

性別でみると、「男性」が41.8%、「女性」が58.2%となっている。

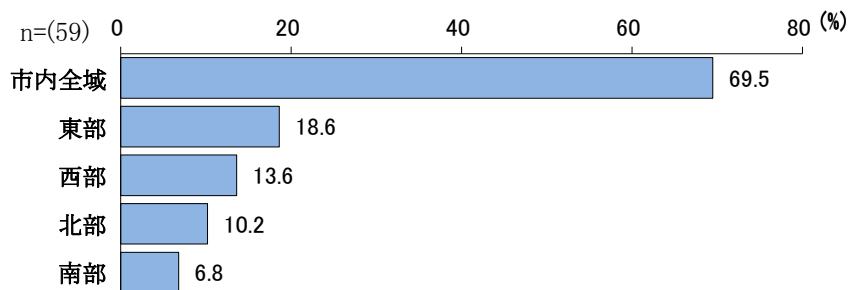
市内在住者数を年代別でみると、「60代以上」が69.7%で最も多く、次いで「50代」(14.5%)となっている。

市外在住者数を年代別でみると、「60代以上」が71.2%で最も多く、次いで「50代」(14.2%)となっている。

居住地区別でみると、「市内在住者」が83.2%、「市外在住者」が16.8%となっている。

(5) 活動エリア

問2-3 活動されているエリアをお答えください。下記の「地区の町丁」をご確認いただき、お答えください。なお、市内全域の場合は「1」だけに○をつけてください。(○はあてはまるものすべて)



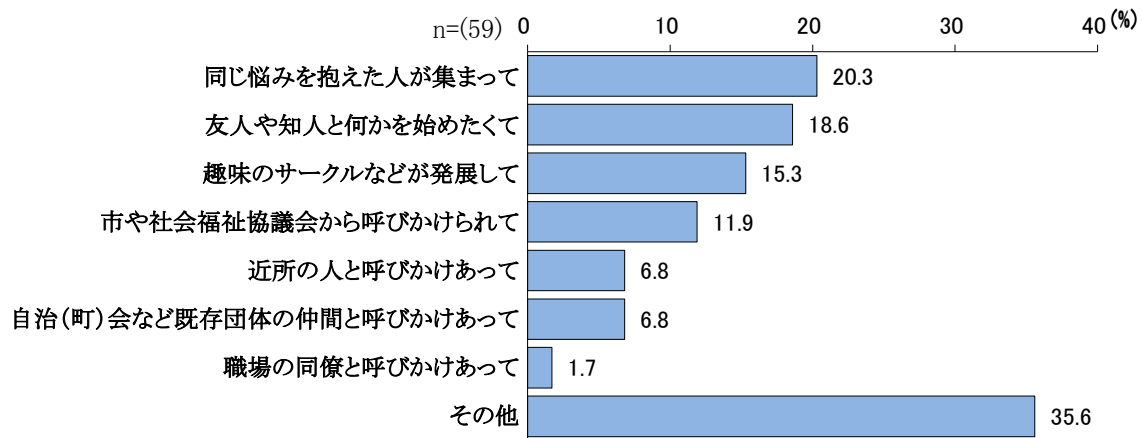
北 部				西 部				
国分	曾谷	大柏	宮久保 ・下貝塚	国府台	市川第1	市川第2	真間	菅野 ・須和田
1.7%	3.4	1.7	3.4	6.8	3.4	—	—	3.4

東 部			南 部		
八幡	市川東部	信篤 ・二俣	行徳	南行徳 第1	南行徳 第2
6.8%	6.8	5.1	3.4	1.7	1.7

活動エリアをみると、「市内全域」が69.5%で最も多くなっている。

(6) 設立のきっかけ

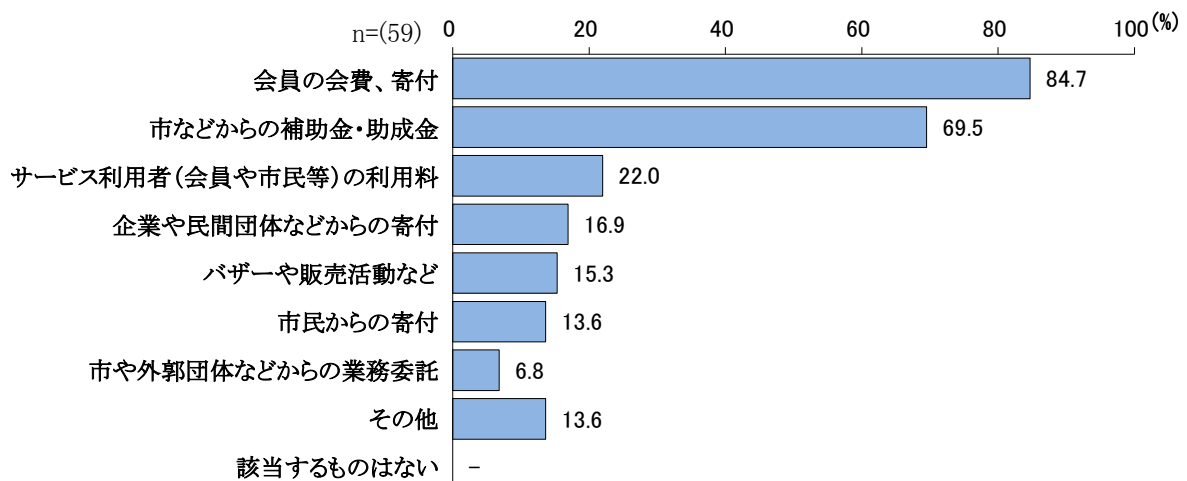
問3 設立のきっかけは何ですか。(〇はあてはまるものすべて)



設立のきっかけをみると、「同じ悩みを抱えた人が集まって」が20.3%で最も多く、以下「友人や知人と何かを始めたくて」(18.6%)、「趣味のサークルなどが発展して」(15.3%)の順が続いている。

(7) 主な活動資金

問4 貴団体の主な活動資金は何ですか。(〇はあてはまるものすべて)



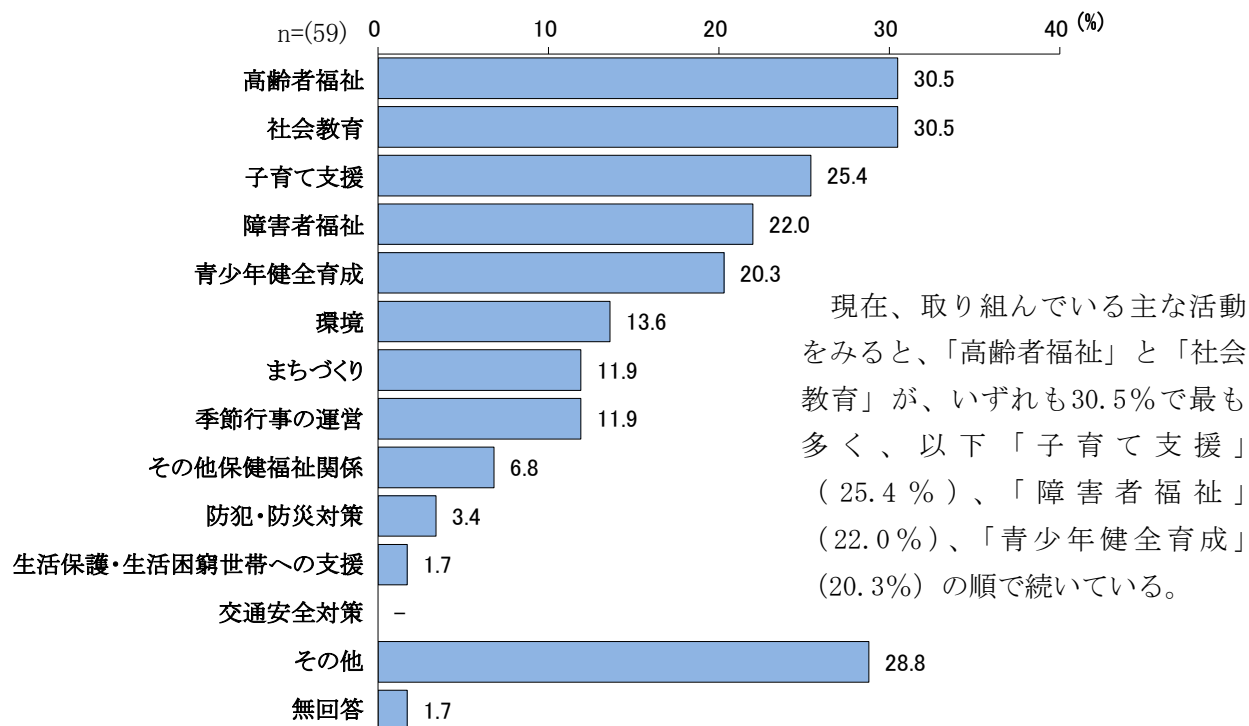
主な活動資金をみると、「会員の会費、寄付」が84.7%で最も多く、次いで「市などからの補助金・助成金」(69.5%)となっている。

2. 活動状況

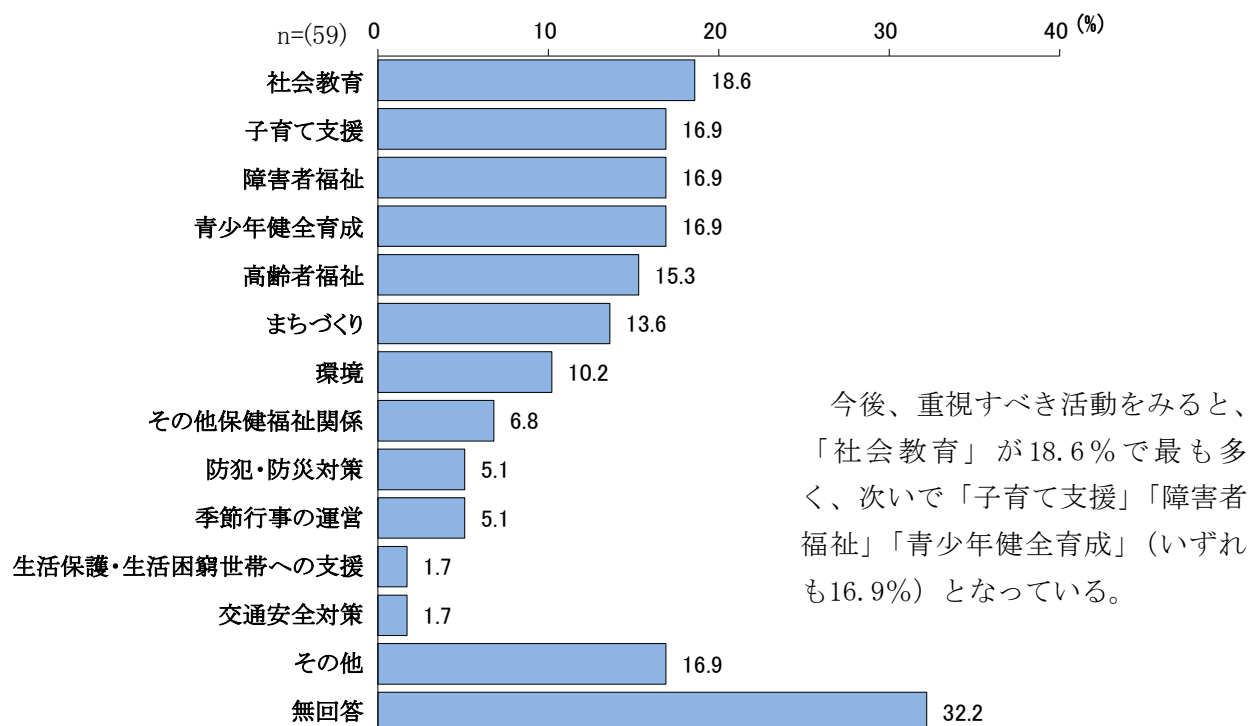
(1) 地域福祉分野の施策で特に力を入れてほしいこと

問5 貴団体で現在取り組んでいる主な活動、及び今後重視すべき活動について、それぞれあてはまる番号に○をつけてください。(○はそれぞれあてはまるものすべて)

■現在、取り組んでいる主な活動



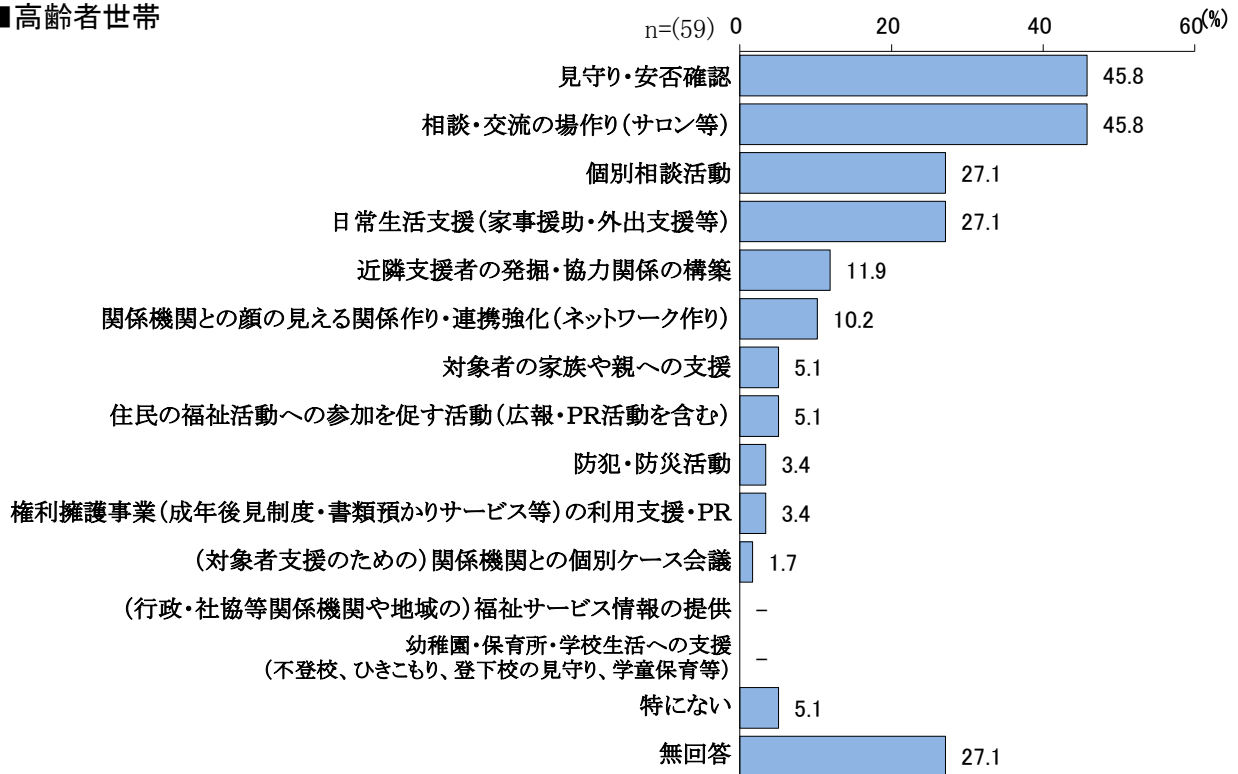
■今後、重視すべき活動



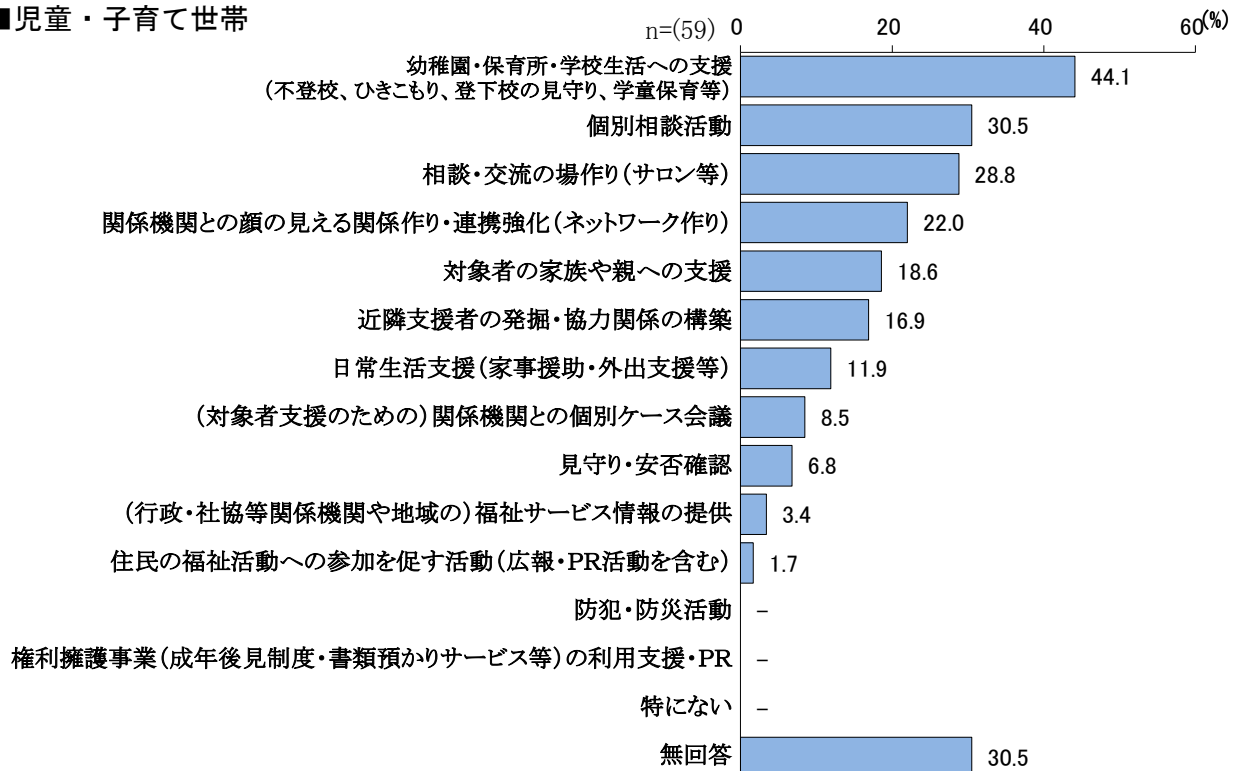
(2) 重視すべき活動内容

問5-1 (ア) 高齢者世帯、(イ) 児童・子育て世帯、(ウ) 障害者のいる世帯、(エ) 生活保護・生活困窮世帯への支援を行うにあたって、それぞれ今後どのような活動に力を入れていく必要があると思いますか。以下の選択肢より上位3つの番号をご記入ください。

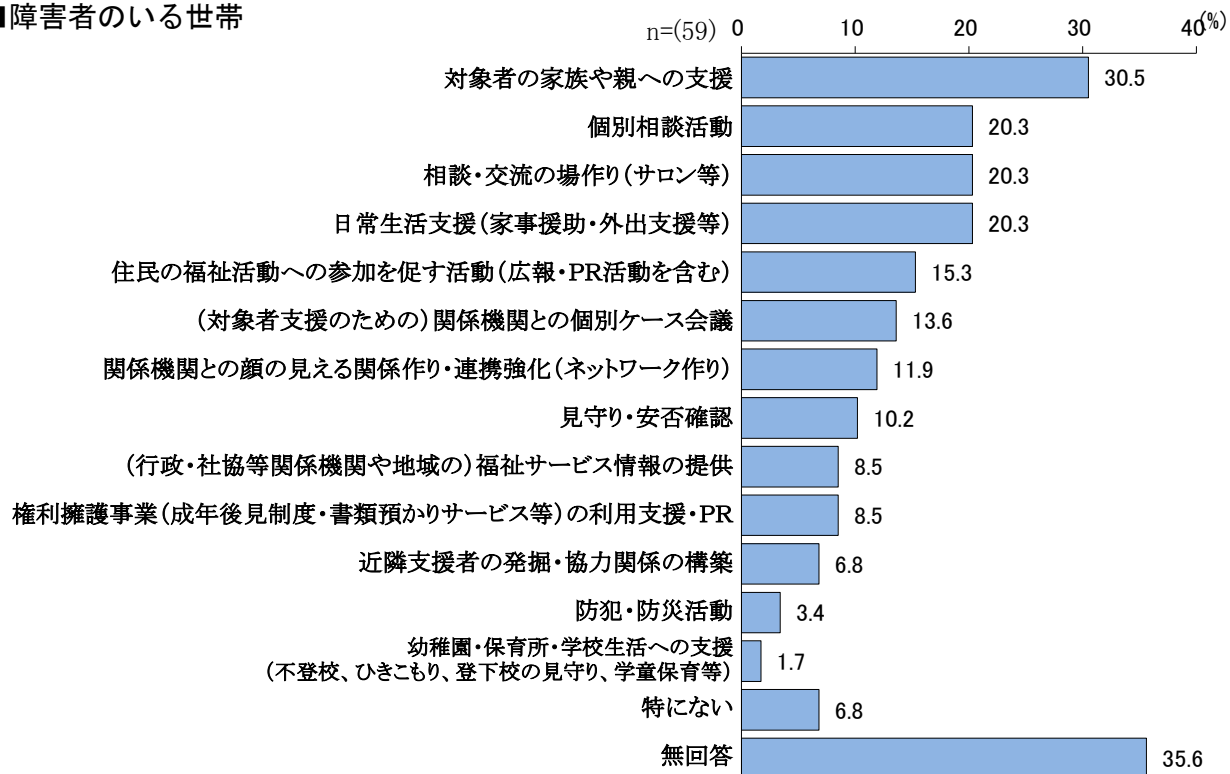
■ 高齢者世帯



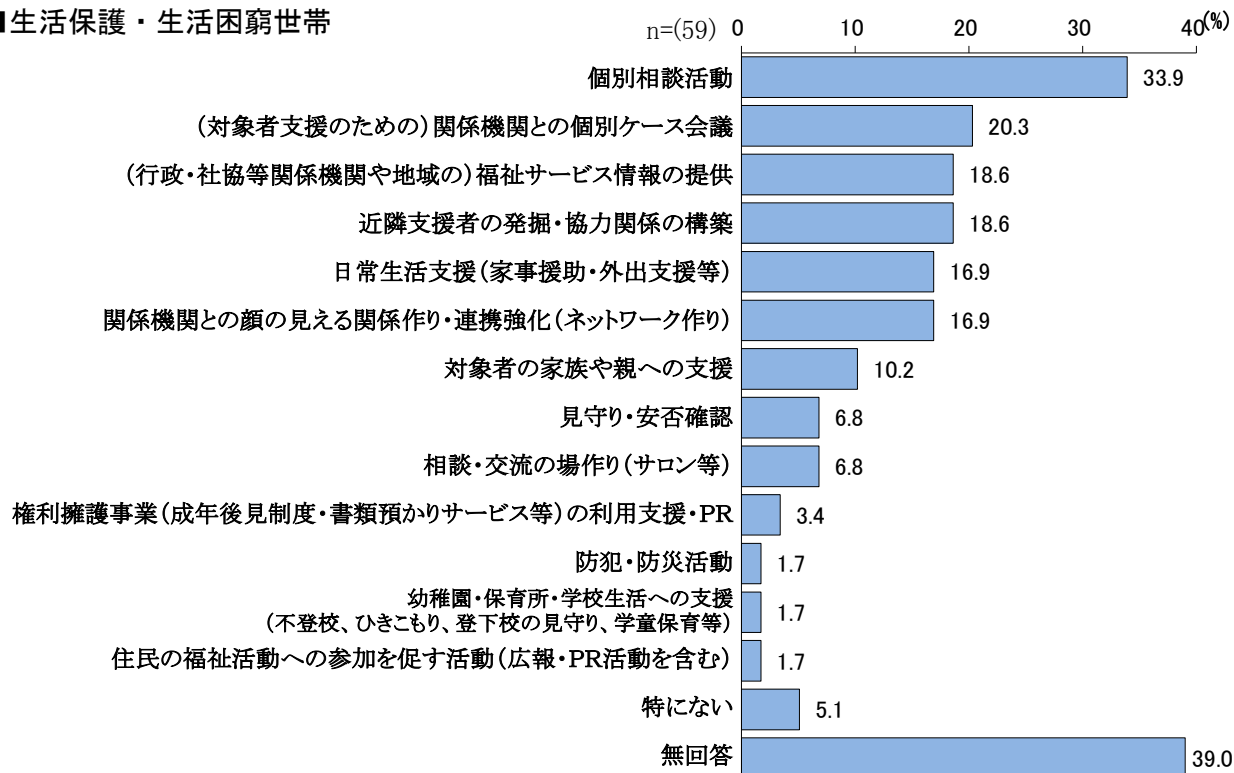
■ 児童・子育て世帯



■障害者のいる世帯



■生活保護・生活困窮世帯



重視すべき活動分野をみると、高齢者世帯については、「見守り・安否確認」と「相談・交流の場作り（サロン等）」が、いずれも45.8%で最も多く、次いで「個別相談活動」「日常生活支援（家事援助・外出支援等）」（27.1%）となっている。

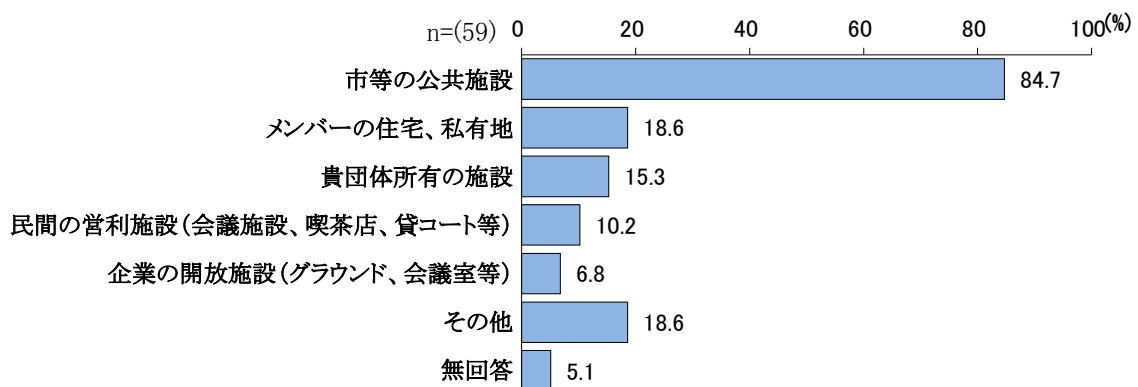
児童・子育て世帯については、「幼稚園・保育所・学校生活への支援（不登校、ひきこもり、登下校の見守り、学童保育等）」が44.1%で最も多く、以下「個別相談活動」（30.5%）、「相談・交流の場作り（サロン等）」（28.8%）の順で続いている。

障害者のいる世帯については、「対象者の家族や親への支援」が30.5%で最も多く、次いで「個別相談活動」「相談・交流の場作り（サロン等）」「日常生活支援（家事援助・外出支援等）」（すべて20.3%）となっている。

生活保護・生活困窮世帯については、「個別相談活動」が33.9%で最も多く、次いで「（対象者支援のための）関係機関との個別ケース会議」（20.3%）となっている。

（3）活動の場

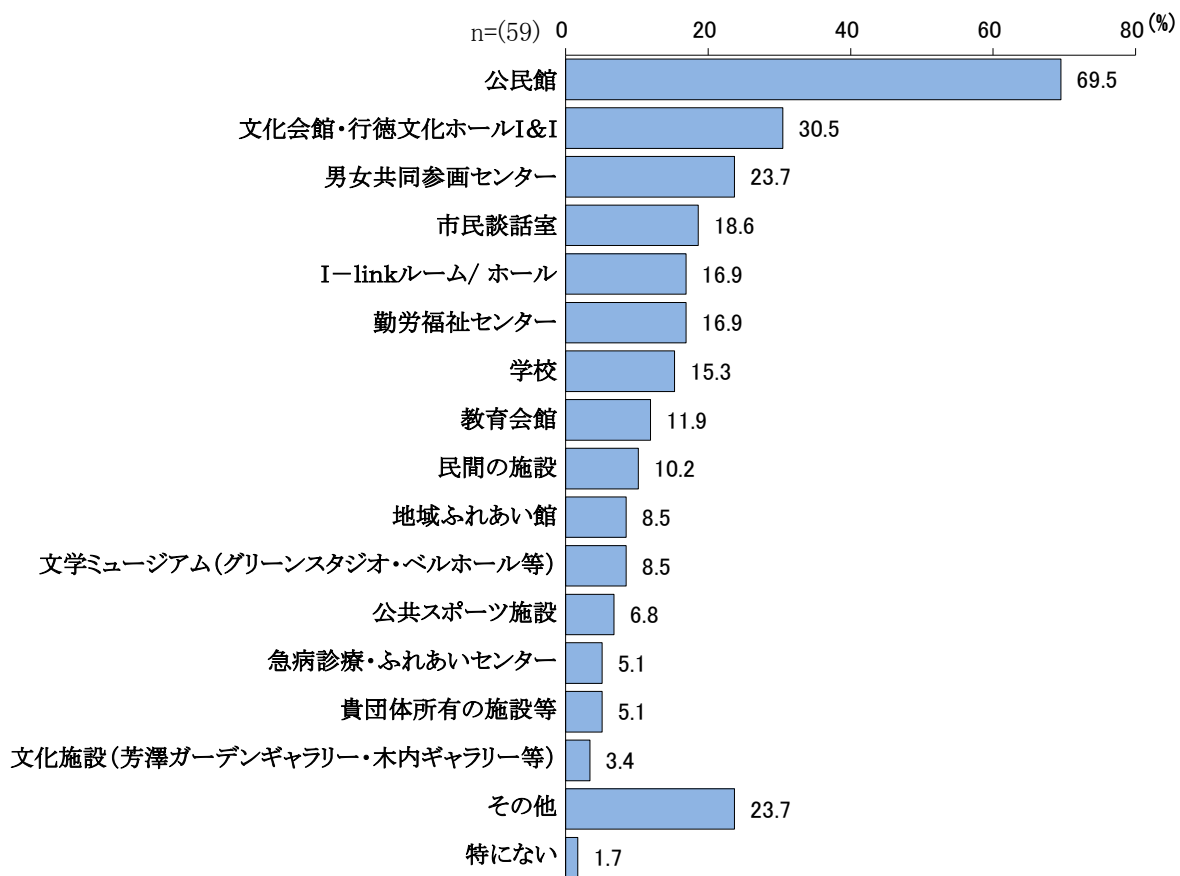
問6 貴団体の活動の場としては、どのような施設を利用していますか。（〇はあてはまるものすべて）



活動の場をみると、「市等の公共施設」が84.7%で最も多くなっている。

(4) 講演会やイベント開催時の使用場所

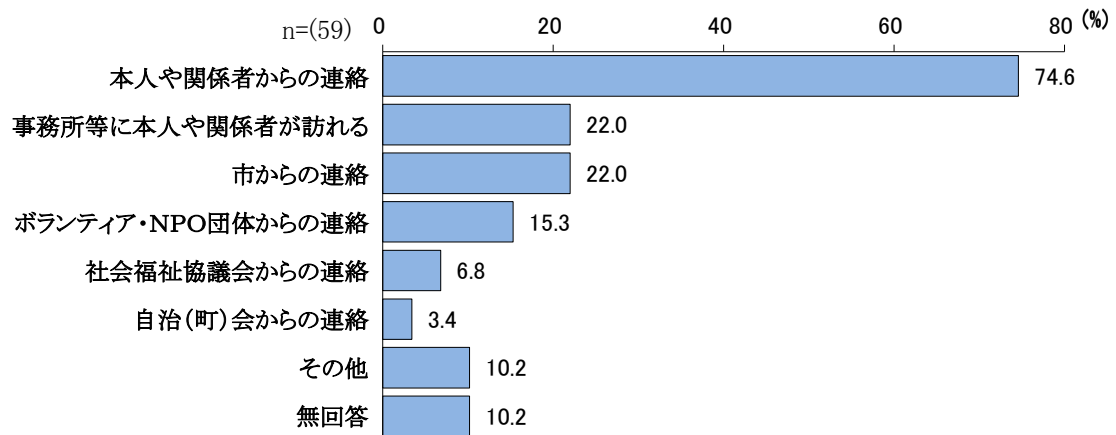
問7 貴団体は、講演会やイベントなどを開催するとき、主にどのような場所を使用していますか。(〇はあてはまるものすべて)



講演会やイベントを開催する場所をみると、「公民館」が69.5%で最も多く、以下「文化会館・行徳文化ホールI & I」(30.5%)、「男女共同参画センター」(23.7%)の順が続いている。

(5) 地域住民からの相談形態

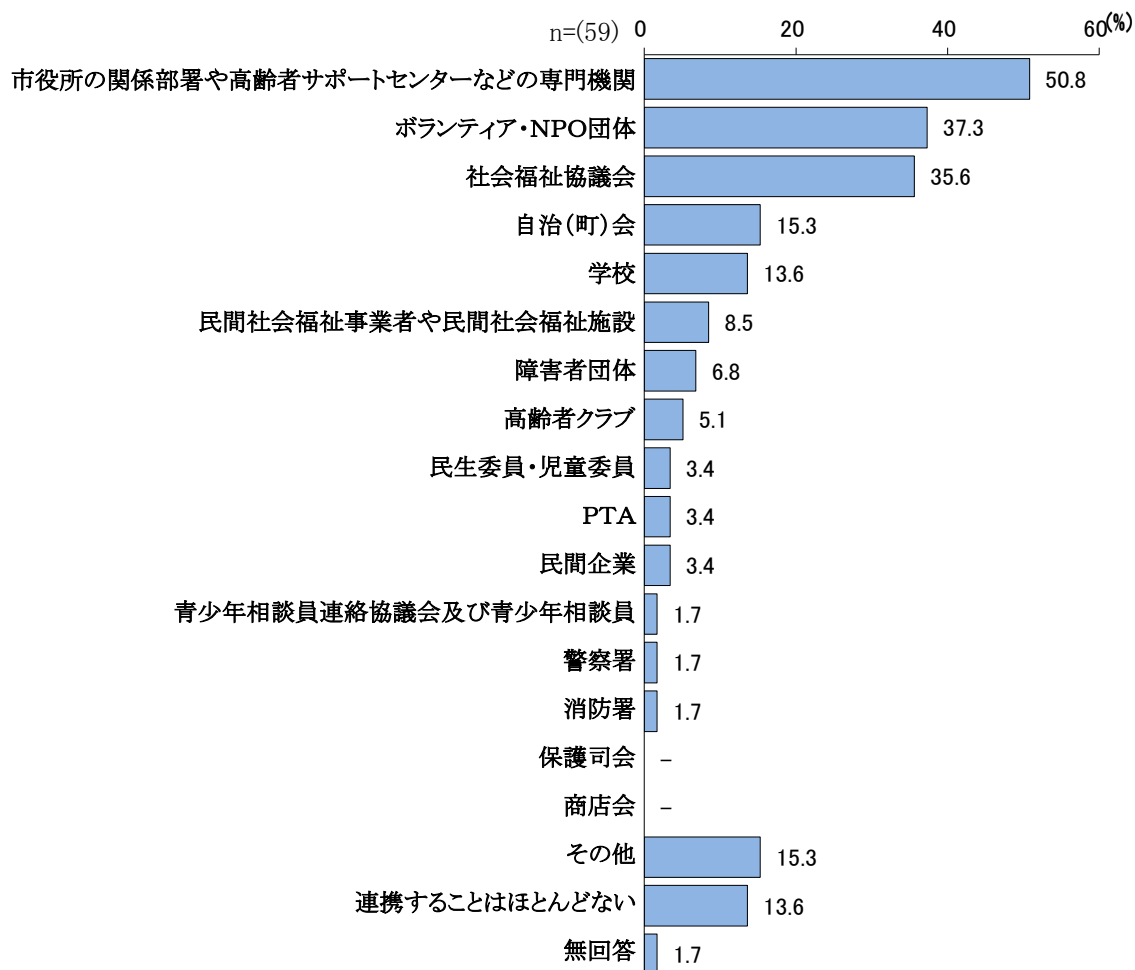
問8 地域住民からの相談は、どのような形で持ち込まれることが多いですか。(〇は3つまで)



地域住民からの相談の形態をみると、「本人や関係者からの連絡」が74.6%で最も多く、次いで「事務所等に本人や関係者が訪れる」「市からの連絡」(ともに22.0%)となっている。

(6) 地域での活動等の際の連携団体

問9 貴団体では、地域での活動等の際に、どのような団体と連携して活動されていますか。
(〇は3つまで)



地域での活動等の際の連携団体をみると、「市役所の関係部署や高齢者サポートセンターなどの専門機関」が50.8%で最も多く、以下「ボランティア・NPO団体」(37.3%)、「社会福祉協議会」(35.6%)の順で続いている。

(7) 連携している団体とその内容

(連携して活動していると答えた方のみ)

問9-1 どのような団体とどのような連携を図っているか(図ったか)可能な範囲でお答えください。(定例的な連携を除き、特徴的なもの2つまでをご記入ください。)

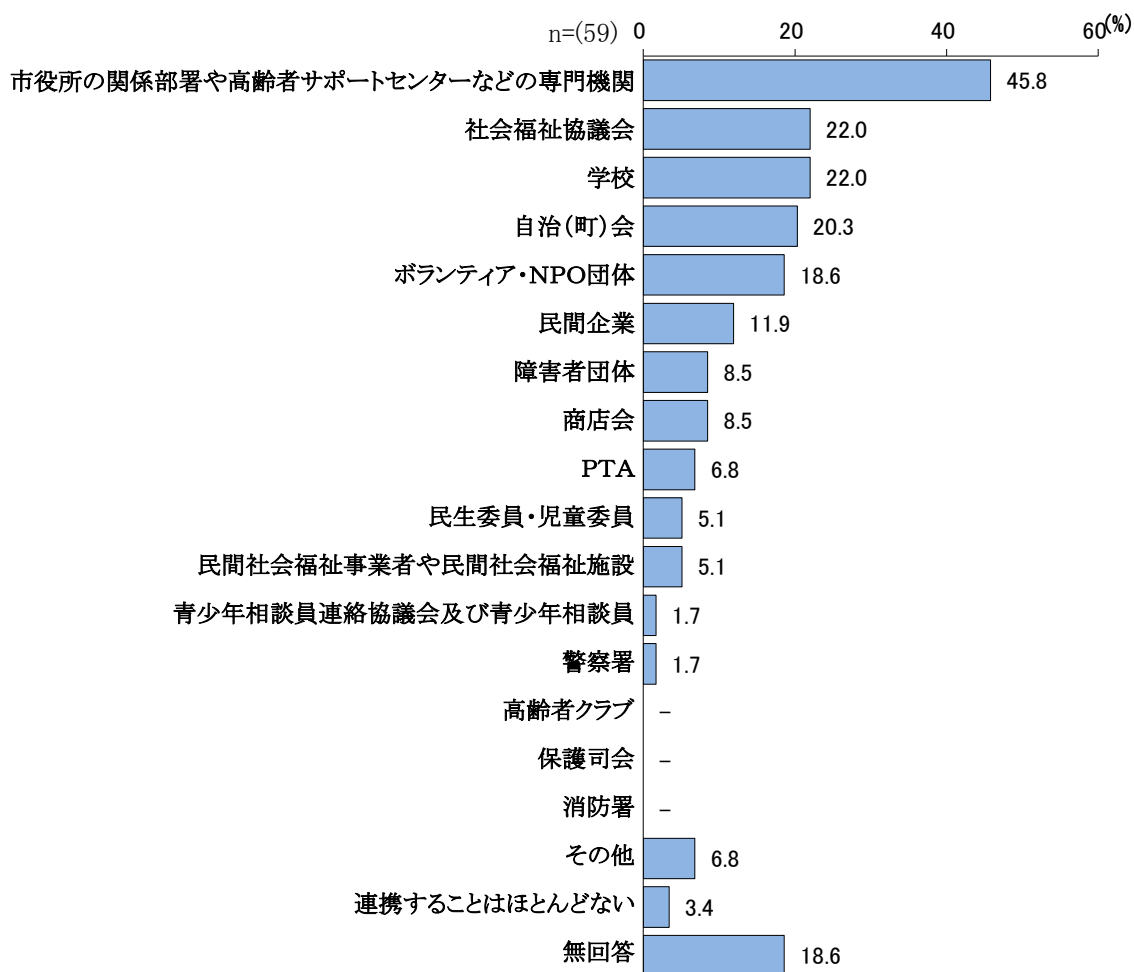
団体名(団体連絡先)	連携の内容
市川市住環境整備課	講演会の共済(年2回)マンション問題個別相談
北国分、堀之内自治会	盆踊りの協賛
北国分子ども会	キャンプの協賛
市川案内人の会	イベントの折のサポート
建築指導課	無料相談会及び啓発
防災課	無料相談会及び啓発
市川市ボランティア協会	ファッションショー開催時の設営
NPO団体	鳥類の生息調査・保護活動
学校(市川・浦安市の小・中学校)	自然体験の授業の一環として職場体験
NPO法人市川子ども文化ステーション	合同で、普段は活動できていない行徳地区での事業を行う。
千葉商科大学	学生が毎回ボランティアとして参加
市内小学校	写真の出張授業
自治会(アクロシティ)中村桂子	夏祭りに協働でまちづくりを目指して活動しています。
市川市健康都市推進保健医療課	健康都市推進員として市民が健康都市を目指して推進しております。
高齢者サポートセンター行徳第2	毎週木曜日、サポートセンター近くの集会室で行なっているサロンに、様々な形でかかわっていただいている。
市川市ボランティア協会(代表 天野)	定例的に役員会及び運営委員会、ボラ協フェスティバルや市民まっりのゴミ管理等に参加
ナルクの本部及び千葉県協議会	東京及び千葉県内のナルク拠点関の活動経験、交流会や総会に参加
市川市まち並み景観課	協働花づくり
市川市高齢者支援課	高齢者の研修旅行等
市川市環境部等マドロ	調整池管理者(市川市)へ使用許可
市川警察署	道路使用許可等安全対策
社会福祉協議会	セミナー開催への参加者募集案を会報に掲載していただくこと
自治会	自治会の活動に協同参加

団体名（団体連絡先）	連携の内容
環境政策課	協同や協力で
市川市の交流会（持ち回り代表）	樹林地ボランティアの係
自然環境課（花緑財団）	上記関係のメンバー
市川市役所スポーツ課	グラウンド利用
元気！市川（代表 田平さん）	定例会に参加し情報交換
（株）クリナップ 市川ショールーム	子育てカフェの時に会場をかりている
菅野須和田地区社会福祉協議会 （会長 松藤恒夫様）	
市川マラソンクラブ	大会開催時の諸準備、運営協など
学校	書き損じハガキ回収依頼、平和の鐘、絵画展など
文化団体	絵画展での協賛依頼
市川ユネスコ協会（代表 吉崎吉子）	講演会、社会見学など有益と思われる時お誘いしています。
家庭倫理の会市川市（会長 増田邦江）	講演会、社会見学など有益と思われる時お誘いしています。
社会福祉協議会（市川・浦安）	会員研修のため、全員に認知症サポーター養成講座を各地域で実施。訪問活動の基礎力を養うことができた。
ユーアイ協会	介護ヘルパーの研修に「歌の重要性、実施方法等の講習会」の講師を派遣した。
新浜小学校	マーチングバンド演奏
民間企業	駐車場の確保をお願いしている。
市川市のボランティアセンター	地域で行事がある毎に、ボランティア活動としてお手伝いをしております。
養護施設市川ヒルズ	毎月、会員7～8名が、高齢者の話し相手として参加しております。
子育てに関わる活動をしている団体、行政、企業等	イベントに協力してもらっている。
子育て支援課	情報提供
社会福祉協議会	サロン開催支援
障害者団体連絡会	12月の障害者週間、アイアイフェスタへおもちゃ図書館として遊びのブースを3年連続で出展している。
千葉県おもちゃ図書館連絡会 千葉県ボランティアセンター	千葉県ボランティアフェスティバルにおもちゃ図書館のブースで参加
市川市社会福祉協議会	・子育てサロン運営に関する助言・会場確保
NPO法人いちかわ子育てネットワーク	・子育て支援イベントに関する企画・運営
市川手をつなぐ親の会 （代表 田上昌宏）	障がいのある人もない人も、子どもも大人も、一緒になって創るミュージカル等の活動を推進している。

団体名（団体連絡先）	連携の内容
市川子ども文化ステーション （代表 渡慶次康子）	子どもを中心にした舞台芸術文化活動に相互に協力し合って推進している。
堀之内自治会	ゴミ拾い、防犯パトロールに参加して頂いている。
堀之内クラブ	ゴミ拾い、防犯パトロールに参加して頂いている。
市川市民部ボランティアNPO課	1%支援を受けていた市民活動支援金を受ける
社会福祉協議会	ボランティア保険の加入
市川市子育て支援課	
市川市社会福祉協議会	
里山くらぶ、まち案内人、ボランティアNPO課、その他	千葉商科大学キッズビジネスタウン
千葉県親と子のサポートセンター	年2回の講演会の案内や例会のお知らせ等を関連団体として登録させて頂きサポートセンターへ訪れる方々へ提供させて頂いている。
NPOネモネット（理事長 前北海さん）	団体参画会員として、お互いの情報交換等をさせて頂いています。
スズメ茶屋ふれあいコンサート	スズメ茶屋のお楽しみ会としてマンドリン演奏を50分位10曲位する。大変喜んでいただきました。
中国分小学童クラブ Xmasコンサート	中国分小学校 学童クラスA、Bで70人位の子供達に演奏のプレゼントを致します。
ボランティア・NPO団体	老人福祉施設、各種イベントからのマジックの演技要請を受けて実施
市川市障害者支援課・施設課等、 教育委員会	行政とは常に連携をとり、通所の場をはじめ、福祉サービス拡充の情報を得たり、意見交換を行っていますし、学齢期のあり方について意見交換を行っている。
（社福）一路会、（社福）いちばん星	親の会が母体で、両法人を設立。その後、通所、グループホームの拡充、社会参加、余暇支援、家族支援のレスパイト他、地域づくりのため、連携を図っている。

(8) 今後、連携を深めていきたい団体

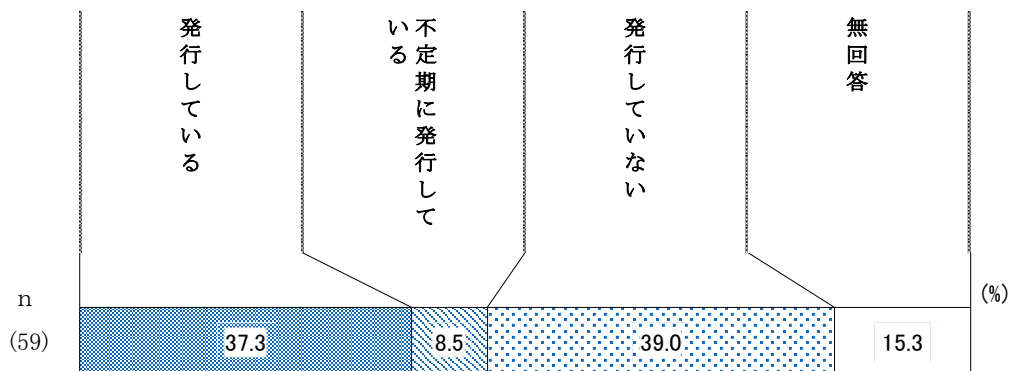
問10 貴団体は、地域福祉活動をさらに発展させるため、今後、どのような団体と特に連携を深めていきたいですか。(〇は3つまで)



今後、連携を深めていきたい団体をみると、「市役所の関係部署や高齢者サポートセンターなどの専門機関」が45.8%で最も多く、以下「社会福祉協議会」「学校」（ともに22.0%）、「自治（町）会」（20.3%）、「ボランティア・NPO団体」（18.6%）の順が続いている。

(9) 機関誌（紙）・会報の発行状況

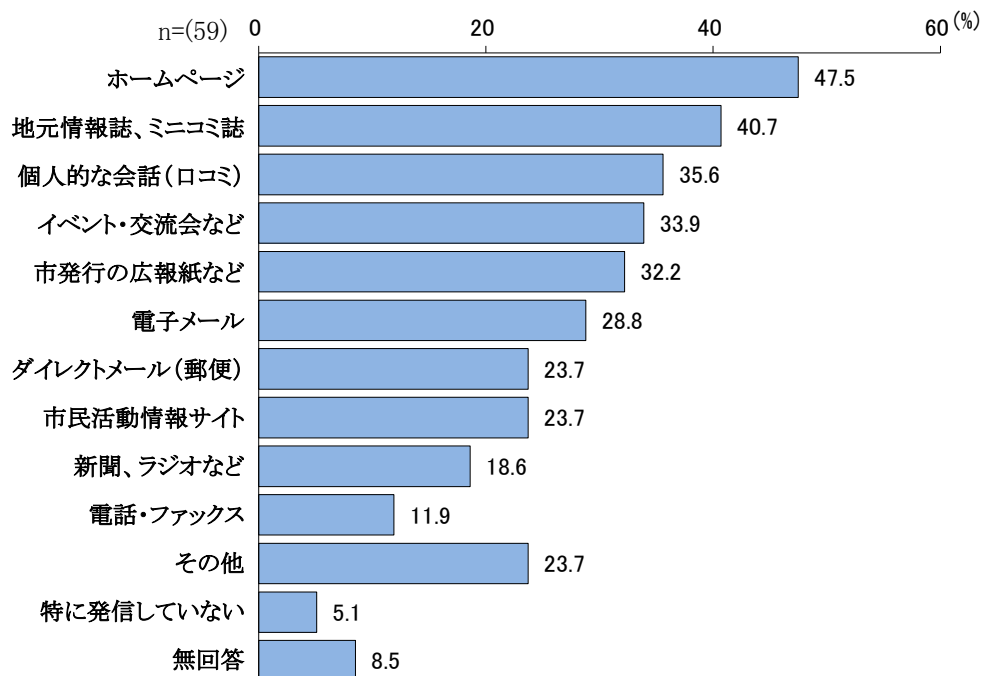
問11 貴団体は、機関誌（紙）または会報などを発行していますか。（○は1つだけ）



機関誌（紙）・会報の発行状況をみると、「発行している」が37.3%で、これに「不定期に発行している」(8.5%)を合わせた《発行している》は45.8%となっている。一方、「発行していない」は39.0%である。また、年平均の発行回数は5.8回となっている。

(10) 活動内容などの情報発信

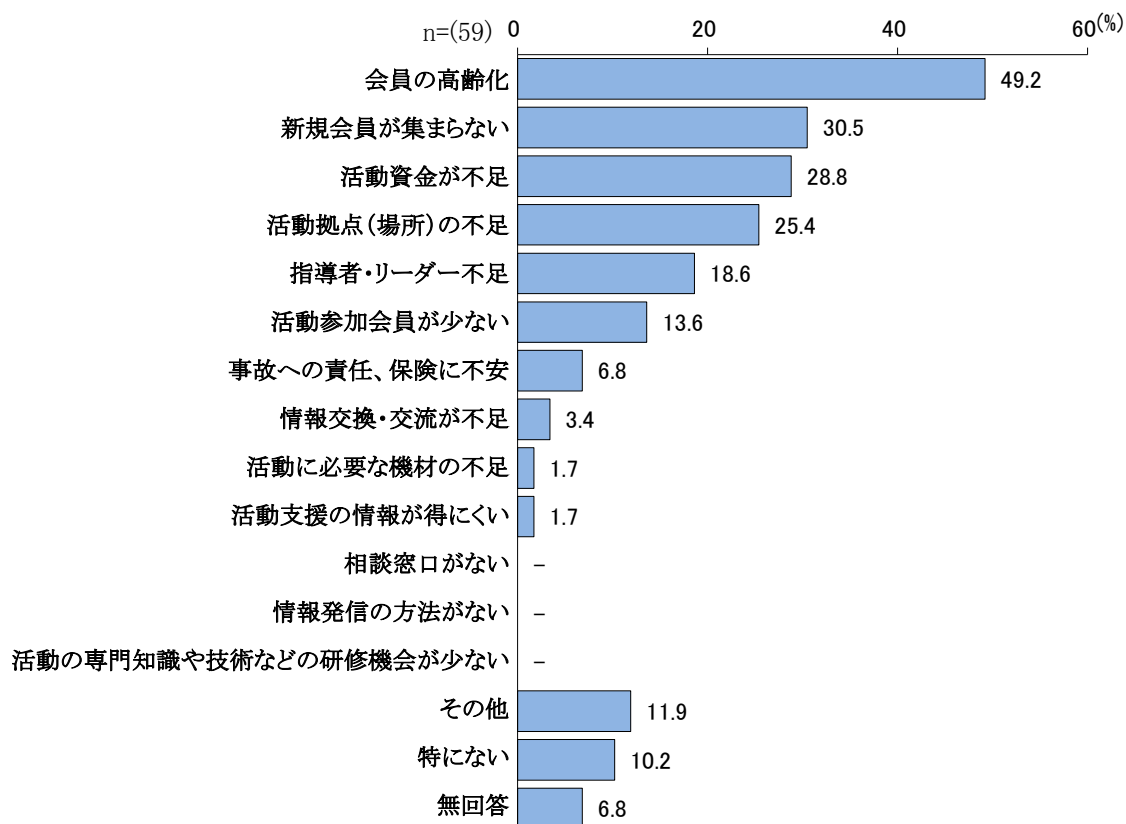
問12 貴団体は、活動内容などの情報の発信はどのように行っていますか。（○はあてはまるものすべて）



活動内容などの情報発信については、「ホームページ」が47.5%で最も多く、以下「地元情報誌、ミニコミ誌」(40.7%)、「個人的な会話（ロコミ）」(35.6%)、「イベント・交流会など」(33.9%)、「市発行の広報紙など」(32.2%)の順で続いている。

(11) 現在困っていること

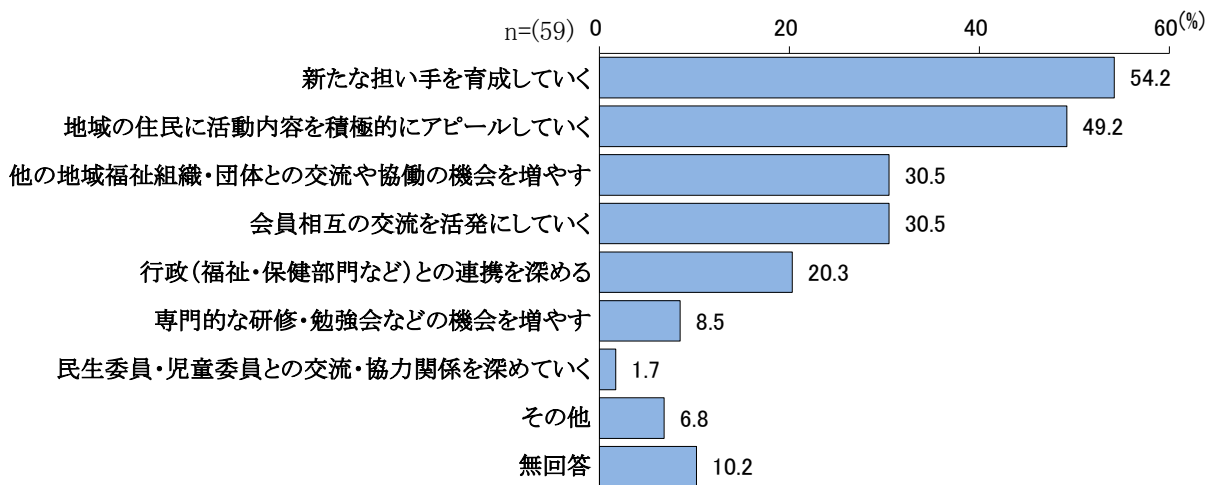
問13 貴団体が、現在困っていることはありますか。(〇は3つまで)



現在、困っていることをみると、「会員の高齢化」が49.2%で最も多く、以下「新規会員が集まらない」(30.5%)、「活動資金が不足」(28.8%)、「活動拠点(場所)の不足」(25.4%)の順で続いている。

(12) 今後、福祉活動を活性化していくために、特に必要なこと

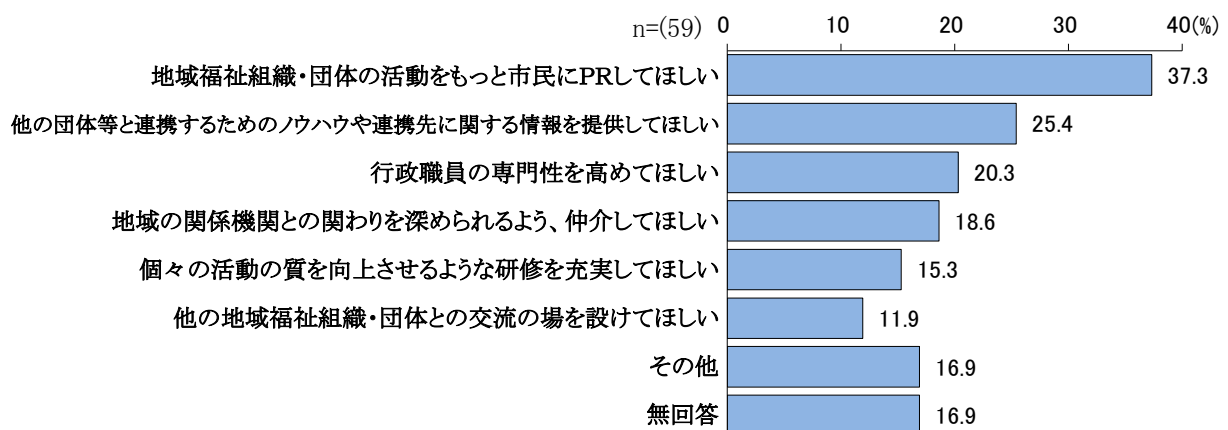
問14 今後、貴団体における福祉活動を活性化していくために、特に必要なことは何ですか。
(○は3つまで)



今後、福祉活動を活性化していくために必要なこととしては、「新たな担い手を育成していく」が54.2%で最も多く、以下「地域の住民に活動内容を積極的にアピールしていく」(49.2%)、「他の地域福祉組織・団体との交流や協働の機会を増やす」「会員相互の交流を活発にしていく」(ともに30.5%)の順で続いている。

(13) 地域で福祉活動を進めるうえでの行政に対する要望・期待

問15 貴団体が地域で福祉活動を進めるうえで、行政に対して特に要望や期待することは何ですか。(○は3つまで)

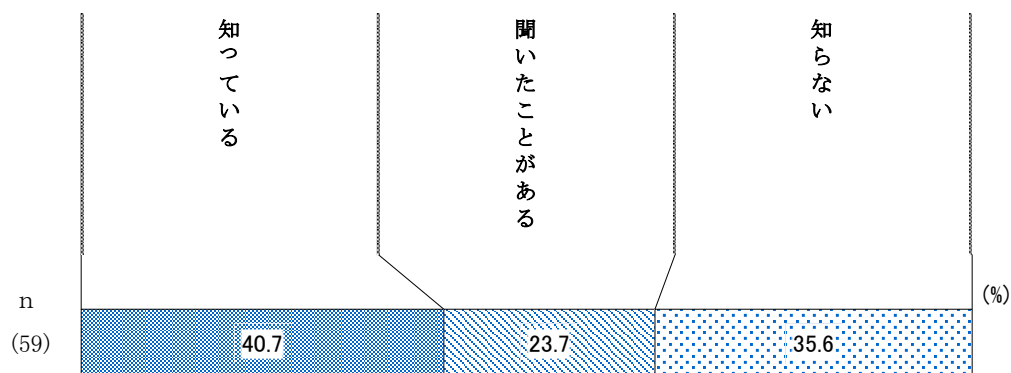


地域で福祉活動を進めるうえでの行政に対する要望・期待としては、「地域福祉組織・団体の活動をもっと市民にPRしてほしい」が37.3%で最も多く、以下「他の団体等と連携するためのノウハウや連携先に関する情報を提供してほしい」(25.4%)、「行政職員の専門性を高めてほしい」(20.3%)の順で続いている。

3. 支え合いの地域づくり（地域ケアシステム）

（1）地域ケアシステムの認知度

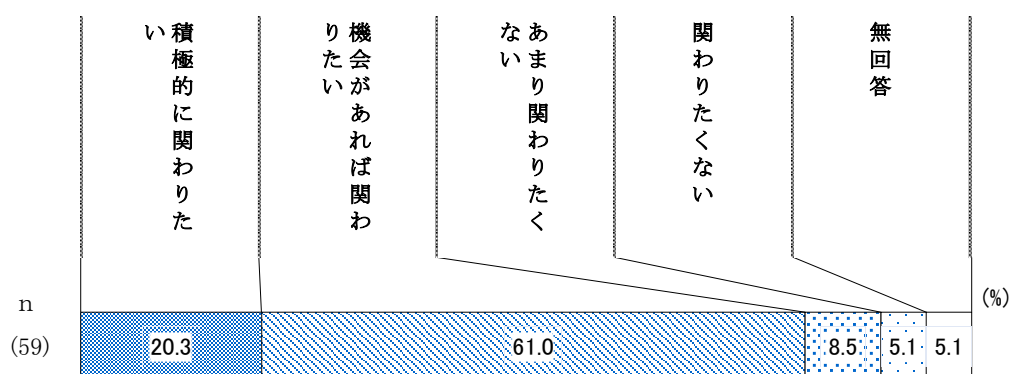
問16 市川市では、安心して暮らし続けられる地域社会をつくるために、支え合いの地域づくり（地域ケアシステム）の取り組みを進めています。あなたは、そのことをご存知ですか。（○は1つだけ）



支え合いの地域づくり（地域ケアシステム）を「知っている」は40.7%で、これに「聞いたことがある」(23.7%)を合わせた《認知度》は64.4%となっている。一方、「知らない」は35.6%である。

（2）地域ケアシステムの活動への関与意向とその理由

問17 あなたは、今後支え合いの地域づくり（地域ケアシステム）の活動に関わりたいと思いますか。（○は1つだけ）



支え合いの地域づくり（地域ケアシステム）について、「積極的に関わりたい」が20.3%で、これに「機会があれば関わりたい」(61.0%)を合わせた《関わりたい》は81.3%を占めている。一方、「あまり関わりたくない」は8.5%、「関わりたくない」は5.1%となっている。

問17で、そう思われた理由は何ですか。

積極的に関わりたい理由
高齢者の認知症を増やさないため
同じような考えで行動していただける団体が多くあったらうれしい。
地域でも高齢化が進み、高齢者の交流や何か具体的な活動領域がないかと考えている。
今も関わっているの
地域の人たちに関わった例があるが、難しかった
現在も関わっている
色々な活動を考えているから
現在活動している。
高齢者社会になりますので安心して暮らせるように地域とのつながりが必要と思います。
自分の住みなれた地域で、当たり前で暮らしていくために、住民主体の支え合い活動を行う中に、知的障害者たちも支援が必要で顔の見える良い関係を築きたい。

機会があれば関わりたい理由
団体の活動主目的と直結しない。
着物リメイクの活動を広めたい
地域のつながりを深める為に、行徳鳥獣保護区や、その周辺の緑地を訪れていただきたい。交流プログラムの実施や自然観察など提供できます。
明日は我が身
事業の性質上、当然関わらざるを得ない状況にある。
現在民生児童委員をしています。
住んでいる地域での近所づき合いがほとんどなくなり、有効なコミュニティ作りが非常にむづかしくなっている。
個人的には関わっているが団体としてはない。
地元貢献
自分たちの地域を安心して暮らせるようにしたい。
障がい者への理解が広がるとうれしいから
アンサンブル市川として出来ることがあればと、日頃より考えている。
障害者やそのご家族への音楽療法による支援を広めたいから。
お互い様だから
市川市全体を市民で盛り上げ、支えたいから。

機会があれば関わりたい理由

独居高齢者が増え、訪問活動だけでは補えないと考えたから。また、会員も高齢になると地域で活動することが最善になると思われることから。

在宅訪問診療から発展した組織だから。ただし、かかわる前段階として、ケアマネージャーの関与と意向に左右されざるを得ない。よって積極的に関与すると誤解を生む。

子供の活動を含めて、地域の支え合いが必要なため。

体力的にむりだから。

現在は子育て、障害児者のところで活動しているが、自宅の周辺に独居の高齢者が目立つようになった。何か手助けはできないものかと悩んでいる。

お互いに支え合っていくことが大事

地域住民のコミュニケーションを強めることになるから。

すでに関っている

自分達の子供にばかりかかわるのではなく、市民の皆様と交流を持ち、私達の会が何らかのお役に立つなら力を貸したいと思います。

地域社会づくりを目的とする団体であるから。

困っている子女のための事情がわからない。少しでも健全育成に人力したい。

地元で暮らしていく中で、地域の結びつきは必要だと思う。

マジックを通してふれあいの場と夢と元気を与えたい

あまり関わりたくない理由

現在関わっていることが多く、これ以上はキャパシティを超える。

ノウハウがありません

現在、動かしている団体の世話で手一杯だからボランティアが少なく、いつも忙しい思いをしている。

会員が皆高齢者である為と会員住所が市川全域に広がっている為

関わりたくない理由

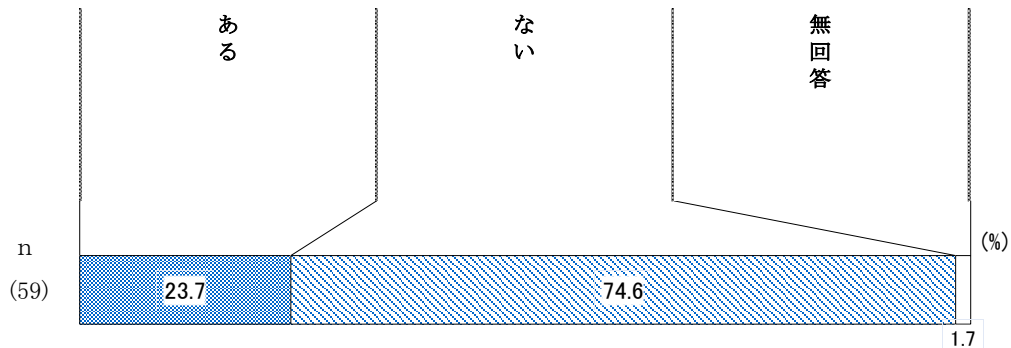
正しい歩き方で歩くのみ

自然発生でない活動は否

耳が聴こえないから

(3) 地域ケアシステムの会議への参加有無

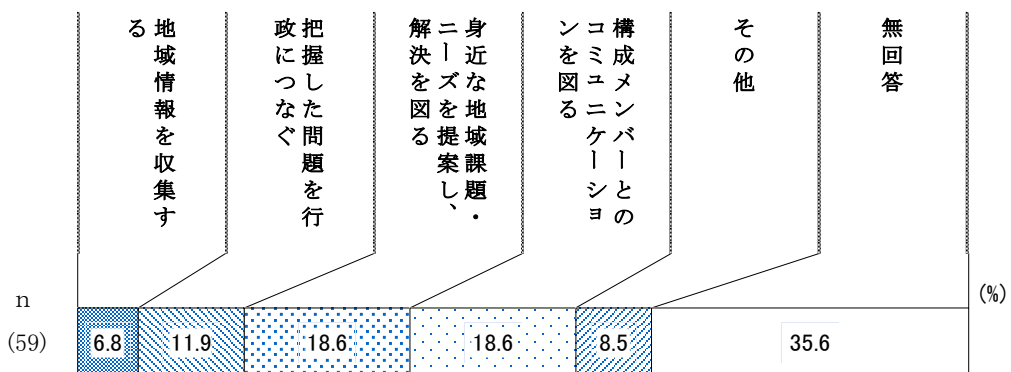
問18 あなたは、支え合いの地域づくり（地域ケアシステム）の会議に参加したことがありますか。（○は1つだけ）



支え合いの地域づくり（地域ケアシステム）の会議に参加したことが「ある」は23.7%、「ない」は74.6%となっている。

(4) 地域ケアシステムの会議に参加して、今後充実させた方がよいと思う自身の活動

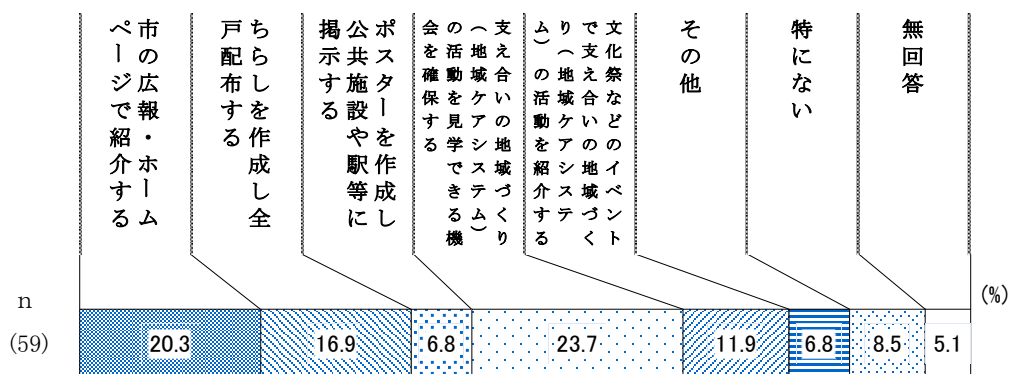
問19 支え合いの地域づくり（地域ケアシステム）の会議に参加して、あなたが今後充実していった方がよいと思うご自身の活動は何ですか。（○は1つだけ）



支え合いの地域づくり（地域ケアシステム）の会議に参加して今後充実していった方がよいと思うこととしては、「身近な地域課題・ニーズを提案し、解決を図る」と「構成メンバーとのコミュニケーションを図る」が、いずれも18.6%と2割近くを占めている。

(5) 地域ケアシステムの周知に必要な取り組み

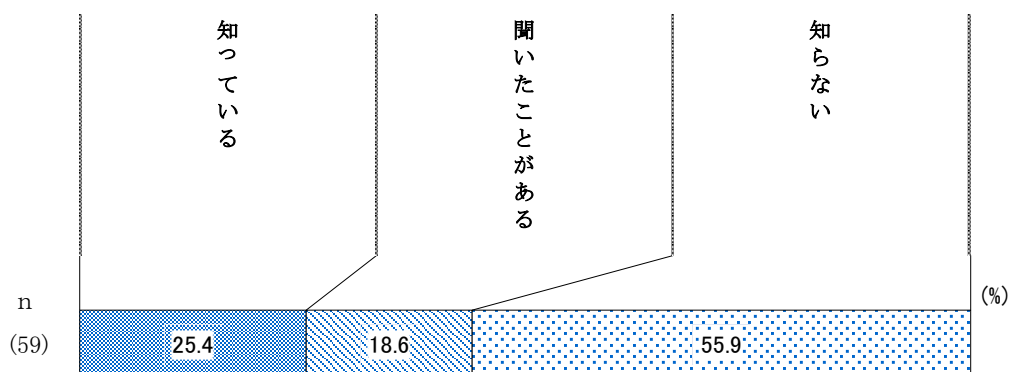
問20 市川市では、支え合いの地域づくり（地域ケアシステム）について市民のみなさんに知ってもらいたいと考えています。あなたは、支え合いの地域づくり（地域ケアシステム）を市民のみなさんに知ってもらうにはどのような取り組みが必要だと思いますか。（〇は1つだけ）



支え合いの地域づくり（地域ケアシステム）の周知に必要な取り組みとしては、「支え合いの地域づくり（地域ケアシステム）の活動を見学できる機会を確保する」が23.7%で最も多く、以下「市の広報・ホームページで紹介する」（20.3%）、「チラシを作成し全戸配布する」（16.9%）の順で続いている。

(6) コミュニティワーカー配置の認知状況

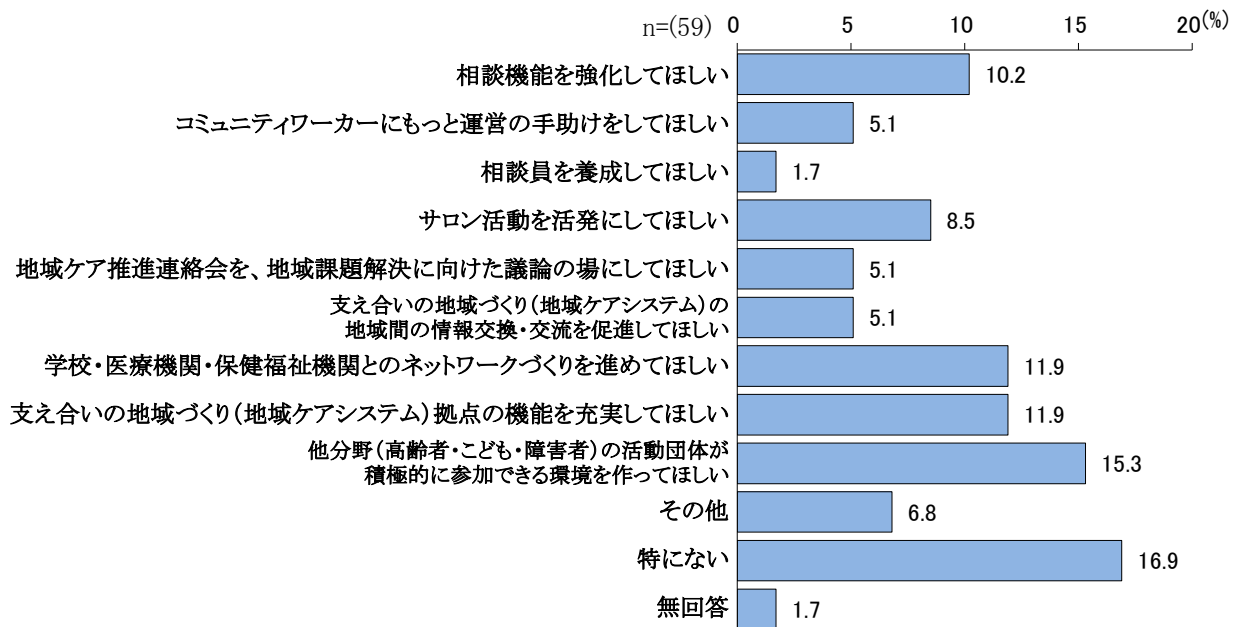
問21 市川市では、平成17年度から地域の福祉活動をお手伝いするために、コミュニティワーカーを配置しています。あなたは、コミュニティワーカーが配置されていることをご存知ですか。（〇は1つだけ）



コミュニティワーカーの配置については、「知っている」が25.4%で、これに「聞いたことがある」（18.6%）を合わせた《認知度》は44.0%となっている。一方、「知らない」は55.9%となっている。

(7) 地域ケアシステムでやってもらいたいこと

問22 あなたは、支え合いの地域づくり（地域ケアシステム）でやってもらいたいことはどのようなことですか。（〇は1つだけ）

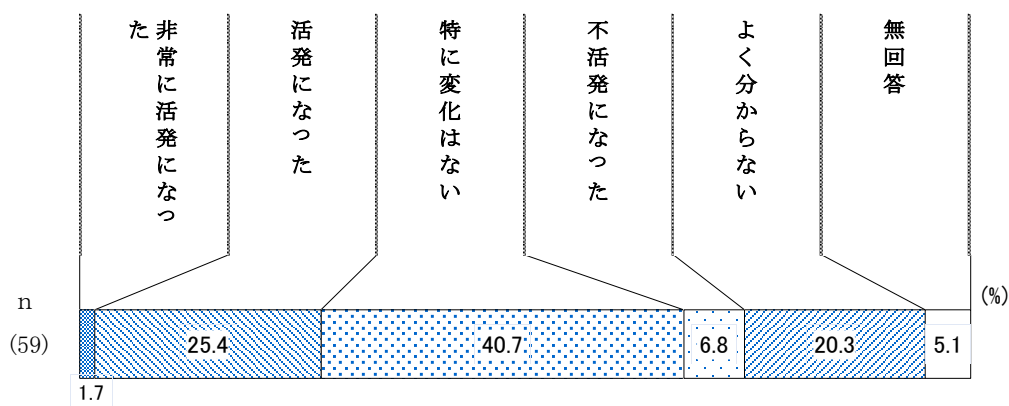


支え合いの地域づくり（地域ケアシステム）でやってもらいたいこととしては、「他分野（高齢者・子ども・障害者）の活動団体が積極的に参加できる環境を作してほしい」が15.3%で最も多く、以下「学校・医療機関・保健福祉機関とのネットワークづくりを進めてほしい」「支え合いの地域づくり（地域ケアシステム）拠点の機能を充実してほしい」（ともに11.9%）、「相談機能を強化してほしい」（10.2%）の順で続いている。

4. 地域福祉全体

(1) 以前と比べた自身の活動区域における地域福祉の変化

問23 以前（約5年前）と比べて、ご自身の活動区域における地域福祉はどのように変化したと感じますか。（○は1つだけ）

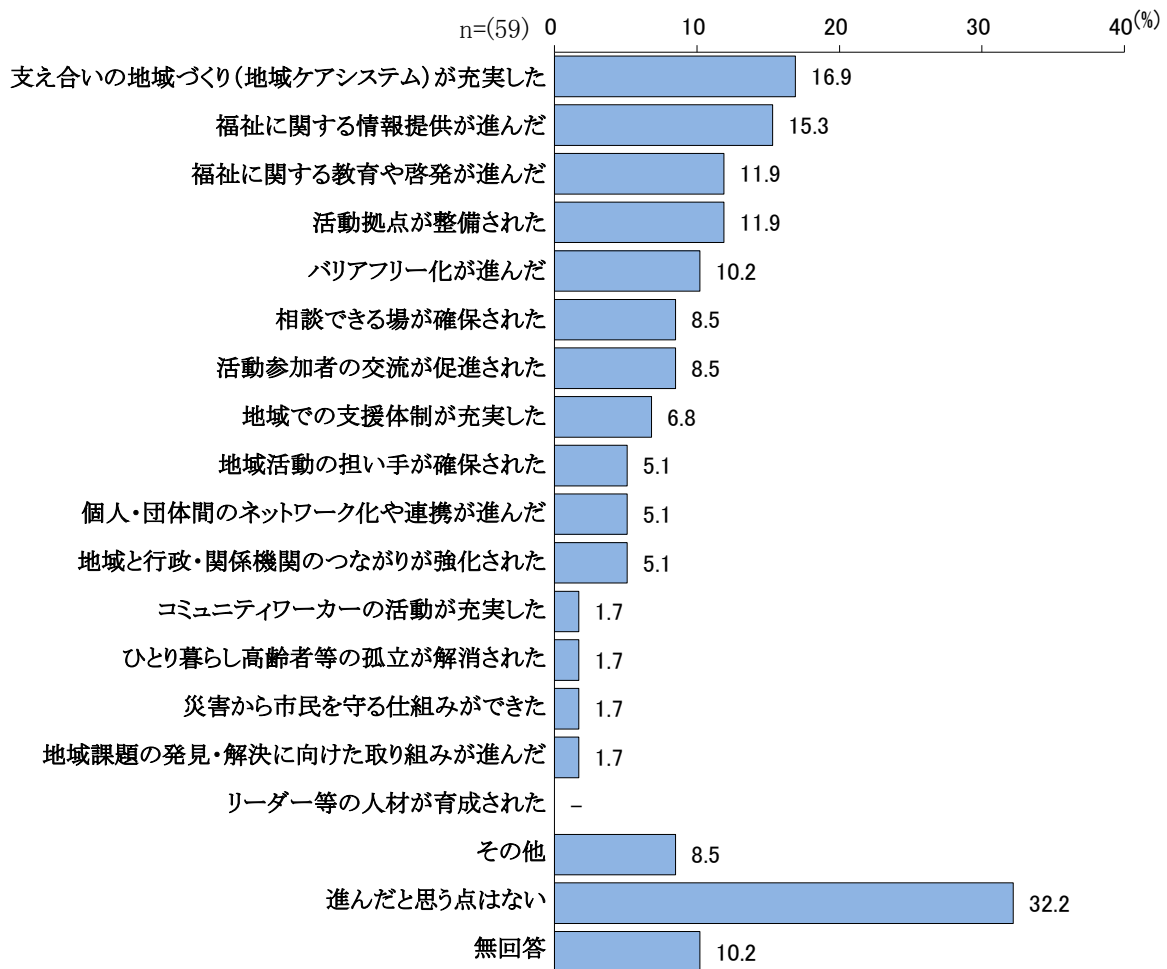


以前（約5年前）と比べた活動区域における地域福祉の変化については、「非常に活発になった」が1.7%で、これに「活発になった」（25.4%）を合わせた《活発になった》は27.1%となっている。また、「特に変化はない」は40.7%を占めている。

一方、「不活発になった」は6.8%となっている。

(2) 以前と比べて活動地域において推進された地域福祉

問24 以前（約5年前）と比べて、日頃活動されている地域において、にどのような点で地域福祉が推進されたと思いますか。（〇は3つまで）

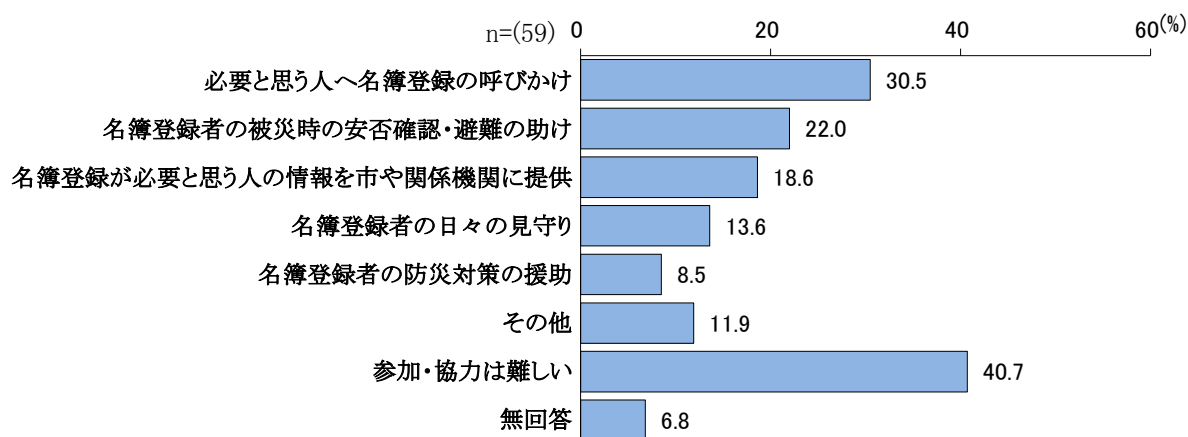


以前（約5年前）と比べて推進された地域福祉活動としては、「支え合いの地域づくり（地域ケアシステム）が充実した」が16.9%で最も多く、以下「福祉に関する情報提供が進んだ」（15.3%）、「福祉に関する教育や啓発が進んだ」「活動拠点が整備された」（ともに11.9%）の順が続いている。一方、「進んだと思う点はない」は32.2%となっている。

5. 防災の取り組み

(1) 「避難行動要支援者」に関連した活動への参加協力

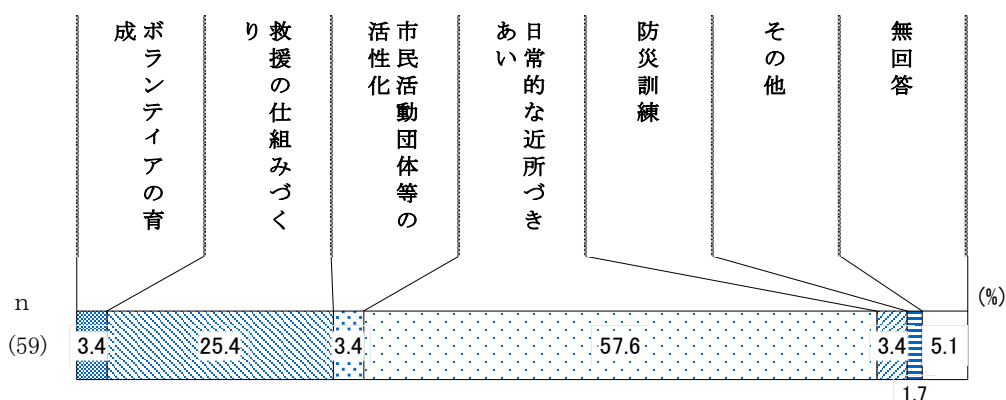
問25 市川市では、高齢者や障害者などの災害時に自力で安全な場所に避難することが困難ないわゆる「避難行動要支援者」の安全を守るため、地域の協力体制づくりを推進する目的として「避難行動要支援者名簿」を作成しています。貴団体は次のような援助活動に参加協力できますか。(〇はあてはまるものすべて)



避難行動要支援者名簿作成への参加協力内容をみると、「必要と思う人へ名簿登録の呼びかけ」が30.5%で最も多く、以下「名簿登録者の被災時の安否確認・避難の助け」(22.0%)、「名簿登録が必要と思う人の情報を市や関係機関に提供」(18.6%)の順で続いている。

(2) 災害時における助け合いのために必要な日常的取り組み

問26 災害発生直後には公的な援助はすぐに届かない場合が予想されます。災害時において、お互いを助け合うためには、日常的にどのような取り組みが必要だと思いますか。(〇は1つだけ)

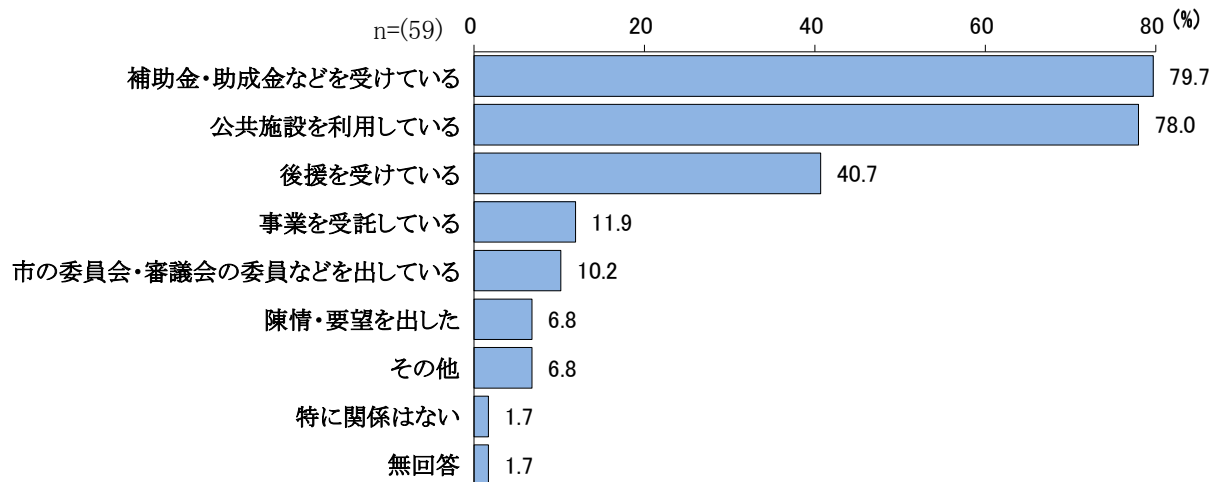


災害時における助け合いのために必要な日常的な取り組みとしては、「日常的な近所づきあい」が57.6%で最も多く、次いで「救援の仕組みづくり」(25.4%)となっている。

6. 地域福祉活動活性化に必要なこと

(1) 団体と市との関係

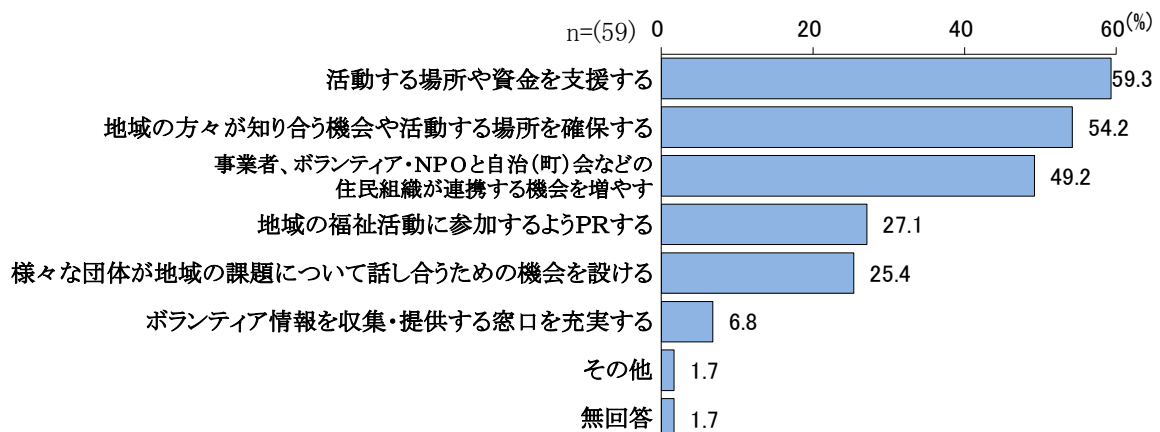
問27 貴団体は、活動上、市とはどのような関係にありますか。(〇はあてはまるものすべて)



団体と市との関係をみると、「補助金・助成金を受けている」が79.7%、「公共施設を利用している」が78.0%と、いずれも8割近くを占めている。

(2) 行政が地域で支え合う仕組みづくりをするため、特に必要だと思うこと

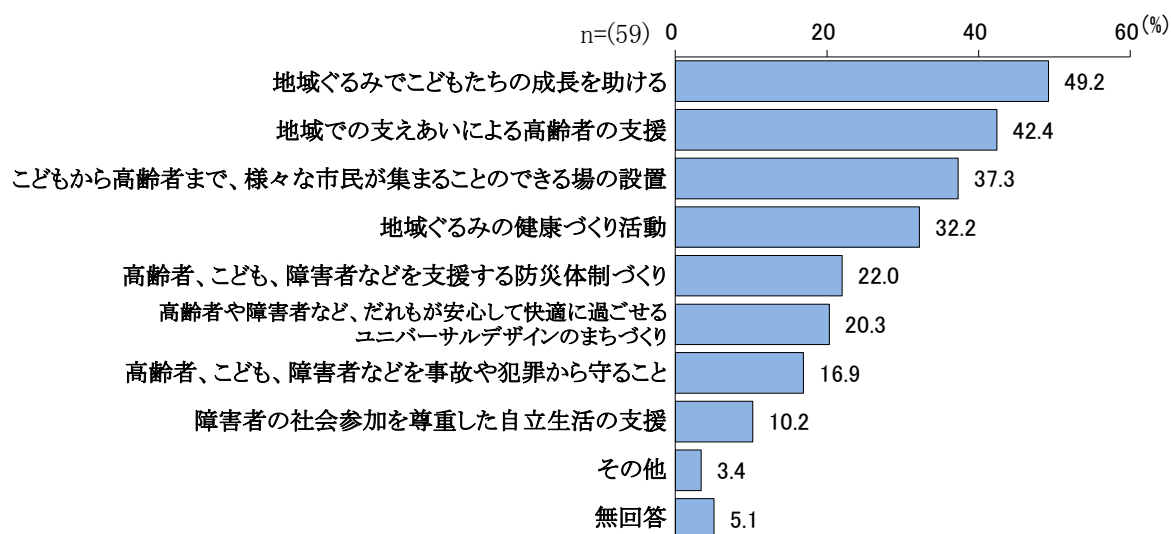
問28 行政が地域で支え合う仕組みづくりをするために、特に必要だと思うことは何ですか。(〇は3つまで)



行政が地域で支え合う仕組みづくりをするために、特に必要なこととしては、「活動する場所や資金を支援する」が59.3%で最も多く、以下「地域の方々が知り合う機会や活動する場所を確保する」(54.2%)、「事業者・ボランティア・NPOと自治(町)会などの住民組織が連携する機会を増やす」(49.2%)の順で続いている。

（３）地域の人たちが協力して取り組んでいくことが特に必要な課題

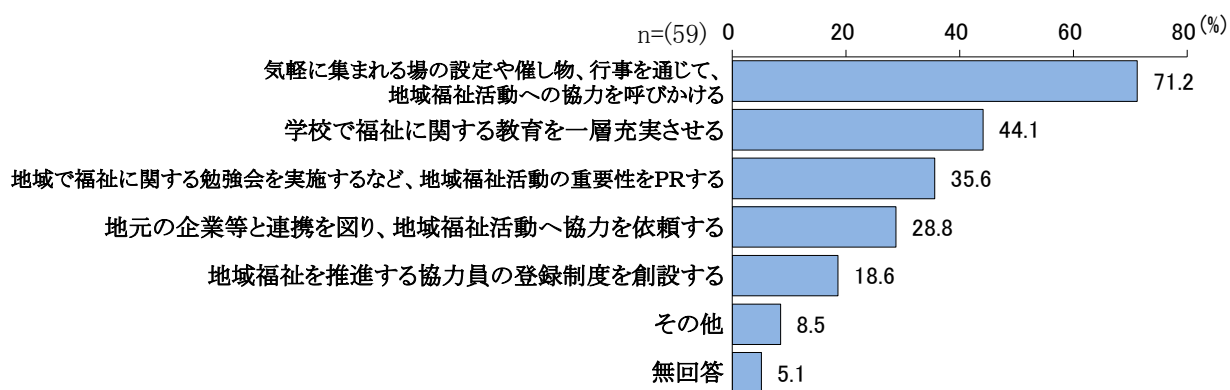
問29 地域の人たちが協力して取り組んでいくことが特に必要な課題は何ですか。（〇は3つまで）



地域の人たちが協力して取り組んでいくことが特に必要な課題としては、「地域ぐるみで子どもたちの成長を助ける」が49.2%で最も多く、以下「地域での支えあいによる高齢者の支援」（42.4%）、「子どもから高齢者まで、様々な市民が集まることのできる場の設置」（37.3%）、「地域ぐるみの健康づくり活動」（32.2%）の順で続いている。

（４）地域福祉を推進する地域の人材を増やす方法

問30 地域福祉を推進する地域の人材（担い手）を増やすには、どのようにしたらよいと思いますか。（〇は3つまで）



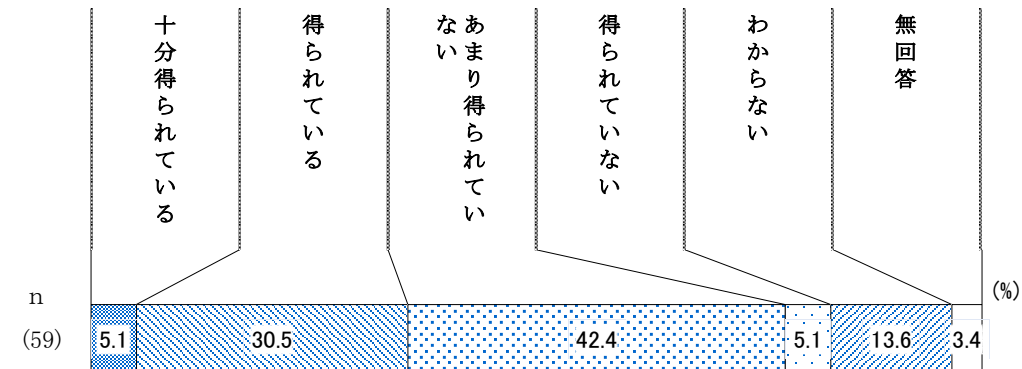
地域福祉を推進する地域の人材を増やす方法としては、「気軽に集まれる場の設定や催し物、行事を通じて、地域福祉活動への協力を呼びかける」が71.2%で最も多く、以下「学校で福祉に関する教育を一層充実させる」（44.1%）、「地域で福祉に関する勉強会を実施するなど、地域福祉活動の重要性をPRする」（35.6%）の順で続いている。

7. 市の施策

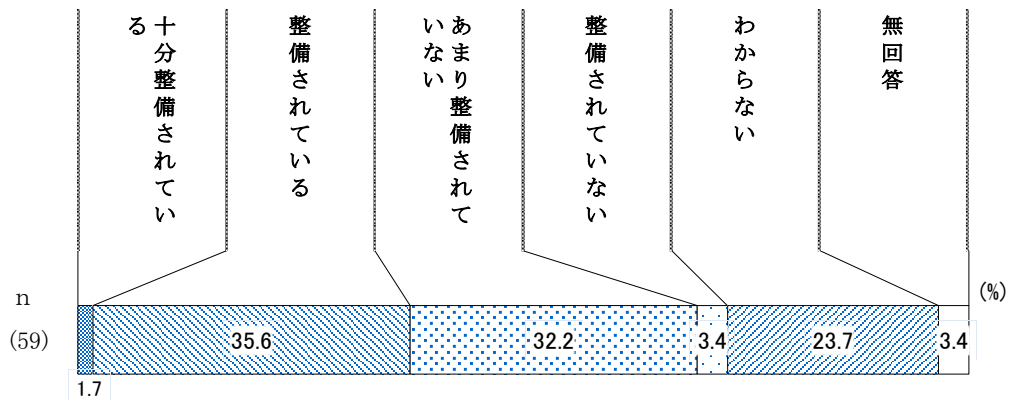
(1) 施策評価

問31 以下の(1)～(12)について、皆様のお考えをうかがいます。(○はそれぞれ1つずつ)

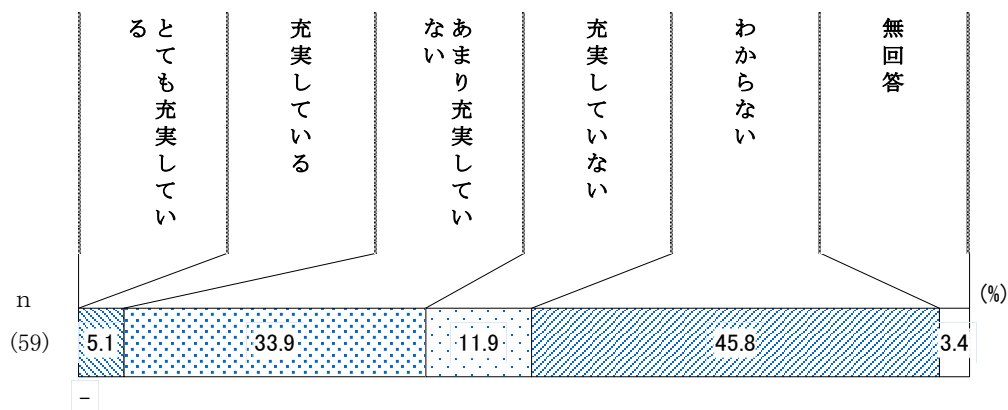
(1) 市の福祉施策に関する情報は、広報紙や市の公式ホームページ等で、情報提供を行なっておりますが、必要な情報を得られていると思いますか。



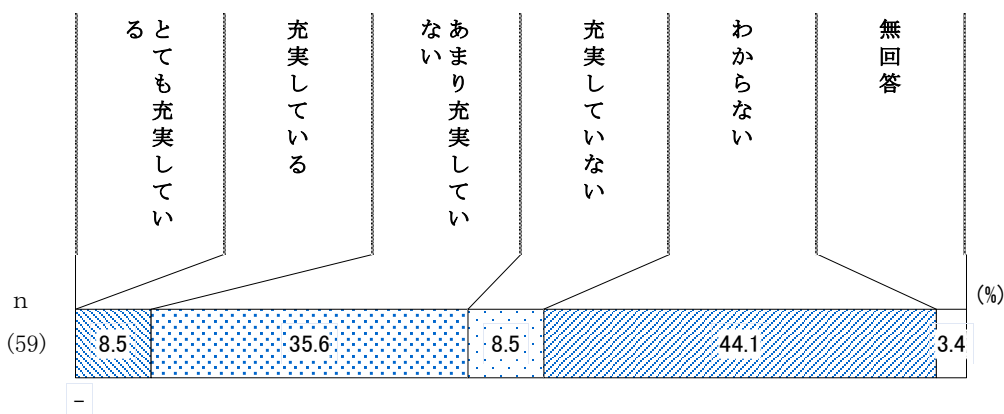
(2) 高齢者、障害者、子育て家庭等の方のための専門的な相談窓口（高齢者サポートセンター[地域包括支援センター]、障害者地域生活支援センター、子ども家庭総合支援センター）を設置しておりますが、安心して生活できるように地域の相談体制は整備されていると思いますか。



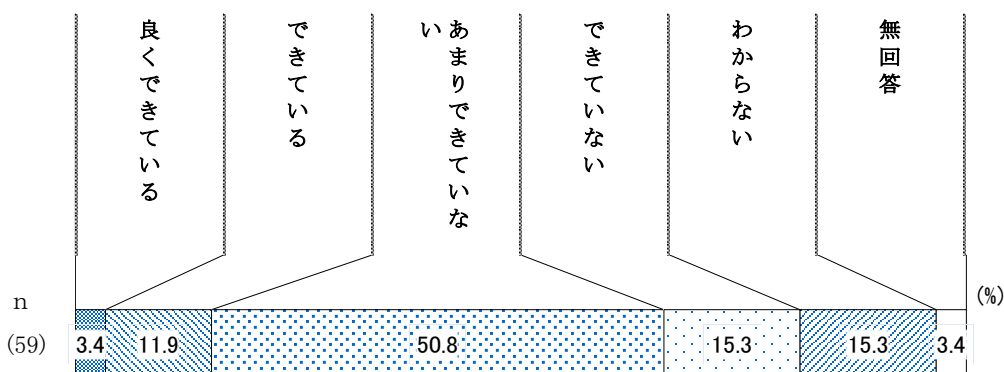
(3) 住み慣れた地域でできる限り暮らし続けられるような在宅医療(医師による訪問診察等)の支援は充実していると思いますか。



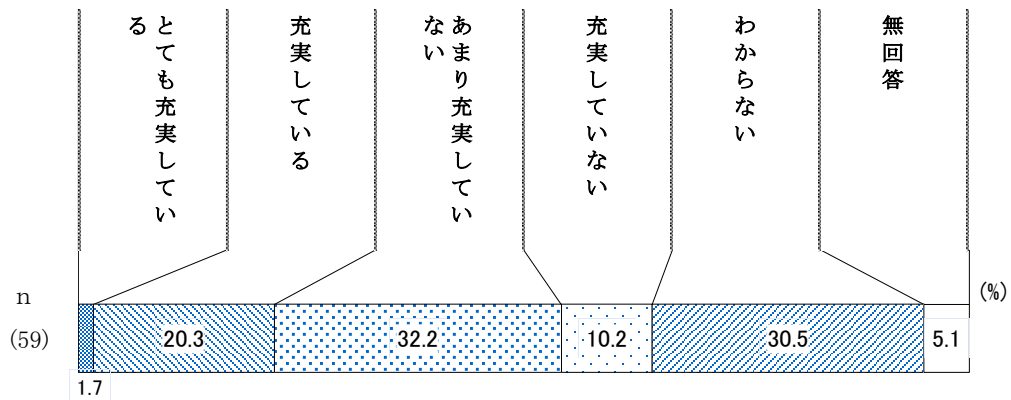
(4) 認知症のなどにより、日常生活を送る上で十分な判断ができない人や、体の自由が利かない人のため相談窓口や福祉サービスの利用手続きの援助、日常的な金銭管理等の支援は充実していると思いますか。



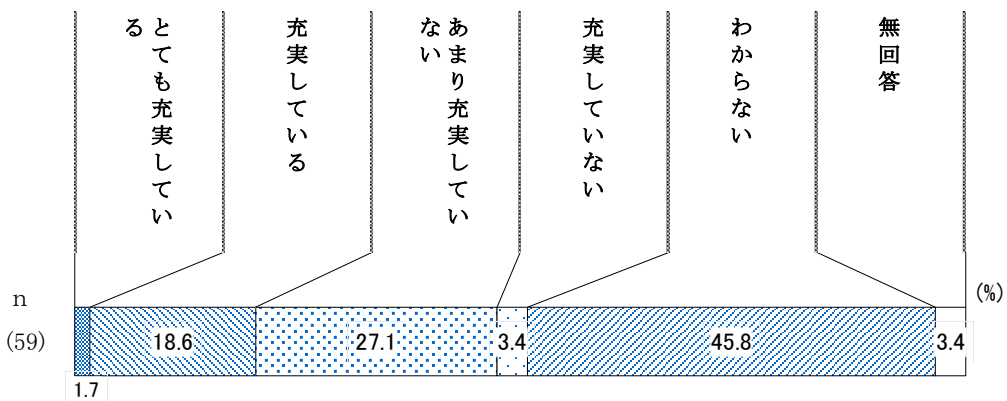
(5) ご自身が住む地域において、引きこもりがちな高齢者、障害者、子育て世帯等を含め、誰もが安心して生活を送れるよう、地域での住民同士の交流や支え合いができていますか。



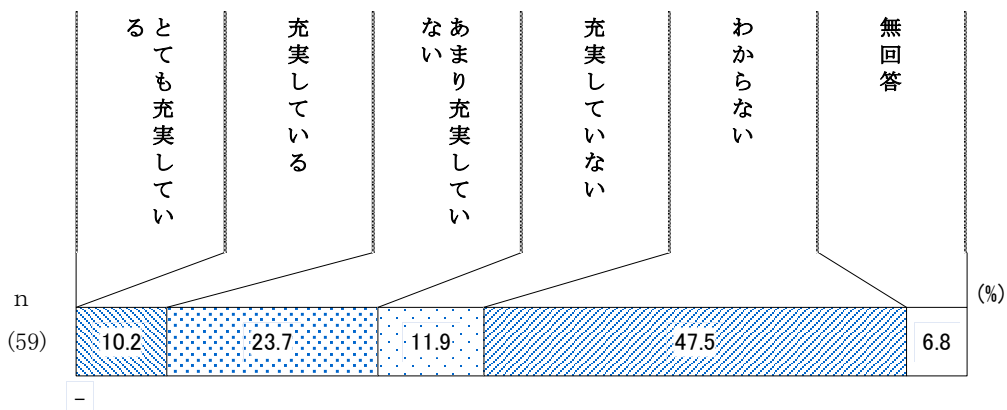
(6) 本市では小学校区を中心とした防災拠点の整備や警報器の普及等、緊急時の支援体制の整備を行っています。体制の整備は充実していると思いますか。



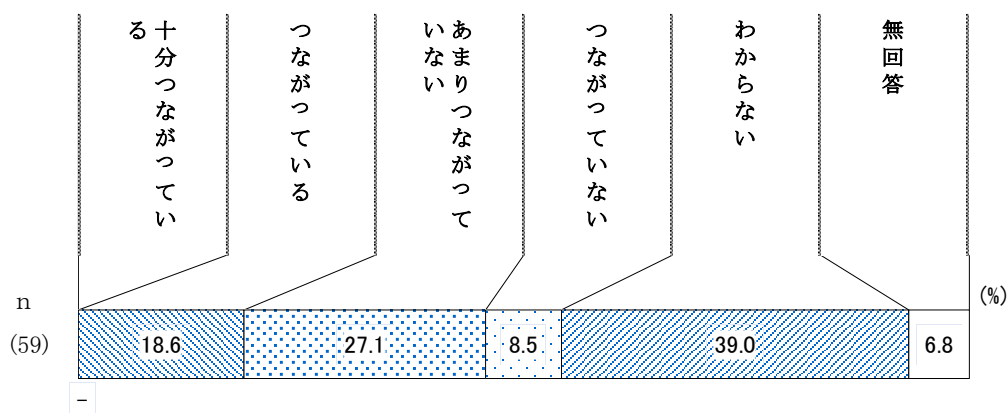
(7) 住み慣れた家で安心して暮らし続けられるよう、手すりの取り付け工事や段差解消のバリアフリーに関する住宅リフォーム相談を行っています。相談体制は充実していると思いますか。



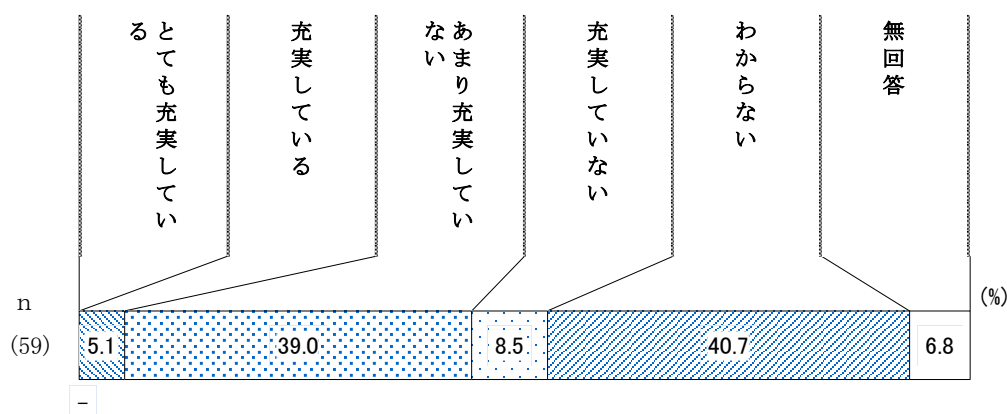
(8) 高齢者や障害者など、自身での移動が困難な方の移動を支援するために、福祉有償運送（社会福祉法人やNPO法人等が一人では公共交通機関を利用することが困難な身体障害者や要介護者の方に運送を行うもの）を行っています。外出手段は充実していると思いますか。



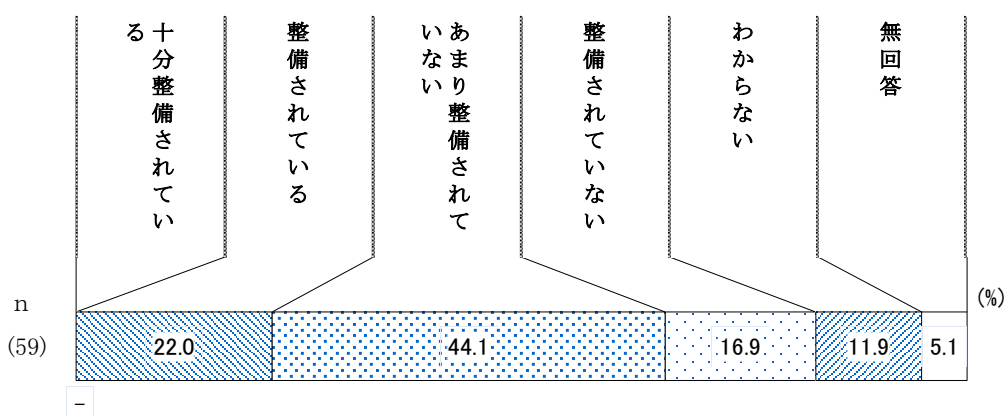
（９）「だれもが安心して暮らし続けることができる地域づくり」を実現するために、市職員が地域に出向き、福祉に関するテーマの講座を実施していますが、地域福祉に対する意識の向上につながっていると思いますか。



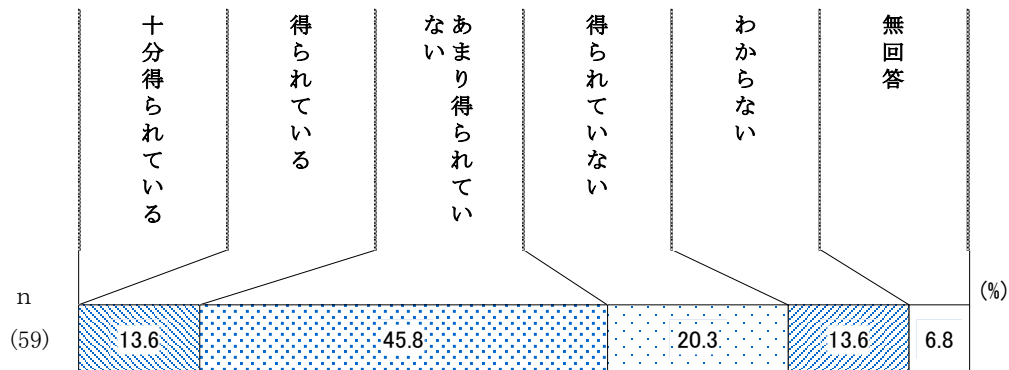
（１０）地域福祉の推進にあたり、活動に取り組む担い手の確保、研修会や講習会等の人材育成の環境は充実していると思いますか。



（１１）ご自身の住む地域において、気軽に集まり交流できる場やサークル活動・生涯学習等が行える活動の場が、整備されていると思いますか。



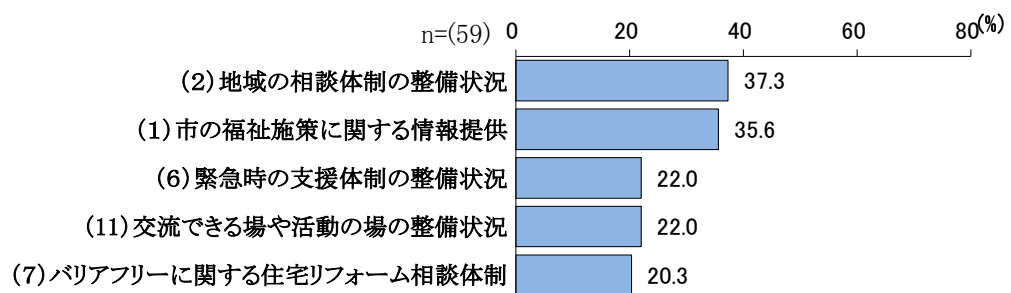
（１２）住み慣れた地域で安心して暮らし続けるためには、地域で生活する方々が協力し、助け合うことが必要です。必要なときに地域活動や市民活動団体などの情報を得られていると思いますか。



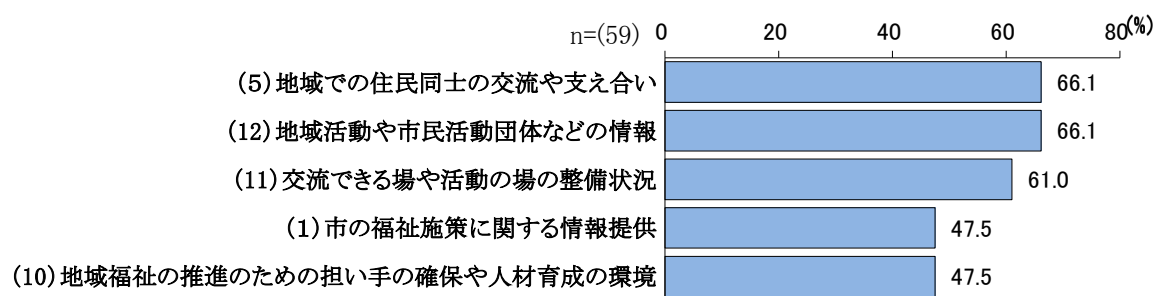
市の福祉施策についての評価を、《肯定的評価》（「十分に得られている」＋「得られている」等）の高い順でみると、『（２）地域の相談体制の整備状況』が37.3%で最も高く、以下『（１）市の福祉施策に関する情報提供』が35.6%、『（６）緊急時の支援体制の整備状況』『（１１）交流できる場や活動の場の整備状況』がともに22.0%、『（７）バリアフリーに関する住宅リフォーム相談体制』が20.3%、『（９）市職員による福祉講座の実施と地域福祉意識向上のつながり』が18.6%の順で続いている。

一方、《否定的評価》（「あまり得られていない」＋「得られていない」等）の高い順でみると、『（５）地域での住民同士の交流や支え合い』と『（１２）地域活動や市民活動団体の情報』が、ともに66.1%で最も高く、以下『（１１）交流できる場や活動の場の整備状況』が61.0%、『（１）市の福祉施策に関する情報提供』『（１０）地域福祉の推進のための担い手の確保や人材育成の環境』がともに47.5%の順で続いている。

【肯定的評価（上位５項目）】



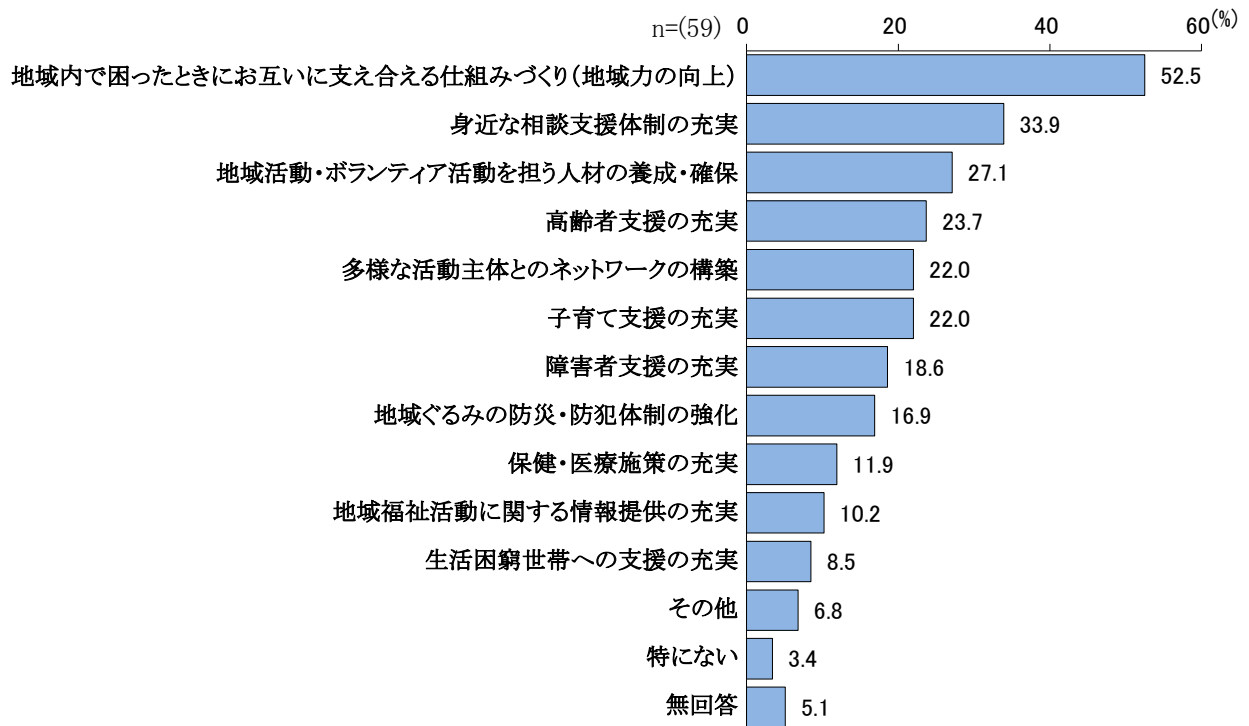
【否定的評価（上位5項目）】



8. 市の施策で今後取り組んでほしい施策の方向性

(1) 地域福祉分野の施策で特に力を入れてほしいこと

問32 市川市の地域福祉分野の施策について、今後特に力を入れてほしいと思われることは何ですか。(〇は3つまで)



市の地域福祉分野の施策について今後力を入れるべきこととしては、「地域内で困ったときにお互いに支え合える仕組みづくり（地域力の向上）」が52.5%で最も多く、以下「身近な相談支援体制の充実」（33.9%）、「地域活動・ボランティア活動を担う人材の養成・確保」（27.1%）、「高齢者支援の充実」（23.7%）の順で続いている。

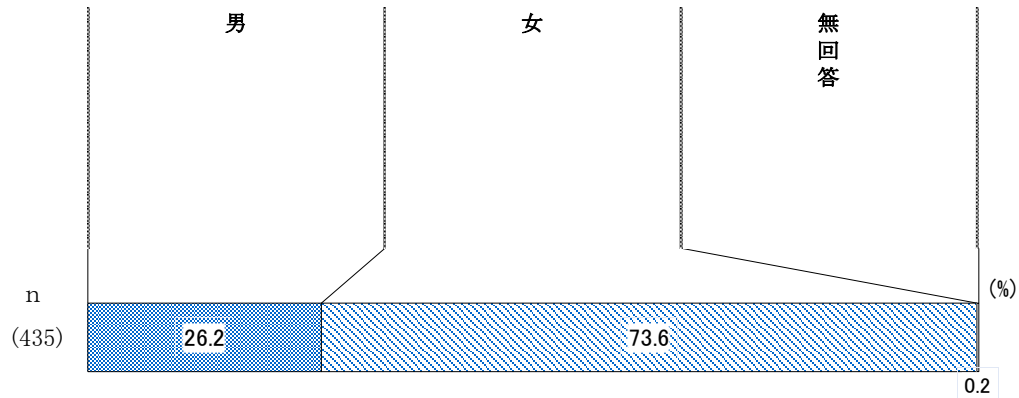
第6章 調査結果の詳細

／民生委員・児童委員

1. 回答者の属性

(1) 性別

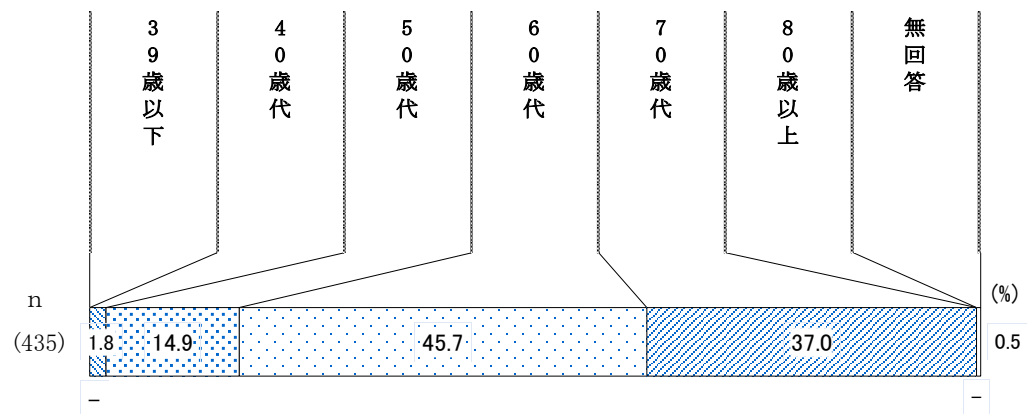
(1) あなたの性別をお答えください。(1つにマーク)



性別をみると、「男」が26.2%、「女」が73.6%となっている。

(2) 年齢

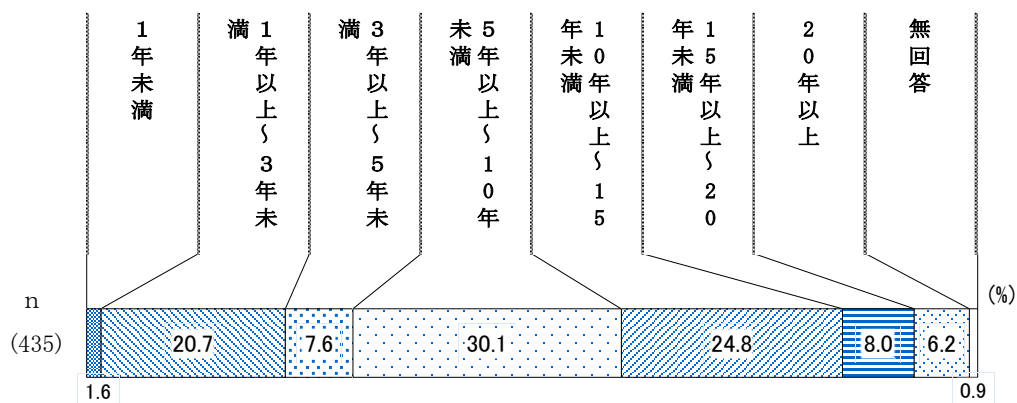
(2) あなたの年齢をお答えください。(1つにマーク)



年齢をみると、「60歳代」が45.7%で最も多く、次いで「70歳代」が37.0%となっている。

(3) 活動年数

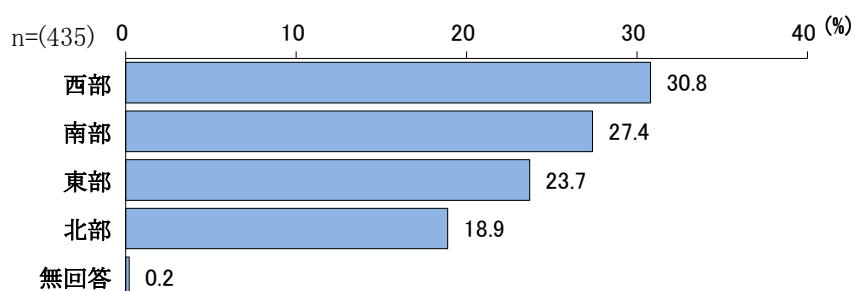
(3) あなたは、民生委員児童委員の活動をされてどのくらいになりますか。通算の年数でお答えください。(1つにマーク)



活動期間は、「5年以上～10年未満」が30.1%で最も多く、次いで「10年以上～15年未満」が24.8%、「1年以上～3年未満」が20.7%の順で続いている。

(4) 担当地区

(4) あなたの主な担当地区は次のうちどれですか。別紙「地区一覧」の「地区の町丁」をご確認いただき、お答えください。(あてはまるものすべてにマーク)



北 部				西 部				
国分	曾谷	大柏	宮久保 ・下貝塚	国府台	市川第1	市川第2	真間	菅野 ・須和田
5.3%	3.2	6.9	3.4	2.5	5.7	14.3	2.1	6.2

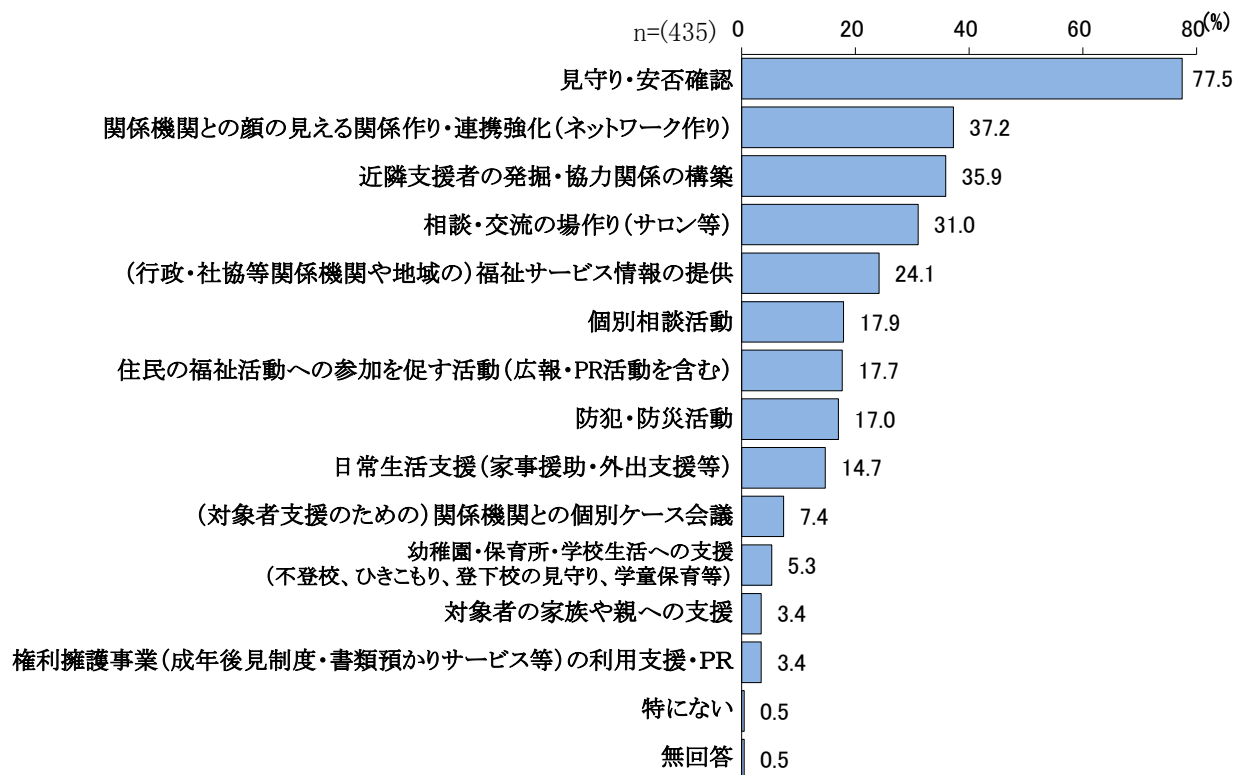
東 部			南 部		
八幡	市川東部	信篤 ・二俣	行徳	南行徳 第1	南行徳 第2
7.1%	12.0	4.6	10.1	9.7	7.6

担当地区をみると、「市川第2地区」が14.3%で最も多く、次いで「市川東部地区」が12.0%、「行徳地区」が10.1%の順で続いている。

2. 活動状況

(1) 高齢者世帯への支援を行うにあたり、重視すべき活動内容

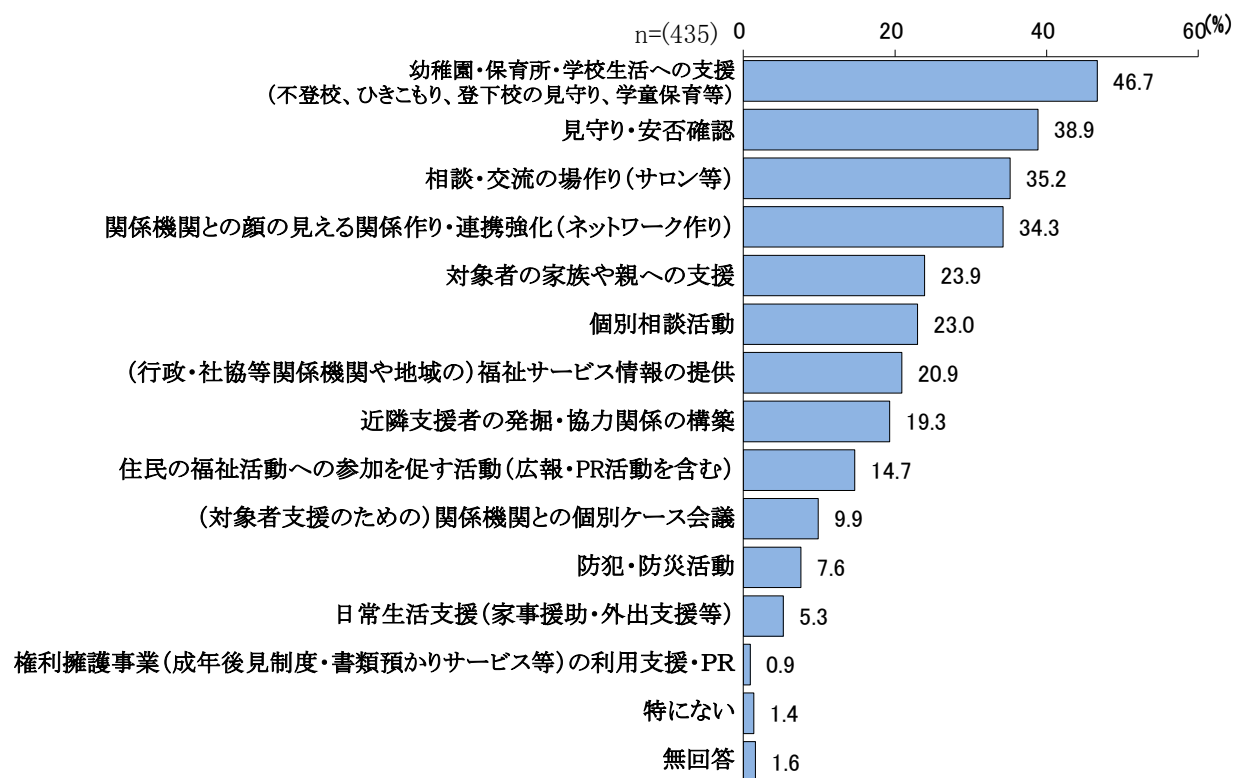
(5) 高齢者世帯への支援を行うにあたって、それぞれ今後、特にどのような活動に力を入れていく必要があると思いますか。以下の選択肢より3つまでマークして下さい。



今後、重視すべき活動内容をみると、高齢者世帯については、「見守り・安否確認」が77.5%で最も多く、次いで「関係機関との顔の見える関係作り・連携強化(ネットワーク作り)」が37.2%、「近隣支援者の発掘・協力関係の構築」が35.9%の順で続いている。

(2) 児童・子育て世帯への支援を行うにあたり、重視すべき活動内容

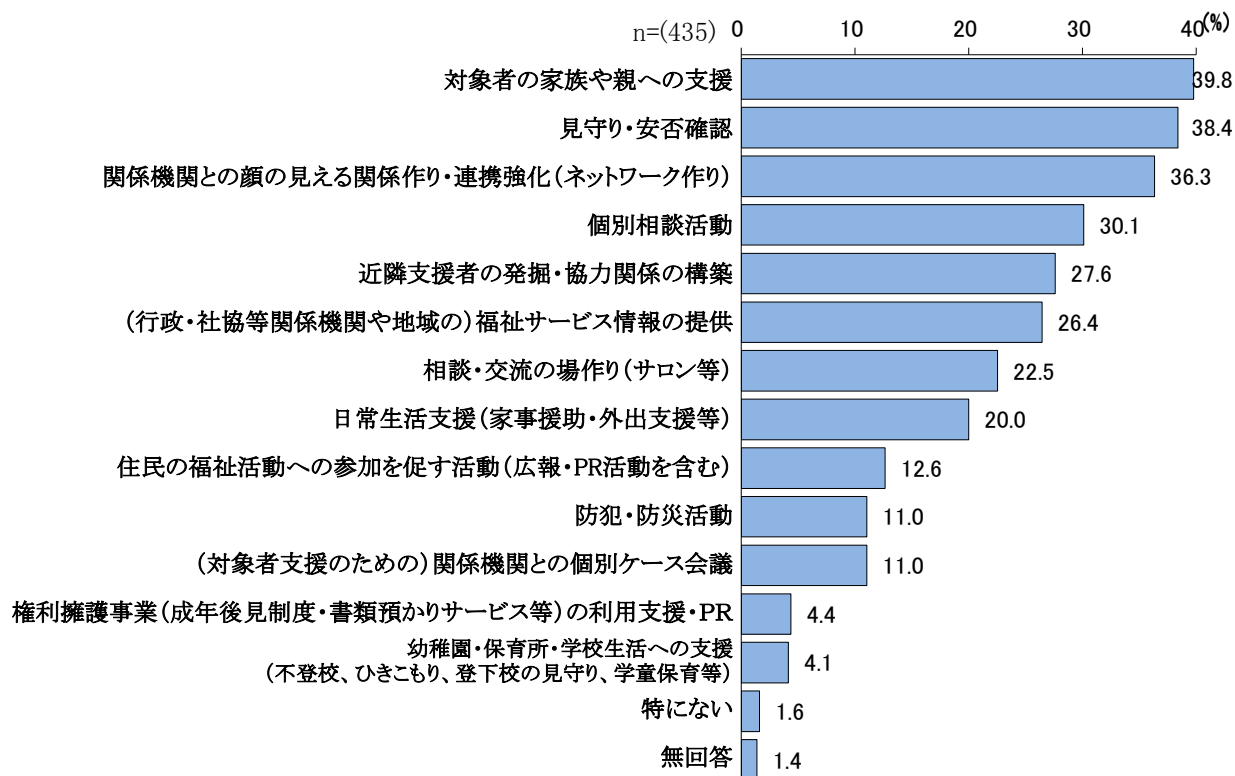
(6) 児童・子育て世帯への支援を行うにあたって、それぞれ今後、特にどのような活動に力を入れていく必要があると思いますか。以下の選択肢より3つまでマークして下さい。



児童・子育て世帯については、「幼稚園・保育所・学校生活への支援（不登校、ひきこもり、登下校の見守り、学童保育等）」が46.7%で最も多く、次いで「見守り・安否確認」が38.9%、「相談・交流の場作り（サロン等）」が35.2%の順で続いている。

(3) 障害者がいる世帯への支援を行うにあたり、重視すべき活動内容

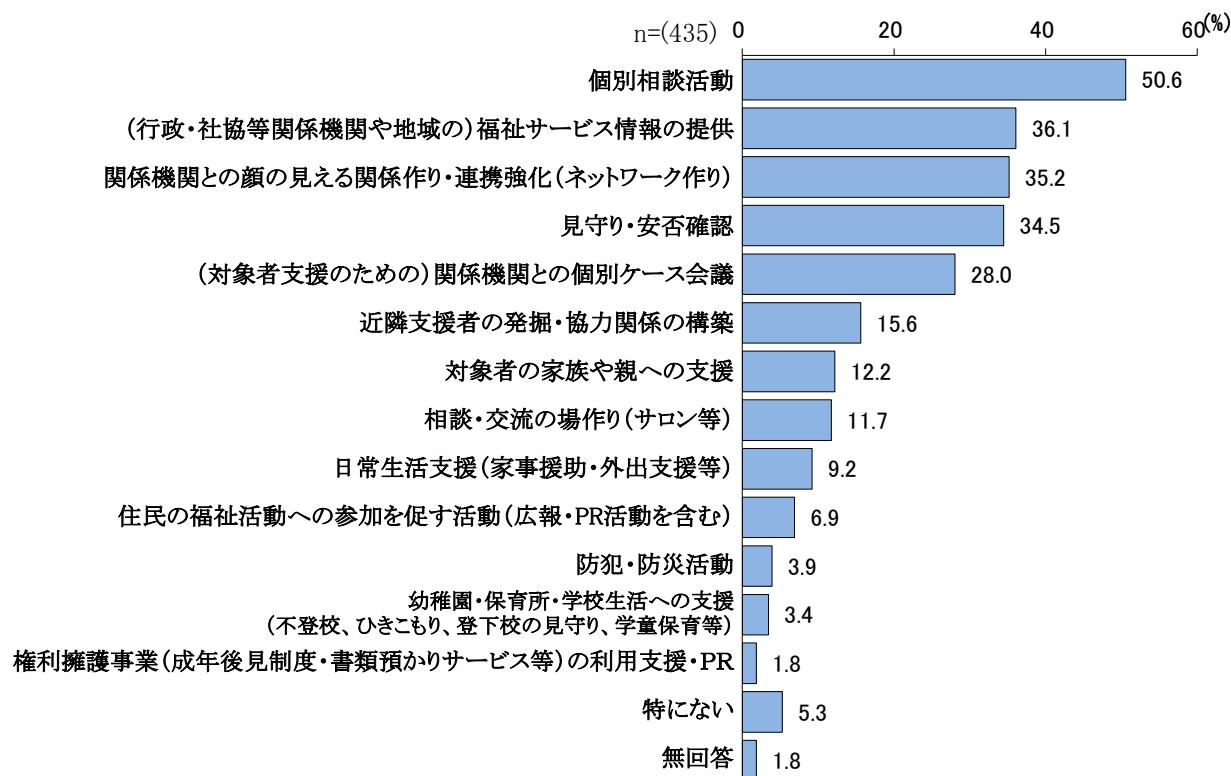
(7) 障害者のいる世帯への支援を行うにあたって、それぞれ今後、特にどのような活動に力を入れていく必要があると思いますか。以下の選択肢より3つまでマークして下さい。



障害者のいる世帯については、「対象者の家族や親への支援」が39.8%で最も多く、次いで「見守り・安否確認」が38.4%、「関係機関との顔の見える関係作り・連携強化(ネットワーク作り)」が36.3%の順で続いている。

(4) 生活保護・生活困窮世帯への支援を行うにあたり、重視すべき活動内容

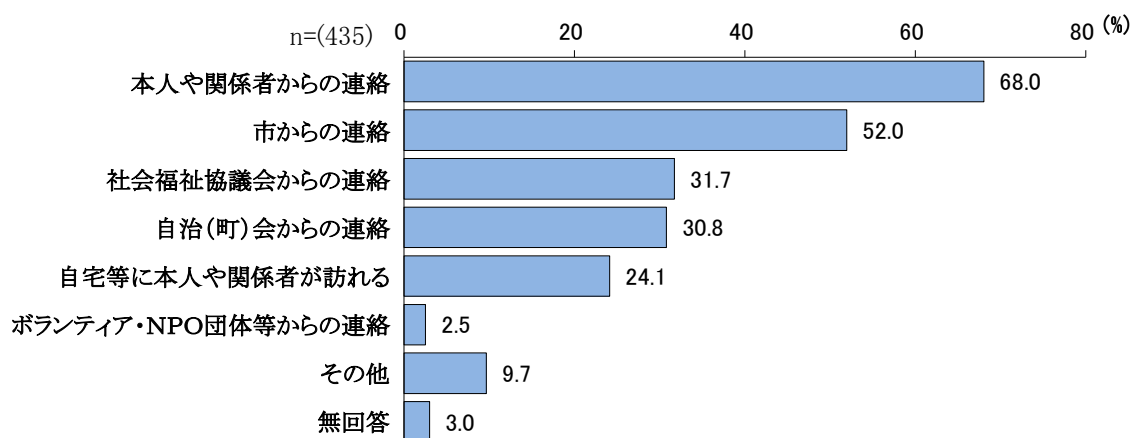
(8) 生活保護・生活困窮世帯への支援を行うにあたって、それぞれ今後、特にどのような活動に力を入れていく必要があると思いますか。以下の選択肢より3つまでマークして下さい。



生活保護・生活困窮世帯については、「個別相談活動」が50.6%で最も多く、次いで「(行政・社協等関係機関や地域の)福祉サービス情報の提供」が36.1%、「関係機関との顔の見える関係作り・連携強化(ネットワーク作り)」が35.2%の順で続いている。

(5) 地域住民からの相談形態

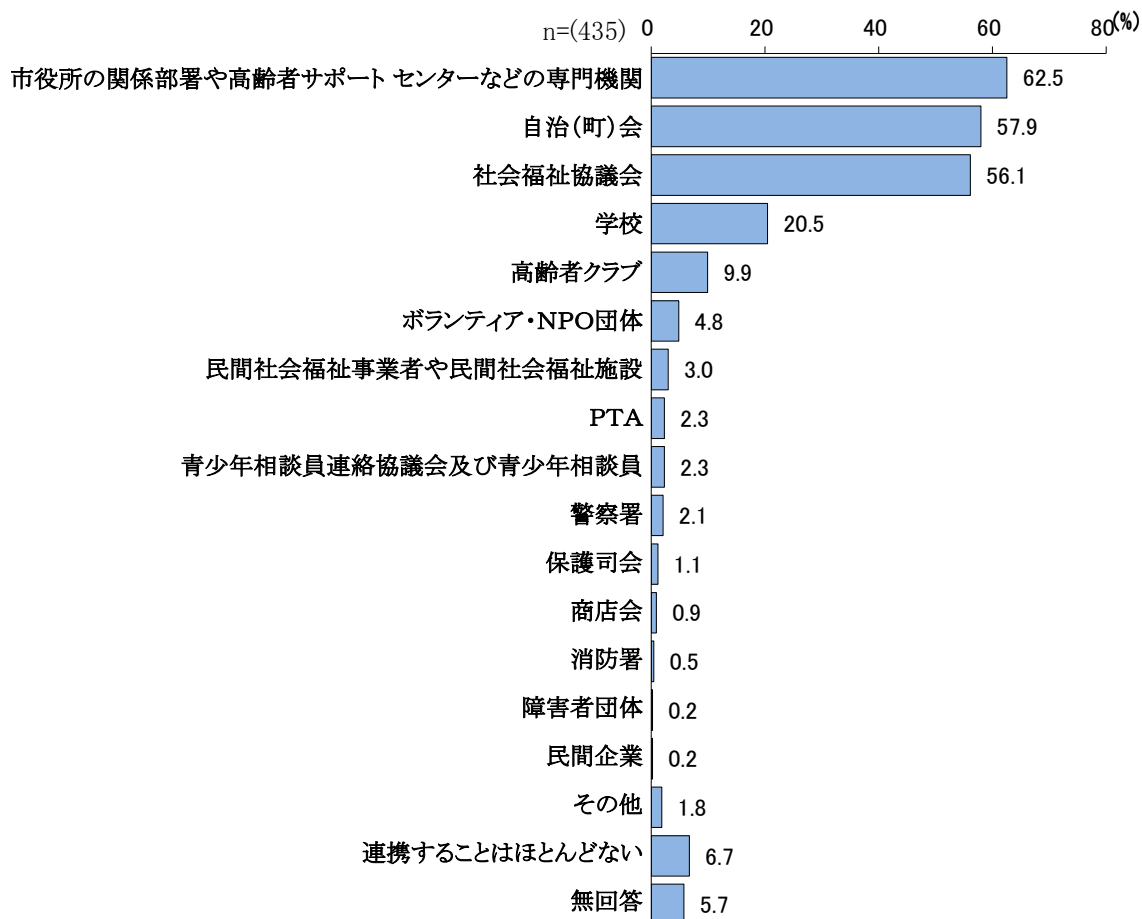
(9) 地域住民からの相談は、どのような形で持ち込まれることが多いですか。(マークは3つまで)



地域住民からの相談の形態をみると、「本人や関係者からの連絡」が68.0%で最も多く、次いで「市からの連絡」が52.0%、「社会福祉協議会からの連絡」が31.7%の順で続いている。

(6) 地域での活動等の際の連携団体

(11) あなたは、地域での活動等の際に、どのような団体と連携して活動されていますか。
(マークは3つまで)



地域での活動等の際の連携団体をみると、「市役所の関係部署や高齢者サポートセンターなどの専門機関」が62.5%で最も多く、次いで「自治(町)会」が57.9%、「社会福祉協議会」が56.1%の順で続いている。

(7) 連携している団体とその内容

(13) 【問(11)で「連携することはほとんどない」以外で答えた方のみ詳細をご記入下さい。】
どのような団体とどのような連携を図っているか（図ったか）可能な範囲でお答えください。（定例的な連携を除き、特徴的なもの2つまでをご記入ください。）

・自治会主催のサロン（月一回）にお手伝いや話し相手として参加している。 ・独居の人のことで高齢者サポートセンターを連携を取って活動している。
自治会役員、近隣住民からの相談が中心
・町会と災害時要援護者の名簿の確認 ・サロンのお手伝い
民俗誌、VTRを見る会 ・定例会（月1回） ・老人ホーム訪問
学校 入学式、卒業式、体育祭への参列
・一人暮らしの方への支援について、高サポと連携した。 ・避難行動要支援者を自治会と連携する手続きをとった。
相談があったときに、まず社協につないでいる
・小学校、中学校主催の高齢者との懇談会を目的とした昼食会に世話係として参加。 ・小学校の運動会に高齢者とともに参加。 ・南行中サロンで独居老人等のお世話など ・外出困難な方への手作り弁当の配食及び見守り。
地域、バス旅行への、参加。
・地域内に家族と一緒に在住のアフリカ出身のご主人が身分証明書を自宅近辺を散歩中に携帯して いなく隅々警官に署まで連れて行かれ近所の方から助けを求められ交番や辻々の警官に身分証明を して廻った。 ・認知症で隣近所の方が迷惑をこうむり、困っている方から相談を持ちかけられ保健所にいろいろ とお願いをした。
サポートセンターとの連絡相談など NPOとの連携
・自治会役員連絡会の時気になる情報を受け活動している。 ・高齢者クラブ役員連絡会の時、気になる情報を耳にして活動している。
活動1年内の者です。 現在は、民生委員と、自治会からの連絡により活動をしています。関連団体に入りもっと詳しく 知っていきたい。
・地元の高齢者クラブの会員の方から家の近所にこういう方がいらっしゃるから行って様子を聞いて あげて欲しいと言われた。 ・地区は違うけど私の友人の一人暮らしの方がいるのでその他区の担当民生委員に連絡して行って あげて欲しいと言われた。
月一回の自治会主催の福祉相談で高齢者サポートセンター職員との話し合い 地区協議会・学校の運営委員会での情報交換等 毎月行われる自治会役員会での情報等 地域ケアシステムの推進員会議の中での情報等
学校だより PTAだより
補導連絡協議会、ガールスカウト
団体名：自治会自治会の行事に参加、手伝い団体名：子ども会行事の手伝い
社会福祉協議会主催の高齢者との昼食会に手伝いとして参加。 学校主催のコミュニィースクールの役員として手伝う。

社会福祉協議会と協力してバス研修旅行を計画実行。 学校との協力で昼食会を計画して子供達と一緒に食事をする。
P T A、先生との朝立番、パトロール
・学校のコミュニティサポート委員になっている為、防災講演会や夏まつりに参加。 ・高齢者クラブに顔を出し各人のお話を聞いている。
▲高齢者サポートセンターとの連携 介護認定／ケアマネの紹介／高齢者一人ぐらしの登録配食サービスの紹介／サロン、講演会等のおさそい／あんしん電話の設置等 ▲社協 ふれあい会食会／ふれあいの集いなどのおさそい ▲救急車を呼び、家族に変わって病院等へ運ぶ際、同乗した。
市、関係部署 友愛訪問している家に夜中にいやがらせがあると言われて市営住宅課など又地域のボランティアなどと話し合っ解決方法を考えた
毎月定例の信篤二俣地区社会福祉協議会への出席の他年に2回高谷自治会へ出席
近隣トラブル、精神疾患問題、生活保護etc. は、市や高齢者サポートセンター社会福祉協に相談してます。
市役所より担当地区に問題が起こった場合電話などで連絡を受ける。
市役所地域支えあい課からの連絡があり自分の担当地区に住む独居男性の死亡の時、住所のアパートに行き高齢者サポートセンターの職員と会い話しをした。 又、警察に民生委員として訪問でも面会は出来なかった事を話した。
相談が合った時に、相談内容に応じて関係部署へ連絡する。
・男性独居で友愛訪問は必要ないので時々訪問し話し相手になってほしい。 ・高齢者婦人が昼間は1人になるので時々電話か訪問し、おしゃべりしてほしい。
高齢者サポートセンター＝地域の高齢者クラブで訪問医療等の講演を数回依頼した。 自治会＝避難行動要支援者の支援や防災訓練等を行っている
団体名：高齢者サポートセンター 連携の内容：地域高齢者との交流を目的としたヨガ体験の手伝いを行った。 ：高齢者数組との交流を目的としたお茶会に参加して、高齢者の話し（回想）を聴く手伝いをした。
自治会（町内会）の役員と連携して震災時に障害者の安否を確認する。
高齢者クラブで民生委員の役割について説明をしました。 二俣小学校において市役所の職員、自治会役員と共に防災訓練をしました。
中国分小学校 毎月1～2回校庭、校内のパトロールを行っている。 また、学校行事に参加している。（入学、卒業、運動会、学校祭り、校内音楽祭等）
・社協
高齢者クラブ・・・団体だけでなく一般のご婦人がた 社会福祉協議会・・・市川市ボランティアセンター
高齢者サポートセンターや地域支え合い課へつなぐ
・地域の12自治会と協力して一年に3回イベント活動を行っている。
高齢者サポートセンター 認知症と思われる高齢者の事をセンターに連絡し施設に入所してもらったり、セアセンターと結んだりしている。 自治会 自治会に民児協を理解してもらい自治会員の異状を知らせてもらったりその人物と会い関係機関と連絡したりしている。

登校渋り児童の登校のお手伝い（学校からの依頼）
高齢者クラブの場合－高齢者の皆さんに楽しめる様な催事依頼 自治会の場合－近隣住民とのトラブル 社協の場合－紹介依頼等
社協主催の「ふれあいコンサート」、「菅野・須和田オリンピック」
・独居登録者の方の介護サービスに関する事、健康の事等をサポートセンターに依頼したり報告したりしている。 ・地区社協を通して相談事を聞いて、社協に報告。
高サポと連携しての訪問、社会福祉事業者と連携しての訪問と関係機関への情報提供、自治会からの情報提供を受け訪問活動。
NPO ガンバの会 夢塾 小学校を卒業し見守りをしている子供の連携
問題のある件について、近隣から自治会を通じて連絡がありサポートセンターの協力でお世話になりました。
市役所：身寄りのない方の死亡に伴い、部屋の片づけの立会い 社協：児童扶養手当に関する申請者の事前の案内など 学校：児童委員会で情報交換など
社協 行徳地区社協、民生地区協を通して SSU 行徳支所窓口支援課
・訪問の依頼。（連絡が取れないので）・気になる方の見守り等・近状報告
・私が居住する団地内の自治会、老人クラブ、モーニングコーヒーサロン、園庭の美化活動クラブ等と、普段活動を通じて様々な情報が入ってくる。反面、私が担当する別のマンションの情報が得られないのが課題となっている。
独居老人等が突然入院→サポートセンターの連絡により入院～退院～デイ・サービス等の動きを全て知り本人の様子を正しく知った……。毎月の訪問にもいかしていきける。
主任児童委員なので主に学校から連絡がくることが多いです。 あと、1度曾谷小ビーイングのスタッフさんから連絡をいただいたことがあります。ビーイングには時々顔を出すようにしています。
自治会役員から相談が多い。家にいっしょに伺い、紹介される形で相談を受ける。／曾谷第四自治会
ひとり暮らしの方が幻視の症状で困っている時、高齢者サポートセンターに相談しながら、見守りを続けました。その後、いい方向に向かいました。
①自治会関係者と近隣の方の連携が多い。 ②学校主催の行事に参加協力
社会福祉協議会主催のおたがいさま広場で会場設計のお手伝い、片付けなど自治会のパトロール参加
自治会の行事 社協の行事 サポートセンターの行事
社会福祉協議会 手芸などのボランティアをして皆様に集まってもらって、お手伝いをしている。
菅野地区町会 日出学園との交流昼食会
ガンバに関わっている方から話がある。 特養に年1～2回程14：00～15：00を目安にボラに關っている。
親の認知症について 高齢者サポートセンターにいっしょに行った。
介護支援を受けたいがどの様な手続きをしたら良いか解らないとの相談を多く受ける。その様な場合は(11)に連絡し手続きの介助をする。

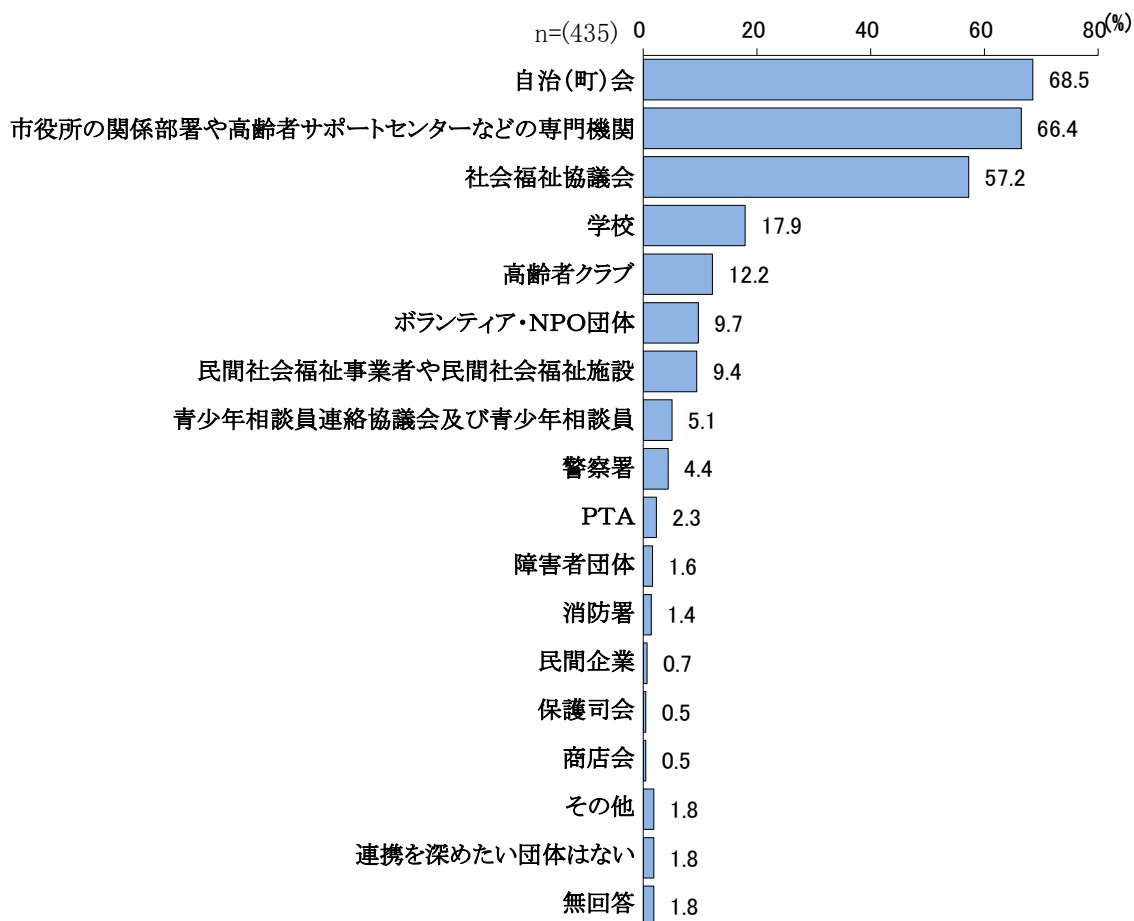
・地域支えあい課・社協とは事あるごとに月に2回以上直接訪問し相談している ・家族の病気入院介護や他地区の方の相談を担当地区民生員や高齢者サポートセンター等に相談連携をとっている。
訪問をしている高齢者が、アパートの立退きをしなければならなくなり高サボに依頼し、本人を紹介し、施設をさがすと同事に本人のかかっている病院からも相談員から情報があり高齢者サポートセンターと相談してもらった。
サロン活動「よってこ」相談員サロン活動（絵手紙、子育てサロン応援）自治会の理事として祭りの手伝いをする。
社会福祉協議会 各種サロン活動に独りぐらしの方の参加をうながし孤立することがない様にしている。
・高齢者サポートセンターなどの専門機関
・社協主催、子育てサロンで母親、子ども同志の交流という事で運営をしている ・社協主催よみっこ文庫で本の貸し出しや出席をされた方の話し相手として参加している
相談事はすべて市役所や社会福祉協議会の方より話が来ます。高齢者クラブの方より（母をふくめ）お年寄りの方の様子をうかがいます。
・問題のある方についてはサポートセンターと連絡を取り合い情報交換をしている。 近くの方より子供達に声をかけたり、さわったりする方が居るとの事で毎朝通学時間に通路に立ち、警察に連絡をして病院に入院してもらった。
自治会 地区行事の参加、打ち合わせ等に参加し、役員、班長さんとの話し合い。（特に1人ぐらしの高齢者）
個人で頼んでいるケア・マネージャーさんと連絡を取り合っている。
・小学校読み聞かせボランティア ・NPO団体、子育て支援
自治会での話し合いに参加する中で住民の意識や今必要としていることが何かつかむことでの活動を考え、積極的に関与している。 学校でのコミュニティに参加して、自分の役割を認識して行事での役割を把握して活動している。
役所からの通報が多いので指示を受けながらそれにそって活動する。
定例的な連携が殆どであり、特徴的なものはありません。
独居の高齢者が急に認知症がひどくなり病院に入院するまで高齢者サポートセンターの方と交付に見守った。 アパートの建て替えで、新たにアパートを探す際に、高齢者（独居）という事で、貸してくれる所がなかった。地域ささえあい課に相談し市営の住居を紹介してもらった。
・高齢者サポートセンターと情報交換し、認知症の人の見守りを行った。 ・社会福祉協議会＝サロン活動
外国の方で地域の方とコミュニケーションがとりにくく、言葉も通じない。子どもが小学校に通っているのでその子をたよりにボランティア（私的の友人）で日本語通常よく使う言葉の指導、ハローワーク等での仕事の紹介等、時には学校でもらってくるプリントをひらがなで筆記したものを準備する。
母親が育児放棄の家の様子を見に行ったり、自治会より、相談に行つて欲しいと頼まれた人の家に行きお話を聞く。
高齢者サポートセンター主催の研修会に高齢者の方をさそって一緒に参加している。
近所の住民から郵便物、回覧板がずっとあると連絡があり警察署に出向き対処してもらって（親類etc. わからなかったが、警察はすぐ調べて対処してくれた。（立会いはもとめられた）
学校で行われる防災訓練のための会議や当日の担当役割を担う自治会での子供会の行事等に参加し、手伝っている。
配偶者等、身近な家族が亡くなられた時など、行政や社協の支援協力有り。

高齢者サポートセンター：安否確認訪問や、住民からの通報で、自分一人では対応ができない場合（救急車を呼ぶような時）現場に来て頂き、指示を仰ぐ。 社会福祉協議会：地区社協の福祉委員として、サロン活動や、男の料理教室の手伝い。
自治会の総会で顔を知ってもらい、活動地区の範囲等も敬老祝賀会の受付けや老人の誘導等で少しでも近づきを持って、民生の存在を老人との連携を図れる様にしている。
・自治会行事に参加して子供、おとし寄りの人とふれあい少しづつ話し、町内であいさつする。 ・老人会に参加して、話し相手になる。
・高齢者サポートで、認知症サポートのカフェの立ち上げに協力 ・自治会への行事等への参加手伝い
・学校と民生の会議により地区の見守りが必要な生徒の見守り依頼 ・社協の方が種々の届出により調査等して書類の提出 ・自治会は祭事、行事には極力参加するように心掛けてる。
高齢者サポートセンター 相談者の生活支援に関するサポート
自治会からの連絡で1人暮らしで今後の生活に不安をかかえている方の情報をもらい訪問して話を伺った後、高齢者サポートセンターへつないだ。
高齢者サポートセンター：ガン治療中の高齢者宅を訪問し、介護保険の申請と介護用品の申請、手すりを付けた。 若宮八幡サロン：若宮4町会主催の高齢者との懇談を目的とした集まりの順備、話し相手として参加している。
・高齢者サポートセンターに本人に状況を連絡し、見守りや支援についてお願いし、その後の経過などを連絡しあったりしている。
高齢者サポートセンター、防災について担当者を招き、班長さんに聞いて頂き困っている方がいたら、案内して頂く様に協力をお願いしている。
自治会 盆踊りの順備、本番、後片付けの手伝いをしている。 社会福祉協議会 公民館の文化祭、喫茶の手伝いをしている。
市川市高齢者サポートセンター南行徳第二の、地域の方・認知症の方・ご家族・専門職の方のおしゃべり会「ひまわりカフェ」への参加、手伝い。及び、高齢者が「元気になる為」の講演依頼。
地域の老人会、自治会、福祉公社、福祉事務所、地区サポートセンター
・高齢者サポートセンターの人と一緒に施設より家で生活したいと希望される高齢者を訪問、友愛訪問の手配、あんしん電話の手配をする。 ・小学校の主催するフェスティバルに参加し、子供達と一緒に手作りおもちゃの製作。
高齢者サポートセンターにれんらくをして良いアドバイスを聞き、本人にしらせています。
空屋になっている庭の大木の枝が放題でどこに相談に行ったら良いか解らなかったの、八幡の心配事相談所に行きました。弁護士さんは民生委員さん切ってあげたらと言われました。近所からの苦情が多かったのでしょう。自治会で処理したそうです。
町会役員として、町内の連絡活動、相談、消防訓練などに参加している。
・独居のお年寄りが、姿を見せなくなり、引っ越したのか、病気になったのか・・・市役所に聞き、所在（安否）わかり安心した。 ・夜中徘徊する女性、高齢者サポートセンターと連携しショートステイ等介護面の見直しを計った。
最終個々のつながりと考えている。自分の位置（自治会、子ども会etc.）を中心に連携を図っている
自治会との連絡をとっている。
自治会で調べてもらったりした事があります。
☆安心電話を契約した方が亡くなり、同居の親せきの人がそのまま使っていたので高齢者サポートセンターに連絡した。→名義変更をした。 ☆担当していた方がずっと留守でTELにも出ない為、サポートセンターに問い合わせをした→脑梗塞で倒れ、安心電話で緊急連絡後病院に搬送された。

・自治会長および役員から毎月の会議にて近隣の様子報告受。 ・高齢者サポートセンターによる担当地区の活動を定期的、様子把握。
高齢者サポートセンターでデイサービスなどの手続き 社会福祉協議会主催のサロンの手伝。
・自治会の行事に参加し地域の方々とふれあい情報をえる ・サロン等に参加し活動を広げる
◎地域支えあい課、高齢者支援課：支援情報関連 ◎自治会・老人会：地域高齢者等の情報授受
自治会より連絡有り高齢者と昼食をとり、カラオケをした。
①学校支援という活動で、小学校に伺い、グループに分かれ、いじめをテーマにした、内容で生徒の意見やどうしたらよいかとの考えを聞き、それらをまとめ発表する（1グループ6人、地域の人、1人）、1人つき4学校を担当。 ②自治会では、1年に1回、新しい町内の班長と顔合わせ。
現在自治会長、保護司会に属しており、その現場での意見等を参考にして活動している。
自治（町）会：色々な行事のお手伝い 学校：運動会などの応援など。
自治会防災訓練など高齢者いっしょに
平田小学校：学習支援
本人→民生委員→高サポ

(8) 今後、連携を深めていきたい団体

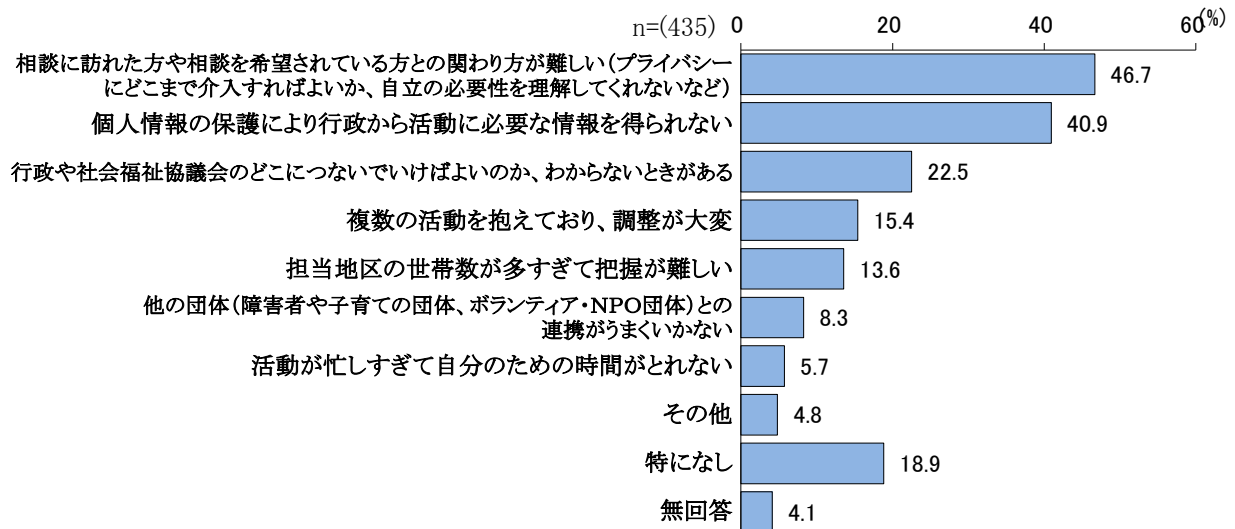
(14) あなたは、地域福祉活動をさらに発展させるため、今後、特にどのような団体と連携を深めていきたいですか。(マークは3つまで)



今後連携を深めていきたい団体をみると、「自治(町)会」が68.5%で最も多く、次いで「市役所の関係部署や高齢者サポートセンターなどの専門機関」が66.4%、「社会福祉協議会」が57.2%の順で続いている。

(9) 活動をする中で抱えている課題

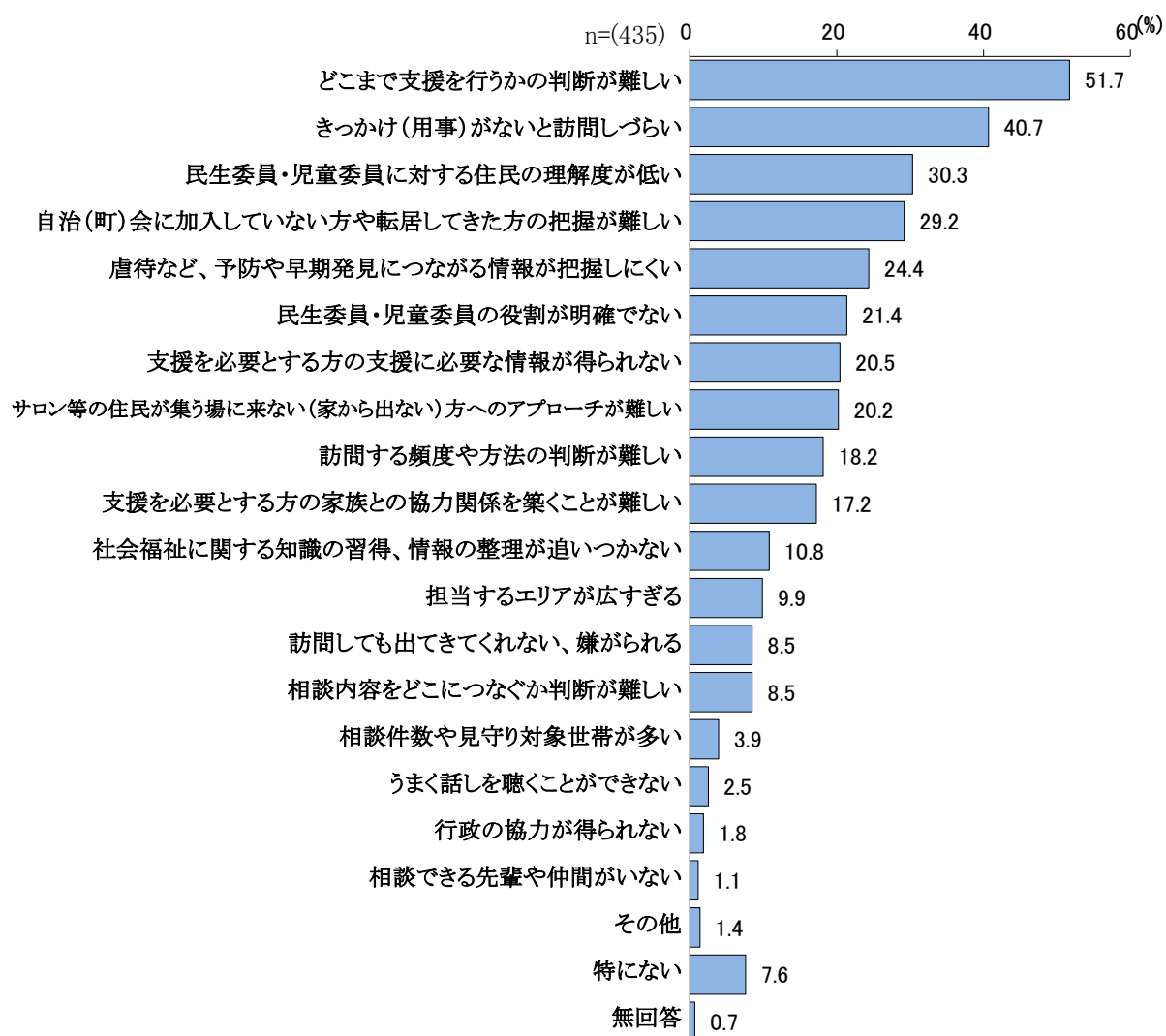
(16) あなたご自身が、民生委員・児童委員活動をする中で抱えている課題は何ですか。
(マークは3つまで)



民生委員・児童委員活動をする中での課題としては、「相談に訪れた方や相談を希望されている方との関わり方が難しい(プライバシーにどこまで介入すればよいか、自立の必要性を理解してくれないなど)」が46.7%で最も多く、次いで「個人情報の保護により行政から活動に必要な情報を得られない」が40.9%、「行政や社会福祉協議会のどこにつないでいけばよいのか、わからないときがある」が22.5%の順で続いている。

(10) 個別相談・支援や見守り（安否確認）活動での悩みや課題

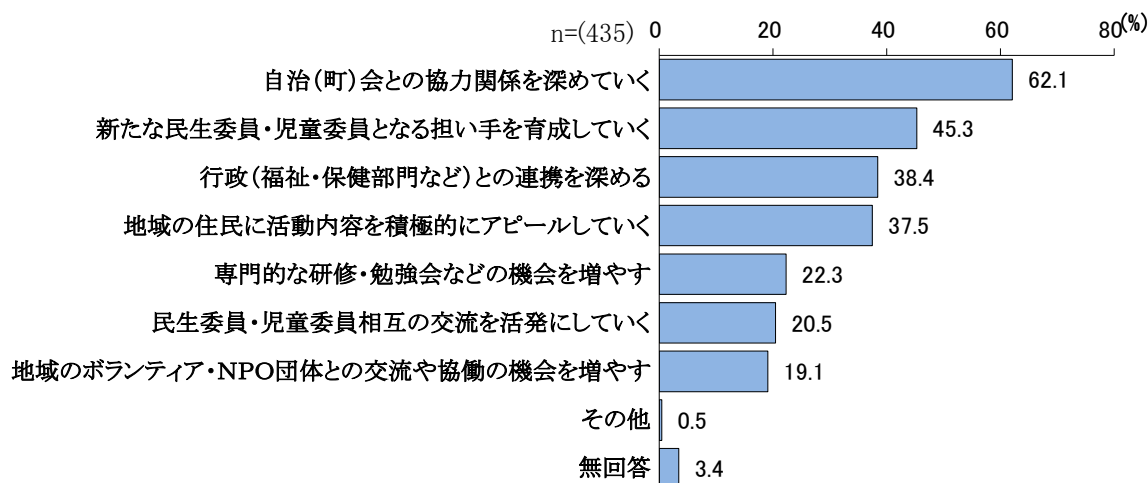
(18) 個別相談・支援や見守り（安否確認）活動において、悩みや課題となっていることは何ですか。（マークは5つまで）



個別相談・支援や見守り（安否確認）活動をする中での課題としては、「どこまで支援を行うのか判断が難しい」が51.7%で最も多く、次いで「きっかけ（用事）がないと訪問しづらい」が40.7%、「民生委員・児童委員に対する住民の理解度が低い」が30.3%の順で続いている。

(11) 今後、活動を活性化していくために、特に必要なこと

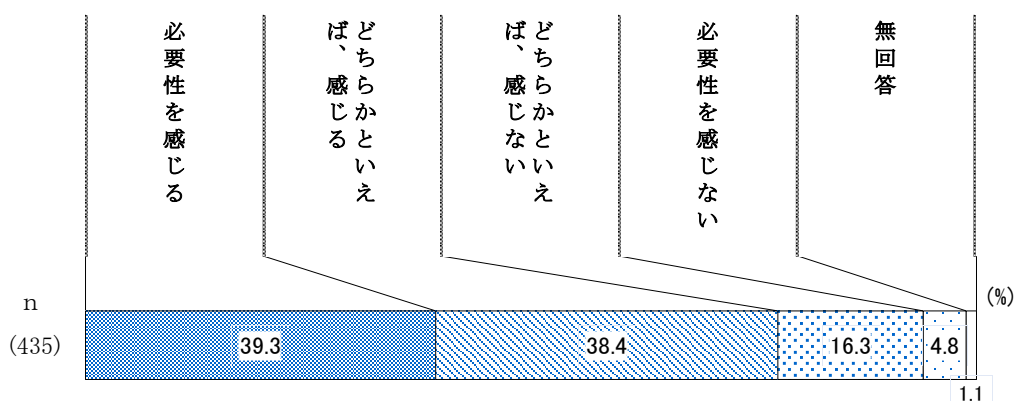
(20) 今後、民生委員・児童委員活動を活性化していくために、特に必要なことは次のうちどれですか。(マークは3つまで)



今後、民生委員・児童委員活動を活性化するために、特に必要なこととしては、「自治(町)会との協力関係を深めていく」が62.1%で最も多く、次いで「新たな民生委員・児童委員となる担い手を育成していく」が45.3%、「行政(福祉・保健部門など)との連携を深める」が38.4%の順で続いている。

(12) 活動を行うにあたり、地域住民の中の協力者の必要性

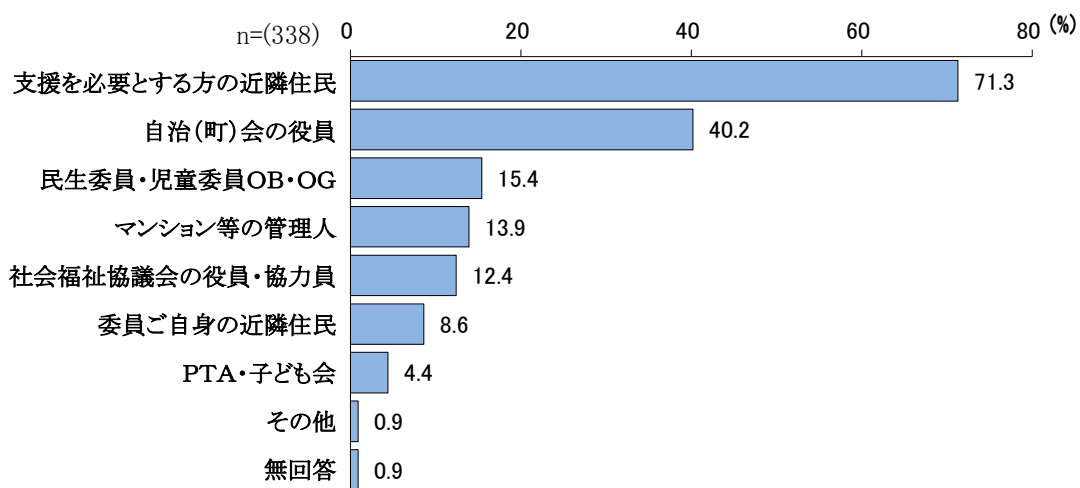
(22) 民生委員・児童委員活動を行うにあたって、地域住民の中で協力者の必要性を感じますか。(1つにマーク)



民生委員・児童委員活動を行なうにあたっての地域住民の中での協力者の必要性については、「必要性を感じる」が39.3%、「どちらかといえば、感じる」が38.4%となっている。

(13) 協力者に適当な方

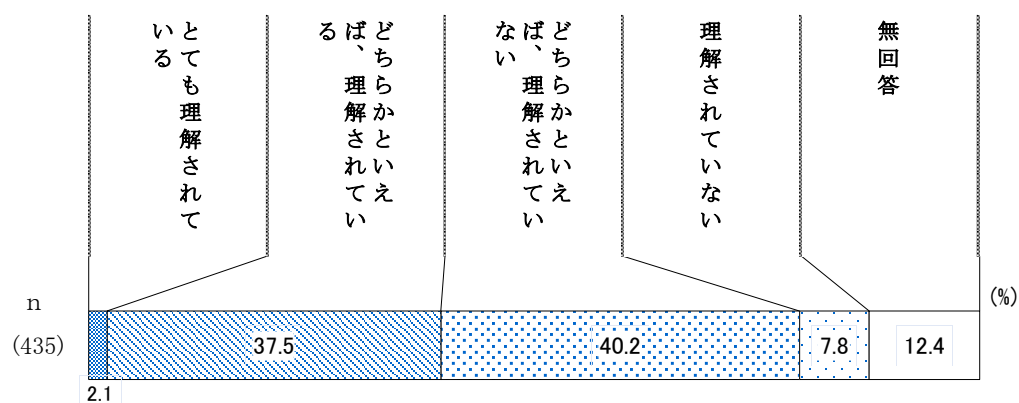
(23) 【問(22)において、「必要性を感じる」または「どちらかといえば、感じる」と答えた方のみご回答下さい。】その協力者に適当なのは、どのような方ですか。(マークは2つまで)



民生委員・児童委員活動を行なうにあたっての地域住民の中での協力者の「必要性を感じる」「どちらかといえば、感じる」という人に、どのような協力が適当か聞いたところ、「支援を必要とする方の近隣住民」が71.3%で最も多く、次いで「自治(町)会の役員」が40.2%となっている。

(14) 地域での理解

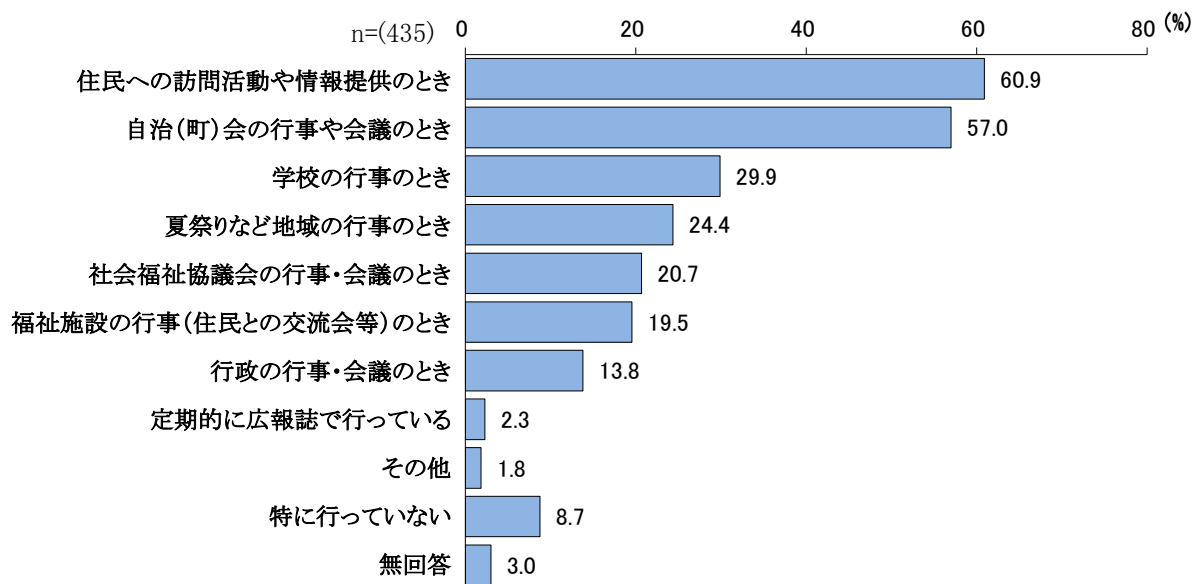
(25) 民生委員・児童委員 (又は民生委員・児童委員活動) は、地域の方にどの程度、理解されていると思いますか。(1つにマーク)



民生委員・児童委員 (又は民生委員・児童委員活動) に対する地域の方の理解については、「どちらかといえば、理解されている」が37.5%、「どちらかといえば、理解されていない」が40.2%となっている。

(15) 住民や関係機関に対してPRを行っているとき

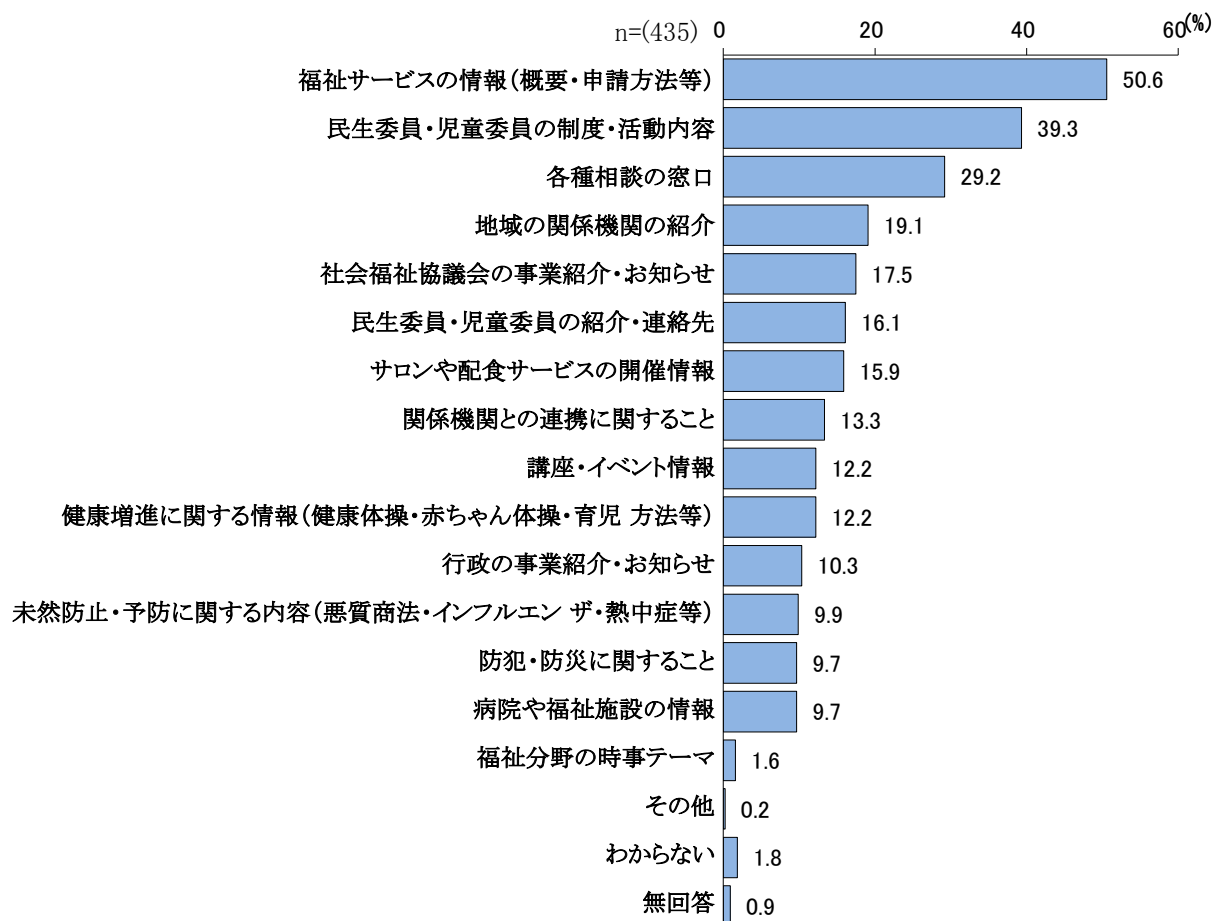
(26) 住民や関係機関に対して、どのような時に民生委員・児童委員活動のPRを行っていますか。(あてはまるものすべてにマーク)



民生委員・児童委員活動のPRの状況については、「住民への訪問活動や情報提供のとき」が60.9%で最も多く、次いで「自治(町)会の行事や会議のとき」が57.0%、「学校行事のとき」が29.9%の順で続いている。

(16) 住民への情報提供

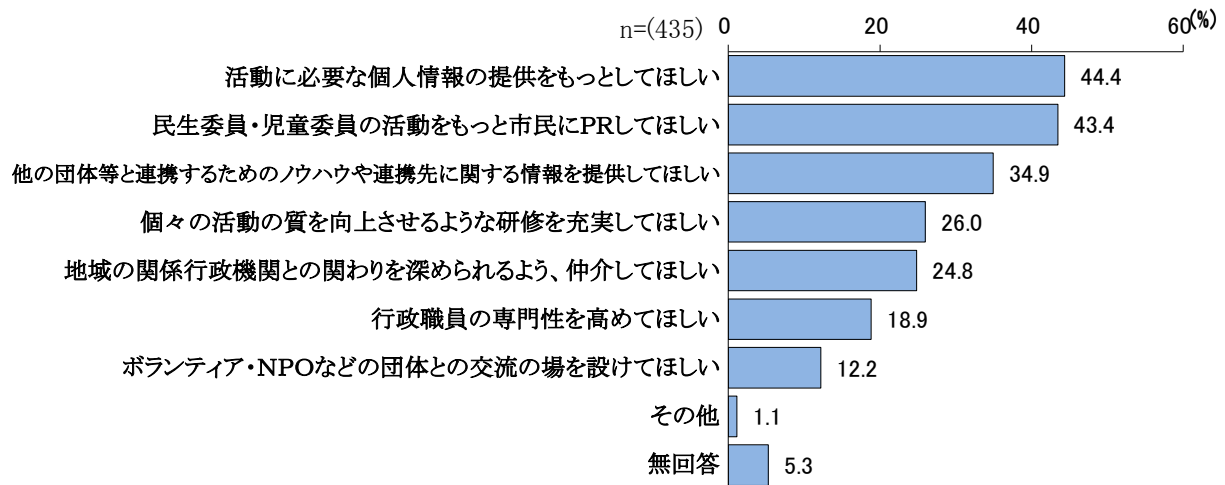
(28) 民生委員・児童委員活動において、住民の方に、今後どのような情報を提供していくべきだと思いますか。(マークは3つまで)



民生委員・児童委員活動において、今後住民に提供していくべき情報としては、「福祉サービスの情報(概要・申請方法等)」が50.6%で最も多く、次いで「民生委員・児童委員の制度・活動内容」が39.3%、「各種相談の窓口」が29.2%の順で続いている。

(17) 地域で活動を進めるうえでの行政に対する要望・期待

(30) あなたが地域で活動を進めるうえで、行政に対して特に要望や期待することは何ですか。(マークは3つまで)

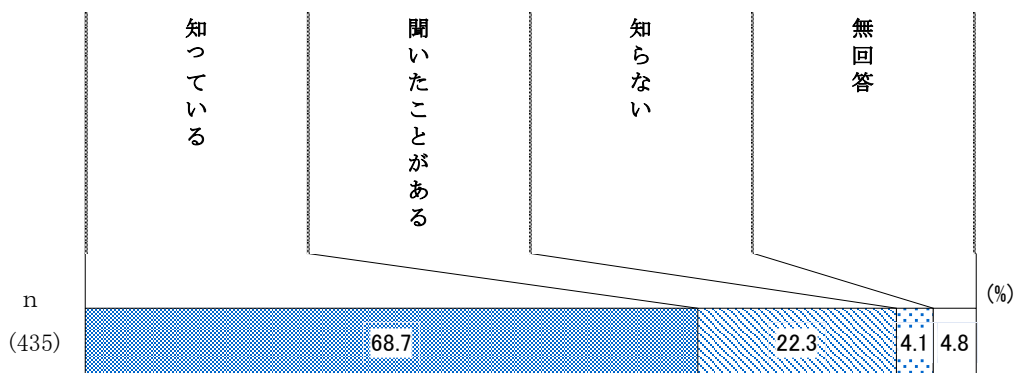


地域での福祉活動を進めるうえでの行政に対する要望・期待としては、「活動に必要な個人情報の提供をもっとしてほしい」が44.4%で最も多く、次いで「民生委員・児童委員の活動をもっと市民にPRしてほしい」が43.4%、「他の団体等と連携するためのノウハウや連携先に関する情報を提供してほしい」が34.9%の順で続いている。

3. 支え合いの地域づくり（地域ケアシステム）

（1）地域ケアシステムの認知度

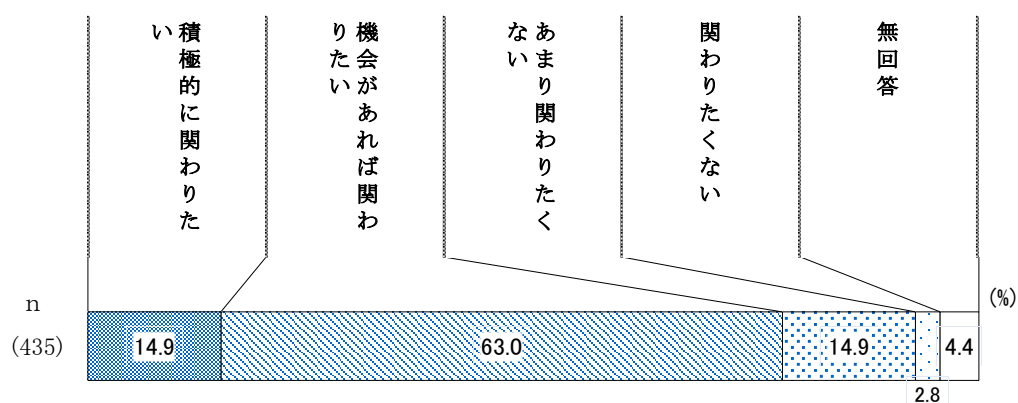
（32）市川市では、安心して暮らし続けられる地域社会をつくるために、支え合いの地域づくり（地域ケアシステム）の取り組みを進めています。あなたは、そのことをご存知ですか。（1つにマーク）



支え合いの地域づくり（地域ケアシステム）を「知っている」は68.7%で、これに「聞いたことがある」(22.3%)を合わせた《認知度》は91.0%となっている。一方、「知らない」は4.1%である。

（2）地域ケアシステムの活動への関与意向

（33）あなたは、今後支え合いの地域づくり（地域ケアシステム）の活動に関わりたいと思いますか。（1つにマーク）



支え合いの地域づくり（地域ケアシステム）について、「積極的に関わりたい」が14.9%で、これに「機会があれば関わりたい」(63.0%)を合わせた《関わりたい》は77.9%を占めている。一方、「あまり関わりたくない」は14.9%、「関わりたくない」は2.8%となっている。

(3) 地域ケアシステムの活動への関与意向の理由

(34) 問(33)で、そう思われる理由は何ですか

どのような活動があつて、どのような事ができるのか知りたい。

サロンの交流は大切なので

お手伝いの人数が多い方が良いと思い出来る時お手伝いしようと思います。

近隣の助け合こそ肝要だと思います。

内容が、よく分からないから。

私個人の仕事が忙しい。

ひとり暮らしの方が多い為

今、それに関わる時間的な余裕はないから

若い方にもっと関わってほしいから

昔と違ってご近所との交流が少なくなっている為。

程々の近さで、接するのがベストだと思うため

多忙なため、現在お手伝いできない状態。

地域の方に大切な役割を担う場所だと考えるから。

実際に関わっているし必要性を感じるから

すでに関わっているから。

時間をとるのがむづかしいが、安心できる地域にしたい。

始めから活動をしており、続けて行きたい

体験してみないと解らない

地域を、良り良くする為

明るい社会作りに貢献出来れば良いと思う。

ケアシステム専門の委員にまかせている

ケアシステムに関わることで、より活性化が図れると思うから

地域での支え合いが大事だと思うから。

独居の高齢者が多くなる一方で、核家族化が進行し、横のつながりが薄くなっております。近年の異常気象による災害が予想を超えており、地域での助け合い、支え合いが大切になっております。その助け合いのバックアップには地域の行政の支援が不可欠故。

必要に応じて

広く知って、活動を行いたい。

私自身高齢ですが少しでもお役に立てれば続けていければと思います。
時間的余裕がない。相談にのれるまでの知識が不足していると思っている。
今でも忙がしいのにこれ以上忙しくなるのは無理
高齢化が進むなかで自分が健康であれば出来る事を出来るだけ関わっていたい
年齢
自治会内における高齢者の親睦、懇親会等の充実をはかる。
住民福祉に多角的面からの取り組みができる
出来る
行政がやるべきこと。活動状況がかかわっている人以外、全くわからない。情報公開がないので、存在の意味を共有することもできていないと思う。
地域ケアは地域活動の拠点となっているから
但し、年齢的制限も必要だと思う。
システム自体不十分→おざなり、お役所仕事のレベル
ネットワークを広げることが出来る。
コミュニケーションが取れる
関わりたいと思いますが年令で活動が出来ないのでは。
地域で役に立てる事は、自分らしく頑張りたいから
困った人を助けたい。
民生委員に専門知識はるいので仲介役に徹するべき
高齢化社会につれ認知症問題が多くなる大変必要
個人的な問題も多く非常にむずかしいと思う
地域、町会、各団体などとのつながりがもてる。
他に急がしいから、時間が取れない。
自分に出来ることがあれば、したい。
家の中にいる高齢者を楽しい外へと出してやりたい。
70歳を超え体力的にきつい、迷惑をかけたくない。
元気な内は地域の方々の支援をお手伝いしたい。
・設置の目的と現状とがかけ離れ、必要性が感じられない。
相談員の質の向上を計ってもらいたい。手仕事サロンが相談員のやることではない。

地域住民との交流
高齢になってくると人様にお世話になる事が増えてくると思うので、出来れば関わっておきたい。
地域の人と接して直接関わる事がないので知識としてないから
現在福祉委員として活動し、相談員としても活動している
時間に余裕が無い。
現在関わっていますのでより活発にサロン等を発展させたく思います。
現センターの活動に協力するほど自分に時間がない。
いちボランティアとして子育てサロンには関わりたい（時間があれば）
諸々の相談事業等をスムーズに進める事が出来、又未然防止につながる由。
現在の役割を全うするのみ。
現在 相談員として関わっている
必要性に応じて、機会は訪れるものと信じる。
児童担当者だけでもめいっばいのため
現在関わっている
時間の許す範囲内で活動したいので
他に仕事があり、時間がとれない。
活動に参加するに当たり、民生委員としての立ち位置がわからないし、意見の相違があった時、自信がない。
大変申し訳ありませんが人間関係が大変だと思いますので専門分野にまかせた方が良いでしょう。
地域住民を少しでも支え合いが出来たらいいなと思います。
大切な役割なので！
今は民生委員活動の傍ら、定職に就いているので時間がとれないが条件が整えばやってみたい。
色々な出来る応援をし、情報の収集をしたいと思います。
他の活動もしているので時間が会えば関わりたいと思いました。
元気なうちには何かしらお手伝いをしたいと思います。
本当にこまっている人の役に立ちたい
曽谷公民館は遠い。近い場所で定期開設する場所がほしい（サロン等）
自分自身の体力のなさ、時間の余裕がない。
様子がわかる。

80代に近づきつつあるので、参加できるものに限って又、協力できる時に。(フリー)
これからの社会必要不可欠だから
自分の事があまり公に知られたくない。
ケアの人の都合にあわせるのが大変です
今、社会福祉活動でボランティアに参加している。
身近かな地域活動を体験し、その情報を民生委員活動に活かしたい。
精神的負担がおおきい
健康面で不安があり、これ以上仕事を増やしたくない。
勉強になる
現在かかわっている
必要だから
現在の福祉委員である為。
民生委員として関わった方が良いと思うから。
多忙である。
すでに、相談員を10年経験しました。本来関わるべき児童委員活動が、おろそかになる為、現在は福祉委員として残ってます。
活動を行う上で必要性を感じます。
民生委員の立場で関わる機会が必要になると思う
他の地域活動もしており、これ以上仕事を増やしたくない。
支援を必要としている人の情報が入る。
いそがしい。
すでに地域ケア相談だが、現在義母の介護もあるが、「出来る時に出来る事を」の精神で何とか、皆さんに支えて頂きながら活動が可能だから。
これからは独りぐらしの高齢者ばかりになるため
まず民生委員ではなく地域の皆様の関わりをお願いしたい
①自信がない ②自分の時間がなくなり仕事になってしまうのでは？
自分もお世話になる時が来ると思うから
具体的にどのようにというのがわからない。
健康でいられる以上は、何らかの形で協力する事が良いと思う。
ケアシステムの利用される方のおもな内容及び自分の地域方の利用内容等

直接事項は少ない。

実情を把握する必要があるから

参加できない人に対する、ケア（参加数だけの実績評価）

以前関わった事もありますが、PR不足で来る人が少ない。

月に一度てるぼサロンに参加してお世話になっています。

・民生委員としての仕事で、精一杯だから

地域の活性化を図ることが大切で住民相互の協力性を高めたいので。

今まで関わりがなかったから。

実際地域ケアシステムに関わっているから

地域に住む方々と顔見知りになる。

共助があつてこそ、住み良い町となりうるから

現在は他にやる事が多いので。

地域の情報が得やすくなるため

できる事があれば協力したいから。

まだすこし忙しいため数少ない参加でしたのでこれからは時間があつたなら参加したいです。

今、関わっている事を、しっかりとやりたい

高齢者だけでなく、各人が日々どのような事を希望されて暮らしているのかを把握したい為

あまり効果的でない。

民生、児童委員の活動するうえで、関連する事もあり、地域の様子を知ることができる。

今の時点では時間がないので

ケアシステムの活動を仕事がダブる。

自分自身の為に。

現在、関わっています。

現在関わっている

行政側が地域に委ねる方針だから

プロとしての方たちの話をきえるから

どこまで関わっていいのか先が見えない

現在すでに関わっている。

扶け合うことは当然の義務と思う

時間的に余裕がない。

特別それで良くなると思わないから。

活動が活発になるほど（行事等が増えるほど）、仕事の量が多くなり、体力面でも、時間的にも負担が増える。

活動に役立つから

民生児童委員：又、仕事上、地域増進のため

地域ケアの会議が一度しか行われてない。民生委員の中でも知らない人もいる。

近所に住んでいても、話し合いということが少ない

民生委員の仕事につながるから

今は時間的な余裕がない。

時間的余裕があまりない。親の介護が有る為

勉強になり応援できる

自分の今で目いっぱいです。

活動を続ける時間がとれない

時間的に無理かと

高齢者社会になり近隣とのつき合いがなくなり若い人のつながりがなくなっているからです。

地域の一助に成れるのであれば体に無理の掛らぬ程度のことはしたい。

高齢なので

民生委員をしているから

今は仕事もしているので、時間がとれない

高齢化社会に向かって地域あるいは近隣との関わり、おつき合いは大切であると思うから

社会に貢献

残りの人生楽しく笑って過ごしたいですね。

自分1人の活動には限界があるから

時間的に余裕がない

担当者がやればよいと思う

コミュニケーションアップの為

日常の活動が更に充実する

社会で生活していく上で地域づくりは欠かせないから。

家に高齢者がいるのでなかなか参加できない

民生・児童委員である為。

現在も関わっているが、自分が学ぶことができるので

自分ができるのか自信がない

サロン等に参加され非常に喜ばれる

活動内容を詳しく知りたい。(地域の人達に説明出来る様に)

いつまでも元気に笑顔で住みなれた地域で暮らしていける為に

地域の人々が安心して暮らせるようになる為に必要だと思います。

自治会でサロンを開催しております。役員の一員として関わっております。

個人情報の板バサミが大変

地域でできることは、地域で行うことが良いと思う。

時間がない。

活動するにあたり有利かと思い。しかし、全てをかける訳には、いかない。時間を、他にも使うので。

ケアシステムの内容を深く理解したい

非自治会員、他から流入住民が多く、コミュニケーションが取れない。

ケアシステムの内容をもっと知りたい。

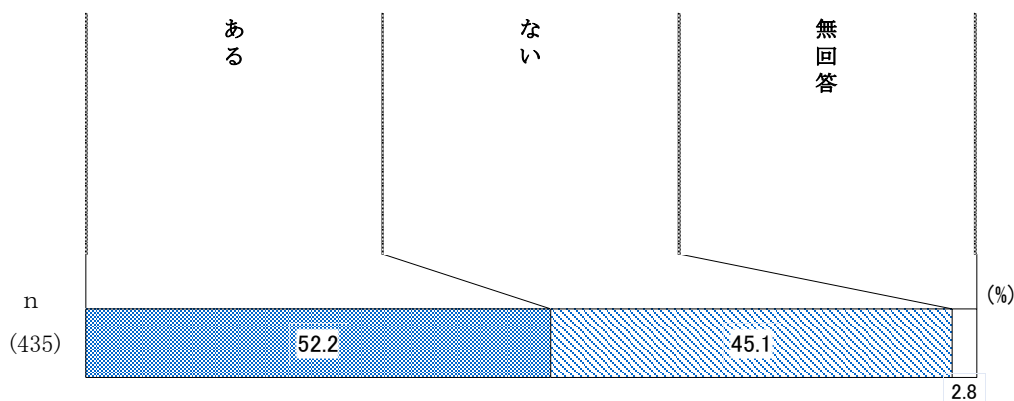
時間が取れない。

現状では時間がない。中途半端なかかわりは無責任

私は主任児童委員なので、具体的に関わったことが無いので、活動が良くわからないので。

(4) 地域ケアシステムの会議への参加有無

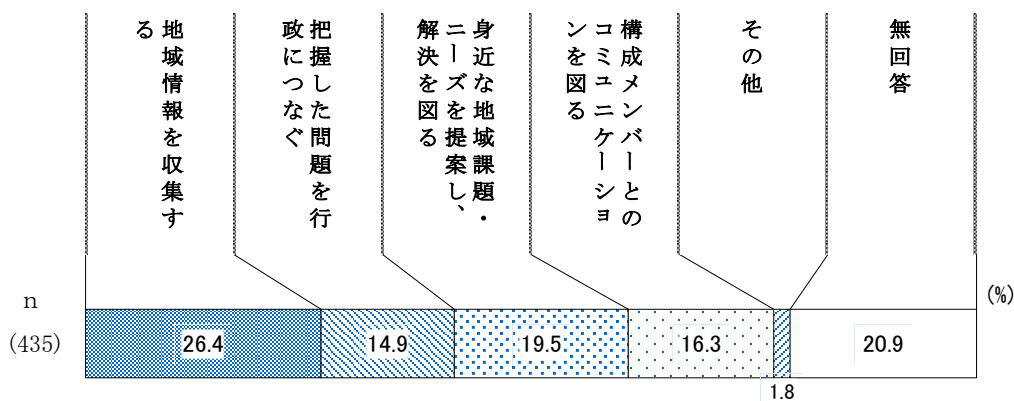
(35) あなたは、支え合いの地域づくり（地域ケアシステム）の会議に参加したことがありますか。（1つにマーク）



支え合いの地域づくり（地域ケアシステム）の会議に参加したことが「ある」は52.2%、「ない」は45.1%となっている。

(5) 地域ケアシステムの会議に参加して、今後充実させた方がよいと思う自身の活動

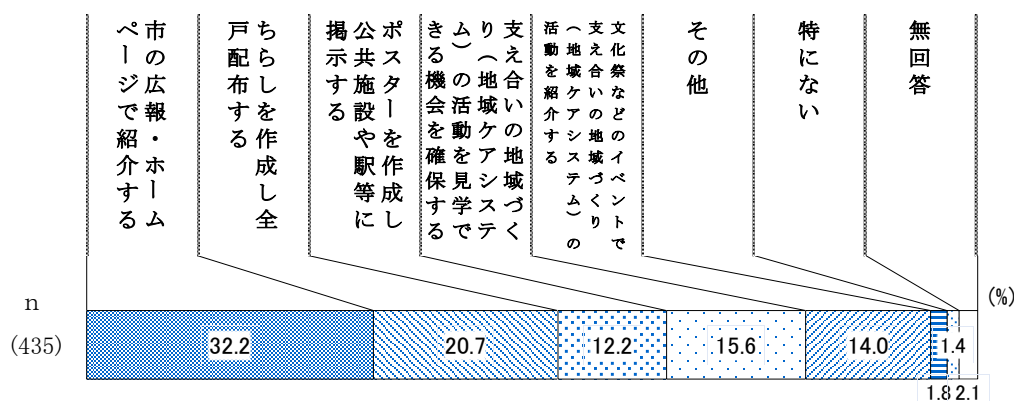
(36) 支え合いの地域づくり（地域ケアシステム）の会議に参加して、あなたが今後充実していった方がよいと思うご自身の活動は何ですか。（1つにマーク）



支え合いの地域づくり（地域ケアシステム）に参加して今後充実していった方がよいと思うこととしては、「地域情報を収集する」が26.4%で最も多く、次いで「身近な地域課題・ニーズを提案し、解決を図る」が19.5%、「構成メンバーとのコミュニケーションを図る」が16.3%の順で続いている。

(6) 地域ケアシステムの周知に必要な取り組み

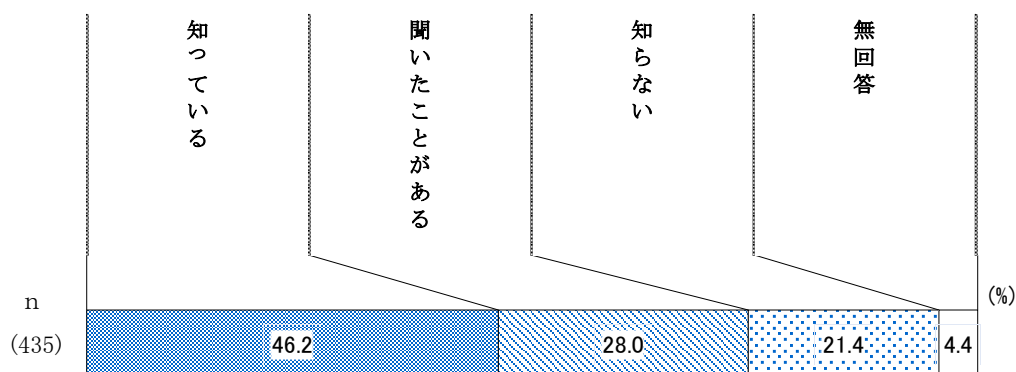
(38) 市川市では、支え合いの地域づくり（地域ケアシステム）について市民のみなさんに知ってもらいたいと考えています。あなたは、支え合いの地域づくり（地域ケアシステム）を市民のみなさんに知ってもらうにはどのような取り組みが必要だと思いますか。（1つにマーク）



支え合いの地域づくり（地域ケアシステム）の周知に必要な取り組みとしては、「市の広報・ホームページで紹介する」が32.2%で最も多く、次いで「ちらしを作成し全戸配布する」が20.7%、「支え合いの地域づくり（地域ケアシステム）の活動を見学できる機会を確保する」が15.6%の順で続いている。

(7) コミュニティワーカー配置の認知状況

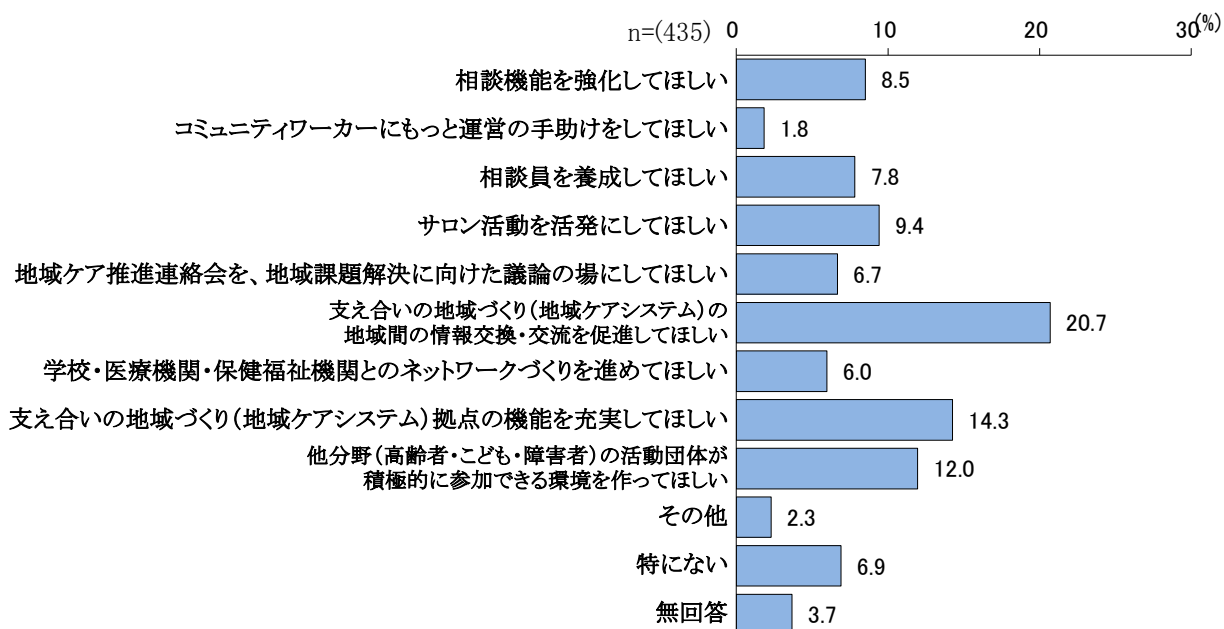
(40) 市川市では、平成17年度から地域の福祉活動をお手伝いするために、コミュニティワーカーを配置しています。あなたは、コミュニティワーカーが配置されていることをご存知ですか。（1つにマーク）



コミュニティワーカーの配置については、「知っている」が46.2%で、これに「聞いたことがある」（28.0%）を合わせた《認知度》は74.2%となっている。一方、「知らない」は21.4%となっている。

(8) 地域ケアシステムでやってもらいたいこと

(41) あなたは、支え合いの地域づくり（地域ケアシステム）でやってもらいたいことはどのようなことですか。（1つにマーク）

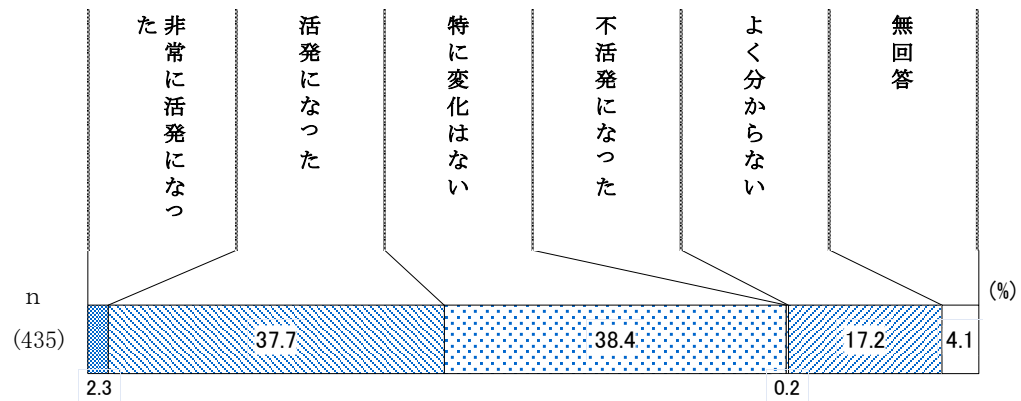


支え合いの地域づくり（地域ケアシステム）でやってもらいたいこととしては、「支え合いの地域づくり（地域ケアシステム）の地域間の情報交換・交流を促進してほしい」が20.7%で最も多く、次いで「支え合いの地域づくり（地域ケアシステム）の拠点の機能を充実してほしい」が14.3%、「他分野（高齢者・子ども・障害者）の活動団体が積極的に参加できる環境を作してほしい」が12.0%の順で続いている。

4. 地域福祉全体

(1) 以前と比べた自身の活動区域における地域福祉の変化

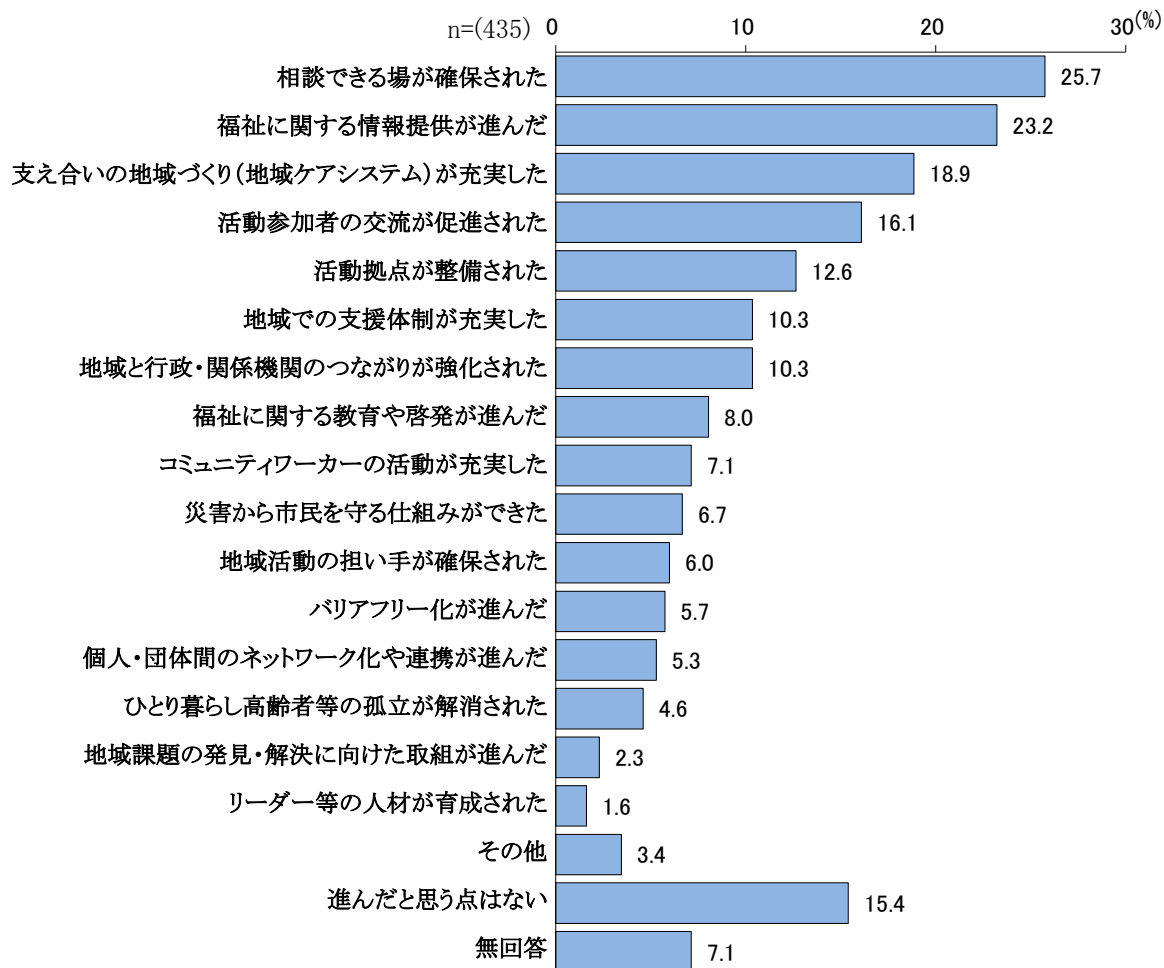
(43) 以前（約5年前）と比べて、ご自身の活動区域における地域福祉はどのように変化したと感じますか。（1つにマーク）



以前（約5年前）と比べた活動区域における地域福祉の変化については、「非常に活発になった」が2.3%で、これに「活発になった」（37.7%）を合わせた《活発になった》は40.0%となっている。また、「特に変化はない」は38.4%を占めている。一方、「不活発になった」は0.2%となっている。

(2) 以前と比べて活動地域において推進された地域福祉

(44) 以前（約5年前）と比べて、日頃活動されている地域において、主にどのような点で地域福祉が推進されたと思いますか。（マークは3つまで）

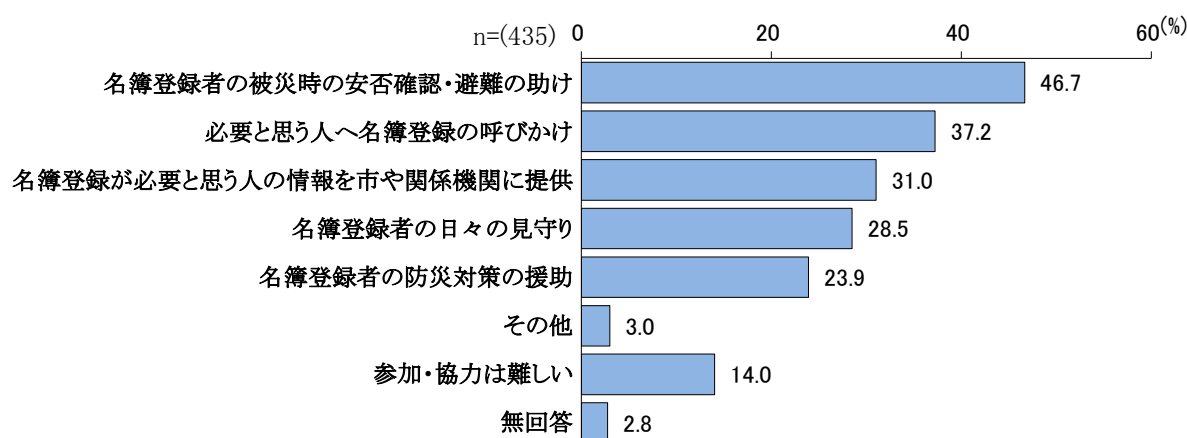


以前（約5年前）と比べて推進された地域福祉活動としては、「相談できる場が確保された」が25.7%で最も多く、次いで「福祉に関する情報提供が進んだ」が23.2%、「支え合いの地域づくり（地域ケアシステム）が充実した」が18.9%の順で続いている。一方、「進んだと思う点はない」は15.4%となっている。

5. 防災の取り組み

(1) 「避難行動要支援者」に関連した活動への参加協力

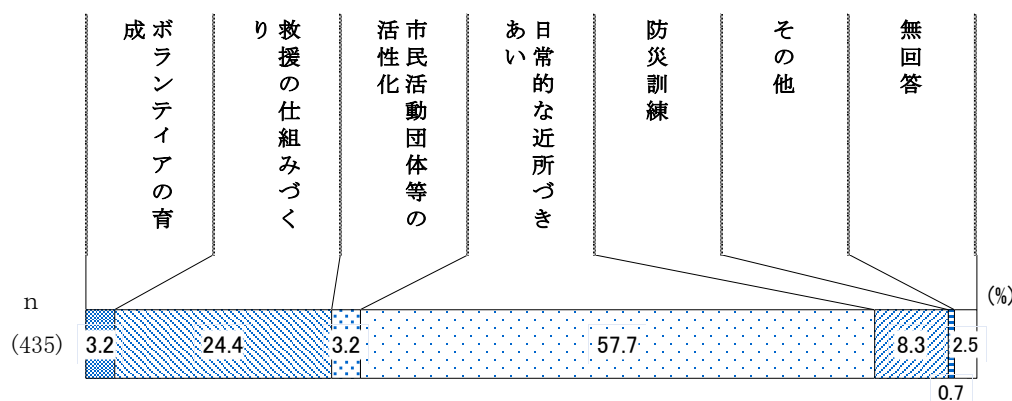
(46) 市川市では、高齢者や障害者などの災害時に自力で安全な場所に避難することが困難ないわゆる「避難行動要支援者」の安全を守るため、地域の協力体制づくりを推進する目的として「避難行動要支援者名簿」を作成しています。あなたは次のような援助活動に参加・協力できますか。(あてはまるものすべてにマーク)



避難行動要支援者名簿作成への参加協力内容をみると、「名簿登録者の被災時の安否確認・避難の助け」が46.7%で最も多く、次いで「必要と思う人へ名簿登録の呼びかけ」が37.2%、「名簿登録が必要と思う人の情報を市や関係機関に提供」が31.0%の順で続いている。

(2) 災害時における助け合いのために必要な日常的取り組み

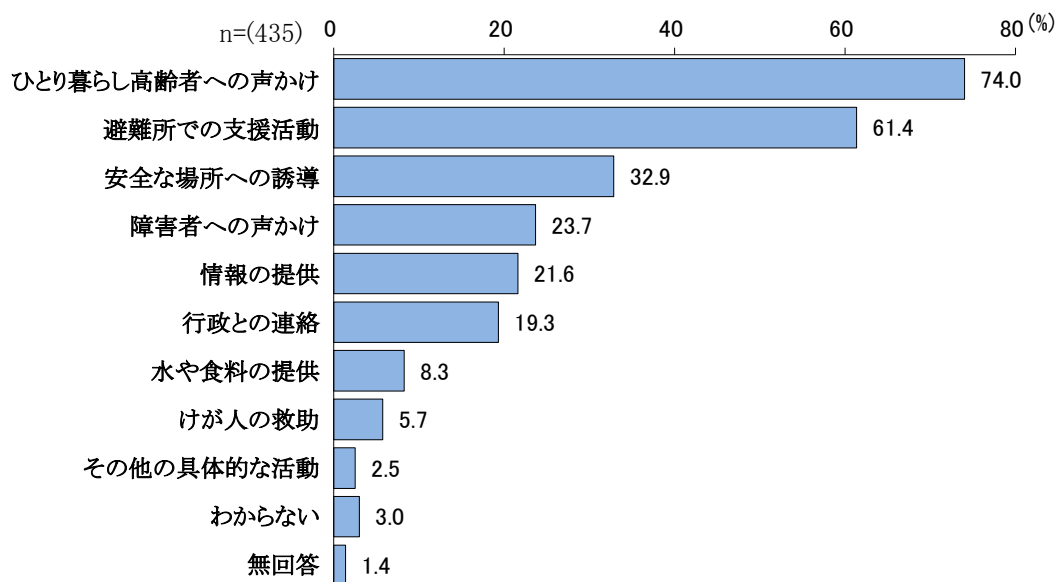
(48) 災害発生直後には公的な援助はすぐに届かない場合が予想されます。災害時において、お互いを助け合うためには、日常的にどのような取り組みが必要だと思いますか。(1つにマーク)



災害時における助け合いのために必要な日常的な取り組みとしては、「日常的な近所づきあい」が57.7%で最も多く、次いで「救援の仕組みづくり」(24.4%)となっている。

(3) 大災害にあった場合の居住地での活動

(50) あなたは、東日本大震災のような大災害にあったとしたら、あなたがお住まいの地域でどのような活動をしたいと思いますか。(マークは3つまで)

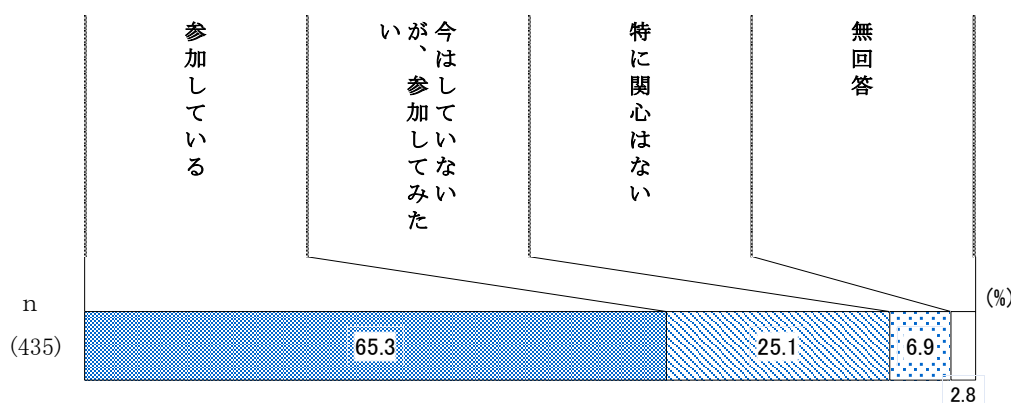


東日本大震災のような大災害があったとき、地域でどのような活動をしたいか聞いたところ、「ひとり暮らし高齢者への声かけ」が74.0%で最も多く、次いで「避難所での支援活動」が61.4%、「安全な場所への誘導」が32.9%の順で続いている。

6. 地域福祉活動活性化に必要なこと

(1) 地域福祉活動活性化のための取り組みへの参加

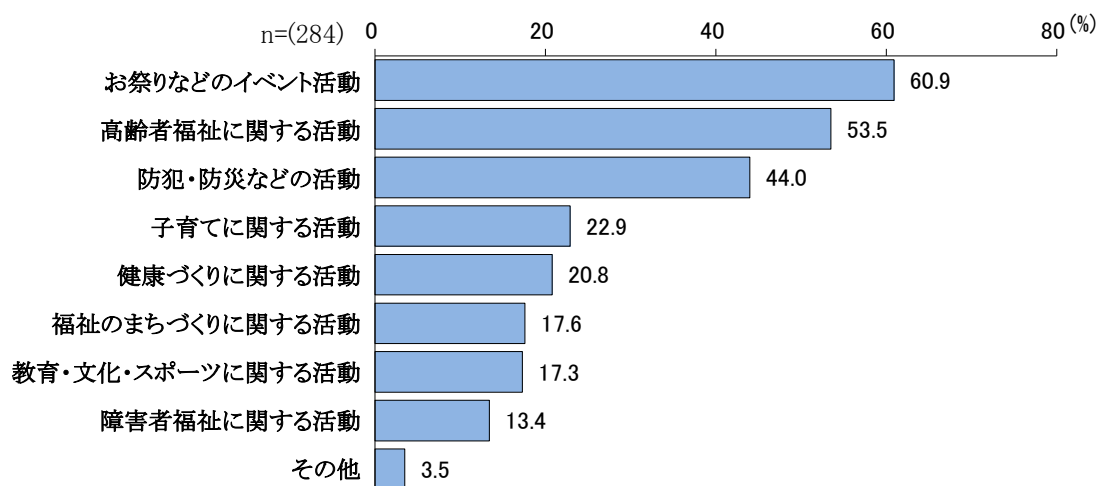
(52) 民生委員・児童委員活動の他に、地域福祉活動活性化のための取り組みに参加していますか。(1つにマーク)



民生委員・児童委員活動の他の地域活動活性化への取り組みについては、「参加している」が65.3%、「今はしていないが、参加してみたい」が25.1%の順で続いている。

(2) 参加している取り組み

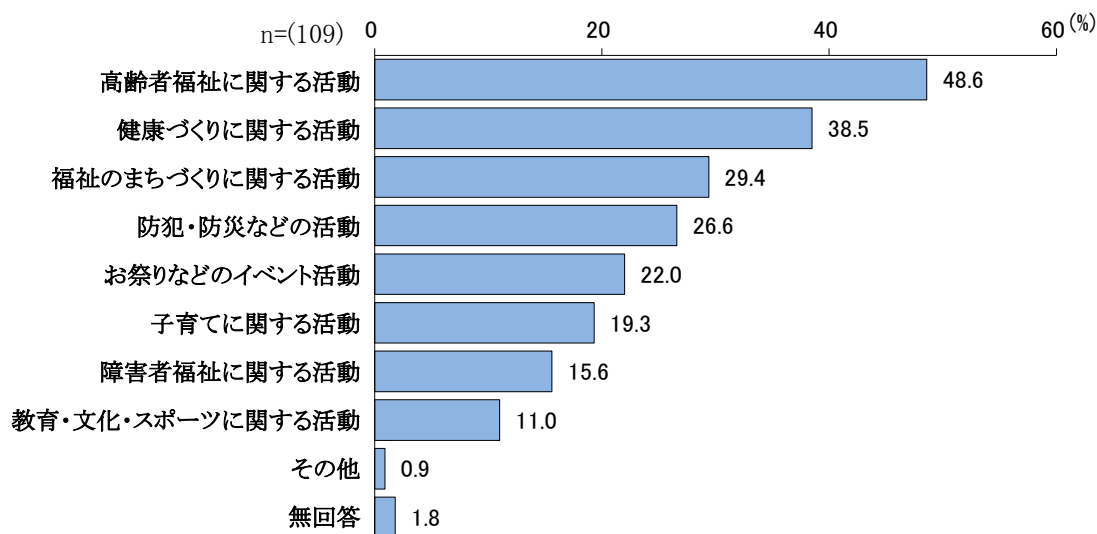
(53) 【問(52)で「参加している」と答えた方のみ】どのような取り組みに参加していますか。(あてはまるものすべてにマーク)



民生委員・児童委員活動の他の地域活動活性化への取り組みに「参加している」人に、その内容を聞いたところ、「お祭りなどのイベント活動」が60.9%で最も多く、次いで「高齢者福祉に関する活動」が53.5%、「防災・防犯などの活動」が44.0%の順で続いている。

(3) 参加してみたい取り組み

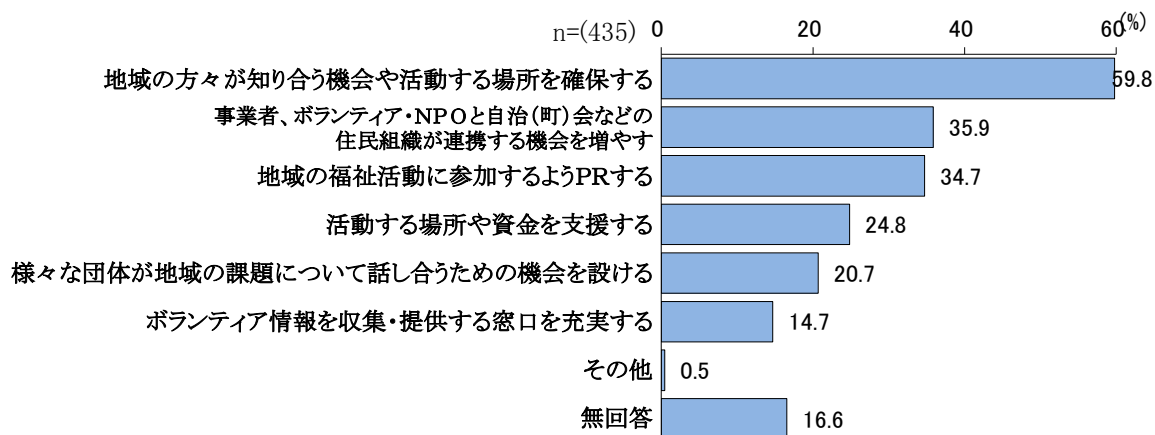
(55) 【問(52)で「今はしていないが、参加してみたい」と答えた方のみ】どのような取り組みに参加してみたいですか。(あてはまるものすべてにマーク)



民生委員・児童委員活動の他の地域活動活性化への取り組みに「今はしていないが、参加してみたい」という人に、どのような取り組みに参加したいか聞いたところ、「高齢者福祉に関する活動」が48.6%で最も多く、次いで「健康づくりに関する活動」が38.5%、「福祉のまちづくりに関する活動」が29.4%の順で続いている。

(4) 行政が地域で支え合う仕組みづくりをするため、特に必要だと思うこと

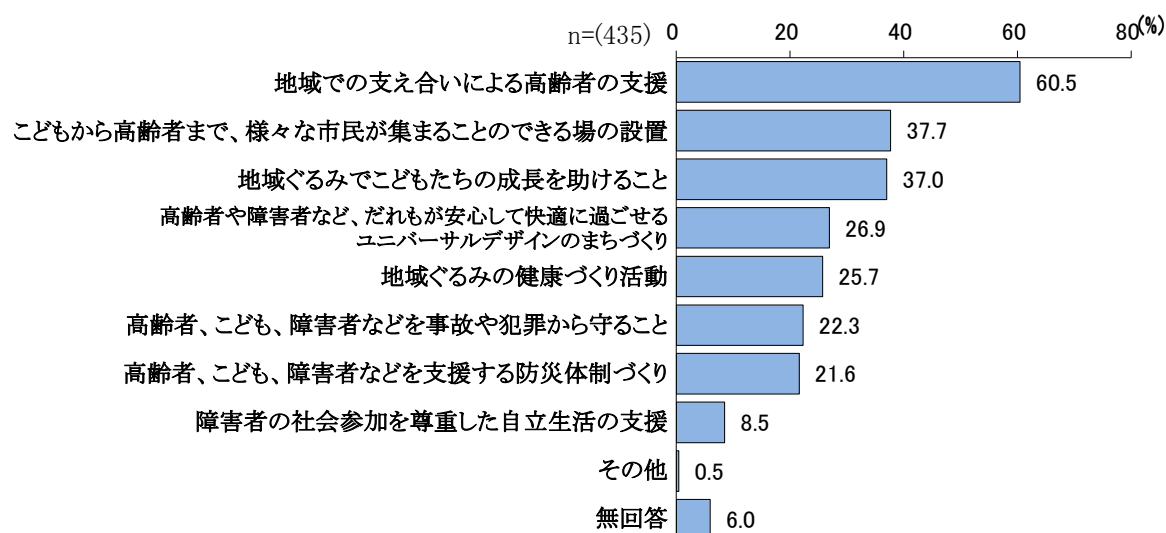
(57) 行政が地域で支え合う仕組みづくりをするために、特に必要だと思うことは何ですか。(マークは3つまで)



行政が地域で支え合う仕組みづくりをするために、特に必要なこととしては、「地域の方々が知り合う機会や活動する場所を確保する」が59.8%で最も多く、次いで「事業者・ボランティア・NPOと自治(町)会などの住民組織が連携する機会を増やす」が35.9%、「地域の福祉活動に参加するようPRする」が34.7%の順で続いている。

(5) 地域の人たちが協力して取り組んでいくことが特に必要な課題

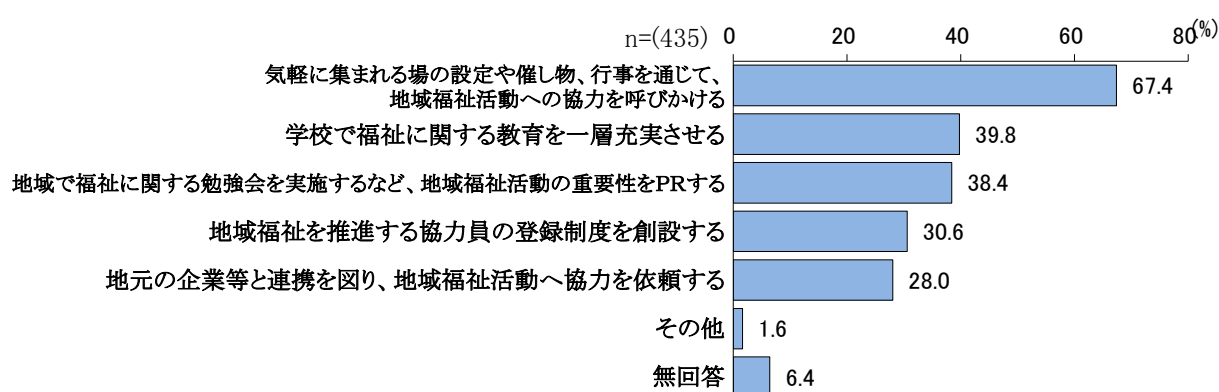
(59) 地域の人たちが協力して取り組んでいくことが特に必要な課題は何ですか。(マークは3つまで)



地域の人たちが協力して取り組んでいくことが特に必要な課題としては、「地域での支え合いによる高齢者の支援」が60.5%で最も多く、次いで「こどもから高齢者まで、様々な市民が集まることのできる場の設置」が37.7%、「地域ぐるみでこどもたちの成長を助ける」が37.0%の順で続いている。

(6) 地域福祉を推進する地域の人材を増やす方法

(61) 地域福祉を推進する地域の人材（担い手）を増やすには、どのようにしたらよいと思いますか。(マークは3つまで)



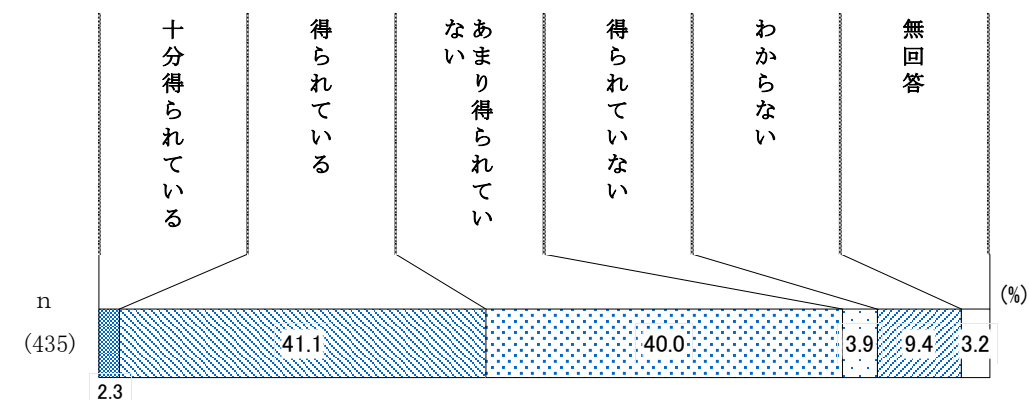
地域福祉を推進する地域の人材（担い手）を増やす方法としては、「気軽に集まれる場の設定や催し物、行事を通じて、地域福祉活動への協力を呼びかける」が67.4%で最も多く、次いで「学校で福祉に関する教育を一層充実させる」が39.8%、「地域で福祉に関する勉強会を実施するなど、地域福祉活動の重要性をPRする」が38.4%の順で続いている。

7. 市の施策

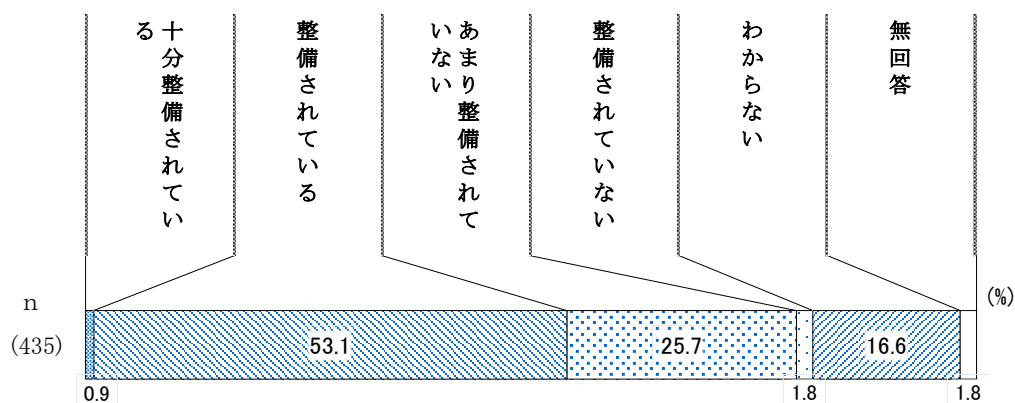
(1) 施策評価

以下の問(63)～問(74)について、皆様のお考えをうかがいます。(それぞれ1つずつにマーク)

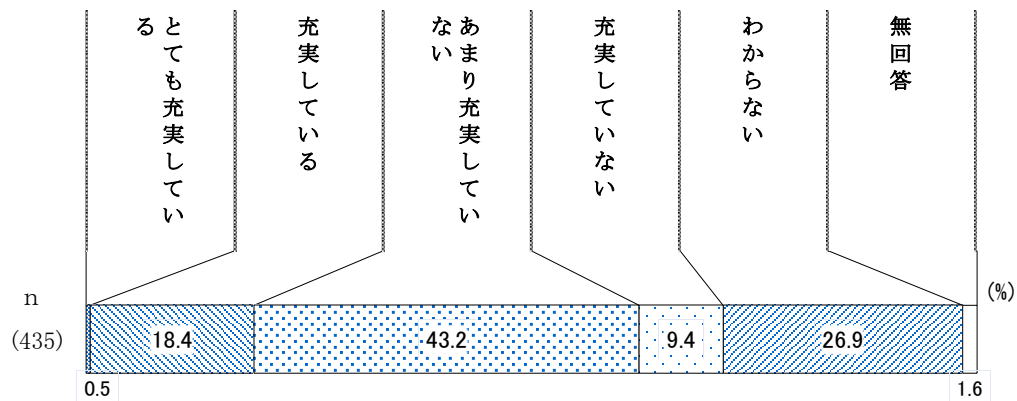
(63) 市の福祉施策に関する情報は、広報紙や市の公式ホームページ等で、情報提供を行なっておりますが、必要な情報を得られていると思いますか。



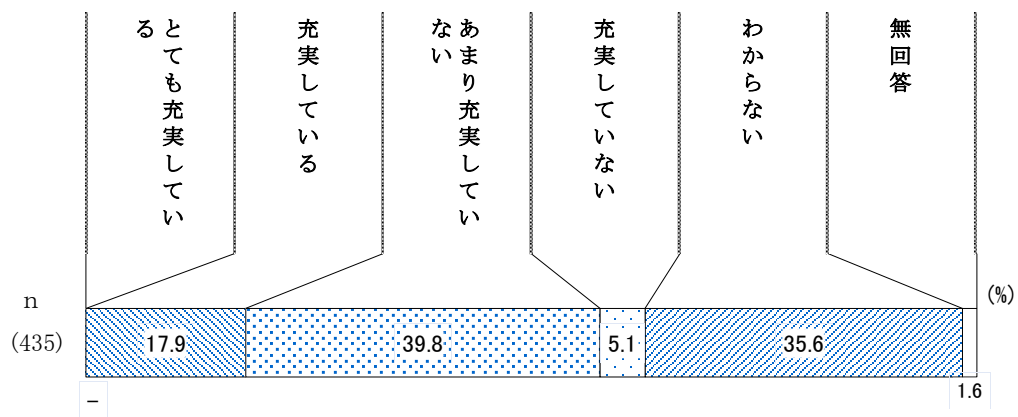
(64) 高齢者、障害者、子育て家庭等の方のための専門的な相談窓口（高齢者サポートセンター[地域包括支援センター]、障害者地域生活支援センター、子ども家庭総合支援センター）を設置しておりますが、安心して生活できるように地域の相談体制は整備されていると思いますか。



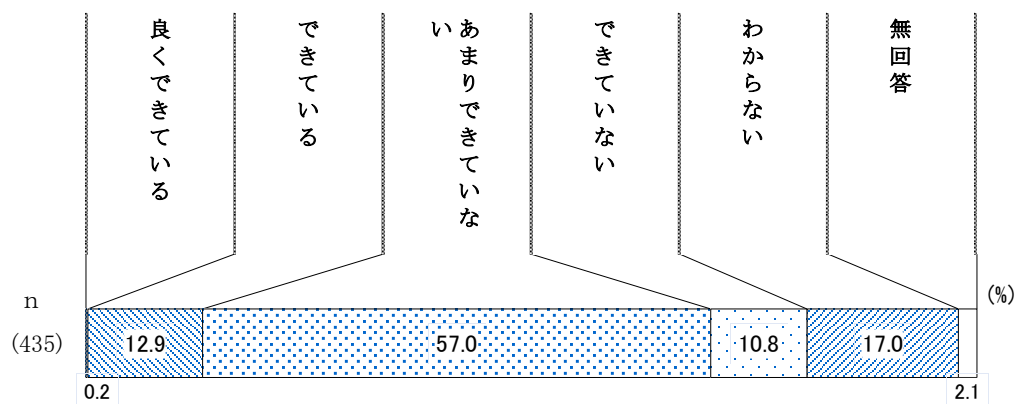
(65) 住み慣れた地域でできる限り暮らし続けられるような在宅医療(医師による訪問診察等)の支援は充実していると思いますか。



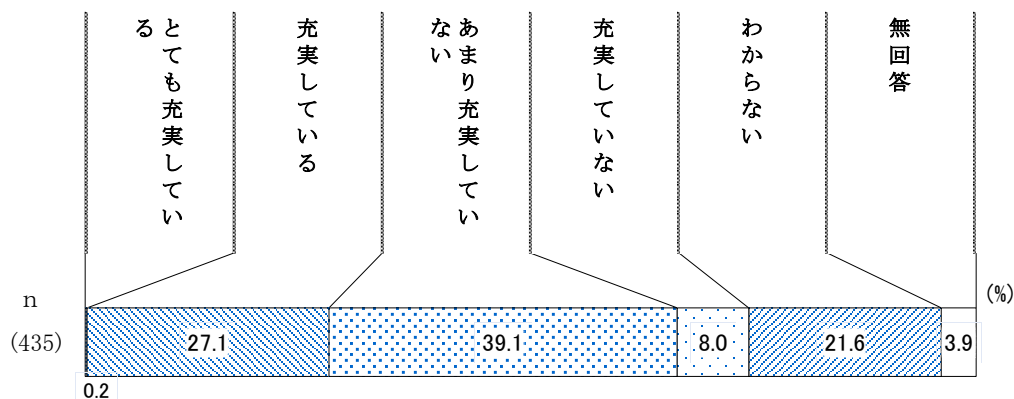
(66) 認知症などにより、日常生活を送る上で十分な判断ができない人や、体の自由が利かない人のため相談窓口や福祉サービスの利用手続きの援助、日常的な金銭管理等の支援は充実していると思いますか。



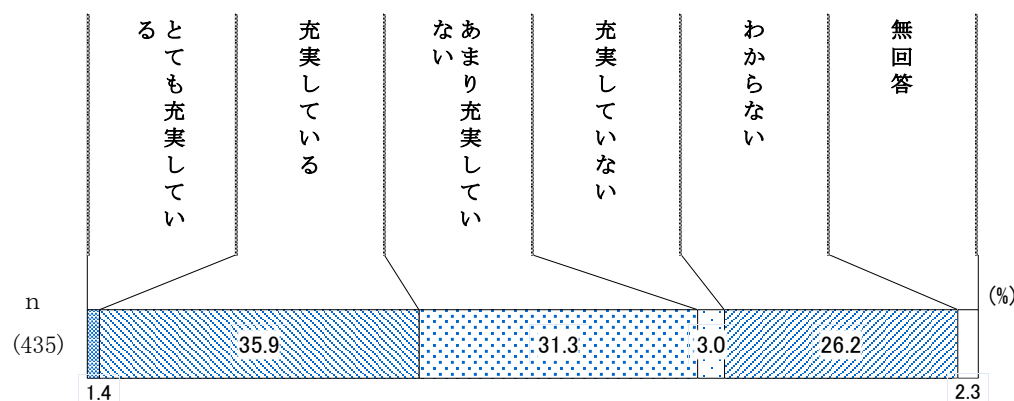
(67) ご自身が住む地域において、引きこもりがちな高齢者、障害者、子育て世帯等を含め、誰もが安心して生活を送れるよう、地域での住民同士の交流や支え合いができていますか。



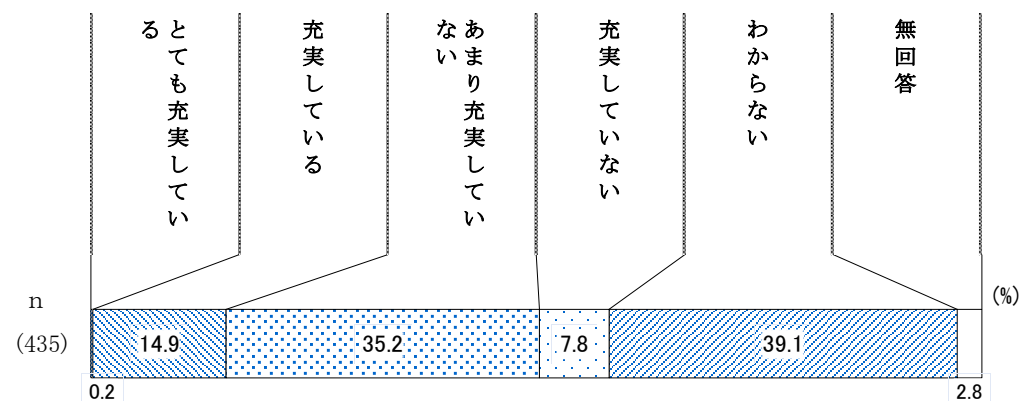
(68) 本市では小学校区を中心とした防災拠点の整備や警報器の普及等、緊急時の支援体制の整備を行っています。体制の整備は充実していると思いますか。



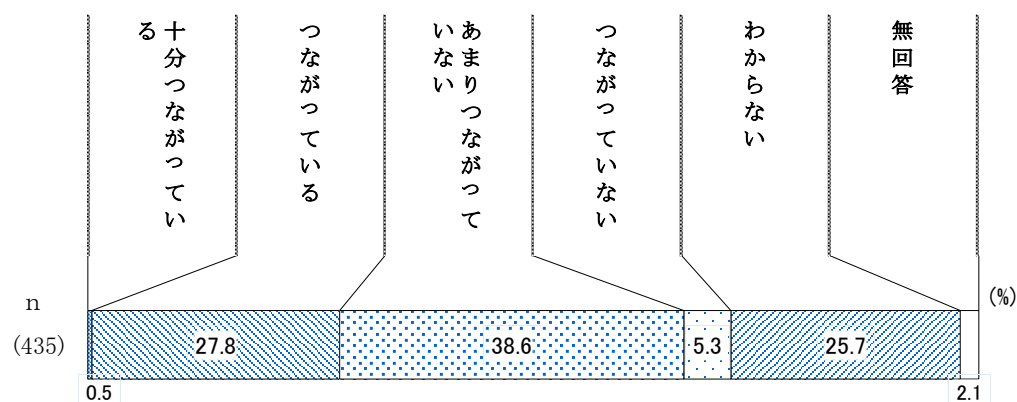
(69) 住み慣れた家で安心して暮らし続けられるよう、手すりの取り付け工事や段差解消のバリアフリーに関する住宅リフォーム相談を行っています。相談体制は充実していると思いますか。



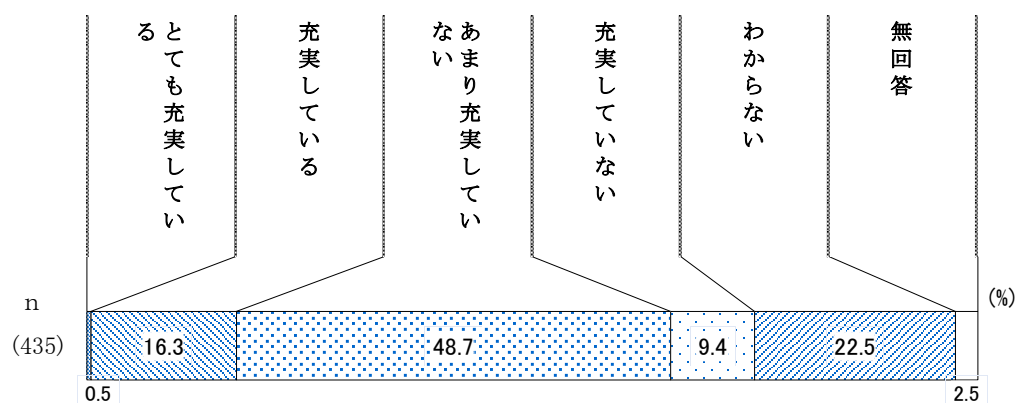
(70) 高齢者や障害者など、自身での移動が困難な方の移動を支援するために、福祉有償運送（社会福祉法人やNPO法人等が一人では公共交通機関を利用することが困難な身体障害者や要介護者の方に運送を行うもの）を行っています。外出手段は充実していると思いますか。



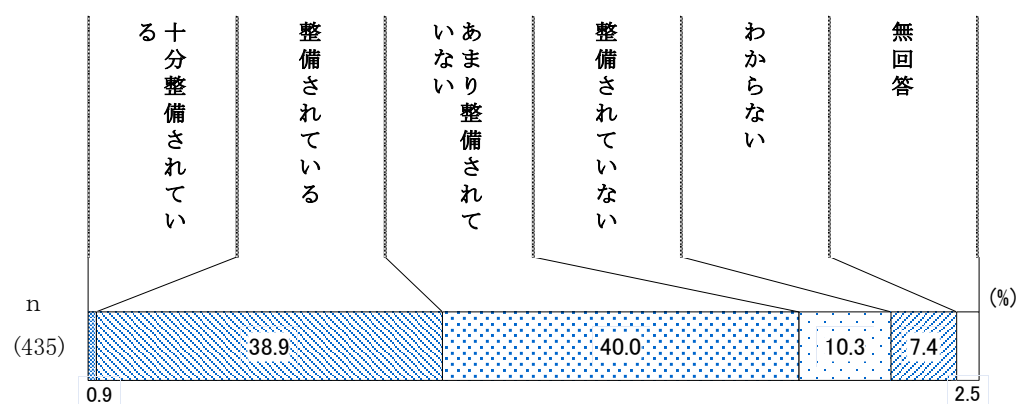
(71) 「だれもが安心して暮らし続けることができる地域づくり」を実現するために、市職員が地域に出向き、福祉に関するテーマの講座を実施していますが、地域福祉に対する意識の向上につながっていると思いますか。



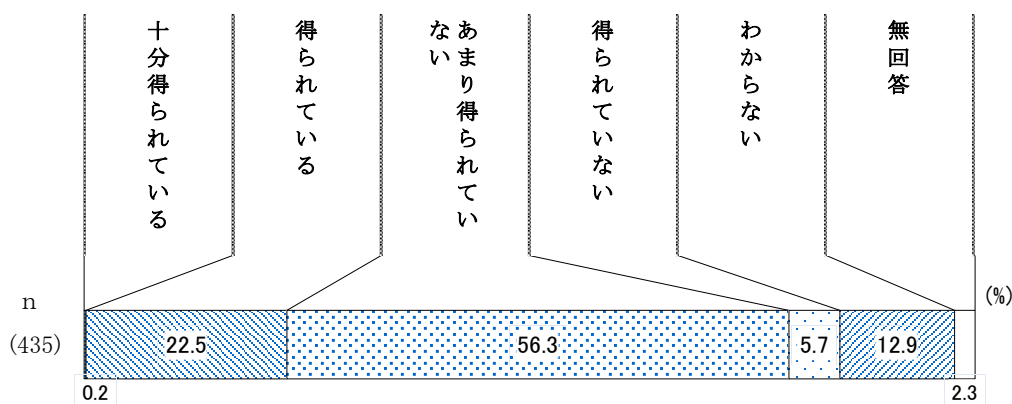
(72) 地域福祉の推進にあたり、活動に取り組む担い手の確保、研修会や講習会等の人材育成の環境は充実していると思いますか。



(73) ご自身の住む地域において、気軽に集まり交流できる場やサークル活動・生涯学習等が行える活動の場が、整備されていると思いますか。



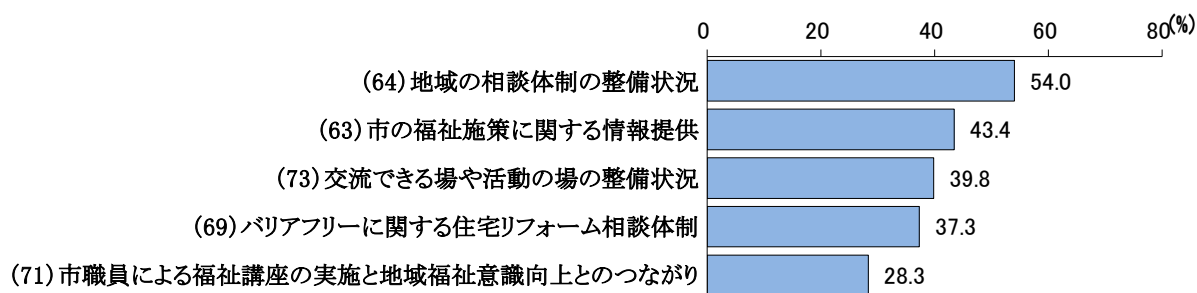
(74) 住み慣れた地域で安心して暮らし続けるためには、地域で生活する方々が協力し、助け合うことが必要です。必要なときに地域活動や市民活動団体などの情報を得られていると思いますか。



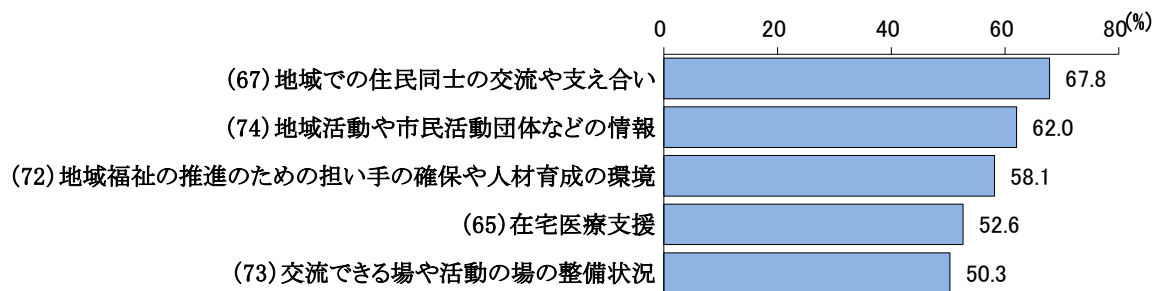
市の福祉施策についての評価を、《肯定的評価》(「十分得られている」＋「得られている」等)の高い順でみると、『(64) 地域の相談体制の整備状況』が54.0%で最も高く、次いで『(63) 市の福祉施策に関する情報提供』が43.4%、『(73) 交流できる場や活動の場の整備状況』が39.8%、『(69) バリアフリーに関する住宅リフォーム相談体制』が37.3%の順で続いている。

一方、《否定的評価》(「あまり得られていない」＋「得られていない」等)の高い順でみると、『(67) 地域での住民同士の交流や支え合い』が67.8%で最も高く、次いで『(74) 地域活動や市民活動団体の情報』が62.0%、『(72) 地域福祉の推進のための担い手の確保や人材育成の環境』が58.1%の順で続いている。

【肯定的評価（上位5項目）】



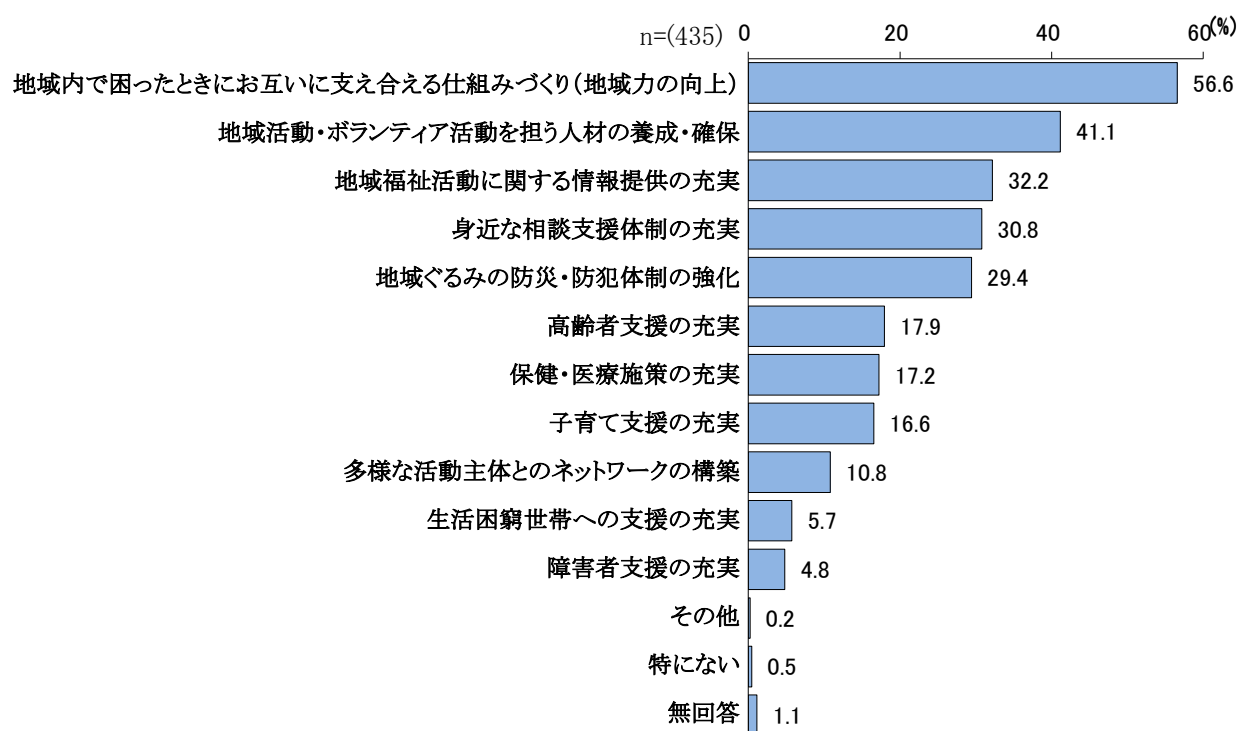
【否定的評価（上位5項目）】



8. 市の施策で今後取り組んでほしい施策の方向性

(1) 地域福祉分野の施策で特に力を入れてほしいこと

(75) 市川市の地域福祉分野の施策について、今後特に力を入れてほしいことは何ですか。
(マークは3つまで)



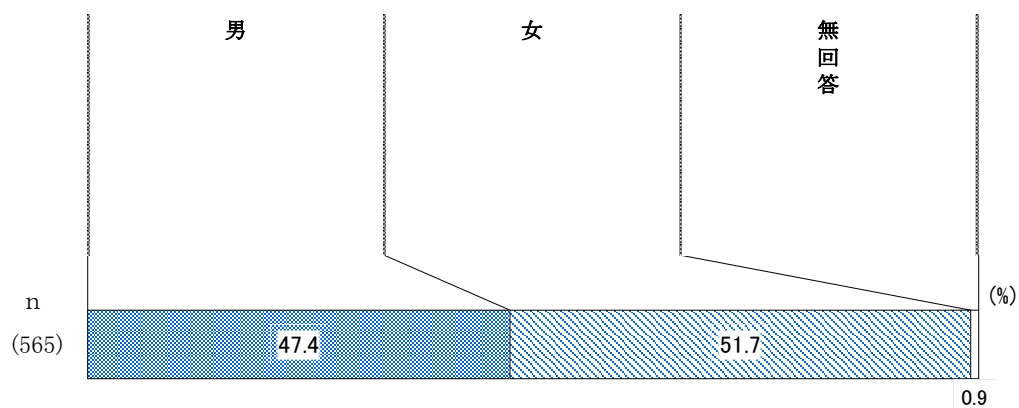
市の地域福祉分野の施策について、今後特に力を入れるべきこととしては、「地域内で困ったときにお互いに支え合える仕組みづくり（地域力の向上）」が56.6%で最も多く、次いで「地域活動・ボランティア活動を担う人材の養成・確保」が41.1%、「地域福祉活動に関する情報提供の充実」が32.2%、「身近な相談支援体制の充実」が30.8%の順で続いている。

第 7 章 調査結果の詳細／福祉委員

1. 回答者の属性

(1) 性別

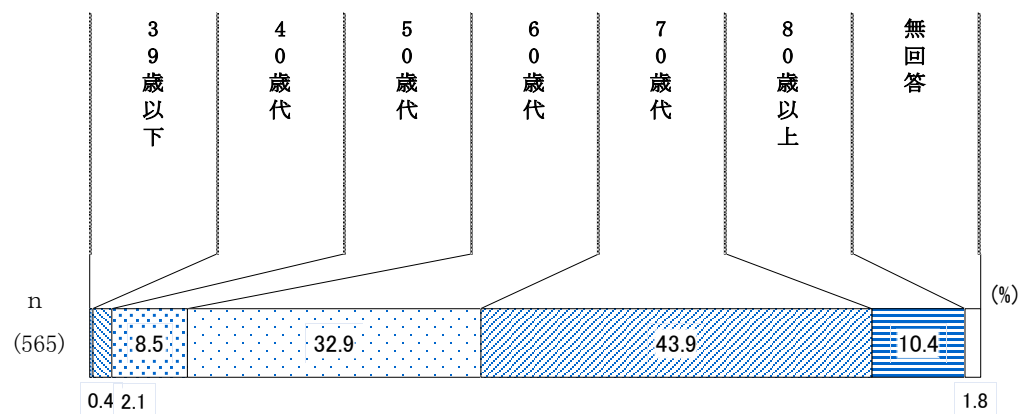
(1) あなたの性別をお答えください。(1つにマーク)



性別をみると、「男」が47.4%、「女」が51.7%となっている。

(2) 年齢

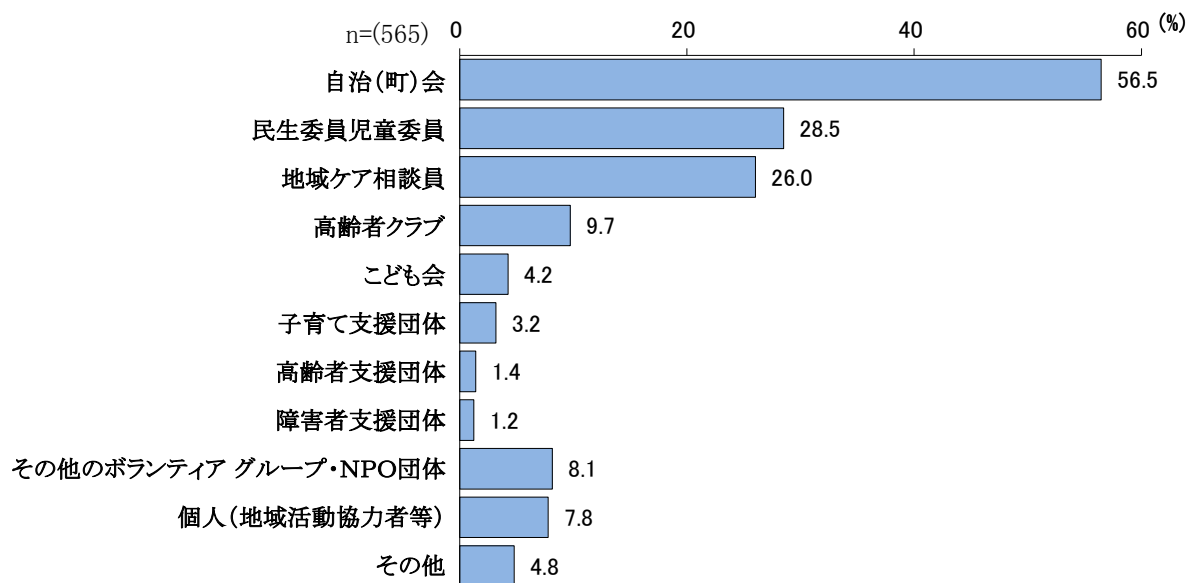
(2) あなたの年齢をお答えください。(1つにマーク)



年齢をみると、「70歳代」が43.9%で最も多く、次いで「60歳代」が32.9%となっている。

(3) 地域での役割

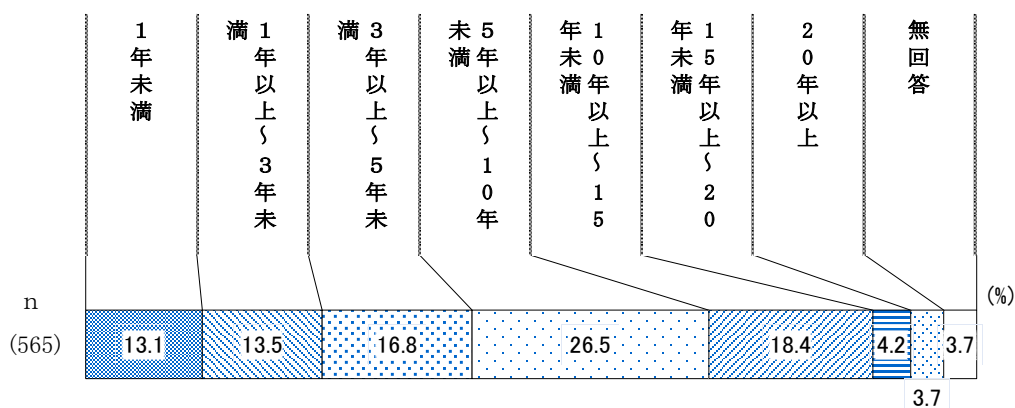
(3) 地域での役割をお答えください。(福祉委員としての母体は？)(あてはまるものすべてにマーク)



地域での役割をみると、「自治(町)会」が56.5%で最も多く、次いで「民生委員児童委員」が28.5%、「地域ケア相談員」が26.0%の順で続いている。

(4) 活動年数

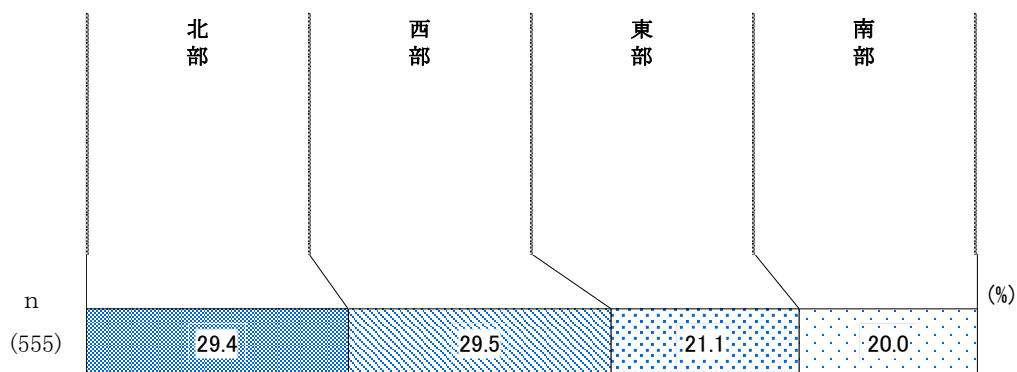
(5) あなたは、福祉委員の活動をされてどのくらいになりますか。通算の年数でお答えください。(1つにマーク)



活動期間は、「5年以上～10年未満」が26.5%で最も多く、次いで「10年以上～15年未満」が18.4%、「3年以上～5年未満」が16.8%の順で続いている。

(5) 活動・所属地区

(6) あなたの活動する地区、もしくは、あなたの所属する地区は次のうちどれですか。(1つにマーク)



北 部				西 部				
国分	曾谷	大柏	宮久保 ・下貝塚	国府台	市川第1	市川第2	真間	菅野 ・須和田
5.6%	4.5	9.7	9.5	5.4	6.8	4.7	6.1	6.5

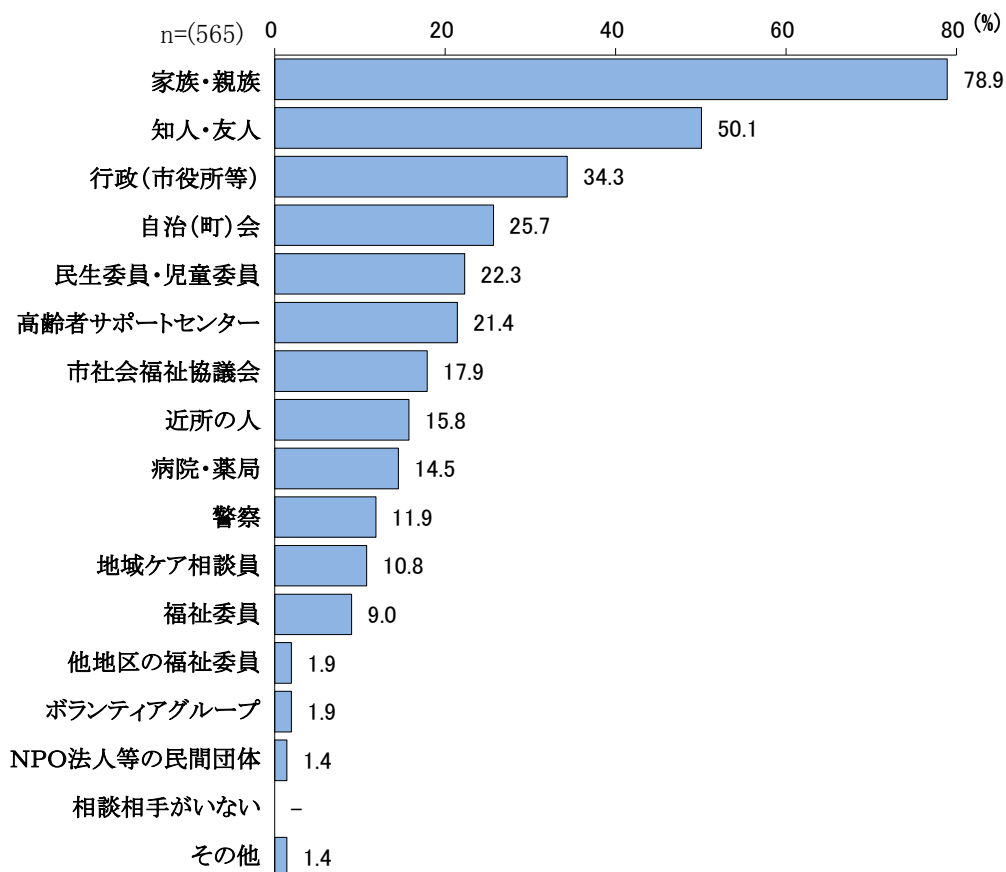
東 部			南 部	
八幡	市川東部	信篤 ・二俣	行徳	南行徳
7.7%	9.2	4.1	8.5	11.5

活動地区・所属地区をみると、「南行徳地区」が11.5%で最も多く、次いで「大柏地区」が9.7%、「宮久保・下貝塚地区」が9.5%の順が続いている。

2. 活動状況

(1) 生活上の問題で相談したいときの相談相手

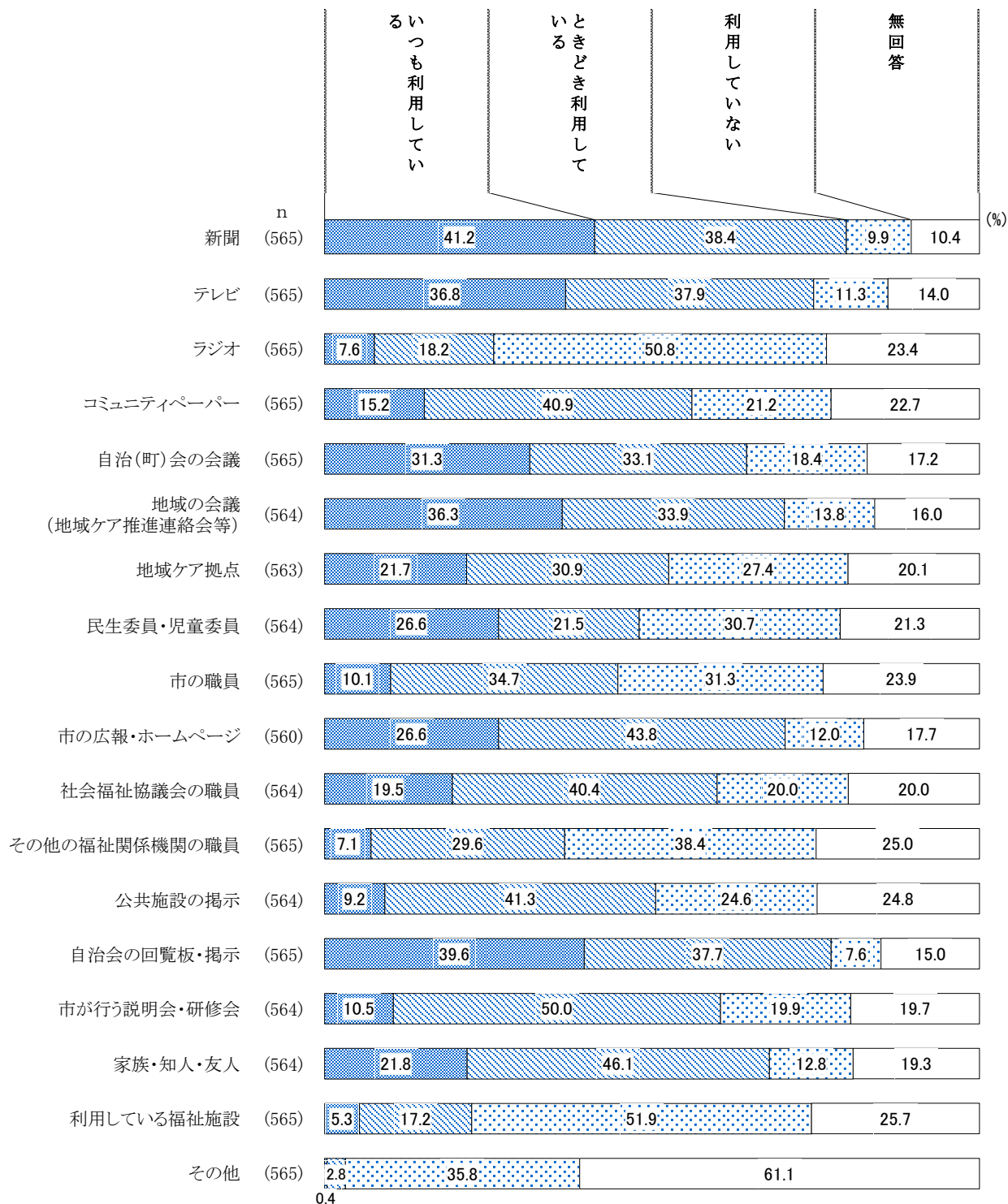
(7) あなたが生活上の問題で相談があるとき、どなたに相談しますか。(あてはまるものすべてにマーク)



生活上の問題の相談先としては、「家族・親族」が78.9%で最も多く、次いで「知人・友人」が50.1%、「行政（市役所等）」が34.3%の順で続いている。

(2) 福祉に関する情報の入手頻度

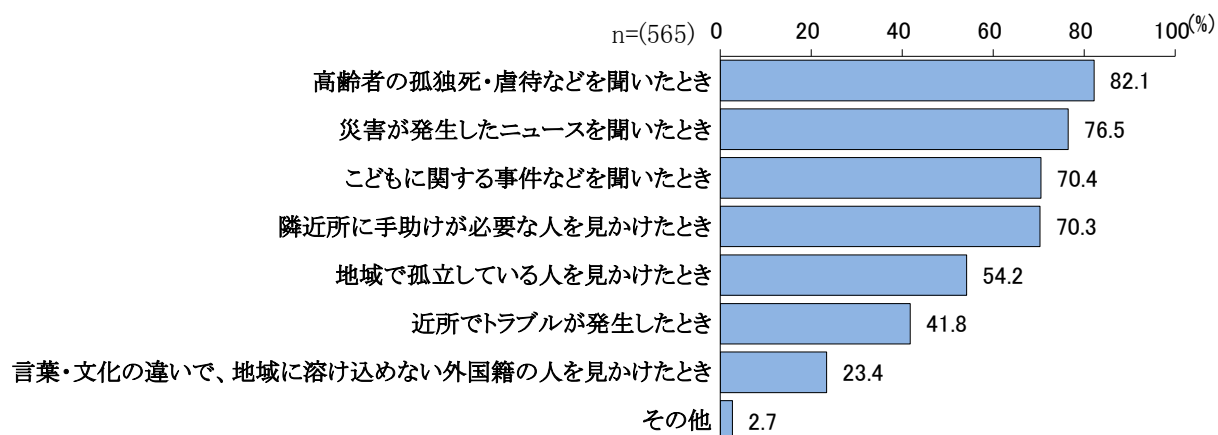
(9) あなたは、福祉（介護、子育て、生活困窮、地域での福祉活動、ボランティア等）に関する情報をどこから、どれくらいの頻度で入手していますか。（各項目、1つずつマーク）



福祉に関する情報の入手先を、「いつも利用している」の多い順でみると、〈新聞〉が41.2%で最も多く、次いで〈自治会の回覧板・掲示〉が39.6%、〈テレビ〉が36.8%の順で続いている。

(3)「地域の関わり・助け合い」の必要性を感じたとき

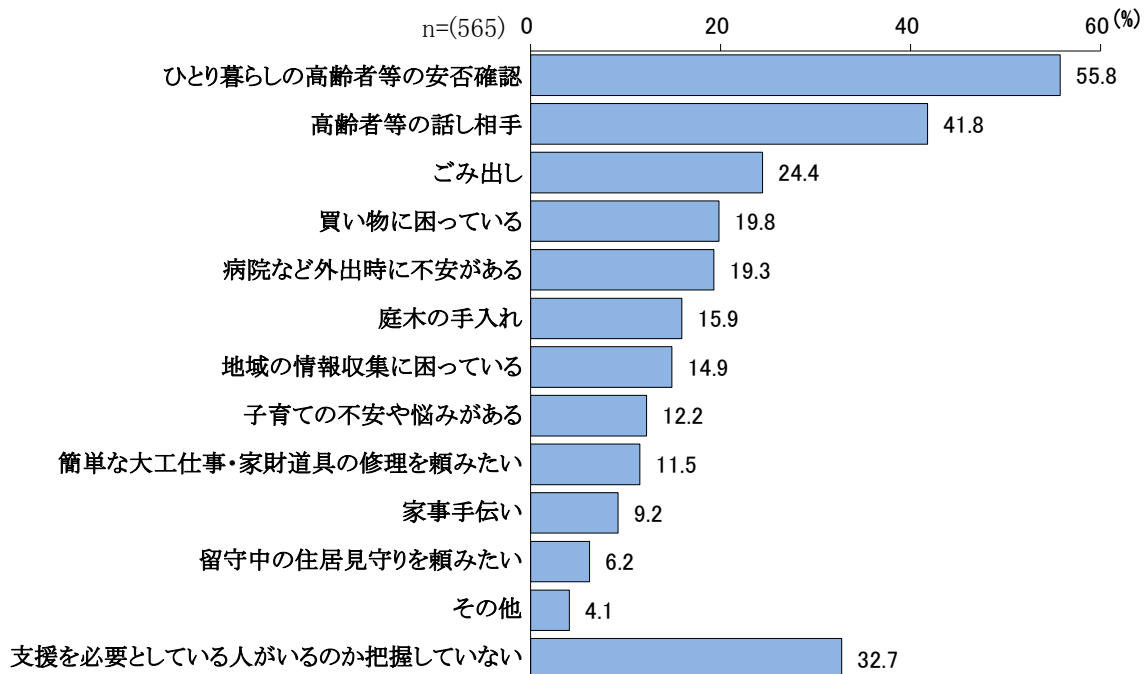
(11) あなたは、どのようなときに「地域の関わり・助け合い」の必要性を感じますか。(あてはまるものすべてにマーク)



「地域の関わり・助け合い」の必要性を感じたときについては、「高齢者の孤独死・虐待などを聞いたとき」が82.1%で最も多く、次いで「災害が発生したニュースを聞いたとき」が76.5%、「子どもに関する事件などを聞いたとき」が70.4%の順で続いている。

(4) 近所で支援を必要としている人について

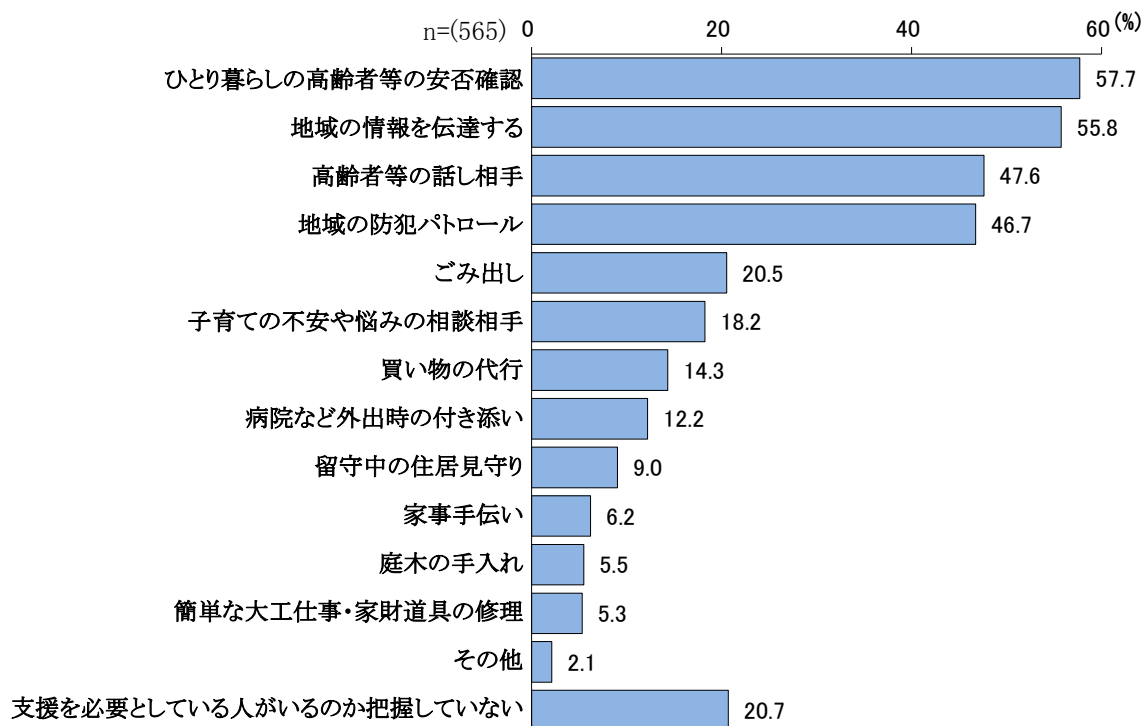
(13) あなたのご近所には、どのような支援を必要としている人がいますか。(あてはまるものすべてにマーク)



近所で支援を必要としている人としては、「ひとり暮らしの高齢者等の安否確認」が55.8%で最も多く、次いで「高齢者等の話し相手」が41.8%、「ごみ出し」が24.4%の順で続いている。

(5) 自分が行いたい活動

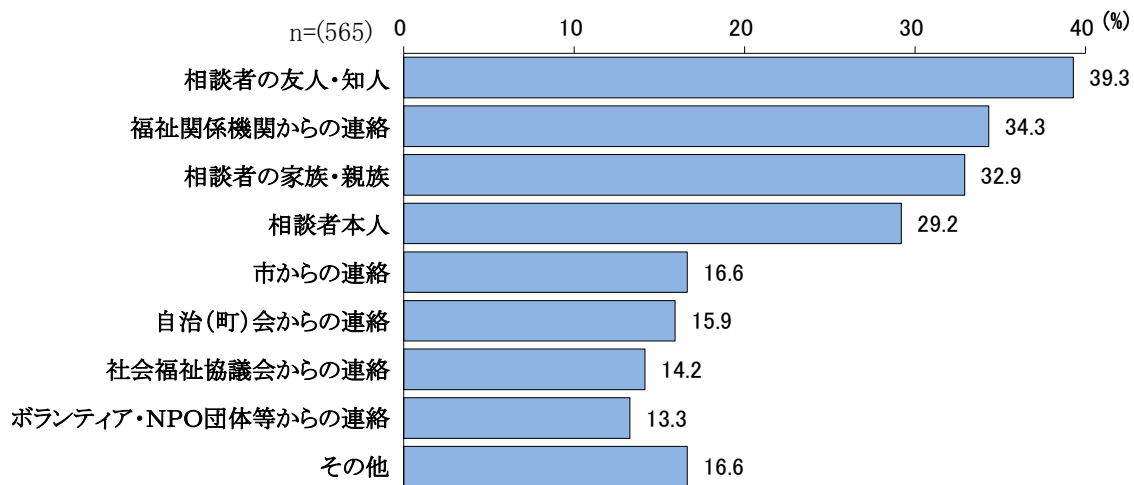
(15) 支援を必要とする方のために、今後、あなたが行いたい活動はありますか。(あてはまるものすべてにマーク)



支援を必要とする人のために行いたい活動としては、「ひとり暮らしの高齢者等の安否確認」が57.7%で最も多く、次いで「地域の情報を伝達する」が55.8%、「高齢者等の話し相手」が47.6%、「地域の防犯パトロール」が46.7%の順で続いている。

(6) 地域住民からの相談形態

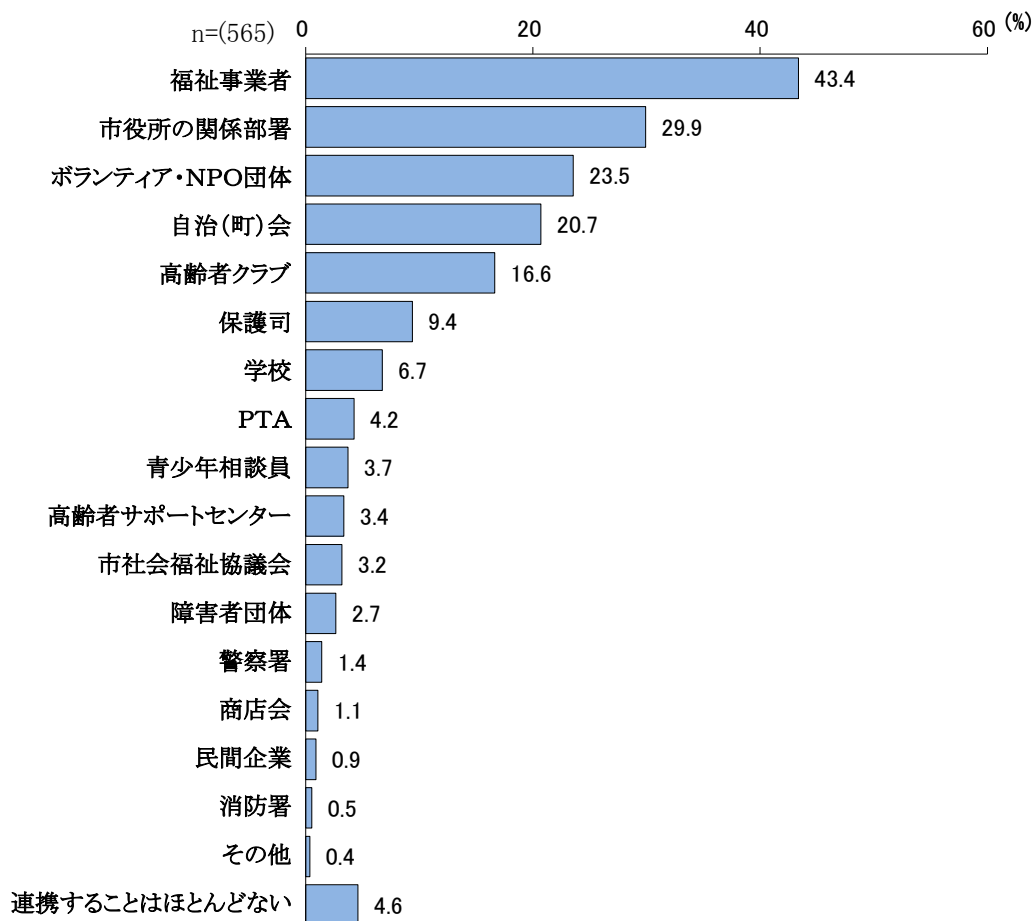
(17) 地域住民からの相談は、どのような形で持ち込まれることが多いですか。(マークは3つまで)



地域住民からの相談の形態をみると、「相談者の友人・知人」が39.3%で最も多く、次いで「福祉関係機関からの連絡」が34.3%、「相談者の家族・親族」が32.9%の順が続いている。

(7) 地域での活動等の際の連携団体

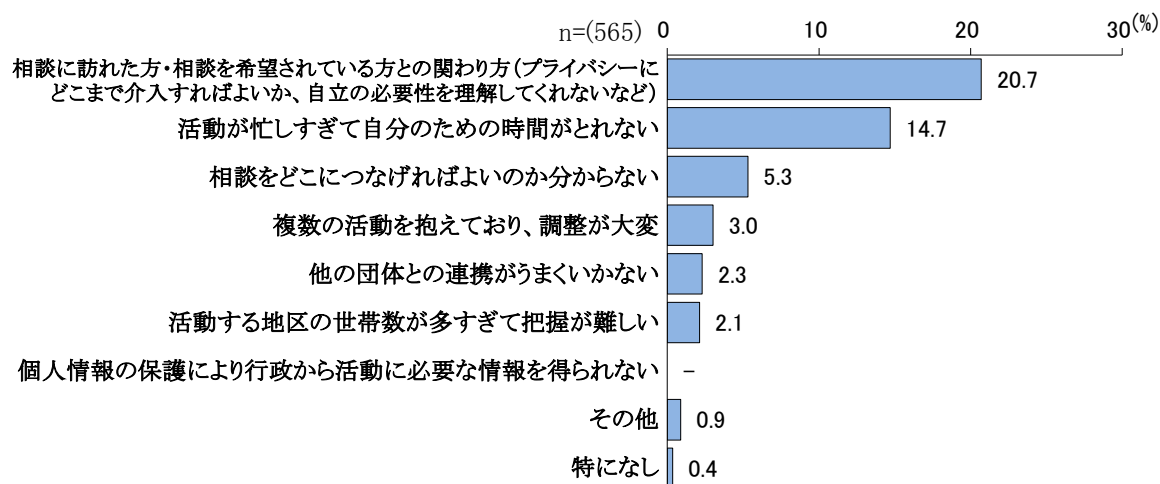
(19) 地域での活動等の際に、どのような団体と連携して活動されていますか。(マークは3つまで)



地域での活動等の際の連携団体をみると、「福祉事業者」が43.4%で最も多く、次いで「市役所の関係部署」が29.9%、「ボランティア・NPO団体」が23.5%の順が続いている。

(8) 活動をする中で抱えている課題

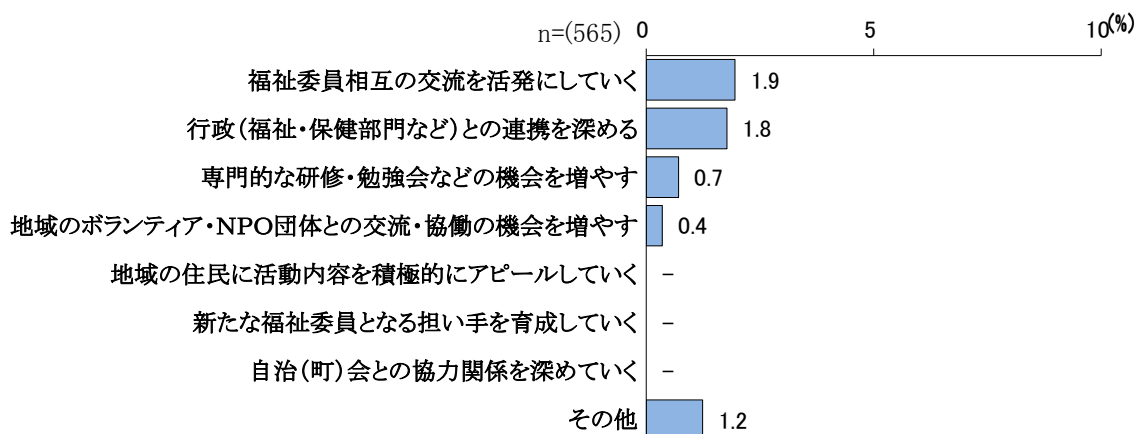
(21) 福祉委員として活動をする中で抱えている課題は何ですか。(マークは3つまで)



福祉委員活動をする中での課題としては、「相談に訪れた方・相談を希望されている方との関わり方(プライバシーにどこまで介入すればよいか、自立の必要性を理解してくれないなど)」が20.7%で最も多く、次いで「活動が忙しすぎて自分の時間がとれない」が14.7%、「相談をどこにつなげればよいのか分からない」が5.3%の順で続いている。

(9) 今後、活動を活性化していくために、特に必要なこと

(23) 今後、福祉委員活動を活性化していくために、特に必要なことは何ですか。(マークは3つまで)

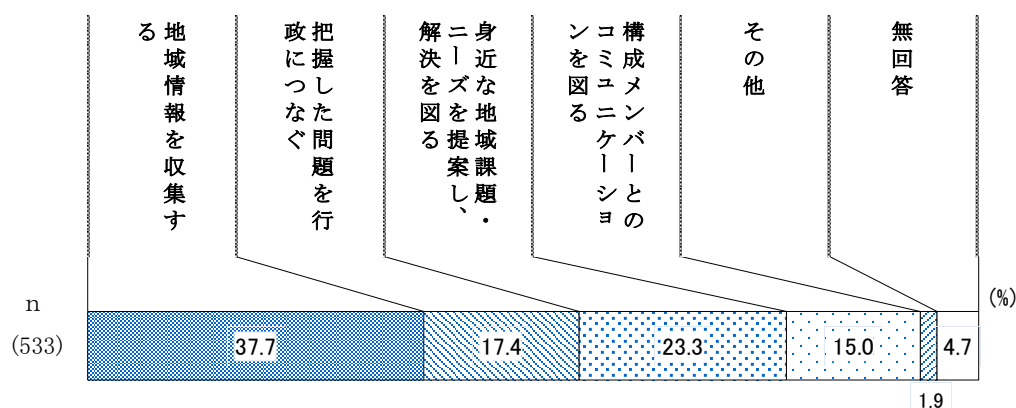


今後、福祉委員活動を活性化するために、特に必要なこととしては、「福祉委員相互の交流を活発にしていく」「行政(福祉・保健部門など)との連携を深める」がやや多くなっている。

3. 支え合いの地域づくり（地域ケアシステム）

（1）地域ケアシステムの会議に参加して、今後充実させた方がよいと思う自身の活動

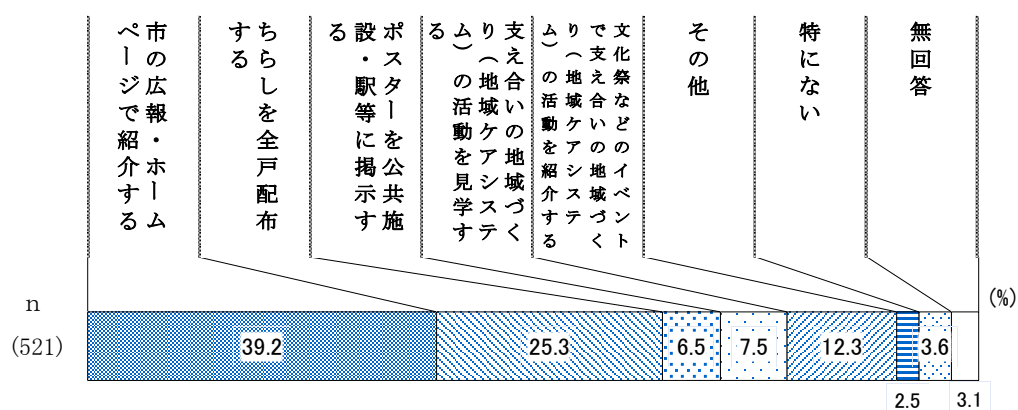
（25）支え合いの地域づくり（地域ケアシステム）の会議に参加して、あなたが今後充実していった方がよいと思うご自身の活動は何ですか。（1つにマーク）



支え合いの地域づくり（地域ケアシステム）に参加して今後充実していった方がよいと思うこととしては、「地域情報を収集する」が37.7%で最も多く、次いで「身近な地域課題・ニーズを提案し、解決を図る」が23.3%、「把握した問題を行政につなぐ」が17.4%の順で続いている。

（2）地域ケアシステムの周知に必要な取り組み

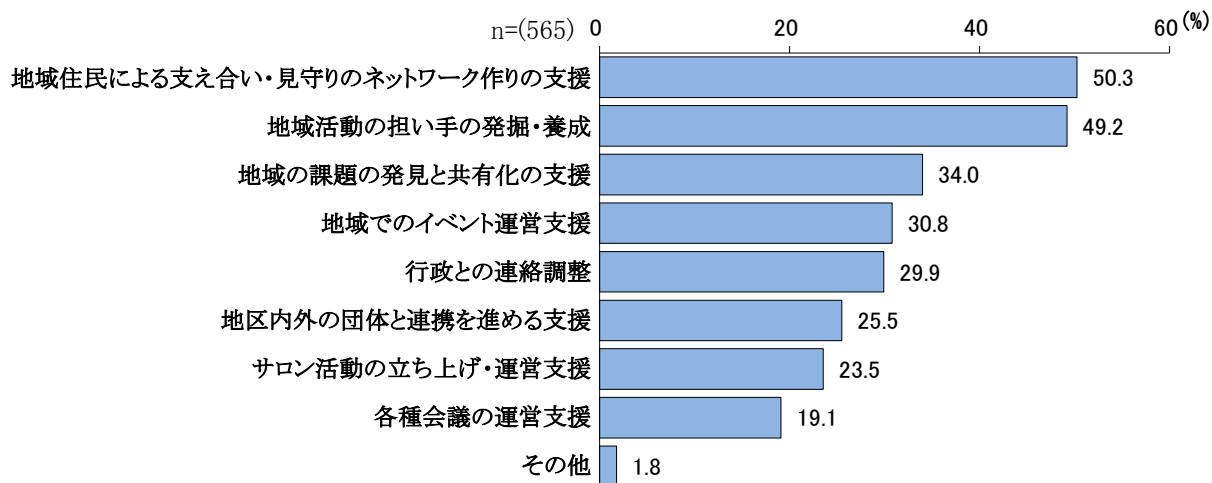
（27）あなたは、支え合いの地域づくり（地域ケアシステム）を更に市民のみなさんに知ってもらうにはどのような取り組みが必要だと思いますか。（1つにマーク）



支え合いの地域づくり（地域ケアシステム）の周知に必要な取り組みとしては、「市の広報・ホームページで紹介する」が39.2%で最も多く、次いで「ちらしを全戸配布する」が25.3%、「文化祭などのイベントで支え合いの地域づくり（地域ケアシステム）の活動を紹介する」が12.3%の順で続いている。

(3) コミュニティワーカーに期待する支援内容

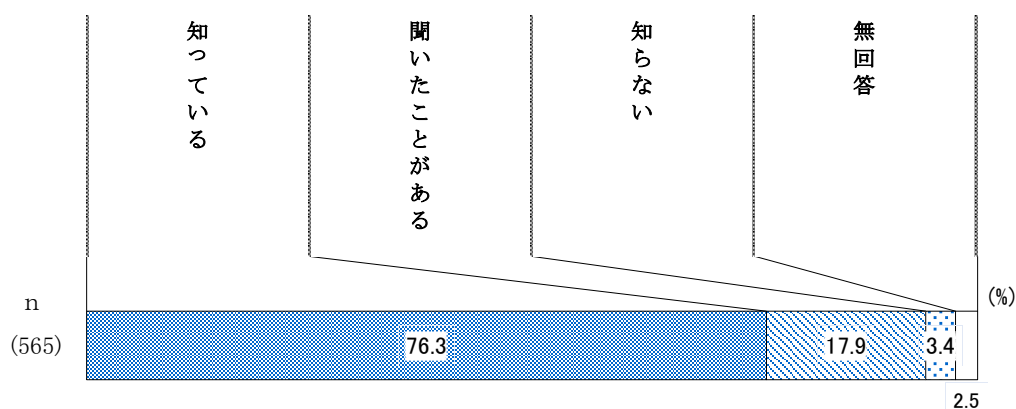
(29) 地域の皆様が主体となって地域福祉が推進されていますが、その上で、今後コミュニティワーカーに期待する支援内容はどのようなものですか。(あてはまるものすべてにマーク)



コミュニティワーカーに期待する支援内容としては、「地域住民による支え合い・見守りネットワーク作りの支援」が50.3%で最も多く、以下「地域活動の担い手の発掘・養成」が49.2%、「地域の課題の発見と共有化の支援」が34.0%の順で続いている。

(4) 成年後見制度の認知度

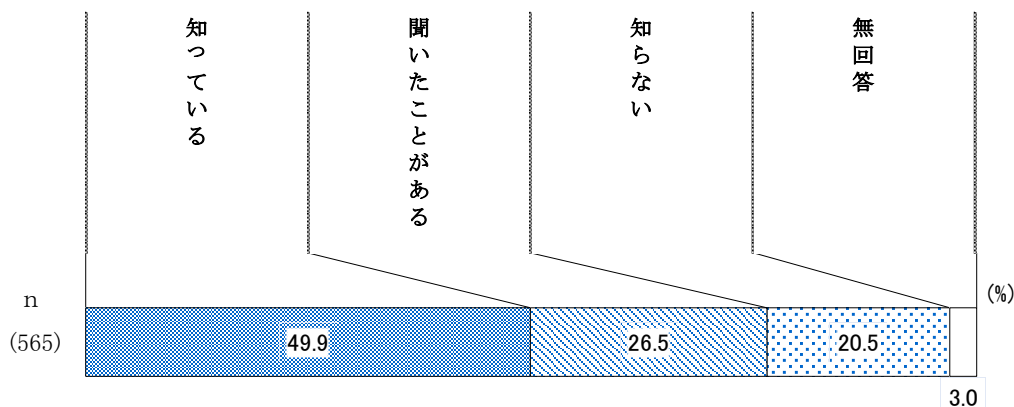
(31) 認知症、知的障害、精神障害等によって判断能力が十分でない方の法律行為を保護・援助する者を選任する制度として「成年後見制度」があります。あなたはその制度をご存知ですか。(1つにマーク)



「成年後見制度」については、「知っている」が76.3%を占めている。

(5) 「市民後見人」について取り組みを進めていることへの認知度

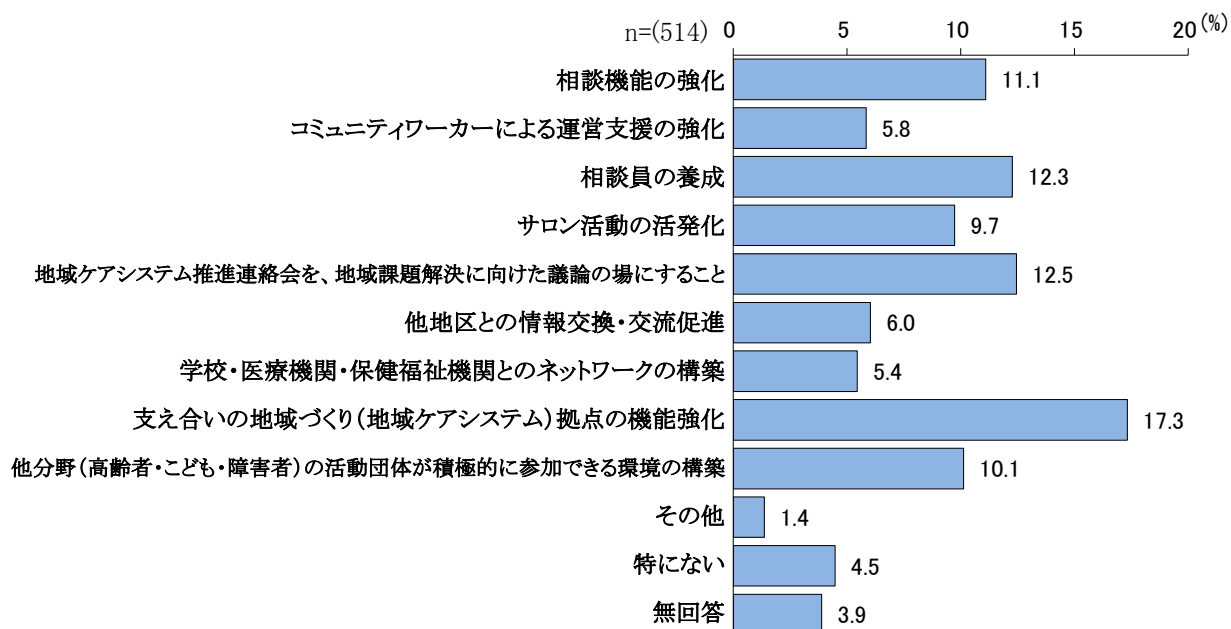
(32) 市川市では、後見人を市民で担う「市民後見人」について取り組みを進めています。あなたは、そのことをご存知ですか。(1つにマーク)



「市民後見人」については、「知っている」が49.9%を占めている。

(6) 地域ケアシステムで今後重視すべきこと

(33) あなたは、支え合いの地域づくり（地域ケアシステム）で今後重視すべきことはどのようなことだと思いますか。(1つにマーク)

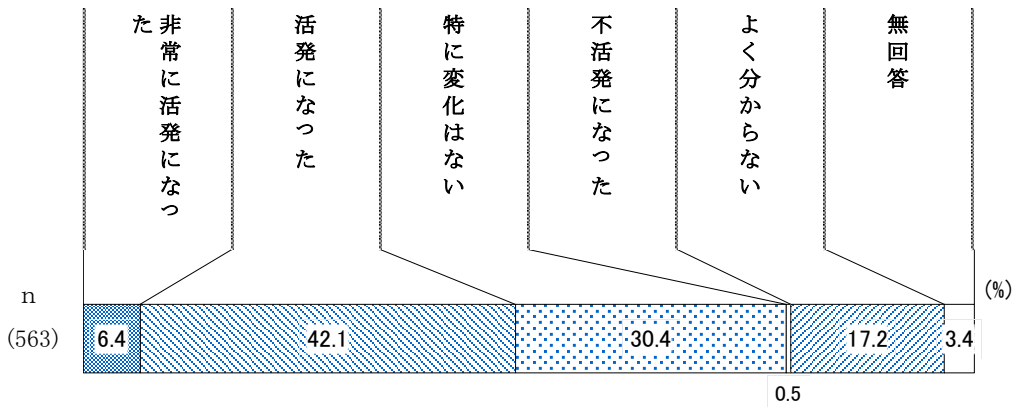


支え合いの地域づくり（地域ケアシステム）で重視すべきこととしては、「支え合いの地域づくり（地域ケアシステム）拠点の機能強化」が17.3%で最も多く、以下「地域ケアシステム推進連絡会を、地域課題解決に向けた議論の場にする」が12.5%、「相談員の養成」が12.3%の順で続いている。

4. 地域福祉全体

(1) 以前と比べた自身の活動区域における地域福祉の変化

(35) 以前（約5年前）と比べて、ご自身の活動区域における地域福祉はどのように変化したと感じますか。（1つにマーク）

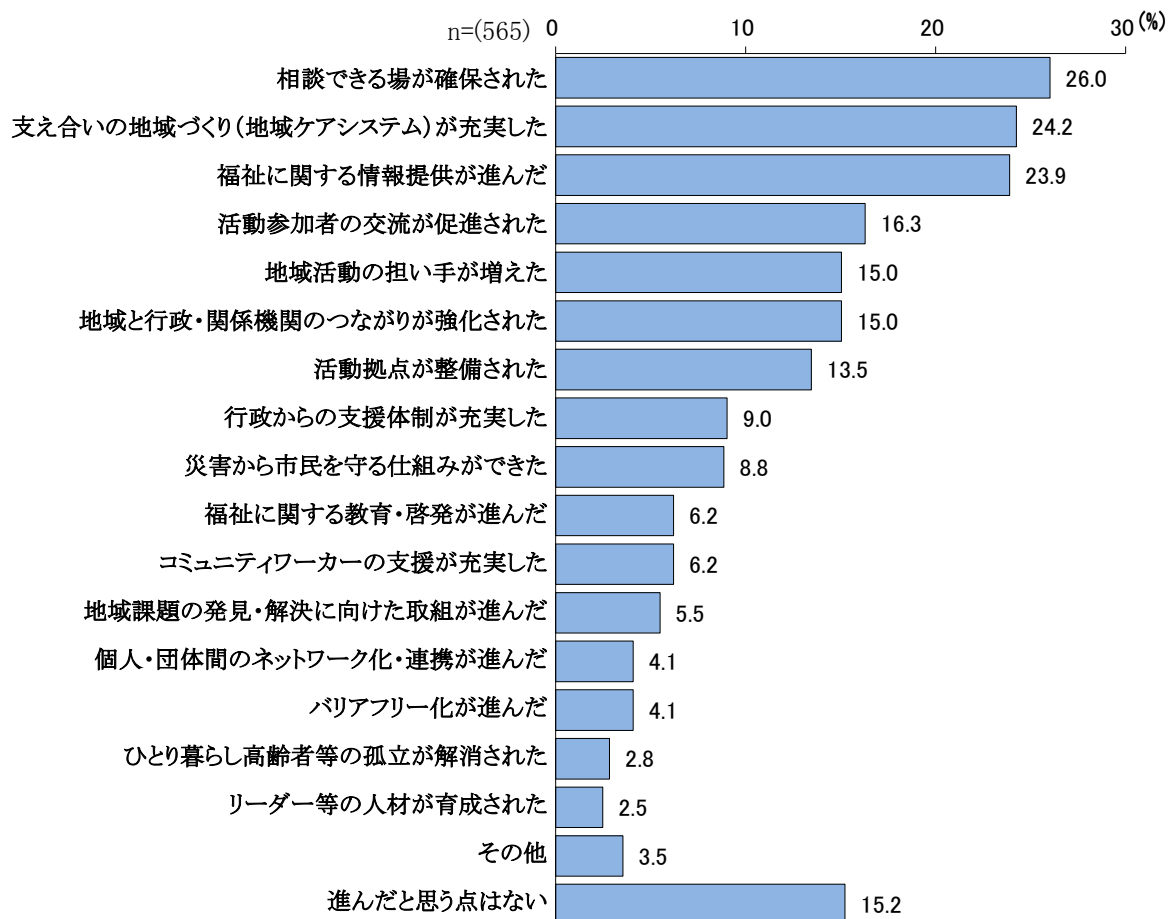


以前（約5年前）と比べた活動区域における地域福祉の変化については、「非常に活発になった」が6.4%で、これに「活発になった」（42.1%）を合わせた《活発になった》は48.5%となっている。また、「特に変化はない」は30.4%を占めている。

一方、「不活発になった」は0.5%となっている。

(2) 以前と比べて活動地域において推進された地域福祉

(36) 以前（約5年前）と比べて、日頃活動されている地域において、主にどのような点で地域福祉が推進されたと思いますか。（マークは3つまで）



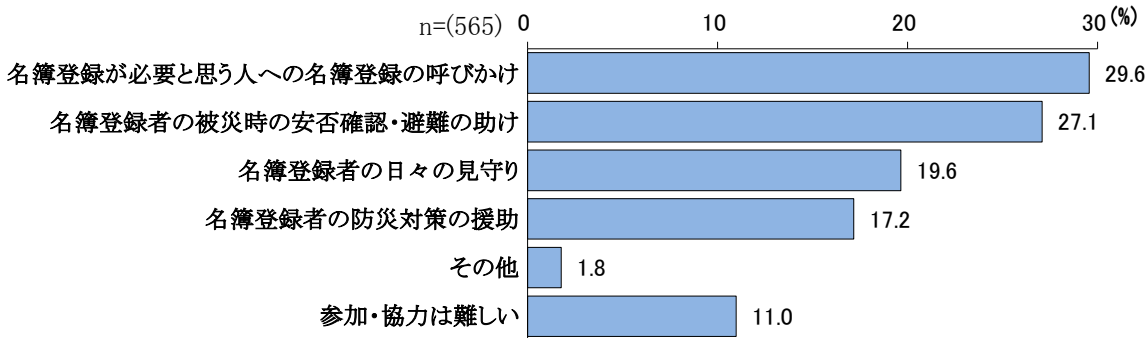
以前（約5年前）と比べて推進された地域福祉活動としては、「相談できる場が確保された」が26.0%で最も多く、次いで「支え合いの地域づくり（地域ケアシステム）が充実した」が24.2%「福祉に関する情報提供が進んだ」が23.9%の順で続いている。

一方、「進んだと思う点はない」は15.2%となっている。

5. 防災の取り組み

(1) 「避難行動要支援者」に関連した活動への参加協力

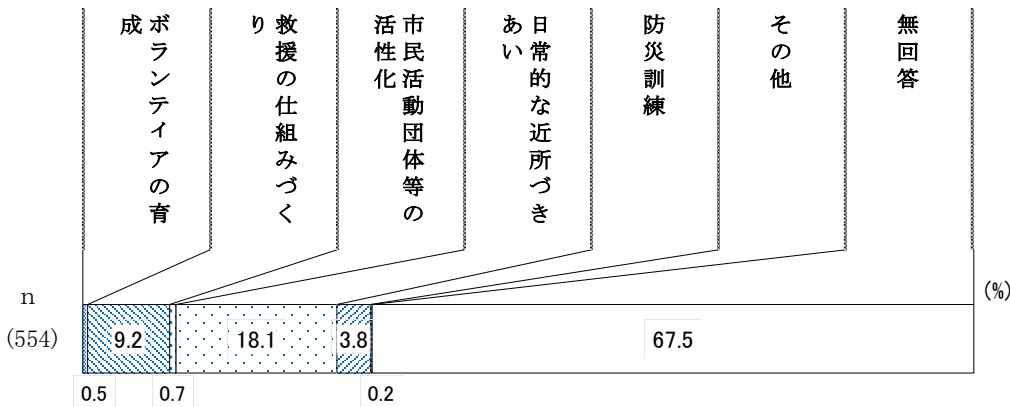
(38) 市川市では、高齢者・障害者などの災害時に自力で安全な場所に避難することが困難ないわゆる「避難行動要支援者」の安全を守るため、地域の協力体制づくりを推進する目的として「避難行動要支援者名簿」を作成しています。あなたは下記の援助活動で協力いただける内容がありますか。(あてはまるものすべてにマーク)



避難行動要支援者名簿作成への参加協力内容をみると、「名簿登録が必要と思う人への名簿登録の呼びかけ」が29.6%で最も多く、以下「名簿登録者の被災時の安否確認・避難の助け」が27.1%、「名簿登録者の日々の見守り」が19.6%の順で続いている。

(2) 災害時における助け合いのために必要な日常的取り組み

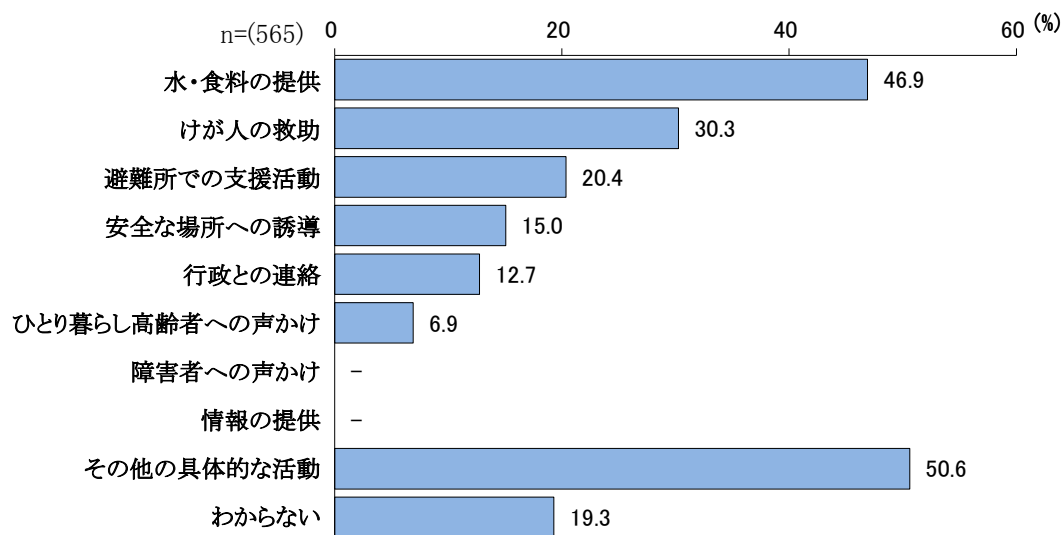
(40) 災害発生直後には公的な援助はすぐに届かない場合が予想されます。災害時において、お互いを助け合うためには、日常的にどのような取り組みが必要だと思いますか。(1つにマーク)



災害時における助け合いのために必要な日常的な取り組みとしては、「日常的な近所づきあい」が18.1%で最も多くなっている。

(3) 大災害にあった場合の居住地での活動

(42) あなたは、東日本大震災のような大災害にあったとしたら、あなたがお住まいの地域でどのような活動をしたいと思いますか。(マークは3つまで)

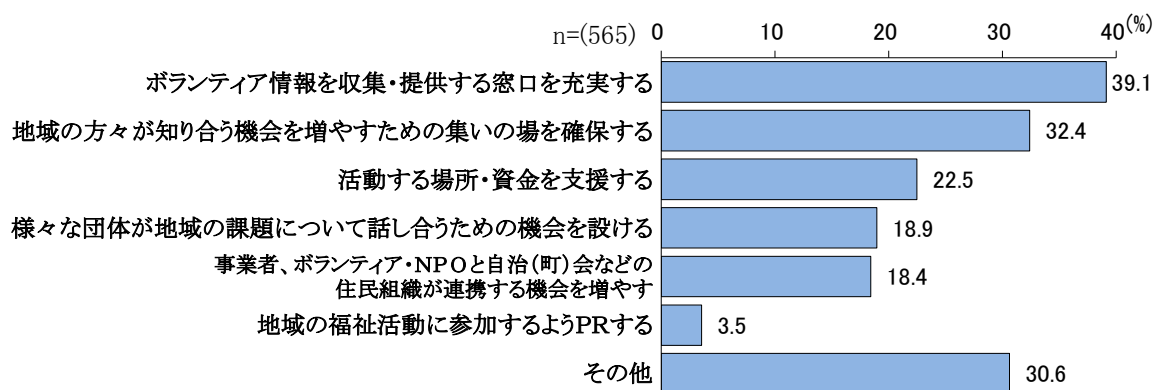


東日本大震災のような大災害があったとき、地域でどのような活動をしたいか聞いたところ、「水・食料の提供」が46.9%で最も多く、以下「けが人の救助」が30.3%、「避難所での支援活動」が20.4%の順で続いている。

6. 地域福祉活動活性化に必要なこと

(1) 行政が地域で支え合う仕組みづくりをするため、特に必要だと思うこと

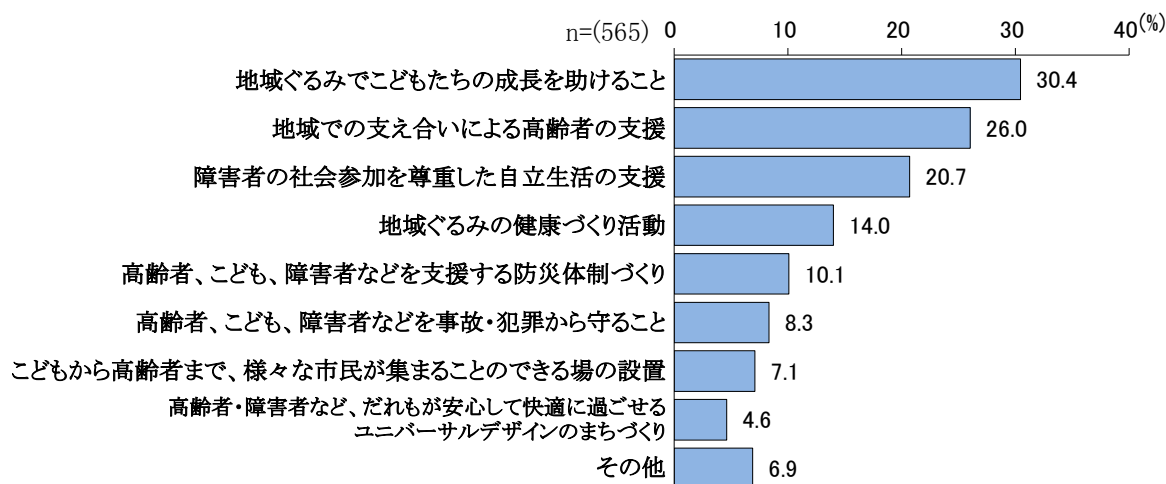
(44) 行政が地域で支え合う仕組みづくりをするために、特に必要だと思うことは何ですか。
(マークは3つまで)



行政が地域で支え合う仕組みづくりをするために、特に必要なこととしては、「ボランティア情報を収集・提供する窓口を充実する」が39.1%で最も多く、以下「地域の方々が知り合う機会を増やすための集いの場を確保する」が32.4%、「活動する場所・資金を支援する」が22.5%の順で続いている。

(2) 地域の人たちが協力して取り組んでいくことが特に必要な課題

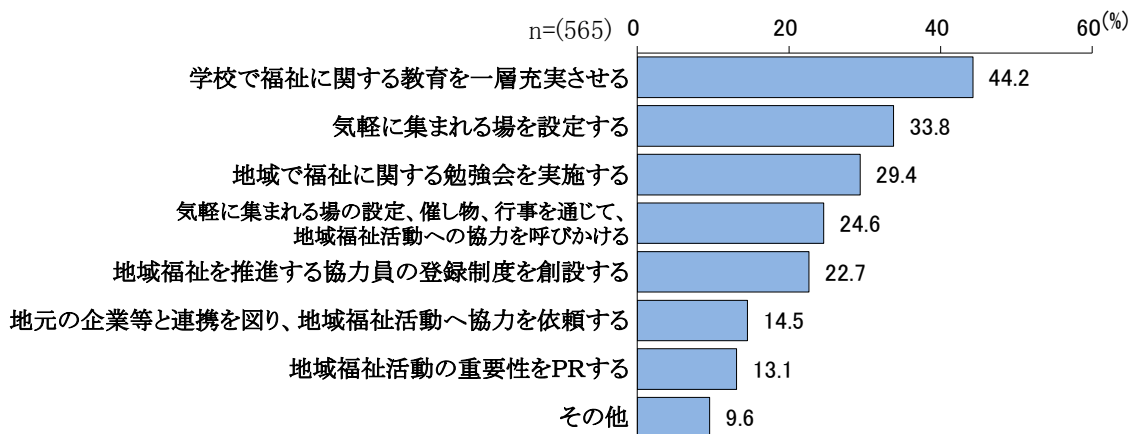
(46) 地域の人たちが協力して取り組んでいくことが特に必要な課題は何ですか。(マークは3つまで)



地域の人たちが協力して取り組んでいくことが特に必要な課題としては、「地域ぐるみで子どもたちの成長を助けること」が30.4%で最も多く、以下「地域での支え合いによる高齢者の支援」が26.0%、「障害者の社会参加を尊重した自立生活の支援」が20.7%の順で続いている。

(3) 地域福祉を推進する地域の人材を増やす方法

(48) 地域福祉を推進する地域の人材（担い手）を増やすには、どのようにしたらよいと思いますか。（マークは3つまで）



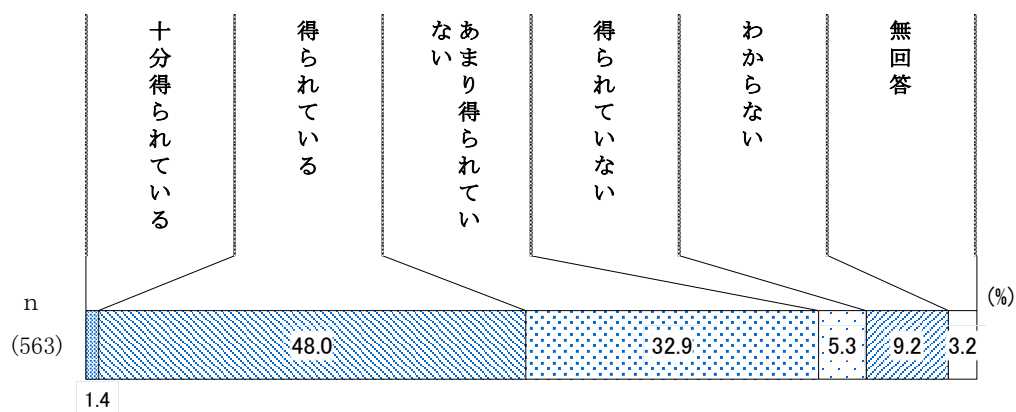
地域福祉を推進する地域の人材（担い手）を増やす方法としては、「学校で福祉に関する教育を一層充実させる」が44.2%で最も多く、以下「気軽に集まれる場を設定する」が33.8%、「地域で福祉に関する勉強会を実施する」が29.4%、「気軽に集まれる場の設定、催し物、行事を通じて、地域福祉活動への協力を呼びかける」が24.6%の順で続いている。

7. 市の施策

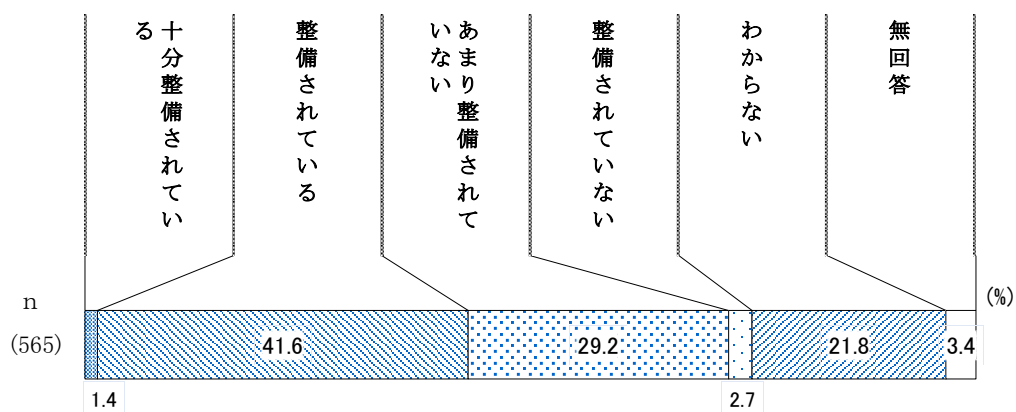
(1) 施策評価

市がお聞きしたいことにつきまして、以下の問(50)～問(61)について、皆様のお考えをうかがいます。(それぞれ1つずつにマーク)

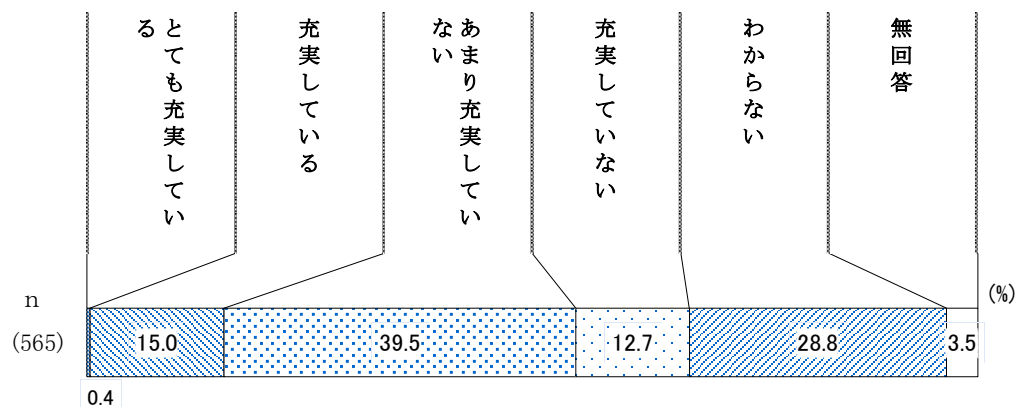
(50) 市の福祉施策に関する情報は、広報紙や市の公式ホームページ等で、情報提供を行っておりますが、必要な情報を得られていると思いますか。



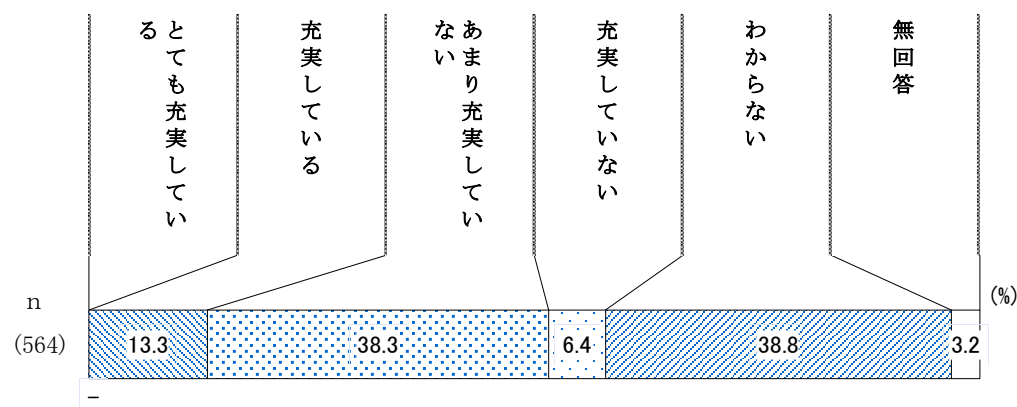
(51) 高齢者、障害者、子育て家庭等の方のための専門的な相談窓口（高齢者サポートセンター〔地域包括支援センター〕、障害者地域生活支援センター、子ども家庭総合支援センター）を設置しておりますが、安心して生活できるように地域の相談体制は整備されていると思いますか。



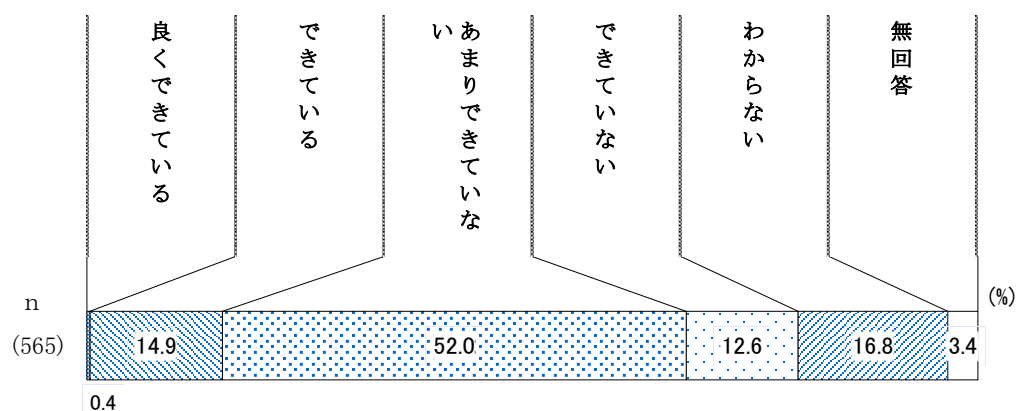
(52) 住み慣れた地域でできる限り暮らし続けられるような在宅医療(医師による訪問診察等)の支援は充実していると思いますか。



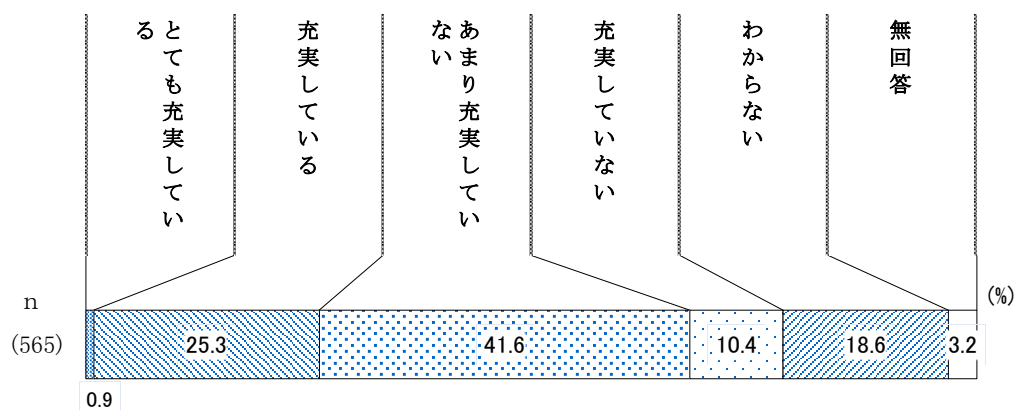
(53) 認知症のなどにより、日常生活を送る上で十分な判断ができない人や、体の自由が利かない人のため相談窓口や福祉サービスの利用手続きの援助、日常的な金銭管理等の支援は充実していると思いますか。



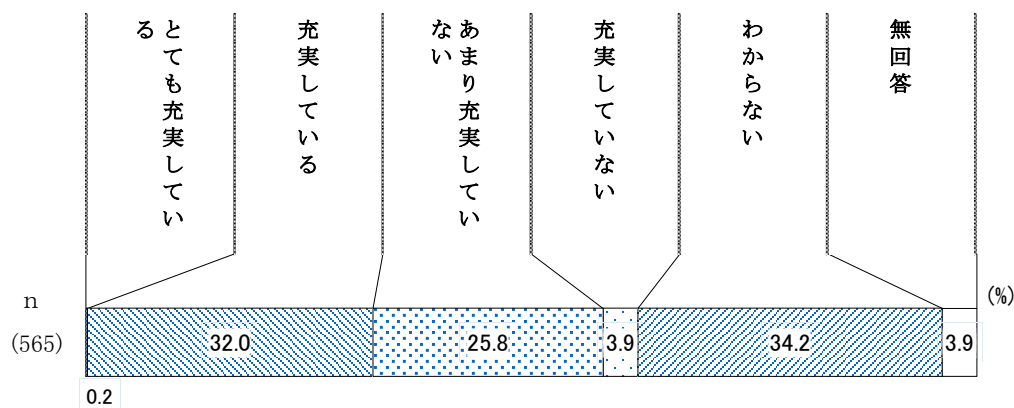
(54) ご自身が住む地域において、引きこもりがちな高齢者、障害者、子育て世帯等を含め、誰もが安心して生活を送れるよう、地域での住民同士の交流や支え合いができていますか。



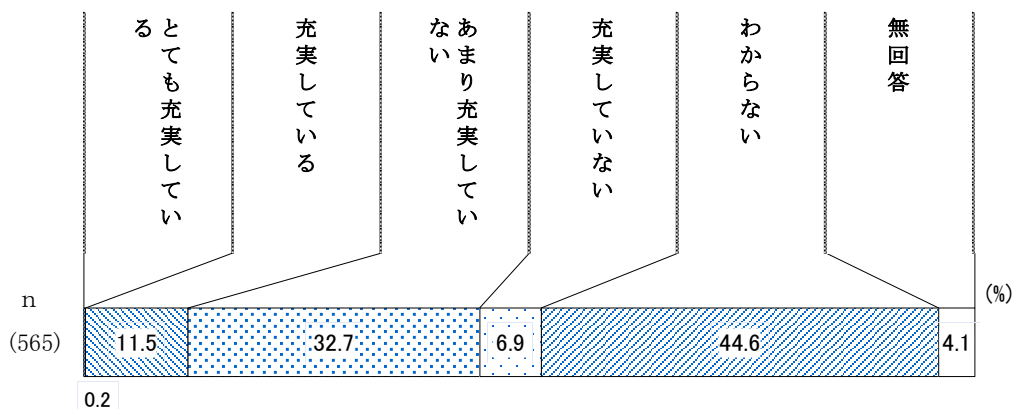
(55) 本市では小学校区を中心とした防災拠点の整備や警報器の普及等、緊急時の支援体制の整備を行っています。体制の整備は充実していると思いますか。



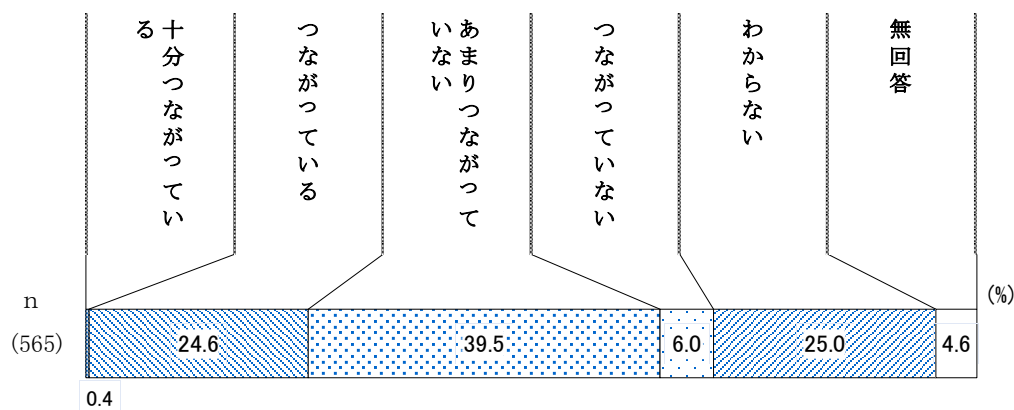
(56) 住み慣れた家で安心して暮らし続けられるよう、手すりの取り付け工事や段差解消のバリアフリーに関する住宅リフォーム相談を行っています。相談体制は充実していると思いますか。



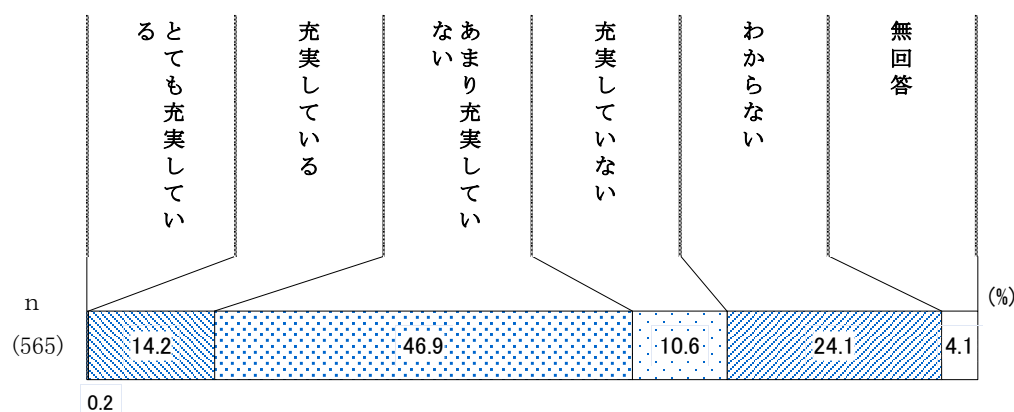
(57) 高齢者や障害者など、自身での移動が困難な方の移動を支援するために、福祉有償運送（社会福祉法人やNPO法人等が一人では公共交通機関を利用することが困難な身体障害者や要介護者の方に運送を行うもの）を行っています。外出手段は充実していると思いますか。



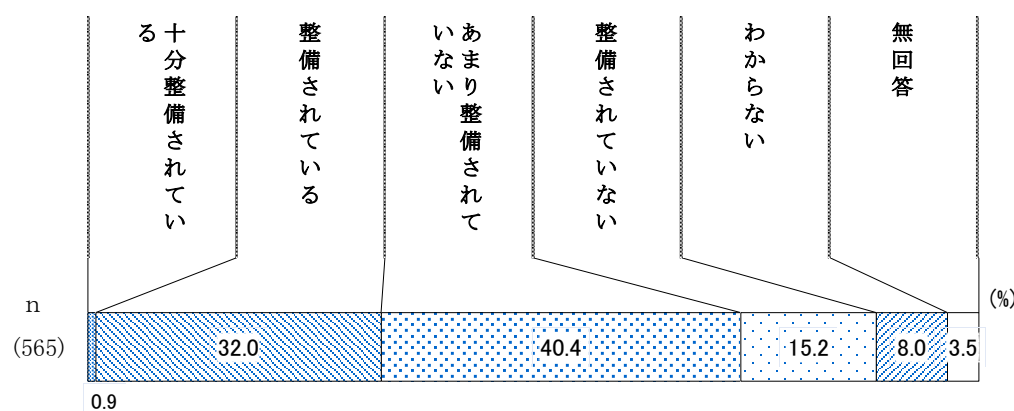
(58) 「だれもが安心して暮らし続けることができる地域づくり」を実現するために、市職員が地域に出向き、福祉に関するテーマの講座を実施していますが、地域福祉に対する意識の向上につながっていると思いますか。



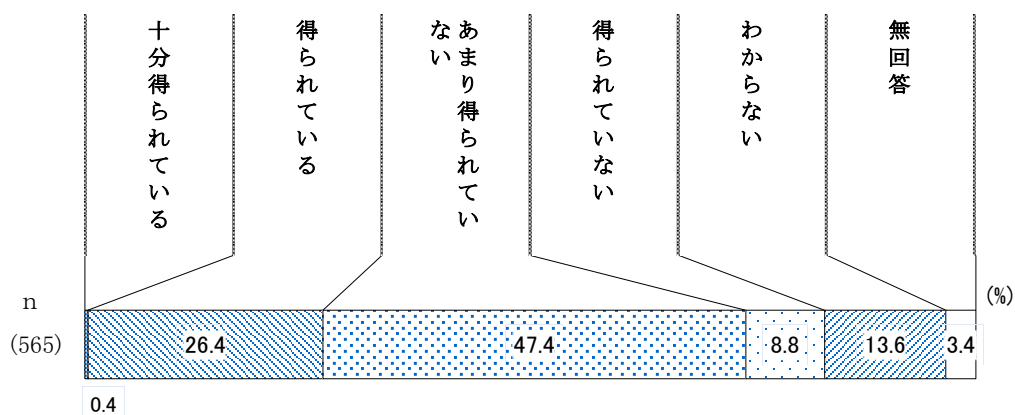
(59) 地域福祉の推進にあたり、活動に取り組む担い手の確保、研修会や講習会等の人材育成の環境は充実していると思いますか。



(60) ご自身の住む地域において、気軽に集まり交流できる場やサークル活動・生涯学習等が行える活動の場が、整備されていると思いますか。



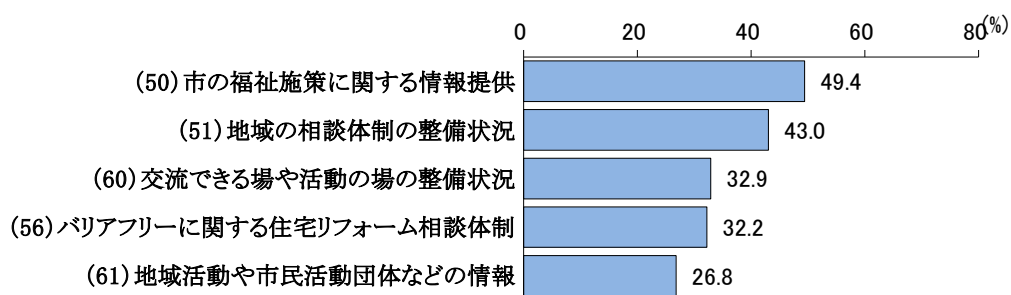
(61) 住み慣れた地域で安心して暮らし続けるためには、地域で生活する方々が協力し、助け合う必要があります。必要なときに地域活動や市民活動団体などの情報を得られていると思いますか。



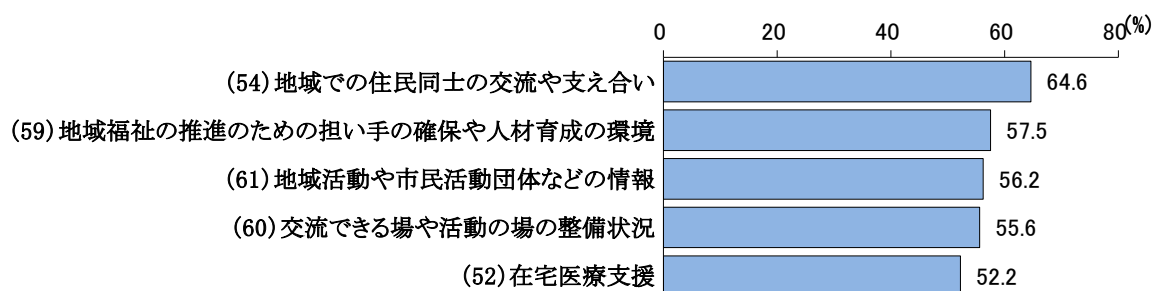
市の福祉施策についての評価を、《肯定的評価》(「十分得られている」＋「得られている」等)の高い順でみると、『(50) 市の福祉施策に関する情報提供』が49.4%で最も高く、次いで『(51) 地域の相談体制の整備状況』が43.0%、『(60) 交流できる場や活動の場の整備状況』が32.9%の順で続いている。

一方、《否定的評価》(「あまり得られていない」＋「得られていない」等)の高い順でみると、『(54) 地域での住民同士の交流や支え合い』が64.6%で最も高く、次いで『(59) 地域福祉の推進のための担い手の確保や人材育成の環境』が57.5%、『(61) 地域活動や市民活動団体の情報』が56.2%の順で続いている。

【肯定的評価（上位5項目）】



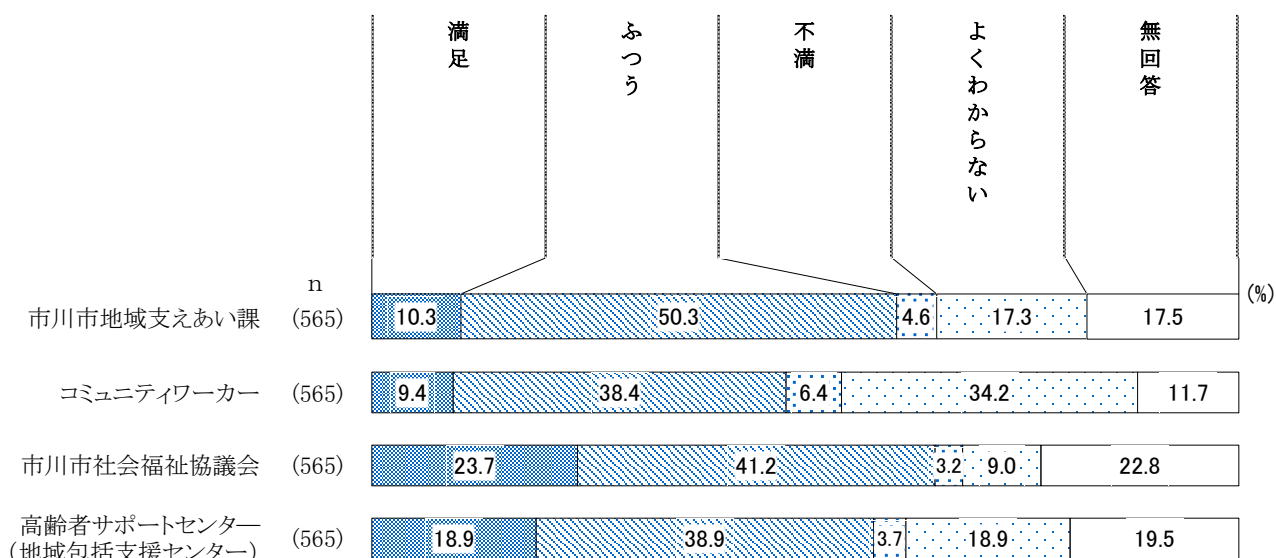
【否定的評価（上位5項目）】



8. 各機関の満足度

(1) 各機関の満足度

地域福祉の充実のために、様々な機関が協力して地域住民の活動支援を行っています。問(62)から(65)について、それぞれの取り組みに対する満足度をお答えください



各関係機関についての評価を、「満足」の高い順でみると、〈市川市社会福祉協議会〉が23.7%で最も多く、以下〈高齢者サポートセンター（地域包括支援センター）〉（18.9%）、〈市川市地域支えあい課〉（10.3%）、〈コミュニティワーカー〉（9.4%）の順で続いている。

9. 市社会福祉協議会の施策

市社会福祉協議会がお聞きしたいことにつきまして、以下の問(66)～問(83)について、皆様のお考えをうかがいます。

市川市では、地域ケアシステムの拠点在全市14地区（15ヶ所）に開設し、「気軽に立ち寄れる憩いの場」、「身近な相談窓口」、「地域情報の収集・発信」を目的に、各地区より推薦された相談員に常駐いただいております。

問(66)から問(73)について、ご自身の地区の地域ケアシステムの拠点の取り組みに対する評価をお答えください。

(1) 取り組みに対する評価とその理由

(66) 「気軽に立ち寄れる憩いの場」としての評価はいかがですか。（1つにマーク）

(67) 【問(66)でそのように評価した理由をご記入下さい。】

(68) 「身近な相談窓口」としての評価はいかがですか。（1つにマーク）

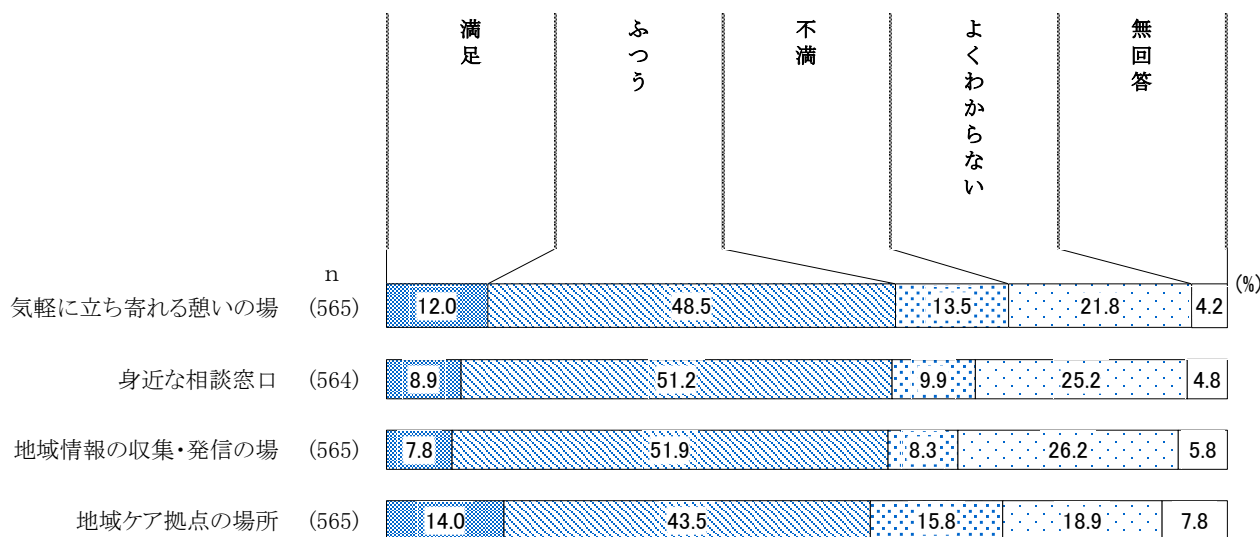
(69) 【問(68)でそのように評価した理由をご記入下さい。】

(70) 「地域情報の収集・発信の場」としての評価はいかがですか。（1つにマーク）

(71) 【問(70)でそのように評価した理由をご記入下さい。】

(72) 地域ケア拠点の場所についての評価はいかがですか。（1つにマーク）

(73) 【問(72)でそのように評価した理由をご記入下さい。】



市社会福祉協議会の施策についての評価を、「満足」の高い順でみると、〈地域ケア拠点の場所〉が14.0%で最も多く、以下〈気軽に立ち寄れる憩いの場〉(12.0%)、〈身近な相談窓口〉(8.9%)、〈地域情報の収集・発信の場〉(7.8%)の順で続いている。

■「気軽に立ち寄れる憩いの場」への評価の理由

〈満 足〉

訪ねた事は無いが各ヶ所が開設した事に対して

場所的に良い

担当職員としてはがんばっていると思う

気軽に立ち寄って、相談や情報交換が出来大満足している

気軽に声かけが出来そうな奮闘気がある。

各地区サロンを開設し、参加者は満足しているようです。

利用状況の分析と利用状況の向上に取り組んでいる

いつでも利用出来る。

一人暮らしの方が世間話しですが帰りには満足して帰ってます。

そういう場所があるということはとても良いと思います。

数名であるがここをたよりとしている人がいるし、そう方々が増えつつあるように思う。

相談員が経験豊富でその対応が迅速である

施設の環境の良さと人的対応の良さ

各種の会議施設の中にあるから

地域ケアシステムが地域住民にイベントサロン等を通じて身近になった

数名であるがここをたよりとしている人がいるし、そう方々が増えつつあるように思う。

訪問者の方々の意見を第一に聞き手に徹する事に心掛ける。

相談員が常駐して相談に応じているため

自治会館で行われているサロン形式が身近でコミュニケーションがとれて大変良い

拠点が中心的な場所で行きやすく、心強く人とのつながりが強くなります

気軽に声かけられる

立ち寄れる場所があるて、話が出来たて喜んでいる人がふえている事が

相談員がいつもいて良い

入口は入りづらいが、駅までの通道で良い所。

気軽に立ち寄れる場そのものだから

憩い場ができたことは良い

いつでも立ち寄れる、相談できる。

地域にホットスペース（立ち寄れる場が）確保されたから。

サロン・ふれあい演芸会・交流会の成功。多くの障害の人や高齢者のケースを対応

来訪者の話をよく聞いて対応していると思います

サロンや笑和館・ホットカフェなどは多くの人が楽しみにしている

明るい雰囲気の中で対応している

手仕事サロンに多くの人が集り盛況です

手仕事サロン、赤ちゃん広場など利用者は多い

人の出入りが多くなった

年寄が気軽に来ていろいろ話して帰れるので非常に喜んでおります

非常に活発な活動、そしてその成果をたくさん生み出している。

近所の方の使用実績が有るため

〈 ふつう 〉

積極的に打って出ると言うが、窓口で来場を待つだけの姿勢が強い。

拠点に近い方は良いので

毎年の連絡会により理解

その様に思うから…

拠点の場所がどこか知っている程度なので

地域ケアシステムを知っている人が少ない。家から歩いて行くには遠い

今現在、出来る事はやってくれていると思う

P R 不足

地域の公民館に1室があり、気楽に立寄れる。

あることが知られていない。

まだまだP R 不足です。知られていない。

良く聞く声として入りにくいという

コンセプトは解るが、まだまだ知名度が低い

福祉委員にとっては入り易い場だが一般の人には戸を開けるには勇気がいる様だ

賛否両論。無駄ではないかと思う時もある

人数がまだ少ない

歩いて来るには遠い為か、訪れる人が少ない。

何となく一歩入る時が入りにくい。その人その人によりますが

まあまあ立ち寄りやすいと思います

立地条件が悪い

拠点のスペースが狭いので憩いの場としては使いづらい。

知っている人にとっては気軽に立ち寄れるが、知らない人もまだいると思うから

まだまだ、知られていない気がします。

度々立寄っている

わざわざ出向かなければならないし事前に申込んでおかなければならない

ちょっと遠くて不便

個人の立ち寄りがもっと増えれば良い。

相談者の来所の数が少ない。

P R 不足か、知らない人が多いのではないか。

不便な場所

個人の立ち寄りがもっと増えれば良い。

一搬の人は知らない人が多い

地域によっては遠方の人も居るので！

立ち寄る人が少しずつ増えて来ている

足の弱い人にはその場所に行くだけで大変です。

多くのお年寄りがいこいの家などに参加しているのを見かける

相談員の常駐

近隣の人々が気軽に相談に行ける。

場所的に入りにくい（特に一番最初が、、、！！）

憩いの場とは感じない

他の町の事はあまり知らない為

気さくに立ち寄れるふんいきが必要

相談希望者への拡大、P R の充実が必要

担当者が頑張っている姿は、良く拝見しますので。

相談員15ヶ所と、民生委員444人は多すぎると思う。

地域担当と公示されている立場から

数が少ない

新規のお客さんが少ないのは、何か足りないと常に思っている

催しの写真やパネルの提示で雰囲気が良くなった

あまり、知られていない 利用が少ない。

支援度がまだ足りていないと思う。

なかなか足を運んでもらえない、憩いの場が遠いのでは

あまり活性化されていないので？

同じ人が同じ曜日にきている、他の人も利用してもらいたい。

拠点が遠い人もいる。

知り合いが居ないと入りにくい雰囲気である。

一般に方々に知らせる様PRすべき。

数のうえでは多くなってきているが、まだまだ一部の人の出入りのように思う

担当地区より急坂で遠い為近隣であれば利用できるか

一度知られると気軽に立ち寄られますが、入りづらいとの声も有るので

気軽と感じる人は、いないのでは

八幡地区は市役所があるのであまり感じない

立ち入れる動機作りが十分でない

私は知っているが…知らない方が多いと思う。

団体活動が行なわれていると立ち寄れないだろうと思います

人員体制

気楽に入りにくい。

参加者に男性が少ない、参加者に偏りがある。

人があまり寄ってくれないので

気軽に立寄る人は少ない。

立ち寄る方は、同じ人が多く、新しい人こそ来てほしいので

良く活動して頂いております。今後の課題は？より良くするためには？

私の地域からはちょっと離れているのでなかなか行けません。

地域ケアシステム自体の存在があまり知られていないと思う

このようなものかと思う。

いこいの場としてのP．R情報の方法を検討すべき

公民館内にあり相談員も親切

来訪者が固定化しつつあるのでは。

立ち寄れる人はいつも来るが、そうでない人にとってはどうなのか。

開所して日が浅く地域住民に知らていない

ほんの少しですが、敷居が高い感じがする

周知されていない

拠点の活動内容を多勢の人達に周知されていないのではないかと

立ち寄ることが出来るケアハウスがあるから

高齢者が気軽に休憩場として立ち寄っている。

大洲防災公園のふれあいセンターが拠点へ行くまでが大変です。

公報をみて、立ち寄る事が出来る

利用する方が定着してきているから。

憩いの場は用意されているが利用度がいまいち。

地域住民にだいたい認知されて来たように感じている。

設置場所は人が集まる場所ながら入りづらい。

知られていないのでピーアールすることが大事ではないかと思います。

担当者のバラツキ（よく分っている人、勉強不足な人）

もう少し立ち寄り安い場所が確保出来ると良い。

場所等があまり知られておらず、知っている方は利用して

設備が調っていない。団体活動がある場合自由に出きない

各拠点に行く機会少ない為

立ち寄る人の固定化。憩いの場として、より立ち寄る人数を増したい。

相談した事がない

年度毎の福祉委員会の報告を受け評価した。

仲良し会の流れでメンバーに新人さんが入りにくい。

一部の人の活動の場になっているように思われる。

場所がどこにあるかしらない人が多い

遠方からの方が足が運びづらい事がある

入り易い

拠点の場所に問題があると思う。分かりにくい。不便

定期的に憩いの場があり、参加者はいつもいて、それなりの評価は出来ます

現在は利用可能だがもっと近くに同じような拠点があるとなお良い

今までも行っていますが、もっとアピールを。

まだまだPRがいきとどかず知らない人が多いと思う

気軽にと言っても心が弱っている人にはハードルが高い。

参加した方が楽しかったと聞いたことがある

情報発信が行き渡っていない

他地域でどんな活動を実施しているかわからないので各機関の取次でよいのではと思っている

立地の問題

場所が狭すぎる

良く立ち寄る

気軽に立ち寄れる構造にはなっていない。

利用する者が固定しているように思われる

土足のまま入れない不便さがある

立ち寄れる場としては満足しているが相談したりする場ではありません

相談者が多い

気がるには立ち寄れない感じがします。

〈 不 満 〉

場所がわかりづらい

憩いの場を目標としていたが車いす貸出事務室掲示の場と化してしまっ

ほとんど役員相談員の場である

憩い場として理解されていない。(良く分かっていない)

知名度が低すぎる。もっと知らせる必要あり

場所がとても不便である。私の近くの人ほとんど利用しない

実際に市民の立ち寄り少ない

(上記の目的・役割を担うのは困難) 周知度も低く場所がよくない

狭い

特におじいさん2人の日は、立ち寄る気にならない。

必要とされているのかどうか分かりません。現在の状況に不安はないのか心配

場がない為

高齢者にとっては遠すぎて行けない

わかりにくい、集みにくい

憩いの場としてのふん囲気が整ってない。

老若男女が立ち寄れるかと言われればちょっとそれは無

P R 不足

公民館開館日に都合を合わせる。非常に遠い方はどうすれば良いのか？

他と比べそれはまだ改善しなくてはいけないと

場所が悪く外からわかりづらい。

開設場所が不明

地域ケアシステムの拠点が少ないすぎる。

ほとんど前から出入りしている人だけしか来所していない。

寄り合拠場所通行の人に見にくい、室内が堅苦しい

遠くて不便

気軽に立ち寄れる場になっていない

気軽に立ち寄れる場所にはなっていない

最寄りの立ち寄る場までが遠く利用できない人も多いと思うので。

拠点が狭いため、気軽さを感じられない

他の活動に左右されたり、拘束が有ったり、気軽に立ち寄れる雰囲気ではないように思う

徒歩十分で行ける場所がない。

場所がわかりづらい、入りにくい。

お部屋の様子が見えず、入口の戸も、問題有り

気軽に立ち寄れる場所ではないのでは？

広がりがない

利用者がなかなか広がらない、敷居が高い感じがする。

場所がせまい。

認知度が低い

設備が整っていない。

気軽に入りにくい

気軽に立ち寄れる雰囲気ではない。

あまり協力的なことをしていない

市川東部はたてに長い地区で南部の方の地区の方には東部公民館は遠い

遠い

あまり周知されていないように感じる

東部地区は南北に広がるため、北側にある拠点には気軽には立ち寄れないため

まだ整備されていない 使い勝手が悪い

知らない人が多い。

仕事をしている人には、休日以外立ち寄れず、利用することが出来ない

場所が少な過ぎる。数ヶ所必要

相談員の高齢化で活動内容に片よりが生じてしまっている。

場所が遠い。閉鎖的で入りにくい

場所がわかりにくい

人が来ない、改善が必要と思われる

この場所か？と知るだけ（訪問者少ない）

PR不足

相談員として常駐していますが気軽に立ち寄る人がほとんどいない。

拠点が少なく偏在している。

部屋が狭く事務室化している

事務処理をする為の場となっている

場所が遠すぎる

私の身近にそのような場と考えている人はいない

〈 よくわからない 〉

訪れる人も連絡して来る人も実際のところ少ない。どうしてなのか？

誘われれば行くかもしれない

身近な相談でき、気軽に立ち寄れる場なら行きたいと思います

立ち寄ったことがないのでわかりません

もう少し広く、強くPRしてほしい。

利用した事が無いため

利用したことがない

機会がない

参加したことがない

活動の報告は聞いた事がありますが、行った事がないから

個人の協力を、あてにしすぎ

相談件数が少ない為どの判断か？

憩いの場がどの程度利用されているか、自分の情報不足もあり？その場所は一搬

利用したことがないので

今回から福祉協議会に参加したので何もまだわかりません

行ったことがない為

立ち入った事がない為。

他と比べられないので評価出来ない

参加した事がないのでわかりません。

自分で行った事がないので

場所は在るが、相談者が来ない理由が解からない。

そのような場があることすら知らなかった

地域によっては知らない人もいるので、地域内でも知ってる人もいる。

相談員が努力しても、立地が悪く、成果に結びつかない。

立ち寄った事がない

知らなかったため どこにあるのか周知不足だと思う

内容がよくわからない。

団体職員を併用しているため、狭い部屋では相談の場としては今のところよくわからない

訪問していないので判りません

地域ケアに行く内容が現在ない。

不勉強で実情を知らないので～

地域ケアシステムの拠点の場所や利用方法が住民に徹底されているか

憩いの場を利用した事がないので評価出来ない。PR不足かな！

生活上特に問題が発生した事がない。

利用した事がない

利用者が少ない

利用者の請求度が良く分らない

あまり活動に参加できないので

行ったことはありません。

住民に広く知られているようにはみえないため

利用経験なし。情報・内容の紹介もなし。

利用していないので不明です。

地域ケアシステムへの認知度が低いため、一般の人には拠点が憩いの場であるとの認識がない。

活動内容をよく知らない

活動内容がよく伝わっていない

日常的に人の流れがある場所ではないので望むことに無理を感じる

立ち寄ってないから

地域の人に知られていないので 場所もどう云う事をしているかも

行ったことがない

利用した事が無い

立ち寄ったことがないから

社会福祉協議会というものに今まで全く縁がなく存在すら知りませんでした。

■「身近な相談窓口」への評価の理由

〈満 足〉

常に相談出来る所があるから。

困った時相談できる場所があることはすばらしいことです。一人でも生きがい

相談員が常時居る事で

事務的な相談窓口でないところが良い

当番の人が親切に対合し笑顔で対合している

相談に適切に答えてくれる。

電話での相談に丁寧に対応してもらった。

訪れる方々が多くなっていると思う

対人関係が平等である。

親切

サロンの場でも必要に応じ身近かな相談が受けられるから

相談の結果、早い対応に感心しました

相談員が良くやっています

来くれる方々がほっとし、又よろこんで下さる方々が多いです。

気軽に声をかけられる

行政とのパイプ役が出来る事

拠点の認知度が高まった、愛称もなじみやすい

親切に対応してくださっていると思います

地区の中心地にある

相談員の方々の日頃の努力に感謝しています

相談者が少ないが、これから増していくと思うから。

裏通りで行き帰りに通る人々に周知されつつあり、立寄り人数も増加

社協、行政、高サポ等につなぐ事が出来ている

相談員の携帯によりサービス・提供側は充実して来ている。

一生懸命に対応しているところ

実際に利用した方がいました。

熱心に相手の気持になって取り組んでいる

だれでも立ち寄れて良いと思う

良く相談に乗ってくれる

良く話をきき、適確なアドバイスをして下さる。

相談員さん始め、関わっている皆さんがとにかく前向きで一生懸命。

近所の方の使用、実績があるため。

〈 ふつう 〉

行けば、問えば、親切ではあるが、それ以上ではない様に思う。

相談員さんは大変だと思います

毎月の連絡会により理解

あまり相談する人が少ない

何をもって満足と言えるか、一寸疑問

今、現在は、がんばってくれていると思う。

P R 不足

身近ではないと思う

相談は受けられるが、周知度・活用度は今ひとつ。

内容が知られていない。

身近とは言えないです。

プライドの高い人には入りにくいと言われる

入口が入りにくい、なかなか他人に相談しにくいと思う

深い問題は相談しにくいと思うが日々の暮らしの相談には良い。

井戸端の利用が多いがそこから発展する事を願う

ケアシステムが何か？分かっていない。

皆さん一生懸命やられていると思いますが、満足とは言いにくい

身近で相談しやすい

1 週内の担当者全員で判断した時、1 ヶ月の会議

ケアの場所の P. R が足りない

高齢者サポートセンターが目立つようになった。

市役所等に近い為か、相談窓口がある事を知らないのか

知らない人がまだたくさんいると思うから

余り相談に行ったという話は聞いていない

つないだ時の対応は迅速だが、身近かはわからない

P Rがまだ不足ではないかと思う

家庭内の複雑な悩みなどは、同じ地区に住む相談員には相談しにくい。

情報が地域全体へ普及しきれていない。

相談内容が単純である。

消極的な人は相談窓口を訪れることも出来ずに悩む

相談員として1日詰めているが、訪れる人なしの日が多い

実際に利用する人が少ない

相談者は少ない

本当に困っている人はなかなか出て来ない。

まだ、具体的な評価話を聞いたことがない

電話で相談できる。

気軽に立ち寄れる様に相談員の方々が工夫し努力している。

相談した事がない

相談希望者への拡大、P Rの充実が必要。

ほぼ満足できる拠点となっていると捉えているため。

自分だったら相談窓口に行くかなぁ！と思ってしまう。

担当地区の活動から

新規のお客さんが少いのは、何か足りないと常に思っている

行事の案内など相談に見える方がいます。

あまり知られていない、利用が少ない

余り知らないのだと思う

利用できる人にとっては助かると思うので。

あまり活性化されていないので？

最近は相談者の来訪が少なくなりました。

場所が遠いので行きにくい

なかなか、その場へ出かける人が少ない。

知らない人がいると思われる

以前より問題のある方は減っている様に思います。

上記と同じ。まずは来所してもらって世間話からと思っている。

人それぞれ思う事が違うので…

まず知らない人を無くすということに

地域ケアシステムが近隣に根づいてきて相談しやすい方だと思う

プライバシーの点から同じ地域の方には相談しにくいのではないか

相談目的が明解に出来ていない

知らない人が多いと思う

対応が良い

評価は相談者に聞くべきもの

相談はあまりない

相談件数が少ない為

良く言えば歩いて1km以内に？

相談事があればすぐ相談にはのってくれる、だが少し遠い

初めてのの方はどんな所か不安・高サポなどから紹介されると

相談員の研修等を実施すべき

比較的近い所にある

相談しにくる人はそんなにいない？

近くの住民には知られて居るが遠くの住民は知られていない

周知されていない

相談されたものがどのように解決に結びつけるかが課題

拠点の活動内容を多勢の人達に周知されていないのではないか

相談員がオールマイティではないから

用事がある時に行ける

皆が集まって話合う場所がある

利用した方の口込みで窓口を知ってもらっている

利用度がいまいち

何をしている所なのか尋ねて来る人がいたり、車椅子の貸出しも利用されている

設置場所は人が集まる場所ながら入りづらい

担当者のバラツキ（よく分っている人、勉強不足な人）

相談数が少ない

親切に話を聞いているため

拠点に近い地区では利用も高く普通である

場所は確保出来ているが利用者からの要望がまだ沢山ある

行く機会少ない為

相談した事がない

相談には、受けてくれると思いますが、休日等に公聴会を開いてほしい

年度毎の福祉委員会の報告を受け評価した

身近でない気がする

まだ一般の人に知られていないように思われる。

車イスを利用できるのを知りました。

相談件数は少ないが、いざというときの相談場所となっている

担当者は一生懸命やっている

まあまあの利用があること。

体制は整っているが場所が遠い為、相談者がなかなかお見えにならないが…

電話は、たまにあるが来所者は、ほとんどない

気軽には入れるが相談事は簡単には話せない

近くに、サポートセンターや役所があるので普通の流れだと思います

もっともっと皆んなに知ってもらいたいと思います。

相談者の話し場としてのストレス解消になると思う

担当されている方はしっかりやっているのだと思う。

件数が少ないので評価の仕様が無い

子育ての母親が相談に来ることもある

一般の方が相談に来られる方が少ない。PRされていないのではないかな。

可もなく、不可もなく

相談窓口の在り方を良く知らないので（他地域での活動を知りたい）

相談員が顔見知りだと来ない、何をしている所かわかっていない

相談員の専門知識の不足

気軽にお話が出来ること

相談者が多い

相談があれば行くと思います。

〈 不 満 〉

人が来ると事務の邪魔と云う役員が居る

近所で話す人はいないと思う（ほんとの事を）

プライベートな事で信用されていない

身近という感じではない。

相談にこられる方はとても少ない

「相談窓口」へのつなぎにはなるかもしれないが…それにしても経費がもったいない

私的に利用したい人がいる。

こちら側からの情報の一方通行でその結果の報告が来ない

どんな立場の人かわからない人に相談して、どうなる？

困っている人は本当にいるのでしょうか？待っていることに慣れている人達に不満

場所までの距離がある

予算もっと用意したら

相談ではなく傾聴は出来ているのでは

プライベートな相談者はほとんどいない。

場所がわかりにくく、入りにくい。

案内板もない所がある

相談窓口が不明

相談窓口が皆に理解されていない。

身近な相談窓口とは、とても言えない。いつも同じようなメンバーが牛耳っている

地域から離れているので利用が難しい

身近な相談窓口ではない

相談事も少ない

相談場所まで距離がありすぎる。

まだ認知度が低いようで利用者が少ない

現場での活動が不十分

P Rがたりないと思う。

何でも相談出来る雰囲気ではない。

相談員の質を高める必要があるのではないかな？

広がりが無い

相談の受手の研修不足、相談はあまりないが、もしあったらと不安

その都度名前、住所、TEL時間等を書くのがめんどろ

気軽に立ち寄れる設備が整っていないので相談しにくい

相談する場所が他に多数ある地区もある

知っている人は少ないのではないかな？

軌道に乗っていない

知らない人が多い

相談者が少なく、場所の問題もある。

場所が悪くほとんど来ない

ほとんど無し

相談者が来ない。改善が必要と思われる

この場所かな？と知るだけ（訪問者少ない）

相談窓口を開いているが、ほとんど来ない、事務所代わりになっている

相談は専門窓口へ直接行きたいのではと思います

相談者自身の地域内で相談に出向くものではなし。

遠い

相手の立場になった相談ごとを行政なりに飛ばすことの徹底をしてもらいたい

そう考えている人はいない

〈 よくわからない 〉

訪問する人や電話して来る人が少ないから評価のしようが無い

相談件数が多いのか少ないのかもよくわからないので

あまり相談ごとがないのでよくわからない

立ち寄ったことがないのでわかりません

利用したことがない

機会がない

相談したことがない

活動の報告は聞いた事がありますが、行った事がないから

どのように利用するのが理解出来てない

身近な？とすると行政の窓口だと思いますが、それ以外はあまり知らない

相談内容がわからないので

身近な相談窓口を利用したという話を聞いたことがない

まだ窓口に行ったことがない。

利用したことがない為

身近な相談窓口の場所が分からない。

体験していないので分らない。

参加した事がないのでわかりません

担当の意見などあまり聞いていない。

相談件数が少ない

相談事がないのでわからない

身近な窓口とっていない。地域ケアシステムが周知されていない

立ち寄った事がない

知らなかったため

内容がよくわからない

まだ相談窓口を知らない人多すぎる

活動に参加するようになってまだ経験が少ない

他の地域ではどうなのか、発足したとか、こんなものかわからないので

訪問していないので判りません

相談内容について知らない

利用した事がない

不勉強で実情を知らないので

相談したことがないので実際にはどんな相談を受けているのかわからないか

事業内容が理解できていない為

的確な対応が出来ているかわかっていない為

利用した事がないので評価出来ない、PR不足かな！

相談もなく、利用した事がない

利用者が少ない

どの位の人が知っているかわからない

あまり活動に参加できないので

行ったことはありません

住民に広く知られているようにはみえないため

利用したことがないから。

相談ごとが、少ないから。

市の市民相談窓口や福祉事業者の窓口、社協の窓口など、地域ケアの他に窓口が多くてわかりにくい

民生委員になるまで相談所のことを知らなかった

活動内容がよく伝わっていない

市に近いせいか相談に来る方が少ない。

ある意味相談事の件数が少ないと言うことは、良い事と理解したいと思いたい。

立ち寄ってないから

相談に来る人も少なく、ないと同じ

相談したことがない。

利用した事が無い

社会福祉協議会というものに今まで全く縁がなく存在すら知りませんでした

■「地域情報の収集・発信の場」への評価の理由

〈満 足〉

1ヶ月に1回ケアシステム会議を実施し、情報を交換
特に問題がないので
サロンやいろいろなイベントを催して人々の交流を促している
活動のPRとして、活動情報を提示している
運営に参加している
常に発信しているのですが
月例会の時点で市の機関の方々が情報を下さるので助かっています
気軽に立ち寄れる場所で情報も得られるなら便利なので。
定例会（2ヶ月に1回）は活発である
対応の良さ
ご相談をお受けした内容に応じすぐつなげる事が出来る場所
気軽に立ちよれる
部屋のレイアウトが工夫され収納も分かりやすい
公民館内にあり各情報紙パンフレットなどもあるため
相談員が熱心
サロン活動に参加しないと立ち寄な方が多い
本年は、困った時のアンケートから、便利帳を作成し、情報の整理もしている
色々な情報も速く取り組み、解決している
ケア室の近くに情報を知る場所があるから便利です。
サロン活動での拠点でもあり、人が多く集る。
たくさんのサロン活動や、イベントなど、取り組みが素晴らしい。

〈ふ っ う〉

サービス行政にはキリが無いという事か
その通りです
拠点の立地条件がふさわしい場所であるため
高齢者にはあまり感心がない。

利用者の考える事だから。

がんばってくれていると思う

相談員からの報告

一般的に知られていない。

何しろPR不足。皆さんには、もう少し時間が必要。

相談員だけでは限度があり、民生委員等他の福祉委員との協力が必要

情報は、共有し、協力する事は惜しまないが簡単ではない

拠点の中に入れば様々な情報が得られるが戸が閉っているので入りづらい

地域としての収集発信の場としては、満足と思い

もっと金だせよ、個人をあてにしすぎ

収集しやすい

会議特に全員の意見交換が活発である

認知度が低い、知らない人を減らす努力が必要

知らない人がまだたくさんいると思うから

かなり情報を得られる

掲示板に貼る程度では見ない人が多い

様々な会議等でのアピールはあるが受け取り側のアンテナが弱いかも

情報集収不足。

チラシ・ポスター等は多く告示しているから

一搬の人に具体的に分らないと言われた

公民館内にあることがよい

イベント等を行うと多くの人々が集まる。

利用者は限られている

ないと困るので。

成果が出ているのかと。

ケアの活動に充分に参加していないので、そう感じている

寄り合拠場所通行の人に見にくい、堅苦しい

新聞発行などの努力

担当者が良い

資料は集まっている

福祉委員さんががんばってくれていると思うので。

あまり活性化されていないので？

来所し、楽しい会話ができる

発信の場としては良いと思うが収集については良くわからない

発信が全ていきわたっていると思えない

スタッフが少ないのでは

自分自身がすべてを把握していないので

発信していることも知らない人が

来所者からの種々情報を得られる

地域住民への情報の提供などが出来ている

訪問者の個人情報収集に気配りする様心掛けする。

一般的な地域の情報が入手しにくい。

発信はしているが良いか悪いかの解答はない

地域ケアシステム

具体的な相談に直面したことがない

発信が不足だと思い

余り活動していると思いません

問題をかかえた人達の解決のために行動している

東部公民館の近隣の方には良いと思う

発信はされているが総会等の参加で細かい内容がわからない

資料、情報をタイムリーに提供して頂いております

情報量が多くなると相談員の負担が増す

チラシなどで周知しているから

もう少し時期の経過が必要と思う

室内、催物等のパンフレットが整理されて見やすい為

発信の場としてのPR不足

多勢の人達に周知されていないのではないかと

発信の場を増してほしい。

福祉委員は利用しているか？一般の地域の方々が気軽に利用しているわけ

集まって話合う場所がある

地域の方々に、もっと認知してもらう努力をする

公報を見て評価

P R度が低い、利用度が低い

寄合処の情報収集の充実、相手の教育等、良くなって来ているように思う

情報収集はできているが、発信が弱い

東部公民館内にあり情報収集は普通

地域的に市役所より離れているせいか行政の動きが遅く感じられる

地域の団結力が高いと評価出来るから

自治会長となってから周知したので、十分承知していないため

年度毎の福祉委員会の報告を受け評価した

場所があまり良くない。

認知度がまだ低いように思われる。

知らない人が多い。

広報紙で発信

活動を始めてまだ時間がたっていない。

まあまあのところかと思います

気軽に人が集まれる機会が少しふえてきたが家に引き込もっている人がまだまだ

評価の仕様が無い

情報は仲間の方々とお話して、地域で違いがある事が分った。

可もなく不可もなし

聞かれたことは答えられる。ちらしを発行している

車椅子利用者は多い

収集は出来ているが発信が出来ていない

行かないと知らない事もある

情報収集の能力が今一つ。

問題を掲げた方が少なかったから

知らない人もいるのでは…P R

大ていの方は社協からではなく、自治会、民生委員からの情報を考え

〈 不 満 〉

一部の人にしか利用されていないのでは。

チラシ（A4）多すぎる（ほとんど見てない）

どういう処なのか分からない

有効な発信方法がよくわからない

相談員の人材を考え、研修等が必要と思う。

個人の秘密の縛りが強すぎ、必要な情報が入手できない

何？いつ？と皆に聞かれ、説明してもわかってもらえない

P R不足だと思う

発信のシステムが不十分

個人的に発信されていますが、まだ努力不足かと

よく知られていない

発信場所が不明周知徹底を期待する。

皆に理解されていない

地域の相談者情報が示されない

サロンに関わっているメンバーの身うち、知り合いの人にだけ、情報が伝わっている。

普段は、回覧や掲示板での発信にとどまっている。情報収集はどうされ

自治会長・民生委員のみの収集・発信に終って

一部であって今からである

利用者が少い。広がりがない

収集も発信も出来ていない

地域の自治会などでケアシステムの宣伝を

担当者のバラツキ（よく分っている人、勉強不足な人）

軌道に乗っていない 整備されていない

その様な事を知らない

もう少し踏みこんだ情報収集が出来たらと思う

〈 よくわからない 〉

評価しようがない。

あまり行ってないので情報発信とかよくわからない

やわただよりを読でいます。

立ち寄ったことがないので、わかりません

P R 不足

機会がない

利用したことがない。

場所がない為、距離が遠い

満足になるには難し。

地域の情報・収集の中身が無い様に思う。

情報発信状態が分からないので。

これからだと思う

利用の頻度がわからない

よくわからないから

身近に感じられない

利用したことがないため

結果として聞いたことがない為。

体験していないので分らない

なっているとは思っていない

何を収集して発信しているのかわからない

良くわからない

立ち寄った事がない

知らない（活動している事を知らなかった）

内容がよくわかっていないため

聞いたことがない

経験が少ないので

訪問していないので判りません

広報誌など配られているので

人が来なければ収集発信は出来ないのでは？

具体的に発信された内容がわからないので

過去にどのような情報収集や発信がありましたか？

利用した事がないので評価出来ない、PR不足かな！

よくわからないから この様に評価するしかない

収集・発信の場？

良い事も何も聞く事が出来ないです

あまり活動に参加していない

行ったことがありません

特に関係（利用）していない

住民に広く知られているようにはみえないため

情報が入ってこない

わからない

利用経験がないから。

来訪者が、あまりにも少ないから。

掲示板がある訳でもなく情報紙を発行する訳でもないので情報収集発信の場になっているのかは分からない

知識不足でわかりません

活動内容がよく伝わっていない

社協についてのPR不足

その様な機能を果たしている様には思えない。

個人的にはケアシステムに“遊びに来て”と云っても広がらない

特に困っていない人々にはよく知られていない。

参加された方に直接聞いたことがない為

利用がない。

利用した事が無い

社会福祉協議会というものに今まで全く縁がなく存在すら知りませんでした

■「地域ケア拠点の場所」への評価の理由

〈満 足〉

近いから

地理的によい

近くの公民館に設置しており便利。但し、せまい。

場所的には最高

人通りも多いし、便利な所

以前より近くにできたので

生活道路に面しているので立地条件が良い。

商店街のまん中で、場所的には、いいと思う。

立ち寄りやすい場所

私としての住居からは行きやすい場所

交通の便、及び駐車所有り

徐々に理解されつつある。

相談窓口などが1ヶ所に集まっており連携しやすい。

設備が充実している。

多機能の複合施設になっているので、人々が集いやすい。

頑張っていると思います。

この地域は、高齢者が特に多いので、近くにあれば、心強い。

商店街の為人の通りが豊富

近くで買物の帰りにでも利用出来る

公民館を利用させていただいて有難く思ってます

自宅に近いという自分的に満足という事

人通りが多い場所である事

幼児・子供・ママ・高齢者の出入りが終日ある

設置場所に恵まれている

高サポ、サロン等がある

広くて、他の施設もあるので

地域の中心にあり良い

市川駅へ行く、メイン通り

出張所や公民館と同じ場所にあるのでわかり易いし行き易い

わかりやすいところにあるから

公民館内にあり各情報紙パンフレットなどもあるため

ほぼ中心部にある。

通いやすいロケーション

以前の場所より人通りが多い。

公民館は、よいと思う

場所は丁度よい所、いい場所。町の中心に近い。

人通りの多い商店街の場所が良いが、もう少し相談者が来られると良い

使いやすいところにある

買物帰り等に立寄れる場所にある

リーダがしっかりしているから。

裏通りに出き5年、立寄る人も増加し、利用者がぐんと増えた。

公共施設と同じ場所だから

大通りに面しており分り易い場所である

便利

場所的にはよい。

場所が無い所公園内でよいと思う。

来て下さる方大変満足しております。

気軽に立ちよれる、雰囲気が良い

車イスの方でも気軽に入れる、一階でこじんまりとした、あたたかな雰囲気が良い。

場所、建物の重要性からみて、すばらしい所です。

場所的にはよい。

〈 ふつう 〉

そんなものかという評価。

決められた場所で対応している。

わかりやすい 交通の便もまあまあなので

このくらいで良いのでわないか
住んでいる地域では一番良い場所だと思う
公民館の中にあるのは、便利だと思う
P R 不足
内容が知られていない。
場所的には、良いです。
商店街にあるということ！
参加利用する方が、どうしても片寄ってしまいます
場所を確保するのも大変なのでは。
だって金出したくねえだろう
公民館内なので行きやすいと思う。
判り易い場所のため
建物の中で何をやっているのかが見えない
拠点としては第二地区としては恵まれているが、各所属間の交流は？
地域の他団体ともっと関係性を深めた方が良い。
交通、足の確保に問題有り。
場所が悪いのではないかな。
交通の便が悪い。歩けない人が多い
スペースが狭い
場所が狭い
公民館にあるので
スーパーなど商店が多い所にあるので少しずつ人にわかってもらえる様になる
全ての人々に満足は無理！
一部の者のみの利用
私の住んでいる所から、少し遠いので近くのお年寄りが行かれない
皆さんからお聞きしているだけですよくわかりません。
一寸遠いのかなと
土・日が休みなのでどうかな

住民の集まりやすい場所だと思う

福祉委員さんががんばってくれていると思うので

あまり活性化されていないので？

範囲が広すぎるので拠点まで遠い。

まだまだ知られていないと思います

皆が利用していない一定の人だけ（いつも同じ人）

地域的に片寄っている、広過ぎる

一応公民館にあるので、当たり前という感じ

必ずしも全ての人に近い場所

広々して環境は良いが地域のはずれにあり利用しにくい方々が多勢いる

良いと思う

すこし狭い

遠方のためもう少し近くにしてほしい

初めての人には場所がわかりにくい

人の多い通りに面しているので良いが自転車、車を駐車するのが不便

何時も同じでなく変化も必要

地域ケアの拠点が、近隣住民の立地条件に合っている

訪問者の個人情報収集に気配りする様心掛けする

市川等、地区の居住者にとり一部拠点が遠すぎる

限られた場所のため

人が集りやすい場所として不適切

もう少し広いとミニサロンが常時行われます

団地の中だから

皆さんそれなりに参加されているようだから

まだ不備な点がある

早く地域密着につかづける。

少し狭い

狭くてわかりにくい

人目につかない、わかりづらい
適当な場所にある
現状しかたない
全体の中央に位置している
良く言えば歩いて1km以内に？
いろいろな条件もありそれがそろった所
地域格差があるので見直しすべき…
商店街に近くて寄りやすいが駅からは遠くバスの便などない。
近くの住民には良く知られているが遠い人達にはあまり利用されない
自転車等の置き場が少い
狭いのもう少し広い場所が欲しい。
拠点の活動内容を多勢の人達に周知されていないのではないかと
もっと便利な場所を希望しても無理があると思うから
拠点の場所増してほしい
いつでも集まれる場所。
公共施設であれば大体の方は知っているから
商店街に隣接してるため人達が多い。
大勢の方の利用がない
遠すぎて利用ができない
拠点を設置してもらえた点今後は課題
他の場所を知らない方が多い
憩いの場として、一息つける場がある広さが欲しい。
適切な所にあると思う
地域の中心的場所（公民館内）
わかりやすい場所にあるから。
年度毎の福祉委員会の報告を受け評価した
場所があまり良くないと思う。
利用する時に便利

公民館のひとつの部屋を拠点としている為、外部からそこに拠点がある事がわからない。

近くに越したことはないが、仕方がない

拠点は満足しているがスペースがもう少し広いと体操やカフェなどが出来る

目立たない。知らない人が多い

線路下の為、わかりづらい

私の地域からはちょっと遠いため参加する人はほとんど0です。

大きな道路に面しているから、わかりやすいと思う。

公民館の中にあるのは良いと思う

地域の中心に拠点があったら理想です

公民館はわかり易くて良いと思いますが東管野からは遠いと思う

車椅子利用者は多い

場所は良いが部屋が狭い

もう少し多くあると良い、遠い。

出張所（公民館）の中なのでわかりやすい。

消防署の上というのでわかりやすいのではないかな。

〈 不 満 〉

もっと目立つ場所の方が良いと思う

場所が不便なところ

拠点は市内で1つか2つで、お金をつかって沢山いうまい

部屋がせまい。相談していることを周知させない

歩いていけるところがいいのですが。

もっと点在させないと寄りにくい

現在の場所はた易く行ってみようという場所でない

わかりにくい、不便

暗い

数が少ないこと。

できることをもう少し伝えてほしい

特に初めての方は道路よりすぐ部屋に入れたらいいのではないかなと思う

入りづらい
拠点場所が不明周知徹底を期待する。
場所解りにくく、目に付きにくい。
その地域からやゝ不便な所
場所が不便です
地区の端っこすぎる
距離が長い
場所が地域の外れにある
一般の福祉委員に日常全く情報が届か
狭い、わかりにくい
遠地、存在不明
エリアが広すぎる
最近気軽に立ち寄れる明るい場所
立地、特に高齢者には不便
場所が遠すぎる
一部であって広がっていない
専門的な知識・スキルのある方が常駐する形が望ましい。
地域の端にある。入りにくい
自由に出入り、立ち寄れない
南部にもう一ヶ所設けた方がいいと思います
人が簡単に立寄れる場所ではないと思う
遠い
相談事があればすぐ相談にはのってくれる、だが少し遠い
場所が遠く（国府台スポセン）不便との声を聞いているので
拠点数が少ない
どこに設置されているか知らない人が多いのでは。もっとPRしましょう。
もっと多くの人に場所を知ってもらいたい。
東部地区では繁華街（交通の便の良いところ）に1ヶ所必要

認知度が低い
もっと、市民の目に止まる場所で開設できると良いと思う
場所がわかりにくい
エリアが片寄っている。地域の中心にない。
場所に偏りが見られる。
遠くに感じている人が多い。
大通り沿いでないので場所がわかりづらい
環線道路に面していないのでわからない
場所が遠い、閉鎖的で入りにくい
分かりにくい、不便。
通りから入り過ぎて場所が解かりにくい、ケアシステムに見えた方も拠点の場所
場所が遠くて訪れる方が少ない
場所が悪い
場所が分かりづらいし部屋の中が外から見づらい
不便
もっと近くにあれば良い、小学校区1つぐらいの範囲であれば利用しやすいと思う
場所の認知度が低い
集まりにくい場所
町の中央に無い、地域全体として来にくい、入りにくい
場所の立地が良くないのではと思う

〈よくわからない〉

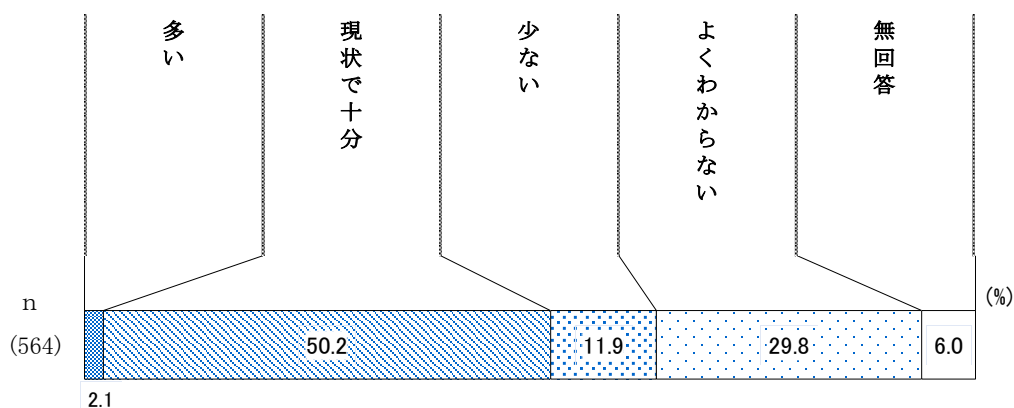
わかりません。
利用してない
機会がない
知らない
場所までが遠い
勉強不足で、場所の把握がつかめていないので。
他の地域との比較情報を知らない

よくわからないから
利用者がどの位いるのかわからないので
本当にわからないから。
必要経費等の様子がわからない
利用したことがないため
良く理解できていません。
どの程度その場所を知っているのかわからない
担当地区より遠いし、急な坂で年配者にはきつい！ので利用できない
立ち寄った事がない
場所がわからないため
内容がよくわからない
利用する人が少ないので
分からない
一般の方の認識がわからない
あまり知られていない。
看板を出して存在をアピールする事が必要では？
拠点場所があまり知られていないと思う。
ふれあい？のこと？
行ったことはありません
住民に広く知られているようにはみえないため
場所がわからない
知識不足
情報不足で評価が難しい
場所を余り知る人が少ない（委員の説明アピールが少ない）
利用した事が無い
大抵の人は社協の活動を市または民生委員の活動と考えている
社会福祉協議会というものに今まで全く縁がなく存在すら知りませんでした

(2)「てるぼサロン」の数への評価とその理由

(74) 市川市では、誰でも参加できる集まりで、各地区社会福祉協議会で承認された取り組みを「てるぼサロン」と総称しています。平成28年8月現在、市内に115ヶ所開設されています。てるぼサロンの数については、どのように感じますか。(1つにマーク)

(75) 【問(74)でそのように評価した理由をご記入下さい。】



「てるぼサロン」については、「現状で十分」が50.2%を占めている。

〈 多 い 〉

近くの方がいつでも行けるよう多い方が良い

数は115ヶ所と充実していますが、担い手が減少しつつある。

数より内容を充実してほしい。

毎週活発に活動している。

〈 現状で十分 〉

非常に活躍していることを理解している。

サロンに来る人はほぼ決まった人で死亡や施設入所で減っている

数だけで内容が問題で、充実している所も数多い

115ヶ所あれば十分でないかと思う

増やせば良いが、本当に必要かどうか考えるべき

数だけではないと思いますが、それでも十分だと思います。

参加者数を見て

PR不足
人的確保を考えて
ある程度、ジャンルが網羅されているから。
サロン活動に差が有る様に思える。今後は、充実をはかるべきだと思う
新しい参加者を
1つ1つを充実した方が良い
十分活動していると思います
100ヶ所を目標にしていたので十分かなと思う。
興味のある人しか参加しないので十分です。
数が多くなりすぎても手助けする人の確保が大変
場所確保が大変
①スタッフがいらない、②参加者が少ない
数だけ多ければいいとは思わないから
掲示板を良く見る
現状で十分。
運営するスタッフが（これ以上増えると）足りなくなる。
多くなりすぎる事による内容の底下が問題となる。
サロン主催者や場所の確保がこれ以上は困難かも知れないから。
同じ町会で同じ場所だと、片寄ってしまうと思う
趣味的な集まり、健康維持、子育て支援のテーマを実施し充分
内容についての改善をしていただければ
数だけ増やしても内容が問題、毎会同じメンバーが集る処では不平等参加するには勇気がある…の 声も
あまり増やしすぎると手伝いの人の人数が足りなくなってしまうのでは？
場所の確保も難しいので
現在かなり活発に活動している
担い手が足りていない。
数より内容が大切だと思う
利用者は殆ど同じ。

参加者が固定化されている

利用している人は、そんなにいないのではないかと思います。

スタッフ、協力者充分に確保されれば良いが現状では無しではないか

そんなにあるとは知らなかった。

多すぎて充実しないと思う

設置場所・関係担当者不足。

内容が問題なので115ヶ所で良いと思います

内容の充実を考えた方が良い

あまり活性化されていないので？

参加される方は何箇所も行っています（一人で）

あまり多くても参加する人がその分増えるのか疑問

近くのサロンのみではなく他地区のサロンにも参加出来るので。

今一つ参加者が少ない。

外出をしない人が多いその為1定の人だけになるから。

場所ばかりより内容の充実

現サロンを充実させた方が良い。

もっと知らしめるべきである。

必要な市民への取り組みが不十分

一部の限られた人のためのサロン、これ以上携わる必要ないと感じる

新しい参加者が少ない。

継続するにマンパワーが必要ですそのパワー継持がむずかしい

現状で十合としたがこれからは、ゆるやかに増加で良いと思う

同人物が何か所もサロンに通ったりしている

数ではなく、その地域にない所は増やす。

自治会内の人達でよいのではないか

これだけあれば希望するサロンが見つかるのではないか

全体がわからない！！

あまり数を増やすよりは、内容の充実と担い手の確保が必要

ある一部の人で成り立っているので人材不足では？

市川市の大きさに対して現状で十分と思いました

市川第1地区としては既存6ヶ所あり、これで十分と思う

現状でよい

妥当だと思う

目立つ看板があれば良い

多すぎると手が行き届かないと思う

これ以上いらない

多い方がよいとは思いますが、地域の実情による。

十分だと思う

参加人数は不安定

何ヶ所作っても出席する方は増えないと思う

私の地域では1ヶ月に1回で十分です

運用人員と場所がない

各々場所に参加出来る人と、そうでない人がいるので現状でよい

目標に達してすごいと思う。

その地域に必要とされるサロンがあれば充分

充分、機能している。

来所者が限られた人数だと思う

数よりも質と考えているので

数よりも充実させ、多くの人数を集めることが重要と思う

相談する方や相談員の、現状での数からみて。

数を増すより充実が望ましい。

詳細には分かりませんが十分と思います。

多すぎると手伝う人がいなくなる。

サロン2．3ヶ所を掛け持ちしている人もいる。

自分の地域でも10ヶ所あり、どこにでも参加が出来るところがよい。

一つ一つを充実させる。

携わる人材も高齢化しているし、十分だと思う。

たくさんあります。

特定の人をみの活用だ広く宣伝し多くの者が、利用出来ると良い。

多くの方に認知されればサロン数は多い

サロンはマンネリ化してきているので

サロンの管理が大変

115ヶ所有っても個人的には10ヶ所位しかわからない

てるばサロンの活動をまだ理解してない

あまり増やすとお金がかかるのではないかと思う

参加者が増えていない

「数」を増やすより「内容の充実」への社協の協力体制が

これ以上増やす必要はないと思う 予算がたりない

数を増しても参加する時間がない。

参加したいが時間がない

参加者が固定していると聞いたから

活動が活発

よく活用されている

サロンの充実を図っていく為には今の現状で良いと思う

余りあり過ぎても人の集まりが悪くなるのでは？

分担し各々頑張っている所以現状の数で良い

活動費が少ないのにサロンが多いと費用がかかる

第一だけでも、6ヶ所ある

良くやっているといます。

徒歩15分程の所にあれば良いが、多く設置しても利用者数は変わらないので無駄と

人手が少ない

場所が無いのに良くやっているとと思う

あまり多くしても来所する方はだいたい決まる

これ以上増しても場所、人手の問題がある

十分だと思っている

場所もないし、男性、女性、まあまあ出て来ています

サロン数を増すより内容を充実していく方が良いと思う

非常に良く活動していると思います。

大柏地区は盛況である。もっとほしいが、場所や担い手を考えると、現状の維持がベスト

あまり、多くても、利用しなければ、意味がないと思います。

各々機能しているから

現状のテルボサロンをもっと充実させた方が良いと思う

もっと多い方が理想だがサロン運営も大変だから

これ以上適当な場所がない

これで良い

〈 少ない 〉

広い地域なので数が多くあると良い

もっとあって良いでしょう。

歩いて行ける所に開設してほしい

高齢者の方はあまり遠いと不参加

もっと細かく活動出来る様に数を増やした方が良い

地域的な人口に対応されていない。

一定の日しか使用出来ない。

場所をさがすのが難しい

場所がわかりにくい、趣味がかけ離れている

運営者の問題はあるが、1つの町に1つあるとうれしい。

活動の盛んな地域との差がある。場所がない為か？

もっと近くであつたら行けるのという声が出ている。

できるだけあつた方が、住民も集まりやすい。

女性の参加が多い。男性が参加できるものを

地域によってムラがある。

2自治会地区に1ヶ所はある方が良い

市内自治会は225団体、それからしたら半分。

もう少しきめ細かやかな場所づくりを望む

地域的に片寄っている。

少ないけど分りにくいので、大きく明確に。

徒歩で立ち寄りできる範囲にサロンがない

各地域に設置がよい

様々な種類のサロンが多数あった方が選択枝が増えてよいのでは？

少ないと思うが運営する側の人数が足りない

現状高齢者を集める場所となっているが、地区によっては、20分位かかる

地域的に参加できる近距離にあると良い。

各人の体の具合や趣味の違い、時間帯等があるので、もっと必要かも

地域の特色を生かしたサロンがもっと増えるとよい

いくつかのサロン活動が発足しているが「てるぼサロン」に認定されて

少人数で話し合いをしてくれたり、しゃべり合って作る

歩ける範囲にもう少し広げたいが場所、人の対応に不安あり

当地区では少ないため

活動希望があれば内容審査して受入れるようにする

男性が関心を持てるサロンが少ない

歩いて5、6分で行ける所にあると行きやすい

入り組んだ地域なので中心に来る事が困難

知っている参加者が少ない。

開催を知らない人が多い

もっとあった方がいい。

〈よくわからない〉

当地からは交通等不便で利用するには個人による。

元気な人の集まり、家から出られない人は

ニーズがどの位なのかもわからないので

知らない

家族が居ますので外出する事はあまりしたくない。

めんどくせえ

私としては近場にあり利用しやすい

てるぼサロンの利用が、多いか少ないか？地域の格差がある？

開催されるところが遠すぎて参加しづらい

需要と供給の割合いが不明

てるぼサロンの活動内容が良く訳からないので

参加した事が無い。

よくわからないから

存在を知りませんでした。

本質は行かない、行けない人の問題だと思う。

全体の活動の全てを理解していない

てるぼサロンの言葉、活動内容等、初耳の人がほとんどです

参加したことがないので実感がない

参加した事がないため、よくわからない

多いか少ないかわからないが、楽しく参加している方が多い

参加した事がないのでわかりません。

てるぼサロンの内容を知らない人も多いのではと思いますが。

社協がどの程度を目安にしているのがわからないので。

サロンの数はそれなりにあると思うが、開催場所がもっとあちこちにある

活動を良く知らない

近所の人の集りみたいで遠くの人には行きにくい

内容の要検討

老人会・婦人会が活発なところではサロンがある事によってわずらわしさがあるのでは

「サロン」が近くにあれば皆さん参加できるのに

多いか少ないかではなく集まりやすいかが問題

活動内容が不明

ポスターは見たことがあるが活動内容がわからないため

冬場所でどれくらい利用されているのかわからない

これからも開設される事を望みます。

参加したことがない

各サロンの情報を把握してないので

予算がブアー。他所では余り物を次回に用いるとか

自分の地域のことはわかっても他の地域のことまではわからないから

利用人数などの情報もなく、判断不能。

ニーズと数があるかどうか

115ヶ所が多いか少ないか判断できない、地区毎でも差異があるでしょう。

一部のしか知らない。利用していない

場所を増やせば、それだけ参加者も増えるのか疑問。

全体を見ていないので地理的・人口的に等わからない

自分の地区のことしかわからない

115の数に驚く

比較の要因がない

多いのか少ないのか分らない

何とも評価できません

場所がわからない

わからない

実際に参加、利用している人は少ないのでは

他地区のてるぼサロンの活動内容がわからない為

数が増えても参加者が、同じ人だから。

利用者にとっても、運営する側においても、サロンの開設数を評価する事にどのような意味があるのか

比較対象とするものが無いので、判断できない

サロン1ヶ所にどの位の人がいらっしゃるのが、わからないので

今、現在のサロンの状況をみて、参加者の人数に大きな変動がなければ良い

実際にサロンを必要としている人の数がわからないので。

参加されている方々の意見をあまり聞いたことがない

増やした方が良くと思うが運営要員がいらない

利用されている方達の人数が把握出来ないのでは

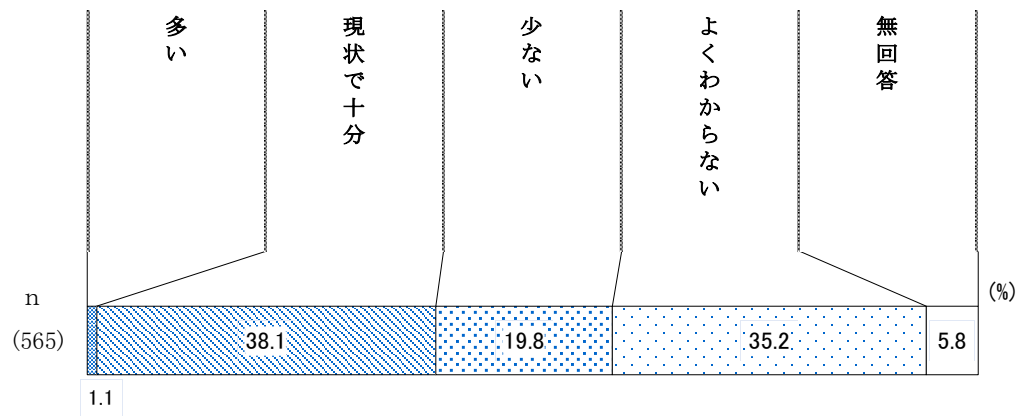
把握してない

多いとも、少ないとも現状で十分とも言えない。必要とあれば不足だと思う。
行っていないのでわかりません。
文字通りよくわかりません

(3)「てるぼサロン」への助成金の評価とその理由

(76) てるぼサロンに対して、行政・社協より助成金を出しています。(1サロン、1回、市：1,000円 社協：2,000円 合計年間36,000円上限)(1つにマーク)

(77) 【問(76)でそのように評価した理由をご記入下さい。】



「てるぼサロン」に対する助成金については、「現状で十分」が38.1%を占めている。

〈 多 い 〉

有効に使われていない、同じ仲間だけが使っている
囲碁、将棋のように同好会と変わらないようなものも有る

〈 現状で十分 〉

内容を理解し対応している。

茶菓子は食べずに持って帰る人が多いので、現状で充分。

多少は自費が必要、面倒みすぎ

あまりお金を掛けないで楽しむ方法を研究する

通常はそれで良い。何か特別な事をする時に追加を。

多い方がよいと限らない

妥当

活動に対してはボランティアなので資金は使う気になれば上限がなくなる。

費用はサロンによっていろいろなのでとりあえず今のままでいいと思う

金額は分かりません

参加する方々からも参加費を頂くので。

日常活動には十分かと思うが、イベント時は増額してほしい

なければならないなりに出来る

有意義に使わせていただいております

キリがないから

特にサロンの会計報告を知らない

智恵を出して工夫すれば良い

金額が大きいと負担になる。

参加して欲しい人が参加しない

参加者が固定化されている

人数が定まっていないので

多い方が良いが現状で十分です

あまり活性化されていないので？

金額に合う活動を実施して行ければ良いと思う

範囲内でそれなりに考えて行っています

このくらいがちょうど良いと思います

現状では人数、回数を考えると良いと思う

受ける人の負担が少しあってもよいと思う

講師謝礼金もボランティア価格の感じであるが、互いにそれでよしとなっている

必要な市民への取り組みが不十分

一部の限られた人のためのサロン。これ以上携わる必要がないと感じる

予算内で運営している。

会場費は自治会館を利用して（無料）いるが

サロン運営の経験がないのでお茶代と判断しました。

現在のサロン内容では良いと思う、今は増額しても無駄と思う

その範囲内で出来ているから

現状で十分です

その中で活動を計画しているので

講師料等運営には現状程度で充分と思う

一回30名参加したとしても年間平均で30名位だから

助成金に対する参加者の増員が見込まれていない。

市川市の大きさに対して現状で十分と思いました

サロンで活用させていただいています

100ー頂いております。参加者より

なんとか足りている

上限で十分

適度と思います

来られる客の人数が増えると厳しくなるのでは？

十分やっていっています。

1回3,000円でできると思う

なるべく使わないよう気をつけている

多ければありがたいが限られた中で運営すれば良い

使い方を考えればよい

事業内容、担い手によってピンからキリまで。当分今のままでよい

サロン内容によって、不公平性はある

材料費にお金をかけない方法で実施しているので現状はよい

助成金内でやりくりしたいと進めている

サロンの現状からすれば十分

充分です。

お金をかけ、講師をよんで開催する必要はないと思う

お金を掛けないで行う方法を考える事が大事ですネ（でも多少は掛りますね）

何でも助成金は再考の余地があると思います。

現状で良い。金額には関係なく好みによる。

助成金の中でやるように。

詳細には分かりませんが十分と思います

適当な金額と思う。

切りがない。予算内で工夫すること。

公共の会場費も値上げしているので大変そうだが、サロンの内容によると思う

回数も内容からみると現状で良いと思う

運営に当り金額的には間に合っている

特に不満が出てないから

各サロンとも節約して活動している。場の確保が出来れば充分

拠点で支出を考えて使えば十分

サロンの目的、人数から見て妥当と思う。

ある程度、利用者負担も必要

活動費はそれ程かからない為

妥当だと思います

他団体の活動との兼ね合いから、場所的に現状でいいと思う。

予算的に厳しいのでは。

ある程度は、個人負担でも良いと思う。

サロンの1回の開催経費は茶菓子代、材料費などで3千円程度で納まっている

良くわからないがその程度で良いと思った

足りない部分は地区社協から出す事が出来る。

できるだけ経費のかからないように工夫している。

不足分は会費をいただいておぎなえば良いのでは。

余りお金があり過ぎても内容が難しくなるのでは？

サロンの内容から見て丁度よい額でないか

サロンの内容が各々違うか現状で行っている為

1回3000内で収まる位で良いのではないかと思う

交流とか憩いの場としての役割なら十分と思います。

助成金の範囲内でやれば、良いのでは。

今ですか考えております

参加する方にも何百円かお支払いしてもらった方が良い。

お茶代位もかかっていない

足りない分は創意と工夫で対処すべきと思います。

サロン柏井においては、参加者が多いため、現状でO. Kです。

サロンの種類によっては少ないかも知れませんが。

参加費も集めていたから。

お茶だけで充分

現在の活動で十分と考える

〈 少ない 〉

参加人数による

もっとかかります

参加者がふえれば足らなくなるのでは

今は、人数的には良いが増えると少し厳しいような気がする

少ない分は、考えて材料を選んでいる

いろんな企画が出来る

サポート者一人当りにすると少ない

活動を充実させる必要がある。

会場費・講師謝礼等を払うと、会費徴収をしていますが、不足時がある

今迄のやり方を継続するには無理がある

相談員には原則として手当はないので、協力者が少ない

金額がより上がれば異なるサロン活動が出来る

色々とお金がかかる。

参加人数にもよるが、月に一度では

多くても意味がないが、使われ方が理解できない。

材料等は寄付、提供品等でやりくりしているのもう少しほしい。

人数を増やしていく為には、少ないと思います

開催内容によるがもう少し予算が欲しいと思う。

毎月のサロンの費用に苦勞している。参加費は上げたくないの

内容によりことなると思われるが、参加人数も含め問題あり

サロンを開設のための諸経費を考えるともう少し増やしてもいいのではと思うから

もっと多数の企画をしてほしい

1 回当りの参加者の増がおきている。参加者の人数を考慮すべき

多い方が良い

少ない材料費なので物品の寄付でまかなっているのが現状

人数によっては、お茶菓子代でも足りない！

家賃等に支払うため。

サロンの充実化

30 人のサロンでは1 人100 円なので少ないと思う。

参加人数が定まっていないため

現状は個人、自治会が援助している

現経済状況から十分な運営するには不十分。

ボランティアに頼らず人件費も出してほしい

あれば活動の幅が増えるのではと思うので。

もっと色々な活動が出来るかと思う

同日、同場所という事で二つの行事を一つとみなされていること（午前午後参加者はちがう）

活発な活動には資金が必要

手作りサロンの材料費等で思う材料が使えなくて残念です。

集まる人数によるのでは、ないか

相談員への助成であり通常2 名で行うため1 人1 日¥650

高齢者が多いのでサロンが終った後、お茶を飲んだりおしゃべりする時間が無いので

サロンの内容により変化（助成金の）があってよい。

講師への謝礼材料等に限度ができてしまうので。

予算がプアー、他所では余り物を次回に用いるとか

私の地域は出席者が多いので足りない25名以上

夏はクーラー、冬は暖房等電気代・お茶・菓子等の接待でもう少し増額

サロン活動の活性化を図るためには少し少ないと思う

持ち出しのサロンが多いと思う。充実させられないというマイナスがあるのでは？

拘束される相談員の時間外手当

ボランティアで協力している人の負担を思うと、気の毒なので。

少なすぎる、自費を出している

参加人数の多いサロンは、運営も大変そうです。

参加者増に対応出来ない

講師の負担をお願いしているため少し助成金を増やしてほしい

十分な活動が出来ない

もう少し多くても

テーマ毎に審査して活発な活動には増額

収支報告書等により

活動する為には備品を揃えたり、経費がかかると思う

参加人員によります。

材料費にお金が掛けられない

不足しているときいた。

お茶代しか出ない。コピー代を払えない。

自身でサロン活動を運営したが、もう少し助成金が多いと、より活発な運営が出来ると思う

〈 よくわからない 〉

助成を受けていないのでわからない。

利用者が多いのであれば良いと思う

金額より会場の確保が必要

集金するのがいやになる

多くの種類があるが、一律が適当なのかどうか

評価するのは私では無い。

各々のサロンの内容や収支などがわからないので

会計のことは、やっぱりわかりません。

利用機会がない

必要ないと思います。

直接かかわっていないので、よくわからない。

実際かかわっていないので。

めんどくせえ

どの程度必要なかわからないので

開催回数によって異なる

サロンの開所に経費がどの位かかるのか、赤字になる様なら場所にもより

使い方を知らないので何ともいえない

てるぼサロンの活動内容が良く分からないので

金銭的な事はわからない

場所やどんなことをする所なのか一般の人はわからない、PR不足

参加した事が無い。

よくわからないから

存在を知りませんでした

平等ではないから

組み立て基準や必要費用の否か

お金が出ていた事も、知りませんでした。

115ヶ所でどのような事でどれぐらい予算があるか知らない為

会計のことは分かりません

活動に参加しているわけではないので分からない。

正式に聞いていない

十分かどうかわからない

内容をよく知らないのでわかりません

運転資金が個人負担なので、なかなか大変である

活動内容によっては少ないだろうし、使わないサロンもあるのでは

助成地域の会計に入ってしまうのでサロンの運営側としてはよくわからない

自分がサロンの企画に参加しているわけではない

活動を良く知らない

実施内容の定量性が判断できない為

お金についてはタッチしていない

助成金の多い・少ないはサロンのやり方次第でどうにでもなる、基準？

その助成金が運営するに当たり、充分かどうかわからない

活動内容により判断すべきと思う

細かい助成金の使い方が良くわからない。

内容を知らない

内容によって、多い少ないは違ってくると思います

使い道で、金額が決まると思います

参加したことがない

無料にて事業している

活動内容によるので一概に言えない（参加人数にもよる）

行っている内容によってもかわると思うので一概に評価できないから

各サロンで使用用途が違う、菓子とか使用料とか

サロンによって違うと思う。

どの位の経費が必要かわからない為

一部の人しか知らない、利用していない

それは知りませんでした。

当サロンでは、今のところ充分だが…他のサロンのことは、分らない。

それぞれのサロンからの声を聞いていないので現状がわからない

もう少しゆとりがあってもいいがとも思いますが…？

お金は不足ですね

直接かかわっていないのでよくわからない

関係していないので

多いか少ないか判断できない

わからない

サロン代表者ではないので、実状はわかりません。

利用者の数により違いがあっても良いのでは？

他地区のてるぼサロンの活動内容がわからない為

参加人数が増えると支出も増えるので。

比較対象とするものが無いので、判断できない

サロンの内容によっても違うと思う

サロンに参加する人数に比例して欲しい。

一律で助成金を出す事が望ましいとは思わない。

実際にてるぼサロンを企画している方、又参加される方の意見が重要でしょう。

活動内容によって違うと思うので。

よくわからないから

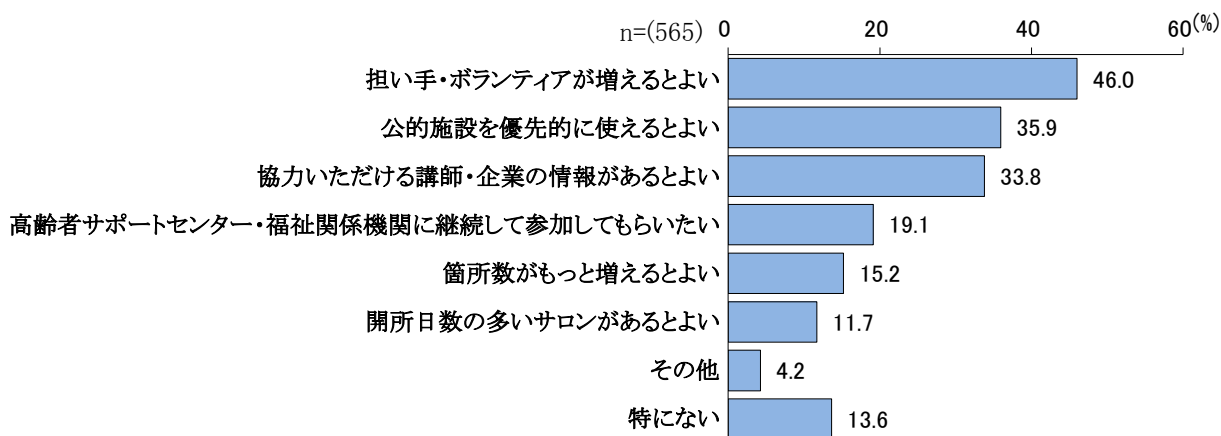
サロンによりが多く集まる所と少ない所があり不公平だと思う。

十分か不十分かわかりません。

文字通りよくわかりません

(4) 「てるぼサロン」への期待

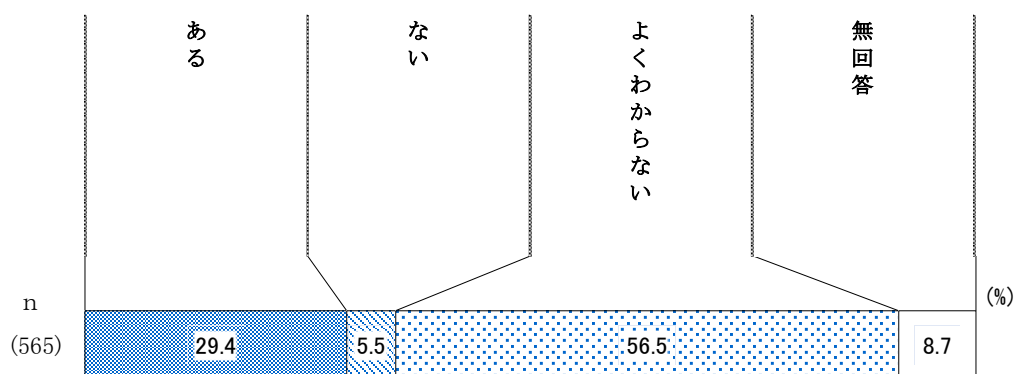
(78) てるぼサロンに対して、今後どのようなことを期待しますか。(あてはまるものすべてにマーク)



「てるぼサロン」に期待することとしては、「担い手・ボランティアが増えるとうい」が46.0%で最も多く、以下「公的施設を優先的に使えるとうい」が35.9%、「協力いただける講師・企業の情報があるとよい」が33.8%の順で続いている。

(5) 所属する地区社会福祉協議会で成功していると思われる事業の有無

(80) あなたの所属する地区社会福祉協議会で成功（成果が上がっている）と思われる事業はありますか。(1つにマーク)



地区社会福祉協議会で成功と思われる事業が「ある」が29.4%となっている。

(6) 成功事業名とその理由

(81) 【問(80)で「ある」と答えた方のみその事業名と理由をご記入下さい。】

いきいきセンターを多くして行ってほしい

毎月連絡会が開催されており、更に十分に詳細の説明発表が行われており、成果が上がっている。

てるぼサロン

ふれあい会食会、コンサート

グラントゴルフ大会

菅野、須和団地区オリンピック（過去2回実施）これは、発展すればかなりの成果を期待できると考える。

医師等による、医療に関する講演は人が集まる。

バス旅行

高齢者が集って行う「ふれあいの集い」。出演者と高齢者であることが良い。毎年の楽しみになっている。

ふれあい食事会で独居老人の皆さんとふれ合うことができた

映画を楽しむサロンができた事。今後更に発展すると良い。

囲碁・将棋（男性の参加する事業が少い中での成功例だと思います。）

グラウンドゴルフ

ふれ合いコンサート、高齢者食事会などで定期開催。地区社協として、5年間の実績を積み上げている。

高齢者と子どものコラボ事業。

「継続こそ力成りで」福祉コンサート等。（回を重ねていってほしい。）

ぴよぴよクラブ、お母様達の友人作りの場として成功している。（顔が明るくなって帰える）保健師さんの育児相談には、列ができています。季節にあった情報が得られる（ワンポイント・アドバイス）

てるぼサロン

10年以上も続いているので必要とされていると思われる。

ここ1～2年、福祉活動が地域の方々に少しずつですが理解されて来ています。

てるぼサロン

もものこ

ふれ合いの集い、年1回ではなくて2回ぐらいあっても良いと思います

ぴよぴよクラブ 若い母親たちが子供と一緒に楽しんでいる
手芸ふれあいサロン 月一回のサロンを友達とおしゃべり出来ると心待ちにしている人が多い

お買物電話帳

地域ケア南行徳 毎月第1木曜日に相談員全部と行政と社協で連携していった情報の共有化を実施している。
文化祭バザー参加、13回目となるふれあい演芸等で地域コミュニティを上げられていると思う
ふれあいセンターまつり。事前準備や当日の手伝いのボランティア人数が年々増えており頼もしい限りです。
ふれあいサロンD a i 2 参加者が増えてきている。
高齢者サポートセンターが身近になった。
ふれあい七社めぐり 参加者どうしが長距離を一諸に歩く事により、懇親がはかられる。
健康関係において、病院とコラボして、毎月1回実施（先生より講話）
「ふれあい七社めぐり」この地域の歴史を探究しながら、神社参拝とウォーキングの健康づくりも出来る事が素晴らしいと思うから。
少しずつ参加者が増している。
いこいのサロン国府台 参加者の皆様が毎回喜んで出席してくれて段々と人数が増えている。役員の企画が良いからと思います。
ふれあい支えあい事業（お互いさま広場など5つの行事を推進） 会議（集会）事業一年間26回開催ー活動内容の共有化を図る てるぼサロン事業ー拡充と実施推進 年間1300人の参加となる
手芸サロン 楽しみにして毎回参加者が多く参加している
年に何回かの行事はみなさんのしんで参加されています
サロン活動
てるぼサロン 人数の集まりが多く会場に入るのが大変である
てるぼサロンまつりの開催
福祉コンサートを毎年楽しみに待っていてくれる！
サロン部は参加者が多い
法伝寺サロン
年一回の新聞発行。（情報、地域の紹介）
ふれあい落語会 ふれあい会食会} 多数の参加者により交流の場となっている。
市川第二地区社会福祉協議会 地域ケア市川第二
防災マップの配布
てるぼサロン
宅配電話帳 洪水マップ 地域に合った事業を皆で考え、手作りで
親睦旅行・オープンゴルフ等で協会の人達ガンバっています
地区拠点、サロン活動、防災拠点 自治会との連携がよくとれている。

笑和館 男性の参加者が多い 参加者の1／3位
継続しているサロン活動、協力者が居る
バザー、ふれあい演芸会等
「サロン」が定着して出席していただいている高れい者が顔見知りとなり普段でも行き来するようになったと聞いているので。
そば打ち（参加希望者が多い） 障害者の実態を知ろう、知らなかったことが理解出来た。
手づくりサロン、昼食会、絵手紙、赤ちゃん集まれ、赤ちゃんニコニコ 事情のある方々の少しではあるが前向きになり始めている様子は嬉しいです
ふれあい会食会（特に独居高齢者の交流の場として楽しみにされている。
成功したサロンが現在残っていると思う。
男子の料理教室
折り紙
てるぼサロン
地域ケアシステム推進連絡会議 会議が充実してきて、最近ではお互いに話しやすい関係が出来てきたように思う。
ふれあい七社めぐり 2回／年のイベントですが、70人／回の集まりです。神社の由来や周りの歴史的史跡を訪ね、3時間位の散策です。
バザーを主にした「ふれあいセンターまつり」「ふれあい七社めぐり」――ひきこもり防止対策として「ふれあいサロン」月1回だが50人程度参加（手芸）
相談件数も多くその中でも若い人、障害の有る人等が前向きに考えて行けている、うれしい事も多い。
「ふれあいの集い」 出ていく場所が少ない高齢者が集える場所になっている
ケアシステム、相談室、車イス他 借出し（必要な人には感謝されている サロン（月1回楽しみに集まっている
ふれあいセンターまつり 毎年多くの方が来場される
サロン 毎回楽しみにしてくれている方がいる
ふれあいセンターまつり、ふれあいサロン、ふれあい七社めぐり
今年度、笑和館を立ち上げたが、多くの高齢者が参加し楽しんで居る 普段外に出ない方も月一回の開催を喜んで参加して居る（毎回30名前後）
サロン事業
①サロン・デュ・ポン根本：指導者がよく、通常40名近くの参加
②赤ちゃん広場：託児所が少ないせいか盛況
ふれ合い会食会 研修会講演会などの実施 広報の発行 サロン活動の充実
ふれあい会食会 年1回―長い年数続けられています。
赤ちゃん集まれ 子育てサロン サロン新川屋

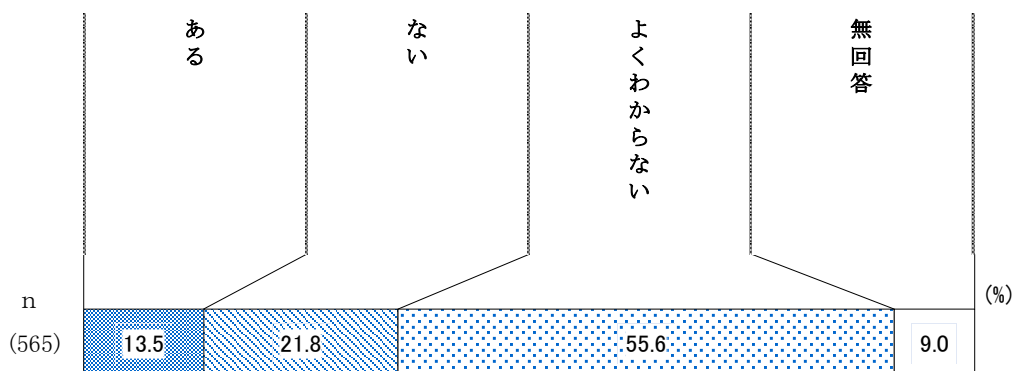
新しい拠点（ホットスペース）は多くの参加者、利用者があり成功していると思っている
メンバーが充実しているが発信がない
男性料理サロン 月により多少の参加者が上下しますが楽しく料理を作り試食して家に帰って家族に食べさせることで団楽に話が弾む人が多く聞きます。
手拭い体操
ふれあい祭り
サロン活動が活発
ふれあいの集い・参加者が毎回喜んで、楽しみにしている・市、社協、高サボ、自治会、小学校、中学校、地域が協力して出来る
高齢者の相談はとても充実
サロン活動
ふれあいセンターまつり ふれあい七社めぐり ふれあいサロンD a i 2
お楽しみ会食会やふれあい音楽会等
サロン「ももの子」参加者が段々ふえている
てるぼサロン
福祉講演会
ふれあい会食、ふれあいの集い 高齢者は登録のない人でも受け入れて会食を行っている→入会、登録を進める 集客に効果あり→理解を深める機会となっている
母親と乳稚児の集い
年々来る人が多くなっている
折り紙サロン 楽しみにしている方が多い。
サロン
「グランドゴルフ大会」子供からお年寄りまで、参加者が多い。
ラジオ体操。グランドゴルフ会。
びよびよクラブ、サロン。
ふれあいセンターまつり。地区内の神社や歴史的価値の所をめぐるふれあい七社めぐり
開催する事業が多くなって来たのと、協力する方が多くなって来たからだと思う。
会長の案はとてもよく活発であるが社協に寄りかからず自主でやるべき
びよびよクラブ（宮久保・下目塚）子育てに不安があるお母さん達の情報、相談の場として参加者が多い 又、市の保健師のアドバイス、相談も出来るのも有意義だと思う。
菅野・須和田オリンピックス：多くの方が参加してくれている。

年に1回ですが「ふれあい会食会」に参加した高齢者は、満足して戴き、とても楽しみにしています。今後ずっと続けて欲しい企画です。
ラジオ体操 参加者数が多い
地区内でのイベント
ふれあい演芸会（落語、音楽、演劇、e t c）
はるかぜ合唱団－毎週火曜日50名位集まる合唱を楽しんでいる、高齢になっても練習によって上達する楽しさを実感している、10年も続いている事、会員が増えていく事がその証
サロンに多くの人が集るようになった。一般に情報が得られているからだと思う
ラジオ体操、グランドゴルフの参加者多く楽しい行事となっています。
「障害について知って下さい」親の会とのコラボ4回開催した。 「ふれあい交流会」 「昼食を一緒に」昼食をひとりにならずみんなで食べ、体操や交流できた
グランドゴルフやラジオ体操のイベント
『ふれあい会食会』は、楽しみにしていられるかたが多いと思う。
ふれあいセンターまつり 多数の来場があり、盛況のうちに終了している。（準備が大変ですが）
サロンデュポンの体操。（神社のカラオケの集いはよく理解できない。）
歌声サロン…定着している。健康サロン…
ふれあい健康サロン 病院の協力で健康に関する講演会
ふれ合いのつどい
ふれあいの集い。皆、楽しみにして、いる様です。
新田サロン 地域人々の協力が（協力費）増えている
広報誌
広報紙の発行
サロンの事業に関しては、どれもが成果を出していると思います、今年度はラジオ体操地域福祉フォーラムの補助金を使用して、地域が参加できる事業が行なわれている
赤ちゃん教室
広報：読んでいただいている いきいき事業の講演：有益だったとの好評価をいただいている ふれあいの集い：楽しみにしている方が多い
国府台いこいのサロン、参加者人数が平均していること。
あかちゃん：広場 子育ての親の交流場所を提供
ふれあいの集い
サロン活動

行徳地区てるぼサロン
てるぼサロン、病院との連携 行徳地区
歌声サロン＝毎回参加者が多い（私は入れないくらい）健康サロン＝高齢者の増加傾向から各個人ごとに健康
東部地区 車いす貸し出し、お客様が多い。
ふれあい会食会
ふれあいコンサート、ふれあい会食会、スポーツ大会等
コンサートはお年関係なく音楽を楽しめて、心豊かな気持ちになると思います。
囲碁・将棋サロン 男性の交流が増えた。但し、サロンを通じて、地域福祉活動の活性化までには至っていない。
男性が多く出ている囲碁・将棋はよい
車椅子、補聴器の貸し出し
1 商店等の紹介 2 広報紙の発行
サロン活動は、皆さん楽しみにしており、参加者も多い。
昨年度に行なわれた「お互いさまアンケート」結果報告書（今年度6月発行）大成功だと思っています。こまった時の便利帳、すばらしいし、活用しています。
てるぼサロンやわた。（参加者が多い）、例えば、バスツアー、生け花等
子育て支援－参加している人は、楽しみにしている。情報交換もしている。
てるぼサロンは普及しているし、楽しみにしている高齢者が多いと思う。
健康体操、グランドゴルフ等。
ふれあいセンターまつり、七社めぐり

(7) 所属する地区社会福祉協議会で課題があると思われる事業の有無

(82) あなたの所属する地区社会福祉協議会で課題があると思われる事業はありますか。(1つにマーク)



地区社会福祉協議会で課題がある事業が「ある」は13.5%となっている。

(8) 課題事業名とその理由

(83) 【問(82)で「ある」と答えた方のみその事業名と理由をご記入下さい。】

当初の設立目的に戻すこと「だれでも気軽に立寄れる場所に」

全体に、みんなのお金で一部が楽しんでいる、(市でやれば) 廃止

防災訓練、参加者が少ない。

予算が限られ難しい面がある

人材の不足、高齢化。

すべての年齢に対応できる行事。

全地域で課題に対しての意識が弱いことが“課題”。

“ケアシステム”を利用しようと思う人は居るのでしょうか？お買いものの帰りに立ち寄るくらいの余裕のある人は少ないのでしょうか。話し相手にもなれるチャンスがありますが、本当に不要な人が多いのでしょうか？？

人材が不足していると思います。ケンメイに指導にかかってくださっているが、A～Z迄が大変と思います。3人体制で対応願えれば

高齢者対策（5年先10年先が全く読

何んで金集めは自治会に丸投げなん

各代表との横の連携が弱い。

オレンジキャップ
手長エビつり会にたくさんの家族が参加され、申し込みを断った程だった事を考えれば家族で楽しめる事業をもう1つ位増加してもよいのではないかと考える
場所が絞られているので、参加者が片寄る。
災害時の支援体制がシステムとして検証されていない。(机上の計画としてはあるのだろう。)
「男の料理教室」の参加者が少なめなので、開催曜日、内容等を工夫する必要があるそうだから。
※地域ケアシステムへの理解と必要性のPR ①特に介護予防、健康、支え合い、災害、見守りなど地域活動の重要が参加意識の向上につなげる対策。
人が多いだけで問題意識を持つ人 前向きに考える人が少ないように思います
小学生の通学路が調整区域がある為、歩道の整備安全確保の為
コミュニティワーカーの数が少ない
ふれあいの集い
年間36000円の助成金がありますが参加者が5、6名の所も30名の所も同じ金額は少し納得が出来ない、考えていただきたい。
もう少し資金をケア活動にほしい
サロンを増やす事だと思います。
自分の住んでいる地区で、てるぼの設立
地区全体で、地域住民のケアシステムをどう構築していくかのなどの課題をとりあげたい。
必要な市民への取り組みが不十分
サロン活動参加者から社協入会費を徴収すべし。
男性料理教室、人が集まらず、役員が嫌々参加しているように感じられる。集客することが次の担い手探しになるが、告知の方法もよくないし、どの程度まで告知しているのかすらわからないもう少し考えて企画するべき、フロアが古くて、どうにもならない気がする 会議に参加する時間がムダに感じられて残念。
職員の能力向上をお願いしたい。
有益な人材不足
子育て世代の方が少ない事と男性の関心度が不足
各事業とも参加者が固定傾向にある。
男性料理教室：本年12月17日（土）で第15回になるが参加希望者が少ない。自治会への募集依頼をしている
サロンの集りが減少している中毎月の募集の方法を考えなくてはならない。合同チラシ分だけでは、サロンの広告が目立たない。作業効率が少なくて楽、その反面見る側として、全く目につきにくい。今回は自治会としてチラシを作りました。
塩浜地区は世帯数が多いため、自治会管理組合の協力が必要

国分地区社協 いままでふれあいの会が国分小と中国分と一年ごとに開催されてましたがこん後中国分小だけになったと聞きました。国分1～2丁目や東国分から坂を登るのは大変との声が多くあります。
ふれあいの集 演芸等の一方通行で参加者も一緒に楽しめる様に。所詮元気に歩いて会場に行ける方々のみ。
お楽しみ会食会で高齢者を囲んで昼食がとれる市の公共施設がない
福祉員役員の会議出席率が悪い
高齢者だけでなく、乳幼児を持つ世帯にももっと具体的支援をすべきではないか
担い手、ボランティアの募集・育成がなされていないし、計画もない。幼児・高齢者には良いが子供・成人がかかわれるものが少ないので計画及び実行を
担当者同志が集まる、お楽しみ会みたいなものがあってもよい。完全なボランティアだから、たまにはこんな機会があるとよい
地域助け合い活動で何もやっていない。
会長の案はとてもよく活発であるが社協に寄りかかず自主でやるべき
①地域ケア及びイベント・行事に参加者が増えるとなればその為の方策・環境づくりが必要 ②現在実施している行事・サロン活動、研修会などの再構築
福祉委員をする若いボランティアを継続的に確保していく
行政との連携が不十分（行政が積極的でない）
軽度の認知症の方への、財産管理及び、生活指導のサポートをして欲しい。
男性料理教室。参加者数が少ない。
社協についての市民の認知度が低い。
月1度の手仕事、赤ちゃん広場の集客は順調ですが他の日は場所がら来所者が少ない事と自治会の役員も来ません
拠点が狭いため、ミニデイなどの昼食と体操などを始めたり、手作りや絵手紙サロンの参加者を多く集められない。他の場所を使うと、人手が倍以上必要となる。
会議で自治会が社会福祉と関係ないことばかり言う。
事業が平日午前中に多く行なわれており、一般の方の参加ができない又曜日が固定されている
事業名「お互いさま事業」計画では平成27年度試行、平成28年度充実となっているが、現状は全て手つかずの状態になっている。事業の実施手法が見えていない事が原因と思われる。
おたがいさま事業が進んでいない事、今年度柏市地区社協へ研修会に行きますが他の地域を学ぶ事で来年度それがいかせれば良いと思います
男性料理教室
相談員の健康
必要にならないと福祉の重要性に勘付かない。
相談員は頑張っても、拠点到相談する人が来ない、住民はそれぞれ問題を抱えていると思う、気軽に拠点に行くには何かが不足している
ふれあい会食会の場所の確保と参加者の人選

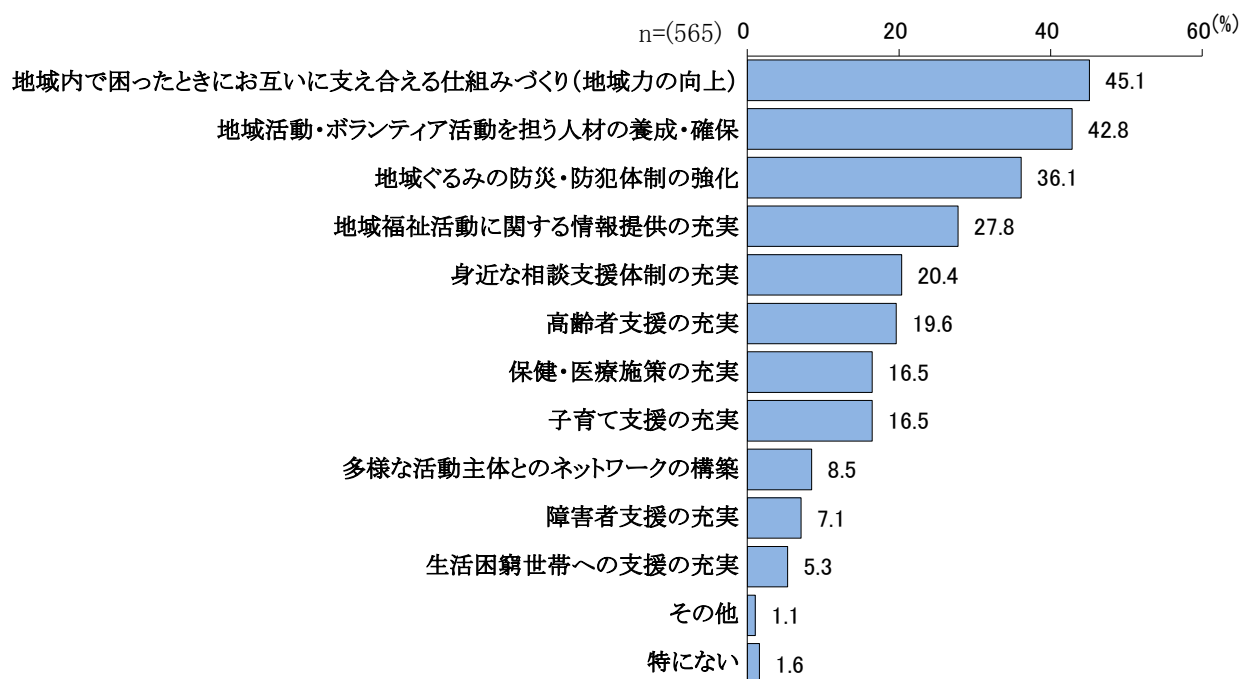
ふれあい会食会が今年はなかったので、楽しみにしている方がいるので残念でした。

てるぼサロンの運営協力でしょうか。相談員や協力員の不足、これは、サロン担当者が、いつも大変な思いで取り組んで下さっています。専門的な副社関係者にも出来れば毎回参加していただきたいと思います。

10. 市の施策で今後取り組んでほしい施策の方向性

(1) 地域福祉分野の施策で特に力を入れてほしいこと

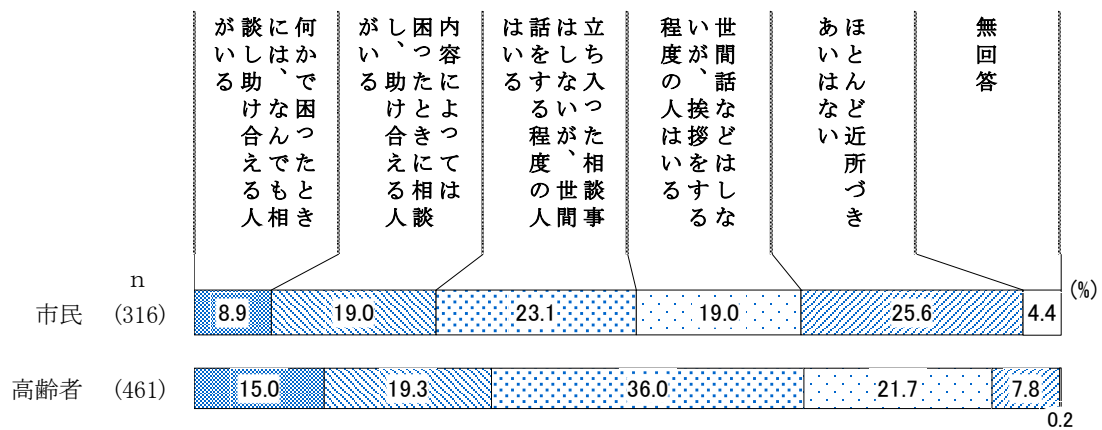
(84) 市川市の地域福祉分野の施策について、今後特に力を入れてほしいことは何ですか。
(マークは3つまで)



市の地域福祉分野の施策について、今後特に力を入れるべきこととしては、「地域内で困ったときにお互いに支え合える仕組みづくり（地域力の向上）」が45.1%で最も多く、次いで、「地域活動・ボランティア活動を担う人材の養成・確保」が42.8%、「地域ぐるみの防災・防犯体制の強化」が36.1%の順で続いている。

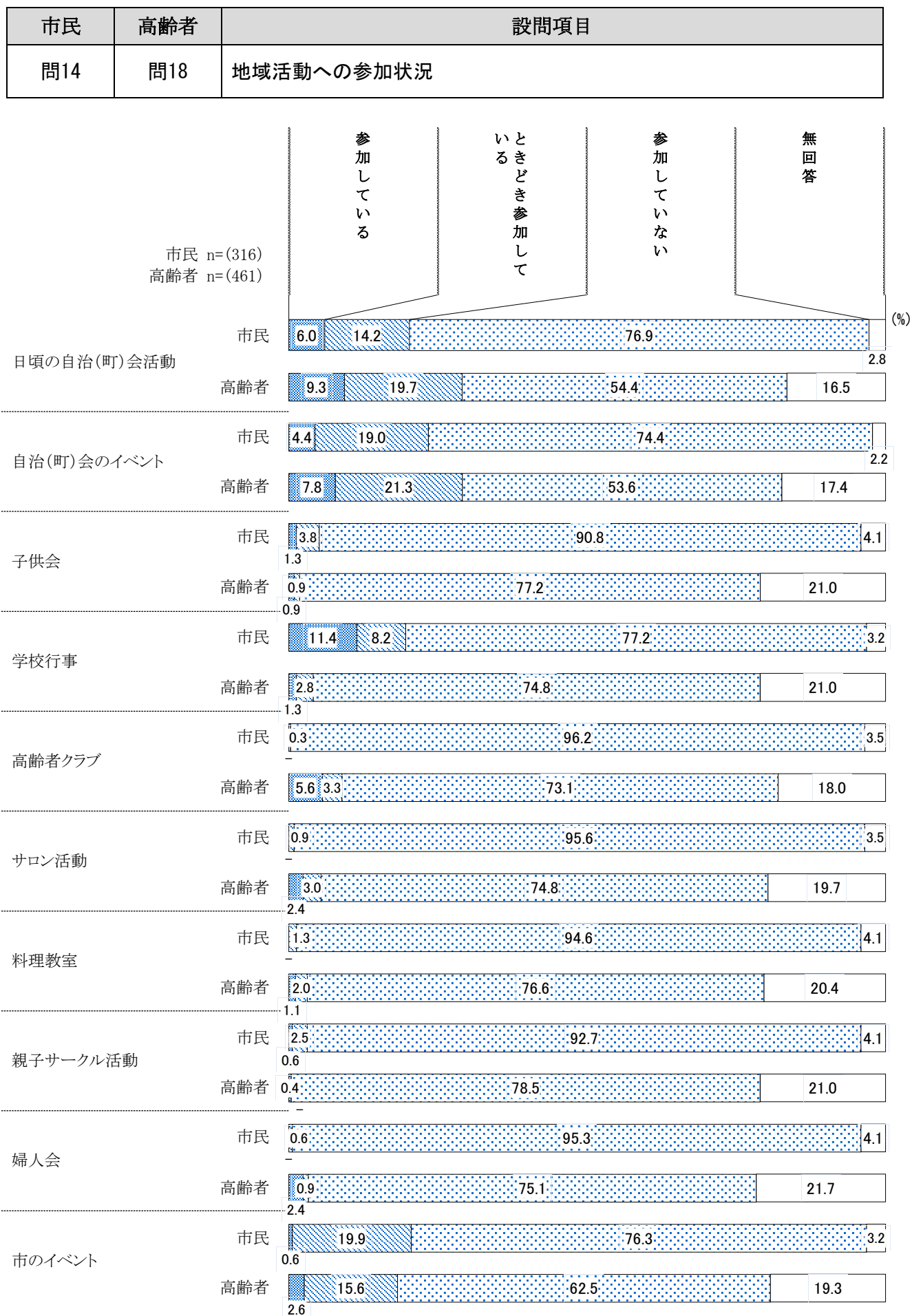
第 8 章 主な調査結果の比較

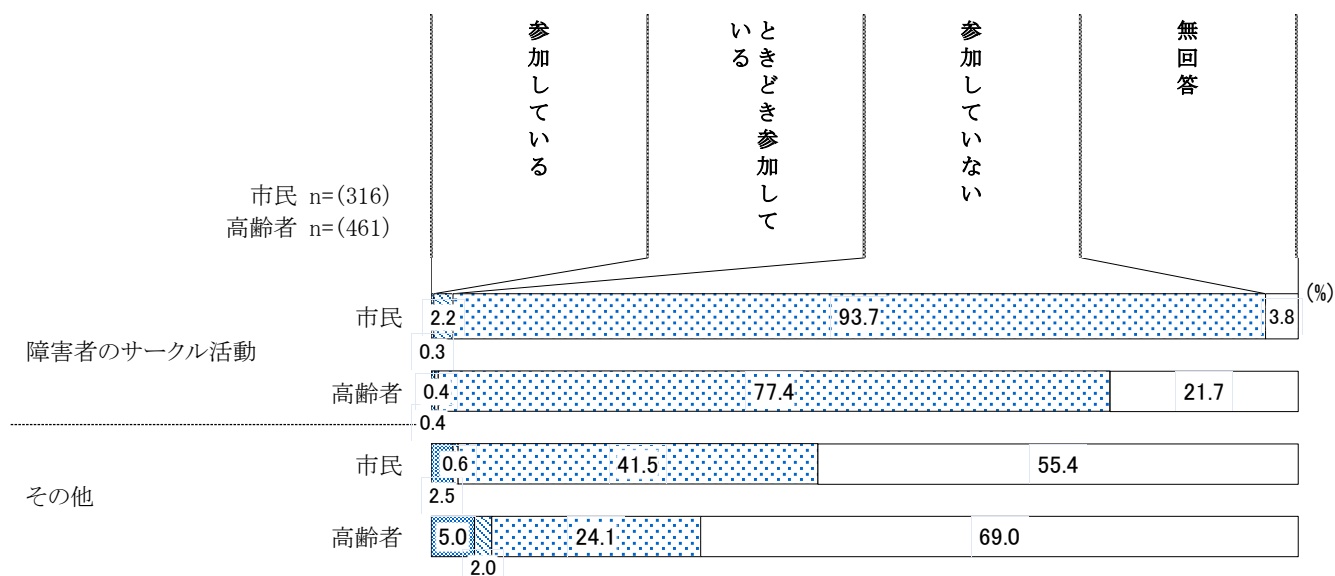
市民	高齢者	設問項目
問13	問17	近所づきあいの程度



近所づきあいの程度をみると、「ほとんど近所づきあいはない」では、市民が25.6%と、高齢者（7.8%）を17.8ポイント上回っている。一方、「立ち入った相談事はしないが、世間話をする程度の人はいる」では、高齢者が36.0%と、市民（23.1%）を12.9ポイント上回っている。

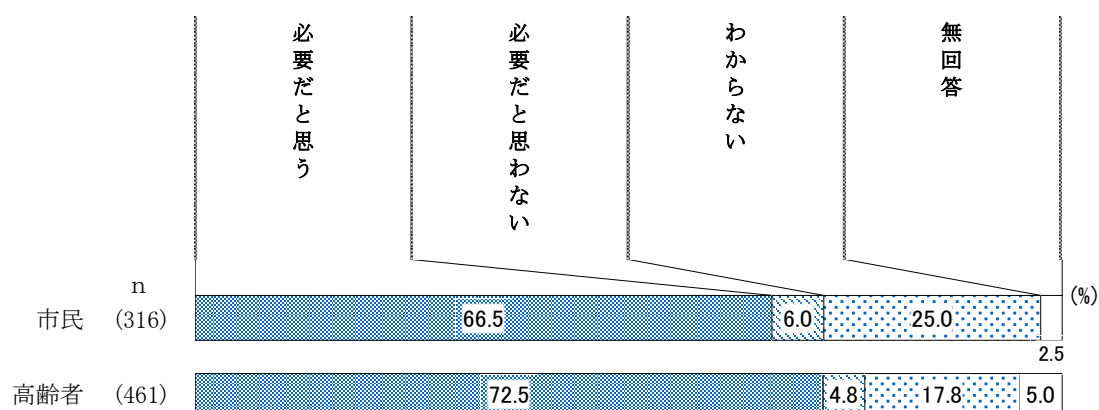
第8章 主な調査結果の比較





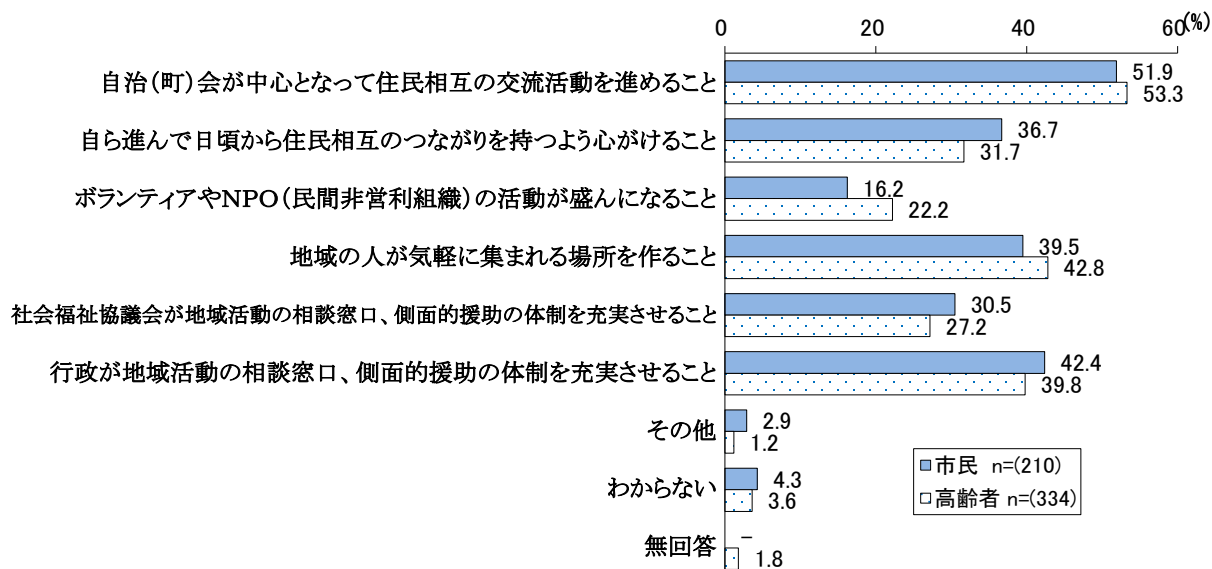
地域への参加状況で、「参加している」「ときどき参加している」という回答をみると、『日頃の自治（町）会活動』では、市民20.2%、高齢者29.0%、また、『自治（町）会のイベント』では、市民23.4%、高齢者29.1%と、ともに高齢者が多くなっている。なお、『学校行事』では、市民が19.6%と多くなっている。

市民	高齢者	設問項目
問17	問21	地域の生活課題についての住民同士の自主的な支え合いや助け合い



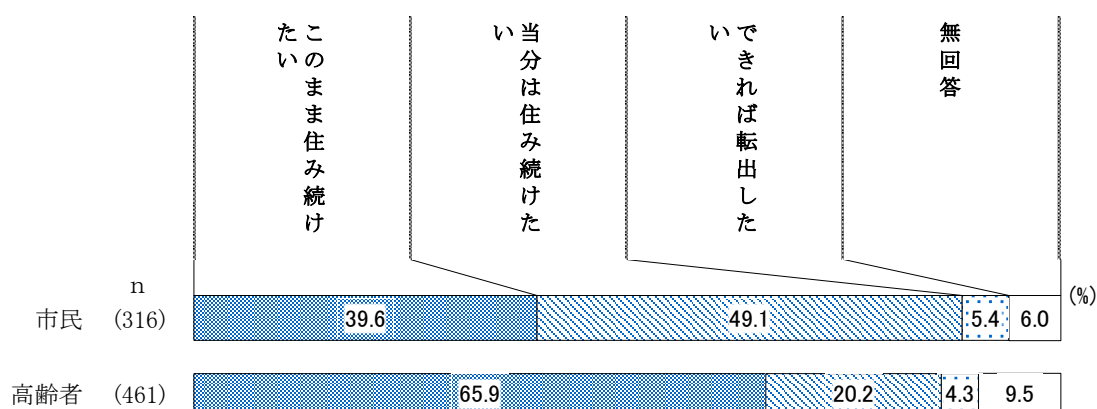
地域の生活課題についての住民同士の自主的な支え合いや助け合いについては、「必要だと思う」が、高齢者が72.5%と、市民（66.5%）を6ポイント上回っている。

市民	高齢者	設問項目
問17-1	問21-1	地域の生活課題についての住民同士の自主的な支え合いや助け合いに必要なこと



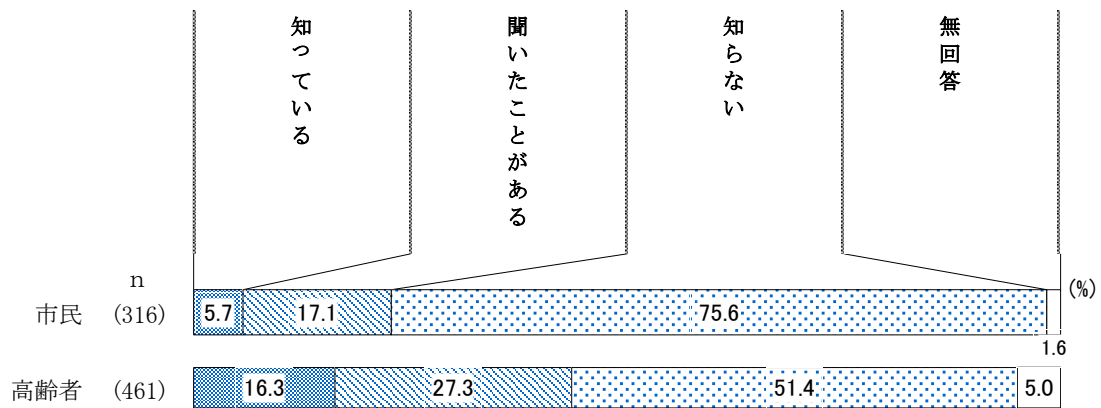
地域の生活課題についての住民同士の自主的な支え合いや助け合いに必要なことをみると、「ボランティアやNPO（民間非営利組織）の活動が盛んになること」では、高齢者が22.2%と、市民（16.2%）を6ポイント、また、「自ら進んで日頃から住民相互のつながりを持つよう心がけること」が、市民36.7%と、高齢者（31.7%）を5ポイント上回っている。

市民	高齢者	設問項目
問20	問24	定住意向



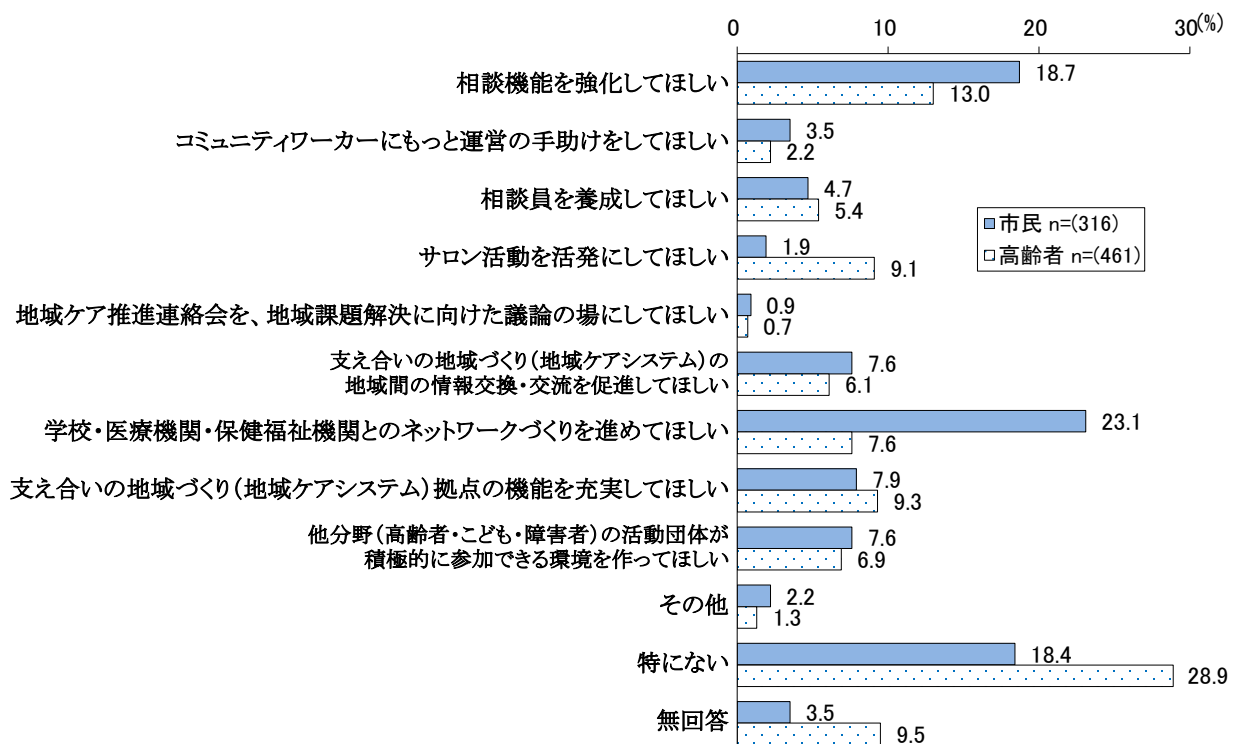
定住意向をみると、高齢者では「このまま住み続けたい」、市民では「当分は住み続けたい」が多くなっている。

市民	高齢者	設問項目
問21	問25	地域ケアシステムの認知度



地域ケアシステムの認知状況をみると、「知っている」「聞いたことがある」とともに、高齢者の方が10ポイント以上上回っている。

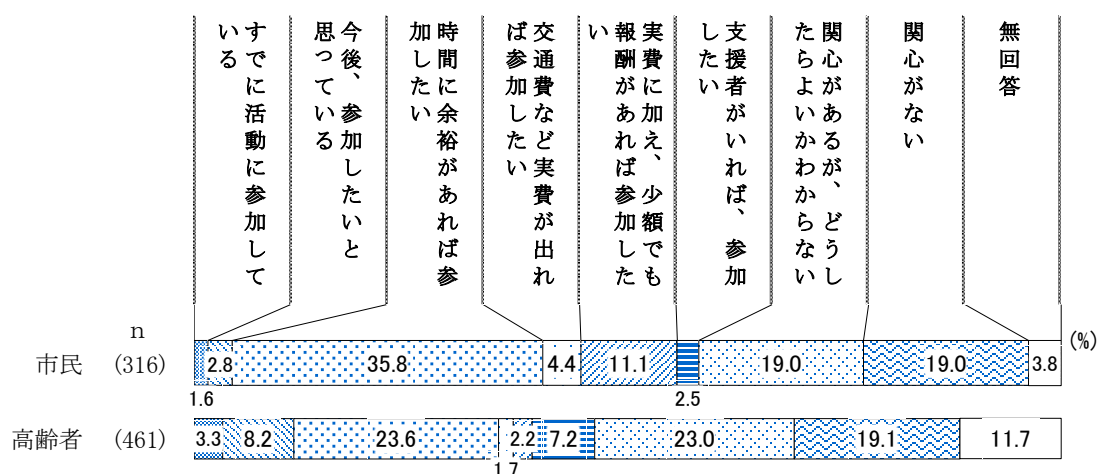
市民	高齢者	設問項目
問22	問26	支え合いの地域づくり（地域ケアシステム）でやってもらいたいこと



第8章 主な調査結果の比較

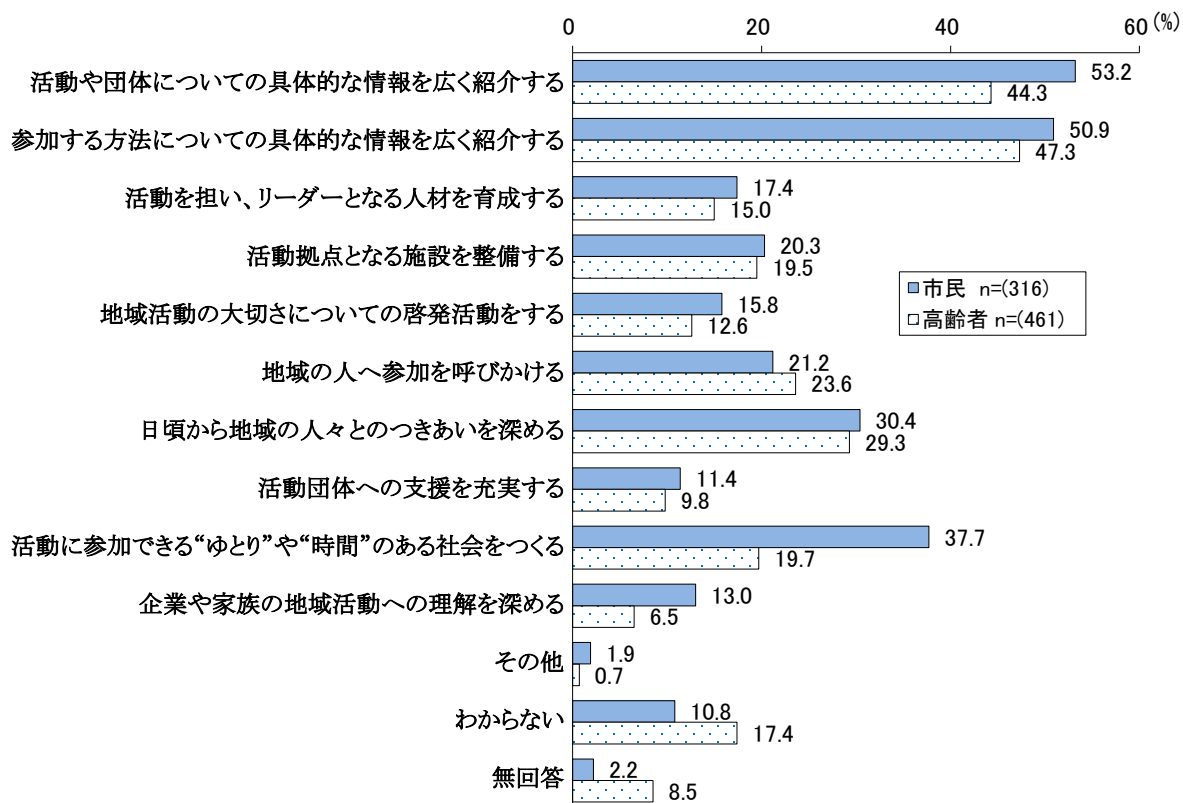
地域ケアシステムにやってもらいたいことをみると、「学校・医療機関・保健福祉機関とのネットワークづくりを進めてほしい」では、市民が23.1%と、高齢者（7.6%）を15.5ポイント上回っている。

市民	高齢者	設問項目
問25	問29	地域福祉活動への参加



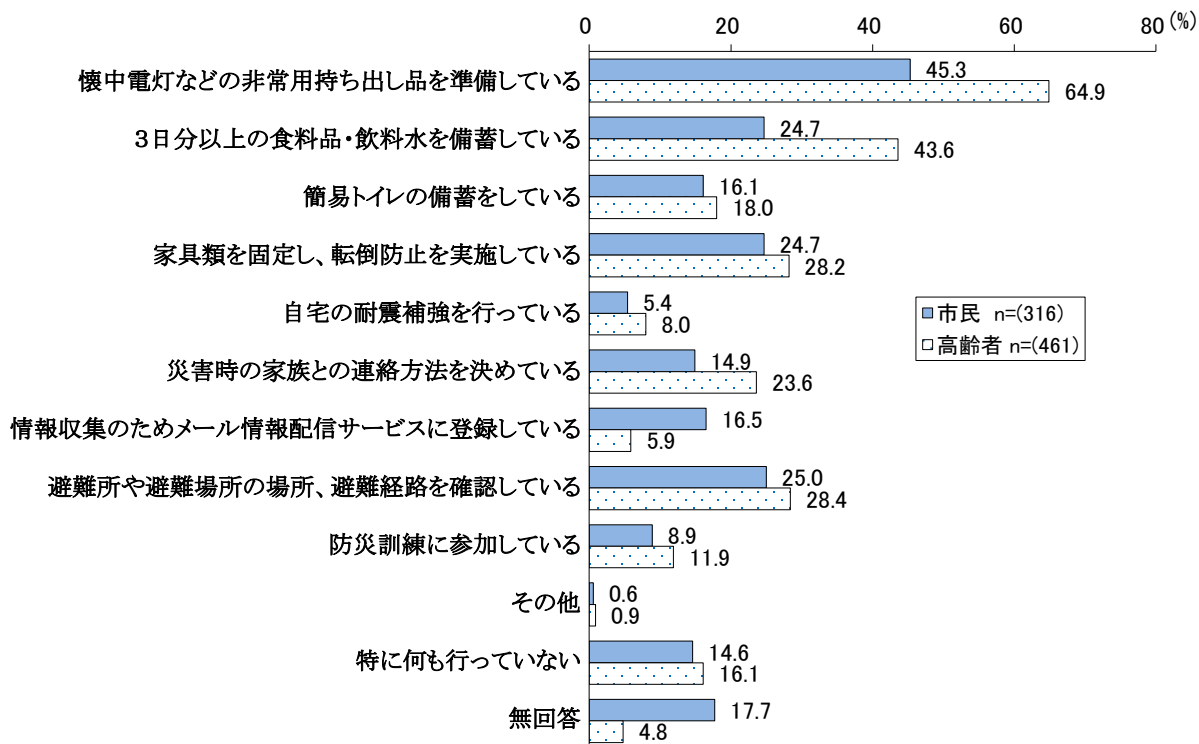
地域福祉活動への参加意向をみると、「時間に余裕があれば参加したい」では、市民が35.8%と、高齢者（23.6%）を12.2ポイント上回っている。

市民	高齢者	設問項目
問27	問31	地域活動により多くの人が参加できるようにするために必要なこと



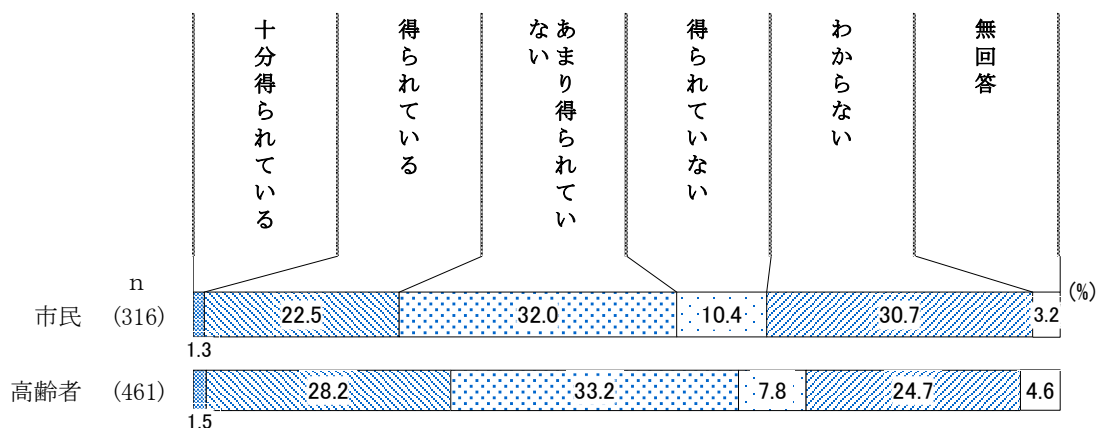
地域活動により多くの人が参加できるようにするために必要なことをみると、全10項目中9項目で市民の方が多くなっており、なかでも「活動に参加できる“ゆとり”や“時間”のある社会をつくる」では、市民37.7%、高齢者19.7%と、18ポイント差となっている。

市民	高齢者	設問項目
問32	問37	地震や災害に備えた日頃の対策

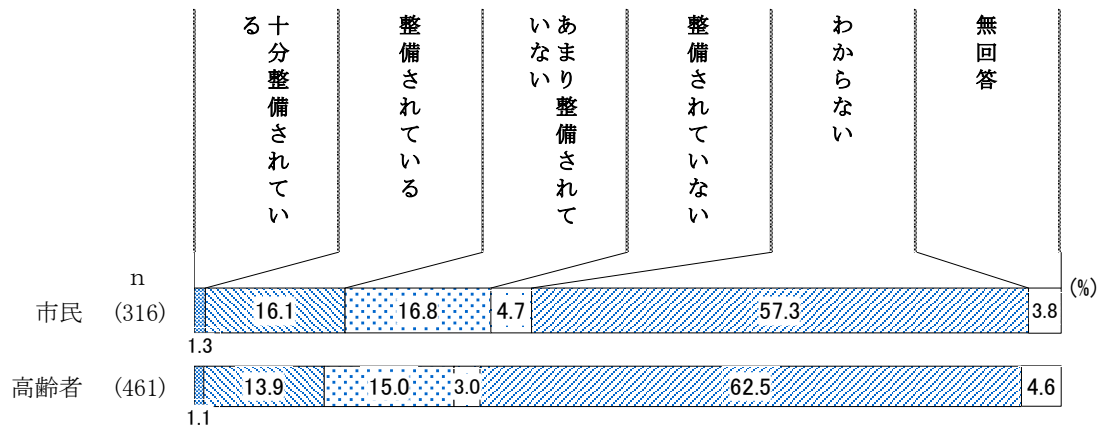


地震や災害に備えた日頃の対策をみると、全9項目中8項目で高齢者の方が多くなっており、なかでも「懐中電灯などの非常用持ち出し品を準備している」「3日分以上の食料品・飲料水を備蓄している」については、ともに20ポイント近くの差となっている。

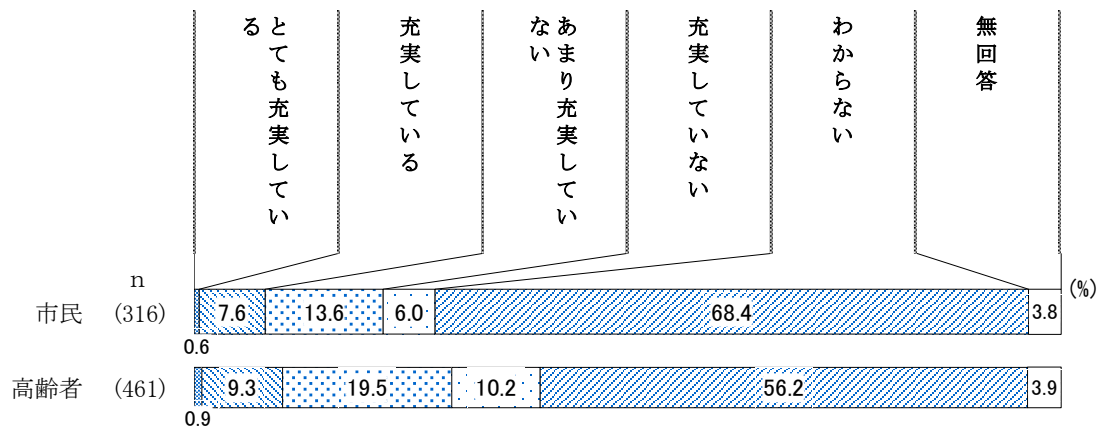
市民	高齢者	設問項目
問37 (1)	問42 (1)	施策評価／市の福祉施策に関する情報提供



市民	高齢者	設問項目
問37（2）	問42（2）	施策評価／地域の相談体制の整備状況

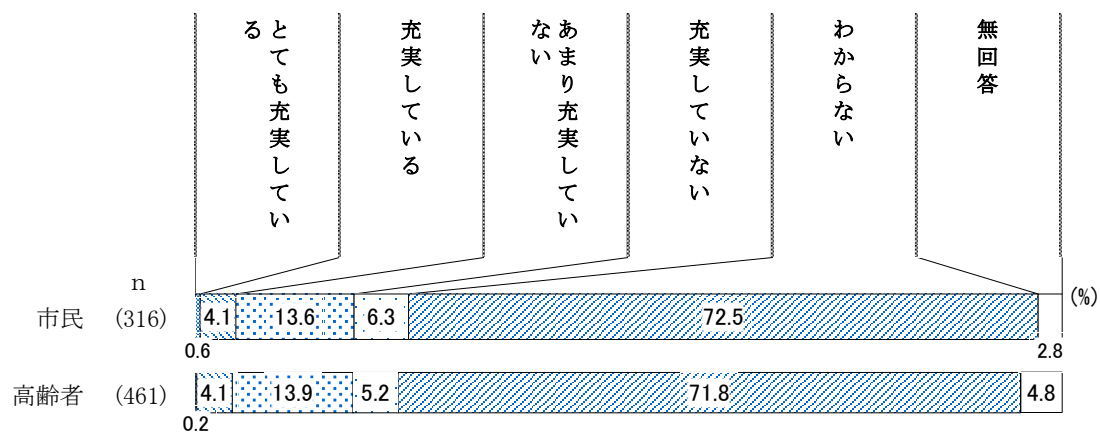


市民	高齢者	設問項目
問37（3）	問42（3）	施策評価／在宅医療支援

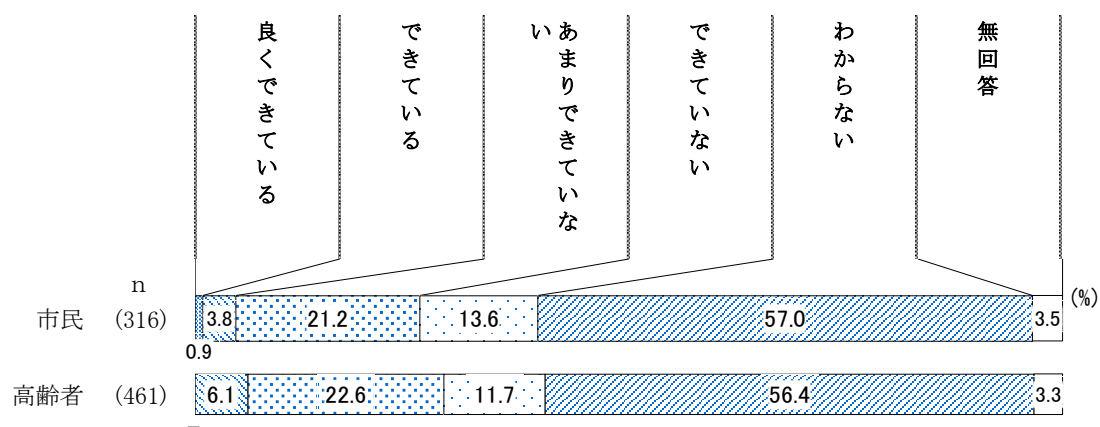


第8章 主な調査結果の比較

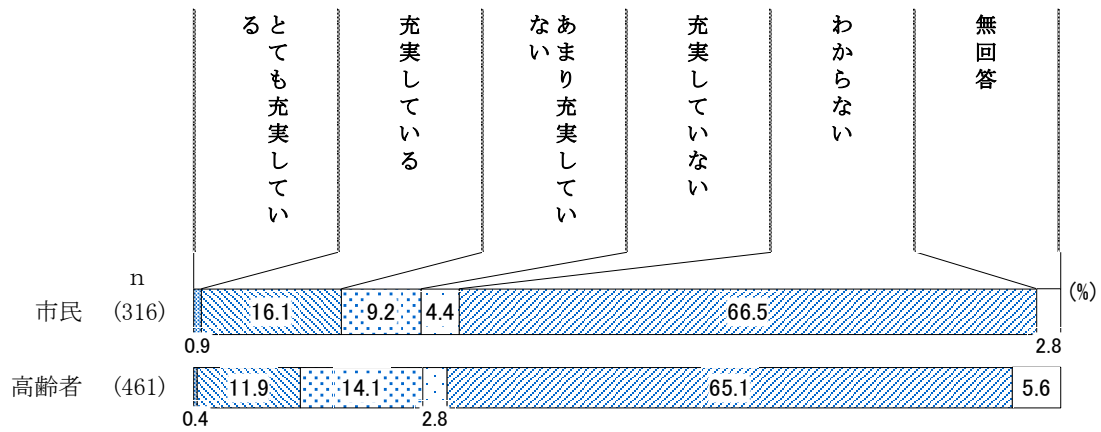
市民	高齢者	設問項目
問37（4）	問42（4）	施策評価／認知症高齢者や障害者のための相談窓口や援助・支援



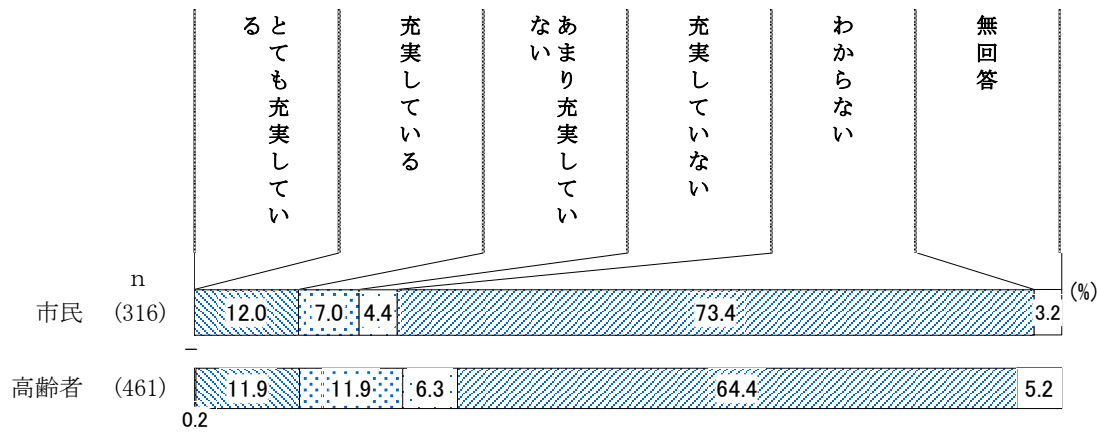
市民	高齢者	設問項目
問37（5）	問42（5）	施策評価／地域での住民同士の交流や支え合い



市民	高齢者	設問項目
問37（6）	問42（6）	施策評価／緊急時の支援体制の整備状況

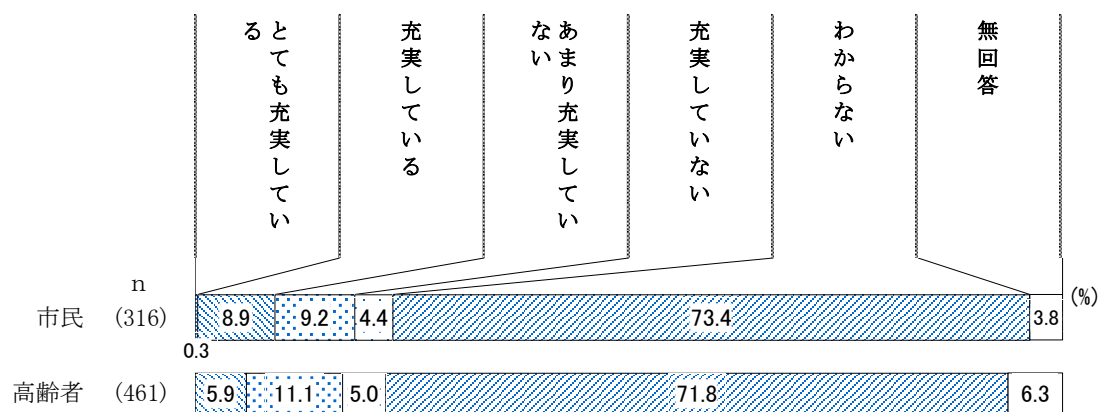


市民	高齢者	設問項目
問37（7）	問42（7）	施策評価／バリアフリーに関する住宅リフォーム相談体制

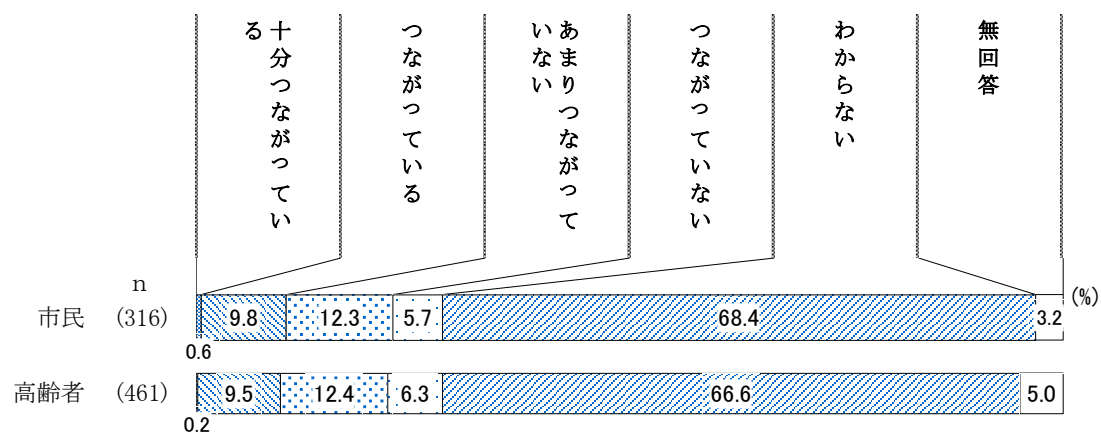


第8章 主な調査結果の比較

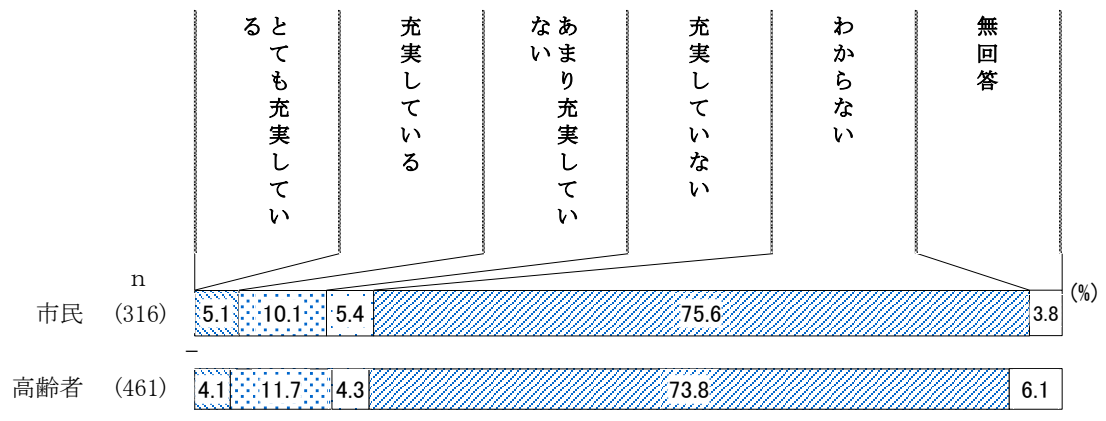
市民	高齢者	設問項目
問37（8）	問42（8）	施策評価／福祉有償運送など高齢者・障害者の外出手段



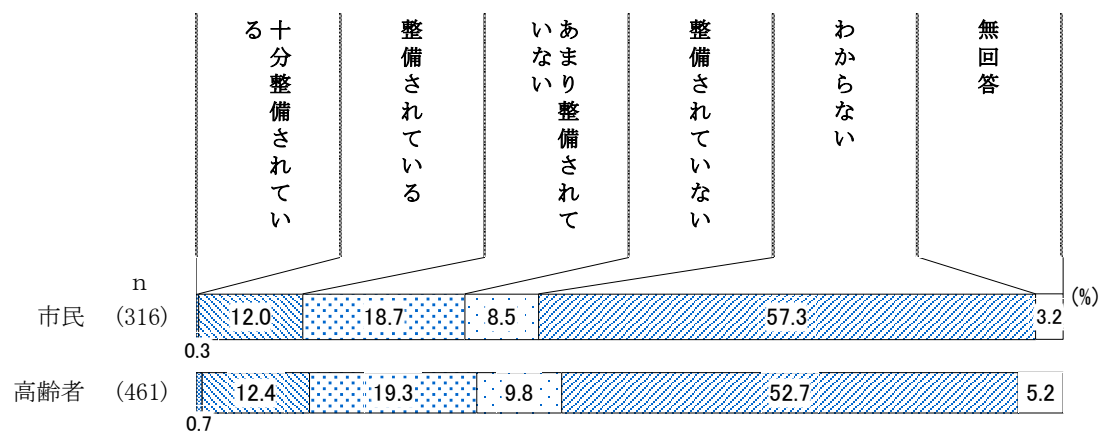
市民	高齢者	設問項目
問37（9）	問42（9）	施策評価／市職員による福祉講座の実施と地域福祉意識向上とのつながり



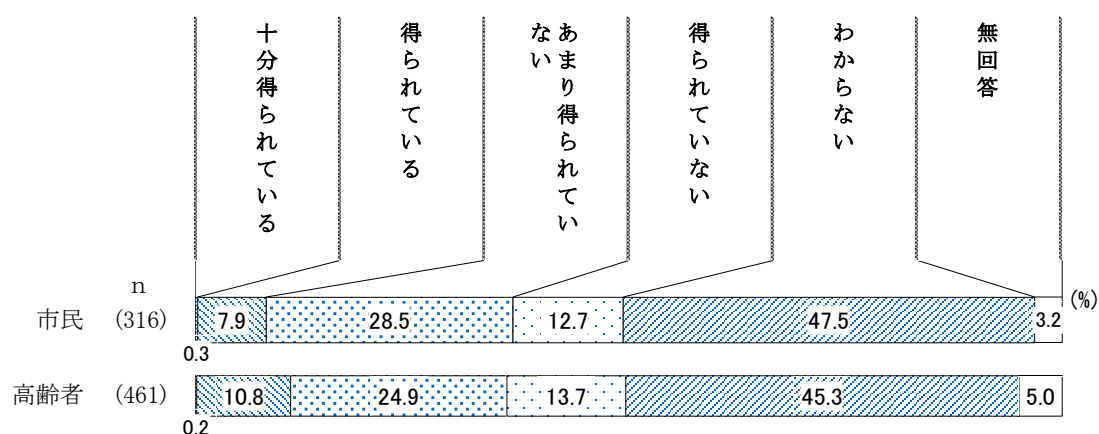
市民	高齢者	設問項目
問37 (10)	問42 (10)	施策評価／地域福祉の推進のための担い手の確保や人材育成の環境



市民	高齢者	設問項目
問37 (11)	問42 (11)	施策評価／交流できる場や活動の場の整備状況

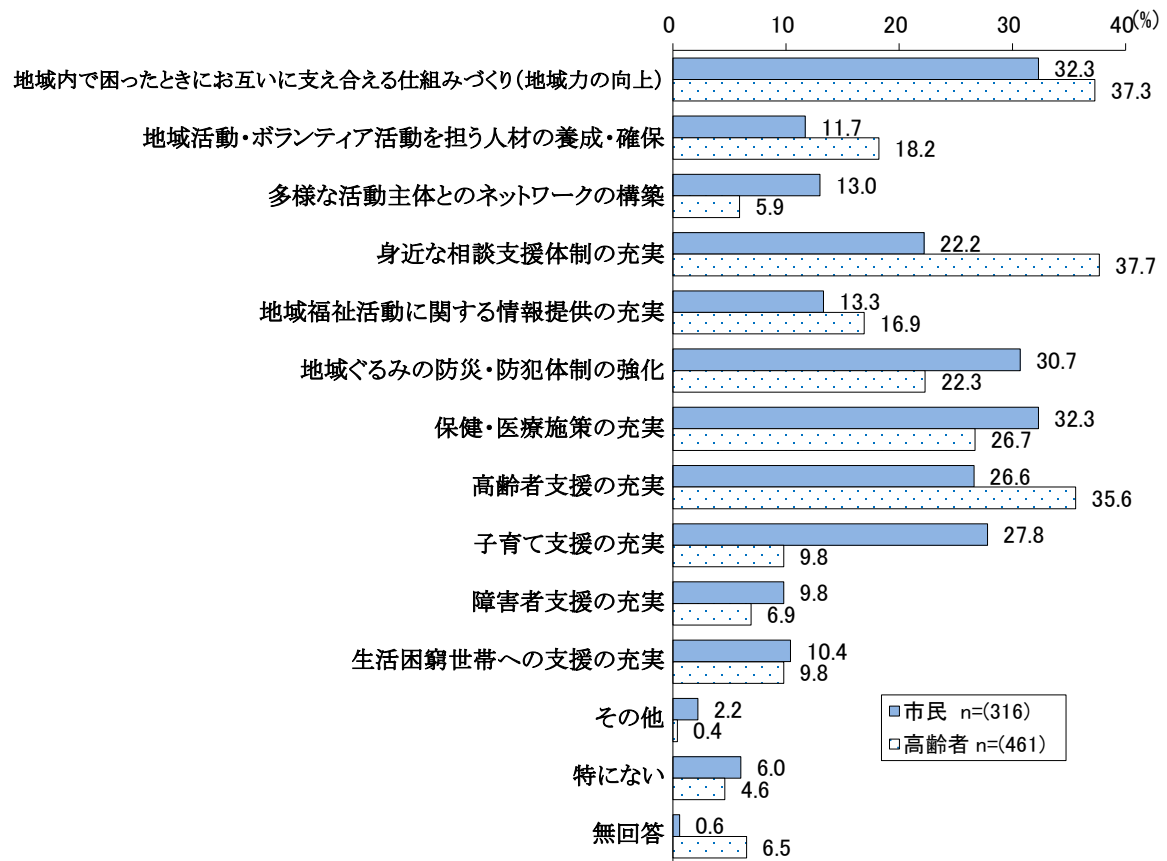


市民	高齢者	設問項目
問37 (12)	問42 (12)	施策評価／地域活動や市民活動団体などの情報



市の12の福祉施策について、《肯定的評価》（「十分得られている」＋「得られている」等）、《否定的評価》（「あまり得られていない」＋「得られていない」等）をみると、『（１）市の福祉施策に関する情報提供』の肯定的評価では、高齢者が29.7％と、市民（23.8％）を5.9ポイント上回っている。一方、『（３）在宅医療支援』の否定的評価では、高齢者が29.7％と、市民（19.6％）を10.1ポイント上回っている。

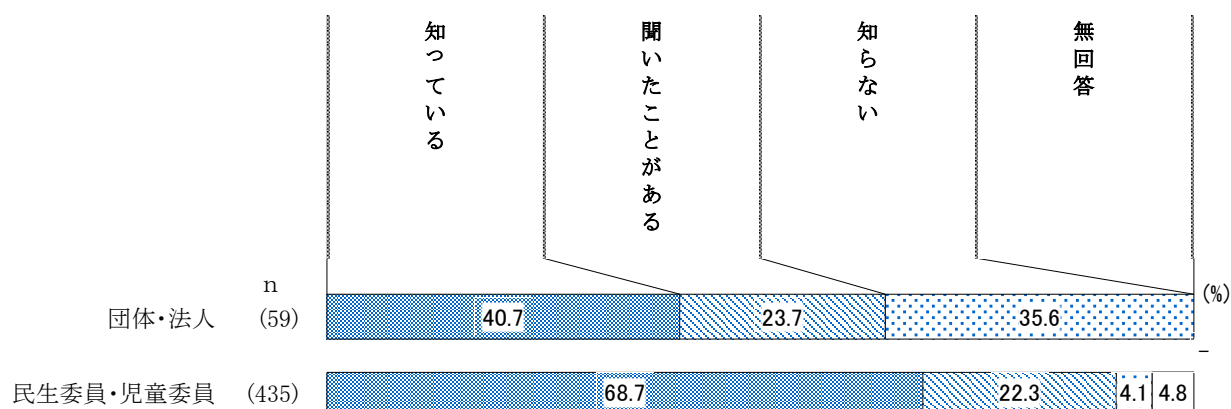
市民	高齢者	設問項目
問38	問43	地域福祉分野の施策で特に力を入れてほしいこと



地域福祉分野の施策で特に力を入れてほしいことをみると、「身近な相談支援体制の充実」「高齢者支援の充実」「地域活動・ボランティア活動を担う人材の養成・確保」などで、高齢者が市民を上回っており、なかでも「身近な相談支援体制の充実」では15.5ポイント差となっている。一方、「子育て支援の充実」「地域ぐるみの防災・防犯体制の強化」「多様な活動主体とのネットワークの構築」などでは、市民が高齢者を上回っており、なかでも「子育て支援の充実」が18ポイント差となっている。

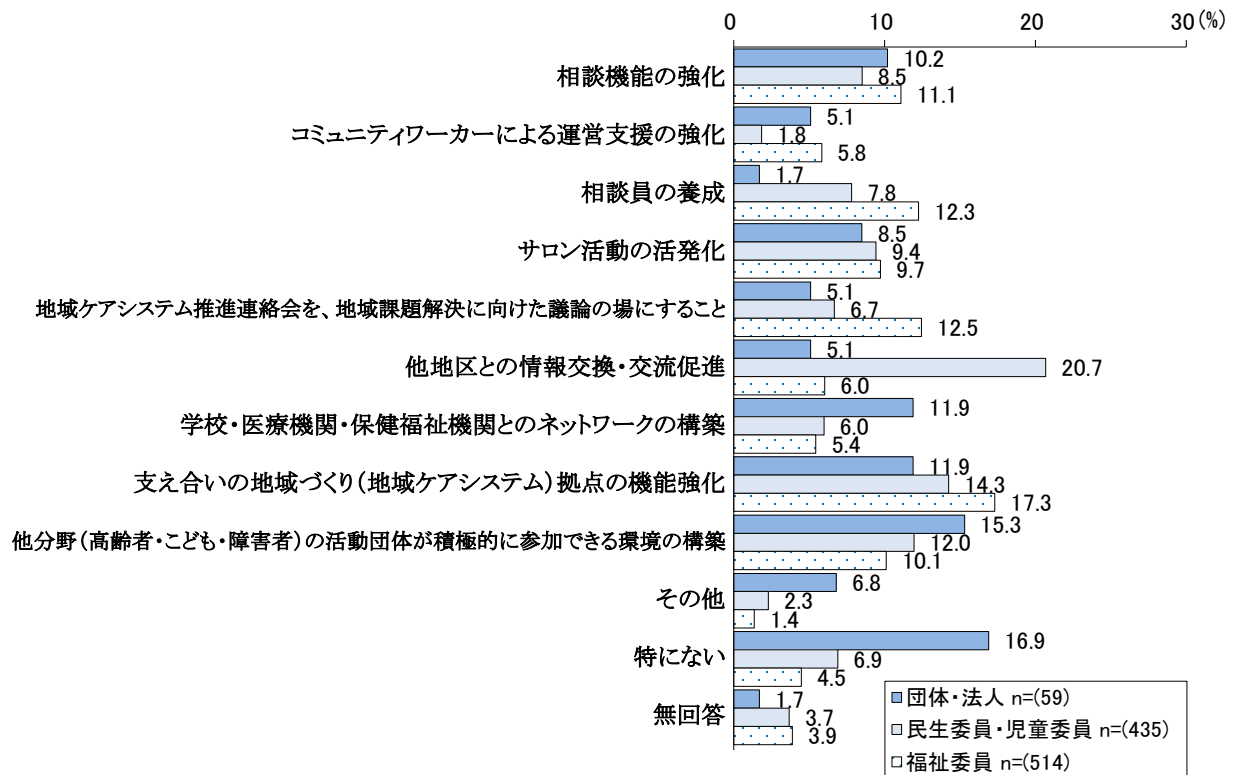
第8章 主な調査結果の比較

団体・法人	民生委員・ 児童委員	福祉委員	設問項目
問16	(32)	—	地域ケアシステムの認知度



地域ケアシステムの認知状況をみると、「知っている」が、民生委員・児童委員で68.7%と高くなっている。

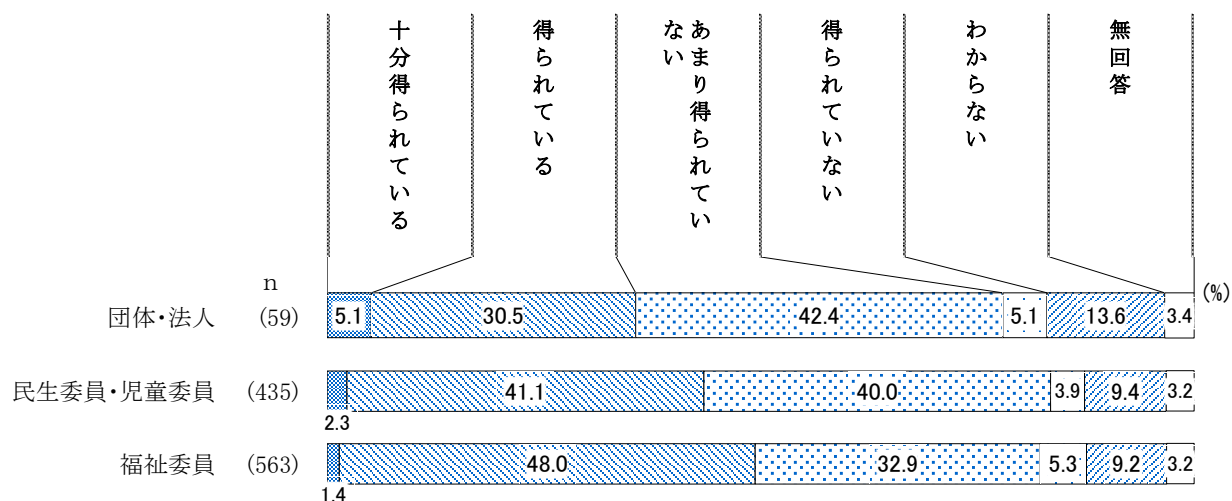
団体・法人	民生委員・児童委員	福祉委員	設問項目
問22	(41)	(33)	地域ケアシステムでやってもらいたいこと



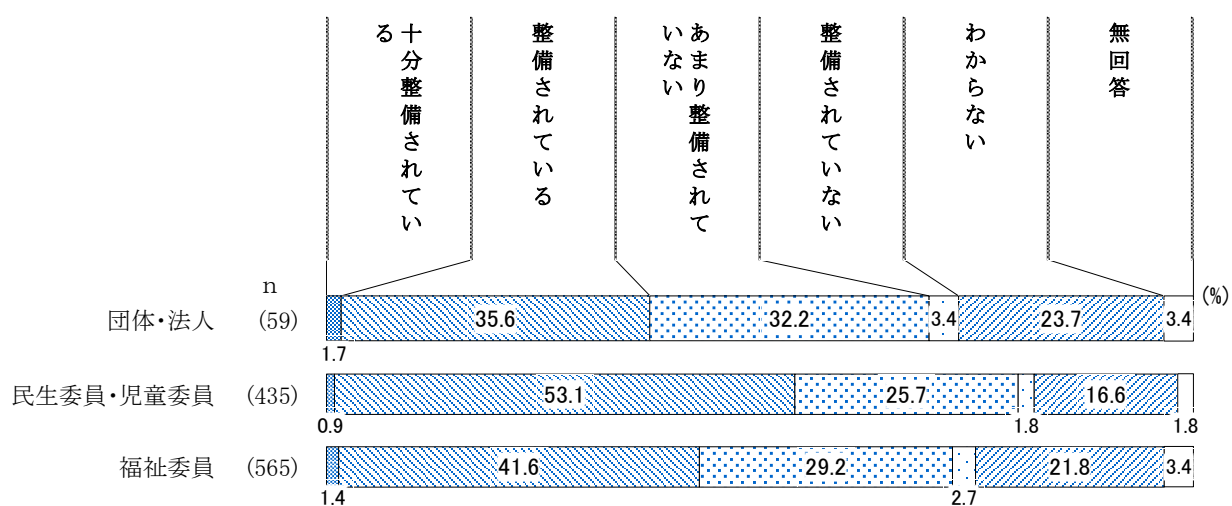
地域ケアシステムでやってもらいたいことをみると、「他地区との情報交換・交流促進」が、民生委員・児童委員で20.7%と高くなっている。

第8章 主な調査結果の比較

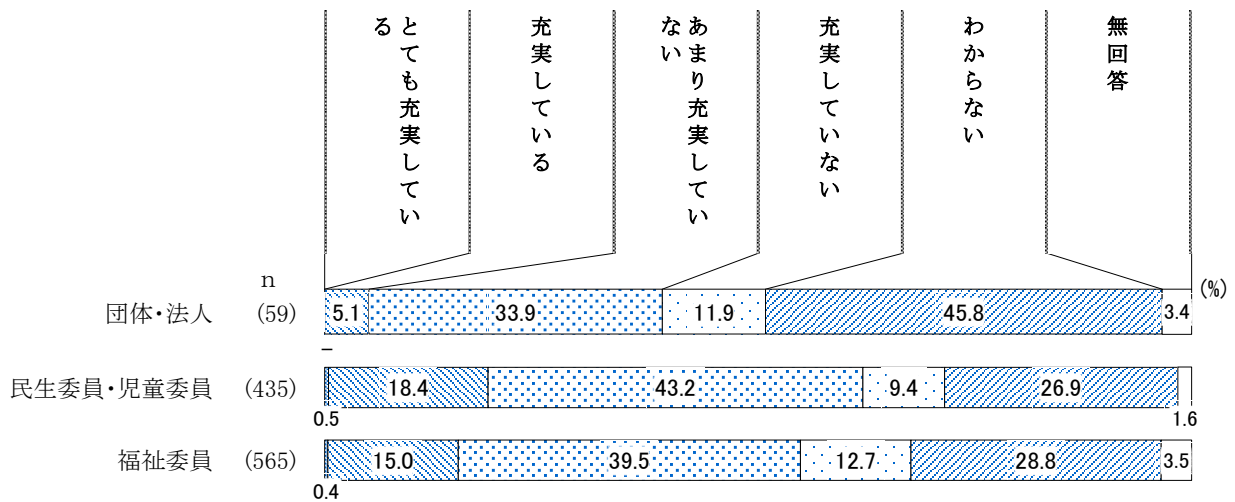
団体・法人	民生委員・児童委員	福祉委員	設問項目
問31 (1)	(63)	(50)	施策評価／市の福祉施策に関する情報提供



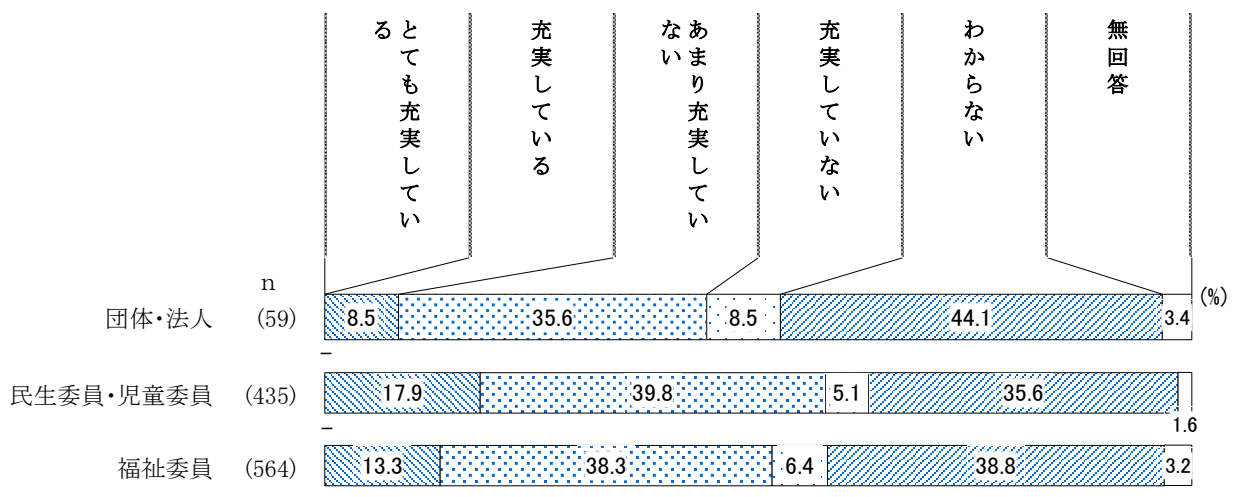
団体・法人	民生委員・児童委員	福祉委員	設問項目
問31 (2)	(64)	(51)	施策評価／地域の相談体制の整備状況



団体・法人	民生委員・児童委員	福祉委員	設問項目
問31 (3)	(65)	(52)	施策評価／在宅医療支援

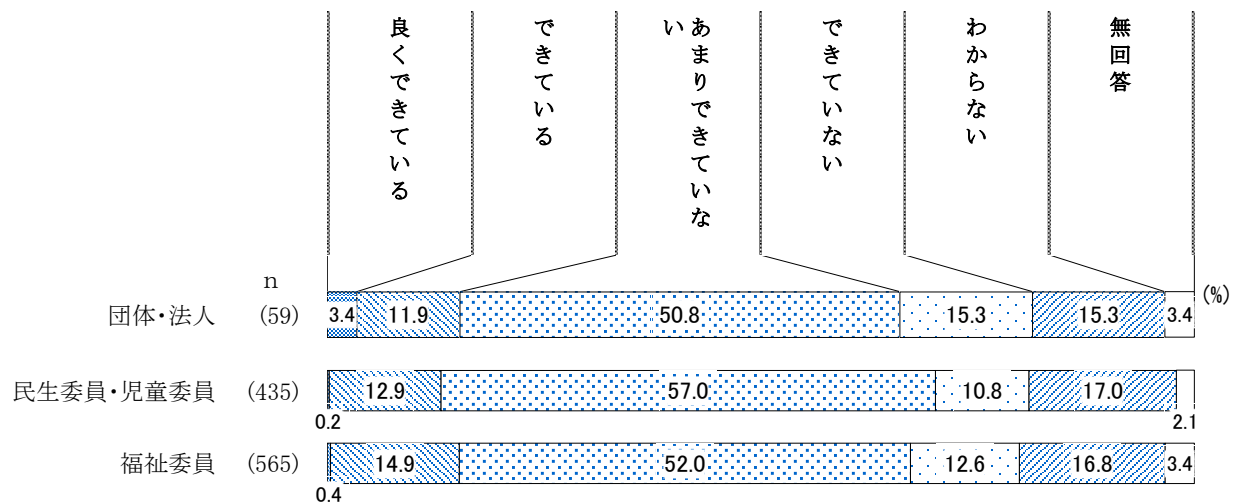


団体・法人	民生委員・児童委員	福祉委員	設問項目
問31 (4)	(66)	(53)	施策評価／認知症高齢者や障害者のための相談窓口や援助・支援

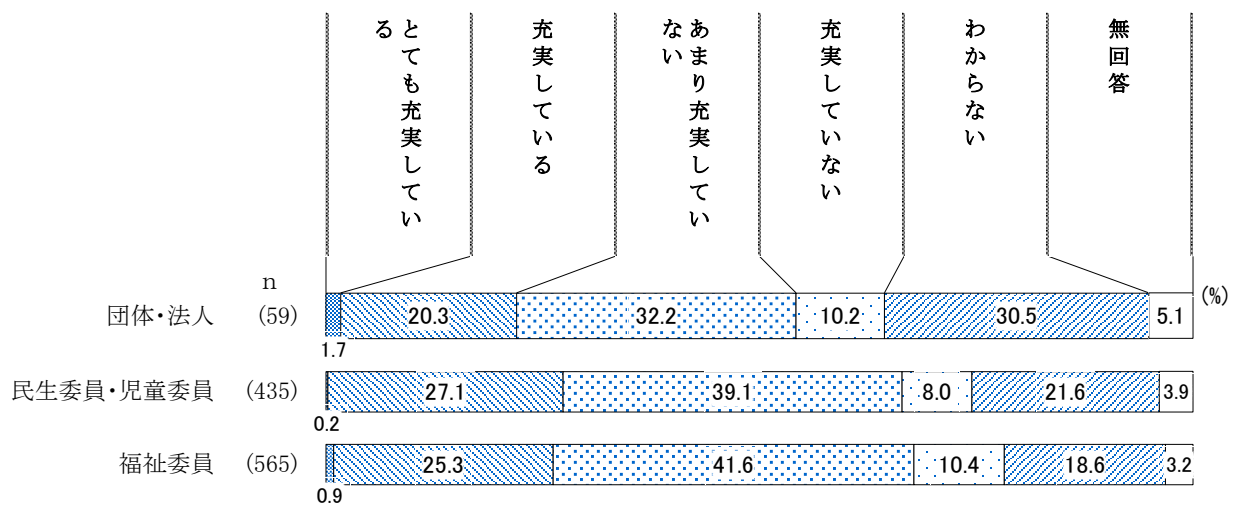


第8章 主な調査結果の比較

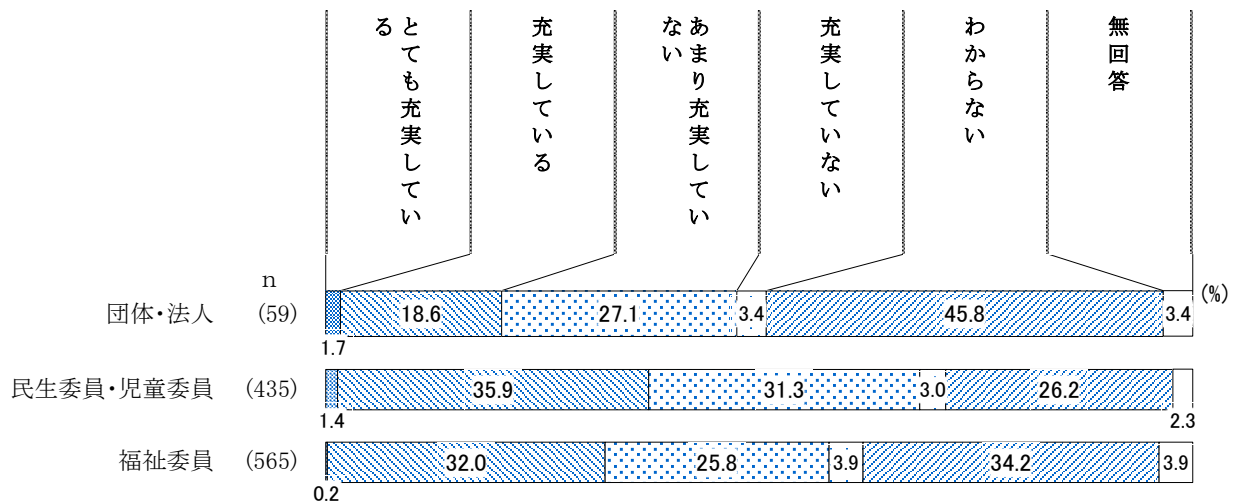
団体・法人	民生委員・児童委員	福祉委員	設問項目
問31 (5)	(67)	(54)	施策評価／地域での住民同士の交流や支え合い



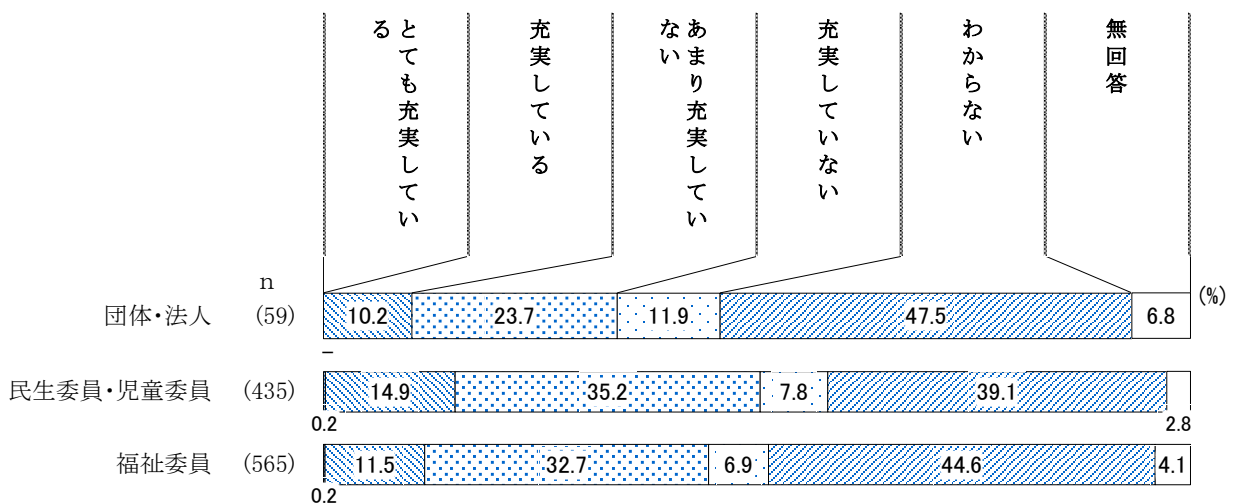
団体・法人	民生委員・児童委員	福祉委員	設問項目
問31 (6)	(68)	(55)	施策評価／緊急時の支援体制の整備状況



団体・法人	民生委員・児童委員	福祉委員	設問項目
問31 (7)	(69)	(56)	施策評価／バリアフリーに関する住宅リフォーム相談体制

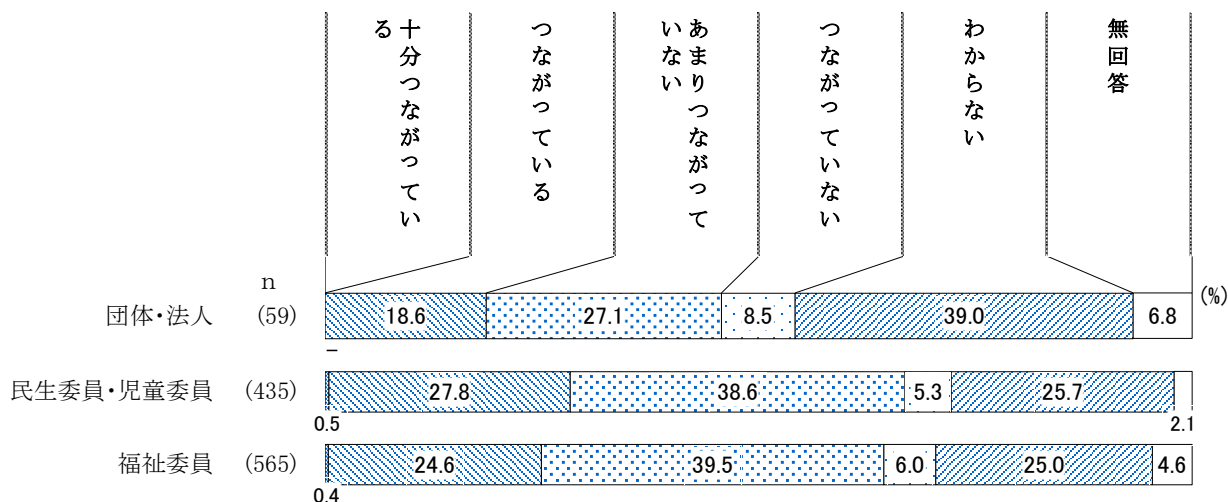


団体・法人	民生委員・児童委員	福祉委員	設問項目
問31 (8)	(70)	(57)	施策評価／福祉有償運送など高齢者・障害者の外出手段

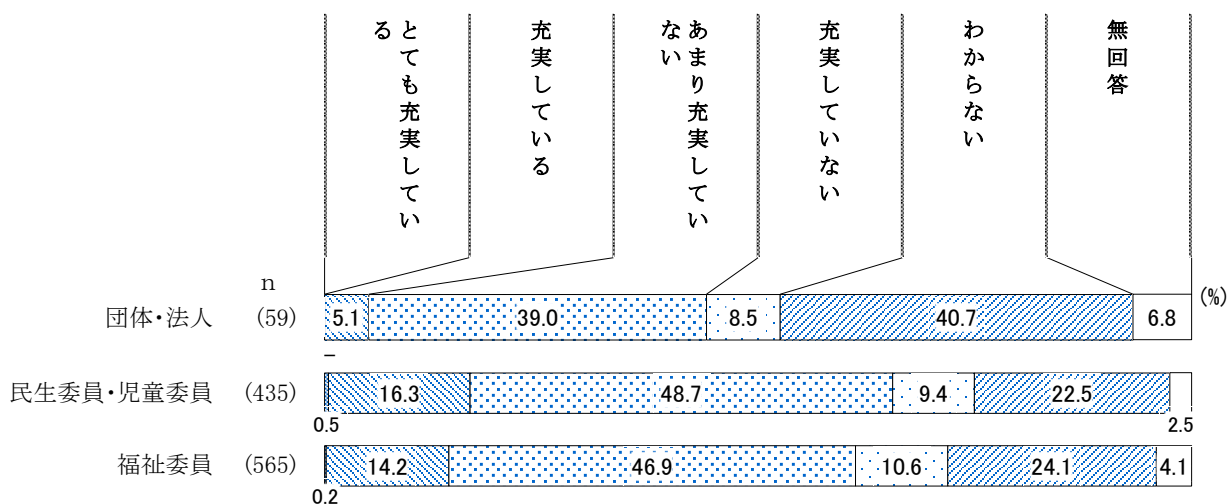


第8章 主な調査結果の比較

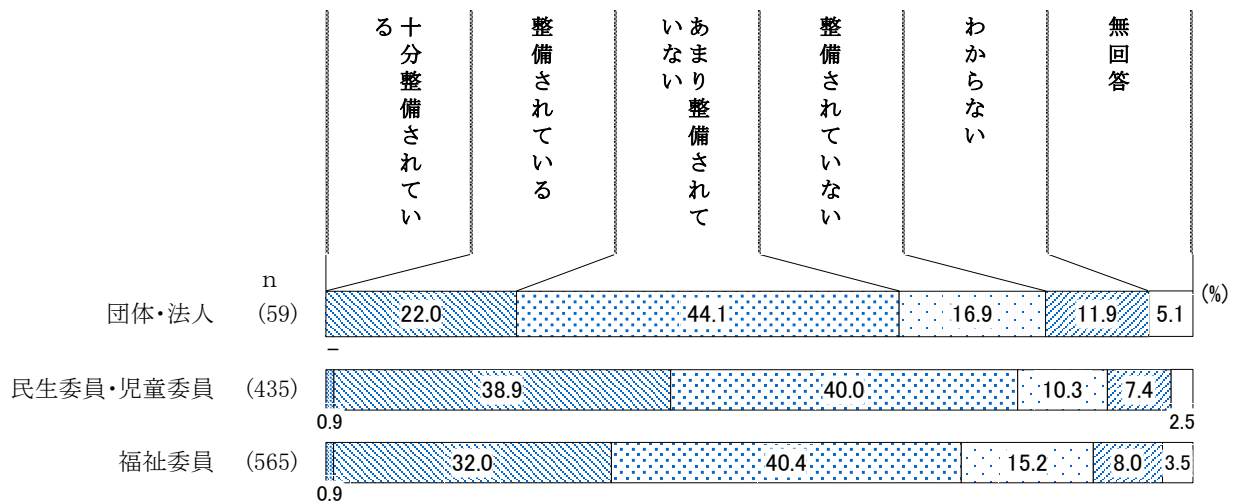
団体・法人	民生委員・児童委員	福祉委員	設問項目
問31 (9)	(71)	(58)	施策評価／市職員による福祉講座の実施と地域福祉意識向上とのつながり



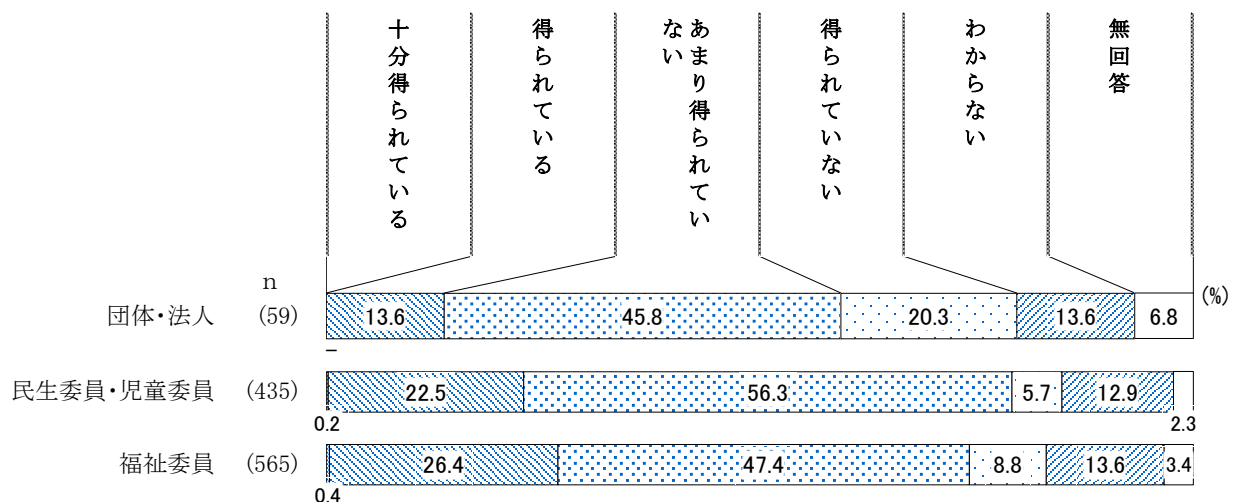
団体・法人	民生委員・児童委員	福祉委員	設問項目
問31 (10)	(72)	(59)	施策評価／地域福祉の推進のための担い手の確保や人材育成の環境



団体・法人	民生委員・児童委員	福祉委員	設問項目
問31 (11)	(73)	(60)	施策評価／交流できる場や活動の場の整備状況



団体・法人	民生委員・児童委員	福祉委員	設問項目
問31 (12)	(74)	(61)	施策評価／地域活動や市民活動団体などの情報



市の12の福祉施策について、《肯定的評価》（「十分得られている」＋「得られている」等）、《否定的評価》（「あまり得られていない」＋「得られていない」等）をみると、『相談体制』の肯定的評価で、民生委員・児童委員が54.0%と、全項目中最も高くなっている。また、肯定的評価を3者の比較でみると、全12項目中9項目で民生委員・児童委員が高くなっている。一方、否定的評価をみると、『地域での住民同士の交流や支え合い』で、3者とも6割台と高くなっている。

第 9 章 自由記述

(1) 市民

最後に、地域住民が共に助け合い、支え合い、誰もが安心して暮らすことができるまちづくりについてご意見、ご提案などがありましたら、ご自由にお書きください。

以下、原文を掲載する。

真間エリアの車の交通量が急激に増えたと思う。国分エリアの住宅増加が関係しているように思う。それに対して道が狭く、子供のみで外出させるのが心配なほど。コミュニティーバスの運営など、住宅街の交通量を減らす案を考える必要があると思う。
このようなアンケートは大事ですね。新しい住居に来て3ヶ月なので、お役に立てませんが、年代別の意見交換などもあればと思います。
市が先頭にたってよりよい町造りを進めていって下さい。
地域防災の訓練を実施し、体験しておくと思いいます。声かけやあいさつを常とすると防犯対策につながります。生活における、FAQの様な冊子を配布すると、どこに相談するかわかり易いです。
県道を通して、小学校・中学校へ通学するのが恐ろしいくらい、県道1号の歩道が狭く、雨の日に傘をさすと電信柱に傘があたりさせない！まずは、通学路の歩道の安全確保ができていない事に市川市の怠慢を感じます。県道の歩道を、通学路だけでも広くして下さいよう、心からお願いしたいです。危険です。
何か自分では解決できない問題が起きた時に、相談出来る場所がわからないとどうにもできない。高齢者社会になる中で、家族や家族以外の高齢者とトラブルに合わない様に対処したい。福祉のしくみが今ひとつよくわからない。助けが必要な人に適切な援助が届くようにして欲しい。
今回のアンケートで知った取り組みも多かったので、必要としている人が気軽に利用できるように、広報が必要だと感じた。
空き家を利用（活用）した子育て、シニア共有サロンを設置。企業からの賞味期限間際の食材寄付でランチ会の開催。食事が足りない人が気軽に通えるサロンと相談会やアーティストイベントを行う。若い活動的な人は大勢います。
不満を言う人は、日頃から積極的に関わりを持っていない人だと思います。私も積極的に情報収集していない1人です。あまり関心を持っていない人に如何に情報提供ができるのか考える必要があると思います。
市の施策に関して、知らないことが多く、「わからない」としか回答できません。あと、「福祉」の定義がよくわかりません。どこまでが範囲なのか？（防災？）
働き盛りの方々も通える施設の充実（サークル等も含め）地域活動に興味を少しずつでも持てる様なシステム作り、障害者施設の紹介、理解、公民館の拡大、充実（交流の場の増加）
隣、近所と助け合える部分と他人に入り込んで欲しくない部分との境界線が人それぞれ違うと思うので、そこらへんを周りがどこまで理解し合えるかが難しいと思う。
保育園を増やして欲しいです。
高齢者のマナーの悪さ（車含む）が非常に目につく。
アナログ版でも良いと思うので、道路等に掲示板のようなものを置き、イベントや情報等を貼れば、地域の活動が分かりやすいかも知れない。
日々のあいさつが必要だと思います。
ひとり暮らしの住民同士が気軽にコミュニケーションをとれるような場所づくり。
防災などで、拡声器そしてアナウンスが全然聞こえないです。柏井町は、船橋市の隣でもあり、特にはじのほうは何も支援というか対策がないです。市からアナウンスをする（聞こえる）スピーカーをつけてほしいです。
市川市の行政（保健センターや保健所など）、車で行きづらい場所ばかりで、子供をつれて行くのが大変。色々参加したり聞きたいが、せまかったり駐車場がなかったり、せまかったりしてとても不便。
Q&Aが気軽に見れるようにしてほしい。

コミュニティワーカーという名前も今回初めて知りました。実情がわからず、今回の内容もピンときませんでした。今後、活動へ気軽に参加できるようになって欲しいです。
普段は仕事の為、地域の活動に参加する機会がないのですが、自分の出来る範囲で情報を集め、何が出来るか考えたいと思います。
地域以外の地で朝から夜中迄勤務。休日も少なく、仕事以外の情報、関与が無理な現在、ゆとりが出来たら色々考え、参加したいと思います。
まずは近所に誰がいるのか、顔だけでも知っている状態、あいさつの出来る関係を築くことが大事だと思います。年齢、性別、障害関係なく集れるようなイベントが地域ごとにあると素敵ですね。
私事ですが、半年ほど前から介護が必要になりましたが（主人の両親）、往診して下さる医師の少ない事にとっても不便を感じています。これから先も、不安に思います。
取り組みを知らない人への広報
アンケートがムダにならない事を希望します。
待き児童0 流入多そうですが、大丈夫？と不安になります。
築浅のマンション住まいのため、又、子供の居ない世帯のため、自治会の活動内容（役割分担）が分からず、自治会参加をためらう。まず、初心者自治会の具体的活動内容の広告活動をしてほしい。
保育所の充実が急務だと思います。
アンケートを外注している事が間違い。自分達にその能力がない事の表れ。その考えで地域の事を良くしようと思っても伝わるはずがない。
アンケート全般に対する意見欄を設けるべきだと思います。→問22が「1つだけ回答」なのはおかしい。→「住み慣れた」「暮らし続ける」など長期居住者ばかりを対象にしている。新規転入者や転勤族にも住みやすい町にすべき。
アンケートの内容からみると、地域福祉活動と防災等は、自治会活動を頼りにしたい意向があらわれている。しかし、最近では自治会加入を拒否する家庭が増えている。行政が自治会加入について、もっと積極的に取りくんでほしい。加入は任意と、消極的な対応の行政が問題である。防災においては、住所、氏名、電話番号と提出するのは当然で。実際すべての個人情報を得て行動している自治体が、地域住民を助けている。個人情報がこのようこのいうより、防災の観点から何が一番大切な考えることが重要である。
こうれいしゃや、しょうがいしゃ、しみん、しゃくしょが、いっしょにたすけあって、くらしていける町づくりを、めざしてください。
大野町に在住しております。駅から大柏方面へ向かう道路は危険が多く、下り坂の勢いのまま横道に入ろうとする車や、トラックの出入りの激しい工場がある。また、道がせまく見通しも悪いので、福祉以前に住民が普通に生活をしていくことに危険を感じる地域です。整備が進めば、お年寄りや親子でも安心して歩けるだろうに、と思っております。
やはり退職等で時間が自由に使える様になったら、地域社会の為に役に立つ様にと想うのですが、急には参加出来ないと思います。その前に少しずつ参加出来る様に、行政等の働きかけも必要だと思います。
高齢者自身が地域福祉の利用をされている方が少なく、利用方法を知らない人が多く感じられる。手続きが複雑で窓口での手続きや専門用語が理解出来ない人が多いと感じられるので、分かりやすく冊子を配布すると良いと思う。
堀之内周辺は坂道や外環工事等で市川の他の地域への行き来が不便（京成バスの便もとても少ない！！）なので、幼稚園バスサイズのコミュニティバスが地区内（堀之内、中国分、国分あたり）を走ってくれるととても助かる。高齢者の運転の話題が良くきかれるが不便だと運転せざるをえないと思う。バスの中が地域情報の提供の場のひとつになると思います！高齢者には無料バスを配布してくれるとなおうれしいと思う。
近隣に沢山マンションが建ち、人口がすごく増えているのに、その人口増加に交通や施設などが全くおいていない。この地域に引越してきたが、子育て中の世代ではないと情報も少なく交流場所も少なすぎると思う。この地区はいつも後回しになる感じで整備が遅れすぎている。共働きで子育てしている世代の方も沢山いるのにどうにかしてあげてほしい。コンサートホール等が多すぎです。それよりも保育園や幼稚園を建ててあげて…と思ってしまいます。30年前に同じ場所に住んでいたけど、今もほぼ変わっていない不便さ、人口が増えてもこれじゃあこの町に魅力なしです…。
一地域で出来ることは限られるとは思いますが、今後より一層の地域貢献をしていただければと思います。

まず自分からという意識で積極的に会った人に挨拶することから始まるのではないのでしょうか。そういう人が多くなれば自然と地域が明るくなり、気持ちが伝わっていくのではないかと思います。
自宅の前、隣の家はそれぞれ障害がある方の一人暮らし、高齢の両親を息子さん一人で介護と支援が必要な家庭だと思いますが、地域との交流もなく、行政の支援などあるのかどうか心配しています。
私は精神障害者ですが、相談窓口があることせ知りませんでした。情報開示、情報を広める強化等、改善していただきたいです。
市と専門家（弁護士、司法書士、社会福祉士）との連携、また、無料相談の実施を行う等して、地域住民が気軽に相談できる機会を設けることが重要だと思います。
船橋市に比べて、市での取組みが良心的ではないように感じます。特に医療・福祉の面でももう少し優遇されると良いと思います。
市川市の福祉政策が高齢者支援に力点が置かれ、子育て支援は他市に比べて貧弱だと感じています。都市部の人口減少に対抗できるのか疑問です。
・活動場所の理解が得られない。たとえば硬式野球なら、活動場所が限られているのに、おなじグラウンドを軟式野球と交替で使用しなければならない。・体育館も同じで、天囲が高くなければできないスポーツと、スペースさえあればできるスポーツが同じ体育館を使用している。・環境に適している団体が使用できずこまっている。・学校などの施設をもっと開放して欲しい。・市川工業や行徳高校のグラウンドが使用されていないので土が硬くなり草がはえ、もったいない。
インターネットが普及していますが、地域の活動について積極的に調べる人は少ないと思います。アナログ式で地域活動を知らせる方法の方がいいと思います。特に戸建てのうちよりマンション住まいの方が交流は少ないと思います。（その中でも子供などいない世帯はさらに交流は少なくなりがちです）
これまで仕事で余裕がなく、地域活動について無知で参加した事はありませんでした。これから少しずつ自分の出来る範囲で参加していきたいと思っています。
現在子どもも高齢者もいないので困っている事も支え合う情報も集めているわけではなく、わからない事が多い。協力できる事があれば参加したいが、誰が何をしているかわからない。積極的に情報を集めなくても目につくところであって、これならやってみようかと気軽に協力できるようなシステムがあればいいと思った。
・勤務先が市外、子の通学先が市外、現在は健常で特に支援を必要としない状況なので、市の福祉政策について関心、意識が低く申し訳なく思っています。現時点では仕事が忙しくて余裕がない状態です。・このアンケートの質問の意図がわかり難く、回答がどう活かされるのか回答の意図が伝わるのか不安です。
全てにおいてわからない事が多い！！
地域とせってんがない、アパート暮らしでしりあいもない。お祭りなど地元行事もよくわからないしボランティアをしたくても何をどうすればわからず。地元とつながりたいです。
隣の船橋市の方が、色々な面で充実している様に感じる事が多い。地域格差の是正に努めて欲しい。
市内で転居して3ヶ月目ですが、自治会に加入などしていないマンションであり、日中仕事をしているので同じマンションの人とも顔を合わせる機会もほとんどありません。私のような人は、他にもたくさんいると思います。地域活動をするのがイヤではないのですが、そこに参加するための方法もわかりませんし、きまかくってまで参加する勇気がありません。このような人たちを、もっと地域活動に参加させる方策があれば、私も含めさらに地域活動がさかんになるのではないのでしょうか。
子育ての段かいから地域とつながりができれば、しょうらい子育てが終わった後で、地域にこうけんできるボランティアのにないてになれると思う。今、あまり手助けされていないので、高齢者、高齢者と言われてもピンとこない。
経済的、時間的ゆとりがないと無理だと思う。
近所に高齢で一人暮らしの働いたことがない（？）男性がいます。近所の方が心配して「何でもお手伝いします。」と申し出たところ遠慮なのかかわかりませんが断わられてしまったそうです。しかし、家の状態も古く木も生い茂り投げタバコがあれば火事の危険もあるという状態です。市川市に相談をしたところ「一人でも家に住んでいれば個人に介入出来ない。」と応じてもらえませんでした。漏電等も心配です。これからは、正当な理由があれば行政も地域住民と連携しながら支え合いに参加が必要だと思います。今回この様なアンケートが来たことにとっても希望を感じます。国にも相談したいです。

私達が治める税金が、それぞれ適正に使われる事については異議ありませんが、そうでない事もある様なので書かせて頂きます。私は看護師として働いていますが、生活保護を受けている人がたくさんいます。そんな人達は、普段愛されていないせいかととても我ままです。また一方で、意識もなく、完治の見込みもなく、家族もない患者に対して、意志確認が出来ない為に救命のフルコース、何なんだろうと思います。また、私の知る老女で、息子が超有名企業の役員であるにもかかわらず、生活保護を受けています。町医者においても、消毒すれば済みそうなものなのに、生活保護だと無料である事を良い事に、タクシーでやってきます。一方で先日のドラマでは、懸命に求職活動をしながらかわれずに生活保護を申請するも認められず、自殺に追い込まれるという結末がありました。外国人が生活保護をあてにして親せきを頼って来日する様な例も見えています。外国人を助けるなら日本人を。また、生活保護の支給については適正に支給する様務めて頂きたいと思います。

地域活動はあまり知られていないので、もっとアピールが必要かと思います。

空き家を集会所等に利用。

福祉についてはまだ直面していないので良く分かりません。ただプライバシーの問題などから地域では難しいこともあると思います。地域と行政がうまく役割分担をする必要があります。災害については、どこにどの様な危険があるのか、避難所には何がどれくらい用意されているのかなどの情報の周知徹底が重要です。防犯については被害情報を地域に掲示して注意喚起をするのが有効と思われます。

(2) 高齢者

最後に、地域住民が共に助け合い、支え合い、誰もが安心して暮らすことができるまちづくりについてご意見、ご提案などがありましたら、ご自由にお書きください。

以下、原文を掲載する。

地域住民が共に助け合い、支え合い、安心して暮らすことができる『まちづくり』には「温故知新」と「地域愛」の心が一番大切ではないかと考えます。
自治会には入っていますが、老人部、婦人会等は広くいきわたってない。積極的に会にいけるように、会長、町会長等努力してほしいです。今は希望者だけの集りです。
自治会活動の充実を図り、一人暮らし老人の見廻りの強化（毎週1回程度の家庭訪問）～自治会実施する。
市川市で、コミュニティワーカーが発展していく事は、とても素晴らしくありがたい事だと心からうれしく思います。でも大変申し訳ない事です、私は現在脳梗塞の主人を在宅介護で、今年で14年間看ています。主人のわがままで、外出がほとんど出来ず残念です。先、行って一人身になったら、自分の出来る事をさせていただきたいと思っています。主人の介護度は4です。
市川市が実施している、福祉政策についての冊子があるとわかり易い。（市川市が現在実施している福祉政策をよく知らない。）
主人の看病・介護そして看取り、主人の死のまさに翌日に勝手に送られてきたアンケートと督促状。福祉の為とはいえ私にはとても迷惑。地域活動参加しなさい？今はそっとしておいて下さい。
助け合い、支え合い、安心の暮らしは今…年金世代の私達には、簡単ではありません。その中で、少しでも人に気遣える心だけは持っていたいと思います。
私の住むマンション（126世帯）でもお一人様が多いです。その為に集会室を開放しました。9月末から開放して皆が集う場を設けました。今は午後1時からですが多い日で十数人です。私も毎日詰めています。テレビ体操（録画）、からおけ、卓球（テーブルをつなげて、ネットは100円ショップ等、住民の寄附してくれたのを使用しております。市からの補助があるなら卓球台欲しいですね。）外に出て行かなくても天気に左右されず、汗をかき談笑の場があれば、生きる希望も湧き一人ではないと感じられます。小さな事から少しずつ行動をおこせば輪も広がります。ゆくゆくは一日開放に出来て、午前はおけ、卓球、その後お話など住民のコミュニケーションもスムーズになる事を期待しつつ、とじこもりがなくなる事に。出席した方から久しぶりに大声で笑ったとか、テレビとにらめっこばかりしてたからとか、楽しかったと言われると今日は誰が来るかしらって、待つのも楽しくなります。
色々な福祉活動、地域活動など外に行きたくてもなかなか1人で参加出来ない方々をいかに外にでていただくかを良く考えていただきたいと思います。道路などでこぼが多いので車イスと手押し車などの方々を見ているとはらはらせられます。
今は一人で動いているけど、いつ自由がきかなくなるか心配です。その時はどこに知らせたら良いか知りたいです。
近所や友人と仲よく生活して行く事と、人の話をよく聞いて行動する。
とても大切な事だけど、とても難しい事だと思います。私の周りも人間関係はとても稀薄で最近夫を亡くし1人になった私も具合が悪く雨戸を開けられない日や2～3日留守にしても誰も気付く人は居ません。別居する供や遠くの姉妹以外にものを頼む事は考えられません。なるべく1人で元気で生きていく事以外考えても仕方ない現状です。私は、小さい子供さんが急に預かってほしい時などは、協力出来ると思っていますが、やり方が分りません。
市川が終の居所であるかどうかで回答は非常に変わってくると思う。一番アンケートをとる必要がある対象は、市川で生育した人々、地元意識の強い人々ではなかろうか。そのネットワークを充実させることが出発点だと思う。又、サポートが必要な人々へのアンケートではなく、サポートせざるをえない後継の人々へのアンケートが、ポイントではなかろうか。とにかく、公的機関のやることは、一やっています一的な、形が多すぎる。現実には、サポートが必要な人、子育てに苦しんでいる人、障害者など、一日生活を一緒にともしてみれば、アンケートよりは余程効果的だろう。
住民一人一人がルールを守って生活出来る様に。思いやりが大切な時代です。
・アンケートはむずかしすぎます。・年よりは、無理です。・確実な、調査結果がしめされるとは思いません。

8の市の施策については、それらの項目に関わる状態に現在ない為（3）以外ほとんどかわらずにいるが、来たるべく災害、高齢社会においては、まずいと思いつつも積極的に取り組む為の方法や情報を得る手段や機会がわからないし、ないように思える。
本書の中で地域という文字が多くあるが、具体的には何を指しているのか？自治会の事ですか。一般の市民から見ると、役所と関わっている地域とか、自治会役員とか、殆ど特定の人々での間で物事を話している様に思われる。所謂お役所仕事、質問内容そのものもほぼ自己満足となる様な感じでは？せっかく費用をかけアンケートを実施したのなら、住民目線での福祉対策の実現を望む。
今年8月から急に1人暮らしをせねばならなくなり、地域の方との交流ありません。体力を続けていけることに努力して進みたいです。
近くに高齢者サポートセンターが出来、うれしく思っている。気軽に声をかける事が出来た。
情報が少ないと思います。（賃貸で移動が激しいですが、長年の方もいらっしゃるようなので。又、いろいろ参加したいと思いますが）情報がいろいろあって、参加、活動が広がっていくといいですが。
防犯灯の充実を望みます。
市川市に住んで長い間、我が住居の自治会に入会しておりますが、会費や赤い羽根とかの寄付に対しては分かりますが、活動そのものの事が分からない。もっとオープンにして住んでいる町内の人々が災害にしろ防災にしろ協力しあえればいいのではないかと常々考えている。私事ですが、自治会そのものがもっと町内の人達に対して目を配っていれば、自治会をやめて行く人が少なくなるのではないのでしょうか。自治会の有り様を考える時期かと思います。
今の所福祉関係にたずさわっておらず分らない事ばかりです。
助け合い、誰もが安心とかアンケートに書きましたが、紙一枚で何もかもが出来るはずがありません。国が、保険、年金にゆれている日本、何をどう考えて生活していけば良いのかわかりません。私、9月で（70才）になりました。日本はどこへ向かうのでしょうかね？誰にもわかりませんよね。これが答えかな！！
地域ケアシステムの活動（具体的）が良く解らない。高齢者サポートセンター等色々あっても、それぞれの役割の程度が解りづらい。サロンもあるけれど入りづらい。元気な高齢者が、ボランティア等に参加できる様に内容も広めてほしい。（介護所等の手伝い…）
“お隣さん”とのふれあいが少なくなっている世の中ですが、これをどうすれば改善出来るのか自問しているような状況です。やはりこれが“キモ”だと思います。
地域福祉のお手伝いをしたい気持は多々ありますが、今は身体障害1級と介護度5の主人も有料老人ホームに入居中ですが、高次機能障害もあり、お手伝いは今は無理です。
私は現在は元気の為、良くわからない。
私は、アパートに住んでいるので、町会にも加入していません。現在、公園の清掃活動や市川市市民マナーサポーターとして自分の出来る程度の事をやらせてもらっています。もっと地域の人々との交流が必要かなあと思っています。この調査でいろいろと勉強させてもらいました。有難うございました。
まだ色々な面でわかりません。これからが私たちに、自分達に出て来ることだと思います。
アンケート、とても細かく考えて作られていて感心致しました。有難うございました。
高齢者にとっては、健康が第一です。健康の基は栄養と運動です。運動関係はそれなりに充実していますが、栄養についてはほとんど配慮されていません。私の近所には、コンビニはあるけどスーパーはなく、また食堂もほとんどありません。そこで提案です。週4日くらい夕食のみでもよいから食堂を開設してほしい。栄養がとれて、歩いていくと運動になり、知りあいもできる。こんな実質的な施策がほしい。こんなところから知り合いも生まれてくると思います。
私も高齢者になりましたが、まだ元気で1人で生活が出来ておりますが、これからいろいろな問題にあたってくると思っています。その時は地域活動を利用して頂き度く思っています。いろいろとアンケート有難度うございました。今後共宜しくお願い致します。
高齢でも元気で友人がいて、その人が協力して困っている人を助ける事をしたい。
住み始めて日が浅いので、良くわからないのが実状です。アンケートに答えられずにすみません。
高齢化がすすんでいるので、中学校・高校との交流が盛んにできると良い。例）高齢者が地域の子どもたちと郷土料理を一緒に作る等。中高生の健全育成にもっと力を入れると良いと思います。

私が所属している自治会は、役員の方が長くやっている方が多く、頑張っている方が多く、時として新しく引越して来た方に対して、細かい案内が不足して居ります。班の区割り等も、きめ細かく順応出来たらと、多少不満もあります！
市の施策については、あまりかんしんが足りなかったが、今後は注意を払って行くようにしたい。現在までを反省して対応したい。
常日頃からお互いにあいさつの出来る人間関係が、いざ！といった時にも助け合えると思います。今個人のプライバシーの件で人と人との間がギスギスしていると思います。もう少しプライバシーがゆるやかになるといいと思います。お互いにもっとゆるやかに受け入れる様になったらと思います。
自治会活動も敬遠される一方で、日常的に地域の人々が共に支え助け合うことが、いざ災害、いざ高齢という時に必須と言われています。そこで、地域住民が共に支え合うようにするための様々な支援を組織化することを、行政に頼ることになっていると考えます。よろしくお願いします。
重用な事、知っていないと困る事等書いたもので教えておいて欲しいと思います。市の新聞を出掛けていて見のがす事があります。末っ子ですから姉を見舞って、時々自分の事より大変な時があります。田舎迄出向いてるので。
市内のマンション暮らしを始めて20年になるが、地域とのつながりのチャンス、チャンネルが全くない。(今まで必要も感じなかった。)公演会、集会など地域との接点をつなぐ機会を作りたい。環に参加する機会が無い状態です。
諸問題は全てが満足とはいかないが、基本的に資金力がなければ前には進めない。進めても足はおそい。社会を推進する為には、人、物、金、シクミでいつもながら資金で足ぶみしている。良き考え方が資金が出るとは限らないのが現状と思う。
いつも住み良い市川市を望んでいます。ルールを守れない人が多すぎる現在、生きる命の大切さ、自転車、事故に気を付けて。
各地域内における専従担当者の充実を希望します。
住民個人がそれぞれ日常、思いやり、助け合いの心が持てる標語作り。
高齢の一人暮らしの人に、いろんな情報が個々に的確に伝わる方法があればと思う。自治会を通してや新聞、公報に気付き憎い人も居ると思います。(私がその1人です)特に損得に関してや、身上に付いて急を用する時など。
私は町会の役員として日々少しですが地域にたずさわっておりますが、個々の人々の意識の薄さにおどろいております。防災訓練をしても参加する人は少しです。中々難しい面が多々あります。
当地に50年以上暮して来ましたが、昔にくらべれば公民館などの活動も多くなり、お年よりが外出して楽しむ機会は多くなったと思います。
今は、八月十六日越して来たばかりで御近所の事がまだわかっていないので、これからも良ろしくお願い致します。
ご近所さんとの交流をもう少し深めれば、防犯、防災などに役立つのではないかと思います。
犬2匹、猫一匹が生きがいで生活しています。地震や災害などの時、一緒に避難所などに行かれるか不安です。
機会があれば地域活動・ボランティアに参加したい気持はあります。
相談したいと思う民生委員に会っていない。どういう選出方法なのか？
人はその状況に接して初めて活動、場所、等々を見つけています。私もその一人に過ぎません。もう少し年が若くて行動出来たらと今思います。自分の事を出来るようにこれから気をつけたいと思っている。
顔見知りになり、参加しやすい状況作りが大事で、声掛けしてくれるリーダー的存在の方が近くにいると有り難いかなと思います。
今は会社と家の往復で地域、福祉についてはあまり関心はありません。基本は個人の努力とも考えています。もう少しで自分の時間が出来ます。その時にボランティア活動等を通じて、本当に何が必要なのか勉強したいと思っています。行政は必要なことをすれば良いのか、積極的な関与が必要なのか見てみたい気持ちです。

・地域住民が積極的に助け合える情報の提供を詳細に知りたい。・それぞれの地域住民が自分の得意分野で何か役立てる様、行政の方で啓発してほしい。・高齢者でも健康でいられる内は、ボランティア活動をしたい。
ゴミ出し場所に外国人の方が投げ入れたりしているのは説明して上げる方がいけば良いのと思います。
緊急時の対応に市は充分応えられるのか常に心配。市役所職員一人一人にリーダーシップがなく真面目にとりくんでいる様子はあまりない。「仕事」だけで余裕がないのだろうか。主力はやはり市役所の能力であると思う。日頃の対応を見ると、いざという時「民間の協力」と言っているが別々の年齢・生活・生活状況を見るといつもいつも頼ることはムリ。リーダーシップを発揮してもらいたい。
最近、若い世代の夫婦が戸建てに住むようになってきたが、マンションとは違う近所づきあいが良く分かっていないように思う。戸建てとマンションとはコミュニティが異なるということをもっと認識した方が良い。マンションが少なく戸建ての多い市川市では隣近所のコミュニティが大切だと思う。
私自身ガンその他の病を持つ身ですので、思いは有るのですが行動出来ないのが残念です。私の住んで居る地区の皆さんはとても親切な人ばかりで有難く感謝しながら毎日を笑顔で送らせてもらっています。加えて、行政のきめ細かい心配りが有れば病身の年寄りにより安心です。甘えてばかりではいけませんね。
こいゆうアンケートは非常に良いと思う。
これからも宜しくお願い致します。お仕事お疲れ様です。
災害の時知り合いの人がいれば安心感がある。お隣近所のつながりを大切にしたい。地域ぐるみのささえ合い。
千葉商大の防災講座に参加させていただいたことありますが、普段から若い世代の人達との交流が互助の精神を育み、いざの時の助け合いの基となると感じました。この様な機会は大切だと思います。
私自身、高齢、持病有で将来不安を常にかかえながらの生活で、出来るものなら地域の助け合いの力になりたい、役にたちたいと考えますが、自分の自立に必死、廻りに迷惑かけずにと心掛けてますが、助けを求めざるを得ない時は、相談、お世話になれる、めぐまれた環境にあると思ってます。私の地域は、市川は福祉行政、恵まれているのではないかな。自分自身、地域の人との関りが少ないのですが、余り不満は聞いてません。防犯パトロールもしてくれてるからでしょうか。有りがたいことです。
現在、健康にもまあまあ恵まれ人様の世話になる事もなく過ごしており、実際に支援を必要とする事もなかったもので、わからない事が多く、特に8市の施策についてはわからないことが多く意見が云えず。しかし、今後は年齢が上がるにつれ、わからないではすまされなくなると思います。地域住民と関わりが不可欠です。
・地域住民が歩いて参加出来る場所づくりが近くにあったら良いと思います。・市民ひろばをもっと有効に利用していただけないでしょうか。
市が一生懸命取り組んでいる事が皆に伝わっていない気がしました。広く人材を募集したり活動アピールしたりしてほしい。困った時にどこに相談したらいいか、分かりにくい。
市川市に2年前東京から事情があって越してきました。市役所を初め、色んな人に良くして頂き、病気もよくなりとても感謝しています。今は年金暮らしで余裕がありませんが何か市川市の為に役に立てれば何でもしたいと思っています。宜しくお願い致します。森本
一昨年の12月半ば、市の健康体操で半月板損傷しましたが、申告せず手術で治しましたが、4ヶ月痛い時は室内の移動も出来ず不安で一人暮らしのこわさを味わいました。そんな時、誰に相談したらよいかも分らず、一寸した助け人が居ればーと思いました。市川市に民生委員などはいるのでしょいか？
本年の防災活動に参加（鬼高小学校）させていただいたのですが、時間は守られず、統率もとれていないのでびっくりしました。いざ災害が発生した場合、不安になりました。地域が積極的に実施しなければならないのは十分解りますが、もう少し行政が音頭をとっても良いのではないのでしょうか。
なるべく地域活動に参加して、お互を知ることから始めなくてはと思います。地域を知らなすぎる方達が多過ぎると思います。
久し振りに頭の体操になりました。

・道路インフラ最低、車社会で歩道が中心に行政は地域を見る。・車イスの生活がしにくい地域です。・生まれふるさとに帰って70年前と変わらず歩道（通学）が悪い。
私は持病があるため、あまり協力など出来る立場にはないのですが、近所のつきあいなど昔から云えられるような地域になればと思います。又、現在はその事に関して拒否する方もいる時代ですので、なかなかむずかしいですね。娘家族と同居して1年ですが娘は自治会、子供会、ボランティアと頑張っているようです。
良く公式ホームページでと書いてありますが、パソコン持っていない人もいると思うのです。特に1人住まいの高齢者は持って無い人が多いと思いますので、それ以外での情報を得る為には公報誌のみとなる為、量は少なくなります。
急な事故で腰をいためても介護保健がつかえないことは、なんかむなしいです。
自分に情報を提供してくれているのですが、具体的に質問されると日頃、それらについて収集しようとする意欲が少ないと感じた。
今は家庭と自分の事だけで生活してますので、わからないところ多くて申し訳ありません。
最近プライバシーが優先してしまい、その結果情報がなく、地域活動等ができていない状態である。特に市川市民はその傾向が強い。昔の様なあけっぴろげな人間関係ができなくなり、とても残念だ。
この地域は一低層・住宅専用区域2階建集合住宅もあるが少ない。近所との“つきあい”程度と、お互に何かあったらお願いしますのあいさつが必要。困った事は町会長に話せば、内容により相談相手（担当部署・役所他）を訪介できる。
広報の活発化。各種窓口の充実。空巢に被害を受けた事があるので警察力の強化。
外出をしない人をサロン等に来てもらうには、役所等信用の出来る人達の働きかけが必要だと思います。
私は現在、93歳の義母、認知症の80歳の兄、73歳の私、3人（世帯は3世帯）で同居しています。結婚前は養護施設の保母として働いていました。10年前までは手話を学び千葉国体の際は手話ボランティアも経験しました。しかし、現在はそんな余裕のない毎日です。
私の経験では不明なこと先ず市役所へ電話して、受付けた方に希望を申し、説明を受けたり、必要のところへ回して頂く…という経験を何度かして助かりました。斯様な臨機応変が大変嬉しく、先ず人間関係から…も重要であると感じました。（市内在住50年以上…）（地域福祉は、広い大きい心掛け必要と痛感です）
現在はまだ健康と思われまので、特に要望等はありません。
待機児童の問題に一言。自営業の人ほど育児に大変なのに、保育園に入れる為の点数がひくく、保育園に入れない歯がゆさがあります。収入もひくく、無認可保育園に入れる収入もなく、また『空』もない状態をどのように支援していただけるのでしょうか？
市の相談員の方たちは、サロンでの来客老人を喋らせる誘導をして、信頼関係を構築することを望む。自分たちの幼いころの思い出話から信頼のつながりで、今不自由になった老後の話に繋がり助け合いが生まれると思います。カラオケなどは賛成しません。
今のところ、元気なのでこれから老いる私は、調査の内容が全て想像で記入しました。市川市は住みやすい良い所です。福祉に全力で頑張りたいと願っております。
多様な人が小さな自治会に合わせるのは無理があると思う。
私は現在仕事をして母の介護をしている為、時間にゆとりが全然有りません。その為地域のいろいろな出来事が分からない場合が多く参加したくとも出来ません。このアンケート調査でいろいろ知りました。こんど利用出来ることなど、利用したり参加したりしたいと思います。
ますます高齢化が進み個人情報もありどこまで関わっていいかわからない問題です。自分自身が情報を積極的にとり入れていかないと何かあった時に迷ってしまいます。住民同士が助け合い支え合うことも大切ですが自分自身が元気のうちにどの様に情報を得るかということも必要だと、自身の問題ですので大切かと思います。
目が悪いのでアンケートはむりです。
私共は子供もいないし親戚も少ないので自分達の先が見えて来た時に引き受けてくれる老人ホームに入れたらと思っています。このアンケートに近所の支援とありますが近所同士ははばつの様なものがありむずかしいと思います。ぜひ行政の手をお借りしたいのです。どうかよろしくお願い致します。

今年引っ越して来たばかりなのでよくわかりません。
「スマホ・インターネットが使えない人」がいることも忘れないで下さい。
『安心して暮らすことができるまちづくり』耳にひびきはよいですが、???となります。市川市が発信しているのかもしれませんが私達に届いておりません。スローガンを見ても言葉だけが上滑りしている感じが否めません。せめて市川市が住民に対するスタンス、コンセプトを伺えるものを考えてみてください。☆このアンケートの設問も何をたずねたいのかわからないものが多かったです!!
現在必要がなく、地域住民が共に助け合い、支え合い…の必要性がないので、多くの質問に「わからない」と答えざるをえなかった。
28年3月まで仕事優先であったが、今後は「市」情報等の収集に努めたいと思っている。
安心して住みよい暮らしやすい町づくりは、地域住民個々のマナーがまず大切だと思います。近所の住民から信頼されることにより災害時は見捨てられることなく心配される立場になるのでは？
高齢者初心者マークでまだ現実的に福祉等を必要と感じられない。ただ運転免許の返納は頭をよぎる。返納して公共交通機関、タクシー等の優遇が充実したらと考えている。(エコポカード…意味解らない)
これまで成人病検査も異常なし、薬も一切服用せず元気でいたので余り高齢者、障害者の件も深く考えませんでした。今回の調査で無知を自覚しましたので今後は機会ある限り勉強したいと思っております。
個人個人の出来ることの確認をすること。アンケート長すぎる。
私が所属している自治会の班では、自治会の役員を順番にやっています。(任期は1年です。)同じ人がずっと役員を続けるのではなく、いろいろな人がやることにより、自治会での活動を体験してまた新たな考え方も生まれたりして良いのではないのでしょうか。
自治会という言葉が何回も出てきましたが、自治会は体制が古く、地域の問題やニーズを吸い上げられず、又、元々そのようなシステムになっていない。(中には良い役割をになっている所もあるでしょうが)私は自治会には期待出来ません。役所は自治会の役割を過大評価していると思います。真剣に地域福祉を考えるのであれば、自治会に期待するのではなく、目的にあった組織を考えるべきです。
アパート暮らし、生活支えん者は、回らん、町会ヒ、情報、なにもない。
市川は消防車の入れない狭い道多い。その住民に家事の時、出火場所、風向き等想定し、どう避難するか訓練する。併せて、助けるべき人の家庭を数え出す。(その障害は過剰な個人情報。そのスキを突く詐欺)校庭等での避難訓練だけでなく具体的な、場所に応じた助け合いのトレーニングが必要だと思います。身近な人々の触れ合いの機会をどうして増やすことができるのだろうか？
お役所の方は慣れになっているので、新しく風通しの良い環境になればと思います。
日頃の近所づきあい、自治会に加入する事も大事な事と思います。最近引越して来ても近所へ挨拶もしない人がいる事も考えものです。
市川市還暦式(自分の時はH20年10月26日会場和洋女子大学にて)は現在も行なわれているのでしょうか。年齢の節目に同様の講演会(例えば古稀の祝い式)等の集りを行い、その年齢の人にあると思われる心配事に対する行政の対応体制を説明したり、相談内容事の連絡先一覧表を配布したらどうでしょうか。
もう少し、行政からの予算をくんで欲しいと思います。
広報いちかわを目にすることが多くなったのは、今年の9月以降、会社を定年になってからなので、市川のことをほとんど理解していませんでした。地域ケアシステム、コミュニティワーカー等、巾広く実施していることもあり、驚いています。意見、提案等、思い浮かばない状況ですが、平田辺も高齢者が増えている状態なので、支援の充実は必要不可欠だと思います。具体的な提案が無く、申し訳ありません。
転移してきて3年になるが、自治会がないと近隣2軒に言われたため、情報がないと思う。回覧とかないため、そういう地域には情報を直接配ってほしい。
①具体的なことが、よくわからない。廻りで、誰が、何時、どのようなことを行っているのかわからない。

・真間周辺はマンションが増えました。住民の為に市が一室を借りて、コミュニケーションルームとして利用出来たらよい。・先住民は数年で70才代と、結婚しない子供と同居されている家族ばかりです。単身者には無記名でアンケートをしてもらう。例えば、・先々の不安は？・結婚の意志は？とか。

日頃（平日特に）自宅に居ないので、このアンケートにも不明な点が多く、無責任な解答になったかも知れません。

(3) ボランティア団体・NPO法人

◎地域福祉活動でうまくいったこと、困難だったことについてご記入ください。

以下、原文を掲載する。

うまくいったこと
毎年「健康都市を目指して」と題して講演会を行っておりますが、年数を重ねるごとに参加者が増えております。広報活動は紙面、画面ではなく実践する実際の姿（活動姿勢）だと思います。生の健康的な様子が一番の広報ではないでしょうか？
市からの要請で高齢者への家事援助を行っていますが活動会員が月一回参加、15名が交たいで参加しています。
困った時の福祉ではなく、困る前から健康寿命をのばす所としてコミュニティサロンとホールを作った。
独居高齢者→地域ケアシステム→民生児童委員連絡から→市支えあい課につなぐ対応が出来た事
季節ごとに行っている日本食を中心とした食育セミナーは、20人から30名前後の参加を得ておおむね成功しました。
ラグビーの普及育成活動
テーマ、対象を絞ったイベントは、たいていうまくいく。
老人ホームの要請に応じて、ボランティア演奏会が開催できたこと。
音楽療法がご家族に理解され10年以上参加されている方もいらっしゃる。
75才以上、独居老人で、歩いてこれる人を対象に食事会をしています。食後のなんとも満足げな笑顔ははげまされて頑張ってきてました。急な認知症で、行政と連絡をとり、長野のめいに連絡がとれ、地方の老人ホームに間に合って入れられました。(最近のうれしい事)
赤ん坊から80才前後まで参加している。この大会を契機にスポーツ（主に歩く、走る）を始める人も出ています。地区の親睦には十分に効果がある。
当ボランティアが高齢化により活動が制限されてきている状態ですが、以前は団体全員で会としてあちこちに応援に出かけたり、市民活動にも参加していた。今は、その頃がうまくいったと思います。
活動が地域に限られた事ではないので特別にありません。
・地域で活動する会員サークルが増えた（8年間で3→13）ので、定期訪問以外の施設からの訪問依頼にこたえられるようになったこと。・助成金をいただけたこと。
定期的にケアマネジャーを訪問し、情報交換を行ったこと。
近くの小さな店には入れない。
会員の一人の養護施設への入居により、会員の多数の人が施設へ毎月一回のボランティア訪問に伺っております。
毎年のイベント実施
赤ちゃんサロンの運営
発達障害をもつ中・高生の余暇活動のグループ（メンズクラブ）をやっているボランティアをしてくれている大学生が安定的に確保でき、9年間継続して活動できている。年間7～8回の活動で宿泊も2回位っているが、子ども達もお兄さん達に慣れて、落ちついて活動に参加している。大学生達の成長にも目を見張るものがあると感じている。
・産前からの子育て支援活動を継続し、親子のニーズにあっている。
・障害者がパフォーマンスを出前公演して社会参加した。・消費者サギコントを出前公演して啓発した。

社協のサロンは、誰でも気楽にたのしく参加出来るので、大変良いと思う。
当団体の主な事業の一つである舞台鑑賞事業において、ひとり親家庭の招待が好評であったこと。
近隣101才をすぎた人も独居ですごせるのは、すがの会の支え合いがあつての事だと思う。独居で戸建てに住む人が多くなりお互いで声をかけ合いサロン活動やすがの会の活動に参加している。近所の男性の1人ぐらしの人にも声かけをしているので、この町は空巣もなくなった。最近、オレオレさぎの寸前の所でふせげたのはとてもよかった。介護保険の認定も家族より委任状を預り、立ち合い人にもなって、家族と連絡をとりながら行っているのもすばらしい事と思う。
1%支援制度を利用させて頂いた事で、不登校の親の会の活動を当事者御家族ばかりでなく、教育センターや学校の先生、地域の方々に知って頂く事が出来ました。また制度を利用する事で年2回の講演会を持つ事も出来るようになり、なかなか直接出会う事の出来ない、当事者御家族に情報が提供出来たと思います。
特別養護老人ホーム又は介護老人保健施設等でマンドリン演奏を依頼され音楽の力でとても喜んでいただけ同箇所から再度依頼され演奏活動をしております。市川市内はもちろん市外からも依頼演奏がある。
マジックを通して、子供からお年寄りまでのふれあいの場を作り、市内各地域の方々に夢と元気を与え生きがい作りに貢献すべく努力しています。マジック教室を介し、指先を使うマジックの健康への効用を説明し実践してもらうことを心がけています。多くの驚きと笑いをいただきました。
市民の皆様知的障害について知って理解して頂くことを基本に、暮らしやすい地域創りに向けた活動として、市川（歯科）医師会との連携や、市川障害者団体連絡会を通じて依頼のあった民生委員の会合に、当会の啓発隊（キャラバン隊「空」）が公演に行ったことをきっかけに、各地区で交流が持てた。

困難だったこと
この講演会でも担手（リーダー）が育ったかと思うと独立し、巣立ちます。この繰り返しで全域で数多く育成できますが、人間は皆安きを選び、会員を共にします。（次のリーダー達）すると残った次期リーダー達を育成することになり大変な労力、育成費用もかかり、努力が必要となります。しかし、あちらこちらで町づくりが出来ることを信じて頑張っております。
サロン活動を行なっているが、スタッフの確保が大変。1%支援事業終了後は有料で開催している。1%支援は、申請の事務が煩雑で弱小事業所には負担が大きかった。
サロン等に参加誘いをかけたが心体的に障害が有り断われた事
親子の健康を願い、市川市家族の週間への参加で、小学生と両親を対象とした食育セミナーを企画しましたが参加申し込みがなく開催に到りませんでした。私達メンバー自身が高齢化しており若い方々との接点がなく、広報活動も限られて参加者を集めることが出来ませんでした。
ラグビーの普及育成活動周知
ちがう分野の人と一緒に何かをやっていくとき、きっかけ作りが難しい。
音楽療法の専門性を生かすために助成金制度の規則が厳しくなったこと。
午前8:00～午後3時迄（無償で）ボランティアが長続きしないのが今でも苦しい。ボランティアは、せいぜい2～3Hのつもりなのではないでしょうか。私の団体は、そこが一番苦しい。他は次、担ってくれる人がほしいとしみじみ思います。
（個人的なこと）私達の地区では、平成22年5月に私も地域支援者登録を行ったが、東日本大震災のときには、自分の担当していた家に行き、安否を確認した。しかし、その後、地域支援者の自分に現在まで、何一つ情報連絡がない。せっかくのシステムを中断することは大変に問題である。現在は活動の可否不明です。
資金作り。バザーをずい分やりました。今は弁当配食の数が安定し、なんとかやっている状態。
人間関係の希薄化が進み、福祉活動は難しいと感じている。
・交通手段の確保（公共機関が少なく訪問断念した施設もあった）・広報手段の効果薄（ボランティア養成事業（講座）・居宅介護・独居家庭への広報活動の限界（コンサート活動）

拠点病院の地域連携室はまだうまく機能していないと感じた。地域包括センターの役割が見えて来ない。
病院に行く時、1人ではこんなんです。
県の福祉団体に加入の為、県が行う福祉活動の予算などがとれません。市に相談しましたが、良い返事はありません。どちらの課に相談したら良いのでしょうか？
現在市内2ヶ所の子ども発達センターへ出張のおもちゃ図書館事業を行っている。7年前にNPOとおもちゃ図書館を復活させた時は、北国分の教会をお借りしておもちゃ図書館を開館していたが教会の場所が使えなくなり、おもちゃもすべてにじの会の代表室へ預かることとなり、出張おもちゃ図書館の日には、車に沢山のおもちゃを積んで子ども発達センターへ運び開催している。子ども達は毎回大変喜んでくれるのでやりがいも大いに感じているが、毎回重たい沢山のおもちゃを運ぶことに困難を感じることもある。
・必要な支援を親子へ伝える広報・情報提供。・親支援講座等の会場の確保。
・障害とその家族への理解・同情はまだ浅い。
個人情報があり、なかなか集いの時の呼びかけもむずかしい。
教育委員会の生涯学習部のお力を借りたいと思いましたが、障害者は障害者支援課が窓口、と拒否された。
会費の負担により会員継続することが困難となる家庭があったこと。
どなたに何をどう伝えたら良いのかがわからない。地域でお互いに知り合うことが大切と思われま
す。
日々悩んでいる不登校当事者、御家族とつながる事はとても力になりますが、お子様の状態によっ
ては動きづらい事もあり、本当に必要とされている方への広報がなかなか難しく感じています。
当団体は、火曜日が活動日ゆえ、火曜日以外の依頼には調整が必要で、ていねいに断ることしばしば。
技術力アップの為の定例研究会を開催する公民館の使用料が高すぎることに。
地域生活を支える仕組みづくりの推進を当会としてめざすところだが、住まいの場への支援をすすめる中、ひとり暮らし支援の充実、緊急時の対応の充実、住まいの場の拡充などの実現を確実にしていきたいと、喫緊の課題として確認している。

◎最後に、地域福祉を推進するために必要と思われること、地域の課題、行政への要望等、ご自由にご記入ください。

自治会、町会等の実質的充実。昔の隣組的組織力作り。都会的無関心の改革。隣近所が顔見知り、交流が活発化すると解決する事が多い。
前頁に記したことをどこかの行政でリーダーの養成、また後押しをしていただくとありがたいと思います。そうして数多くのリーダーが市全体にそれぞれの思いで独自性をもって活躍でき、地域力の向上が望めると思います。顔合せのネットワークではなく活動実践できるネットワークづくりを望みます。
高齢者が認知症にならない為の健康音楽体操や健康マージャンを行っていますが、公民館やふれ合館の利用が有料値上りして、やりづらくなっています。地域の小学校などの空教室を利用できるようにしてほしいと思います。よろしくお願いします。
私達は地域振興の拠点として＜花の道オアシス＞を立ちあげました。美しい街づくりとみんなのふれあいの場所づくりが目的です。運営費の殆んどは持ち出しです。この様な事業？に行政から何らかの助成制度があれば、続く団体も増えるのではないかと思います。
自治会活動の一貫として親睦と健康増進目的で毎月歩く会を開催していますが、参加者は全体的に固定化し新規に参加される方は少ないのが実情です。近所づき合いも少なく、生活上相互に助け合う必要性がないため、地域福祉の基礎となるコミュニティ作りのむづかしさを感じています。

当団体は地球温暖化問題等の研究や課題解決が主な為、当質問には該当しない部分があり、個人的感想が多くなった。今後、当団体も今後の方向性として検討して行きたい。
どこも同じでしょうが、回答設問が狭い気がします。テストの正解の形で、答え有りきのアンケートかな？市民が市川で生活して行くためには、ビルが多く必要なのではなく、もっと緑を増やして行くべきです。花だけでなく…。動物には緑が必要不可欠です。市はもっと考えてほしい。花を植えるとその時は目を楽しませてくれますが、もっと先を見越して市川の街をどう作って行くかを考えて下さい。福祉も大きな町作りの一つです。市川市役所は本当に市川市をどう作って行くのか？真剣に考えてほしい。真剣に実行してほしい。他市のまねでも良いから良い所取りでもいいから、謙虚に学んで下さい。市川市は良い書類は作るのですが、それを実行して下さい。実行してなんぼです。
地域福祉の実態を市民に知らせる機会を増やして欲しい。広報等への掲載だけでなく、説明会など直接話が聞ける機会を増やして欲しい。
昔とちがって、経済的にもボランティアをする余裕がなくなっているの、ボランティアにたよらない仕組み作りも必要だと思う。(地域のささえ合いも必要ですが、並行して)
情報が行き渡るようにPRを充実させて頂きたい。
今一度、各地域に住んでいる高齢者、障がい者、子育てをしている方、生活困窮者、青少年などのことを把握し、現在何が必要で困っていることはなんなのか、地区ごとにリーダーとなる方を置き、気軽に相談が出来、アドバイスをしてくださるとありがたい。災害時の時のシステム（連係）作りも地域で取り組んで欲しいです。
行政のひとりよがりにならない様に、市民の本当の要望は何なのかを良く聞いて行動して頂きたいです。
このアンケートの設問内容及びその仕方から行政の皆さんの施策具体化の空回りぶりを痛感。頭だけの「施策」で、直接市民・住民の声や姿に触れているのか？と思ってしまう。
今回のアンケート内容（質問）は環境活動と合致していないように思います。
保育所の増設。突発的に代りに、見ていて頂ける人のシステム作り。(急に病気になったら、会社を休むことになる)
ボランティアが気軽に集まれる、サロン及びカフェ等があると交流や情報収集などができ、活性化されると思います。
地域福祉の推進は当事者にならないと実感が湧かない。しかし、住民一人ひとりに自覚を持たせ、自分自身が自分の身を守ることを徹底させ、その次に公共（市）の援助が必要と思う。市がやれることの限界を周知し、その上で全体で動くことの支援をお願いしたい。
地域の高齢者の方々の多くは仲々自治会主催の会（老人会など）には私のまわりでもあまり参加されておられません。私自身も入会はしておりますがあまり参加しません。何かグループの様なものが出来ていて、その中にとけ込むにはむずかしいものがあります。やはり、ご近所同士の方がお付合しやすいです。それで結構染しみ支えあっております。
これまでに数回、居宅介護・独居家庭の方々（障害者も含む）の外出の機会やメンタルケアを目的に「音楽療法コンサート」を開催しました。毎回市・自治会等に協力を要請するのですが、「個人情報保護」の壁に当り、うまく伝えることができません。その結果、元気な一般のお客様が多数楽しんで下さり、バリアフリー用のスペースや座席の準備などにむなしさを感じています。家から出られない方に少なくとも“お知らせ”できるようなご協力はいただけないものでしょうか？
当会は地域医療構想（ビジョン）策定のなかで在宅医療の分野を担当しており、医療・介護の橋わたしをするポジションです。拠点病院の地域連携室や、ケアマネージャーと接点がありますが、一般の地域福祉とはあまり接点がありません。医療を通じての連携を深めていただきたいと存じます。以上
私は車いすで、手もあまり使えません。コピーをとりたいたい時がある。かいご保険はつかえないと、きびしく言われました。むりをして、私も行くようにしました。行かれない時もあります。私は代表をやっているの、そういうことをしてもらいたい。
ボランティアに頼りすぎない。
ボランティアに頼らず、きっちり予算化してほしい。
市の施策に関して、子育て支援以外の分野に関して団体の理解が足りない。多分野、多世代が密にかかわりあう必要を感じる。
・古い慣習を打破して、何事もオープンにしていくこと。・行政職員の専門知識の深化を望む。

・公民館等の値上げを元の代金に戻すこと。・家にこもった老人を老人活動に参加させるよう、働きかけをするボランティアを充実させる。・地域の訪問看護、医療活動を充実させる。
私は防犯パトロール、北国分駅周辺のゴミ拾いを行っている為に、地域福祉については良く分かりません。
せっかく拠点が出来ても入りづらい所であるので、もっと気軽に立ち寄れる場所が良い。地区のマリネリ化、自治会の活性化を望む。
私共は障害者を支える団体です。親達が本当に時間がなく、市全体への貢献が出来ないことを常々申しわけないと思っています。私共の得意分野（心理的な緩和 e t c）での協力をしたいと思います。災害時など、直後は動けないと思いますがゆっくりとお相手する位の協力は出来ると思っています。
各々の団体が各々の持ち味を生かして共に地域社会づくりをしていきたいと考えます。ただ思いはあれどボランティアのため、人材不足、時間不足は否めません。何かいい方法はないかと思案の日々です。
個の情報を伝えることのむずかしさがありますが、近隣の人々と交わることによって、情報を知り、困っている方への支援をみんなで話し合える近所であり、市民であることが大切かと思われま。登校拒否の問題も委員会が校長や担任をかばうため、知ることができません。それでは子ども一人ひとりをどう援助するのか、むずかしいことです。もっと近隣の人々のみんなで助けるという方向性を打ち出すことが大切だと思います。
高齢者の独居が多くなり、亡くなると住人が変わる。1軒が2軒になり若い家族が入ってくるのは良い事だが、みんな仕事に出るためコミュニケーションはとれなくなるため高齢者の人達との交流を促すように声かけをして毎週集まるような機会を作っています。サロンは重要だと思います。行政の方達は形ばかりにとらわれなくて、すがる会のような会の重要性はぜひ一度見て下さい。85才の人も学校で語ったり、子ども達との交流を行っています。血のつながらない家族のようなおつきあいです。
市内の公共施設の利用料が値上がりする中、活動拠点になるような場を、行政側が利用しやすくして頂けるとありがたいです。1%支援制度が終了し、市民活動団体事業補助金で活動を継続させて頂いていますが、書類や届け出等が変わる事でとまどいも感じています。今回のアンケートが委託である事も少し不安を感じました。
高齢者も障害者も健常者も一緒にできるような軽スポーツで交流を図る“場”を設けることが必要かと。
公民館の利用料が高すぎる。活動を活発化させることの障害になっている。
引き続き当会としては、市民の理解と協力を得る取組みをしつつ、地域創りに参画していきたいと思っています。又、千葉県づくり条例や、障害者差別解消法、障害者虐待防止法を意識した取組みも工夫して活動を行っていきたく思います。様々な社会資源と連携し、活動を拡げていきたく存じます。

(4) 民生委員・児童委員

(77) 最後に、地域福祉を推進するために必要と思うこと、地域の課題、行政への要望等、ご自由にご記入ください。

以下、原文を掲載する。

・行政の縦のつながりにとまどう時がある。 ・民生委員としては色々な事を勉強しますが、それを一般の住民にどのように知らせたらよいか悩む。
地域福祉分野に関わってから日も浅く身近なものとして実感出来ません。現在は自治会の活動に参加するとかの行動しか出来ておらず支え合う場所も人もわからない状態ですが多少はおせっかいな行動も福祉にはなるのではと思っており、地域としても「社会福祉だより」等のPRを重ねて行ったり、なんとか大勢の方達の目に触れる機会を作っていただきたいと思います。
・市役所等お休みの時、急な支援が必要な場合、相談に乗っていただける所があると良い。
・地域活動の人材不足～要因は、組織団体（自治会、老人会、ボランティア団体）等構成員の高齢化～地位（会長、副会長、理事など）役職から、高齢にもかかわらず外れない。席をゆずらない。若返りのネック（比較的若い人が入りづらい入れない。）
小さな範囲での地域力が必要だと思う。何かがあって公的な機関と連絡がとれない場合などご近所が一番大事だと思います。
行政や、様々な団体で取り組んでいる事をもっと、もっと市民に周知してもらうためのPRの仕方を工夫して欲しい。せっかくよいことをやってもそれを知ってもらうためのアイデアが浅い。
・担い手の確保が最大の課題だ・・・と思います。
地域の課題として、自治会、子供会、青年団、消防等の連携が薄く、何かの（防災等）テーマで会合又は交流会等で一体化して町作りの基盤作りを積極的に実施するべきだと思う。防災マット作りが机上の物とならない様にするには、有効活用出来るのはある意味で同じ方向に目をむけなくては、―――民生委員だけでは音頭はとれない。
地域内のサークルなど人がつながる機会が必要。高齢化が進んでいる地域なので、互いに助け合える空気を作りたい。
地域住民への色々なアピールがもっと必要を思う。
近年は、各家族が多くなり、地域内での、まとまりがなく、何か、おきた時、皆で、助けあう、事が大切だと思います。
身近な相談支援体制の充実が必要であると思います。
市（行政機関）を中心に関係機関、自治会など、あらゆるネットワークを駆使して、相談者とのコミュニケーションを深めていくことも必要と思われる。
・自治会との連携 ・行政からの情報をより多く。
地域（近隣住民）有志で互助会的なボランティアサークル（会員約30世帯50人）を立ち上げて年間の活動計画にそって運営しております。リクレーションであったり、保険福祉に関する勉強会など内容は多様です。毎回殆どの会員が出席し、楽しい会になっており安否の確認も、例会毎に確認出来、自治会とは又異なった、本人の意志に基づき、個々の持つ特殊技能なども生かして意義のある会となっております。行政の援助など頂けるとうれしいですが、今のところすべて法人会費でまかなっております。（設立して10年）
アンケート内容の外にも、問題はあります。 行政と住民の連絡があまり有りません。民生委員の活動において、パンフレット等の住民に配ってあげた方が良いと思います。行政の活動が住民につたわっていないと思います。

地域福祉の活動は、知っている人はよく知っているけれども全く、知らない人たちも多いように思います。 すべての市民が理解し、よく見えるようにするにはどうしたら良いのか私もわかりませんが、例えば歯が痛ければ歯科へ、ケガしたら外科へ、のような、あたり前のように福祉を使えるようになったらいいと思います。私の父は85才のひとり暮らしですが、民生委員の方に訪問されたことは一度もないと言っています。
最後に「わからない」という答えになったのは、実際に自分の家族、身近な者が、必要とする状態になって困って、相談に行く所とか、いろんな情報を知りたいとなった時に十分なのか足りていないのかがわかるので、必要にせまられて知ることの方が多いと思われることと、いろんな会合とか、会議等で知ることには大切だが限度があると感じています。
(69)の住宅リフォーム相談をしている事を知らなかった。宣伝不足だと思う。 (68)整備がどの程度なのか、全くわからない。 (70)こういう支援がある事を知らなかった。 (71)こういう講座を市職員が実施している事を見た事も聞いた事もない。 (68)～(71)はどのような方法で市民に広報しているのか？もっと方法を考えて欲しい。
困っている人が市役所に行くことも出来ない方が多いと思います。そのすきま民生委員とか社協の人たちがしていると思います。市役所に行かれないとか問題、各自治会委員etcなら週一度相談委員もうけたら
地域自治会との関係を強化し、地域ぐるみの福祉を推進する必要がある。と思います。
(日中独居の場合→息子さんが独身で日中は独居、認知がすこしはじまっている。息子さんは外鍵をかけてでかける。) まだ軽い感じなので徘徊はしてない様子 家族の申請がないと民生は動けない。時々見守っているがー息子さんのどのようにコンタクトをとれるかが課題です。
身近な所に高齢者～子ども誰でも気軽に集まれる場所があつて、やはりそこには色々な専門の知識を持った方が必要と思います。人材の養成をお願いしたいです。手伝いは地域住民で。
・関係機関間の情報の共有化、個人情報の問題があると思いますが、行政からの情報が乏しい。極端な話し、問い合わせしても拒否される。民生委員・児童委員も守秘義務があるのだから、総ての情報とはいえないが、参考となる一部の情報提供があつてもよいと思う。
組織を充実させることはもちろんですが、福祉は現場で有効に働かなければ意味がないものです。福祉で重要なことは、それに関わる人作りですので、人材の確保と育成をお願いします。
・担う人を、さがす事、育てる事がとても難しい ・皆んなで、ささえ合う、事が出来ればよい理想です。
住み良い良かったと思える町作りをしたいが、サロン活動をもっと充実して、仲間作り、お友達ができる様に推めてほしいと思います。
行政地域での福祉業務委託（高齢者サポートセンターなど）社会福祉協議会、それぞれの立場で、やっていることが、だぶって来て、内容の充実が感じられなくなっていると思う。仕事の線引きと連携の重要性を、民生委員として感じる。
↓ プラス ①不勉強（担当者の） ②上から目線のお役所仕事 本アンケートの設問自体が真にその証し
アンケート調査の結果のまとめを市民にわかりやすく作成して公表して下さい。
・地域での活動がそれぞれたて割になっていて協力関係がスムーズにいかない。 ・新旧住民との協力関係が難しい。
自治会の班体制分は充実しているが、マンションの住人との連携が難しい
福祉を行う人間の確保。 地域福祉との連帯。
民生委員に必要な法律や条例、行政サービスなどの基礎知識の習得、相談員レベルの対人技能の習得を進めるいと単なるお祝い金配りで終わってしまう。
道路などのバリアフリー化が必要だと思う(段差。歩道の狭さ)
住民のつながりが弱いと思うので、どのようにしたら良いのか分かりませんが、もっとつながりを強化しなければと思います。

「財政の厳しさは分かるが、公民館の使用料を上げる前にガーデニングの支出を止めるべき」という声がある。
災害が実際に発生した時に避難行動要支援者の支援体制が課題だと思います。民生委員だけではとても対応できないので近隣支援者や他関係機関との連携強化を図っていただける体制作りをお願いしたいです。
二俣地区、原木地区に、コミュニティバスがありません。原木中山駅（産業道路）下総中山駅、西船橋駅行き等、地域のバスが必要です。高齢者が多くなる今日、運転出来ない世帯は出掛けられません。ひきこもりは認知症につながります。買い物にも行きたいです。電車にも乗りたいです。船橋と隣接している所は船橋との相乗りが話し合いで解決して下さい。
地域の高齢者クラブに入会をすれば他の方と接するチャンスもあると思うのですが一人で自宅にこもり近隣との交流が無い方もいらっしゃると思います。そういう方をどうしたら良いか悩みます。
(73)が整備される事を望みます。
高齢になり歩行が思う様でない人が地域ケアの活動に参加出来る様に、送迎を考えてほしい。もう少し小さな地域を1つとして空家等を利用した語り合える場所の提供をお願いしたい。
・福祉については行政の担当部所の縦割りを無くし、高齢者サポートセンターに地域ケアシステムをドッキングさせ、子供の預り等も行いう等、総合事業に取り組んで欲しい。
子供も高齢者もあそこへいったら誰かがいるかなチョットいってみよう。そういう場所ほしいですね。立派な建物ではなく少し大きめのあづま家風雨・風がしのげればいいんです。
賃貸の集合住宅が多く自治会もなく、住民の地域に対する関心も、乏しい所があるのでその人々がどのようにしたら、地域活動に参加してくれるかが課題です。
地域福祉に無関心な人が多いと思う。いかに関心を持ってもらえるようにするかこの件は行政に掛かっているののでしっかりやってほしい。
地域の自治会毎に研修会を広き住民に知らせる機会を設ける。
地域の人々との交流、結びつきを深めるため助け合いや交流活動を盛んにする。
東菅野在住高齢者にはサポートセンターが遠すぎる様です東菅野公民館（サポートセンターも入る）が昭和学院の近くにできたら最高です。
行政間の縦割の弊害の解消 個人情報の行き過ぎの解放 在宅医療という名の医療費の軽減策を改良 組織は充実してもその活動と人員が不足していると思われます（実際に機能がしていない）
・地域福祉団体が多すぎるので、市民にとって窓口が多くわかりにくい。又、わかったとしても足が進みにくいと思う。 ・問い(64)の専門的な窓口が設置はされているが市民にはわかりにくく周知されていないことが残念でならない。 ・民生委員・児童委員の質問ばかりで主任児童委員への質問が極端に少ないのが残念です。 ・インターネットの使えない人への広報を考えてもらいたい。
・縦割行政の解消及必要な情報の提供 ・問い合わせに対してスムーズな回答 ・出先機関施設の一部職員や警備員に今だに横柄な対応に驚くことあり、市の指導に再考を求める。 ・施設利用に当たってただ「駄目だ」と云うのでなく分り易くその理由、説明をして欲しい。
自治会単位で集会場が欲しい。あつたも猛暑日なのにクーラーが設置されてないので敬遠されてしまう。
秘密主義のお宅が多く高齢者の方も多い地域なので隣、近所の方との関わりが本当に必要だと思っている。
災害時を想定した地域の関係団体の連携を作りネットワーク作りをしなければならないと考える。
民生員が訪問する基準がよくわかりません。本人の希望によるものだと思いますが、本当に本人が希望されているのか疑問がありますし、本当に訪問が必要な方に訪問していない様な気がします。一人あたり担当する方的人数にもバラつきが大きすぎると思います。
福祉に関して講演会などが、どうしても平日に行われることが多いので、土、日に開催した方がより多くの人が参加できると思います。

引きこもりがちの人を外に出すため、高齢になってからでは、遅すぎます。できる事ならば、50歳代くらいの方が、参加してくれることが望ましいと思います。 そうすると、休日の利用が可能な施設を増やす方向で考えてもらいたい。 全ての地域で行うとなると難しい面があるかと思っています。隔週ごと交互に、他の地域と連携をして行うなどの工夫を考える事も必要です。 介護施設の「カフェ」など、多くの方が利用でき、そこにおいて活躍する場が欲しい。
支援の本当に必要な人か？声を出さないで、相談に対応できない。 高齢者関係→病院等にポスターを貼る 子育て関係→コンビニ等にポスターを貼る
地域の課題としては？若い人達が最福祉活動に参加してほしい事。 行政への要望→市民に最耳を傾けてほしいと思う所が多いです。
行政の福祉に関する仕組みを解かり易く表現した広報物を作成し、全戸配布する。
スローガンや仕組みづくり、人材配置をいくらすすめても、「顔の見える化」をはからなければ、物事はすすんでいかないと思います。例えばあの人は郵便配達人というレベルから、甲野乙朗さん（郵便配達人ということを知った上で）というレベルに進まないと、苗吹けど踊らずにならないでしょうか。
もう1役社協を地域におろして一般の人とも密着させて活用させたらと思う。
本当にこまっている人というのは、なかなか相談できないと思うので、先たんの人に情報を伝えられるようにしてほしい。（パソコン、新聞、など、ない）
高齢者が気軽に参加できるサロンでの活動や自治会、町会など交流を密にして地域の人達が安心安全に暮らせるような地域づくり
高齢者は消極的な人が多いということもあり、支援を受けることの体制が理解できないと思う。不要な人もあるのでおせっかいという面もあると思います。“自立”を抑えるのではなく支援は自ら言い出せる社会になればと思っています。
誰もが住み慣れた家庭や地域で安心して暮らせる、充実した福祉行政である様に、笹で水を掬うのではなく、心配り、人と人の関りを重要視したい。
自治会館がないので設置出来るよう助成をお願いします。家に閉じこもっている方々、困っている人が多いです。高齢者は歩けなくて外へ出ていけない方もいます。近くに気軽に寄れる場所があると良いですね。
日頃の近所つきあいが、大事だと思います。
行政は仕事を少しづつ民生委員に押し付けて行っていると思う。
①道路の花が定着して来て、色のバランスもよくなり癒されます続けて欲しい。未来は川（江戸川）を渡ると黒松と花の市川、落ち着いたセンスある町、市川となるであろう。 ②このアンケートはくたびれました。
・いろいろな活動に参加する事が嫌いな方がいます。そういう方へ無理に外出させる必要があるのか？
ご近所力は絶対必要です。1日1回声や姿を確認できるのはやはりお隣さん
顔がみえる みんながしっている となり近所のつきあいができるように 無関心は×
行政ではいろんな取り組みをしていることは、評価できますが、地域の方々の認識不足と言うこともあり、“絵に書いた餅”に終わらない様、推進に最っと力を入れて欲しいと思います。（推進方法） 地域ケアシステム相談宅の場所を最っと住民の目にふれる所にあれば、活性化につながると思います。曾谷地区は、公民館の奥にあり、なかなか目にとまらないので、表に出る様に努力して欲しいと願います。
地域福祉に限らず、地域ボランティア登録・活動をわかり易く広報し、人材・人数を確保する事が重要。 民生委員の欠員が発生しないために、自治会推薦だけに頼らず、別手段での人材を多く確保しなければならない。

地域住民のための交流の場が少なすぎます。 まずお互いを知ることが大切ですのでサロンの設置、公民館の有効利用など是非お願いします。（空き家を貸してほしいです）
支援を必要としている方への情報の充実
私の担当地区では新住民が多く又、古くから住んでいる高齢者も多い地区の為、住民同志の交流や、感心がとても希薄だと思います。地域の人々との交流を深めたいと、町内会のイベントや、健康促進に良い企画を出しても、参加者はいつも同じ人、ごく少数です。町会にも入会せず、いざ災害が発生した時はどうなるか心配です。
生活保護・受給申請の受諾判定及び介護申請の段階判定を的確に審査して戴きたい。真に、生活保護の対称者と思われる方が認可されず、要領良く対処出来る方が、認可されているという事例が、以前あったので、宜しくお願い致します。
民児協、防災拠点会ギ、自治会、どれに出席しても、ほとんどが高齢者。若い人たちが、どのくらい、何かあった時に動いてくれるのか不明。高齢者が、高齢になり困っていても、どこに相談すればいいのか、判断がつかなくなっている。
サロン活動等、地域福祉の場が充実し、たいへん良い環境が整いつつあると感じます。が、早朝、夜間の対応はありません。行政の24時間対応、それが無理なら、業者、その他のサービスとの連携が必要だと思います。その様な場を作り、活動の為に研修などきちんとサポートが、民生委員へなされることを希望致します。
・地域住人の高齢化に共ない福祉の意識がうすれていく ・介護申請をして回答が出るまで時間がかかりすぎます。
次の担手を育て、ゆずる心を持って努力して行きたい。
・高齢者サポートセンターに子育て育児等の相談を受けられるよう包括（高齢者だけでなく子育てサポート）サポートセンターにするよう望む ・今後市を繁栄させるためにはよい環境で子育てを安心してでき応援できる施設の充実を望む。 ・市川市子育て世帯同居スタート応援補助金は何なのか理解できない現金のバラマキでなくもっと考えて魅力ある住みたい街市にして欲しい。
今期で、地区編成が行われるが、あまりにも、その準備がお粗末。 見切り発車で、何とかなるだろう～のような、今回の仕事、二度とやめてほしいです。 編成地区と、学区も異なりますし、人員の不足にもつながります。 多様な活動をしている中で、各機関との連携は最も大切で、大変。1から築くのは容易なことではありません。もっとボランティアで活動する人々のことを考えてほしいです。
行政、関係機関、自治会のより一層の連携強化が望まれます。
縦割りで横のつながりができていない為活動しづらいことがある。ある程度の情報共有が可能であると動きやすいが個人情報壁ですすめないこともある。区割りもそれぞれちがうので情報がバラバラになってしまう。すべてに関して区割りの1本化を希望する。
今後ますます高齢者が増加すると思われるが、まだまだ一般の養老院と言われる所しか入所出来ない人がほとんど、在宅では無理、特養には入れない人達の行く先が、なかなか無い現状で療養型の病院にしか入れない現状ではなく、特養にせめて看護師を常駐出来ないのでしょうか。
防災・行政の推進 防災行政の縦割りをなくす。
私の近くの方は高齢（80才以上）が多いのですが、その中でもお元気な方々にはお手伝いしたいと常々思っていました。私からはうまく伝えられませんが、市の方や社協の方に小さな会でも開いて今出来ることをお願いしたいとお話し下されると助かります。
民生委員の75歳定年の引き上げを希望したい。 現実的に今回も補充できない所がある。辞めていかれる方の中にはまだまだ活躍できる方が多くいられた。そしていくつもの所を担当させられた方の負担が大きい。 他県ではもっと高齢の方が活躍していると聞いている。
地域ケアや催し物があってもそこまでは足を運ぶことが困難な方に送迎などお手伝いしてあげられたら参加できる方が増えるのではないのでしょうか？
地域に大きな病院があったらよいなあと思います。

このアンケートは最終的な集計結果が自分でもできるような質問の仕方です。一要是個人・個人がしかり現状を知って、いかに関わっていくか、ということ、という結果になるということです。いわゆるアンケートのトリック この様なアンケートは市民全員にお願いするとよいのですが。
行政や他の団体に頼る事よりも自治会単位で地域力を上げていく事の方が大切だと思う。そこに行政が協力をしていく事が望まれる。
お年寄りの1人暮らしの方を訪ねてみると安外頼らなくても大丈夫という人（地域によってだと思うが）が多いので頼らなくてはいけなくなった時のサインを見抜くことが大事。行政に頼るとすぐ動いてくれるのでそこは良い事で、これからより充実していくと思っている。地域もかなり活きていると思う。
民生委員の人材不足と聞いています。行政の方々にお願い致します。自治会に再度、問合わせて頂き、状況を確認して地区の民生委員にお知らせ頂きたいと思います。 ※人材の活動して頂いているか、まったく見えません
行政 生活保護の方の状報入れても事が始まるまでに時間がかかる様に思う。
私どもの目のとどかない方についてが不安です。 介護について家族の方はどうして良いかわからないので問い合わせの祭は親切、ていねいにしてほしい（ガンバツていままでも自分達で見てきたが手におえずに連絡をしていると思う） 介護を受けて初めて使えるはんいがわかる ケアマネージャによって色々な事をお知えてくれない方もいる。私の知っている方は、色々早目におしえてくれました。 福祉等色々やっている事は民生委員は知っていても一般には知られていない。
古くから住んでいる人達と新しい住民となった人達との意識の差があること、子育て世代は、地域より自己を優先すること、若い母親達は、地域より、ネットを重視したがる等から、福祉を提供する側と受ける側の意識のずれが、実を結ばないように思う。
特に高齢者の情報（1人暮らし？） （新しく入居の場合）
地域からの情報不足、各団体の交流情報不足
市内には、自治会が設置されていないところがあり、地域社会のつながりが希薄になっている。市内全域に自治会、町会の組織づくりが使用だと感じる。
民生委員の人数はその地域の世帯数で決めてほしい。 独居老人が多い地区は増やしてほしい。
高齢者がふえていく中で、気軽に交流する場がもっと欲しい、そのことで高齢者同志の交流が活性化されるようにしたい。 行政として資金＆場所をより大きく提供してもらえようような機会を多くして欲しい。 防犯防災システムの構築でよりきめこまかな体制をつくりあげていきたい。
必要を欲する人の発掘地域と参加する人はほぼ決まっており、前に出てこない人をいかに動かし、関心を持ってもらうか？
民生委員は自治会（会長）より選ばれるが、地域住民の半数が自治会未加入であり、現状地域福祉を自治会に頼ることが無理があると思います。私の受け持ち区域も7割以上が自治会未加入世帯で、自治会の助けを得るのは難しい。市全体としてはどうなのか？隣は誰？の現状を無くなるよう市制を考えていくべきかと 今の世、強制ともいわず、、、。
理想的な地域福祉とは、どの様なものなのか？その呈示をしてほしい。それにより、当地域の不足しているものが確認できるし、活動方針を進めることが可能となると思います。
このアンケートを見て、市が色々な取り組みをしているのが分かったが、実際にどのような活動をしているのか知らなかった。どれだけ充実しているのかも分からなかった。民児協の定例会でそういった発表があってもいいと思う。
民生、児童委員は、守秘義務があるので、そういう中で活動するには、何かあった時に相談し合ったり、一緒に活動できる人がいると、精神的に安心できる。作今は、特にプライバシーの壁は厚く、神経を使う。（例えば、同じように守秘義務を課せられた人、同じ地区内に民生委員が2名いても・・・・）
地域の方々の少しでもお役に立てればと民生委員を受けましたが、想像以上に時間をとられ責任を持たされる事が多く、とても負担に思えました。 また近所の方々の付き合いもあり無い時代、民生委員の活動も難しいと思いました。
福祉を受けたくても順番待ちの状態、待っている間に亡くなってしまったらとう家族の不安、受けたくても基準に合わないなど除外される部分について検討あれ

高齢化が進む中、近所通しの声かけを進んで行なう事が大切、皆が助け合いの心を持って集まりの会があれば福祉の話をお互いに活し、行政への繋がりを持つように心がける。
相談者の問題点が多岐にわたる時、対応して下さる行政に於てコーディネーターが居て下さるとスムーズに解決に向かうと思います。(たらい回しになることがないように)
(71)は具体的に、どのような事を行ったのでしょうか？
市の福祉情報は若い人にとって、ホームページなどで気軽に入手できるが、本当に必要な人に情報が行き渡っていないと感じる。必要なのに、助けを求めない、求められない人々の掘り越しがむずかしいと思います。
民生、児童委員としての役割が事実上あまり明確でなく、又地域の方々の理解があまりされていないため、今後活動する上で機会を作って事例検討会等の勉強会がもらえればよいと思います。
・高齢者サポートセンターの充実 ・在宅介護が推し進められる時代、老々介護で悩み人が増えると考えます。受け皿をどうするのか。 地域で支えるという甘い考えにも限界があります。住民と行政一体となり知恵を絞るべきです。
・回覧板が廻ってきても、真剣に読んでいる人はどれだけいるか。社協の会報をとらない人も沢山いる。 ・行政と社協の位置づけを理解していない人が、沢山いる。 ・民生委員会のやり手がないのは、民生委の高齢化と、仕事の量の多さではないかと思う。ゆっくりとした日常の中で色々な講演を聴きたい。
・行政職員は、なんでも民生委員におしつけ、数年前より仕事の負担が多すぎる。今に民生委員のなり手がなく、このままでは制度が崩壊すると思う。 ・相談員についても、その人の人格、識見に関係なく、ただ自治会長というだけで、任命しているのはおかしい。 ・福祉委員会も高齢者が多く、定年制をもうけ、若返りをはからなければ駄目だと思う。
最近外国の方も以前より多くいらっしゃるようになったと思います。その方々も情報が得られるような対応をお願いします。日本語がよくわからない人も多いと思います。
活動している人は一生懸命しているが、なかなか他の人に支援体制が伝わっていない 民生委員の定年を70歳にしてもらいたい
商業地区という事もあり、自治会がない地区にいますが、ましてやマンションなので地域のつながりが全く感じられません。広報等を自らすすんで確認しなければ自然に目に入ってくる、耳にはいつてくるわけでもなく、不安に思う事もあります。
個人情報であまり知らせる事が出来ないの、あまり深くとりくむことはできない。
マンションに住んでいますが、住民の方との交流が活発とは思えない。いろんな行事を行っているようですが、行事に参加する方のみは、積極的に参加ということで、一度も参加されない方も多くあり10年住んでいても程んどの人を知ることができない。自治会長さんらの協力は“大”と感じます。
地域住民が協力しさえ合う事が理想ですが、それは難しいと思います。
サロン、役員の参加の才が目だち必らずしもいい場となっていないと思う。
住民の方の福祉に対する考えが余りない。 自分は関係ないと云う思想と他人との関わりを持ちたくないと考えている人が多い
高齢者が歩いて行ける集まれる場所がもっとあるといいなと思います。隣近所隔たりなく気軽に話ができる地域
サロン活動・講演会等に参加し、楽しんでいる方が居る一方で、その様な、活動を全然知ら無い方々・知っていても、参加しづらい、何となく、オックウ等、理由は、さまざまですがこれまで参加した事の無い方へのアピールを含め、気軽に楽しめる内容で、身近な地域づくりを望みます。
近年いつ災害が起るか分かりませんので非是災害が発生した場合高齢者はどこに避難したらよいかわからない人が多いため戸別に避難場所のチラシ配布してほしいです。お願いします。
高齢者、障害者にとって外出時の交通が不便 介護タクシー又は支援タクシー等の利用が出来れば良いと感じる。
個人情報保護法の制定により、地域、学校、行政等々から情報が得られず、民生委員活動に限界を感じる。
高齢者支援情報を連絡し、結果待ちをしても行政よりの返答がない、どういものか？

高齢者には他人ともっと話すことが大切だと思います。そのためにはサロン活動の充実が不可欠。
自治会理事の方々と民生委員が連絡を取り合いお互いに協力仕合っていかなければと思っています。 地域の方々が、快適に生活出来又安心して過ごせる場所が有る、何れしても自治会の力が必要だと思います。宜しくお願い致します。
地域ケアの場所が関係者のお茶飲みの場所になっている、目的は？
・ネットワーク作りには、行政の一本化が必要。（防災拠点を小学校区を中心に考えているが自治会の区割etc.） ・横の繋がりが希薄 ・個人情報保護の関係か情報の入手がむずかしい。
地域福祉を推進するためには、生活の基盤である自治会との連携が必要であると思います。隣組の礎がに思いやりで支えられていれば、有事対応も出来る事もありますしまづは行政から各講演会等を自治会に実施して欲しいです。
自治会活動を充実させる事によりその活動に参加された住民が協力する事で、地域福祉活動も充実すると思われる。
高齢者や障害者が気軽に行ける場が有るといい
民生委員の皆様、高齢者の方が多いように思います。いざという時、動ける人が何人いるでしょうか。せめて70才までくらいがと思っていますが・・・・。（今私は71歳です） 生活保護について思うことがあります。65才以前で、足、こしが悪くて仕事ができないとのことで受けている方もいると思います。そういう人には2年とか期限をきめてというふうには出来ないのでしょうか？又、医療費は高額は市の方で、その外は、自分でということにはならないのでしょうか？
民生委員と役所の関連セクションとの情報交換が少ないと思う。
老人のひきこもりが多いと思う。いつしか外に出なくなり認知症になり施設に入らなければならない様になる。人の集まりに積極的に参加出来るよう声かけをしたい。
地域の福祉に必要な取り組みは、人と人とのつながりが大切な事だと思います。これからも努力をして、まいりたいと思います。
<災害時要支援名簿について> ・現在の当地区では、自治会といっしょになって、独自の名簿づくりを始めました。しかし、この名簿の実質的、運営方法までには、いたっていません。防災訓練等の行政のあり方をもっと現実的（もっと参加型に）してほしい。
地域の課題 1. 子供達（小学生、中学生）に地域福祉について、わかりやすく教示する。時間を設ける。（くりかえしくりかえし話してきかせ、彼らが成人になった時に思い出させ、地域活動をやらせよう。ー活動の重要性） 2. 当地区の自治会がもっと活動すべきである。
何年前かにマグネットの連絡カードを配った事がありましたが、おおむね評判は良かった様に思います。同様に家庭の冷蔵庫などに貼れるチラシタイプの（ケアのTELやサロン活動等）マグネットを作って配布してみたら活動を知ってもらえるのではないのでしょうか？
個人情報すべての課題にぶつかっている様な気がします。行政との連絡上、非常にむずかしかったと思います。
これからの社会の担い手である子供達に福祉の授業を多く受けさせる事で、福祉に関する気持ちを育てて欲しい！ 民生委員が何処の誰でどんな事をしてくれるのかをもっと市民全体に広報して欲しい！
地域ケアシステムとよく聞きますが各地域で民生委員は関わっているのでしょうか？活動には関わっておりますが会議への参加は一度も無いのですがいつどこで会議が行われているのかかわからず私の町会では民生委員が一人も会議参加が無いのですが不自然なことだと思います。
・年々自治会の結びつきが弱くなって来ているように思われ、今後は更に進むものと思われる。その対策としては、自治会の下部組織としての青年部の育成が重要となると思う。
あまり時間をかけない対応を・・・！
・地域差が多岐にあり、もう少し細かい対応が必要なのでは？ ・大きなスーパー（イオンとか）に協力を求め、気軽に参加できる所でPRする

同じ地区で、古くから住んでいる人、後から移り住んだ人、最近増えているアパートの住人など互いに顔が分からず、挨拶もできぬ状態になっている。行事に参加する人はいつも決まっていて派閥ができているようだ。接し方の難しさを感じる。
民生委員として、参加しなければならない行事（わりあてで参加）が、多いように思う。仕事の合間、それぞれが時間をさいて、民生委員の活動をしていると思うので、そうしなければ、なくなると、後任が捜しづらくはず。出きるだけ参加したいが、自分の都合をやめて、民生の仕事をするのが負担になってしまうと思います。
旧来の地域に転入して来た人々との交流がうまく行く様な方法を行政として示して欲しい。
地区住民情報の開示が必要と思う何処に誰が住んでいるのか分からない状況で誰を支援すれば良いのかもわからない。地域MAPもなく、自治会員名簿も作成出来ない中では何も出来ない。
・旧来の地元の人と新しく転入してきた人との交流がうまくいくようなイベントを行政が企画してほしい。
現在の市川市の福祉は充実していると思いますが、いざ、災害や逃げる状況の時に独居老人や障害の方の名前・住所は我々には発表されていません。どの様に助けたいのかが、解りません。
①歩道の整備 30年以上前に長女が生まれた時に、平田⇄市川駅まで初めてベビーカーで移動した時に、歩道が砂利塗装（石ころ塗装）でガタガタと揺れ、振動で子どもが泣き止みませんでした。あの時の塗装のままです。ベビーカーや車椅子が安心して安全に通行できるようにして下さい。 ②バス路線の整備 市川駅⇄本八幡駅のバス路線が廃止されてから久しく、ミニバスの話も立ち消えとなりました。平田地区の住民の足として重要ですので、ご検討下さい。 ③メディアパークへのアクセスの充実 メディアパークは立派な「ハコモノ」ですが、本八幡駅からのアクセスは、コントロールバスか徒歩しか有りません。間違えずに行かれるように、横浜の「赤い靴歩道」のような、アプローチの充実を望みます。

(5) 福祉委員

(86) 最後に、地域福祉を推進するために必要と思うこと、地域の課題、行政への要望等、ご自由にご記入ください。

以下、原文を掲載する。

個人情報保護法？は邪魔。自治会員が名簿の発行すら「？」という風調が良くない。困っているか発信がないのに支援活動が出来るはずがない。自治会の地域毎に居住者地図（名前入り）を、地域の入口に建てるぐらいの事が必要なのではないか。（地区に依っては存在している）。行政の指導可と思う。
地域の異なる場所の無料化をしてほしい。公民館など高すぎる。市川市の職員を少なくして、無駄遣いしないで考える。公民館職員が多い。
社会福祉協議会は充分に活動している。それに応じた行政の取組み、支援が少しある。
地域福祉について、割と多くの人に知ってほしいと思います。誰れでも参加出来るので、何処へ行ったらよいのか、何をしているのか、もっと皆に知ってほしいと思います。私もかかわる様になりまして初めて知りました。広報などで、活動などを掲載してほしいと思います。
先づ自分自身が健康であること、それにつきる。
町会でも婦人会でも出て来る人は同じで、高齢者。高齢者が、防災・防犯・支援など出来る事はない。市の職員+町会の若者を集める事から始めてほしい。大災害があったら高齢者と市職員の話がうまくいきませんよ。職員が来たらの話ですけど…？
多岐に渡りすぎて、よくわからなくなってしまった。いずれにしても個人の自由度、完成度に頼るしかないのではないか。
人材の確保が必要と思う
人材の人間性、資質を高める為の勉強会、講習会が必要。
ふれあい会食会では65才以上の独居老人の個人情報民生委員に限られていますが、災害発生時に限り関係者間（自治会・自主防災組織）に共有できないのでしょうか
地域住民（市民）の意識の啓発。地域の具体的な事例を関係者が勉強する（良かったもの・うまくいかなかった例等）機会を設けると良いと思う→事例から見えて来るものから、問題や役割、分担を把握できるのでは。
今回このアンケートを受けましたが、私自身がスポーツ推進委員の活動をしています。今後も地域活動で協力出来るシステムを構築してほしいです。
自治会への未加入者の入会促進活動、市民マナー条例の浸透。特にこれからも増え続けると思われる外国人との円滑なコミュニケーション作り。災害時において適切な対処、対策。
地区社協主催事業と、各自治会事業の日程調整をしっかりと取りたい。自治会の盆踊り、運動会、防災訓練旅行会が、地区社協イベントと重なり、役員・予算の割り振りが難しくなってきた。
地域の中で継続的に議論し、それを活動に繋げるような形をわかりやすくつくること。
地域の実際をしっかりと見て頂きたい。それぞれの地域性もあり、地についた活動をやっていける様に支援を望みます。
地域の課題、福祉にあまり関係のない方々（現在は必要としていない方々即ち無関心）にその時に向けて関心をもってもらようよう努力する。行政への要望 色々な取組をなさっていると思いますが、上記の方々に知ってもらえるよう（関心をもってもらえるよう）広報活動を充実させるべきだと思います。
地域ケアの当番だけでなく、他の場所でのサロン活動にも同じ様に、手当を支給して欲しい 相談員はいくつも（かけ持ち）で本当のボランティアであるが、責任持って担当する者にはある程度の謝礼は必要である
現状ではボランティアとしての相談員にいろいろな面で頼っているが、地域ケア以外のサロン活動の際の人数確保が難しい。拠点以外のサロンでは、補助金を幅広く活用する為には、資金不足である。他の協力員にも謝礼は出したい。

担い手の高齢化で若い人材の確保が必要と思う。福祉委員の意見が遠慮なく言い合える場があると良い。
高齢者支援課、社協、各地域の在支、民官企業の充実した環境が整っているので、民生児童委員は必要ないと思います。各自治会に班長、理事、会長さんによって構成されているので行政との福祉のパイプ役は出来ると思います。年々増加する福祉予算。どこかで削減する事も考えて下さい。
個人情報保護法がうるさい昨今で、隣のひとと、上手くつきあう事。男性同様に女性も会社中心になっている。小さい子どもがいても、子どものつきあいを、わかっていない、認めていない。
少しずつですが、挨拶がかわせる様になっている気がします。声かけが必要で、見覚えのある顔という小さなおつきあいが増えてくれるように期待しています。小さな活動が大切ですね！！
優先順を決めて対応して下さい。全部対応が出来ないのは分かるので短期、中期、長期と十分な対応策を。行政、社協民生（国政）を考え市川市にいま出来る事を決める。
私達の自治会の意見として「寄り合い処」が遠くて地域住民（特に高齢者）は、全く利用していません。市14地区の括りで諸行事が行われている事は理解出来ますが、単一自治会で行う行事も大変重要単一自治会行事にも多少の会費が使われるような幅広い考え。
前に比べたらあらゆる面ですばらしく充実してきていると思うので、ここで止まらずさらに進んでいく事を願っていますし、進んで行くと思っています。
十年以上自治会長をやっても社協が行政のものなのか寄付金や協力金や何で成り立っているさっぱりわかりません。立派な事業なのでしょう。わかりやすい団体として教えていただきたい
特に一人暮らしをされている方にとって、いつでも、誰とでも気軽にしゃべりができる場が少ないため、段々引きこもりがちになってくる。暑さや寒さによって、外出も億劫になりがち、何か目的があればよいのですが…日常的な会話の中から困りごと・悩み・相談などを話され、それを聴く機会が生じる。よって、マンツーマンや人の集まり等で、心配事などの糸口を見出すなど積極さが行政に欲しい。（そこに至るまで時間はかかります、人間関係の難しさを感じながら進めていくしかありません）
高齢になると、他人にやってもらいたいと考える人が多く、自分が積極的に行動を起こさない、そういう方々を動かす、魅力的な情報を数多く発進し、立ち寄れる場所を増やしたい。自治会の機能をもっと向上してもらいたい。
地元の小学生、中学生、高校生、大学生も入って運営できるような、イベントを企画するのもよいかと思います。
災害時にも動く体制を構築しなければいけない。
要望。ごみ問題について一時議論されたが、もっと時間をかけ、根本的解決に向けた検討をしてほしいかった。
人材の養成向上及び回りをうまく利用して、輪を大きくして行くことが必要。行政との関わり等が必要。
やはり、お互い様を大事に。
地区の情報を流してもらいたい。良いと思う事もあると思い、我々の地区でも他の良い仕組があれば参考にしたいと思います。
高齢の1人居住者が年々多くなり、地域内での支え合いを充実させる事が必要です。声を上げない困っている人の事をどう支え合うか議題です。
地域計画（わかちあいプラン）の基本理念に基づく地域づくりへの推進を、取組みの成果と課題を明確にし、地域の組織づくりを、実行力のいる姿で推進すべき、方向と計画で地域まかせでは実行力はない。①地域力（組織力）を高めるためには地域毎にリーダーの発掘と育成をする事が急務と思う。（いい計画であっても推進者（やる気のある人）がいなければ、絵に描いた餅である。）
若い人の参加を促し企画力のあるみんなが参加できコミュニティを強化できるようにして欲しいと思います（行政の空回りにならないように上手に広げて行って下さい）
福祉は高齢者優先で幸せな事です、近年日本では後世に続く若者や子供達がいま大変苦しい生き方をしている様に見受けられます。豊かになり過ぎた為に目先ばかりで根本的に大切な日本の未来を真剣に考える教育がなされていないのでは？子供は国の宝、地域の中で大切に育て、社会へと送り出せるとしています。高齢者の健康寿命を延ばし、介護や医療の為に軽減につとめ、若いもお互い様の日本を市川社協から出来たらいいです。
最終的には近所の人々の助けによって、そのコミュニティが成立していくと思います。もう少し若い方達、50代からの参加者が増えるといいのですが？
子ども達への教育

学校教育の中に福祉授業をもっと取り入れて、子供達に福祉親念を育て持った大人に成長してほしい！ボランティア精神を育てるのも大切！
活動している人はいくつものボランティア活動を兼務している為、体力的、又は家庭的にも負担が大きく長続きしない。人材育成、支援体制の充実を望みます。
若い人達の参加を呼びかけてほしい
若い人の力や知恵を借り、共に語り合えるようなサロンや地域活動が出来るよう望む。文教地区の特性を生かす。
地区社会福祉協議会の活動内容のPR
地域福祉が生活と離れているように思える。もっと身近なもの、出来ることから始めるよう考えてみたい。
ボランティア活動をする人材育成が悪い
個人情報保護により、真の生活困窮者や高齢者介護（認定区分、老々介護等）情報が分からずサポートが難しい。
理想とする地域福祉の具体的な活動を明示され、これを推進する体制づくりが出来たとしたらすばらしいと思います。
参加しているメンバーは老人ばかり、何かあった時には役に立たない。若手の育成が急務です。
あれもこれも充実…それでも抜け落ちる実態のところを強化してほしい。ムダなところにお金を使っている気がします。
各地域毎に公務福祉担当者を指名して、自治会担当者と福祉家庭と一緒に訪問し、地域内の情報を共有対応する体制を組み立ててはいかがでしょうか。
塩浜地区は、高齢化が進んでいる、福祉に関わっている人達も、70代が多く、あとに続く年代の人たちが（50代、60代）ほとんど、育っていない状態です。メンバーを牛耳る70代の方たちが、もしこけたら、どうなるのでしょうか。積極的に次世代のメンバーを育てなければならないと思います。
「要支援者」の名簿の取り扱いが、個人情報との関係でやりにくい。
私の住んでいる所は、かなり高齢（80才以上）が多いので色々な行事にも、又サロン活動に参加したくてもそれが出来ない。チラシを配る際に参加を勧めるのですが、気持はあるのですが適わない。とても残念である
福祉政策課からアンケートが来て社協へ届ける意味が分りません。丸投げですかアンケートはどこで
地域住民同士のかかわりの薄い現在、特に高齢者支援の充実を望みます
ボランティアに頼らず、最低限の金銭支援を行なわないと今後、若い世代の担い手はいなくなると思います。
地域で活動する方も高齢者が多くもっと若い方が協力して下さると良いと思いますが
サロン等も利用する人は一部であり、出て来られる方は限られている。気軽に出られる場が開催日の多いサロンで必要かもしれない。そういう場所で相談事も出てくるのではないのでしょうか。
世帯数が少なく自治会館がありません。サロン活動も限られてしまいます。急遽何か起きた場合不安です。
地域福祉ということをもっと市民に広めていくこと、市民1人1人がきちんと意識を持てるような自治会作りをしないと「自治に入って何になる」と言われて、答えられない、お互いが支えあっているだけでは協力しない人が多い。強制はできないと思うが自治会に入ることによって何かメリットがあるという事を市側からもアピールして欲しい。役所の方々の努力には頭が下がるが、そこだけでは成果があがらない。
自治会の集会場（会議室）がほしい。施設が少ない。
働ける人の人材育成
地域の住民が個々に関心を持ち、参加する事が重要だと思います

新井在住70才女性独居、最近体調を崩しはじめたので介護申請の手続きをしようと南行徳市民センターへ行ったが行徳支所へ行って下さいと言われ、でもその時は支所まで行く事が出来ず引き返したそうです。南行徳にも老人福祉の窓口があるといい。
これまでの活動は、ほぼ定型化したので持続できる。新しく取組む問題としては、①避難所立上げ、運営、②要支援者対策、ではないかと考えています。特に②の“顔の見える関係づくり”は、支援者に任されるのでは、必ず挫折する。具体的な行動へのアドバイスが必要だと思っています。
市川第2地区ですが人口密度も高く、その割には、稲荷木、塚田地区に福祉施設（公共）が無いので何らかの対策が必要と思う。
専門的な知識はなかなか学べないので自分に出来る、人に寄り沿って話を聞く知っている知識を皆さんに伝える事をやって行きたい。行政の方はみんなにわかりやすい返答をお願い致します。
感心のある人と、全然感心の無い人の差が大きく、感心を持ってもらうにはと、何時も思っていますが、難しいです。少しでも良い方向へと、努力して下さっている職員の皆様に感謝です。
隣・近所との付き合いが稀薄な時代、会所があれば孤独も少しは解消出来るのではないかな
防犯パトロール、講演会等で「エコポカード」が発行されるが満点になっても使う所が限られている。使用する幅を広げられないか。空き家が目立つようになっている対策は取られているのか。
お互い様の精神を取り戻し、地域皆が互いを認め謙虚になり協力することが必要。
動物愛護、特に地域猫の避妊手術の助成金、頭数を増やし、手術の手続きをもっと簡単にしたい。殺処分0は理想です。野良猫を増やしたのは人間の罪です。もしかしたらここに書くべき事柄ではないかもしれませんが人間だけでなく、動物にも優しい眼を向けてあげて下さい
①防災体制の整備が急務である。②託児所の増設を考えるべし、社協として取組必要があるのではないかな③買物代行の地域でのシステム作りが必要
高齢者よりは子育て支援等に興味のある方が多いため、高齢者、障害者等の情報が少ない気がします。
委員会の時だけ大勢の人がいるが、何をするか課題を出し、考え、役割分担を定め、活動することが仕組づくりに大切な事と思う。一人の発表だけでなく、皆さんの努力した発表も聞きたいものです。
民生・児童委員の活動を含め地域福祉のPRがもっと必要だと思う。地域の住人に全然活動が理解されていないと思う。
多くの人の参加を願っています。
関わりを持つようになってまだ日が浅く、自分に何が出来るのかよくわかっていないため、アンケート内容も役に立たないような答えになってしまっただけ申し訳ありません。地域全体が、お互い思いやれるようになっていくといいですね。
市川市の福祉諸政策を遂行するには自治会の協力は不可欠であるが、自治会としても会員の減少に頭を痛めている。市として、会員加入者に何かしらの利点になるものを与えるなどの方策は無いものか。会員数増加の1つのアイデアとして。
自治会、管理組合、婦人会、老人会etc、「会」と付く代表の方で皆で話し合うと、いろいろな角度から見えてくるものが、あると思います。
健康サロンに協力スタッフとして参加しています。今後の高齢化に向けて気軽に立ち寄れる場になればいいと思いますが、訪問する立場になってみれば毎日違うスタッフで馴染みが薄く入りにくいのではないかと思います。相談するのもある程度信頼関係がないとできません。お仕事として常駐する方がいいと思います。
ボランティア活動する為の、リーダー的人材が少ない。
まだまだ経験不足でよくわかりません。参加させて頂きながら自分なりに考えて勉強します。
民生委員の増員をお願いしたい。地域570世帯で1人では無理。地域全体3200世帯で6人の状況です。
地域福祉の委員の高齢化が見られ、人生経験豊富で人格者が指導していると思いますが、若い人材の採用が必要です。時代と共に50～20代の委員を広く指導出来るよう育成をし、行政の方針を確認し活躍して欲しい。
何度も同じようなアンケートは必要ありません。主体者がこのようにしたいが、どうか、という主張がこのアンケートにはありません。これがアンケートのトリックです。同じような質問で、手前勝手です。

プライバシー保護の為、情報の入りにくさの反面助け合えというのにはかなり矛盾があると思う。
民生委員が地域ケアに協力的でないのもっと連携してもよいのではないのでしょうか
民生委員と高サの交流がほしい。民生委員とケアマネの交流がほしい。
近隣にお世話になりたくない。迷惑をかけたくない。プライドが高い等のバリアを払拭しなければ推進は難しい。
前問（８４）の地域活動に係る人の養成、確保をして、さまざまな外部とのネットワークの構築に良い意味での「上から目線」での関与をもっと進めて欲しい感じ。
現在の活動している人達は、高齢化してきている。若い後継者の育成が重要。
定年に達した民生委員をいかす仕掛けを検討して下さい
地域で高齢者、障害者が生活するために組織（ボラン活等）を早く確立してほしい。
行政で行っている支援を知っている人はいいですが、知らない人はかなり不利になると思います。公平に利用できる様に市民に知ってもらえるようにしていただきたいです。
公報等は常に目を通してはいるつもりですが、実際に自分の身近に切羽詰まった問題が出てこないと普段は必要性を感じない事が多いので、何かあったらどんなことであれ「ここに相談してみる」というところを徹底しておくことだと思います。そこから、内容・状況に応じて適切なところへ紹介してあげる、このことを徹底していけばと思います。大野町は、住所があちこちに飛んでいる上、住所表示（特に電信柱とか、各家の所にあるもの）がなされてない為、歳末助け合い配分金等、いろいろな配布の際に困る。
市の福祉政策の全体像がよくわからない。先ず最初にそのことを示したうえで、地域ケアシステムについて、いろいろな場所で教育などを交えて住民に浸透させて欲しい。
地域ケアシステムの場所が狭いのもう少し広い部屋が欲しい。
１．北部地域の開発にけ向けてのコンセプトを確立してほしい。特に若い人（子育て）に安心とゆとりを与える地域にする。文化都市を目指す市川、図書館、資料館（姥山貝塚）、自然（緑、川）体育館、大型文化会館、など…。２．姥山貝塚：姥山貝塚に資料館を建て、資料散逸を防ぎ、学習室を設けて学習に供する。諸講堂と、大きな会議室（１００人～１２０人）を作り地域、自治会活動の支援をする。
的外れかもしれませんが、８０才代になると足腰が弱くなりますので、歩道を歩き易くしてほしい。転んで施設に入ってしまった人が数人いましたので、宜しくお願いします。
小さな活動が段々成長して今の姿があるのだと思います。地道にコツコツとやっていくことが、大事だと思います。これからもよろしくお願い致します。
自助、共助、公助の内自助、共助を充実させるべきだと思うので、方向性を。今の担い手に「おんぶにだっこ」の現状を広い浅くに変更して行く必要を感じる。
ご近所との日頃のお付合と情報の共有が全くないですね。機密情報がネックですか？憩いの場、てらぼサロンのＰ・Ｒをもっとした方が良いと思います。
晩年の私は市の行政のお世話になる道しかありません。若い人達が希望の持てる社協の発展を祈ります。
地域ケアシステム推進連絡会は報告事項が中心ですが毎回テーマを決めて地域福祉に関しての勉強会等を取り入れてもらいたい。単なる報告だけなら文書で流してもらえば良い。貴重な時間を割くので、もう少し連絡会の内容を充実して欲しい。
行政の地域福祉に対する意識、数共に不足しているように思われる、改善を望む。社会福祉協議会を縮小する方向でなく、増員方向に進むべきと考え、
市が地域活動、ボランティア活動を担う、職員の育成を希望、地域活動に参加した職員に対する優遇制度を作る。
今はボランティア活動をする人材が不足です。
自治会、個人から社協に協力することになった人たちの負担を考えてほしい。また、協力者の中には無責任な人も少なくない。特定の人に職責の負担が集中している。特定の宗教信者、日教組の活動に参加した教員ＯＢは社協の活動、民生委にふさわしくないと思います。

地域福祉を進めるため、行政・民生委員・社協等と情報共有する必要がある。現在・自治会員は自治会しか知らない。自治会は、高齢者、障害者は知らない。自治会に加入していない世帯は知らない。
高齢者を高齢者が支援する現状打破して、高校生、大学生等のボランティア、育成する為に協力してくれた人にポイントを与えて、市内の施設で使えるような施策を図って欲しいです。
防災の面から考え、道路を広くしてほしい。高齢者が多くなっていくので、在宅介護を考えてほしい。
月末で民児委員終了。今後近隣で気がついた時私の出来る範囲で協力を惜しまない。幸い私は健康であるから。
地域の変化により、住民にも変化が大きいと感じている。どこに住んでいるか、隣近所のコミュニケーションが大切だと思う。活動に関する情報の提供も必要だと思う。デスクワークでなく市の職員もどんどん現場を見て、老人や市民の声に耳を傾けてほしい。いずれは自分達も年を取るのだから。
市の行政、社会福祉協議会が推進している福祉事業について、住民の理解が浸透していない。PR・広報の促進をお願いしたい。以前、「いちかわ便利帳…年」を全戸に配布したことがあり、作成費用の問題もあるが是非ともご検討いただきたい。
訪問には課題があり、日頃の顔見知りの近隣との繋がりの強化が大切。共助し合える行動を日常的に出来る〇〇デイを設けるなど、考えてみてはいかがでしょうか？
出来るだけ若い人材の養成・確保（パイの拡大）が重要です。
行政の対応が、「お役所仕事」である。
自身が心身共に健康に過ごさせて頂ける毎日で全てが有難く出来ているので実績がなく申し訳ありません、お役に立てず、すみません。皆様の活動に感謝しています。
私は普段の福祉事業は勿論大切だとは思いますが、それ以上に多数の人の命を一度に失う大規模災害に備えることも同じように必要だろうと思います。大災害には救援拠点や救援物資集積地域も必要になります。岩手県の遠野は三陸沿岸地域の支援基地となったと聞いています。市川市内救援の基地として二俣宿舎の跡地を利用できないかと提案します。
民生委員・児童委員の担当区域の見直しを、お願いしたい。住居等が、日々変化している中、昔のままの区画な為、とても複雑な区画割になっている。
高齢者と小学生とかの交流の場をつくりボランティア養成の芽をつくっていく。市、社協、地域との連携の強化。市川東部地区は北は北方町から南は鬼高と南北に広がり拠点は東部公民館と北側に片寄っているため南側地域の人はほとんど利用できていない。今後は東部地区を北と南に分断しそれぞれで地域福祉を推進していくことがベターと考える。個人情報保護法があるため、活動に苦労することがあります。郵便受け、表札等に名前がなく訪問に時間がかかります。
どこの地域も支える側も高齢化となり、もう一歩エネルギーの出る行動がないので行政の幅広い協力の手をお借りしたいです。医師も福祉の中に加わって下さる機会があれば良いです
長いアンケートでした！こういうことは日頃足繁く政策課の職員さんも、ケアにいらして各会議で話しあわれていることを用いていただいていたら、よりわかっていただけたのに残念です。指導者は単に机上でプランを改訂するだけではありません。改訂のためにどういう現状なのか、まず現場を見て下さい！！
『あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ。』新約聖書マルコの福音書12章31節このことばを第一とすればすべてのことが可能だし、無ければ不可能でしょう。
東日本地震の際、千葉県では、ボランティア派遣がなく、茨城県（取手市）の募集に応募し、社協の仕立てたバスで東松島にてボランティア活動が出来た。バス会社と連携した、このような活動も必要。
今年6月に発足した地域ケア南行徳第二で「ほっとスペース」サロンスタッフを勤め始め、話したので、地域ケアについてまだ詳しい所か分かりませんが、地域福祉活動の地域への対応は極めて不十分な感じがしています。市の広報や学校での教育などの啓蒙活動も必要と思います。
地域住民に周知されていないのでは（一部のみ）てるぼサロンの名が怪しげな店に感じた。掲示板も！
地域福祉に関して無関心の人達が多い、どのようにしたら関心を持てるのかが課題
現在高齢者サポートセンターを活用し、子育て育児等幼児のお母さんが相談に来られるような包括支援センターに工夫をしてほしい。相談員を一人配置してもらえると施設費用もかからず気軽に立寄れると思う。

安心、安全には福祉の向上が必要。行政の人員増と地域住民の意識向上が望まれる。
寄り合い処の場所を知らない人が多い
アンケート調査は、とするとランキングが高い（ぬりつぶしの多い）所に課題やニーズがあると分析する傾向があるが、地域福祉では、ランキングは低くてもとても重要な課題が潜んでいる事がある。例えばごみ出しが困難、買い物に行けない、誰にも相談することなくひとりで子育てに悩んでいる等は、件数においては少数だが、地域においては最も気になる課題である。結果のランキングだけを見るのではなく、行政も地域も手を差しのべるのが難しい少数の課題にも着目してもらいたい。
日頃から地域の交流がないと地域での支え合いは難しいと思います。老人会さえ無い状況でそれにかわる交流の場は行政に係わる必要があると思う。サロン活動は大変意義のある活動だと思います。もっと多くの方が参加して交流できると良いと思います
公的場所会費を値上した事 配布物を地区の人々に配布させる事（今後もあると思いますが、切手代がかかるからですか、配る人達と労力はどうか考えているのか。話をしている事とやる事が反している。
総合支援事業に関しての地域がすべき役割について行政側からも考えてほしい。現在あるサロンの充実で地域の方々を顔の見える形にする為に私達は日々努力したいと考えている。お互いさま事業を行なっていく上でコーディネーターのあり方をもう少し行政は考えてほしいと思います。
地域住民が地域のことを良く知る、感心を持つ自分の事であることを認識することが大切だと思います。現状は回覧板とか掲示板を見てくれる人が少い。自治会などでは人がなかなか集まらない、人集めが大変です。
・実績づくりにとらわれないで、内容の充実を最優先に考えることを望みたい。・高齢化社会になっているので、ボランティア活動される人の確保に取り組んで欲しい。
若い方々への啓蒙が欠かせません。学校教育・職場教育の中にも取り入れていく仕組みが必要と思います。無関心にならない様広く呼びかけて議論を進めてほしいです。
福祉は急に必要なケースが発生すると思うので相談窓口を広く気軽に出入りできる様にして下さい
これからもよろしくお願いします。
1つに集中する事が無い様にして下さい
これから、私も行く道なので自宅の近くに継がる場所がある事を望みます。
ケアシステムの目的も、場所も“何の事”と云う感じで周知されていない。地域の方が遊びに来て欲しい
ボランティアの必要性をもっと知っていただき、そして参加の機会を多く作る、ボランティアを楽しい物にする努力（本人、行政）を含めて。
住民への伝達は自治会が一番と思うが、しかし自治会加入者は減る一方、隣同士の会話少くなっている。
地域福祉ネットワークで行われている、てるぼサロンは元気な人だけが行かれるように思います。表に出られず家の中にいる老人の事を少し考えて頂きたいと思います
今年も各地で災害が起きました。市川市は大きな災害に見舞われた事がないせいか、市長はじめ市職員の防災意識が足りないように思われる。もしも東日本大震災のような災害が起きたらと思うと心配だ。防災体制は大丈夫なのだろうか。
拠点も一般の方もお茶飲みに来られるようになったら良いと思う。
ボランティア人材の確保、利用できる場所の充実
地域で支い合える仕組み（高齢者社会になるので）。防災、防犯、強化等。
市の施策において部署が細く、どこに相談してよいか、個々に合った情報をどうやって得ればよいか分からない。特に高齢者が多い地域なので簡潔にして欲しい
東部地区は不便な所が多く、コミュニティバスも通るようになりましたが、お1人の方等が多くボランティアの人が不足しています。もっと何とかしてほしい！

在宅医療の推進、充実が必要だと思います。
地域支えあい課、医療課さんはじめ、多数の講座を行なって下さる事に感謝すると共に更なる地域との係りを深めていただきたいと思います。
役所は会議実績を上げることだけ考えるのではなく、その会議で議論したことでどのような成果が上ったかをしっかり把握して次の活動にいかしてほしい。
地域ぐるみで、お互い、協力する事。
市民・住民ひとりひとりが地域への関心を高めるための身近なイベントを増やし、助成する。
地域の文化祭等をして日頃の楽しみを発表し（手芸等、短歌俳句写真その他、個人の楽しみも参加する事により地域の活生化に繋がると思います（年齢問わず）ちょっとお茶でもして休憩する所があれば、ひきこもりの方も楽しいと思います。文化会館では出かけられない方も地区毎の小さな会場なら参加出きると思います
高齢者、子育て中の人との身近な困っている事を話し合える、小さな単位の話し合いが出来るといい。民生委員に届けてない人を誰が声かけするか沢山の人がいる事を考えて下さい
個人情報保護の為支援を必要としている方の情報が掴みにくい状態です。各福祉団体（民生委員も）の情報共有が必要かと思います。
市の各課・社協による講演、勉強会の日程がぶつからないように。
いつも、たくさんのご支援に感謝申し上げます。地区編成も、何とか終えましたが、これからが大変な調整がスタートだと思っております。皆さんとの支え合い、連携が、地域福祉を推進する事と信じています。日頃から、コツコツと小さな心配事を大きな安心となるよう心がけてまいります。今後も皆様の活動に期待しております。
地域で行われるのは3ヶ月に1度の防犯パトロールがあるのみ。今回企画された「バスツアー」も人が集まらず中止の有様、毎年行われる自治会の総会に市の職員が来られて、お話を頂くことも大切と痛感致します
地域福祉活動に関する情報を地域の人に伝える方法、場所等がもっとたくさんあると良いと思う。現状ではあまり伝わっていないような気がします。
認知症などで支援を拒む高齢者に対して、どのようにして、手を差し伸べるか、専門的な経験が必要であると思います。
福祉委員各位等の表紙のような文字であれば協力できるが、1mm強の文字を見ていると疲労がたまる表紙の大きさのアンケートを望む
行政へ、高齢者の利用する公民館等値上げしないで下さい。
遠い将来に向けた施策も必要でしょうが、各生活者である市民にとっては日々の生活の不自由を解消してもらったほうが、ずっとありがたいのです。例えば、買物の不便、外出での不自由さと費用、エレベーターのない団地の生活など

市川市地域福祉計画策定のためのアンケート調査 報告書

平成29年3月

発行：市川市福祉部福祉政策課

市川市八幡1-1-1

電話 047-334-1111（代表）
